茨城県教育財団文化財調査報告第81集

# 牛久北部特定土地区画整理事業
# 地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)

## ヤツノ上遺跡

平成5年3月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第81集

# 牛久北部特定土地区画整理事業
# 地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）

## ヤツノ上（うえ）遺跡

平成5年3月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人　茨城県教育財団

表

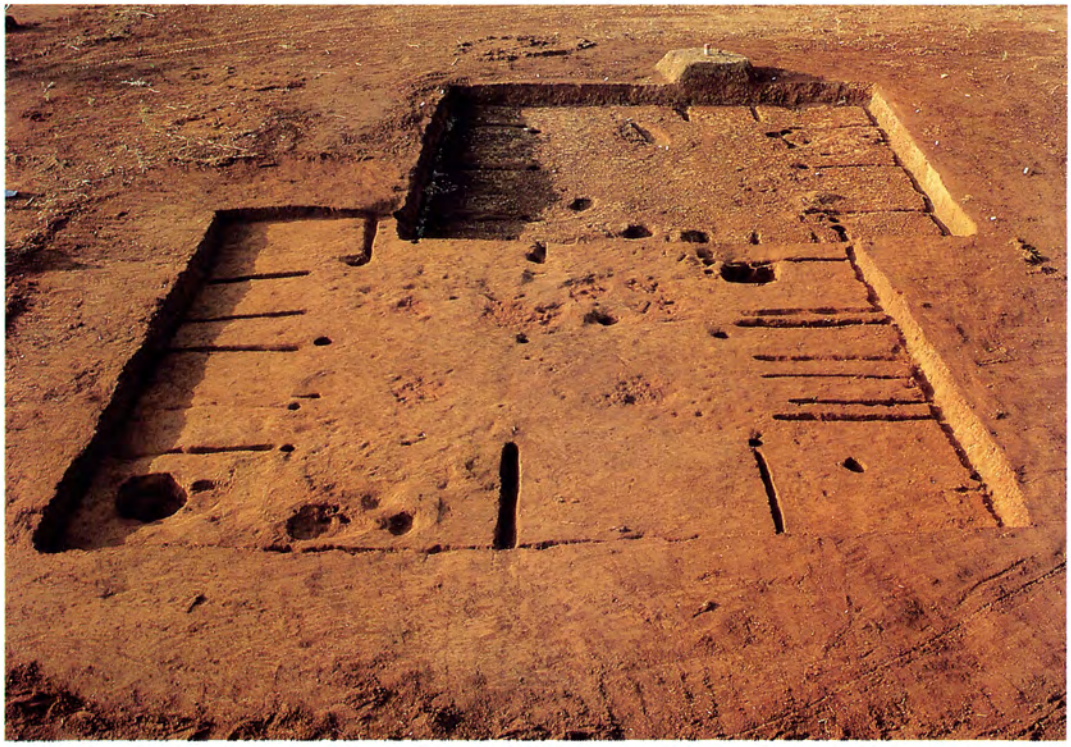
遺跡全景（調査後）

北

右

第18・19号住居跡

第28号住居跡出土遺物



# 序

茨城県南部の牛久市周辺地域においては，国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」，茨城県による「グレーターつくば構想」等において牛久市は，土浦市，つくば市とともに中核都市として位置づけられています。

住宅・都市整備公団では，県南地域における牛久市の重要性の高まる中，ＪＲ常磐線新駅の設置，首都圏中央連絡道の整備等による広域交通拠点性を生かし，新駅を中心とする広域的重要拠点としての業務機能並びに都市機能を備えた新都心の形成と良好な居住環境を有する住宅・宅地の供給を行うための土地区画整理事業を進めております。その予定地内には埋蔵文化財包蔵地であるヤツノ上遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

このたび財団法人茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団と埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を結び，平成２年10月から平成４年３月にかけて，発掘調査を実施してまいりました。

本書は，ヤツノ上遺跡の調査成果を収録したものであり，本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育，文化向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である住宅・都市整備公団，茨城県教育委員会，牛久市教育委員会をはじめ，関係機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成５年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　礒田　勇

# 例　　言

1　本書は，住宅・都市整備公団の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成２年10月から平成４年３月まで実施した牛久市下根町字ヤツノ上436番地の４ほかに所在するヤツノ上遺跡の発掘調査報告書である。

2　ヤツノ上遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は，次のとおりである。

平成４年度初めの組織改正により，従来の企画管理課は，企画管理課と経理課の二課に分かれることとなった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | | 礒田　勇 | 昭和63年６月～ |
| 副理事長 | | 小林　元 | 昭和63年４月～平成３年７月 |
| | | 角田芳夫 | 平成３年７月～ |
| 常務理事 | | 小林　洋 | 平成元年４月～平成３年３月 |
| | | 本田三郎 | 平成３年４月～ |
| 事務局長 | | 一木邦彦 | 平成元年４月～平成４年３月 |
| | | 藤枝宣一 | 平成４年４月～ |
| 埋蔵文化財部長 | | 石井　毅 | 平成２年４月～ |
| 企画管理課 | 課長 | 北沢勝行 | 平成２年４月～平成４年３月 |
| | 課長 | 水飼敏夫 | 平成４年４月～,(平成2年4月～平成4年3月企画管理課長代理) |
| | 主任調査員 | 小山映一 | 平成２年４月～平成３年３月 |
| | 主任調査員 | 根本康弘 | 平成３年４月～ |
| | 係長 | 園部昌俊 | 昭和63年４月～平成３年３月 |
| | 主事 | 吉井正明 | 平成元年４月～平成４年３月 |
| | 主事 | 杉山秀一 | 平成４年４月～ |
| 経理課 | 課長 | 藤田和行 | 平成４年４月～ |
| | 主任 | 飯島康司 | 平成４年４月～,(平成3年4月～平成4年3月企画管理課) |
| | 主事 | 大貫吉成 | 平成４年４月～,(平成2年4月～平成4年3月企画管理課) |
| 調査課 | 課長（部長兼務） | 石井　毅 | 平成元年４月～ |
| | 調査第一班長 | 久野俊度 | 平成２年10月～平成３年３月 |
| | 調査第二班長 | 阿久津　久 | 平成３年４月～平成４月３月 |
| | 主任調査員 | 榊　孝雄 | 平成４年１月～平成４年３月調査 |
| | 主任調査員 | 齋藤眞人 | 平成３年10月～平成４年３月調査 |
| | 主任調査員 | 小高五十二 | 平成３年10月～平成４年３月調査 |
| | 調査員 | 樫村宣行 | 平成３年４月～平成４年３月調査 |
| | 調査員 | 松浦　敏 | 平成２年10月～平成３年３月調査 |
| | 調査員 | 梶山雅彦 | 平成４年１月～平成４年３月調査 |
| | 調査員 | 浅井哲也 | 平成２年10月～平成４年３月調査 |
| 整理課 | 課長 | 沼田文夫 | 平成２年４月～ |
| | 主任調査員 | 小高五十二 | 平成４年度　整理・執筆・編集 |

3　本書に使用した記号等については，第４章第１節「遺構及び遺物の記載方法」の項を参照されたい。

4　本書の作成にあたり，須恵器については，国立歴史民俗博物館管理部資料課の酒井清治氏，土師器と集落形成については,八王子市郷土史料館学芸課長服部敬史氏,灰釉陶器については，愛知県陶磁資料館学芸課長柴垣勇氏，同学芸員野末浩之氏，須恵器の胎土分析については，奈良教育大学教授三辻利一氏，墨書土器については，国立歴史民俗博物館教授平川南氏の御指導をいただいた。なお，炭化材の同定については，パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

<table>
<tr><td>遺　跡　名</td><td colspan="5">ヤツノ上遺跡</td></tr>
<tr><td>フ リ ガ ナ</td><td colspan="5">ヤツノウエイセキ</td></tr>
<tr><td>副　　題</td><td colspan="5">牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)</td></tr>
<tr><td>シ リ ー ズ</td><td colspan="5">茨城県教育財団文化財調査報告第81集</td></tr>
<tr><td>著　　者</td><td colspan="5">小高五十二</td></tr>
<tr><td>編 集 機 関</td><td colspan="5">財団法人　茨城県教育財団</td></tr>
<tr><td>発 行 機 関</td><td colspan="5">財団法人　茨城県教育財団</td></tr>
<tr><td>住　　所</td><td colspan="5">〒310　茨城県水戸市見和１丁目356番２号</td></tr>
<tr><td>発　行　日</td><td colspan="5">1993（平成５）年３月31日</td></tr>
<tr><td>所 収 遺 跡</td><td>市　町　村</td><td>コ　ー　ド</td><td>北　　緯</td><td>東　　経</td><td>標　　高</td></tr>
<tr><td>ヤツノ上遺跡</td><td>牛久市</td><td>08219－0145</td><td>36°　0′　05″</td><td>140°　9′　57″</td><td>25.0m</td></tr>
<tr><td>ヤツノ上遺跡</td><td>縄文（後期，晩期）<br>古墳（中期）<br>奈良，平安（前期）</td><td colspan="2">住居45，掘立柱建物７，<br>土坑85，古墳１，<br>炭焼窯１</td><td colspan="2">土器，土製品（土偶，土玉），石器，石製品（勾玉，臼玉，管玉，双孔円盤，紡錘車，砥石），金属製品（刀子，鎌），ガラス玉</td></tr>
</table>

# 目　　次

序

例言

第１章　調査経緯 …… 1

　第１節　調査に至る経過 …… 1

　第２節　調査経過 …… 1

第２章　位置と環境 …… 4

　第１節　地理的環境 …… 4

　第２節　歴史的環境 …… 5

第３章　調査方法 …… 9

　第１節　地区設定 …… 9

　第２節　遺跡の基本層序 …… 9

　第３節　遺構確認 …… 10

　第４節　遺構調査 …… 10

第４章　遺構と遺物 …… 12

　第１節　遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法 …… 12

　　1　遺跡の概要 …… 12

　　2　遺構・遺物の記載方法 …… 12

　第２節　竪穴住居跡 …… 18

　第３節　掘立柱建物跡 …… 218

　第４節　土坑 …… 226

　第５節　古墳 …… 243

　第６節　その他の遺構 …… 249

　第７節　遺物包含層 …… 253

　第８節　遺構外出土遺物 …… 265

第５章　考察 …… 273

　第１節　出土土器からみた竪穴住居跡の形態と集落について …… 273

　　1　土器について …… 273

　　2　住居跡の形態と集落について …… 281

　　3　古墳時代の住居跡の性格について …… 284

第2節　間仕切溝について …… 287
結　語 …… 294
附　章 …… 295
1　ヤツノ上遺跡出土須恵器の胎土分析 …… 295
2　ヤツノ上遺跡出土炭化材同定報告について …… 299

# 挿　図　目　次


第 1 図　ヤツノ上遺跡調査区及び位置図 …… 3
第 2 図　周辺遺跡分布図 …… 7
第 3 図　調査区呼称方法概念図 …… 9
第 4 図　基本土層図 …… 9
第 5 図　第 8 号住居跡実測図 …… 19
第 6 図　第 8 号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 19
第 7 図　第41号住居跡実測図 …… 20
第 8 図　第41号住居跡出土遺物拓影図‥ 21
第 9 図　第42号住居跡出土遺物拓影図‥ 21
第 10 図　第42号住居跡実測図 …… 22
第 11 図　第45号住居跡出土遺物拓影図‥ 23
第 12 図　第45号住居跡実測図 …… 24
第 13 図　第46号住居跡出土遺物拓影図‥ 25
第 14 図　第46号住居跡実測図 …… 26
第 15 図　第12号住居跡実測図 …… 28・29
第 16 図　第12号住居跡出土遺物実測図‥ 29
第 17 図　第13号住居跡実測図 …… 32・33
第 18 図　第13号住居跡出土遺物位置図‥ 34
第 19 図　第13号住居跡出土遺物実測図(1) …… 35
第 20 図　第13号住居跡出土遺物実測図(2) …… 36
第 21 図　第14号住居跡実測図 …… 39
第 22 図　第14号住居跡出土遺物実測図‥ 40
第 23 図　第15号住居跡実測図 …… 42
第 24 図　第15号住居跡出土遺物実測図‥ 43
第 25 図　第16号住居跡実測図 …… 45
第 26 図　第16号住居跡出土遺物実測図(1) …… 46
第 27 図　第16号住居跡出土遺物拓影図(2) …… 47
第 28 図　第17号住居跡実測図 …… 48
第 29 図　第17号住居跡出土遺物実測図‥ 48
第 30 図　第18号住居跡実測図 …… 50・51
第 31 図　第18号住居跡出土遺物位置図‥ 52
第 32 図　第18号住居跡出土遺物実測図(1) …… 54
第 33 図　第18号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) …… 55
第 34 図　第19号住居跡実測図 …… 60・61
第 35 図　第19号住居跡出土遺物位置図‥ 62
第 36 図　第19号住居跡出土遺物実測図(1) …… 63
第 37 図　第19号住居跡出土遺物実測図(2) …… 64
第 38 図　第19号住居跡出土遺物実測・拓影図(3) …… 65
第 39 図　第20号住居跡実測図 …… 66
第 40 図　第20号住居跡出土遺物実測図‥ 67
第 41 図　第21号住居跡実測図 …… 70・71
第 42 図　第21号住居跡出土遺物実測図(1) …… 72
第 43 図　第21号住居跡出土遺物実測図(2) …… 73
第 44 図　第21号住居跡出土遺物実測図(3) …… 74

第 45 図　第21号住居跡出土遺物
実測図(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第 46 図　第21号住居跡出土遺物実測・
拓影図(5) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第 47 図　第22号住居跡実測図 ・・・・・・・・・ 78
第 48 図　第22号住居跡出土遺物実測図・・ 79
第 49 図　第23号住居跡実測図 ・・・・・・ 82・83
第 50 図　第23号住居跡出土遺物位置図・・ 84
第 51 図　第23号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第 52 図　第23号住居跡出土遺物
実測図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第 53 図　第24号住居跡実測図 ・・・・・・ 88・89
第 54 図　第24号住居跡出土遺物位置図・・ 90
第 55 図　第24号住居跡出土遺物
実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第 56 図　第24号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
第 57 図　第25号住居跡出土遺物実測・
拓影図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第 58 図　第25号住居跡実測図 ・・・・・・ 96・97
第 59 図　第25号住居跡出土遺物位置図・・ 98
第 60 図　第26号住居跡実測図 ・・・・・・・・・ 99
第 61 図　第26号住居跡出土遺物実測図・・100
第 62 図　第27号住居跡実測図 ・・・・ 102・103
第 63 図　第27号住居跡出土遺物
位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第 64 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第 65 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第 66 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第 67 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第 68 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(5) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第 69 図　第27号住居跡出土遺物
実測図(6) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第 70 図　第27号住居跡出土遺物実測・
拓影図(7) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第 71 図　第28号住居跡実測図 ・・・・・・・・ 114
第 72 図　第28号住居跡出土遺物
位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第 73 図　第28号住居跡出土遺物
実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第 74 図　第28号住居跡出土遺物
実測図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第 75 図　第28号住居跡出土遺物
実測図(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第 76 図　第29号住居跡実測図 ・・・・ 122・123
第 77 図　第29号住居跡出土遺物
位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第 78 図　第29号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第 79 図　第29号住居跡出土遺物
実測図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
第 80 図　第31号住居跡実測図 ・・・・・・・・ 132
第 81 図　第31号住居跡出土遺物
実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
第 82 図　第31号住居跡出土遺物
実測図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
第 83 図　第32号住居跡実測図 ・・・・ 138・139
第 84 図　第32号住居跡出土遺物

実測図(1) …… 140
第 85 図　第32号住居跡出土遺物
実測図(2) …… 141
第 86 図　第33号住居跡実測図 …… 142・143
第 87 図　第33号住居跡出土遺物
位置図 …… 145
第 88 図　第33号住居跡出土遺物実測・
拓影図 …… 146
第 89 図　第34号住居跡実測図 …… 148
第 90 図　第34号住居跡出土遺物
実測図 …… 149
第 91 図　第35号住居跡実測図 …… 150
第 92 図　第35号住居跡出土遺物
実測図 …… 150
第 93 図　第36号住居跡実測図 …… 152・153
第 94 図　第36号住居跡出土遺物
位置図 …… 154
第 95 図　第36号住居跡出土遺物
実測図 …… 155
第 96 図　第37号住居跡実測図 …… 158・159
第 97 図　第37号住居跡出土遺物実測・
拓影図 …… 159
第 98 図　第37号住居跡出土遺物
位置図 …… 160
第 99 図　第38号住居跡実測図 …… 162・163
第100図　第38号住居跡出土遺物
実測図(1) …… 164
第101図　第38号住居跡出土遺物
実測図(2) …… 165
第102図　第39号住居跡実測図 …… 167
第103図　第39号住居跡出土遺物
実測図 …… 168
第104図　第40号住居跡実測図 …… 170
第105図　第40号住居跡出土遺物
実測図 …… 171
第106図　第43号住居跡実測図 …… 172・173
第107図　第43号住居跡出土遺物
位置図 …… 174
第108図　第43号住居跡出土遺物
実測図 …… 175
第109図　第 1 号住居跡実測図 …… 177
第110図　第 1 号住居跡出土遺物
実測図(1) …… 178
第111図　第 1 号住居跡出土遺物
実測図(2) …… 179
第112図　第 2 号住居跡実測図 …… 182
第113図　第 2 号住居跡出土遺物
実測図 …… 183
第114図　第 3 号住居跡実測図 …… 185
第115図　第 3 号住居跡出土遺物実測・
拓影図 …… 186
第116図　第 4 号住居跡実測図 …… 188
第117図　第 4 号住居跡出土遺物
実測図(1) …… 189
第118図　第 4 号住居跡出土遺物
拓影図(2) …… 190
第119図　第 5 号住居跡実測図 …… 191
第120図　第 5 号住居跡出土遺物
実測図 …… 192
第121図　第 6 号住居跡実測図 …… 194
第122図　第 6 号住居跡竈実測図 …… 195
第123図　第 6 号住居跡出土遺物
実測図(1) …… 196
第124図　第 6 号住居跡出土遺物

実測図(2) …… 197
第125図　第６号住居跡出土遺物実測・拓影図(3) …… 198
第126図　第７号住居跡実測図 …… 201
第127図　第７号住居跡出土遺物実測図 …… 202
第128図　第９号住居跡実測図 …… 204
第129図　第９号住居跡出土遺物実測図 …… 205
第130図　第10号住居跡実測図 …… 206
第131図　第10号住居跡竈実測図 …… 207
第132図　第10号住居跡出土遺物実測図 …… 208
第133図　第11号住居跡実測図 …… 210
第134図　第11号住居跡竈実測図 …… 211
第135図　第11号住居跡出土遺物実測図 …… 212
第136図　第44号住居跡実測図 …… 214
第137図　第44号住居跡出土遺物実測図 …… 215
第138図　第１号掘立柱建物跡実測図 …… 219
第139図　第２号掘立柱建物跡実測図 …… 220
第140図　第３号掘立柱建物跡実測図 …… 221
第141図　第４号掘立柱建物跡実測図 …… 222
第142図　第５号掘立柱建物跡実測図 …… 223
第143図　第６号掘立柱建物跡実測図 …… 224
第144図　第７号掘立柱建物跡実測図 …… 225
第145図　第１・２・５号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 226
第146図　土坑実測図(1) …… 227
第147図　土坑実測図(2) …… 228
第148図　土坑実測図(3) …… 229
第149図　土坑実測図(4) …… 230
第150図　土坑実測図(5) …… 231
第151図　土坑実測図(6) …… 232
第152図　土坑実測図(7) …… 233
第153図　土坑実測図(8) …… 234
第154図　土坑実測図(9) …… 235
第155図　土坑実測図(10) …… 236
第156図　土坑実測図(11) …… 237
第157図　土坑実測図(12) …… 238
第158図　土坑出土遺物実測・拓影図 …… 240
第159図　第１号古墳トレンチ土層図 …… 245
第160図　第１号古墳実測図 …… 247
第161図　第１号古墳出土遺物実測図 …… 249
第162図　第１号炭焼窯跡実測図 …… 250
第163図　第１号性格不明遺構実測図 …… 251
第164図　第２号性格不明遺構実測図 …… 252
第165図　第２号性格不明遺構出土遺物拓影図 …… 253
第166図　遺物包含層出土遺物位置図 …… 255
第167図　遺物包含層出土遺物拓影図(1) …… 258
第168図　遺物包含層出土遺物拓影図(2) …… 259
第169図　遺物包含層出土遺物拓影図(3) …… 260
第170図　遺物包含層出土遺物拓影図(4) …… 261
第171図　遺物包含層出土遺物拓影図(5) …… 262
第172図　遺物包含層出土遺物実測図(6) …… 263
第173図　遺物包含層出土遺物

実測図(7) …… 264
第174図　遺構外出土遺物実測・
拓影図(1) …… 267
第175図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 268
第176図　遺構外出土遺物実測図(3) …… 269
第177図　遺構外出土遺物実測図(4) …… 270
第178図　遺跡全体図 …… 271
第179図　Ⅰ・Ⅱ期出土土器 …… 273
第180図　Ⅲ期出土土器 …… 274
第181図　Ⅳ期出土土器 …… 276
第182図　Ⅴ期出土土器 …… 277
第183図　Ⅵ期出土土器 …… 278
第184図　Ⅶ期出土土器 …… 279
第185図　Ⅷ期出土土器 …… 280
第186図　Ⅲ期主軸方向 …… 281
第187図　Ⅳ期主軸方向 …… 282
第188図　Ⅴ期主軸方向 …… 282
第189図　Ⅵ期主軸方向 …… 283
第190図　Ⅶ期主軸方向 …… 283
第191図　Ⅷ期主軸方向 …… 284
第192図　集落変遷図 …… 286
第193図　古墳時代の住居跡の
面積構成 …… 288
第194図　柱壁間溝の類型 …… 290・291

# 表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表 …… 6
表２　住居跡一覧表 …… 216
表３　土坑一覧表 …… 240
表４　古墳時代の時期別出土土師器
器種構成表 …… 284
表５　須恵器模倣坏の出土割合 …… 284
表６　間仕切溝をもつ住居跡の
屋内施設（ヤツノ上遺跡）…… 292
表７　間仕切溝をもつ住居跡の
屋内施設（県内・外の遺跡）…… 292

# 附　章　目　次

第１図　大阪陶邑群と木葉下群の
相互識別 …… 298
第２図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
産地推定 …… 298
第３図　湖西群と新開・俣野群の
相互識別 …… 298
第４図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
産地推定 …… 298
第５図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
Rb－Sr分布図 …… 298
表１　ヤツノ上遺跡出土炭化材の
樹種 …… 302

# 写真図版目次


ＰＬ１　調査前風景，鍬入れ式，伐開作業
ＰＬ２　現地説明会
ＰＬ３　現地説明会，試掘作業
ＰＬ４　遺構確認作業，遺構確認状況
ＰＬ５　作業風景
ＰＬ６　第８，21号住居跡遺物出土状況
ＰＬ７　第19,26,32号住居跡遺物出土状況
ＰＬ８　第34，38号住居跡遺物出土状況
ＰＬ９　第26，31号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第27号住居跡遺物出土状況
ＰＬ10　第13，36号住居跡炭化材出土状況，第13号住居跡出入口部の高まり
ＰＬ11　第23，24号住居跡
ＰＬ12　第27，28号住居跡
ＰＬ13　第33，36号住居跡
ＰＬ14　第37，38号住居跡
ＰＬ15　第15号住居跡，第１号古墳
ＰＬ16　第18，46号住居跡，第７号掘立柱建物跡
ＰＬ17　第１号炭焼窯跡，第80号土坑，第１号性格不明遺構
ＰＬ18　住居跡出土土器（SI８，41，42，45，46）
ＰＬ19　住居跡出土土器（SI12，13）
ＰＬ20　住居跡出土土器(1)（SI13，14）
ＰＬ21　住居跡出土土器(2)（SI13，14）
ＰＬ22　住居跡出土土器（SI15，16）
ＰＬ23　住居跡出土土器（SI16，17）
ＰＬ24　第18号住居跡出土土器
ＰＬ25　住居跡出土土器（SI18，19）
ＰＬ26　第19号住居跡出土土器(1)
ＰＬ27　第19号住居跡出土土器(2)
ＰＬ28　第20号住居跡出土土器
ＰＬ29　住居跡出土土器（SI20，21）
ＰＬ30　第21号住居跡出土土器(1)
ＰＬ31　第21号住居跡出土土器(2)
ＰＬ32　住居跡出土土器（SI22，23）
ＰＬ33　第24号住居跡出土土器(1)
ＰＬ34　第24号住居跡出土土器(2)
ＰＬ35　住居跡出土土器（SI25，26）
ＰＬ36　第27号住居跡出土土器(1)
ＰＬ37　第27号住居跡出土土器(2)
ＰＬ38　第27号住居跡出土土器(3)
ＰＬ39　住居跡出土土器（SI27，28）
ＰＬ40　第28号住居跡出土土器(1)
ＰＬ41　第28号住居跡出土土器(2)
ＰＬ42　住居跡出土土器（SI28，29）
ＰＬ43　住居跡出土土器（SI29，31）
ＰＬ44　第31号住居跡出土土器
ＰＬ45　第32号住居跡出土土器(1)
ＰＬ46　第32号住居跡出土土器(2)
ＰＬ47　住居跡出土土器（SI33，34）
ＰＬ48　住居跡出土土器（SI35，36，37）
ＰＬ49　第38号住居跡出土土器(1)
ＰＬ50　第38号住居跡出土土器(2)
ＰＬ51　住居跡出土土器（SI39，40，43）
ＰＬ52　住居跡出土土器（SI43，１）
ＰＬ53　第１号住居跡出土土器

ＰＬ54　第２号住居跡出土土器
ＰＬ55　第３号住居跡出土土器
ＰＬ56　第４号住居跡出土土器(1)
ＰＬ57　第４号住居跡出土土器(2)
ＰＬ58　住居跡出土土器（SI５，６）
ＰＬ59　第６号住居跡出土土器(1)
ＰＬ60　第６号住居跡出土土器(2)
ＰＬ61　住居跡出土土器（SI７，９）
ＰＬ62　住居跡出土土器（SI10，11）
ＰＬ63　第11，44号住居跡，第１，２，５号掘立柱建物跡出土土器（SI11，44，SB１，２，５）
ＰＬ64　出土土器（SK13・37・43・47・49・51・62，TMI，SX２）
ＰＬ65　遺物包含層出土土器(1)
ＰＬ66　遺物包含層出土土器(2)
ＰＬ67　遺物包含層出土土器(3)
ＰＬ68　遺物包含層出土土器(4)
ＰＬ69　遺物包含層出土土器(5)
ＰＬ70　遺物包含層出土土器(6)
ＰＬ71　遺物包含層出土土器(7)
ＰＬ72　遺物包含層出土土器(8)
ＰＬ73　遺構外出土土器
ＰＬ74　出土石器・石製品
ＰＬ75　出土石器・石製品，土製品
ＰＬ76　出土土製品，金属製品
ＰＬ77　ヤツノ上遺跡・炭化材の顕微鏡写真
ＰＬ78　ヤツノ上遺跡・灰像分析のプレパラート状況写真

# 第1章　調 査 経 緯

## 第1節　調査に至る経過

牛久市は，県が進めている「グレーターつくば構想」において，隣接する土浦市，つくば市とともに，業務核都市として100万田園都市圏の一翼を担うことが期待されており，市の北部地区には「竜ヶ崎・牛久都市計画事業牛久北部特定土地区画整理事業」が計画された。この事業は，業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより，昭和63年10月13日，住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会に対し，この事業計画地区である牛久市北部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これをうけ，茨城県教育委員会は，同月26日から，牛久市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い，平成元年２月７日，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団あてに表面観察及び試掘調査によりヤツノ上遺跡ほか中久喜遺跡など数遺跡が所在することを回答した。翌年１月11日，住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い，遺跡の取り扱いについて文化財保護の立場から慎重な協議を重ね，現状保存が困難であるとし，記録保存の措置をとることになった。茨城県教育委員会は住宅・都市整備公団に，埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団から遺跡発掘調査の依頼を受け，平成２年９月29日，住宅・都市整備公団とヤツノ上遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び，同年10月１日からヤツノ上遺跡調査Ⅰ区の発掘調査を，翌年４月１日からヤツノ上遺跡調査Ⅱ区（１～３）の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節　調査経過（第1図）

ヤツノ上遺跡の発掘調査は，平成２年10月１日から平成４年３月31日まで行った。調査区をⅠ区，Ⅱ区に大別し，さらにⅡ区をⅡ区－１～３に区分し，調査は，Ⅰ区（平成２年度）→Ⅱ区－１（平成３年２月～11月）→Ⅱ区－３（平成３年10月～４年１月）→Ⅱ区－２（平成３年12月～４年３月）の順に実施した。以下，調査の経過について，その概要を記述する。

（平成２年度）　Ⅰ区，Ⅱ区－１の調査

10　月　　発掘調査をするための諸準備を行い，倉庫及び休憩所を設置し，９日から調査Ⅰ区の伐開作業を開始した。12日に関係者列席の下，鍬入れ式を挙行し，調査の円滑な推進と安全を祈願した。25日からグリッドによる試掘を行った。

11　月　　前月に引き続き20日まで試掘調査を実施した結果，竪穴住居跡，土坑ととらえられる落込みや縄文式土器，土師器，須恵器の破片が確認できた。調査の能率を上げるため，21日から重機による表土除去を開始した。

12　月　　重機による表土除去を続けると同時に，遺構確認作業を実施し，竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑，古墳が確認された。

1　月　　竪穴住居跡の調査とともに掘立柱建物跡，古墳の調査も進めた。25日から31日にかけて，調査Ⅱ区－1の伐開作業を行った。

2　月　　竪穴住居跡7軒，掘立柱建物跡6棟の調査を終了し，土坑，古墳，遺物包含層の調査を進めた。12日から20日にかけて，調査Ⅱ区－1の表土除去を行った。

3　月　　調査Ⅰ区の遺構の調査もほぼ終了し，2日には現地説明会を行った。土坑14基，古墳1基，遺物包含層1か所の調査を終了し，26日に調査Ⅰ区の一切の調査を完了した。

（平成3年度）　Ⅱ区－3，Ⅱ区－2の調査

4　月　　9日から調査Ⅱ区－3の伐開作業を開始し，30日に終了した。

5　月　　1日からグリッドによる試掘を開始し，10日に終了した。15日，17日に，基準杭打ち（茨城県建設技術公社に委託）を実施した。

6　月　　調査Ⅱ区－3は，26日から重機による表土除去，遺構確認作業を実施した。

7　月　　前月に引き続き10日まで表土除去を行い，竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑，炭焼窯跡が確認された。11日からは調査Ⅱ区－1の遺構調査を開始した。

8～9月　中久喜遺跡の調査を実施するため，当遺跡の調査を一時中断した。

10　月　　15日から調査Ⅱ区－1の遺構調査を再開し，28日からは調査Ⅱ区－3の遺構調査を開始した。

11　月　　調査Ⅱ区－1は，竪穴住居跡5軒，掘立柱建物跡1棟，土坑12基，性格不明遺構1か所の調査を終え，5日に一切の調査を終了した。

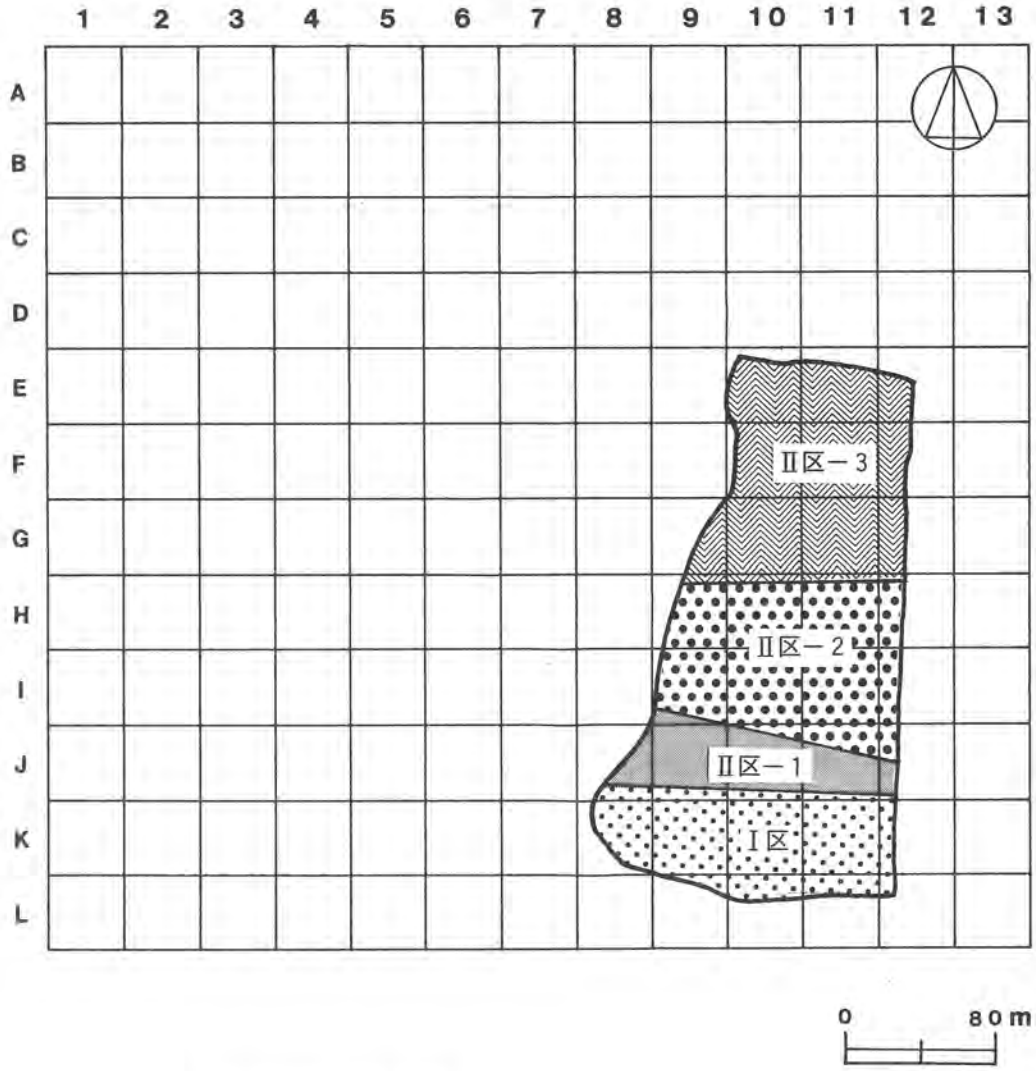
12　月　　引き続き調査Ⅱ区－3の遺構調査を進め，竪穴住居跡，土坑，炭焼窯跡の調査を実施した。調査Ⅱ区－2は，11日から19日まで業者による伐開を行い，24日から重機による表土除去を開始した。

1　月　　調査Ⅱ区－3は，竪穴住居跡18軒，土坑36基，炭焼窯跡1基の調査を終え，20日に一切の調査を終了した。調査Ⅱ区－2は，重機による表土除去を20日に終え，竪穴住居跡13軒，土坑30基が確認され，続いて遺構調査を開始した。

2　月　　調査Ⅱ区－2の竪穴住居跡，土坑の調査を進めた。18日からＪ11区にて先土器調査を実施したが，遺構・遺物の確認はできず，28日に終了した。

3　月　　7日に現地説明会を開催した。1年半にわたり調査した遺構の総数は，竪穴住居跡45

軒，掘立柱建物跡７棟，土坑85基，古墳１基，炭焼窯跡１基，性格不明遺構２か所である。９日に遺跡の航空写真撮影を行い，これまでに作成した図面類の点検，修正，遺物の洗浄及び注記等を実施し，26日に調査のすべてを終了した。




第１図　ヤツノ上遺跡調査区及び位置図

# 第２章　位置と環境

## 第１節　地理的環境

ヤツノ上遺跡は，牛久市下根町字ヤツノ上436番地の４ほかに所在している。

当遺跡の所在する牛久市は，茨城県南部中ほどに位置し，東は江戸崎町，西は茎崎町，北は阿見町，土浦市，つくば市と境を接している。市域は，東西約15km，南北約10km，面積約59.00km²，人口約62,255人（平成４年３月31日現在）を擁している。市の西側を国道６号と，ＪＲ東日本常磐線が平行してほぼ南北に通じ，中央部を国道408号が東西に走っている。

牛久市の産業は，東部地区に筑波南桂工業団地が造成され，新たに奥原工業団地の造成も進められている。市道貝塚中根線沿いでは，大型店が進出して，牛久駅前の大型店とともにひとつの商圏を形成している。農業では，野菜やラッカセイの作付面積が多く，スイカは茨城県の銘柄産地指定をうけている。小野川，乙戸川流域の低地においては，稲作もさかんである。近年，牛久市には，都心への通勤・通学者が多く住む住宅団地が各地につくられるなど，かつての農村は，住宅都市へと大きく変貌しつつある。さらに，県の「グレーターつくば構想」や首都圏交通の向上を図る首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の建設を機軸に発展していくことが期待されている。

牛久市の地形は，標高25～28ｍの洪積台地である稲敷台地と，小野川や乙戸川，桂川水系の沖積低地とからなっている。稲敷台地には，小野川や乙戸川，桂川とその支流が樹枝状に入り込み，台地は複雑な地形となっている。小野川は，つくば市を水源とし，本市のほぼ中央部を北西から南東に流れている。本市の南東端で小野川に合流する乙戸川は，土浦市を水源とし阿見町を流れて本市東部に入り，桂川を併せている。桂川，乙戸川を併せた小野川は，大きく北東に湾曲し，霞ケ浦に流入している。市の西端には牛久沼（龍ケ崎市）が隣接している。

稲敷台地は，第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が観察され，上部から下部にかけて，関東ローム，常総粘土層，竜ヶ崎砂礫層，成田層上部，成田層下部，藪層の順で堆積し，堆積状況は，水平で単調であり，褶曲や，断層はみられない[(1)]。

当遺跡は，牛久市の北西部にあり，小野川左岸から入り込む谷津の東側の標高21～25ｍの台地に所在している。現況は山林であり，遺跡のある台地と谷津との比高差は３～７ｍである。

注

(1)　蜂須紀夫　「茨城県　地学のガイド」　1986年

## 第2節　歴史的環境

ヤツノ上遺跡の所在する地域は，大小の河川，低地，台地と変化に富んだ自然景観をもち，人々に格好の居住環境を提供して，原始，古代においても生活の場となり，数多くの遺跡が残っている。特に，牛久沼周辺と小野川水系流域の台地上には，多くの原始，古代の遺跡がみられる。ここでは，当地域の主な遺跡について，時代をおって述べることにする。

縄文時代の遺跡としては，下大井遺跡<10>，大井遺跡<14>，守子橋遺跡<21>，沖新田道祖神前遺跡<4>，塚下遺跡<5>等がある。茎崎町の下大井遺跡[1]，大井遺跡[1]，牛久市の守子橋遺跡は，小野川沿いの台地縁辺部に位置し，土浦市の沖新田道祖神前遺跡[2]，塚下遺跡[2]は，乙戸川を挟んだ台地縁辺部に位置している。牛久市奥原町の小野川と乙戸川とが合流する左岸台地縁辺部には，縄文時代中期から後期にかけての集落跡である奥原遺跡[3]（出戸地区）があり，牛久市大字桂の乙戸川支流の桂川左岸台地縁辺部には，縄文時代中期に比定される住居跡20軒，竪穴状遺構85基が検出された赤塚遺跡[4]がある。

弥生時代の遺跡としては，縄文式土器片とともに弥生式土器片の散布がみられた坂本遺跡[5]<15>があり，奥原町の天王峯遺跡[6]では，弥生時代後期の集落跡が検出され，注目されている。

古墳時代の遺跡としては，中久喜遺跡<2>，中根遺跡[7]<18>，愛宕脇古墳<27>，梨の木遺跡<28>，琴塚遺跡<30>をはじめとして，土師器や須恵器を出土する遺物包蔵地や古墳など多数挙げることができる。茎崎町の下大井古墳群<11>では滑石製品が検出[1]され，阿見町の内記古墳群<17>には円墳が4基あり，2m幅の周溝をもつものや箱式石棺を有するものが検出[8]され，阿見町の実穀古墳群<20>にも円墳が4基あり，2基は周溝が明確な大形のもので，埴輪片が出土している。牛久市猪子町の道山古墳群<22>に属する9基の円墳は，小野川に流れる一支流に面した等高線20mの台地上に位置し，第3・4・5号墳からは直刀が出土[5]している。これらの古墳は，古墳時代後期に比定されるものである。牛久市久野町の源臺遺跡では，古墳時代前期の方形周溝墓や円形周溝墓が検出[9]され，最大規模の第6号方形周溝墓は，南北13.4m×東西13.6m，溝の幅員は最大2.7m，最深は0.7mである。

奈良・平安時代の遺跡としてはヤツノ上遺跡が確認されている。

中世の遺跡としては，上小池城跡<32>，岡見城跡<36>がある。岡見城跡は，牛久市岡見町に所在し，室町時代の初期ごろから漸次勢力を拡大していった岡見氏発祥の城跡であり，戦国時代に各地に構築した属城の拠点となったところである。上小池城跡は，阿見町小池に位置し，戦国時代末期に土岐氏によって構築，支配されたものと考えられる[8]。

江戸時代の遺跡としては，東大和田町の東猫穴一里塚<16>，田宮町の田宮一里塚<34>があり，それぞれ国道6号（旧水戸街道）沿いに所在している。田宮一里塚の南には，城中町の成井

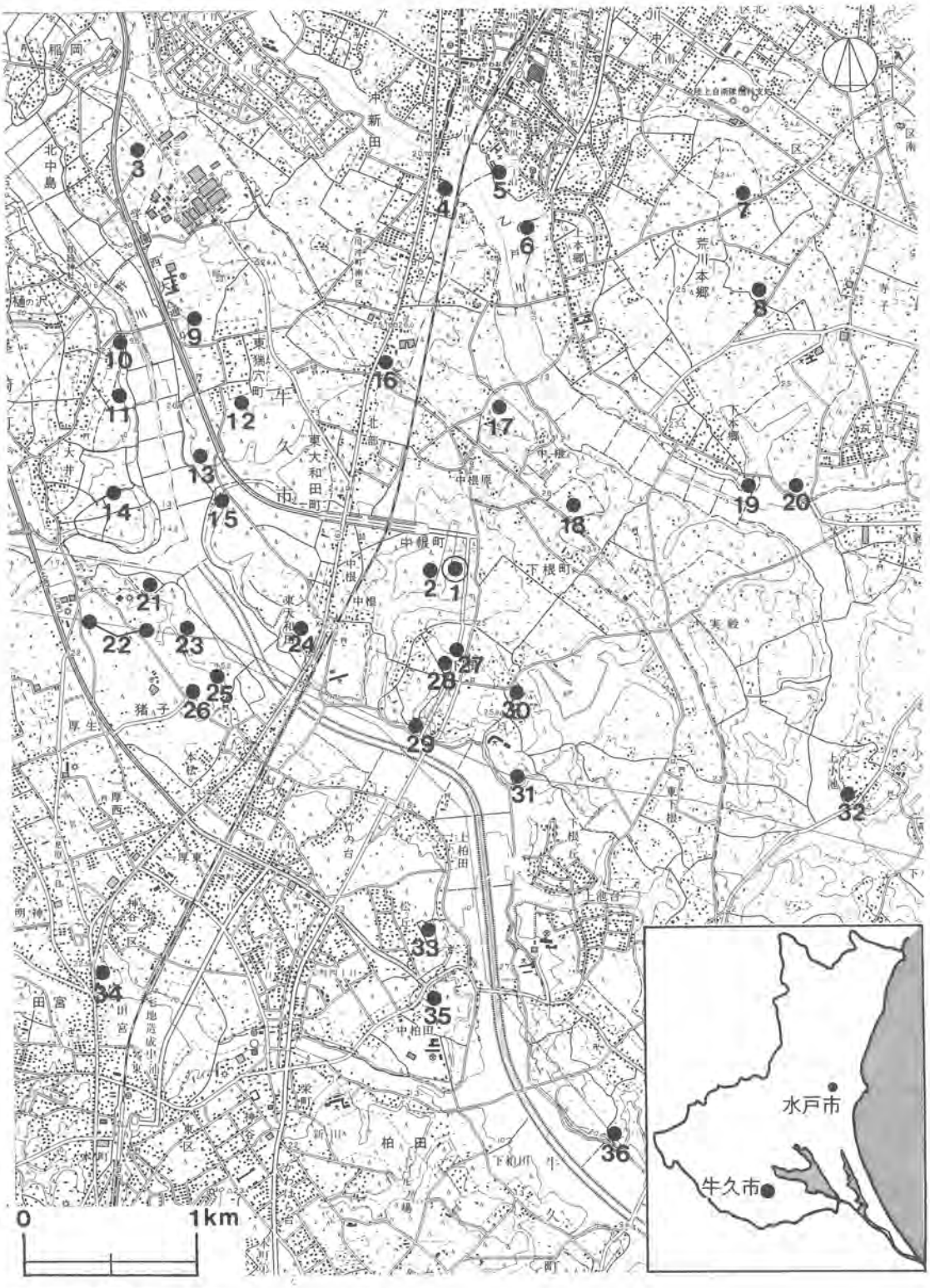
一里塚が遺存している。

以上のように，当遺跡の周辺には多くの遺跡が存在し，原始，古代から多くの人々の生活の舞台となってきたことが窺える。

※文中の＜　＞内の番号は，表１，第２図中の該当番号と同じである。

**表１　周辺遺跡一覧表**

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 鎌倉以降 | | | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 鎌倉以降 |
| 1 | ヤツノ上遺跡 | ○ | | ○ | ○ | | 19 | だめき古墳 | | | ○ | | |
| 2 | 中久喜遺跡 | | | ○ | | | 20 | 実穀古墳群 | | | ○ | | |
| 3 | 北中島遺跡 | | | ○ | | | 21 | 守子橋遺跡 | ○ | | | | |
| 4 | 沖新田道祖神前遺跡 | ○ | | ○ | | | 22 | 道山古墳群 | | | ○ | | |
| 5 | 塚下遺跡 | ○ | | ○ | | | 23 | 宮坂古墳 | | | ○ | | |
| 6 | 於山古墳 | | | ○ | | | 24 | 根柄古墳 | | | ○ | | |
| 7 | 大塚古墳 | | | ○ | | | 25 | 中宿遺跡 | | | ○ | | |
| 8 | 北古辺古墳 | | | ○ | | | 26 | 古屋敷遺跡 | | | ○ | | |
| 9 | 大久保遺跡 | | | ○ | | | 27 | 愛宕脇古墳 | | | ○ | | |
| 10 | 下大井遺跡 | ○ | | | | | 28 | 梨の木遺跡 | | | ○ | | |
| 11 | 下大井古墳群 | | | ○ | | | 29 | 宮の台遺跡 | | | ○ | | |
| 12 | 馬場遺跡 | | | ○ | | | 30 | 琴塚遺跡 | | | ○ | | |
| 13 | 行人田遺跡 | | | ○ | | | 31 | 水落下遺跡 | | | ○ | | |
| 14 | 大井遺跡 | ○ | | | | | 32 | 上小池城跡 | | | | | ○ |
| 15 | 坂本遺跡 | ○ | ○ | | | | 33 | 権現山上池遺跡 | ○ | | ○ | | |
| 16 | 東猫穴一里塚 | | | | | ○ | 34 | 田宮一里塚 | | | | | ○ |
| 17 | 内記古墳群 | | | ○ | | | 35 | 出し山遺跡 | ○ | | ○ | | |
| 18 | 中根遺跡 | | | ○ | | | 36 | 岡見城跡 | | | | | ○ |




第２図　周辺遺跡分布図

注

(1) 茎崎教育委員会　「茎崎村史」　1973年

(2) 土浦市教育委員会　「土浦の遺跡　埋蔵文化財包蔵地」　1984年

(3) 奥原遺跡発掘調査会　「奥原遺跡」　1989年

(4) 赤塚遺跡発掘調査会　「赤塚遺跡」　1984年

(5) 牛久市教育委員会　「牛久町史　史料編（一）」　1979年

(6) 牛久市教育委員会　「天王峯遺跡報告書　第二次調査 」　1988年

(7) 阿見町教育委員会　「阿見町史研究　第６号」　1985年

(8) 阿見町史編さん委員会　「阿見町史」　1983年

(9) 牛久市教育委員会　「常陸源臺遺跡」　1989年

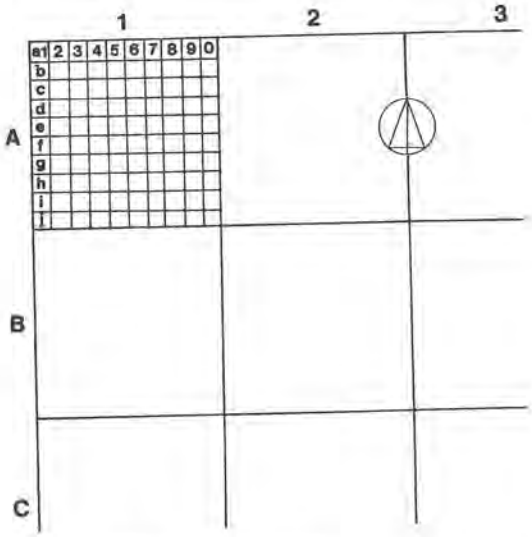
(10) 小坂城跡発掘調査会　「小坂城跡」　1979年

# 第3章　調査方法

## 第1節　地区設定

ヤツノ上遺跡の発掘調査を実施するにあたり，遺跡及び遺構の位置を明確にするために調査区を設定した。

調査区の設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標のX軸（南北）＋280m，Y軸（東西）＋29,840mの交点を基準点として40m方眼を設定し，この40m四方の区画を大調査区とした。さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分して，4m四方の小調査区を設定した。



第3図　調査区呼称方法概念図

調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用いて表記した。大調査区は，北から南へA，B，C・・・，西から東へ1，2，3・・・とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c・・・j，西から東へ1，2，3・・・0とし，大調査区の名称を冠し，「A1$a_1$区」，「B2$e_2$区」のように呼称した。（第3図）

## 第2節　基本層序の検討

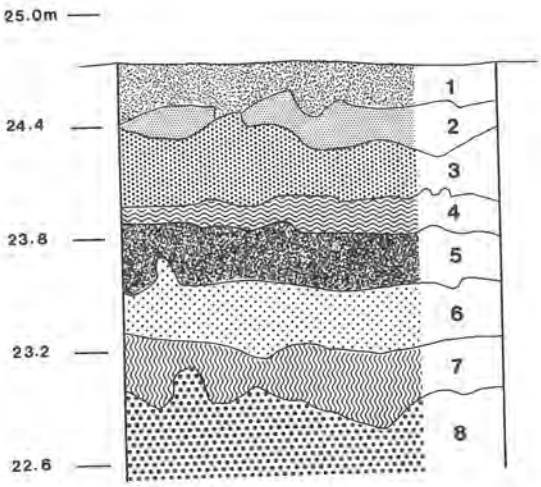
ヤツノ上遺跡の基本層序は，第4図のとおり，8層に分類できる。

第1層は，20～30cmの厚さを有する表土で，黒褐色を呈している。

第2層は，約20cmの厚さを有するソフトロームへの漸移層の褐色土である。

第3層は，30～40cmの厚さを有し，極めて粘性のあるソフトローム層である。

第4層は，約20cmの厚さを有し，極めて締まりのあるハードローム層である。



第4図　基本土層図

第５層は，約30cmの厚さを有する褐色土で層中にブラックバンドが認められ，ロームブロックを多量に含み，極めて締まりがある。

第６層は，約30cmの厚さを有するにぶい褐色土で，極めて粘性がある。

第７層は，20～40cmの厚さを有するにぶい褐色土で，小石を少量含み，極めて粘性がある。

第８層は，灰色の常総粘土層で，極めて粘性がある。

当遺跡の立地する台地は，表土から1.6～2.0ｍで粘土層になる。台地上は比較的平坦であるが，西側になだらかに傾斜している。当遺跡の遺構は，第２層の上面で確認されており，竪穴住居跡は，第２層から第５層を掘り込み，陥し穴遺構は第８層まで掘り込まれている。

## 第３節　遺構の確認

遺構の確認は，調査区の16分の１にあたる面積の試掘を実施した。試掘開始当初から，縄文式土器片，土師器，須恵器とともに，遺構と思われる落ち込みが確認された。この試掘結果をふまえ，担当者間で協議を行い，調査区全面の表土除去を実施することにしたが，遺構確認状況から判断して，かなりの遺構数が予想されることや，表土の厚さが40～50cmであることから，表土除去は重機で行うこと，さらに，調査期間の関係から調査区域を二区に分けて実施することとした。重機で表土を除去した後，人力による遺構確認作業を行い，竪穴住居跡45軒，掘立柱建物跡７棟，土坑85基，古墳１基，炭焼窯跡１基，性格不明遺構２か所を確認した。

## 第４節　遺構調査

当遺跡における遺構の調査は次のようにした。

住居跡の調査は，平面プラン確認後，遺構の中央部で直交するように土層観察用のベルト２本を設定して四分割し，それぞれを掘り込む四分割法で実施した。それぞれの地区の名称は，北から時計回りに１～４区とした。土坑の調査は，長径方向で二分割して掘り込む二分割法で実施し，地区名は住居跡の表記に準じた。掘立柱建物跡については，柱痕跡あるいは柱穴掘り方が一直線に連続するようなラインを設定し，このラインに沿って二分割して掘り込んだ。古墳については，４本のトレンチを設定して土層断面を観察し，埋葬施設および周溝部に適宜土層観察用ベルトを設けて調査した。炭焼窯跡は土坑調査に準じて実施した。

土層については，色相，含有物や混入物の種類や量，粘性や締まり具合等を観察して土層分類の基準とした。色相の判断は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著，日本色研事業株式会社）を使用した。

遺物の取り上げは，住居跡や土坑等の名称と出土地区の名称，取り上げ番号，レベル等を記録して収納した。

遺構の実測については，平面図は水糸を１ｍ方眼に地張りして計測し，土層及び遺構断面図は水糸を適度なレベルに水平に張り，計測した。

調査の記録は，土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土位置図作成→遺構平面写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面や写真に記録できない事項に関しては，野帳及び調査記録カードに記録し，さらに遺構カードに整理した。

# 第４章　遺構と遺物

## 第１節　遺跡の概要と遺構及び遺物の記載方法

### １　遺跡の概要

ヤツノ上遺跡は，牛久市の北西部，小野川左岸から北側に入り込む谷津（やつ）の東側の標高21～25ｍの台地上にあり，縄文時代から平安時代にわたる複合遺跡である。現況は山林で，調査区は，長さ南北に約290ｍ，最大幅東西約160ｍ，面積34,943㎡である。

今回の調査によって検出された遺構は，縄文時代後・晩期，古墳時代中期，奈良時代，平安時代前期の竪穴住居跡45軒，平安時代の掘立柱建物跡７棟，土坑85基，古墳１基，炭焼窯跡１基，性格不明遺構２か所である。

縄文時代の遺構は，竪穴住居跡５軒で，調査区の中央部に散在して検出され，後・晩期と考えられる。古墳時代の遺構は，竪穴住居跡29軒で，調査区の中央部から北部にかけて検出されている。西壁寄りに炉を付設した住居跡が大半を占め，竈をもった住居跡は皆無である。古墳は，調査区の南東部に検出され，周溝をもった方墳である。奈良・平安時代の遺構は，竪穴住居跡11軒で，調査区の南部で検出され，すべての住居跡の北側に竈をもっている。掘立柱建物跡は７棟で，住居跡と混在しながら，調査区の南部から検出されている。近世の遺構は，調査区の北西部に，炭焼窯跡が１基検出されている。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に119箱出土している。縄文時代の遺物は，縄文式土器片，石鏃等が出土している。古墳時代の遺物は，土師器の甕，甑，壺，赤彩された坏，高坏，埦，鉢，甑及びその破片，須恵器の甑，高坏，坏身，坏蓋，坏，把手付埦及びその破片，鉄製品の鎌，刀子，石製品の勾玉，臼玉，紡錘車，砥石等が出土している。奈良・平安時代の遺物は，土師器の坏，甕，須恵器の坏，盤や灰釉陶器片等が出土している。

### ２　遺構・遺物の記載方法

本書における遺構及び遺物の記載方法は，以下のとおりである。

(1)　使用記号

遺構

| 名称 | 住居跡 | 掘立柱建物跡 | 土坑 | 古墳 | 窯跡 | ピット | 性格不明遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 記号 | ＳＩ | ＳＢ | ＳＫ | ＴＭ | ＳＹ | $P_1$・・・ | ＳＸ |

遺物

| 土器 | 土製品 | 石器 | 金属製品 |
|---|---|---|---|
| Ｐ | ＤＰ | Ｑ | Ｍ |

(2) 遺構及び遺物の実測図中の表示

炉・竈　　粘土　　焼土

● 土器　　○ 土製品　　□ 石器・石製品　　△ 金属製品

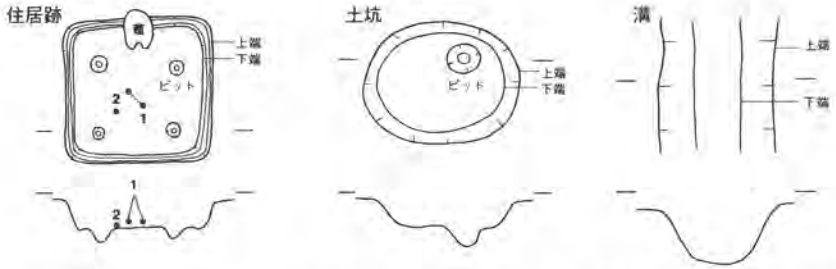
(3) 遺構番号

遺構番号については，調査の過程において遺構の種別ごと，調査順に付したが，整理の段階で遺構でないと判断したものは欠番とした。

(4) 土層の分類

土層観察における色相の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著，日本色研事業株式会社）を使用し，図版実測図中に記載した。撹乱層については「K」と表記した。

(5) 遺構実測図の作成方法と掲載方法




① 住居跡と窯跡は，縮尺20分の1の原図をさらに2分の1に縮小したものをトレースして版組し，それをさらに3分の2に縮小して掲載した。ただし，一辺が7mを超える住居跡については，前載のように版組し，それをさらに2分1に縮小して掲載した。

② 土坑は，縮尺20分の1の原図をトレースして版組し，それをさらに3分の1に縮小して掲載した。

③ 古墳は縮尺20分の1，40分の1，60分の1の原図を2分の1に縮小したものをトレースして版組し，それを適宜に縮小して掲載した。

④ 実測図中のレベルは標高であり，m単位で表示した。また同一図中で同一標高の場合に限り，一つの記載で表し，標高が異なる場合は各々表示した。

⑤ 本文中の記載について

○ 「位置」は，遺構が占める面積の割合が最も大きいグリッド名をもって表示した。

○ 「重複関係」は，他の遺構との切り合い関係を記した。

○ 「平面形」は，壁の上端部で判断し，方形・長方形，円形・楕円形の場合は下記の分類基準を設け，そのいずれかを明記した。

方形（短軸：長軸＝１：1.1未満のもの）　　長方形（短軸：長軸＝１：1.1以上のもの）

円形（短径：長径＝１：1.1未満のもの）　　楕円形（短径：長径＝１：1.1以上のもの）

また，形の整わないものは，不整○○形と表示した。

○　「規模」は，壁の上端部の計測値であり，長軸（径），短軸（径）をｍ単位で表記した。

○　「方向」は，炉または竈を通る線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ傾いているかを角度で表示した（主軸方向）。縄文時代の住居跡は，長径が座標北から見てどの方向にどれだけ傾いているかを，角度で示した（長径方向）。

○　「壁」は，床面からの立ち上がり角度が81°～90°を垂直，65°～80°を外傾，65°未満を緩斜，さらに90°以上を内傾とした。壁高は，残存壁高の計測値である。

○　「壁溝」は，その形状や規模を記述した。規模は床面からの計測値とした。

○　「床」は傾斜や床質等を表記した。

○　「ピット」は，その住居跡に伴うと考えられるピットをＰで表示し，$P_1$・$P_2$はピット番号を表し，さらに，ピットの直径と深さを記述した。

○　「覆土」は，堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」と記した。

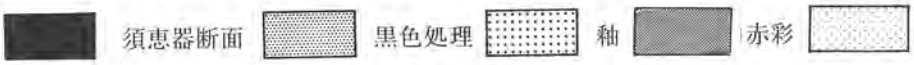
○　「遺物」は，主な遺物の種類や出土位置，出土状態を記述した。

○　「所見」は，当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

(6)　遺物実測図の作成方法と掲載方法

①　土器の実測は，四分割法を用い，中心線の左側に外面，右側に内面及び断面を表した。

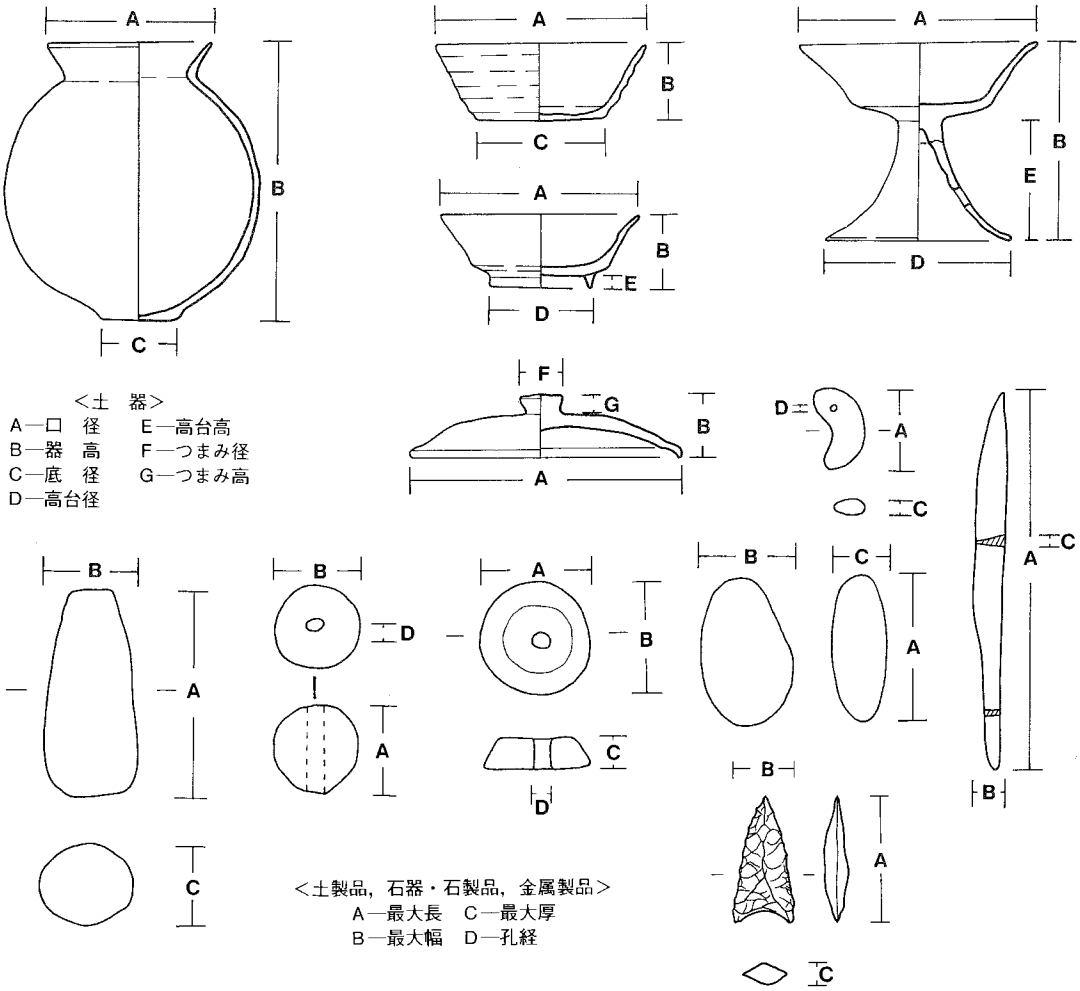
②　実測図中の表示方法




③　土器の拓影図は，右側に断面を表し，表・裏２面を掲載したものは，断面を挟んで左側に外面，右側に内面を掲載した。

④　遺物は原則として実測図をトレースしたものを３分の１に縮小して掲載することを基本とした。

⑤　各部位の名称と法量表現




(7)　表の見方

<住居跡一覧表>

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 | | 床面 | ピット数 | | 竈・炉 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長軸(m)×短軸(m) | 壁高(cm) | | 総数 | 主柱 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

○　住居跡番号は，発掘調査の過程で付した番号をそのまま付した。

○　位置は，小調査区（小グリッド）名で表示した。他の調査区にまたがる場合は，遺構の占める割合が最も大きい小調査区をもって表示した。

○　方向は，竈・炉，または長径が座標北から見てどの方向にどれだけ傾いているかを，角度で表示した。

（N－10°－E，N－10°－W）　［　］を付したものは推定である。

○　平面形は，現存している形状の上端面で判断し，方形，長方形，円形，楕円形の場合は下記の分類基準を設け，そのいずれかを明記した。

方形…短軸：長軸＝１：1.1未満　　長方形…短軸：長軸＝１：1.1以上

円形…短径：長径＝１：1.1未満　　楕円形…短径：長径＝１：1.1以上

また，形の整わないものは，不整○○形と表示した。

○　規模の欄の長軸，短軸は，平面形の上端面の計測値であり，壁高は残存壁高の計測値である。（　）を付したものは現存値，［　］は推定値である。

○　床面は，凹凸，平坦等の様子を示し，締まり等は解説の項で述べた。

○　ピット数は，住居跡に伴うものと考えられる総数を表示し，主柱は主柱穴数を表した。

○　竈が，付設されている住居跡は「竈」で，炉が検出されている場合は「炉」と表示した。

○　覆土は，堆積状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」と記した。

○　出土遺物は，実測個体数を除いた遺物の種類と出土土器片の数を記した。

○　備考は，重複関係や特徴等を記した。

＜土坑一覧表＞

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

○　土坑番号は，発掘調査の過程で付した番号をそのまま使用した。また，整理の過程で土坑でないと判断したものは欠番とした。

○　平面形は，円形，楕円形の場合に下記の分類基準を設けて表示した。

円形（短径：長径＝１：1.1未満のもの），楕円形（短径：長径＝１：1.1以上のもの）

○　規模の欄の長径・短径は上端部の計測値（m）で表した。

○　深さは，遺構確認面から坑底の最も深い部分までの計測値（cm）で表した。

○　壁面は，坑底からの立ち上がりの状態を下記の基準で分類し表示した。

81°～90°の傾き　　65°～80°の傾き　　65°未満の傾き

垂直　　外傾　　緩斜

○　底面は，下記の基準で分類し表示した。

1　平坦　　2　皿状　　3　凹凸

＜土器観察表＞

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

○　図版番号は，実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。

○　法量は，A…口径，B…器高，C…底径，D…高台径，E…高台高，F…つまみ径，G…つまみ高とし，（　）は現存値，［　］は復元推定値を表す。

○　器形の特徴は，底部，体部等の各部位について土器観察の結果を記した。

○　手法の特徴は，土器の成形，整形について記した。

○　胎土，色調，焼成の順で述べ，色調は『新版標準土色帖』を使用した。焼成については，「良好」，「普通」，「不良」に分類し，硬く焼き締まっているものは良好，焼きがあまく器面が剥離しやすいものは不良とし，その中間のものを普通とした。

○　備考は，残存率，実測（P）番号等を記した。

＜土製品，石器・石製品，金属製品一覧表＞

| 図版番号 | 器種 | 法　量（cm） | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| | | | | | | | | | |

○　図版番号は，実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。

○　重量の欄で，（　）を付した数値は，一部を欠損しているものの現存値である。

## 第2節　竪穴住居跡

当調査区のほぼ全域から，45軒の竪穴住居跡（縄文時代後・晩期5軒，古墳時代中期29軒，奈良時代1軒，平安時代前期10軒）が検出されている。重複し合っているのは2か所である。縄文時代の住居跡を除けば遺存状態のよいものが多く，特に古墳時代の住居跡は明確に検出されている。

以下，検出された住居跡の特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

### 1　縄文時代の住居跡

**第8号住居跡**（第5図）

**位置**　調査区南部，J10$g_0$区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北東部は，第19号土坑によって掘り込まれている。

**規模と平面形**　長径［3.74］m，短径［3.00］mの楕円形を呈するものと推定される。

**長径方向**　［N－76°－W］。

**壁**　壁高は約3cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　やや凹凸があり，比較的軟らかい。

**ピット**　17か所（$P_1$～$P_{17}$）検出されている。$P_1$～$P_{14}$は，径16～26cmの円形を呈し，深さ6～18cmで，主柱穴と考えられる。$P_{15}$～$P_{17}$の性格は不明であるが，$P_{15}$は，最大径74cm，最小径40cmの不定形で，深さ14cmであり，その覆土からは炭化粒子と，極微量の骨片が検出されている。

**覆土**　堆積状態は不明である。

**遺物**　中央部から北東部にかけての床面から縄文式土器（深鉢1）・細片（11点）が出土している。その他，流れ込みと思われる土師器細片（55点）が出土している。1の縄文式土器の深鉢の破片は，北東部の床面から出土している。

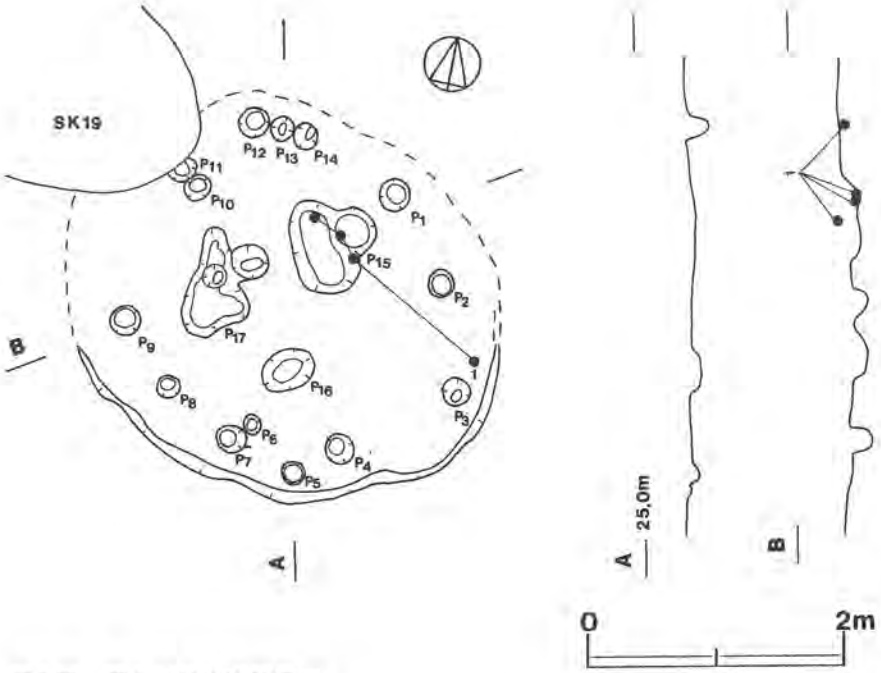
**所見**　本跡は，重複関係から第19号土坑より古い時期に構築されている。遺構の形態及び出土遺物から縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

**第8号住居跡出土遺物観察表**

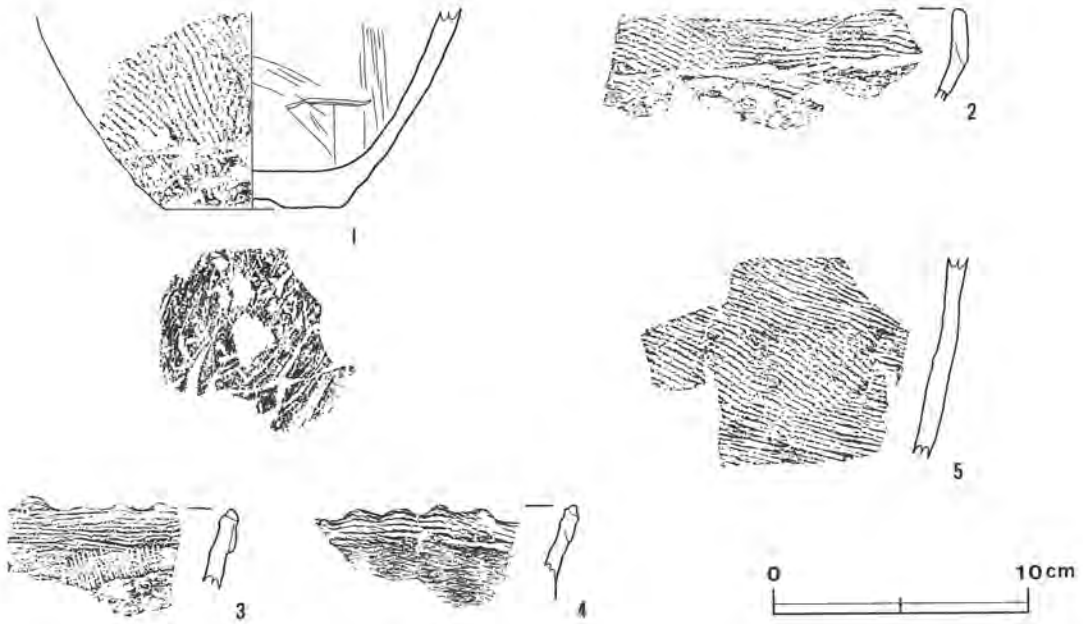
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴及び文様 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第6図<br>1 | 深　鉢<br>縄文式土器<br>（大洞A） | B（7.7）<br>C　7.7 | 平底で中央部が窪んでいる。胴部は僅かに内彎しながら立ち上がる。底部ヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。胴部には縦位回転による付加条縄文を施している。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P65　15%<br><br>北東部覆土下層 |

第6図は，第8号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2～4は口縁部片，5は胴部片である。2は口縁部を折り返し，口唇部に縄文が施されている。3は，波状口縁を呈し，口縁部に縄文が施されている。4は口縁部を折り返し，波状口縁を呈し，口縁部に縄文が施され

ている。5は，縄文及び撚糸文が施されている。




第5図　第8号住居跡実測図




第6図　第8号住居跡出土遺物実測・拓影図

第41号住居跡（第７図）

**位置**　調査区の中央部，110g8区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径［4.56］m，短径［3.36］mの楕円形を呈するものと推定される。

**長径方向**　［N－50°－W］。

**壁**　削平され，僅かな立ち上がりが部分的にとらえられる程度で，不明確である。

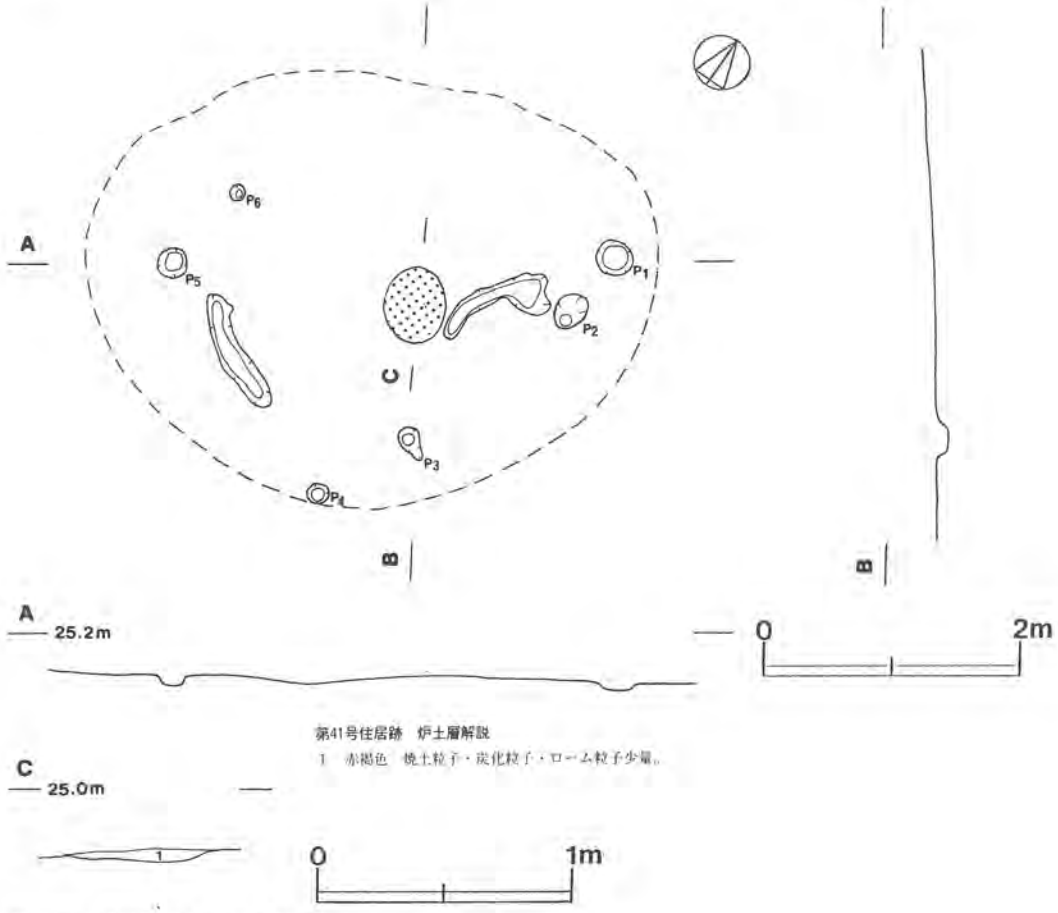
**床**　ほぼ平坦で，踏み固められて硬い。

**炉**　ほぼ中央部に検出されている。平面形は長径61cm，短径50cmの楕円形を呈し，床面を約４cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤褐色に焼けている。

**ピット**　６か所（$P_1$～$P_6$）検出されている。$P_1$～$P_6$は，径11～32cmの円形，不定形を呈し，深さ６～13cmで主柱穴と考えられる。

**覆土**　削平され，堆積状態は不明である。

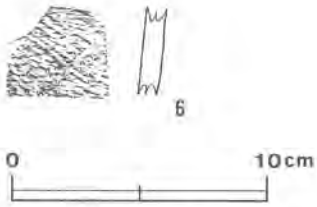
**遺物**　床面の全域から，縄文式土器細片（11点），流れ込みと思われる土師器細片（51点）が出土している。




第７図　第41号住居跡実測図

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

第８図は，第41号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。６は，胴部片で，縄文が施されている。




第８図　第41号住居跡出土遺物拓影図

**第42号住居跡**（第10図）

**位置**　調査区の中央部，I10f₇区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径［6.72］m，短径［6.11］mの円形を呈するものと推定される。

**長径方向**　［N－40°－E］。

**壁**　北東壁と南東・南西の壁は削平されて測定できないが，北西の壁は壁高４cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，踏み固められて硬い。

**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径48cm，短径45cmの円形を呈し，床面を約４cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤褐色に焼けている。

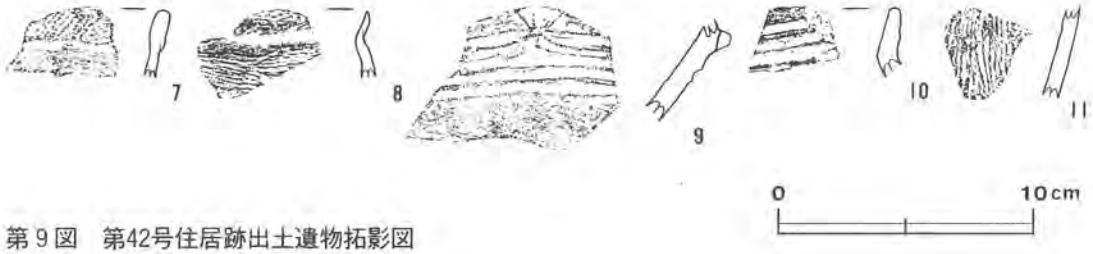
**ピット**　７か所（$P_1$～$P_7$）検出されている。$P_1$～$P_3$は，径41～56cmの円形を呈し，深さ29～38cmで主柱穴と考えられる。$P_4$～$P_7$の性格は不明である。

**覆土**　堆積状態は不明である。

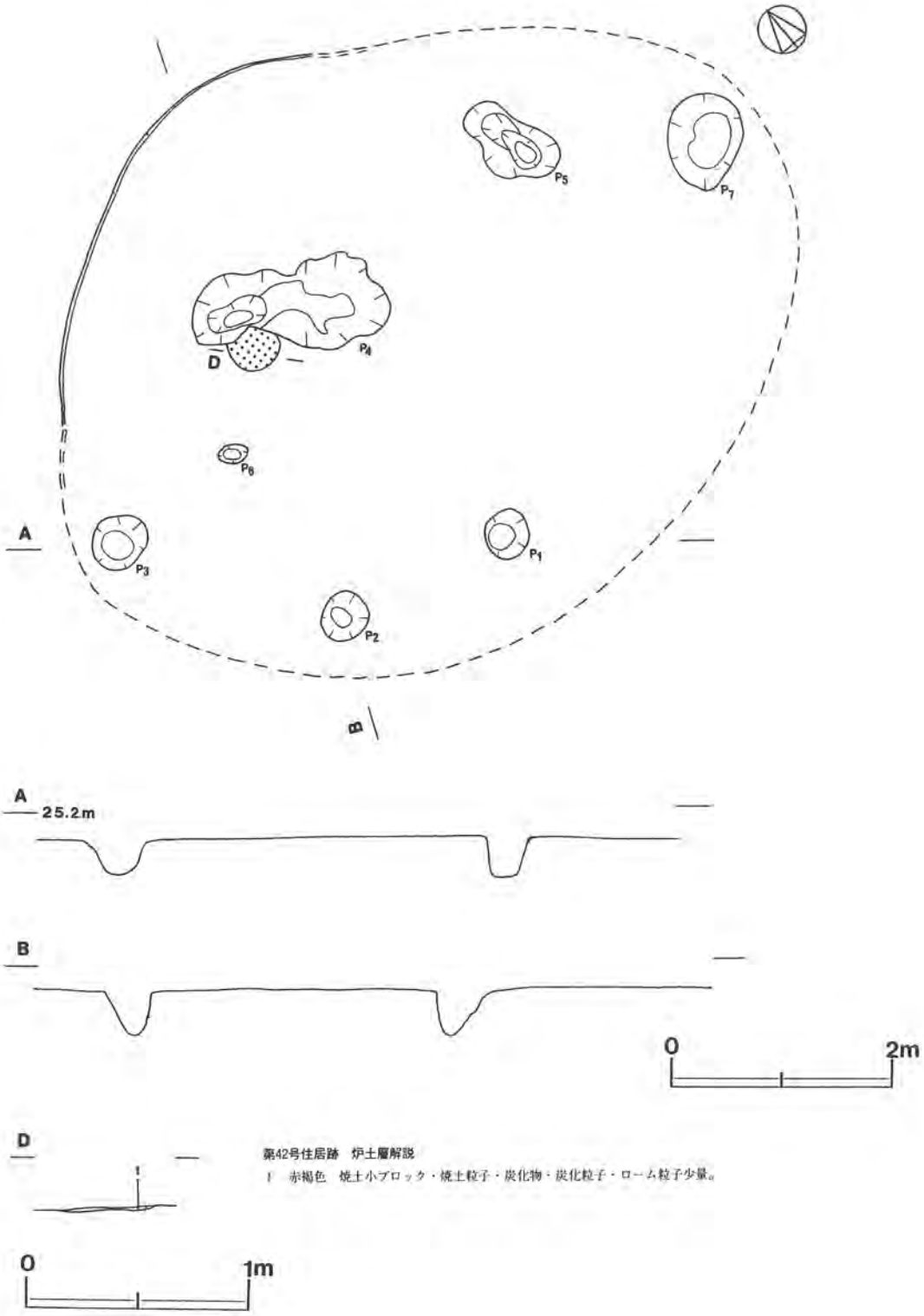
**遺物**　床面から，縄文式土器細片（42点），流れ込みと思われる土師器細片（71点）が出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から縄文時代晩期の住居跡と考えられる。

第９図は，第42号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。７，８は口縁部片で，口縁部を折り返し，７は口唇部に縄文を施し，８は口唇部とその下位に撚糸文が施されている。９は，胴部片で，突起をはさんで沈線が施され，その下位に３条の沈線をもつ。10は口縁部片で，３条の沈線が施されている。11は胴部片で，撚糸文が施されている。




第９図　第42号住居跡出土遺物拓影図




第42号住居跡　炉土層解説

1　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。

第10図　第42号住居跡実測図

**第45号住居跡**（第12図）

**位置**　調査区の中央部，111$f_5$区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北西部は，第37号住居跡によって掘り込まれている。

**規模と平面形**　長径5.72m，短径4.89mの楕円形を呈している。

**長径方向**　N－85°－E。

**壁**　壁高は8～18cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，踏み固められて硬い。

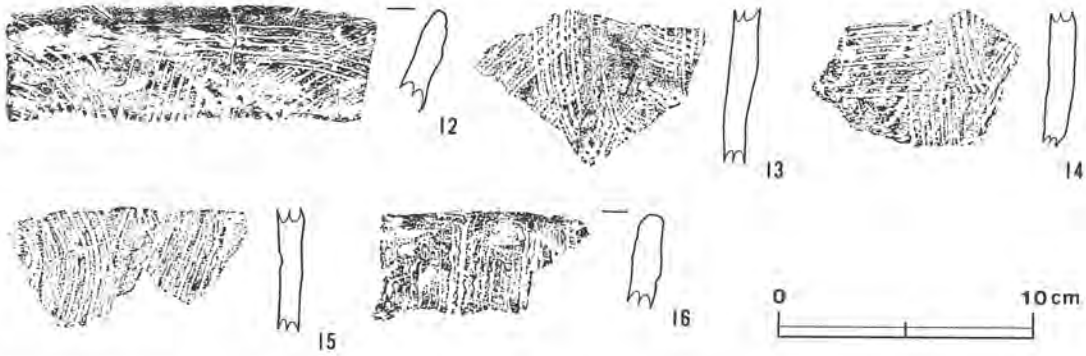
**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）検出されている。$P_1$～$P_5$は，径19～28cmの円形を呈し，深さ20～38cmで主柱穴と考えられる。$P_4$，$P_5$の性格は不明である。

**覆土**　3層からなり，自然堆積と思われる。

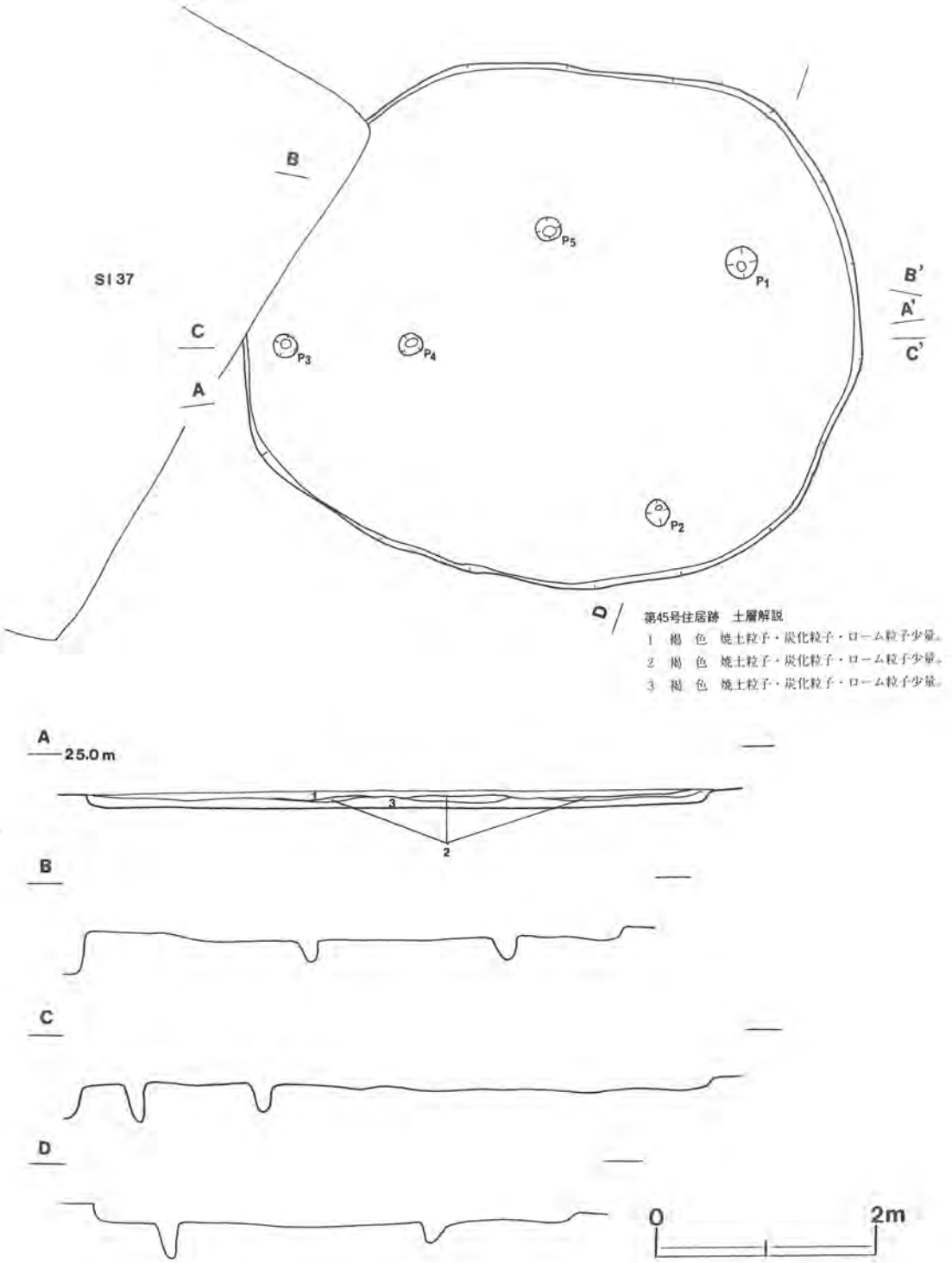
**遺物**　中央から北西側の床面から，縄文式土器細片（36点）が出土している。

**所見**　本跡は，重複関係から第37号住居跡より古い時期に構築されている。遺構の形態及び出土遺物から縄文時代後期の住居跡と考えられる。

第11図は第45号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。12は口縁部片，13～15は胴部片で，沈線文が施されている。16は口縁部片で，連続刺突文が施されている。




**第11図　第45号住居跡出土遺物拓影図**




第12図　第45号住居跡実測図

**第46号住居跡**（第14図）

**位置**　調査区の中央部，I10c$_3$区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径［7.12］m，短径［6.38］mの楕円形を呈するものと推定される。

**長径方向**　［N－51°－E］。

**壁**　削平され，僅かな立ち上がりが部分的にとらえられる程度で，不明確である。

**床**　ほぼ平坦で，締まっている。

**炉**　中央部に検出されている。平面形は長径45cm，短径38cmの楕円形を呈し，床面を約7cm掘り窪めた地床炉である。炉床はあまり焼けていない。

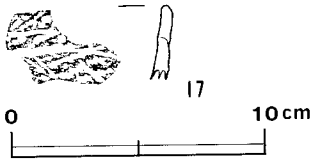
**ピット**　8か所（$P_1$～$P_8$）検出されている。$P_1$～$P_6$は，径20～38cmの円形を呈し，深さ27～48cmで主柱穴と考えられる。$P_7$，$P_8$の性格は不明である。

**覆土**　削平され，堆積状態は不明である。

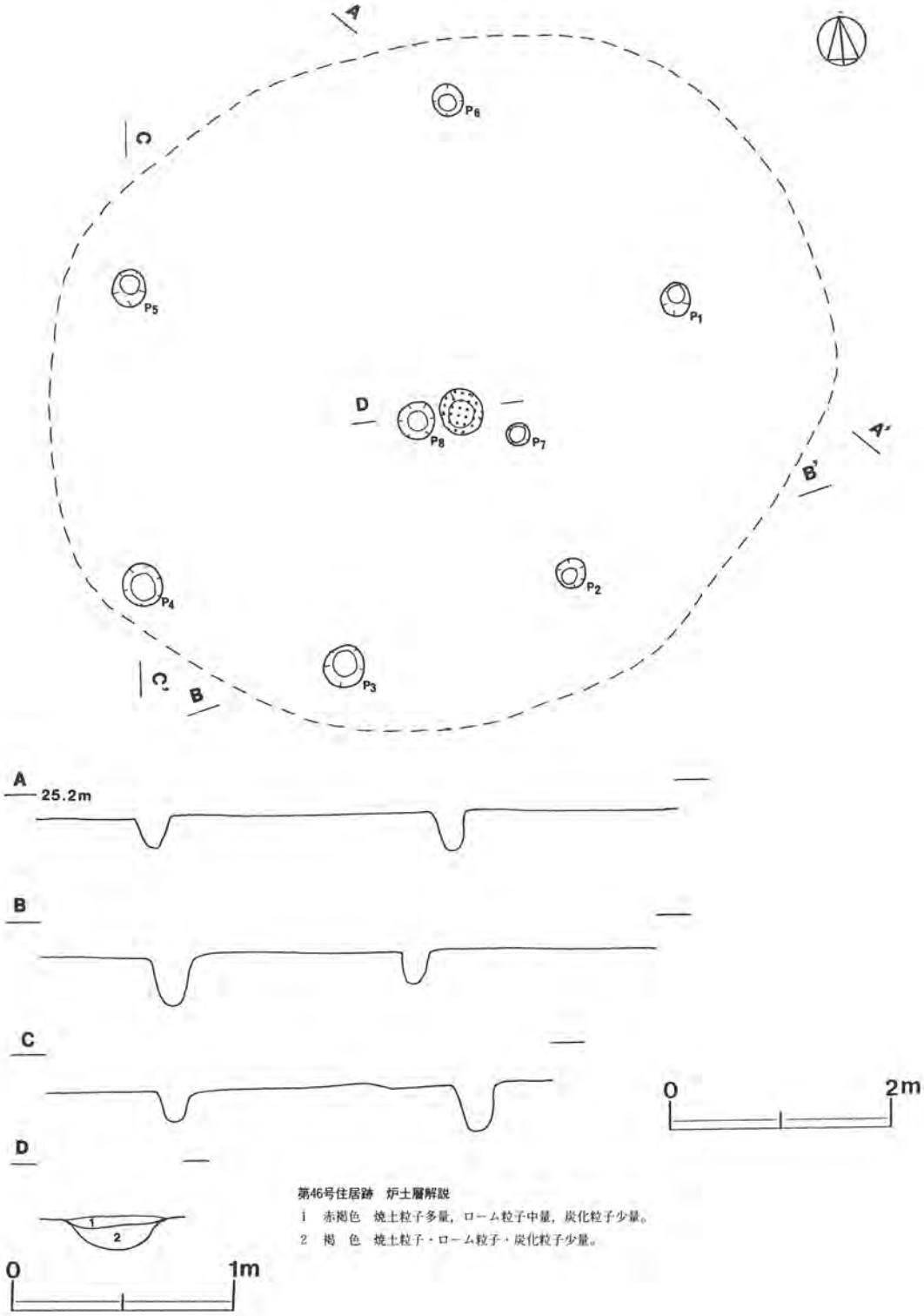
**遺物**　東部の床面から，縄文式土器細片（9点），流れ込みと思われる土師器細片（23点）が出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から縄文時代の住居跡と考えられるが，出土遺物が細片のために細かな時期については不明である。

第13図は第46号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。17は口縁部片で，口唇部を折り返し，縄文地文上に沈線が施されている。




第13図　第46号住居跡
出土遺物拓影図




第46号住居跡　炉土層解説

1　赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量。

2　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量。

第14図　第46号住居跡実測図

## 2　古墳時代の住居跡

**第12号住居跡**（第15図）

**位置**　調査区の南部，J11g6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸6.52m，短軸5.42mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－40°－W。

**壁**　壁高は15～30cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）検出されている。$P_1$～$P_5$は，径30～65cmの円形を呈し，深さ14～30cmで，性格は不明である。

**炉**　2基検出され，どちらも地床炉である。炉Aは，中央部に検出されている。平面形は径約67cmの円形を呈し，床面を約15cm掘り窪めている。炉床は明赤褐色に焼けている。炉Bは，炉Aの北東側に隣接して検出されている。平面形は長径69cm，短径59cmの楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めている。炉床は，明赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　南東壁際のほぼ中央部に検出されている。平面形は，長径72cm，短径57cmの楕円形を呈し，深さは35cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土，炭化粒子，ローム粒子等を含む明褐色土，にぶい赤褐色土，にぶい褐色土が堆積している。

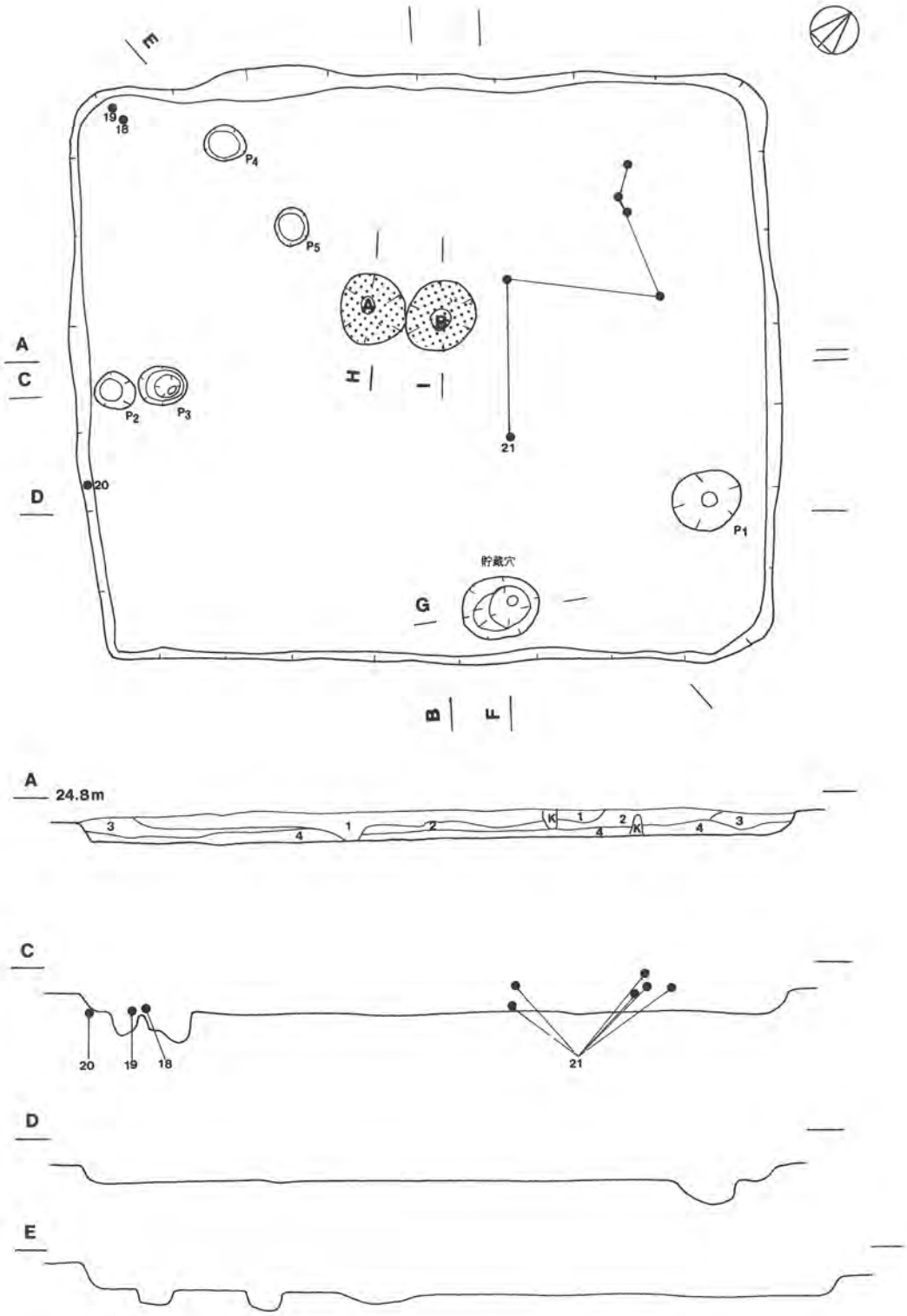
**覆土**　4層からなり，自然堆積である。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕1，坏2）・細片（368点），須恵器（甑1）・細片（5点）が出土している。その他，流れ込みと思われる石鏃が出土している。18の土師器の甕は，西コーナーの覆土中層から出土している。21の須恵器の甑は，中央部から北コーナーへかけての覆土上層から，破片の状態で出土している。

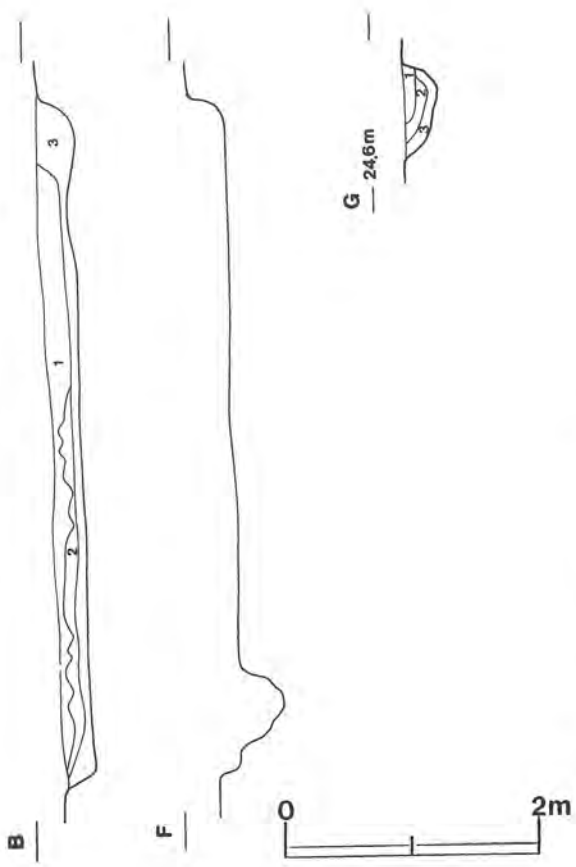
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

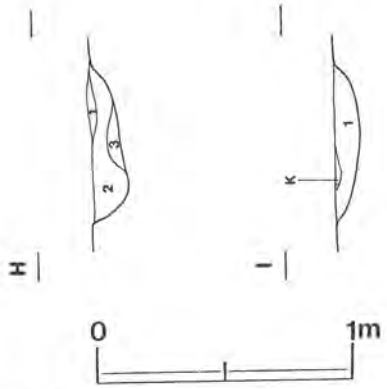
**第12号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第16図<br>18 | 甕<br>土師器 | A 17.5<br>B 13.0<br>C 6.5 | 口縁部の一部欠損。平底。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面及び底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P87　90%<br>西コーナー付近覆土中層<br>外面煤付着 |
| 19 | 坏<br>土師器 | A〔14.3〕<br>B 5.1 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石<br>赤褐色<br>普通 | P88　50%<br>西コーナー壁際覆土下層 |




第15図　第12号住居跡実測図




**第12号住居跡　土層解説**

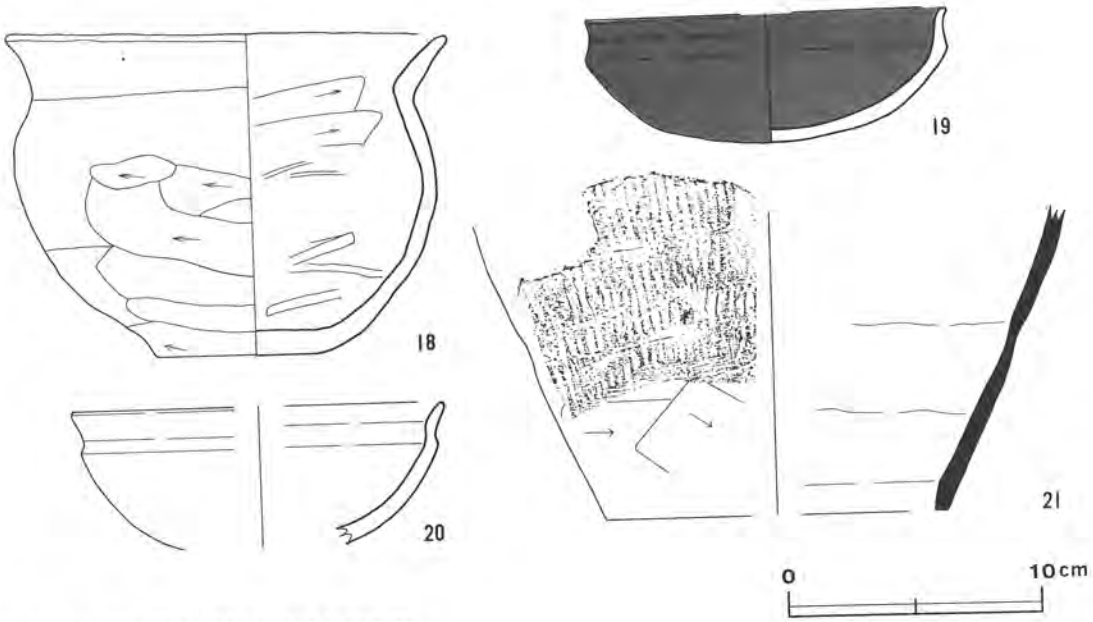
1　黒暗褐色　ローム粒子・黒色粒子少量。
2　黒 褐 色　ローム粒子中量。
3　　ローム粒子多量。
4　褐　　色　ローム粒子多量，ロームブロック・黒色土ブロック少量。

**第12号住居跡　貯蔵穴土層解説**

1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　明　褐　色　ローム小ブロック少量。
3　にぶい褐色　ローム粒子少量。

**第12号住居跡　炉A・B土層解説**

1　明赤褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量。
2　赤 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　明 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量。




第16図　第12号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 坏<br>土師器 | A〔14.7〕<br>B( 5.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面横位のヘラ削り後，ナデ。胴部内面横位ナデ。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P89　30%<br>南西壁際覆土下層 |
| 21 | 甑<br>須恵器 | B(12.1)<br>C〔13.6〕 | 底部から胴部にかけての破片。多孔式。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部の外面下位手持ちヘラ削り，中位平行叩き。胴部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P90　10%<br>中央部覆土上層 |

**第13号住居跡**（第17・18図）

**位置**　調査区の北端，E11h0区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸8.83m，短軸8.75mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－47°－W。

**壁**　壁高は59～72cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　北西壁下の一部を除いて回っている。上幅12～18cm，深さ5～18cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　14条（a～n）検出されている。南東壁付近に3条（a～c），南西壁付近に3条（d～f），北西壁付近に2条（g，h），北東壁付近に6条（i～n）検出され，長さ0.4～2.5m，上幅5～30cm，深さ7～16cmで，断面形は逆台形状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。南東壁中央部からやや南コーナー寄りに馬蹄形状の出入口部の高まりが検出され，その中央部に梯子ピット（$P_9$）が検出されている。出入口部の高まりと床との比高は4～8cmである。

**ピット**　18か所（$P_1$～$P_{18}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は径16～32cmのほぼ円形を呈し，深さ20～70cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は，長径46cm，短径29cmの楕円形を呈し，深さ26cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{10}$～$P_{15}$は壁柱穴と思われる。$P_{16}$～$P_{18}$は性格不明である。

**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径140cm，短径86cmの不整楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めた地床炉である。炉床はあまり焼けていない。

**貯蔵穴**　南東壁際に検出されている。平面形は長軸104cm，短軸68cmの隅丸長方形で，深さは73cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴内には，焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む暗褐色土，黒褐色土が堆積している。

**覆土**　12層からなっている。各層にはロームブロックが混入し，中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

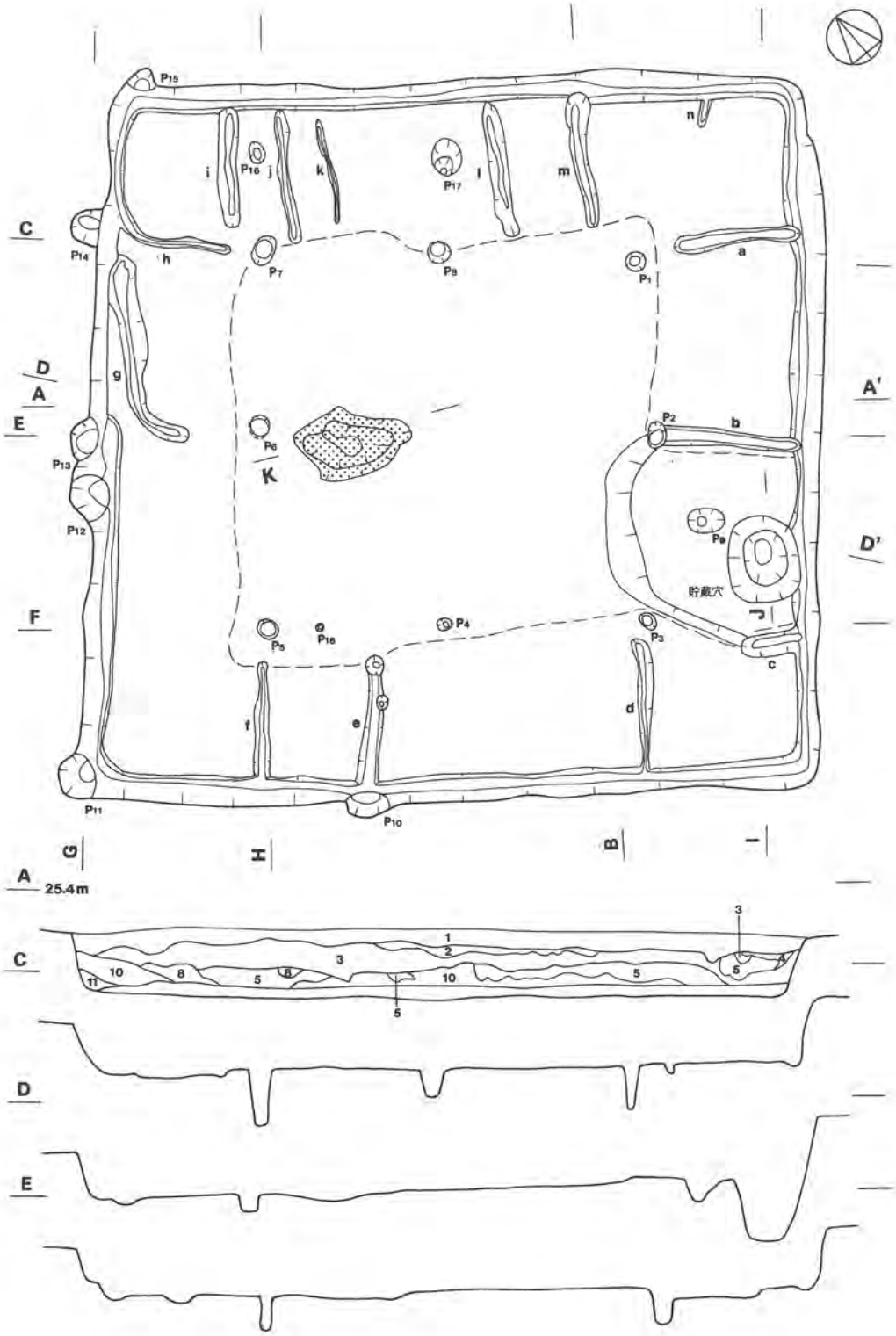
**遺物**　床面及び覆土の下層から中層にかけて，土師器（甕1，坏17，鉢1）・細片（2035点），須恵器（甑1）・細片（6点）が出土し，石製品，土製品も出土している。南西壁際の床面から

は多量の炭化材（材質は，大部分がクヌギの一種で，タケ・ササ類が少量）が出土している。40の土師器の鉢は，南コーナー付近の覆土下層から，散らばった状態で出土している。32～34の土師器の坏は，南東壁際の覆土の中層から，横位の状態で出土している。46～53の臼玉は，南西壁付近の床面から出土している。

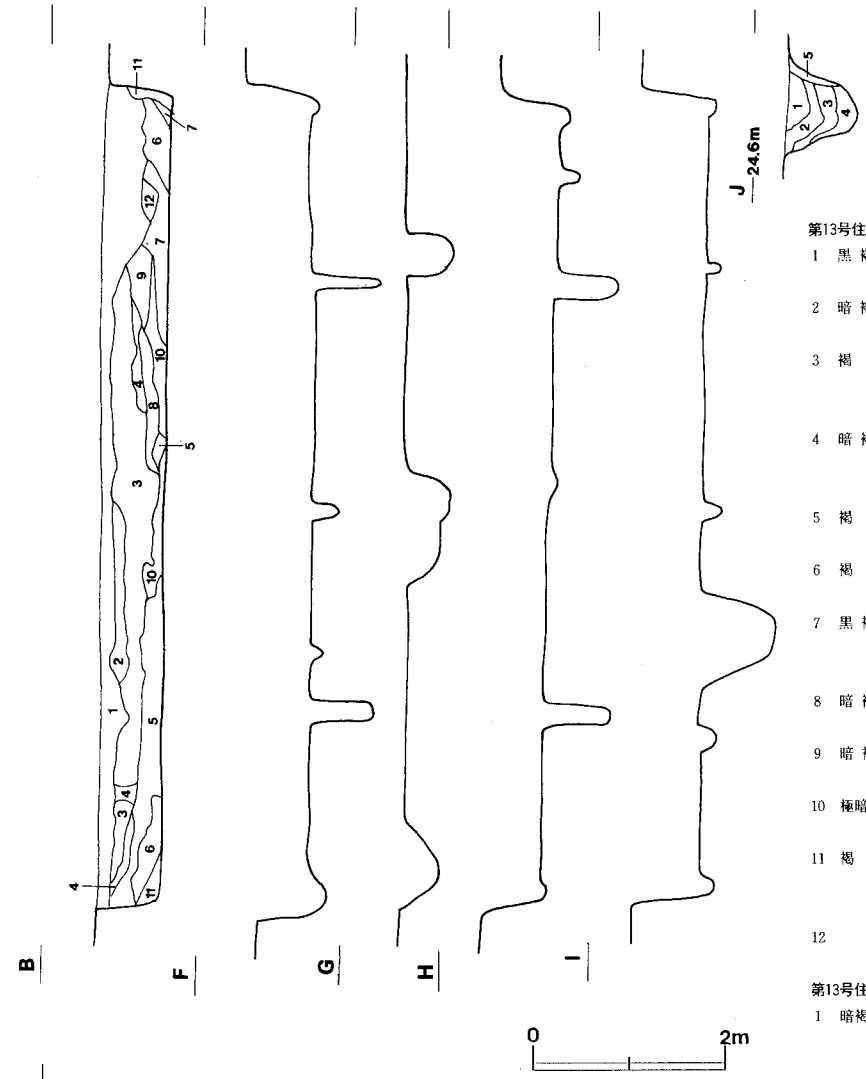
**所見**　本跡は，床面から多量の炭化材が出土し，覆土下層から焼土が出土していること等から焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

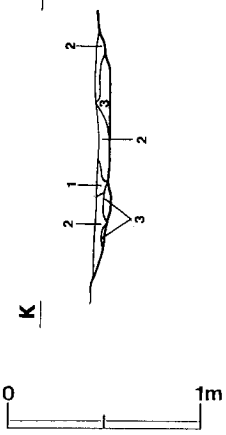
### 第13号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19・20図<br>22 | 甕<br>土師器 | A〔16.3〕<br>B( 5.5) | 口縁部片。口縁部は外反し，中位に強い稜をもつ。 | 口縁部外面横ナデ。口縁部内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P91　5％<br>南東壁付近覆土下層 |
| 23 | 坏<br>土師器 | A 14.7<br>B 6.3<br>C 4.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部及び体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P92　100％<br>南コーナー付近覆土中層 |
| 24 | 坏<br>土師器 | A 15.3<br>B 5.7<br>C 3.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部及び体部内・外面ナデ。体部下端及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P93　100％<br>南コーナー付近覆土上層<br>線刻「∧∧」 |
| 25 | 坏<br>土師器 | A〔14.7〕<br>B 4.6<br>C 2.3 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部及び体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P94　90％<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 26 | 坏<br>土師器 | A 14.3<br>B 5.3 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。底部外面手持ちヘラ削り。底部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P95　80％<br>南西壁付近覆土下層 |
| 27 | 坏<br>土師器 | A 13.2<br>B 5.7 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P96　75％<br>南東壁付近覆土下層 |
| 28 | 坏<br>土師器 | B( 3.8)<br>C 4.8 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内面ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P97　40％<br>南東壁付近覆土上層 |
| 29 | 坏<br>土師器 | B( 3.5)<br>C 4.5 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部下位及び底部ヘラナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P98　50％<br>南東壁付近覆土下層 |
| 30 | 坏<br>土師器 | B( 2.8) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面及び底部ヘラ削り。体部内面ナデ。内面赤彩。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P99　40％<br>南東壁際覆土下層 |
| 31 | 坏<br>土師器 | B( 4.0)<br>C 4.6 | 底部から体部にかけての破片。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部下位及び底部手持ちヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P100　50％<br>北コーナー付近覆土下層 |




第17図　第13号住居跡実測図




**第13号住居跡　土層解説**

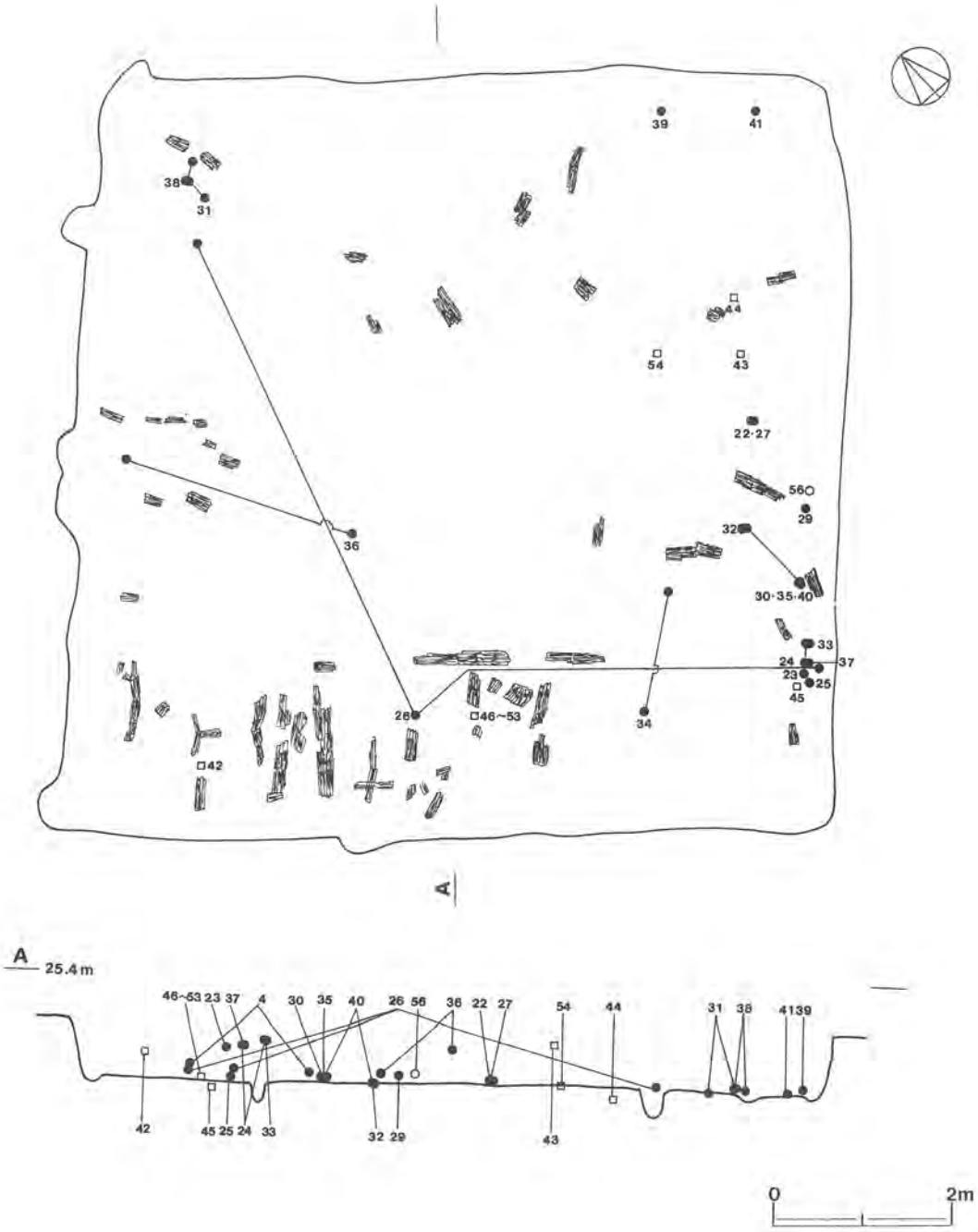
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・ローム小ブロック少量。
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　　色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土ブロック少量。
4　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・黒色土ブロック少量。
5　褐　　色　ローム中ブロック・黒色土小ブロック少量。
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
7　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量。
8　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
9　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量。
10　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子・黒色粒子少量。
11　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
12　　ロームブロック少量。

**第13号住居跡　貯蔵穴土層解説**

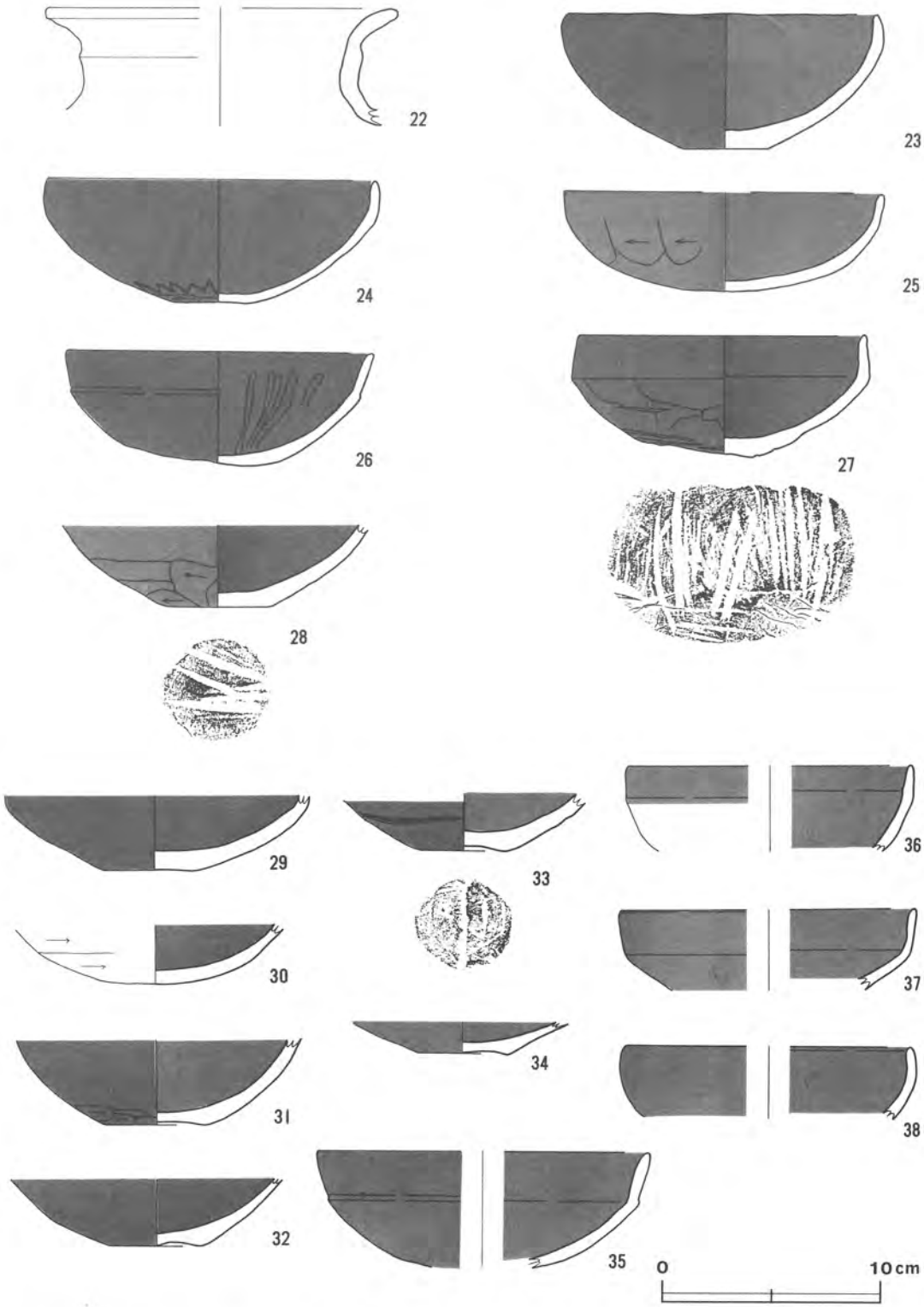
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

**第13号住居跡　炉土層解説**

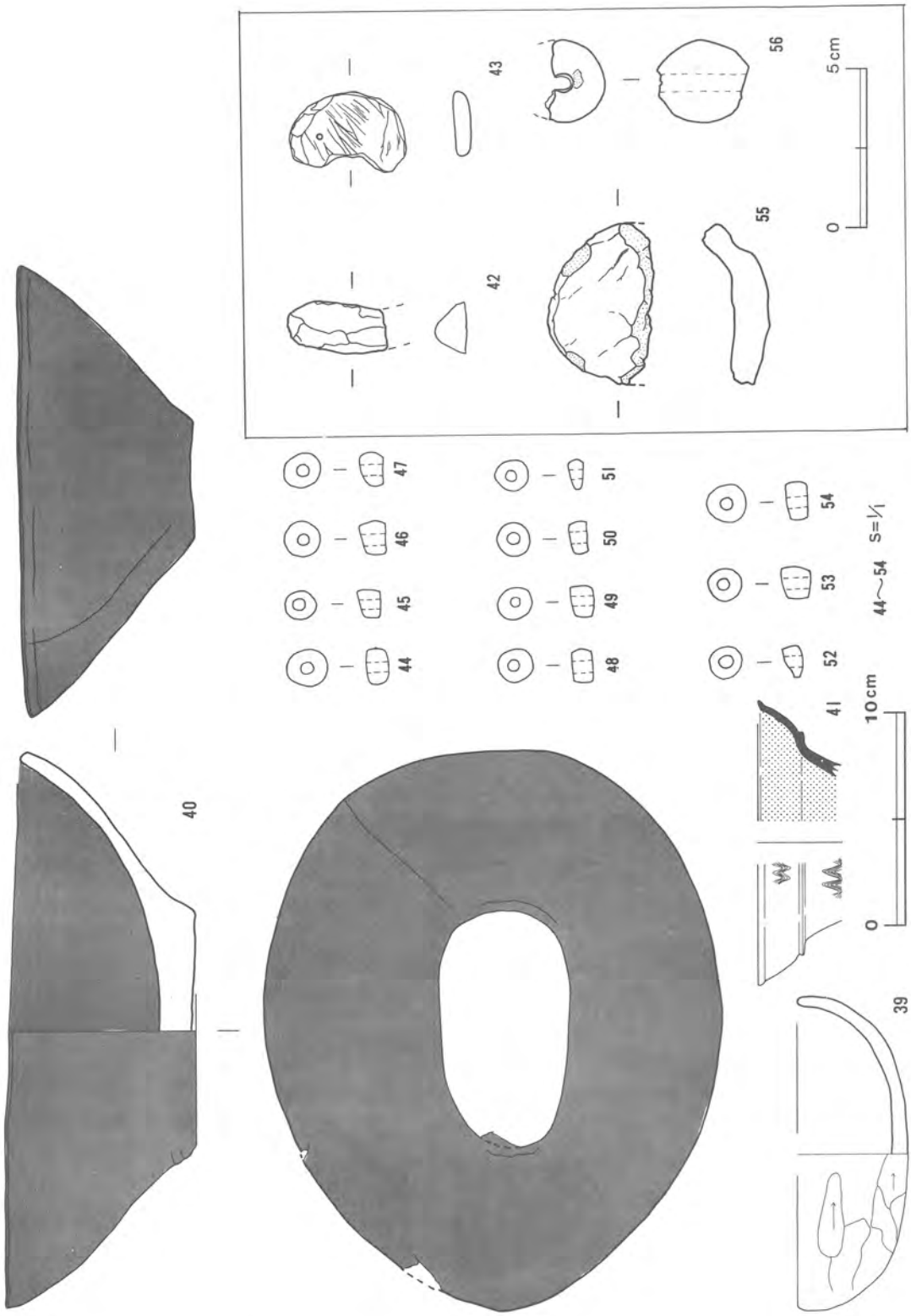
1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。




第18図　第13号住居跡出土遺物位置図




第19図　第13号住居跡出土遺物実測図(1)




第20図　第13号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 坏<br>土師器 | B( 3.2)<br>C 4.4 | 底部から体部にかけての破片。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部下位及び底部手持ちヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P101 50%<br>南東壁際覆土中層 |
| 33 | 坏<br>土師器 | B( 2.7)<br>C 4.0 | 底部から体部にかけての破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英<br>赤色<br>普通 | P102 40%<br>南東壁際覆土中層<br>底部に研ぎ痕 |
| 34 | 坏<br>土師器 | B( 1.5)<br>C 4.3 | 底部から体部にかけての破片。上げ底。体部は僅かに内彎しながら立ち上がる。 | 体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P103 20%<br>南東壁際覆土中層 |
| 35 | 坏<br>土師器 | A〔15.5〕<br>B( 5.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P104 20%<br>南東壁付近覆土上層 |
| 36 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B( 4.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，内面の体部と口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P105 10%<br>南東及び北西壁付近覆土中層 |
| 37 | 坏<br>土師器 | A〔13.8〕<br>B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに外傾し，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P106 10%<br>南東壁付近覆土上層 |
| 38 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B( 3.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P107 10%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 39 | 坏<br>土師器 | A〔14.9〕<br>B 5.2 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P108 20%<br>北東壁付近覆土下層 |
| 40 | 鉢<br>土師器 | A 26.2<br>B 9.0<br>C 11.1 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底で長楕円形を呈する。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇部の平面形は舟形状である。 | 口縁部ナデ。体部内・外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P109 90%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 41 | 甕<br>須恵器 | A〔13.5〕<br>B( 3.9) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，中位で強い稜をなした後，内彎して外上方に開く。稜の下方に4条，上方に5条の櫛描波状文。端部は内傾する凹面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 長石・小礫<br>灰色<br>良好 | P110 10%<br>北東コーナー付近覆土下層<br>内面自然釉 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 42 | 不明石製品 | 3.2 | 1.7 | 1.0 | --- | 5.8 | 100 | 西コーナー付近覆土中層 | Q3 頁岩 |
| 43 | 石製模造品勾玉 | 3.6 | 2.5 | 0.6 | 2.0 | 6.6 | 100 | 南東壁付近覆土上層 | Q4 滑石 |
| 44 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南東壁付近覆土下層 | Q5 滑石 |
| 45 | 臼玉 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南コーナー付近床面 | Q6 滑石 |
| 46 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q7 滑石 |
| 47 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q8 滑石 |
| 48 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q9 滑石 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 49 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q10　滑石 |
| 50 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q11　滑石 |
| 51 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q12　滑石 |
| 52 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q13　滑石 |
| 53 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.5 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁覆土床面 | Q14　滑石 |
| 54 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q15　滑石 |
| 55 | 不明土製品 | (5.1) | (3.3) | 1.1 | --- | (19.3) | 50 | 南東壁付近覆土中層 | DP2 |
| 56 | 球状土錘 | (2.9) | 2.7 | --- | 6.0 | (9.0) | 70 | 南東壁際覆土下層 | DP3 |

**第14号住居跡**（第21図）

**位置**　調査区の北端，E12f$_4$区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.81m，短軸3.08mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－40°－E。

**壁**　壁高は31～36cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　凹凸があるが，中央部は硬く締まっている。

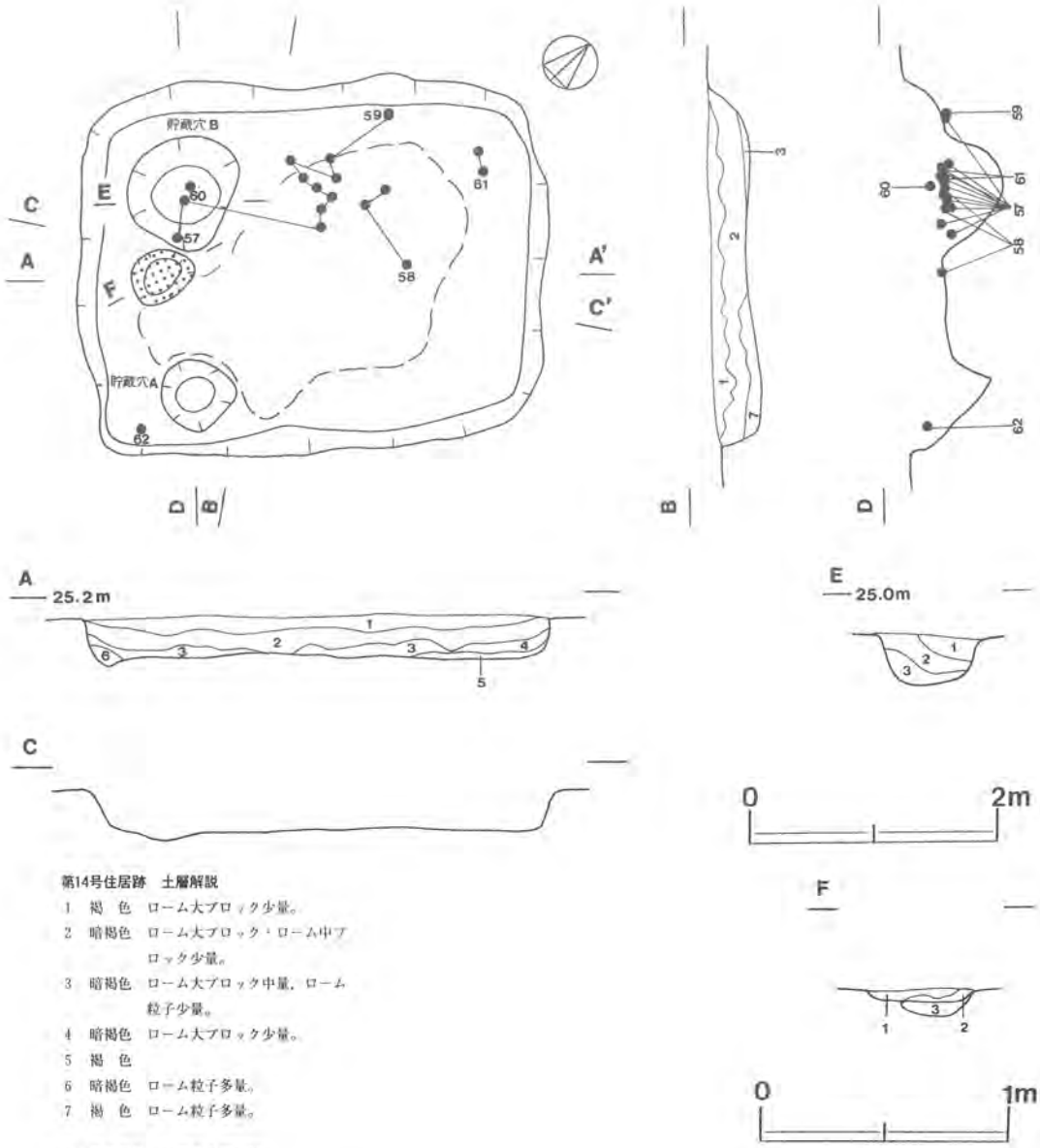
**炉**　中央から南西よりに検出されている。平面形は長径48cm，短径43cmの不整楕円形を呈し，床面を約6cm掘り窪めた地床炉である。炉内には焼土が多く堆積し，炉床は，厚さ6cm程赤く焼けているので，比較的長期にわたり使用されたものと考えられる。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナーから検出されている。平面形は，長径61cm，短径59cmの不整円形を呈し，深さは33cm，底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴Bは，西コーナーから検出されている。平面形は長径93cm，短径81cmの不整楕円形で，深さは48cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム粒子やローム小・中ブロックを少量含む黒褐色土，暗褐色土，極暗褐色土がほぼレンズ状に堆積している。

**覆土**　7層からなり，自然堆積である。

**遺物**　床面及び覆土下層から，土師器（甕2，坏4）・細片（909点）が出土している。57の土師器の甕は，破片が貯蔵穴Bの覆土中層及び底面から出土している。59の土師器の坏は，北コーナー付近の床面から，正位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




**第14号住居跡　土層解説**

1　褐　色　ローム大ブロック少量。
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック少量。
3　暗褐色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量。
4　暗褐色　ローム大ブロック少量。
5　褐　色
6　暗褐色　ローム粒子多量。
7　褐　色　ローム粒子多量。

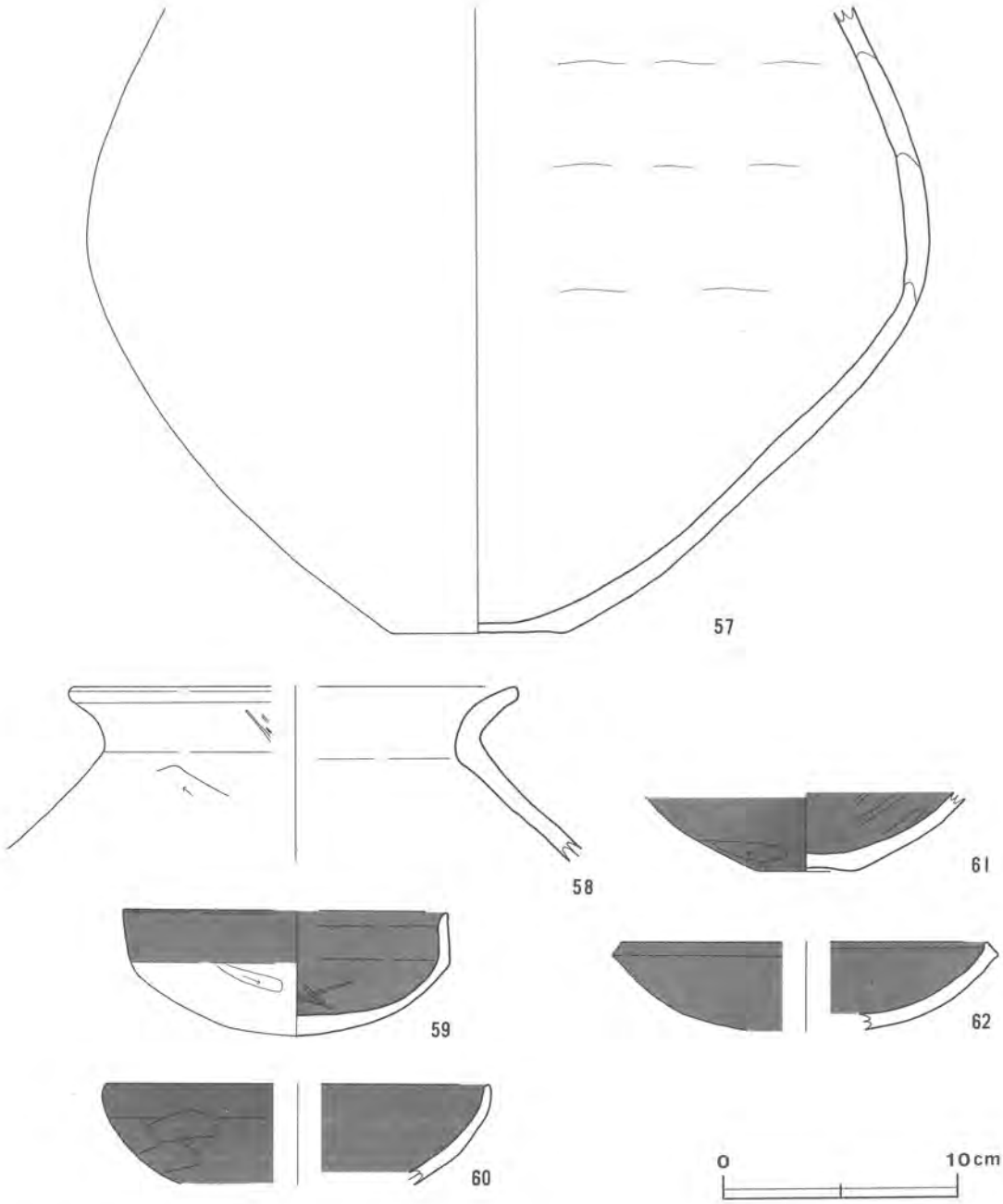
**第14号住居跡　貯蔵穴土層解説**

1　黒 褐 色　ローム粒子少量。
2　暗　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　極暗褐色　ローム小ブロック少量。

**第14号住居跡　炉土層解説**

1　橙　色　焼土粒子・黒色小ブロック・焼土中ブロック少量。
2　赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量。
3　赤　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量。

第21図　第14号住居跡実測図




第22図　第14号住居跡出土遺物実測図

## 第14号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図<br>57 | 甕<br>土 師 器 | B(26.9)<br>C　7.4 | 口縁部欠損。平底。胴部は大きく内彎しながら立ち上がる。 | 胴部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>明黄褐色<br>普通 | P 111　　60%<br><br>貯蔵穴B覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 甕<br>土師器 | A〔19.4〕<br>B( 7.5) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は外反する。 | 口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部外面ヘラ削り。胴部内面ヘラアテ後，一部ヘラ磨き。 | 石英・長石<br>にぶい黄橙色<br>良好 | P112　15%<br>中央部覆土下層 |
| 59 | 坏<br>土師器 | A〔13.8〕<br>B　5.4 | 体部から口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>良好 | P114　70%<br>北コーナー付近床面 |
| 60 | 坏<br>土師器 | A〔16.7〕<br>B( 4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P115　10%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 61 | 坏<br>土師器 | B( 3.4)<br>C　4.0 | 底部から体部にかけての破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P116　25%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 62 | 坏<br>土師器 | A〔15.6〕<br>B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口唇部を内上方につまみ出す。 | 口縁部内面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P117　20%<br>南コーナー壁際覆土中層 |

**第15号住居跡**（第23図）

**位置**　調査区の北部，F11a6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.65m，短軸2.72mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－42°－E。

**壁**　壁高は24～32cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　やや南東に傾斜し，床面はやや凹凸があるが，比較的軟らかい。

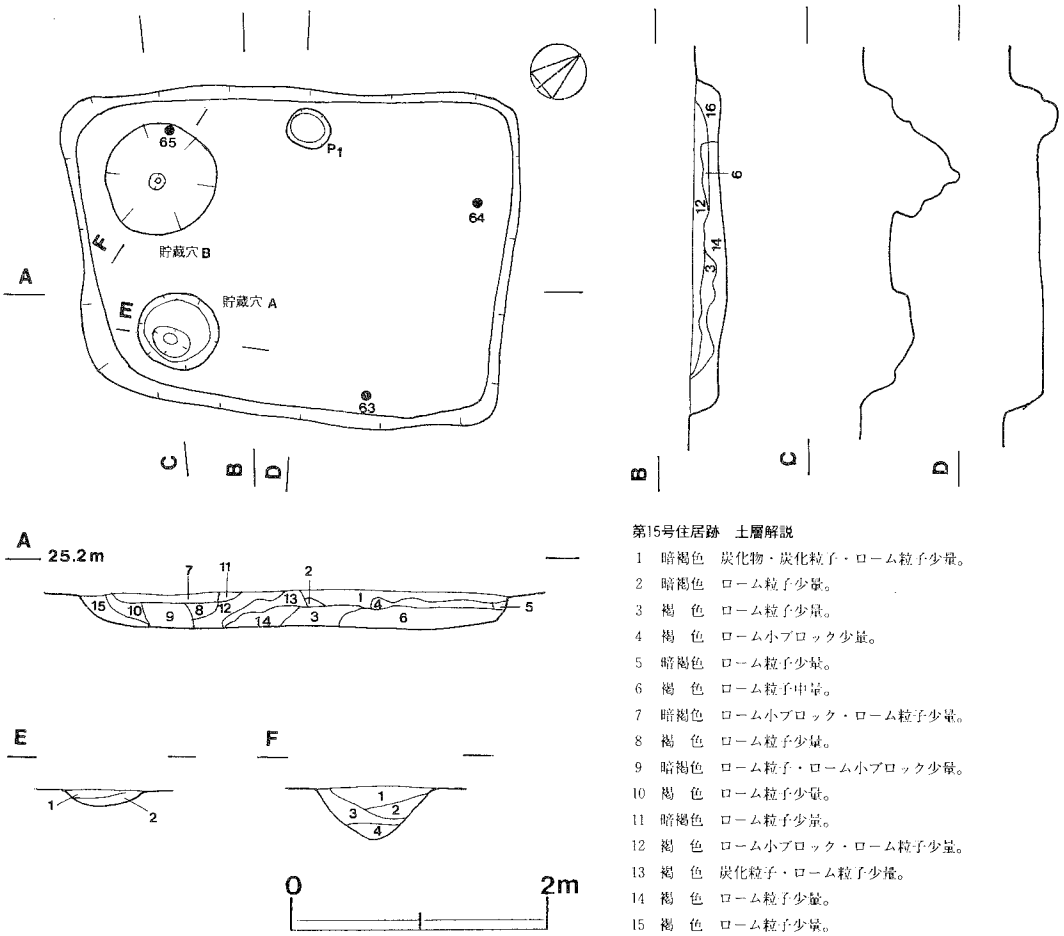
**ピット**　1か所（$P_1$）検出されている。$P_1$は，長径36cm，短径31cmの楕円形を呈し，深さ15cmで出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナーから検出されている。平面形は，長径67cm，短径63cmの円形で，深さは16cmである。底面は凹凸があり，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームの小ブロックとローム粒子を少量含む暗褐色土が堆積している。貯蔵穴Bは，西コーナーから検出されている。平面形は，長径96cm，短径88cmの不整円形で，深さは56cmである。底面は凹凸があり，南東壁は内傾し，その他の壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームの小ブロックとローム粒子を少量含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

**覆土**　16層からなる。各層にローム粒子やローム小ブロックが混入しており人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甑1，甕1）・細片（96点），須恵器（甕1）・細片（6点）が少量出土している。63の土師器の甑は，北東壁際の覆土中層から破片の状態で出土している。64の土師器の甕は，北西壁際の覆土上層から，正位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第15号住居跡　土層解説

1　暗褐色　炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム小ブロック少量。
5　暗褐色　ローム粒子少量。
6　褐　色　ローム粒子中量。
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
8　褐　色　ローム粒子少量。
9　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量。
10　褐　色　ローム粒子少量。
11　暗褐色　ローム粒子少量。
12　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
13　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量。
14　褐　色　ローム粒子少量。
15　褐　色　ローム粒子少量。
16　褐　色　ローム粒子中量。

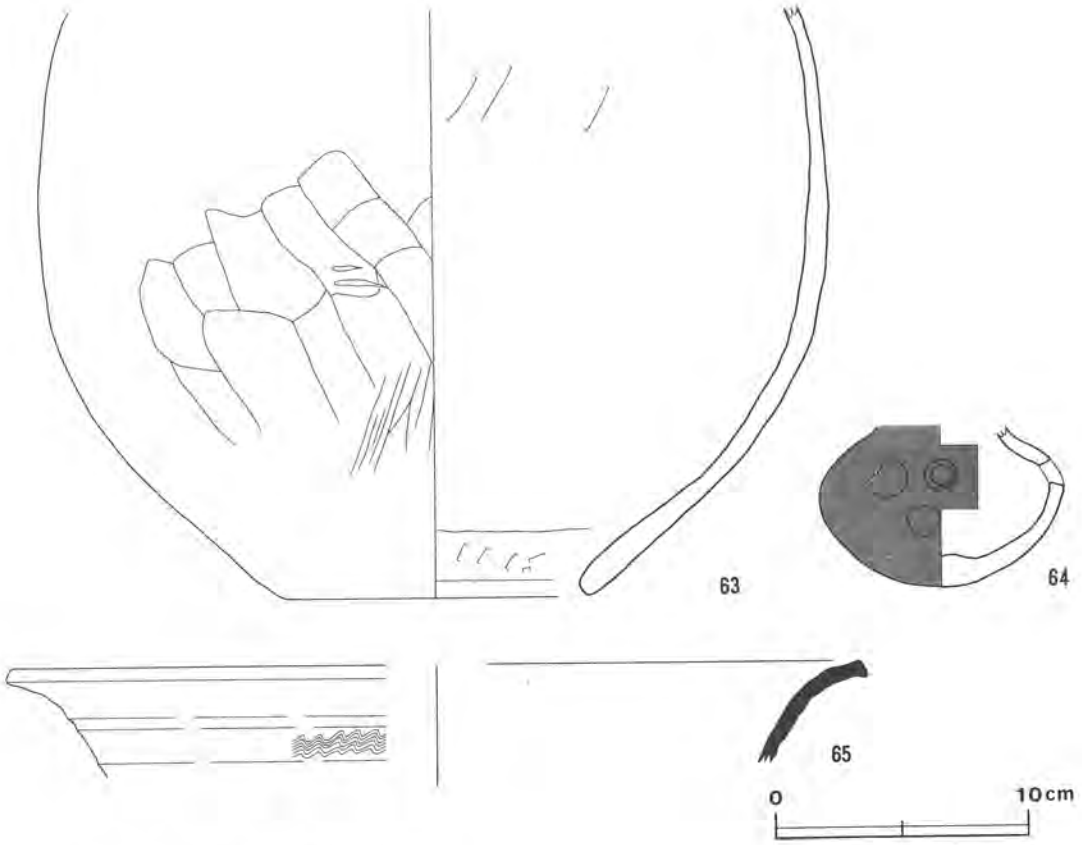
第15号住居跡　貯蔵穴A・B土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・黒色土ブロック少量。
2　暗褐色　ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック。
4　褐　色　黒色粒子少量。

## 第23図　第15号住居跡実測図

## 第15号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>63 | 甕<br>土師器 | B(23.4)<br>C 12.0 | 胴部片。無底式。胴部は球状に内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。胴部内面ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>褐色<br>普通 | P 118　40%<br>北東壁際覆土中層<br>外面煤付着 |
| 64 | 甕<br>土師器 | B( 6.3) | 口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔を穿つ。 | 体部外面ナデ。体部内面下位ヘラナデ。体部外面下位及び底部ヘラナデ後，ナデ。外面赤彩。 | 砂粒・雲母・小礫<br>赤褐色<br>良好 | P 119　70%<br>北西壁際覆土上層 |
| 65 | 甕<br>須恵器 | A〔33.8〕<br>B( 4.0) | 口縁部片。口縁部は大きく外反し，5条の櫛描波状文をもつ。口縁部は外反する。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>黒褐色<br>良好 | P 120　5%<br>南東壁際覆土中層 |




第24図　第15号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡（第25図）

**位置**　調査区の北部，F 11e₀区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸4.14m，短軸3.39mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－43°－E。

**壁**　壁高は12～17cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は，硬く踏み固められている。北西壁のほぼ中央付近には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりがあり，その中央には梯子ピット（$P_1$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は，約4cmである。

**ピット**　2か所（$P_1$，$P_2$）検出されている。$P_1$は長径33cm，短径25cmの楕円形を呈し，深さ13cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_2$の性格は不明である。

**炉**　中央から南西寄りに検出されている。平面形は長径68cm，短径48cmの楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めた地床炉で，炉内からは，灰や灰ブロックが少量出土し，炉床は約5cmの厚さに赤変硬化している。

**貯蔵穴**　3基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナーから検出されている。平面形は，径約98cmの円形を呈し，深さは62cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム粒子やロームの中ブロックを含む暗褐色土，褐色土が堆積している。貯蔵穴Bは，西コーナーから検出されている。平面形は，長径98cm，短径97cmの円形を呈し，深さは50cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームブロック等を含む褐色土が堆積している。貯蔵穴Cは北コーナーから検出されている。平面形は，長径70cm，短径56cmの楕円形を呈し，深さは24cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム粒子を少量含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

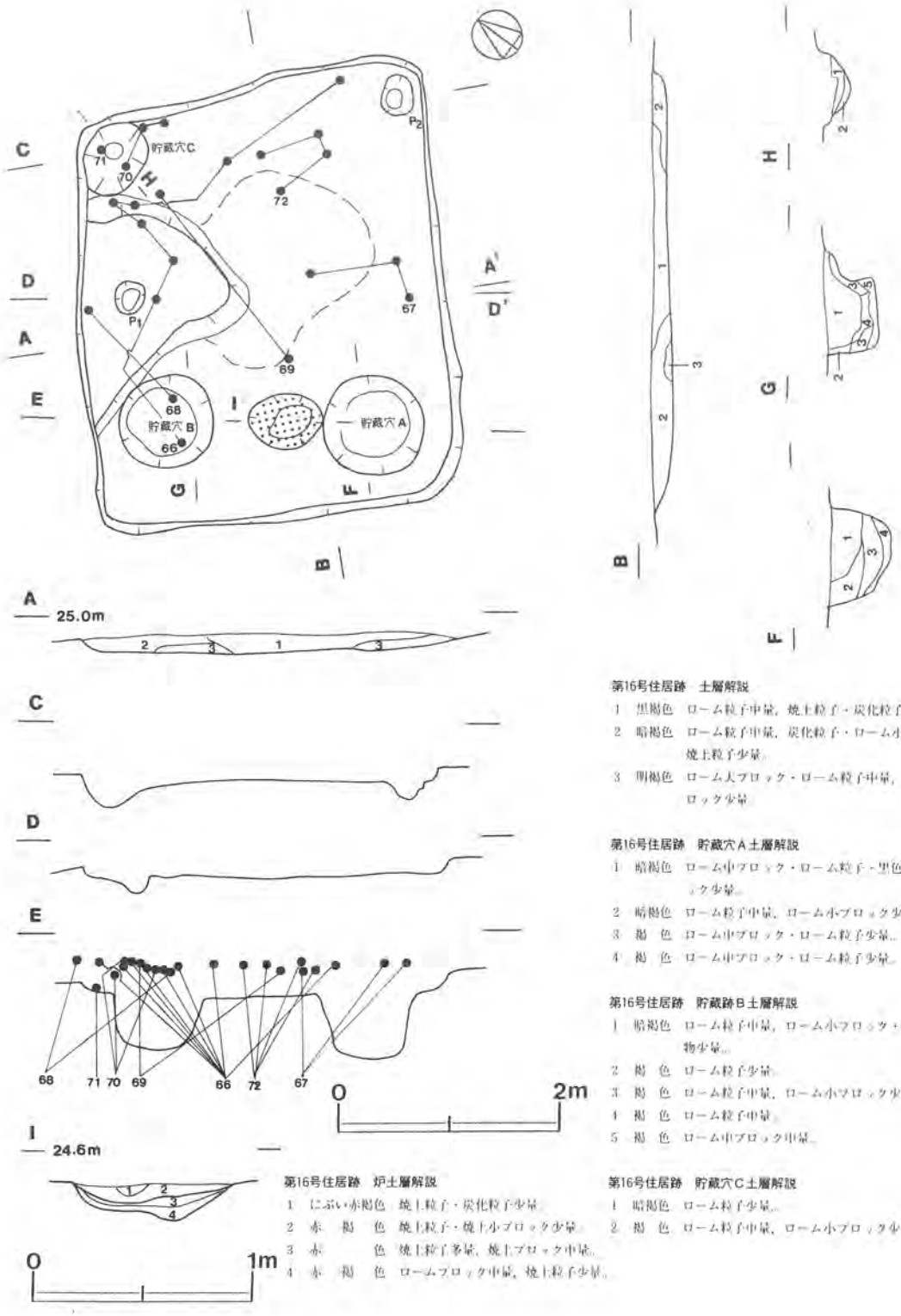
**覆土**　3層からなり，自然堆積である。

**遺物**　覆土の上層から，土師器（甕4，坏1，埦1，甑1）・細片（1029点），須恵器の細片（8点）が出土している。66の土師器の甕は，北コーナー付近の覆土下層から，破片の状態で出土している。70の土師器の坏は，北コーナー付近の覆土下層から，正位の状態で出土している。73の須恵器の甕は，貯蔵穴Bの覆土から破片の状態で出土し，第15号住居跡の覆土から出土した破片と接合されている。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第16号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26・27図<br>66 | 甕<br>土師器 | A 18.0<br>B(27.1) | 底部欠損。胴部はほぼ球状に内彎し，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P121　40%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 67 | 甕<br>土師器 | B( 4.8)<br>C 8.2 | 底部から胴部にかけての破片。上げ底で突出する。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部及び底部下端ヘラ削り後，ナデ。底部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P122　10%<br>南東壁付近覆土上層 |
| 68 | 甕<br>土師器 | A〔19.0〕<br>B( 6.6) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面及び頸部内面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P123　10%<br>北西壁付近覆土上層 |
| 69 | 甕<br>土師器 | A〔20.4〕<br>B( 6.7) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。頸部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P124　10%<br>中央部覆土上層 |
| 70 | 埦<br>土師器 | A〔14.4〕<br>B 6.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。体部内面と口縁部との境に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部下位ヘラ磨き，上位ヘラ削り。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P125　40%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 71 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部との境に弱い稜をもち，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>良好 | P126　15%<br>北コーナー壁際覆土下層 |
| 72 | 甑<br>土師器 | A 9.0<br>B( 4.2) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，中位に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P127　40%<br>北東壁付近覆土上層 |




第16号住居跡　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量。
3　明褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

第16号住居跡　貯蔵穴A土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・黒色ブロック少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。

第16号住居跡　貯蔵跡B土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量。
2　褐　色　ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
4　褐　色　ローム粒子中量。
5　褐　色　ローム中ブロック中量。

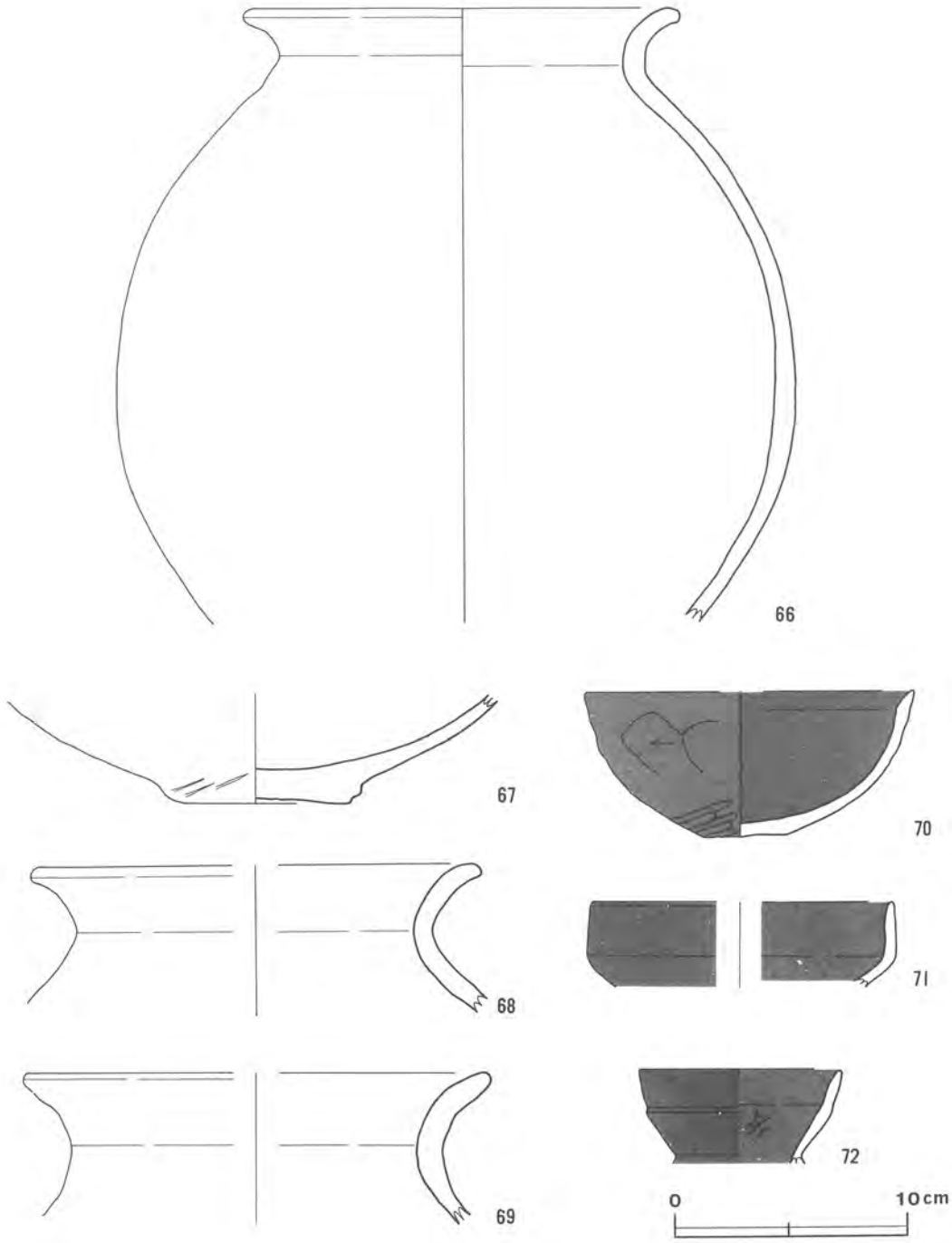
第16号住居跡　貯蔵穴C土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

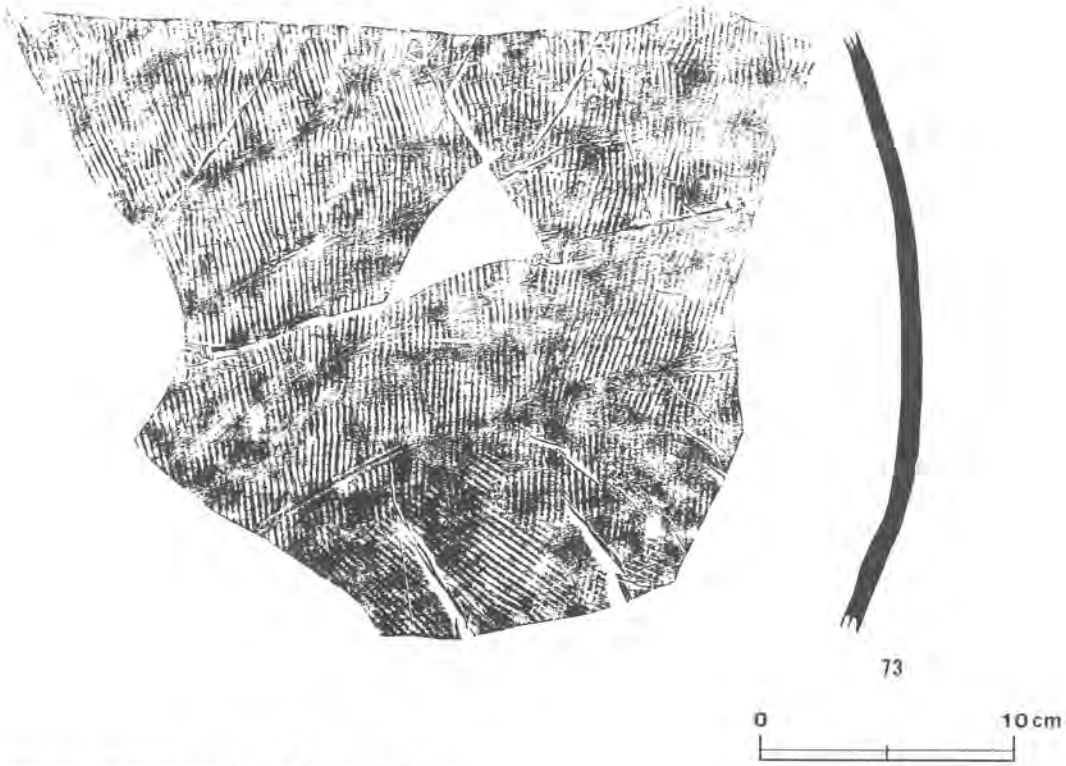
第16号住居跡　炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量。
2　赤　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック少量。
3　赤　　色　焼土粒子多量，焼土ブロック中量。
4　赤　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量。

第25図　第16号住居跡実測図




第26図　第16号住居跡出土遺物実測図(1)




第27図　第16号住居跡出土遺物拓影図(2)

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き，指ナデ痕。内面円形叩きアテ具痕。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | TP9　5%<br>貯蔵穴B覆土，及びS1-15覆土<br>外面自然釉 |

第17号住居跡（第28図）

**位置**　調査区の北部，F11e$_4$区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.35m，短軸2.25mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－46°－W。

**壁**　壁高は11～12cmで，外傾して立ち上がっている。

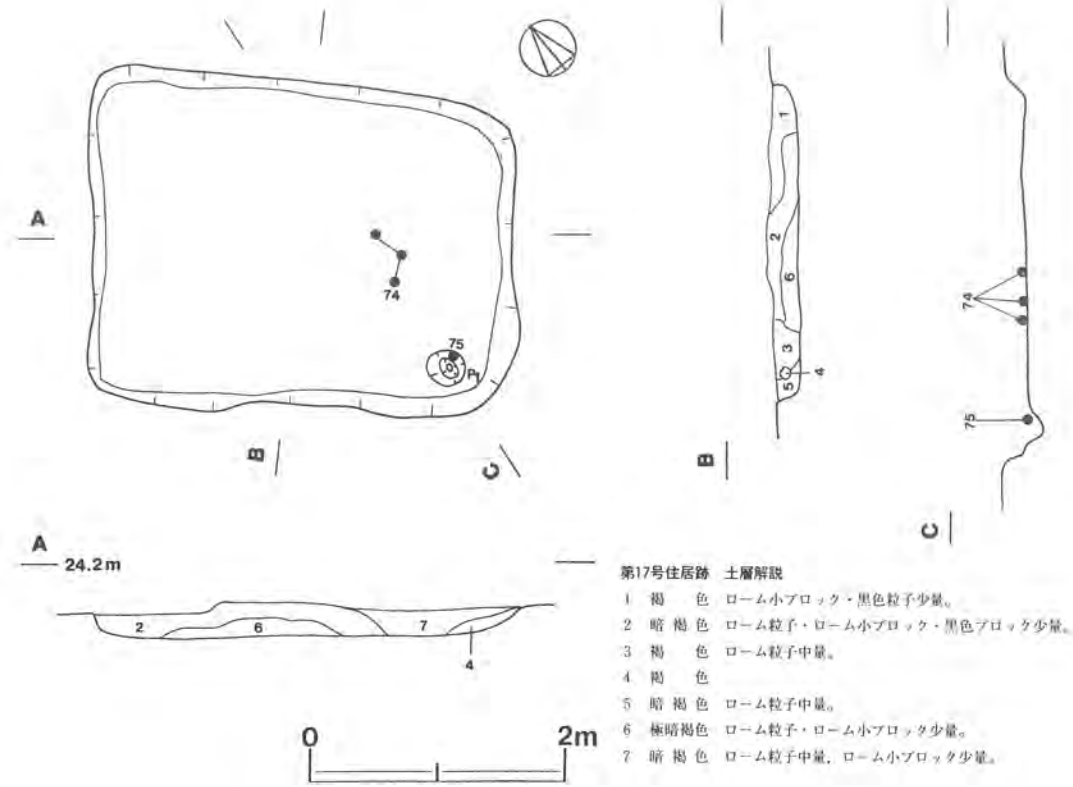
**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**ピット**　P$_1$は，長径26cm，短径23cmの楕円形を呈し，深さ10cmで，性格は不明である。

**覆土**　7層からなっているが，各層にロームの粒子や小ブロックが混入していることから人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕1，壺1）・細片（118点）が少量出土している。75の土師器の壺は，南コーナー付近の床面から出土している。

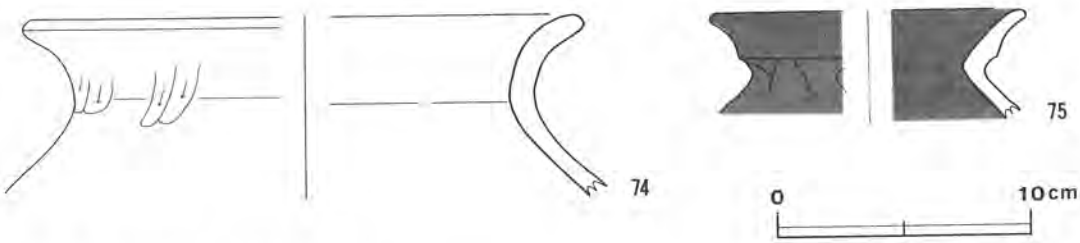
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第28図　第17号住居跡実測図

## 第17号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図<br>74 | 甕<br>土 師 器 | A〔21.4〕<br>B( 7.3) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P128　10%<br>中央部覆土下層 |
| 75 | 壺<br>土 師 器 | A〔12.5〕<br>B( 4.4) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状を呈する。口縁部は外反し，中位に強い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P129　5%<br>南コーナー付近床面 |




第29図　第17号住居跡出土遺物実測図

**第18号住居跡**（第30・31図）

**位置**　調査区の北部，G11a1区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の南東部は，第19号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸8.90m，短軸8.70mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－52°－W。

**壁**　壁高は34～58cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅15～21cm，深さ2～8cmで，断面形は，「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　13条（a～m）検出されている。南東壁付近に5条（a～e），南西壁付近に3条（f～h），北西壁付近に2条（i，j），北東壁付近に3条（k～m）検出され，長さ0.9～2.0m，上幅10～24cm，深さ5～11cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。南東壁のやや南コーナー寄りに出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりがあり，その北東部に梯子ピット（$P_9$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約6cmである。

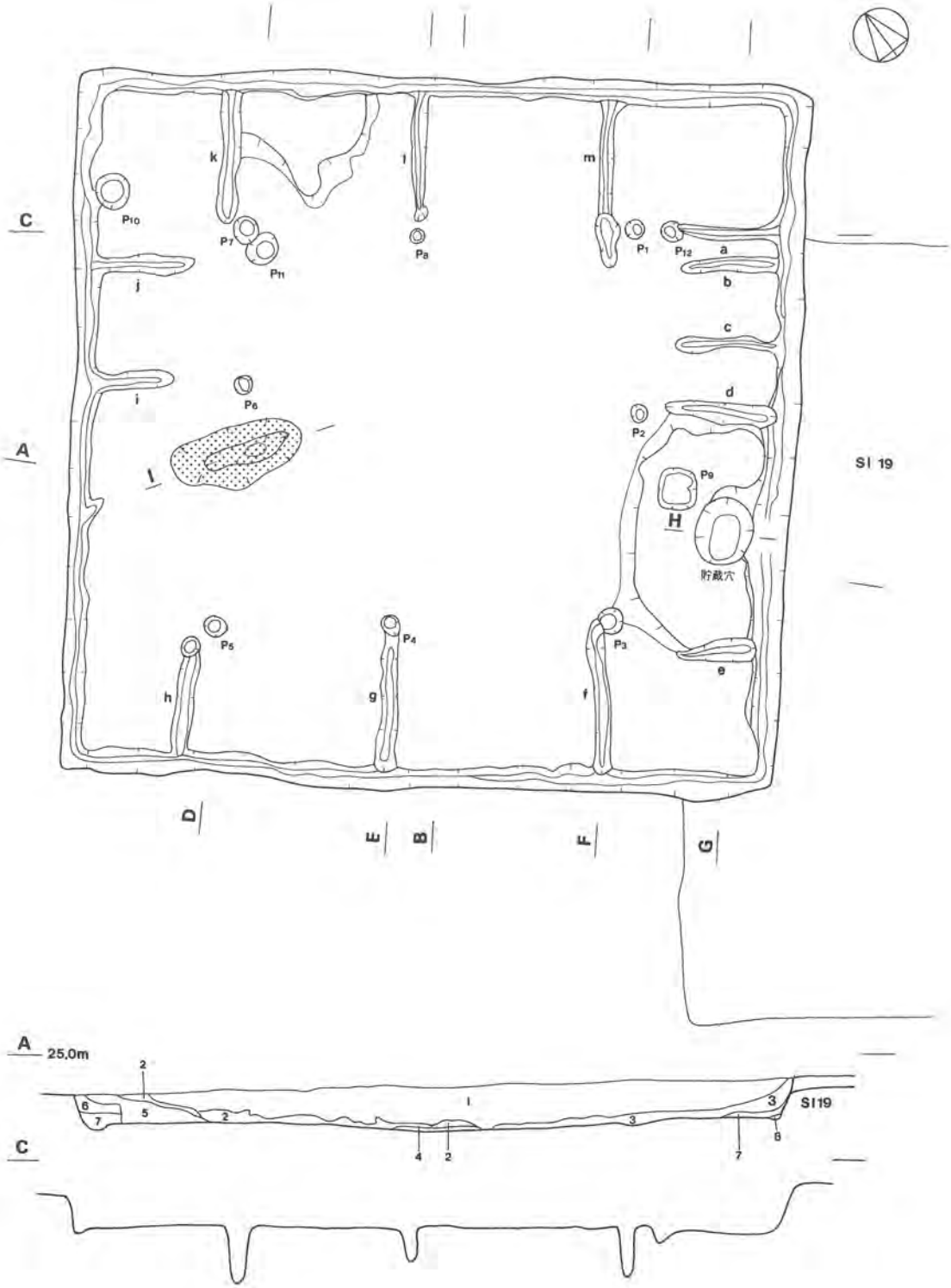
**ピット**　12か所（$P_1$～$P_{12}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径17～33cmのほぼ円形を呈し，深さ30～70cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は，長軸50cm，短軸47cmの不整方形を呈し，深さ18cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{10}$～$P_{12}$の性格は不明である。

**炉**　中央から北西寄りの$P_5$と$P_6$の主柱穴間に検出されている。平面形は長径162cm，短径75cmの不整楕円形を呈し，床面を約10cm掘り窪めた地床炉である。炉床は暗赤褐色に焼けている。

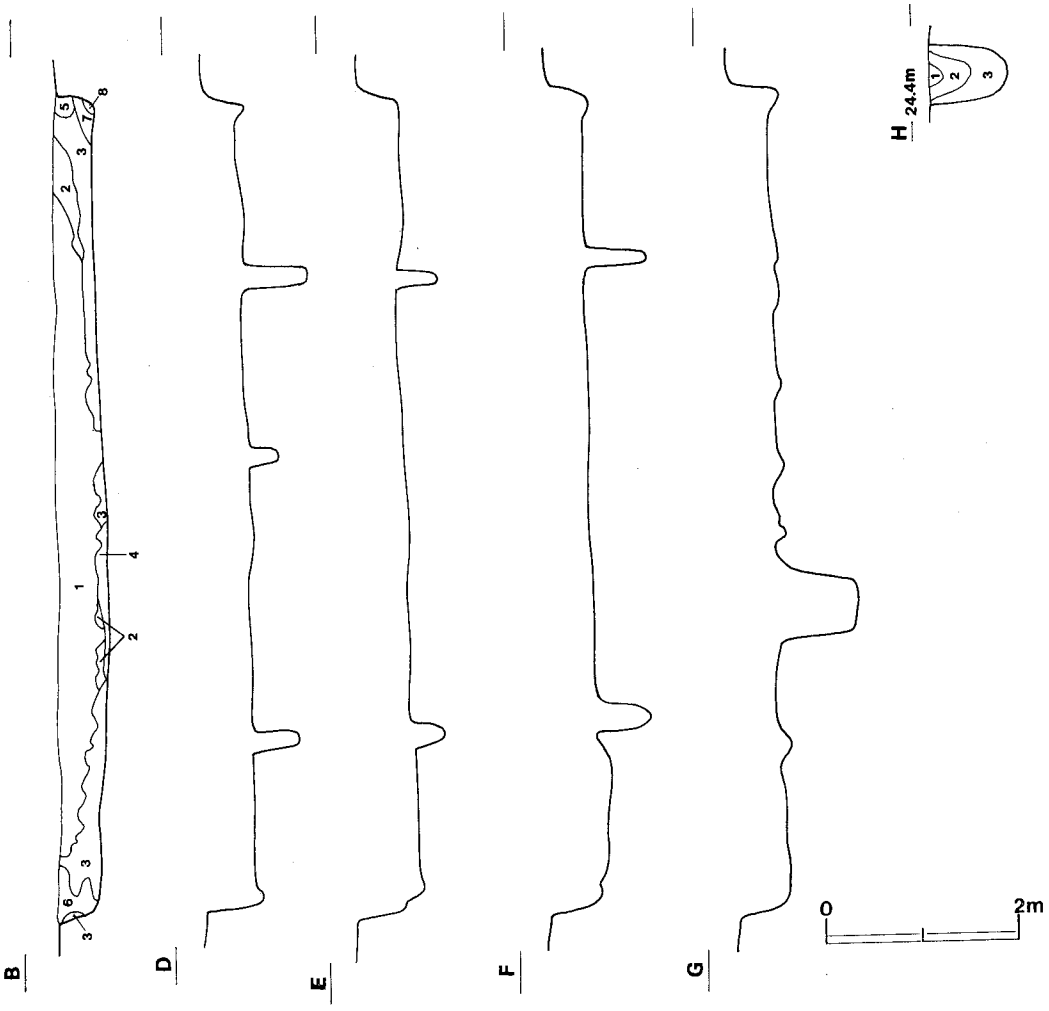
**貯蔵穴**　南東壁際のやや南コーナー寄りから検出されている。平面形は，長径84cm，短径73cmの楕円形を呈し，深さは78cmである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム粒子を含む褐色土，暗褐色土が堆積している。

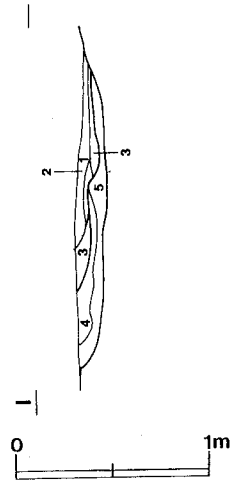
**覆土**　8層からなっているが，各層にはロームブロックが混入し，中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層や中層から，土師器（甕3，坏3，小形壺1，甑1）・細片（1927点），須恵器（甕1，坏身1，坏蓋2，甑2）・細片（2点）が多量に出土し，石製品，土製品，鉄製品も出土し，南西壁沿いと北コーナー付近の床面から多量の炭化材が出土している。81の土師器の坏は，北コーナー付近の覆土下層から出土している。85の須恵器の甑は，東コーナー付近の覆土中層から横位の状態で出土している。95と96の石製模造品の勾玉は，95が南西壁付近の覆土下層から，96が南コーナー付近の覆土下層から出土している。93の紡錘車は北東壁付近の覆土下層から，99の刀子は南西壁付近の覆土中層から，97のガラス玉は北コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。




第30図　第18号住居跡実測図




**第18号住居跡　土層解説**

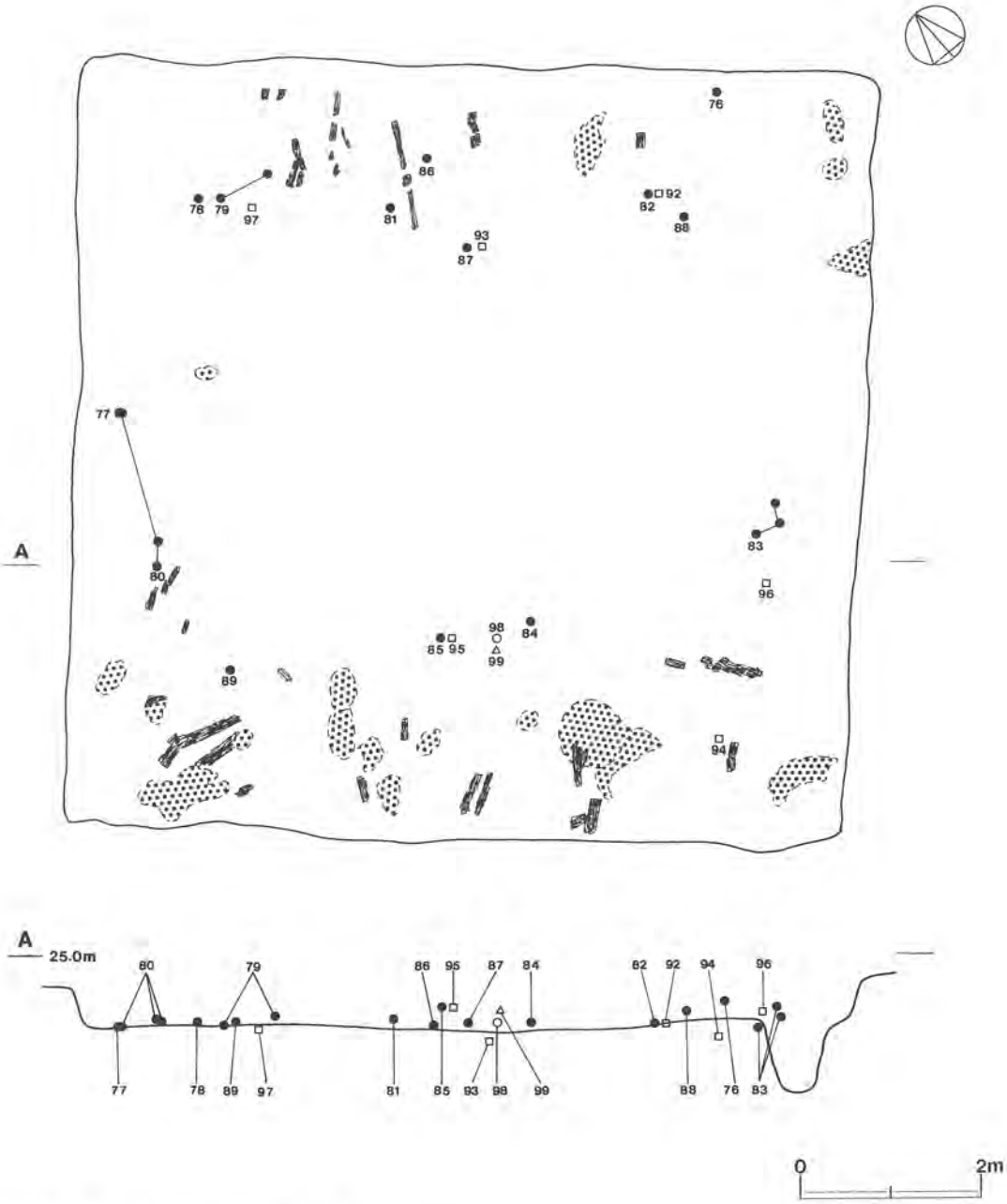
1　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
3　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量。
6　極暗褐色　ローム粒子・ロームブロック少量。
7　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック・黒色土ブロック少量。
8　暗 褐 色　ローム粒子少量。

**第18号住居跡　貯蔵穴土層解説**

1　褐　色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。

**第18号住居跡　炉土層解説**

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

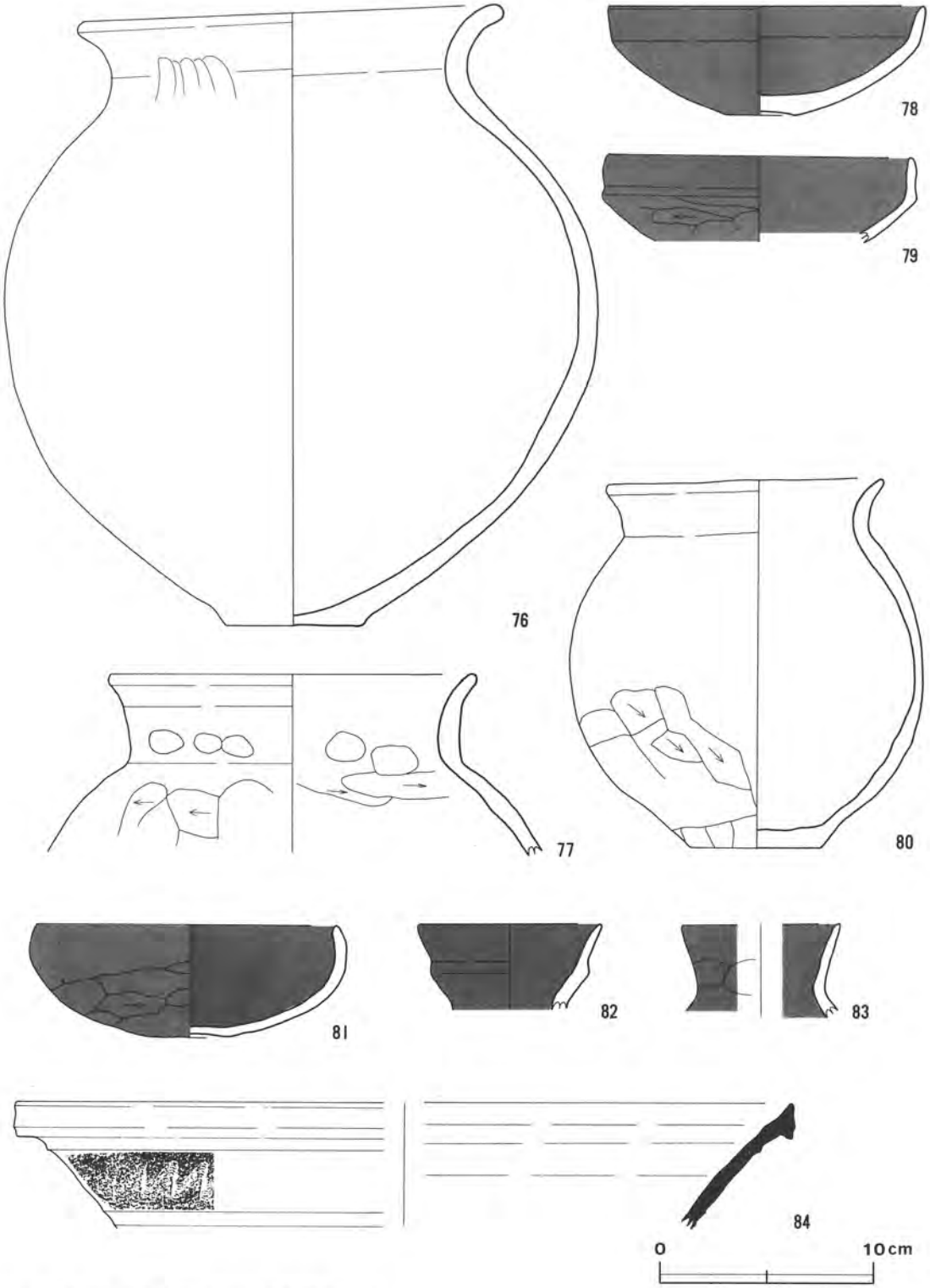



第31図　第18号住居跡出土遺物位置図

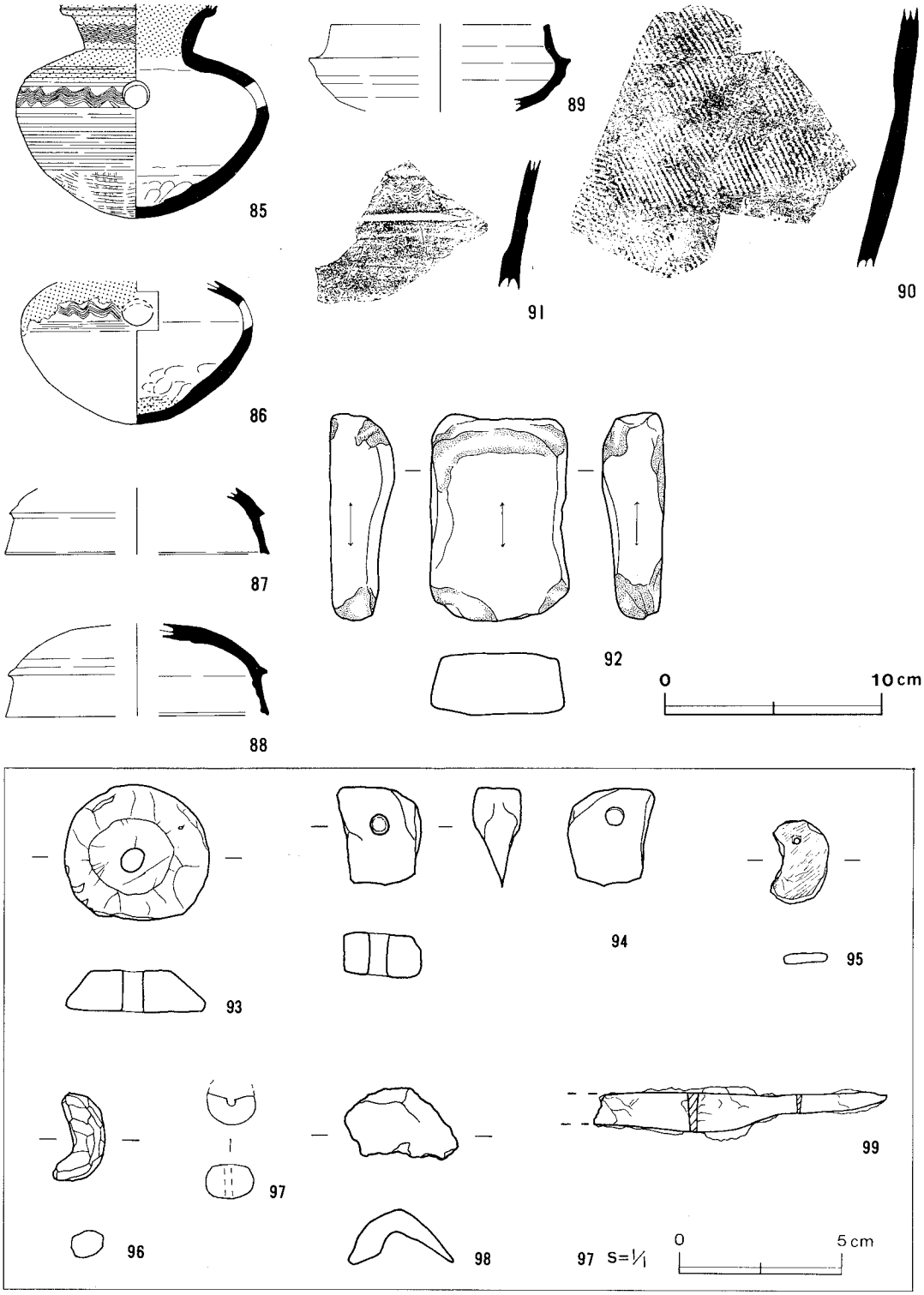
所見　本跡は，重複関係から第19号住居跡より新しい時期に構築されている。また，多量の炭化材が検出され，南西壁を除く壁付近の覆土下層からは焼土が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第18号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32・33図<br>76 | 甕<br>土師器 | A 20.0<br>B 29.3<br>C 6.6 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底で突出する。胴部は球状に内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部内・外面ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 130　70%<br>北東壁際覆土下層 |
| 77 | 甕<br>土師器 | A 17.3<br>B( 8.5) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立気味に立ち上がり，口唇部は外反する。 | 口縁部外面横ナデ。頸部内・外面押圧痕。胴部内・外面ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 131　10%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 78 | 坏<br>土師器 | A 14.7<br>B 5.2<br>C 3.1 | 口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部手持ちヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P 134　95%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 79 | 坏<br>土師器 | A 14.3<br>B 4.0 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 135　25%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 80 | 甕<br>土師器 | A 13.1<br>B 17.5<br>C 6.3 | 胴部から口縁部の一部欠損。平底で突出気味。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 132　80%<br>北西壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 81 | 坏<br>土師器 | A 14.1<br>B 5.3<br>C 3.4 | 上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。底部手持ちヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 133　100%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 82 | 甑<br>土師器 | A 8.7<br>B( 4.0) | 口縁部片。口縁部は外傾し，中位に稜をもつ。 | 口唇部内・外面横ナデ。口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>暗赤色<br>普通 | P 136　20%<br>北東壁付近覆土下層 |
| 83 | 小形壺<br>土師器 | A〔 7.4〕<br>B( 4.5) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面押圧痕。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 137　20%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 84 | 甕<br>須恵器 | A〔36.7〕<br>B( 5.9) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，2本の稜間に7条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>暗オリーブ灰色<br>良好 | P 140　5%<br>中央部覆土下層 |
| 85 | 甑<br>須恵器 | B( 9.9) | 口唇部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔を穿つ。円孔を挟んで9条の櫛描波状文を施す。口縁部は外反し，中位に稜をもち，稜の下方に9条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位回転カキ目。底部格子目状の平行叩き。 | 長石<br>暗灰黄色<br>良好 | P 138　80%<br>東コーナー付近覆土中層<br>体部外面上位及び口頸部内面自然釉 |




第32図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)




第33図　第18号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 86 | 甕<br>須恵器 | B( 6.6) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎し，上位に円孔を穿つ。円孔を挟んで5条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。体部外面回転ヘラ削り。体部内面横ナデ及び押圧痕。 | 砂粒<br>黒褐色<br>良好 | P142　30%<br>北東壁付近覆土下層<br>体部上位及び内面下位自然釉 |
| 87 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔12.2〕<br>B( 3.1) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。端部は内傾する凹面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | P139　5%<br>北東壁付近覆土下層 |
| 88 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔12.2〕<br>B( 4.3) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。端部は内傾する凹面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>暗灰黄色<br>良好 | P141　30%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 89 | 坏身<br>須恵器 | A〔10.1〕<br>B( 4.1) | 底部から口縁部にかけての破片。底部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部はほぼ水平に伸び，端部は尖る。たちあがりは内傾して立ち上がり，端部は内傾する平面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。たちあがり部内・外面横ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰白色<br>良好 | P143　20%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 90 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>オリーブ灰色<br>良好 | TP10　5%<br>覆土 |
| 91 | 甕<br>須恵器 | | 甕の口縁部片。 | 巻き上げ・水挽き成形。2本の沈線間に5条の櫛描波条文を施す。 | 砂粒・小礫<br>オリーブ黒色<br>良好 | TP11　5%<br>覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 92 | 砥石 | 9.7 | 6.5 | 2.9 | --- | 282.7 | 100 | 東コーナー付近覆土下層 | Q16　頁岩 |
| 93 | 紡錘車 | 4.5 | 4.2 | 1.4 | 6.0 | 37.2 | 100 | 北東壁付近覆土下層 | Q17角閃片岩 |
| 94 | 砥石 | 3.0 | 2.7 | 1.4 | --- | 12.9 | 100 | 南コーナー付近覆土下層 | Q18　滑石 |
| 95 | 石製模造品勾玉 | 2.6 | 1.8 | 0.3 | 2.0 | 2.7 | 100 | 南西壁付近覆土下層 | Q19　滑石 |
| 96 | 石製模造品勾玉 | 2.7 | 1.6 | 0.8 | --- | 4.0 | 100 | 南コーナー付近覆土下層 | Q20　滑石 |
| 97 | ガラス玉 | 0.5 | 0.7 | 0.5 | 1.0 | ( 0.2) | 60 | 北コーナー付近覆土下層 | Q21 |
| 98 | 羽口 | (2.3) | (3.6) | --- | --- | ( 6.9) | 5 | 南西壁際付近覆土下層 | DP4 |
| 99 | 刀子 | (9.1) | 1.3 | 0.4 | --- | ( 8.7) | 50 | 南西壁付近覆土中層 | M2 |

**第19号住居跡**（第34・35図）

**位置**　調査区の北部，G11c3区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北西部は，第18号住居跡によって掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸9.68m，短軸9.41mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－53°－W。

**壁**　壁高は20～34cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　西コーナーの一部を除き回っている。上幅10～20cm，深さ4～10cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　15条（a～o）検出されている。南東壁付近に2条（a，b），南西壁付近に4条（c～f），北西壁付近に2条（g，h），北東壁付近に7条（i～o）検出され，長さ0.8～2.0m，上幅6～25cm，深さ4～17cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　平坦で，中央部は特に硬くしまっている。南東壁中央部から南コーナー寄りに，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりがあり，その北東部に梯子ピット（$P_9$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は4～6cmである。

**ピット**　15か所（$P_1$～$P_{15}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径17～50cmのほぼ円形を呈し，深さ28～79cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は，長軸48cm，短軸35cmの楕円形を呈し，深さ8cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{10}$～$P_{15}$の性格は不明である。

**炉**　4基検出され，すべて地床炉である。炉Aは，中央部に検出され，平面形は，長径126cm，短径70cmの不整楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めており，炉床は約6cmの厚さに赤変硬化しており，かなり使い込まれたものと思われる。炉Bは，中央から北寄りに検出され，平面形は，長径70cm，短径55cmの楕円形を呈し，床面を約3cm掘り窪めており，炉床は約4～7cmの厚さに赤変硬化し，よく使用されたものと思われる。炉Cは，中央から東寄りに位置し，平面形は長径87cm，短径60cmの不整楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めており，炉床は約6cmの厚さに赤変硬化し，よく使用されたものと思われる。炉Dは，中央から南寄りに位置し，平面形は，長径83cm，短径69cmの不整楕円形を呈し，床面を約2cm掘り窪めており，炉床は約4cmの厚さに赤変硬化し，よく使用されたものと思われる。その他，床が焼土化している所が3か所（E～G）確認されているが，これらの焼土化している床は，炉と比べると焼け具合が弱いもので，一時的に炉として使用されたものか，火災によるものか判然としない。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナーから検出され，平面形は，長径90cm，短径75cmの不整楕円形を呈し，深さは32cmである。底面は凹凸があり，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム粒子をそれぞれ少量ずつ含む層が堆積している。貯蔵穴Bは，北コーナー付近から検出され，平面形は，長軸82cm，短軸73cmの隅

丸長方形を呈し，深さは46cmである。底面は凹凸があり，ほぼ垂直に立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，少量の焼土粒子，炭化粒子，ロームの小ブロックおよびローム粒子が堆積している。

**覆土**　7層からなっているが，焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックが混入しており人為堆積と思われる。

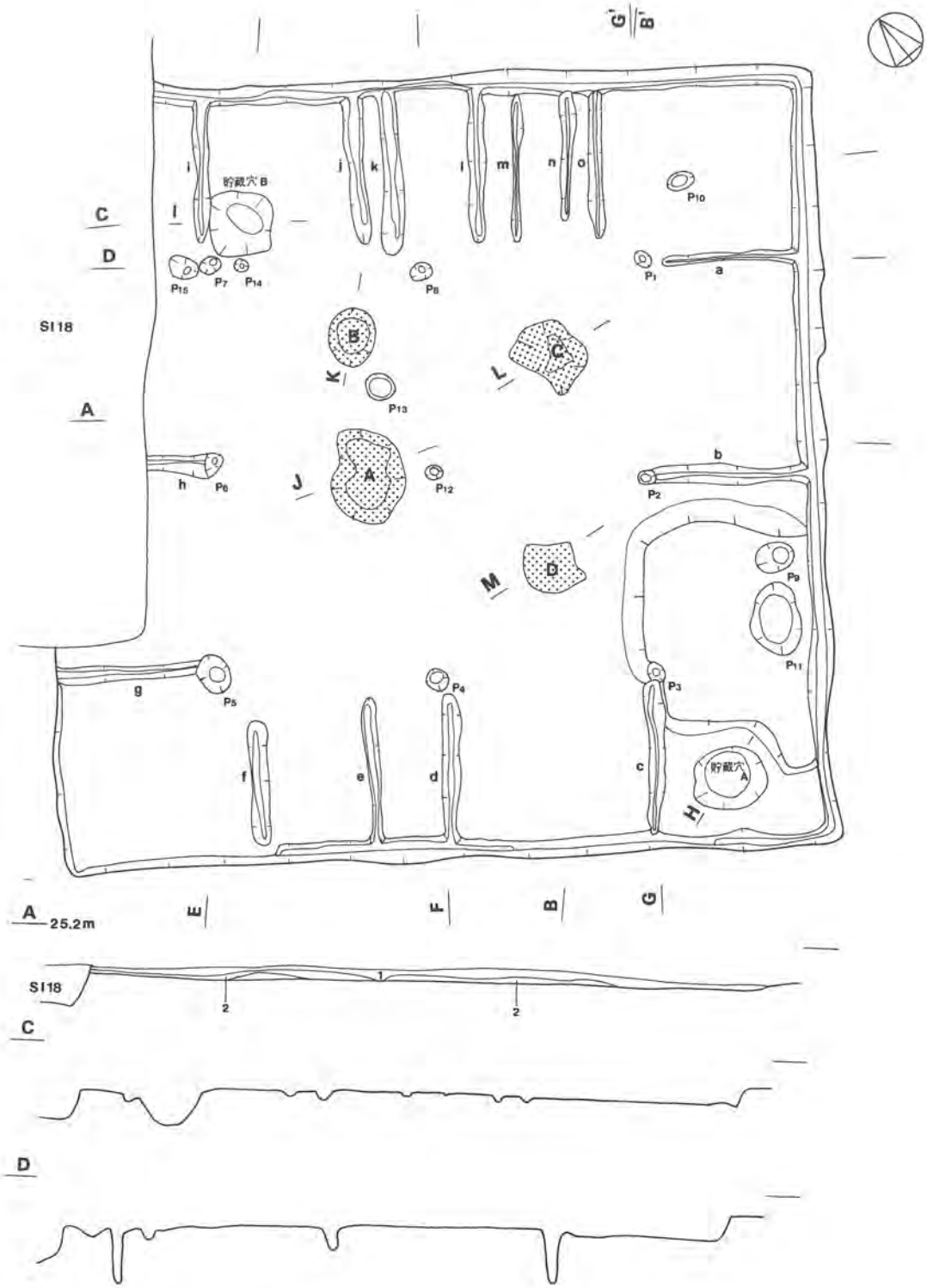
**遺物**　覆土の下層から，土師器（甕8，甑1，坏7，埦2）・細片（3902点），須恵器（坏蓋1，高坏1）・細片（1点）が多量に出土している。また，石製品や鉄製品が出土し，木の実の炭化物が中央部の床面から，炭化米が南西壁際の床面からそれぞれ出土し，東コーナー付近の床面からは，炭化材（クヌギの一種）が多数出土している。その他，流れ込みと思われる掻器が出土している。112の土師器の坏は南東壁際の覆土下層から出土している。118の須恵器の高坏は，南東壁際の覆土中層から出土している。122と121の臼玉は，122が北東壁付近の床面から，121が南西壁付近の床面から出土している。124と123の鉄鎌は，124が中央から北東よりの覆土中層から，123が南西壁際の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，重複関係から第18号住居跡より古い時期に構築されている。また，焼土と多くの炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

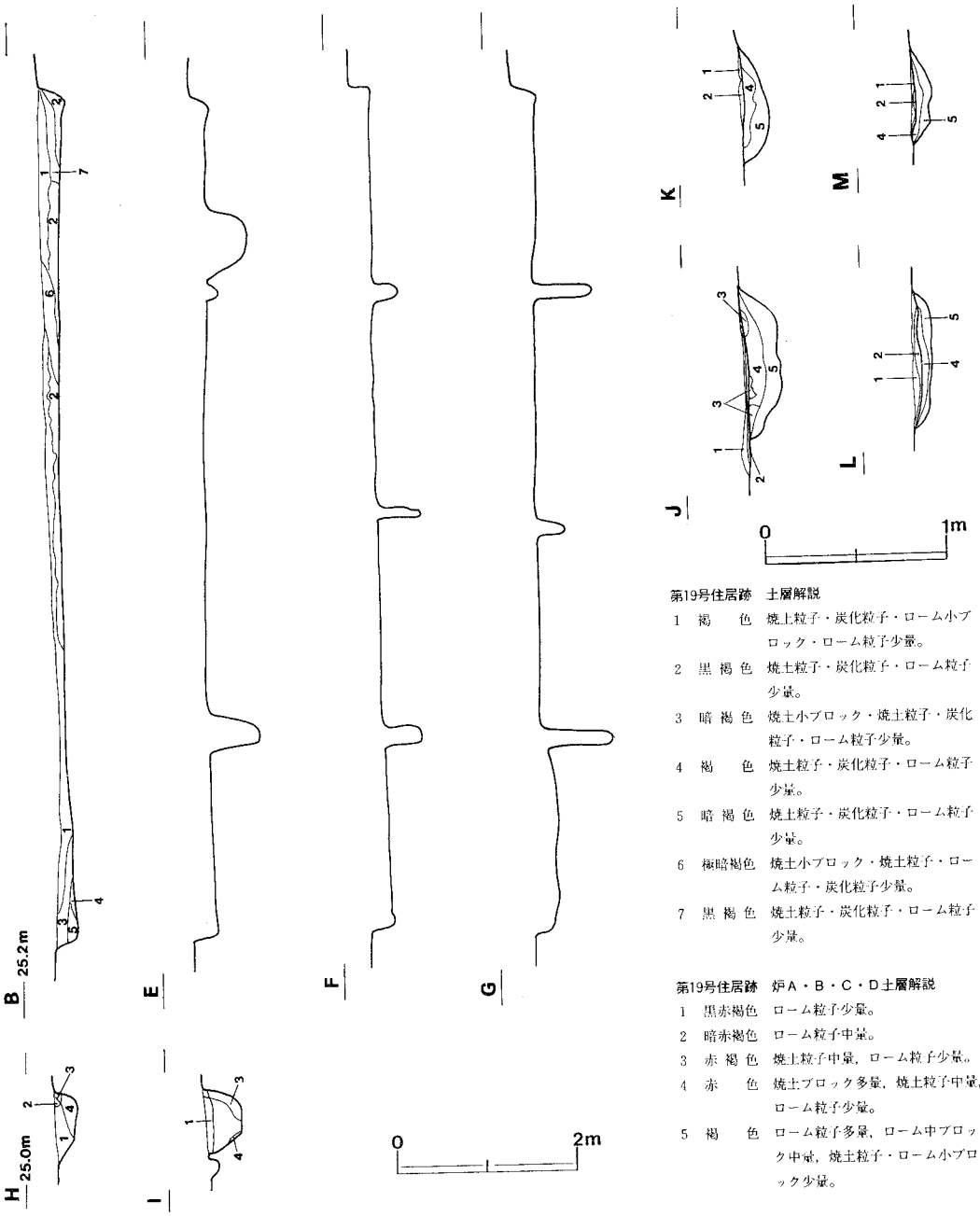
**第19号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36～38図 100 | 甕 土師器 | B(15.4) | 胴部から頸部にかけての破片。胴部は張りが弱い。頸部はくびれる。 | 頸部内面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P144 50% 南コーナー壁際覆土下層 |
| 101 | 甕 土師器 | A 17.6 B(15.3) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，器厚を増しながら頸部に至る。口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。頸部にヘラ当て痕。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒 橙色 普通 | P145 30% 北東壁付近覆土下層 |
| 102 | 甕 土師器 | A 14.5 B(20.4) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口唇部を内上方につまみ出す。 | 口縁部外面ヘラ削り。口縁部内面ヘラ削り後，ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒 にぶい黄褐色 普通 | P146 30% 西コーナー付近覆土下層 |
| 103 | 甕 土師器 | A 15.2 B( 7.1) | 口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がり，器厚を減じて口唇部に至る。 | 口唇部内・外面横ナデ。口縁部外面ヘラ削り。口縁部内面ナデ。 | 砂粒・石英・長石 にぶい褐色 普通 | P147 20% 北東壁付近覆土下層 |
| 104 | 甕 土師器 | A〔13.4〕 B( 9.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面及び胴部外面ナデ。胴部内面ヘラ削り後，ナデ。内面赤彩。 | 砂粒 橙色 普通 | P148 20% 中央部覆土下層 |
| 105 | 甕 土師器 | A〔18.7〕 B(10.8) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。頸部のくびれは弱く，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ当て痕。胴部内・外面ナデ。 | 砂粒 灰黄褐色 普通 | P149 15% 北東壁付近覆土下層 |
| 106 | 甕 土師器 | A〔20.7〕 B( 5.9) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部及び頸部ナデ。 | 砂粒・長石・小礫 にぶい褐色 普通 | P150 5% 北東壁付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 107 | 甕<br>土師器 | B( 5.5)<br>C 8.2 | 底部から胴部にかけての破片。突出した平底。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部外面下位ナデ。胴部内面下位ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P151 5%<br>中央部覆土下層 |
| 108 | 甑<br>土師器 | B( 7.7)<br>C 11.4 | 胴部片。無底式。胴部は僅かに内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ナデ。 | 砂粒<br>黒褐色<br>普通 | P152 10%<br>北東壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 109 | 椀<br>土師器 | A 13.6<br>B 8.5<br>C 3.5 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，上位でややくびれる。口縁部は内そぎ状で，外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>暗赤褐色<br>良好 | P153 70%<br>中央部覆土下層<br>外面煤付着 |
| 110 | 椀<br>土師器 | A〔14.0〕<br>B( 6.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，上位でややくびれる。口縁部は内そぎ状で，やや外傾する。 | 口縁部の内・外面及び体部ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>暗赤色<br>普通 | P160 20%<br>西部覆土<br>外面煤付着 |
| 111 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B 6.8<br>C 4.1 | 上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 体部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P154 100%<br>中央部覆土下層 |
| 112 | 坏<br>土師器 | A 15.6<br>B 6.3<br>C 5.6 | 体部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面及び体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P155 80%<br>南東壁際覆土下層 |
| 113 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B 6.0 | 体部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ナデ。口縁部及び内面赤彩。 | 砂粒・長石<br>にぶい褐色<br>普通 | P156 60%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 114 | 坏<br>土師器 | A〔14.7〕<br>B( 4.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾する。口縁部はやや内傾し，口唇部は直立する。 | 口縁部内・外面及び体部横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P157 10%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 115 | 坏<br>土師器 | A〔13.9〕<br>B( 5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部との境に弱い段をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>極暗赤褐色<br>普通 | P158 10%<br>西コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 116 | 坏<br>土師器 | A〔15.6〕<br>B( 5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増しながら口縁部に至る。口縁部は内そぎ状で，外傾する。 | 口縁部内・外面及び体部ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>暗赤色<br>普通 | P159 20%<br>中央部覆土下層 |
| 117 | 坏<br>土師器 | B( 2.3)<br>C 4.3 | 底部から体部にかけての破片。上げ底気味。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部内面ナデ。体部内・外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P161 20%<br>東部覆土 |
| 118 | 高坏<br>須恵器 | B( 5.0) | 坏部の体部片。坏部は内彎して立ち上がり，断面円形を呈する把手が，7条の櫛描波状文の上に貼付する。波状文の上方に2条の凸線をもつ。 | 巻き上げ・水挽き成形。坏部下位ヘラ削り。坏部外面上位横ナデ。坏部内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | P162 5%<br>南東壁際覆土中層 |
| 119 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔10.0〕<br>B( 4.2) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部下位は内彎し，明瞭な稜もつ。口縁部は外反し，端部は凹面をなして内傾する。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>黄灰色<br>良好 | P163 10%<br>中央部覆土下層 |




第34図　第19号住居跡実測図




第19号住居跡　土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量。
7　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第19号住居跡　炉A・B・C・D土層解説

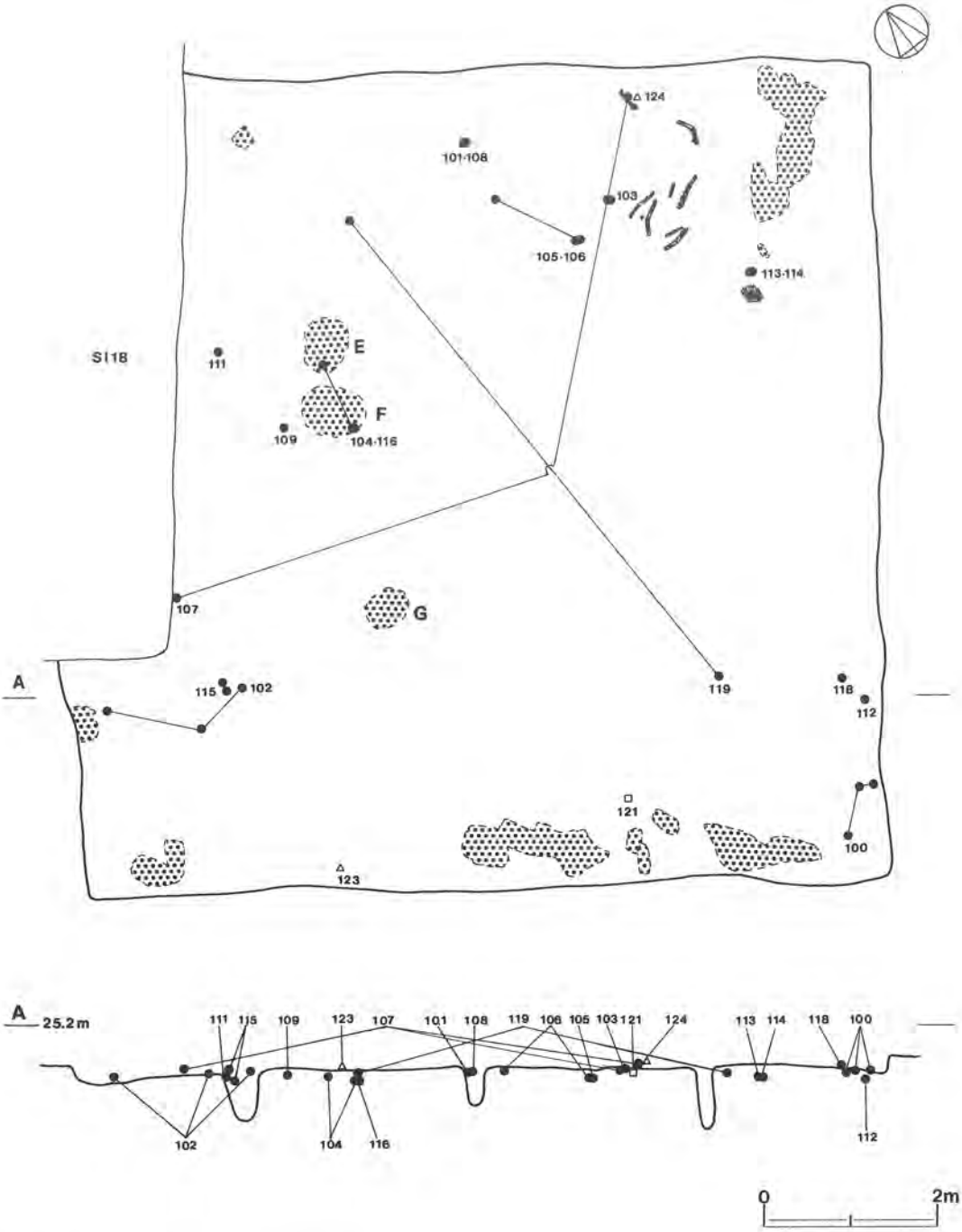
1　黒赤褐色　ローム粒子少量。
2　暗赤褐色　ローム粒子中量。
3　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量。
4　赤　　色　焼土ブロック多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量。
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。

第19号住居跡　貯蔵穴A土層解説

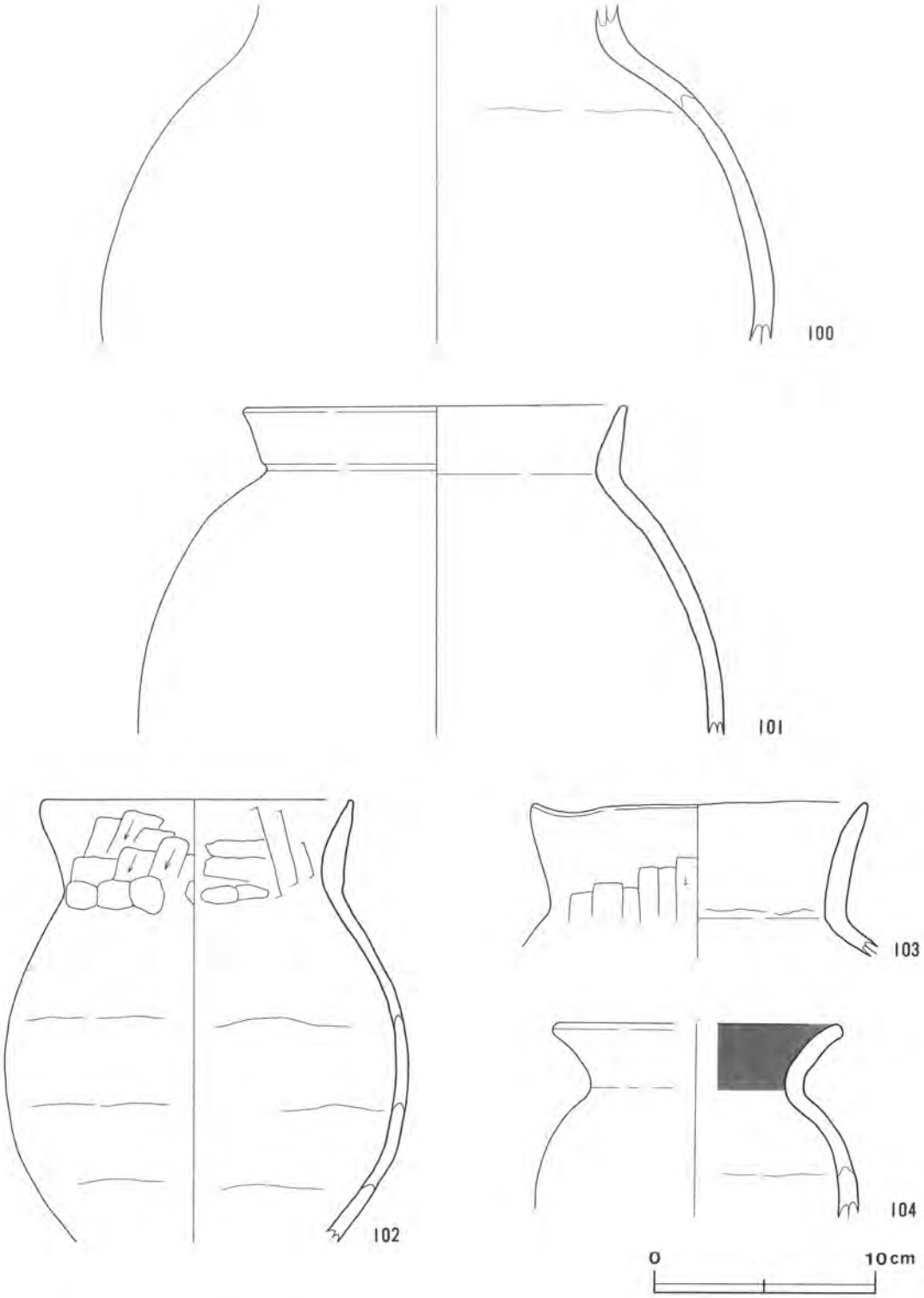
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第19号住居跡　貯蔵穴B土層解説

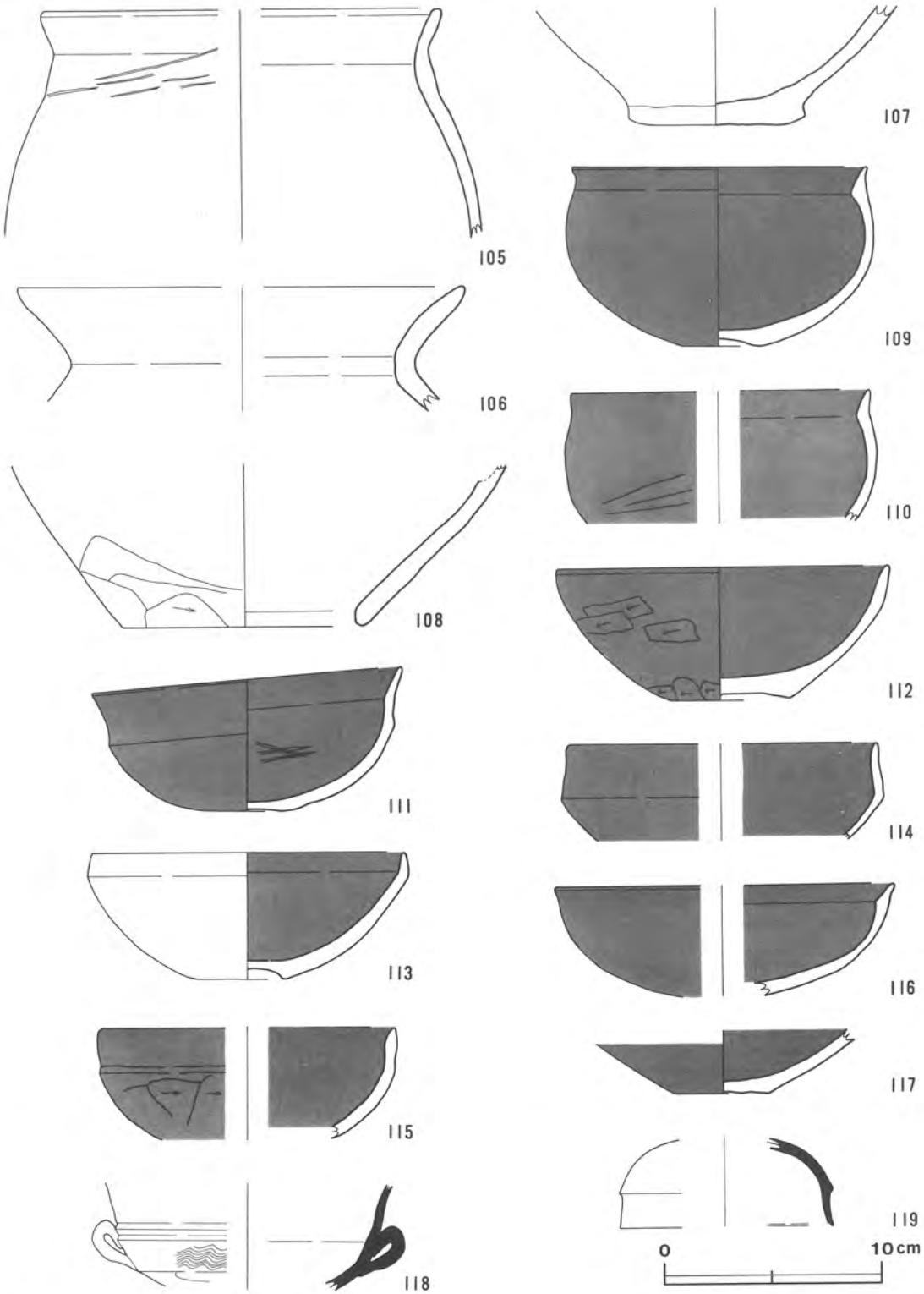
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。



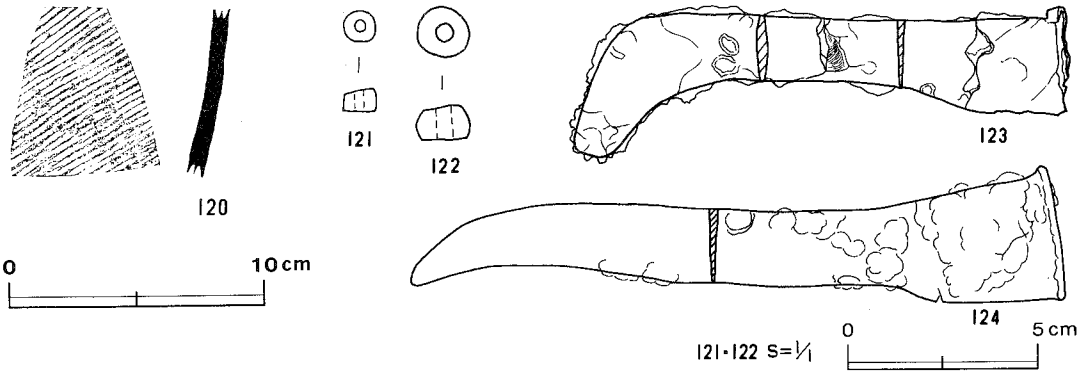

第35図　第19号住居跡出土遺物位置図




第36図　第19号住居跡出土遺物実測図(1)




第37図　第19号住居跡出土遺物実測図(2)




第38図　第19号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 120 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面円形叩き当て具痕。 | 砂粒・小礫<br>灰色<br>良好 | TP12　5%<br>西コーナー付近覆土中層 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 121 | 臼　玉 | 0.4 | 0.4 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南西壁付近床面 | Q22　滑石 |
| 122 | 臼　玉 | 0.7 | 0.7 | 0.5 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q23　滑石 |
| 123 | 鎌 | (13.2) | ( 2.9) | 0.2 | --- | (25.0) | 90 | 南西壁際覆土下層 | M4 |
| 124 | 鎌 | 17.1 | 3.6 | 0.2 | --- | (31.7) | 95 | 中央部覆土中層 | M6 |

## 第20号住居跡（第39図）

**位置**　調査区の北東部，G12a3区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北西部は，第93号土坑によって掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸3.11m，短軸2.92mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－30°－E。

**壁**　壁高は23～35cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。北西壁から中央寄りに出入口部と考えられる不定形の高まりがあり，その中央部に梯子ピット（$P_1$）が検出されている。出入口部の高まりと床との比高は約6cmである。

**ピット**　1か所（$P_1$）検出されている。$P_1$は，長径21cm，短径18cmの楕円形を呈し，深さ15cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。

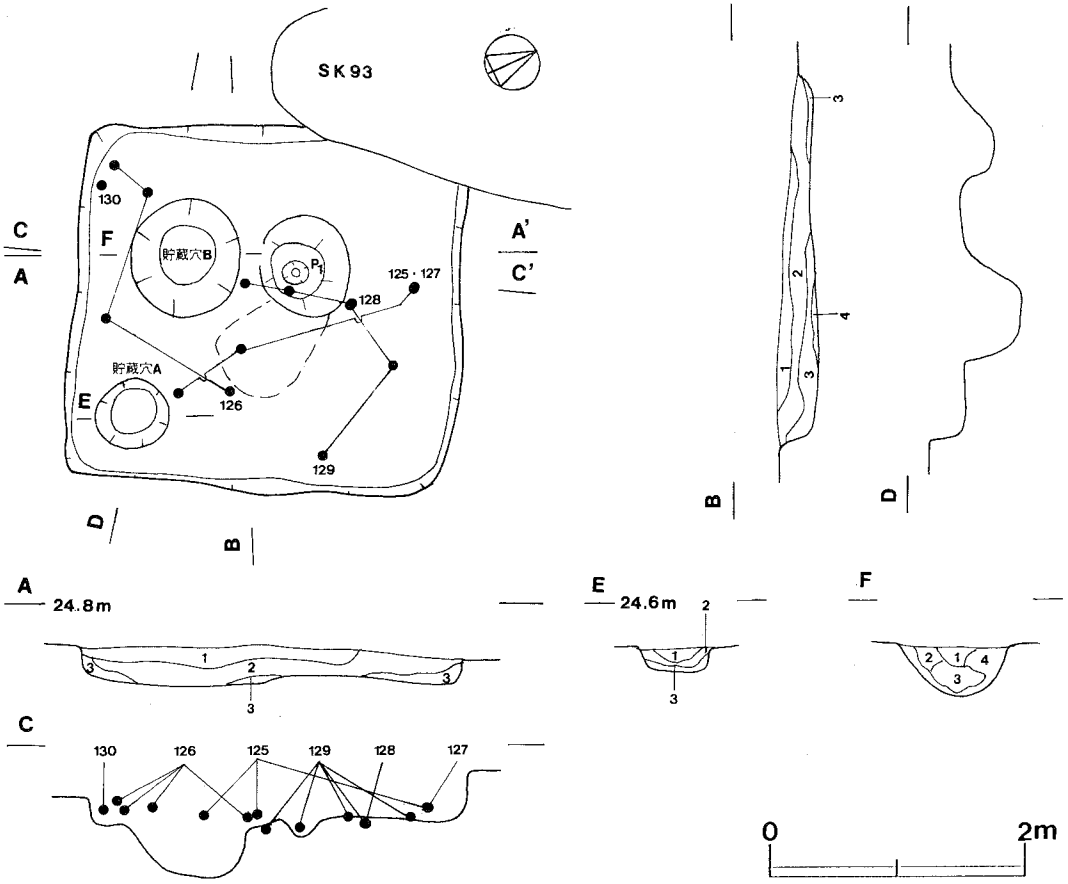
**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナー付近から検出され，平面形は，径57cm程の円形を呈し，深さは24cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴Bは，西コーナー付近から検出され，平面形は，径89cm程の円形を呈し，深さは43cmである。底

面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴A・Bともに，各層にローム粒子を少量含む黒色土，暗褐色土，黒褐色土が堆積している。

**覆土**　4層からなる。1・2層は自然堆積であり，3・4層は，ロームの粒子や中ブロックが混入していることから人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土下層や中層から,土師器（甕6）・細片（488点），須恵器細片（8点）が出土している。130の土師器の甕は，西コーナー付近の覆土下層から，横位の状態で出土している。127の土師器の甕は，北東壁際の覆土下層から潰れた状態で出土している。

**所見**　本跡は，重複関係から第93号土坑よりも古い時期に構築されている。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。



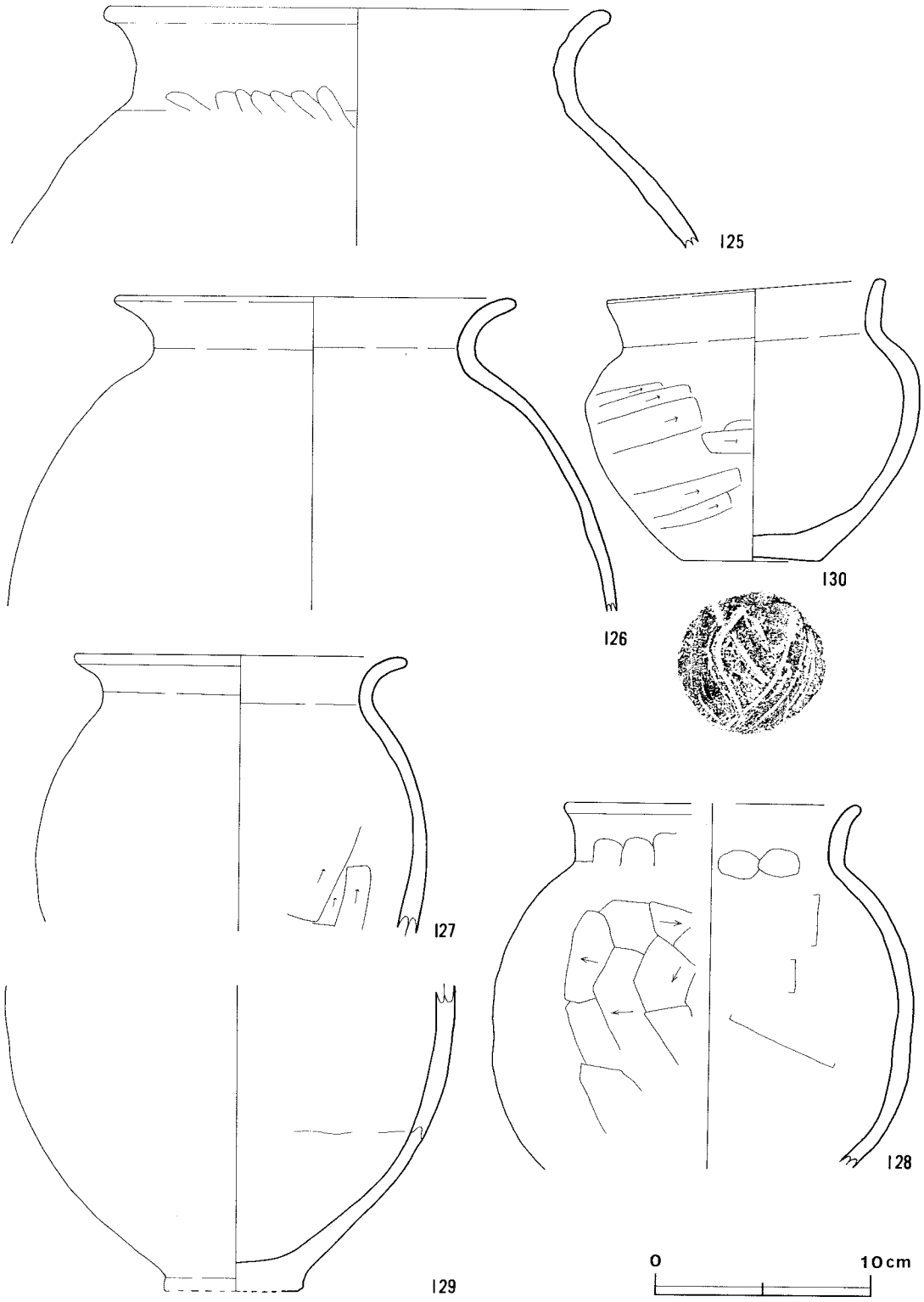

第20号住居跡　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
3　暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量。

第20号住居跡　貯蔵穴A・B土層解説

1　黒　色　ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム粒子少量。
3　黒褐色　ローム粒子少量。
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

第39図　第20号住居跡実測図




第40図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図<br>125 | 甕<br>土師器 | A 23.6<br>B(11.1) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 164　20%<br>中央部覆土上層 |
| 126 | 甕<br>土師器 | A 18.0<br>B(14.8) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り。胴部内面ナデ。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P 165　25%<br>西部覆土上層 |
| 127 | 甕<br>土師器 | A 15.6<br>B(13.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 166　50%<br>北西壁際覆土下層 |
| 128 | 甕<br>土師器 | A〔13.9〕<br>B(17.1) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立気味に立ち上がり，口唇部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面押圧痕。胴部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 167　25%<br>中央部覆土中層 |
| 129 | 甕<br>土師器 | B(14.4)<br>C〔 6.6〕 | 底部から胴部にかけての破片。上げ底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部内・外面ヘラナデ。底部ナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P 168　20%<br>東部覆土中層 |
| 130 | 甕<br>土師器 | A 13.1<br>B 13.3<br>C 6.6 | 口縁部の一部欠損。上げ底気味。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 169　95%<br>西コーナー付近覆土下層 |

## 第21号住居跡（第41図）

**位置**　調査区の北部，G11b8区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸6.45m，短軸4.71mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－61°－E。

**壁**　壁高は17～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　北西壁と南西壁の一部を除いて回っている。上幅15～18cm，深さ6～14cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　4条（a～d）検出されている。南西壁付近に1条（a），北西壁付近に1条（b），北東壁付近に2条（c，d）検出され，長さ0.4～1.0m，上幅7～20cm，深さ8～17cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**ピット**　13か所（$P_1$～$P_{13}$）検出されている。$P_1$～$P_6$は，径11～19cmのほぼ円形を呈し，深さ32～49cmで主柱穴と考えられる。$P_7$は，径24cm程の円形を呈し，深さ19cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_8$～$P_{13}$の性格は不明である。

**炉**　2基検出され，どちらも地床炉である。炉Aは，中央から北東寄りの$P_1$と$P_6$の主柱穴間に検出されている。平面形は長径72cm，短径63cmの不整楕円形を呈し，床面を約5cm掘り窪められており，炉床は，約11cmの厚さに赤褐色や明褐色に焼けている。炉Bは，中央から南東寄りの$P_1$と

$P_2$の主柱穴間に検出されている。平面形は長径87cm，短径53cmの不整楕円形を呈し，床面を約11cm掘り窪められており，炉床は，約12cmの厚さに赤褐色や明褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　南コーナー付近から検出されている。平面形は，長径87cm，短径63cmの不整楕円形を呈し，深さは46cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土，炭化物，ローム粒子を少量含む暗褐色土が堆積している。

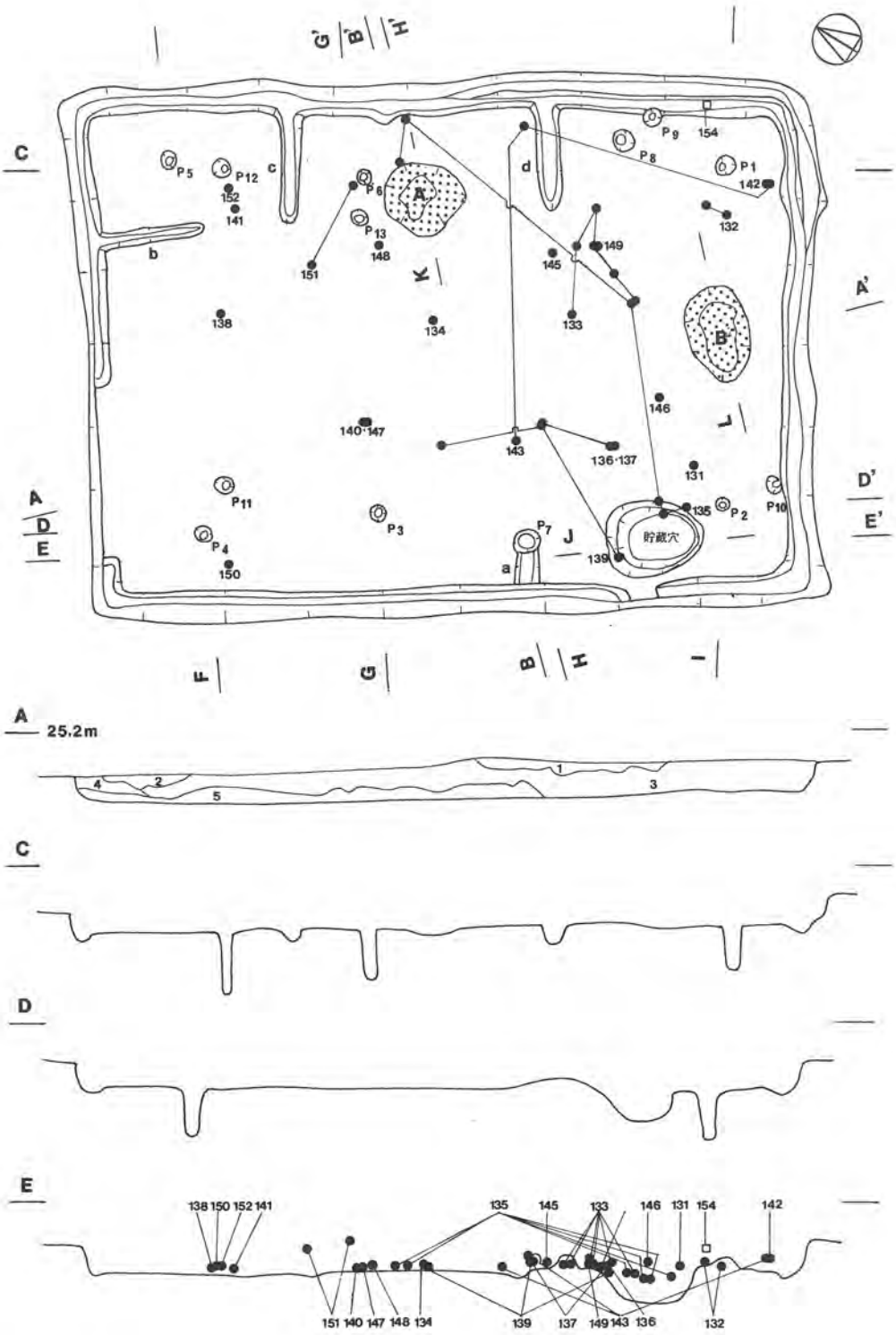
**覆土**　6層からなる。1～4層は自然堆積であり，5・6層は，ローム粒子やロームブロックが混入していることから人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕8，甑1，坏10，埦1，**鼎**1）・細片（3272点），須恵器（**鼎**1）・細片（1点）が多量に出土し，石製品も出土している。141の土師器の坏は，北コーナー付近の床面から，正位の状態で出土している。137の土師器の甕は，中央付近の床面から，逆位の状態で出土している。145の土師器の坏は，北東壁付近の床面から，正位の状態で出土している。152の須恵器の**鼎**は，北コーナー付近の床面から逆位の状態で出土している。154の砥石は，東コーナー付近の覆土上層から出土している。

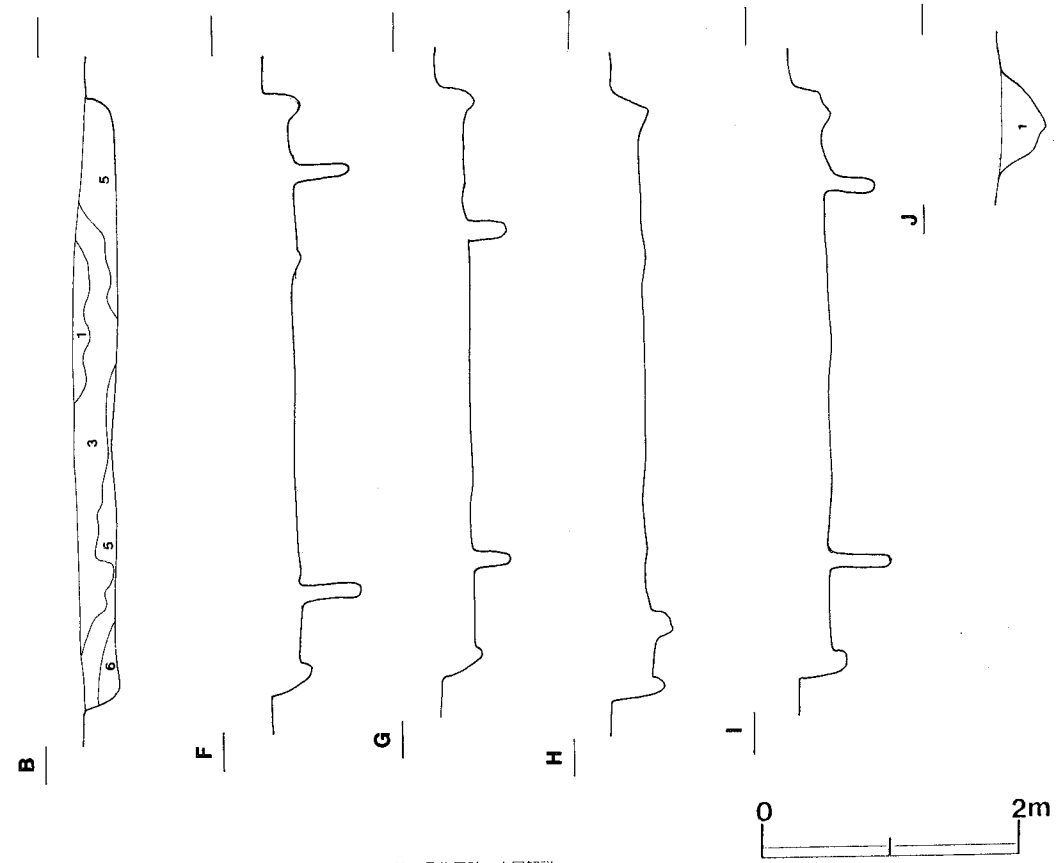
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

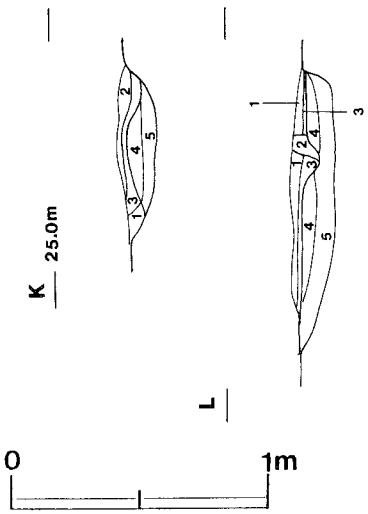
**第21号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第42～46図 131 | 甕 土師器 | A 19.2 B 31.0 C 6.8 | 口縁部の一部欠損。平底で突出気味。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラナデ。内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒 にぶい赤褐色 普通 | P170 95% 南コーナー付近覆土下層 |
| 132 | 甕 土師器 | A 17.3 B 29.0 C 7.0 | 口縁部の一部欠損。平底で突出する。胴部は内彎し中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。 | 頸部外面ヘラアテ痕。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒 明赤褐色 普通 | P171 90% 南コーナー付近覆土下層 |
| 133 | 甕 土師器 | A 19.7 B 31.0 C〔7.0〕 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底で突出する。胴部は内彎し，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ナデ。 | 砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通 | P172 70% 中央部覆土下層 外面煤付着 |
| 134 | 甕 土師器 | A〔18.6〕 B(28.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外傾し，口唇部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面横ナデ。 | 砂粒 にぶい黄褐色 普通 | P173 40% 中央部覆土下層 外面煤付着 |
| 135 | 甕 土師器 | A 18.3 B(25.8) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し，口唇部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ後，ナデ。 | 砂粒 にぶい橙色 普通 | P174 40% 南西壁際覆土下層 |
| 136 | 甕 土師器 | A〔19.0〕 B(10.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。口縁部は直立し，口唇部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面ヘラアテ痕。胴部外面ヘラナデ後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒 にぶい黄橙色 普通 | P175 10% 中央部覆土下層 |
| 137 | 甕 土師器 | A 14.4 B(13.5) | 底部欠損。胴部は内彎し，頸部はくびれる。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒 にぶい赤褐色 普通 | P177 60% 中央部覆土下層 |




第41図　第21号住居跡実測図




**第21号住居跡　土層解説**

1　極暗褐色　ローム粒子中量。
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量。
3　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土ブロック少量。
4　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。
5　褐　　色　ローム粒子少量。
6　暗 褐 色　ローム粒子少量。

**第21号住居跡　貯蔵穴土層解説**

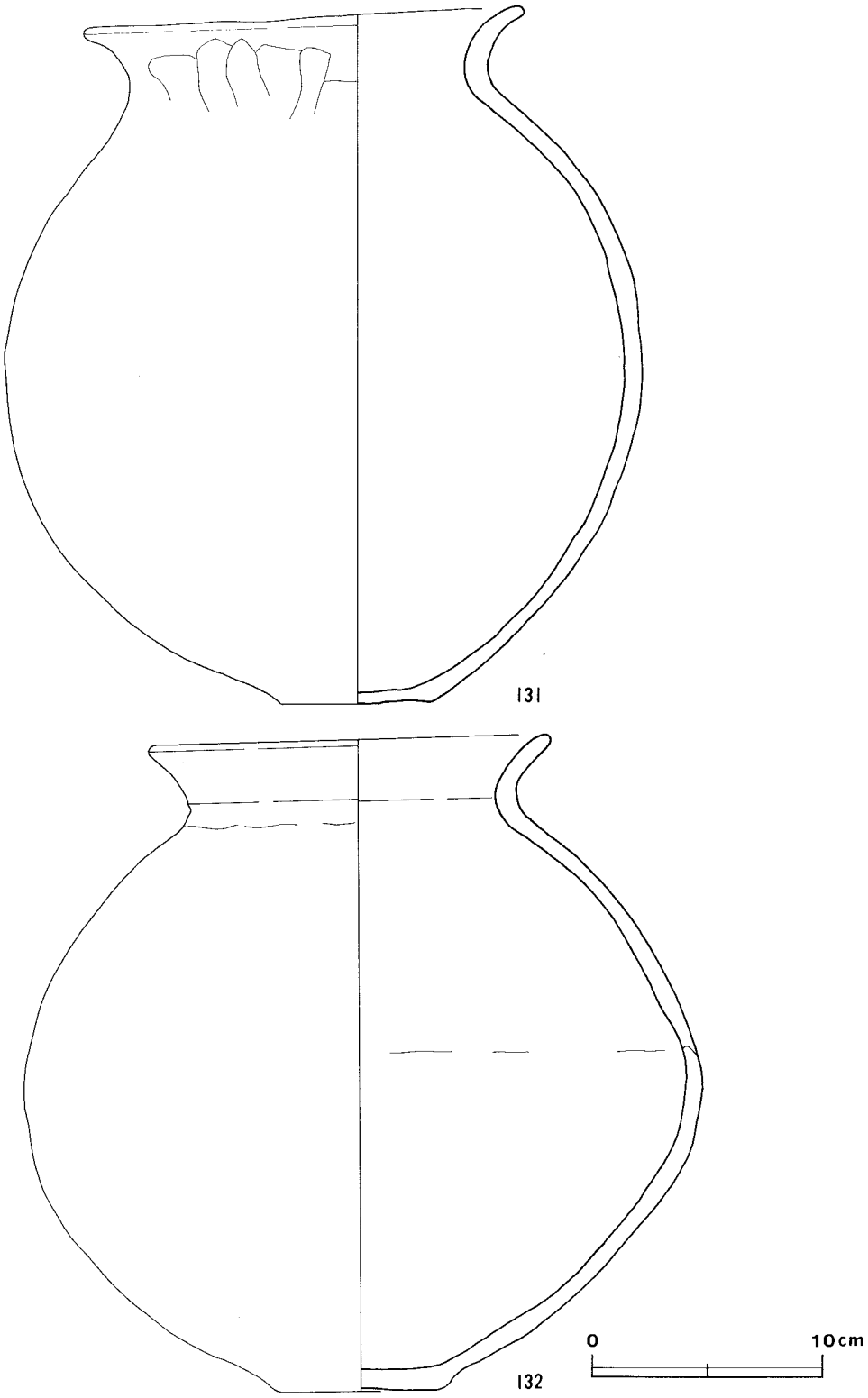
1　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化物少量。

**第21号住居跡　炉A土層解説**

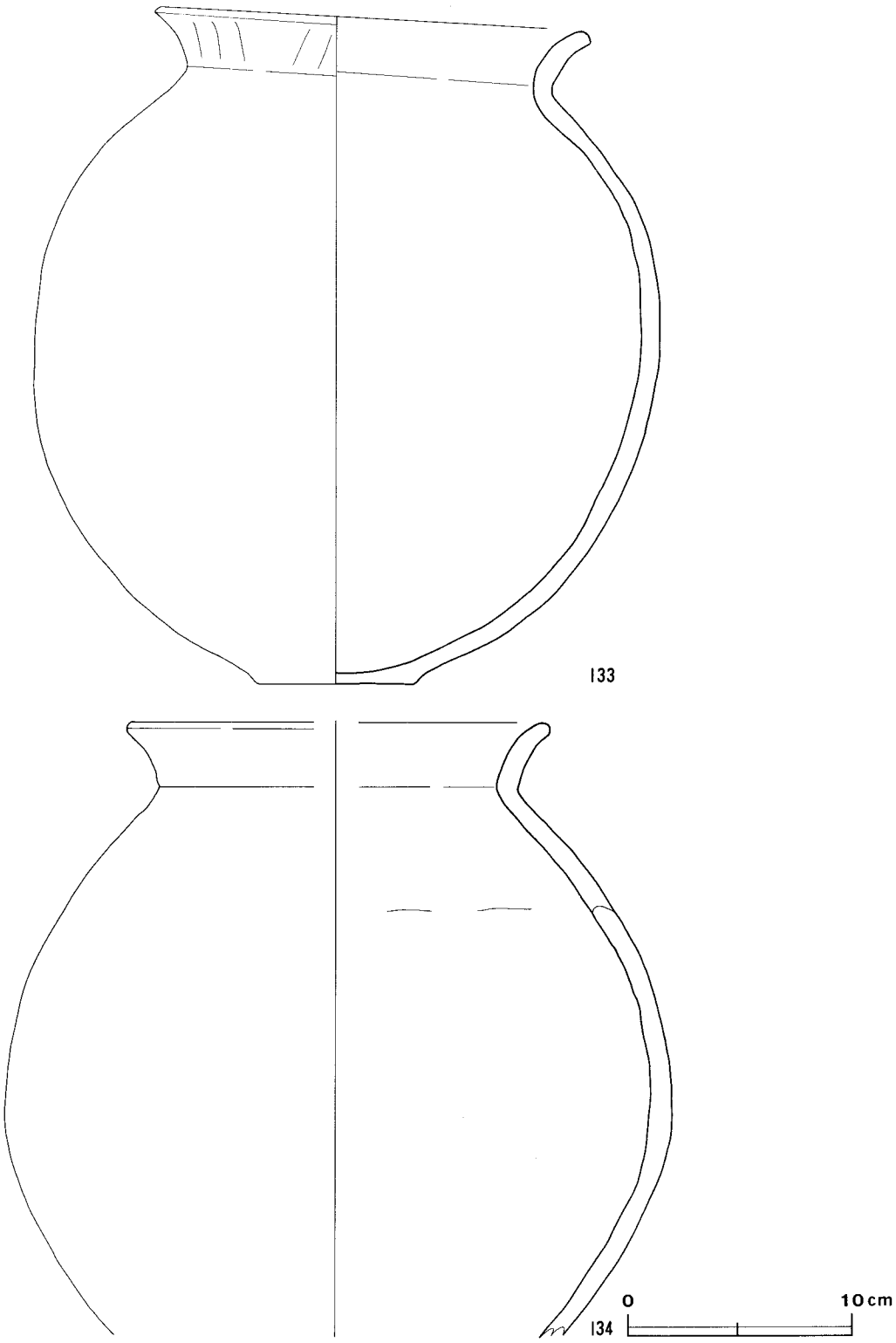
1　褐　色　黒色粒子少量。
2　褐　色　焼土大ブロック・焼土粒子少量。
3　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量。
4　赤　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量。
5　明褐色　ローム小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック少量。

**第21号住居跡　炉B土層解説**

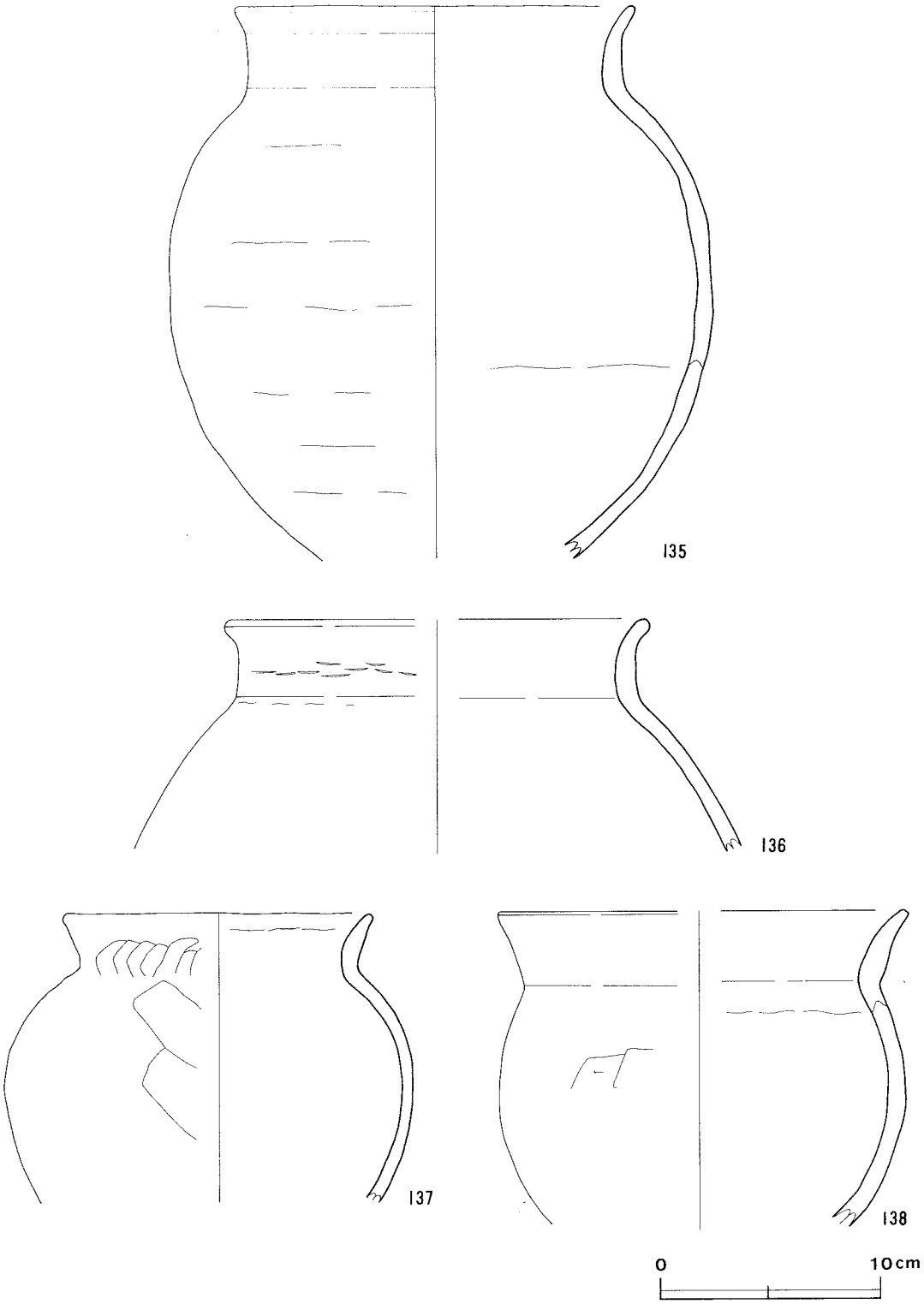
1　黒褐色　焼土小ブロック中量，炭化粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量。
3　褐　色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，炭化物少量。
4　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化物少量。
5　明褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量。



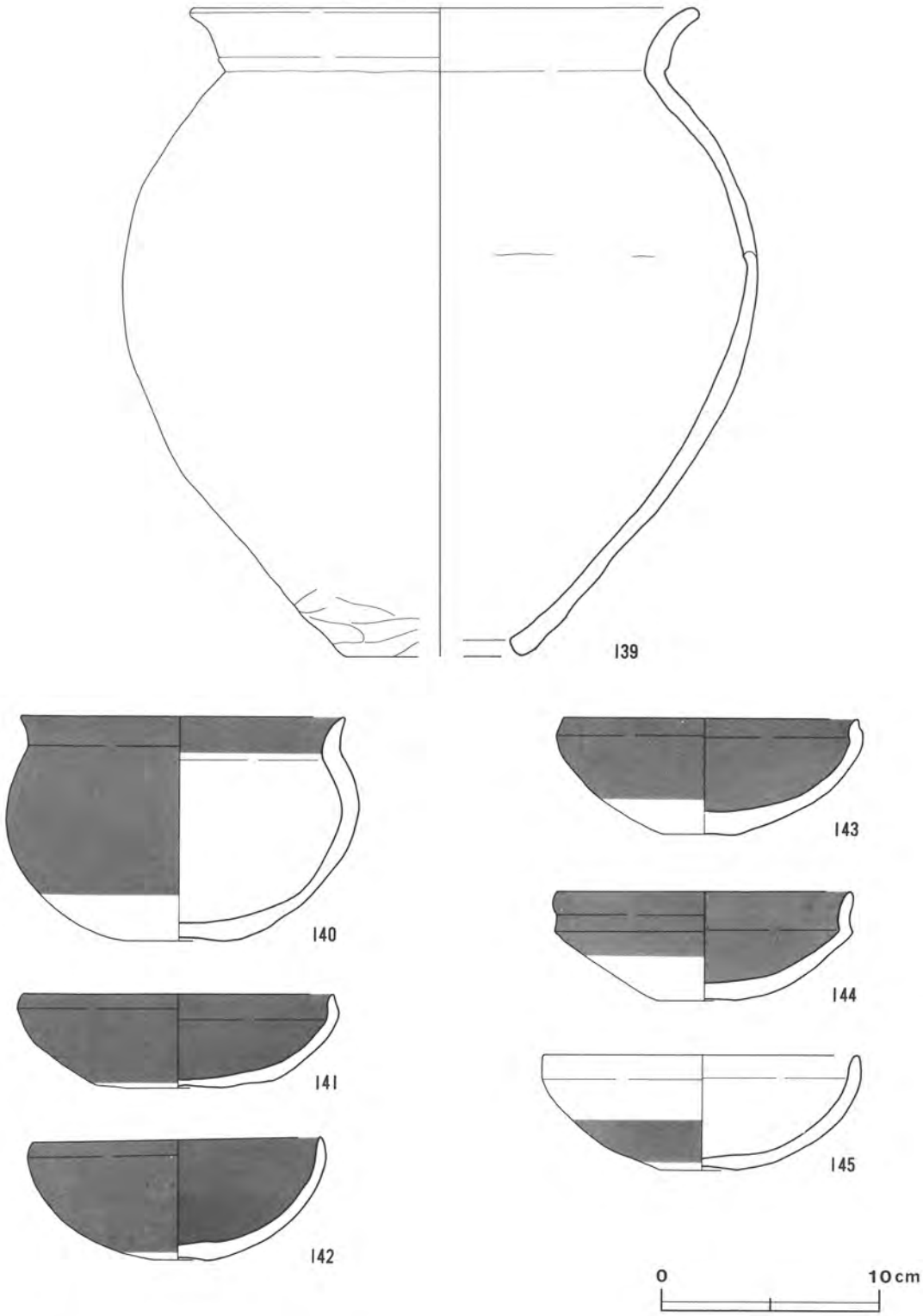

第42図　第21号住居跡出土遺物実測図(1)



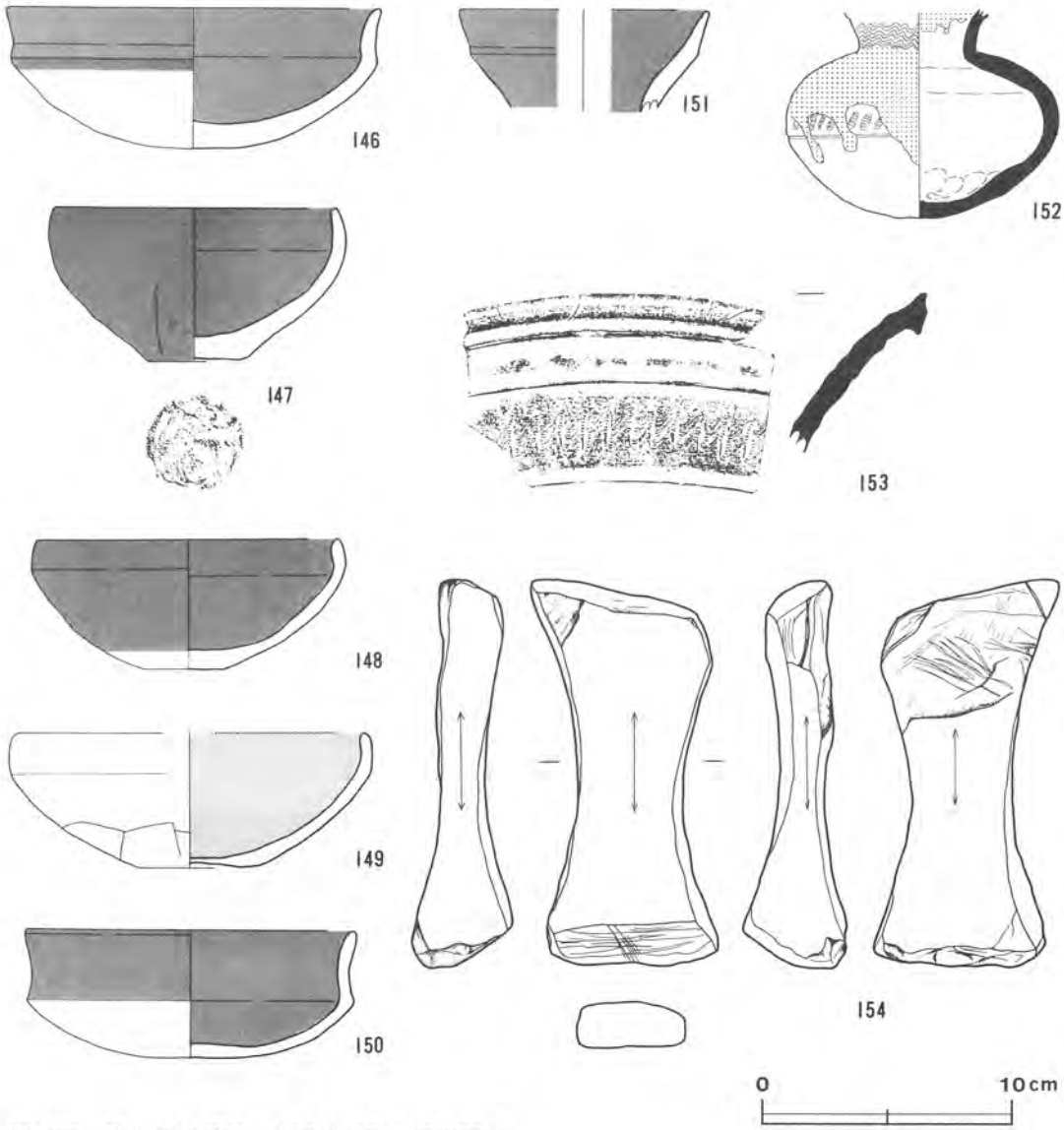

第43図　第21号住居跡出土遺物実測図(2)




第44図　第21号住居跡出土遺物実測図(3)




第45図　第21号住居跡出土遺物実測図(4)




第46図　第21号住居跡出土遺物実測・拓影図(5)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 138 | 甕<br>土師器 | A〔18.6〕<br>B(14.7) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面及び胴部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P178　30%<br>北西壁付近覆土中層 |
| 139 | 甑<br>土師器 | A 23.3<br>B 30.0<br>C( 8.0) | 胴部の一部欠損。無底式。胴部は内彎する。頸部上位に小さな段をもつ。口縁部は外傾し，口唇部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ後，ナデ。 | 砂粒<br>にぶい褐色<br>普通 | P179　70%<br>中央部覆土下層 |
| 140 | 埦<br>土師器 | A 14.9<br>B 10.4<br>C 4.7 | 上げ底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，器厚を減じながら口唇部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P176　100%<br>中央部床面 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | 坏<br>土師器 | A 14.2<br>B 4.4<br>C 4.6 | 上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P 180 100%<br>北コーナー付近床面 |
| 142 | 坏<br>土師器 | A 13.2<br>B 5.8<br>C 3.8 | 口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。 | 口縁部内・外面及び体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 181 95%<br>東コーナー付近覆土中層 |
| 143 | 坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 5.4<br>C 3.4 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部を上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面及び体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 182 95%<br>東部覆土 |
| 144 | 坏<br>土師器 | A 13.5<br>B 5.1<br>C 4.0 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎し，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反気味で，中位に段をもつ。 | 口縁部内・外面及び体部外面上位横ナデ。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P 183 90%<br>覆土 |
| 145 | 坏<br>土師器 | A 14.3<br>B 5.4<br>C 3.3 | 口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。外面赤彩。 | 砂粒<br>明黄褐色<br>普通 | P 184 95%<br>北東壁付近床面 |
| 146 | 坏<br>土師器 | A 14.9<br>B 5.3 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎し，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反気味に立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内面及び口縁部内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 185 95%<br>中央部覆土下層 |
| 147 | 坏<br>土師器 | A 11.3<br>B 6.2<br>C 3.6 | 平底で突出気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 186 100%<br>中央部床面<br>外面煤付着 |
| 148 | 坏<br>土師器 | A 12.0<br>B 5.3<br>C 3.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>暗赤褐色<br>普通 | P 187 100%<br>中央部覆土下層<br>外面煤付着 |
| 149 | 坏<br>土師器 | A〔13.9〕<br>B 5.5<br>C 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ナデ。内面黒色処理。 | 砂粒<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 188 30%<br>中央部覆土中層 |
| 150 | 坏<br>土師器 | A〔13.1〕<br>B( 5.2) | 胴部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は緩やかに外反して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P 189 60%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 151 | 甕<br>土師器 | A〔 9.9〕<br>B( 4.2) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，中位で弱い稜をなす。 | 口縁部外面横ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 192 20%<br>北コーナー付近覆土中層 |
| 152 | 甕<br>須恵器 | B( 8.5) | 底部から頸部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，中位に2条の沈線をもち，その間に刺突文を施す。頸部は外反し，6条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。頸部内・外面及び体部内面上位横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ナデ。 | 砂粒・長石<br>オリーブ黒色<br>良好 | P 193 50%<br>北コーナー付近床面<br>体部外面上位及び内面下位，頸部内面自然釉 |
| 153 | 甕<br>須恵器 | | 甕の口縁部片。 | 巻き上げ・水挽き成形。2本の稜間に，9条の櫛描波状文を施す。 | 砂粒・小礫<br>灰色<br>良好 | TP13 5%<br>北コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 154 | 砥　石 | 15.7 | 7.3 | 1.9 | --- | 483.9 | 100 | 東コーナー付近覆土上層 | Q25　頁岩 |

**第22号住居跡**（第47図）

**位置**　調査区の北部，F11e5区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸2.92m，短軸2.60mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－54°－W。

**壁**　壁高は8～10cmで，外傾して立ち上がっている。

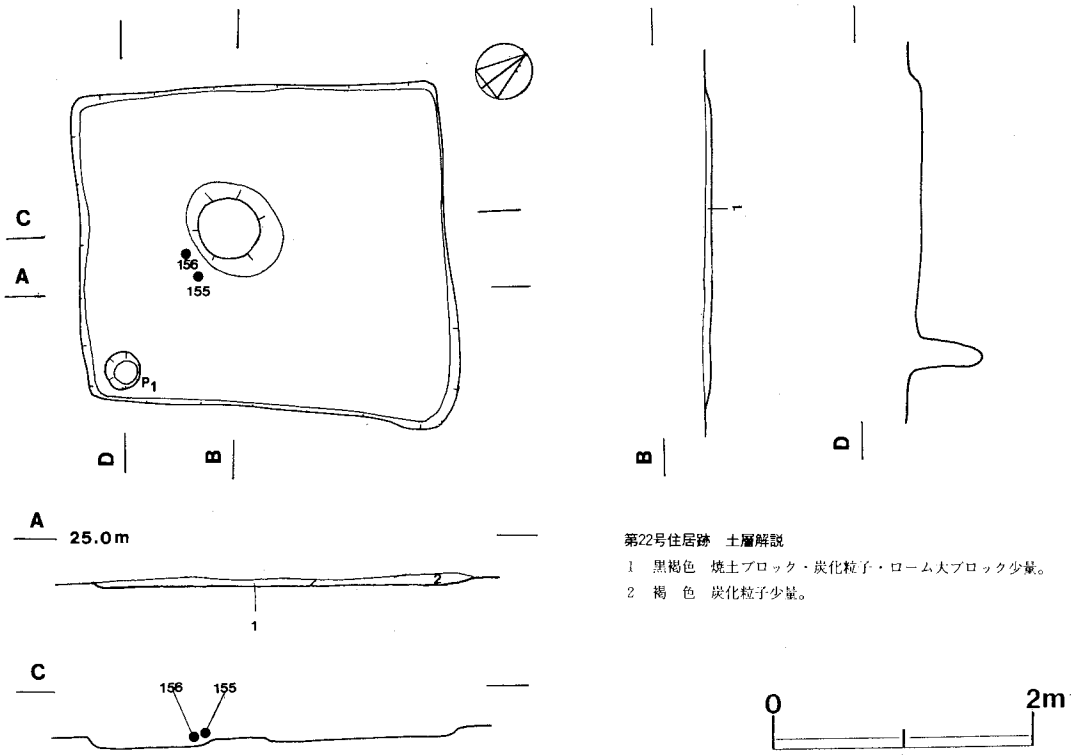
**床**　ほぼ平坦で比較的軟らかである。性格は不明であるが，中央部には径約60cmの円形状の高まりが検出されており，それと床との比高は約4cmである。

**ピット**　1か所（P1）検出されているが，性格は不明である。

**覆土**　2層からなる。堆積状況は不明である。

**遺物**　南西部から，土師器（甕2）・細片（251点），須恵器の細片（1点）が出土している。155の土師器の甕は，中央部の覆土上層から出土している。

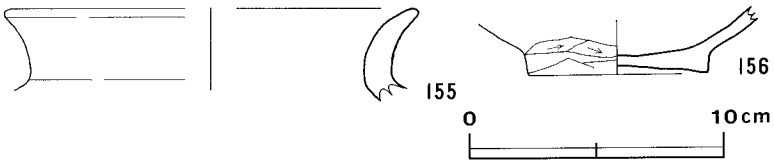
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第47図　第22号住居跡実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図<br>155 | 甕<br>土 師 器 | A〔16.3〕<br>B( 3.8) | 口縁部片。口縁部は外反し，器厚を減じて口唇部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 194　　5 %<br><br>中央部覆土上層 |
| 156 | 甕<br>土 師 器 | B( 2.7)<br>C　7.1 | 底部から胴部にかけての破片。上げ底で突出する。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P 195　　5 %<br><br>中央部覆土下層 |




第48図　第22号住居跡出土遺物実測図

**第23号住居跡**（第49・50図）

**位置**　調査区の北部，G11c7区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸8.30m，短軸8.25mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－56°－W。

**壁**　壁高は35～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅８～18cm，深さ４～18cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　25条（ａ～ｙ）検出されている。南東壁付近に２条（ａ，ｂ），南西壁付近に９条（ｃ～ｋ），北西壁付近に７条（ｌ～ｒ），北東壁付近に７条（ｓ～ｙ）検出され，長さ0.6～1.5m，上幅10～21cm，深さ４～17cm，断面形は「U」字状を呈し，一部は逆台形状になっている。

**床**　平坦で，中央部は踏み固められて硬い。南東壁中央部から南コーナー寄りに不定形を呈している出入口部と考えられる高まりがあり，その中央部に梯子ピット（$P_9$,$P_{10}$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は６～12cmである。

**ピット**　16か所（$P_1$～$P_{16}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径25～79cmのほぼ円形を呈し，深さ15～84cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は長径69cm，短径46cmの楕円形を呈し，深さは９cmであり，$P_{10}$は長径37cm，短径31cmの楕円形を呈し，深さは７cmであり，$P_9$,$P_{10}$ともに出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{11}$は壁柱穴と考えられる。$P_{12}$～$P_{16}$の性格は不明である。

**炉**　２基検出され，どちらも地床炉である。炉Ａは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径83cm，短径80cmの不整円形を呈し，床面を約16cm掘り窪められている。炉床は，約10cmの厚さに暗赤褐色に焼けており，よく使用されたことがわかる。炉Ｂは，炉Ａの南東側に検出されている。平面形は長径82cm，短径72cmの不整楕円形を呈し，床面を約８cm掘り窪められている。炉床

は，約８㎝の厚さに暗赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，長径99㎝，短径78㎝の不整楕円形状を呈し，深さは81㎝である。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム粒子を少量ずつ含む黒褐色土や暗褐色土が堆積している。

**覆土**　31層からなる。各層に焼土粒子，炭化粒子，ロームブロック等が混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為的な堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕２，坏７，埦１，小形埦１）・細片（1696点），須恵器（坏蓋２）・細片（３点）が多量に出土し，石製品，鉄製品も出土している。また，北コーナーの床面からは，タケ・ササ類の炭化物が出土し，東コーナー付近及び南東壁付近の床面からも炭化材が出土し，さらに貯蔵穴の底部からも炭化材が出土している。160の土師器の坏は，西コーナー付近の覆土下層から，正位の状態で出土している。169の須恵器の坏蓋は，西コーナー付近の覆土下層から出土している。184～187の臼玉は中央部の床面から出土している。175の勾玉は東コーナー付近の覆土中層から出土している。188の刀子は南東壁の中央付近の覆土下層から，183のガラス玉は北西壁付近の床面から出土している。

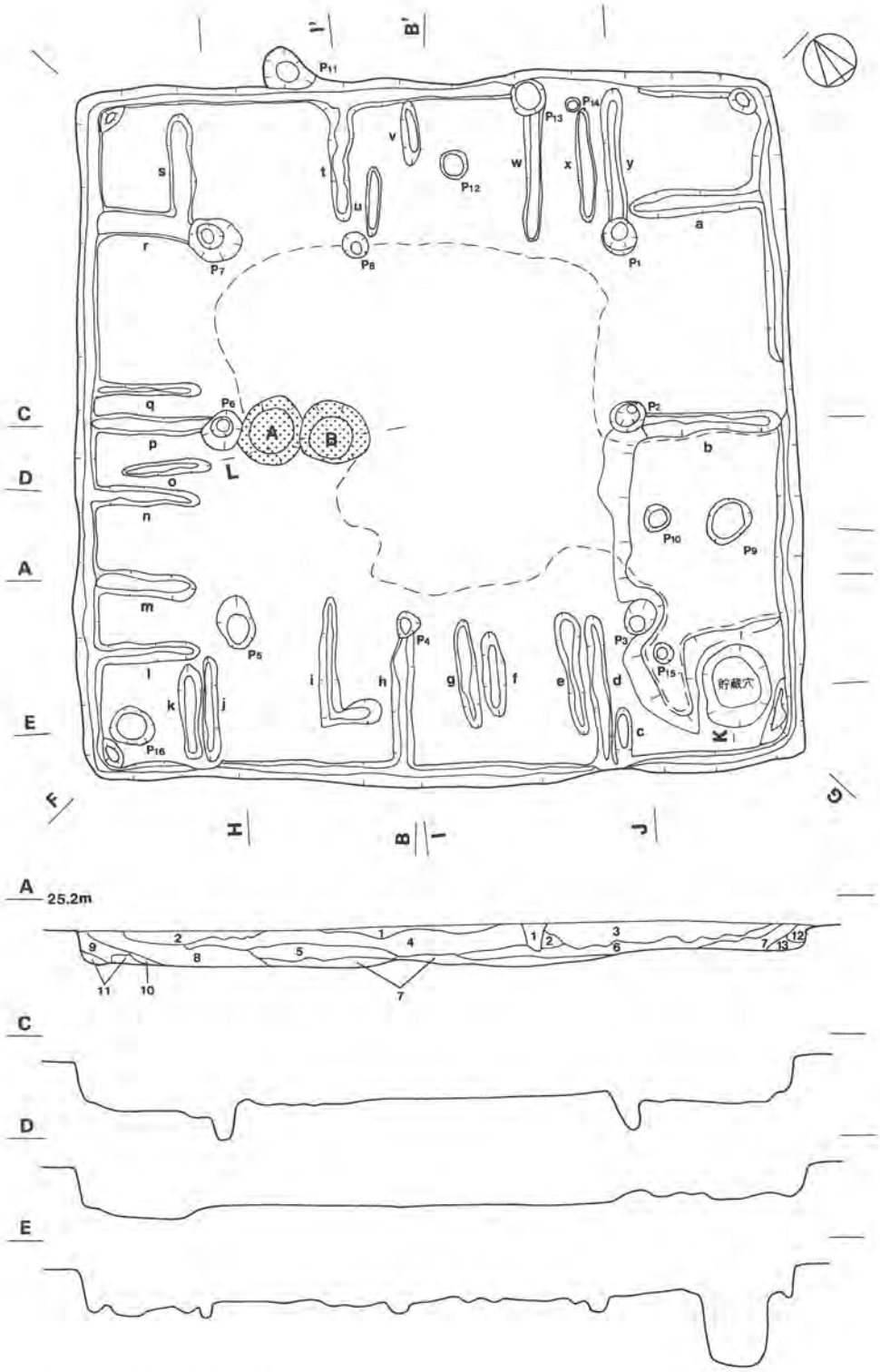
**所見**　本跡は，炭化材や焼土が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第23号住居跡出土遺物観察表**

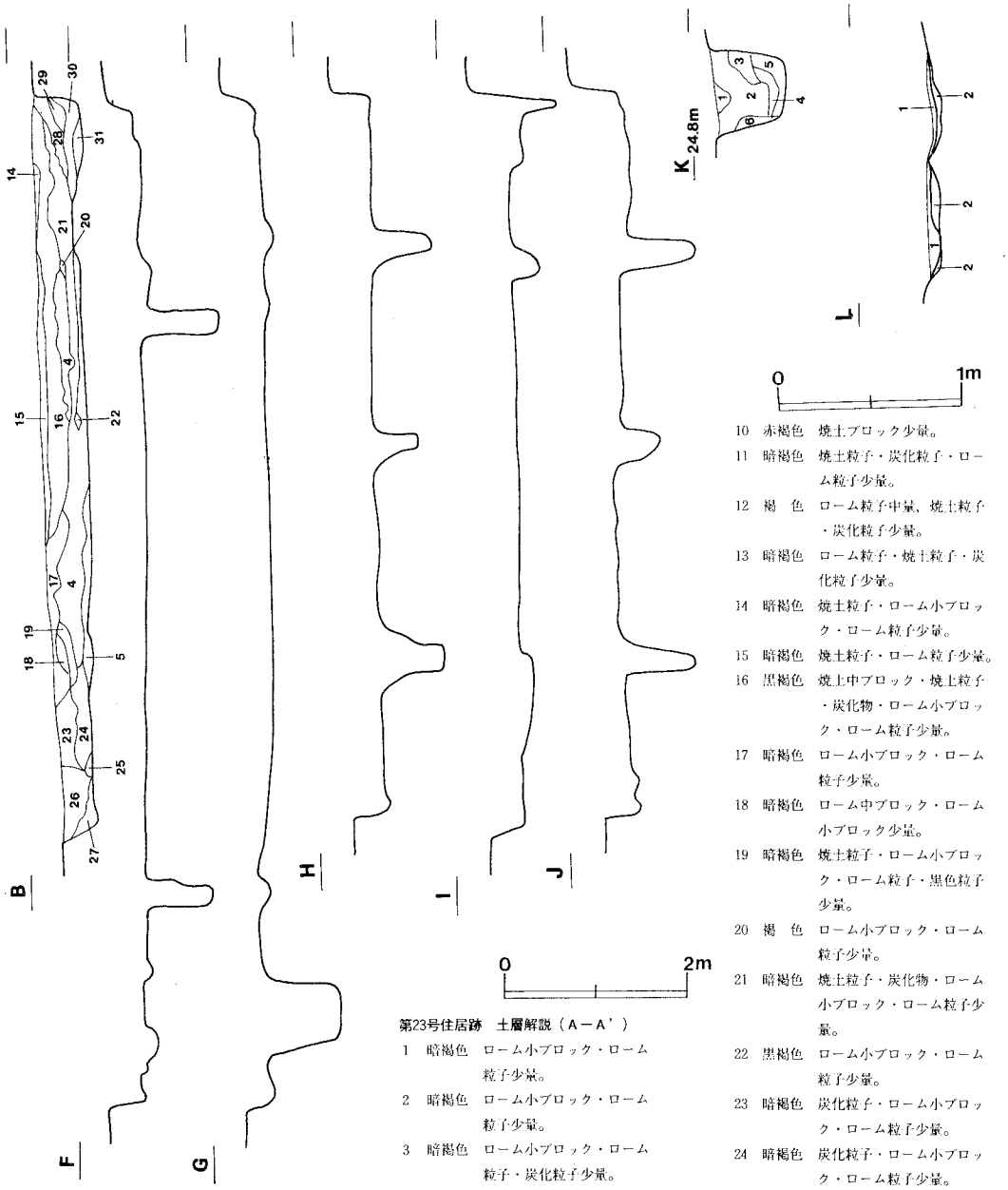
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第51・52図<br>157 | 甕<br>土師器 | A 18.3<br>B( 4.1) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 196　15%<br>南コーナー壁際覆土下層 |
| 158 | 甕<br>土師器 | A〔27.4〕<br>B( 3.7) | 口縁部片。口縁部は外反し，口唇部は水平に伸びる。 | 口唇部内・外面横ナデ。口縁部外面ヘラ削り。 | 砂粒<br>褐灰色<br>普通 | P 197　5 %<br>中央部覆土下層 |
| 159 | 埦<br>土師器 | A〔11.8〕<br>B( 5.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>暗赤褐色<br>普通 | P 207　15%<br>中央部覆土中層<br>外面煤付着 |
| 160 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B 5.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもち，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 198　100%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 161 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 4.6<br>C 4.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外そぎ状でほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 199　100%<br>南コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 162 | 坏<br>土師器 | A〔13.4〕<br>B 5.7 | 体部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石<br>にぶい赤色<br>普通 | P 200　75%<br>南西壁付近覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 163 | 坏<br>土師器 | A 13.9<br>B 5.8<br>C 4.0 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ削り，内面ナデ。底部ヘラ削り。口縁部赤彩。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P202 60%<br>西コーナー壁付近覆土下層 |
| 164 | 坏<br>土師器 | A 11.9<br>B 5.2<br>C 3.6 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P203 60%<br>西コーナー壁付近覆土下層 |
| 165 | 坏<br>土師器 | A〔14.1〕<br>B 5.6<br>C 4.0 | 胴部から口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P204 50%<br>南コーナー壁付近覆土下層 |
| 166 | 坏<br>土師器 | A〔13.1〕<br>B 6.8<br>C 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P205 30%<br>西コーナー壁際覆土下層 |
| 167 | 小形埦<br>土師器 | A〔 7.4〕<br>B( 6.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P206 30%<br>南東壁付近覆土中層 |
| 168 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔11.8〕<br>B( 3.8) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に稜をもつ。端部は内傾する平面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・小礫<br>灰黄色<br>良好 | P208 5%<br>北西壁際覆土中層<br>天井部自然釉 |
| 169 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔11.8〕<br>B( 3.6) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に稜をもつ。端部は内傾する平面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。天井部上位回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰黄色<br>良好 | P209 5%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 170 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>オリーブ灰色<br>良好 | TP14 5%<br>北コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 171 | 凹石 | 9.8 | 7.9 | 2.7 | --- | 117.6 | 100 | 中央部覆土下層 | Q26 泥岩 |
| 172 | 凹石 | ( 5.4) | ( 5.5) | 2.1 | --- | (25.5) | 20 | 南西コーナー付近覆土下層 | Q27 泥岩 |
| 173 | 凹石 | ( 4.0) | ( 2.6) | 2.4 | --- | (32.6) | 20 | 北西コーナー付近覆土下層 | Q28 泥岩 |
| 174 | 凹石 | ( 4.2) | ( 6.2) | 1.8 | --- | (30.5) | 20 | 北コーナー壁際覆土中層 | Q29 泥岩 |
| 175 | 勾玉 | ( 1.9) | 1.0 | 1.2 | --- | ( 3.2) | 40 | 東コーナー付近覆土中層 | Q33 翡翠 |
| 176 | 臼玉 | 0.7 | 0.6 | 0.6 | 2.0 | 0.3 | 100 | 南東壁付近床面 | Q34 滑石 |
| 177 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 東コーナー付近覆土下層 | Q35 滑石 |
| 178 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南東壁付近床面 | Q36 滑石 |
| 179 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 南東壁付近床面 | Q37 滑石 |
| 180 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南東壁付近床面 | Q38 滑石 |
| 181 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 東コーナー付近床面 | Q39 滑石 |
| 182 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北コーナー付近床面 | Q40 滑石 |
| 183 | ガラス玉 | 0.4 | 0.4 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q41 |
| 184 | 臼玉 | 0.5 | ( 0.3) | 0.3 | 〔 2.0〕 | 0.1 | 60 | 中央部床面 | Q42 滑石 |




第49図　第23号住居跡実測図




第23号住居跡　貯蔵穴土層解説

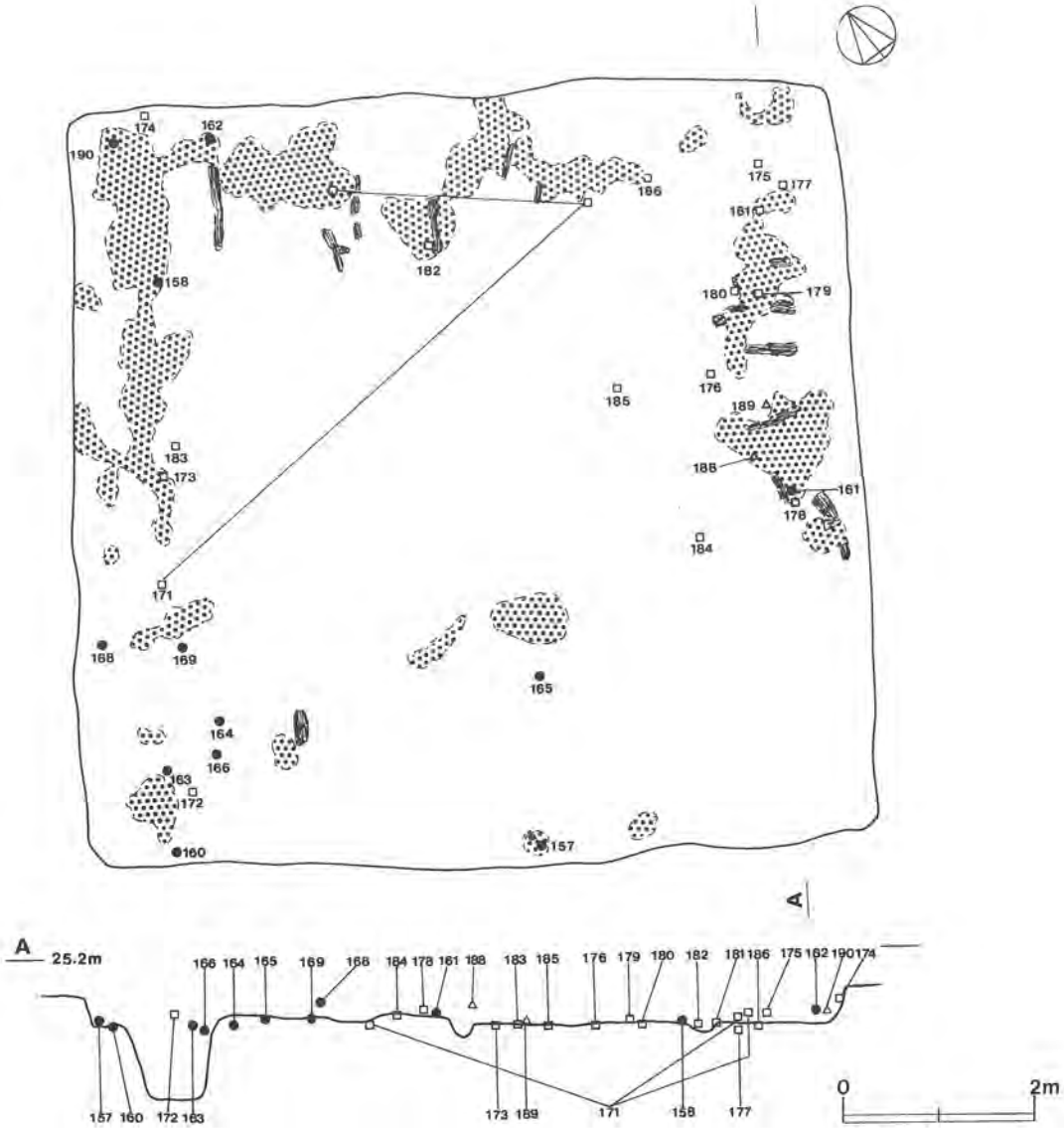
1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第23号住居跡　炉土層解説

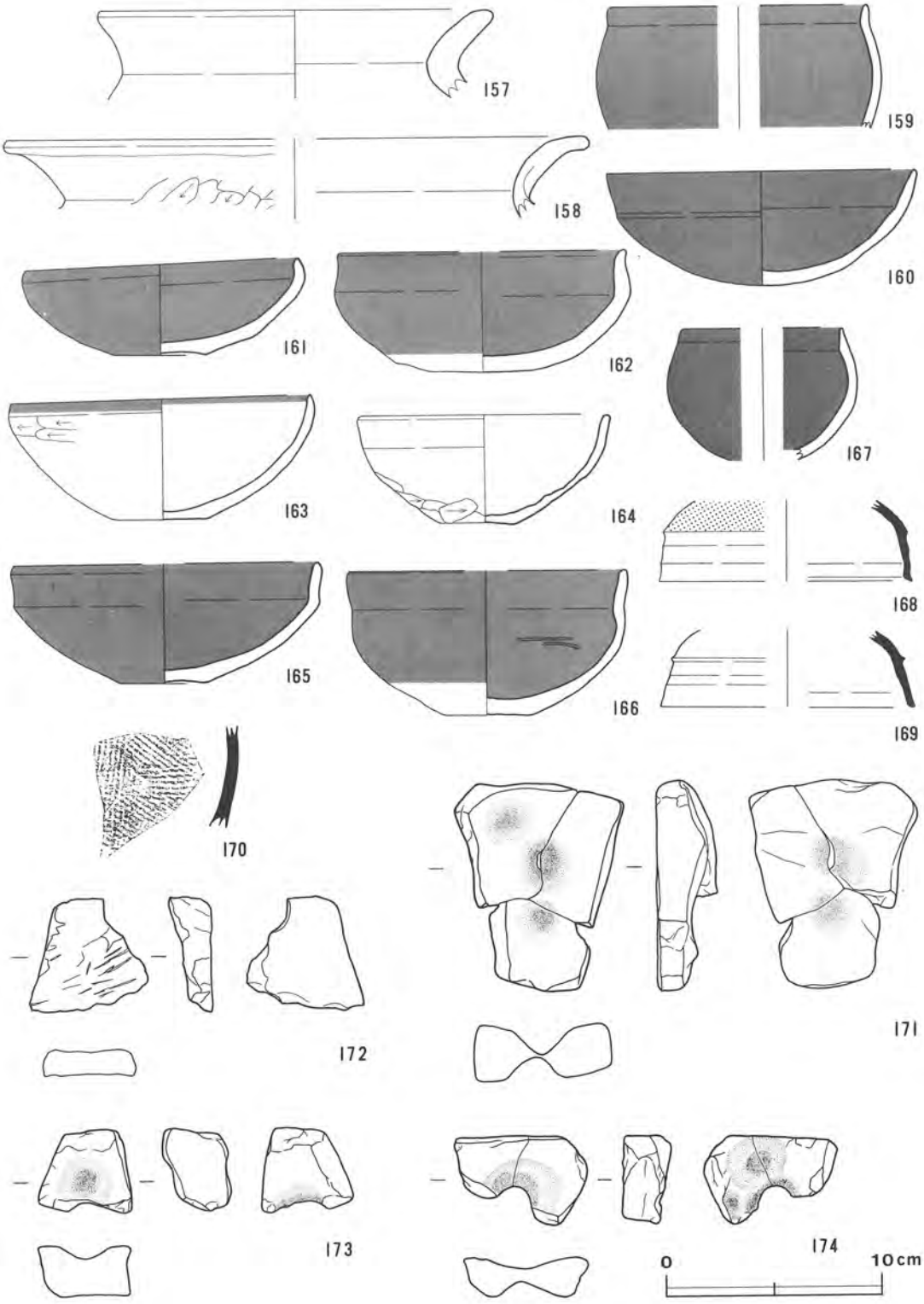
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。

第23号住居跡　土層解説（A－A'）

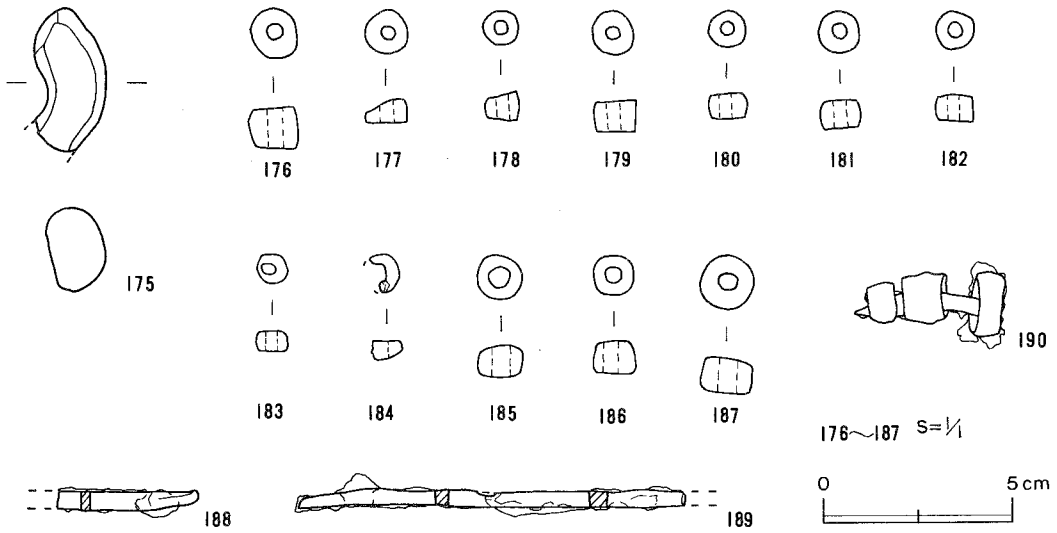
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
5　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
6　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
7　黒褐色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
9　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
10　赤褐色　焼土ブロック少量。
11　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
12　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
13　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
14　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
15　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量。
16　黒褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
17　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
18　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
19　暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色粒子少量。
20　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
21　暗褐色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
22　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
23　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
24　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
25　黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量。
26　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
27　暗褐色　ローム中量，ローム小ブロック少量。
28　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
29　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
30　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量。
31　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量。




第50図　第23号住居跡出土遺物位置図




第51図　第23号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)




第52図　第23号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 185 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q43　滑石 |
| 186 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q44　滑石 |
| 187 | 臼　玉 | 0.8 | 0.8 | 0.5 | 2.0 | 0.2 | 100 | 覆土 | Q45　滑石 |
| 188 | 刀　子 | (3.8) | 0.2 | 0.2 | --- | (1.6) | 20 | 南東壁付近覆土下層 | M7 |
| 189 | 不明鉄製品 | (10.4) | 0.5 | 0.5 | --- | (4.9) | --- | 南東壁付近覆土下層 | M8 |
| 190 | 不明鉄製品 | (4.0) | (1.7) | --- | --- | (5.0) | --- | 南西壁付近覆土下層 | M9 |

**第24号住居跡**（第53・54図）

**位置**　調査区の北部，G12g1区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸8.43m，短軸8.22mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－51°－W。

**壁**　壁高は42～60cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅10～20cm，深さ4～12cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　14条（a～n）検出されている。南東壁付近は2条（a，b），南西壁付近は3条（c～e），北西壁付近は4条（f～i），北東壁付近は5条（j～n）検出され，長さ1.1～1.6m，上幅9～26cm，深さ8～12cm，断面形は「U」字状を呈し，一部逆台形状となっている。P11～P14の小穴は，径9～14cmのほぼ円形を呈し，間仕切溝との関連性がみられる。

**床**　ほぼ平坦で，南東壁中央部から北西壁中央部にかけては硬く締まっている。南東壁中央部からやや南コーナー寄りに出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出されており，その中央か

らやや北東寄りに梯子ピット（$P_8$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約6㎝である。

**ピット**　19か所（$P_1$～$P_{19}$）検出されている。$P_1$～$P_7$は，径18～69㎝のほぼ円形を呈し，深さは12～74㎝で主柱穴と考えられる。$P_8$は，径約33㎝の円形を呈し，深さは22㎝で，底面は硬くしまっており，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_9$は，壁柱穴と思われる。$P_{10}$～$P_{19}$の性格は不明である。

**炉**　2基検出され，どちらも地床炉である。炉Aは，中央部に検出され，平面形は長径96㎝，短径55㎝の楕円形を呈し，床面を約9㎝掘り窪められている。炉床は暗赤褐色に焼けている。炉Bは，中央から北西よりの$P_4$と$P_5$の主柱穴間に検出され，平面形は長径103㎝，短径38㎝の不整楕円形を呈し，床面を約19㎝掘り窪められている。炉床は暗赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南東壁際の南コーナー寄りから検出され，平面形は，長径90㎝，短径69㎝の楕円形を呈し，深さは66㎝である。底面は，南から北に傾斜し，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム粒子を少量含む黒褐色土や褐色土が堆積している。貯蔵穴Bは，南コーナーから検出され，平面形は，長径96㎝，短径84㎝の不整楕円形を呈し，深さは46㎝である。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，炭化粒子，ロームの中・小ブロックやローム粒子を含む黒褐色土，暗褐色土が堆積している。

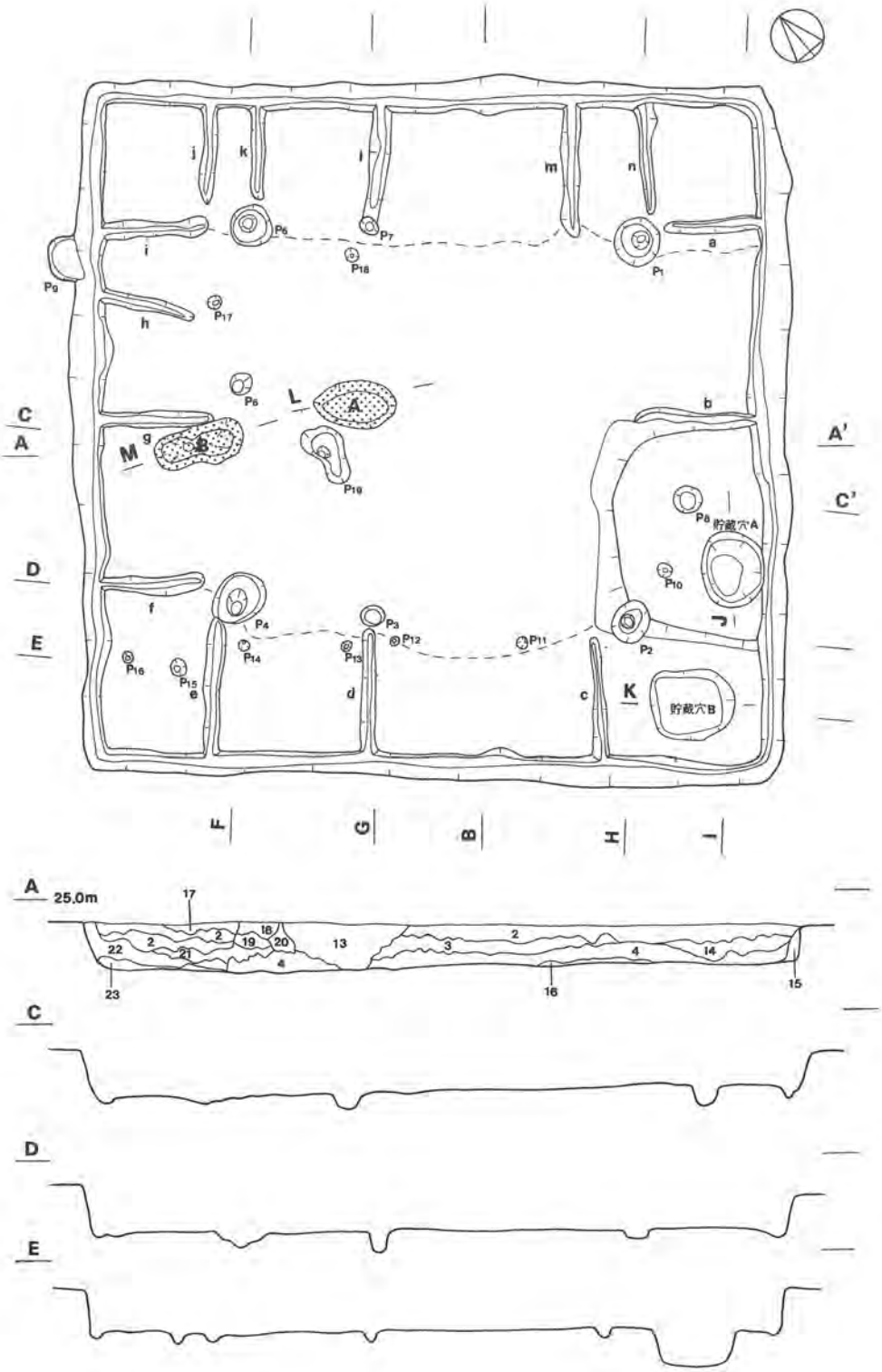
**覆土**　23層からなる。各層にはロームブロックが混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕2，壺1，坏13，埦3）・細片（1070点），須恵器（高坏1）・細片（1点）が多量に出土し，石製品，土製品も出土している。191の土師器の甕は，南東壁際の覆土中層から，破片の状態で出土している。213の臼玉は貯蔵穴Bの覆土中層から出土している。212の勾玉は南東壁際の床面から出土している。

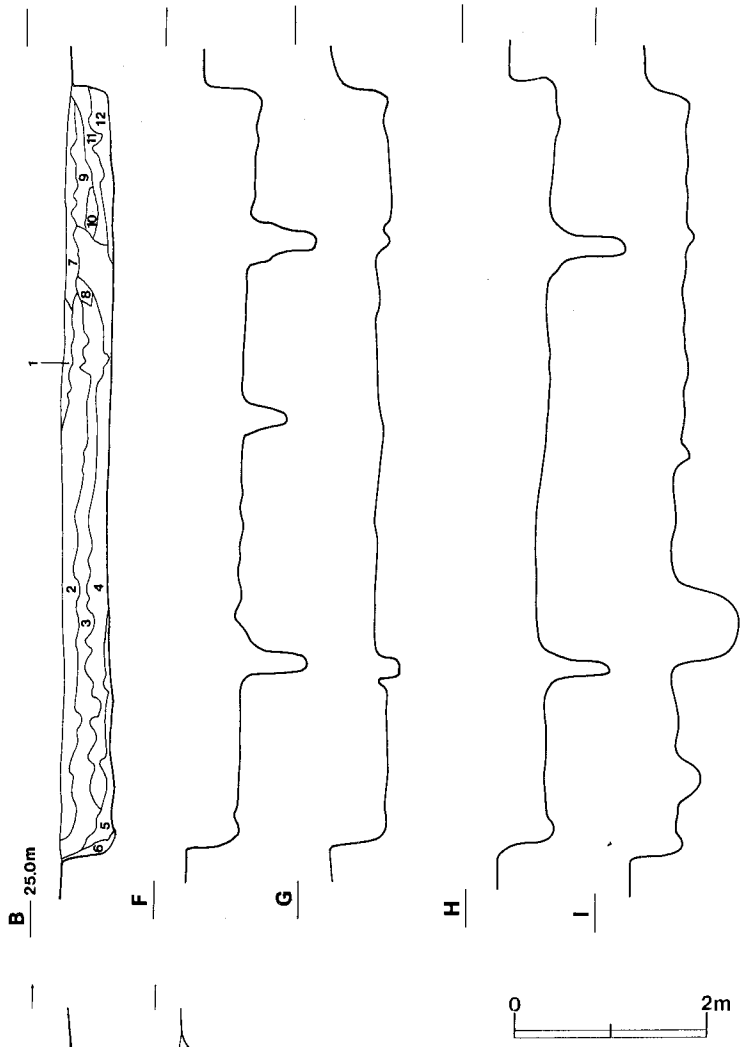
**所見**　遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

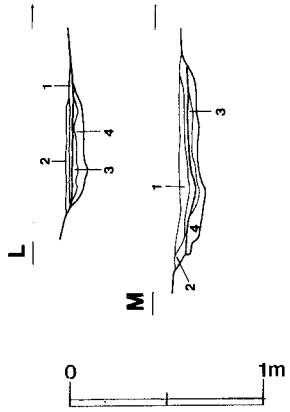
**第24号住居跡出土遺物観察表**

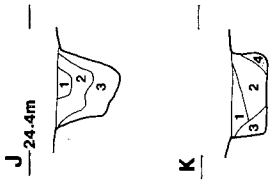
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第55・56図<br>191 | 甕<br>土師器 | B(18.6)<br>C 6.6 | 口縁部欠損。上げ底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラナデ。胴部内面ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P211　60%<br>南東壁際覆土中層<br>外面煤付着 |
| 192 | 甕<br>土師器 | A 18.7<br>B( 8.7) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや張りがあり，口縁部は外反し，口唇部を水平につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラナデ。内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P212　10%<br>東部覆土下層 |




第53図　第24号住居跡実測図




**第24号住居跡　炉A・B土層解説**

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
6　明褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
8　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

**第24号住居跡　土層解説**

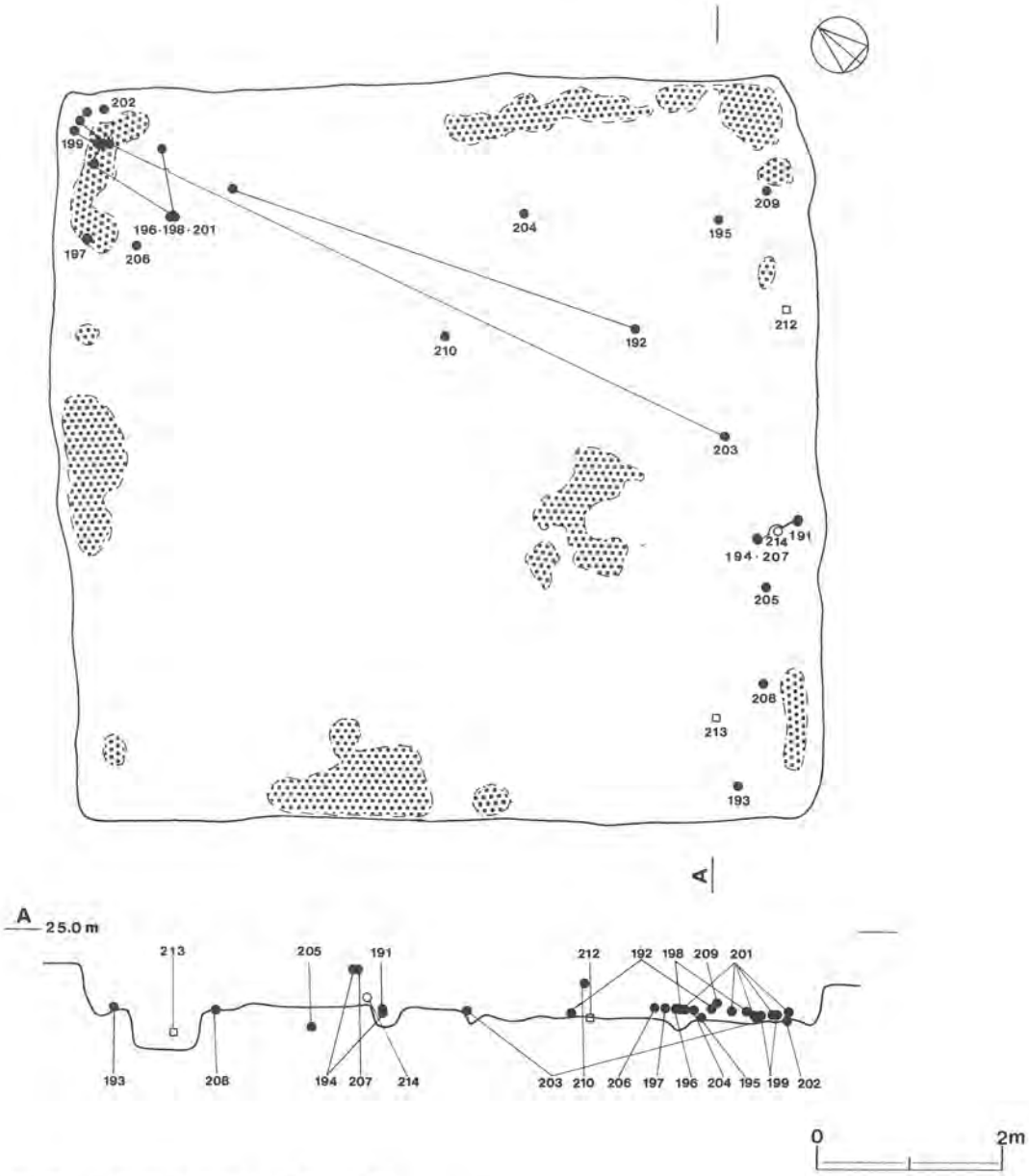
1　暗褐色　ローム粒子少量。
2　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
5　暗褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
6　暗褐色　焼土粒子少量。
7　黒褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
8　暗褐色　ローム粒子少量。
9　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
10　暗褐色　ローム粒子少量。
11　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量。
12　黒褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量。
13　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
14　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
15　褐　色
16　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量。
17　黒褐色　ローム大ブロック多量，ローム粒子中量。
18　暗褐色　ローム粒子多量。
19　黒褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量。
20　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
21　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量。
22　褐　色　ローム中ブロック・黒色粒子少量。
23　褐　色　焼土中ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック少量。

**第24号住居跡　貯蔵穴A土層解説**

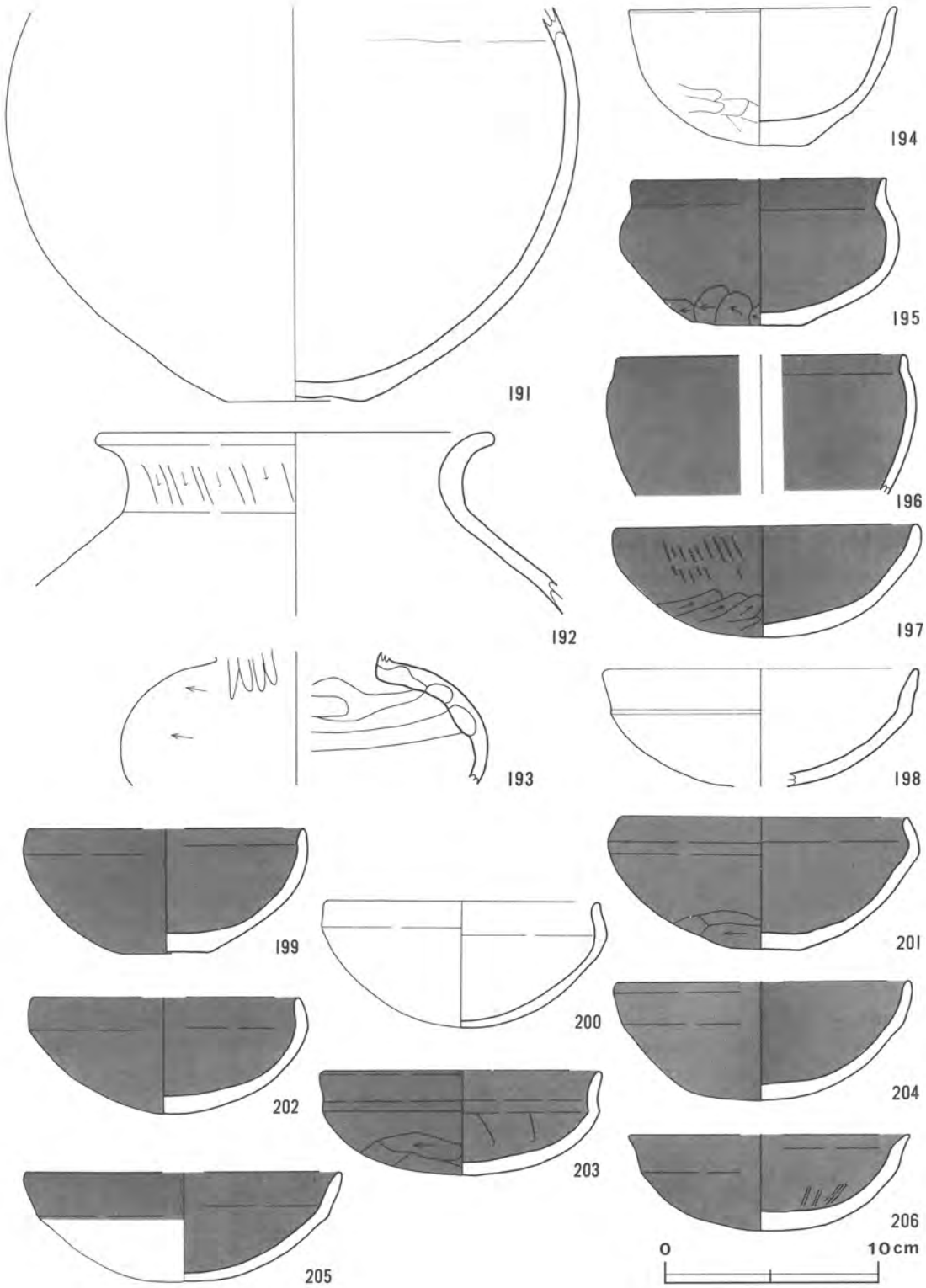
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ーム粒子少量。

**第24号住居跡　貯蔵穴B土層解説**

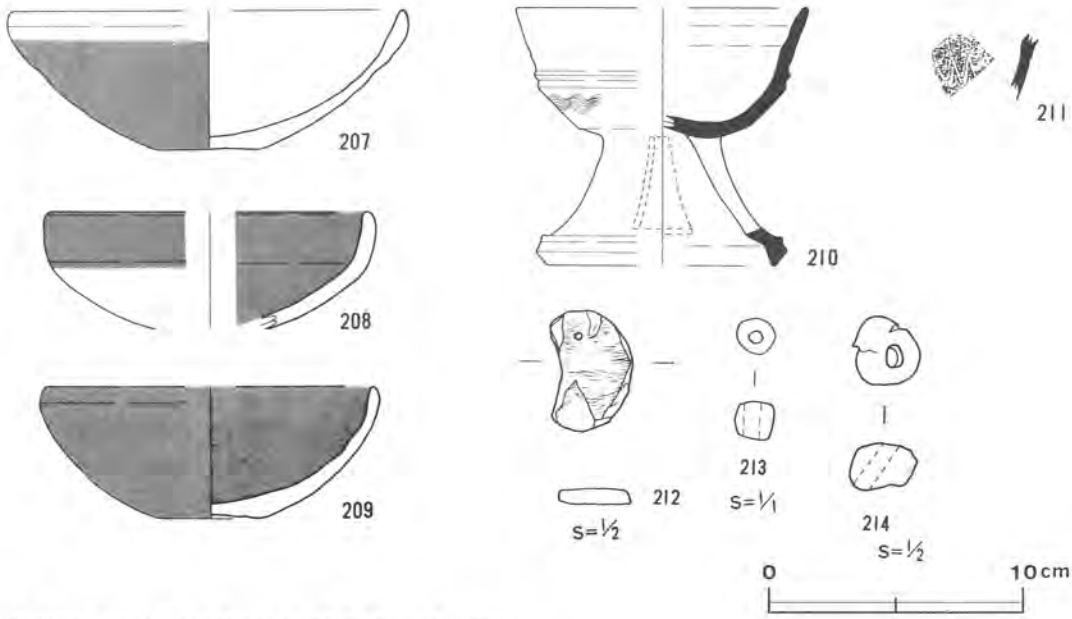
1　黒褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土少量。
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土少量。
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量。




第54図　第24号住居跡出土遺物位置図




第55図　第24号住居跡出土遺物実測図(1)




第56図　第24号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 193 | 壺<br>土師器 | B( 6.3) | 胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面中位ヘラ削り後ナデ。胴部外面上位ヘラ磨き及びヘラナデ。胴部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・石英・長石<br>橙色<br>普通 | P 213　10%<br>南コーナー覆土下層 |
| 194 | 埦<br>土師器 | A 12.4<br>B 6.6<br>C 4.6 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面及び底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>灰褐色<br>普通 | P 214　100%<br>南東壁際覆土下層 |
| 195 | 埦<br>土師器 | A〔12.1〕<br>B 7.0<br>C 5.3 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。二次焼成。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 225　50%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 196 | 埦<br>土師器 | A〔13.4〕<br>B( 6.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎する。口縁部は内そぎ状で，ほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 229　20%<br>北コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 197 | 坏<br>土師器 | A 14.1<br>B 5.4 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 215　90%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 198 | 坏<br>土師器 | A 14.8<br>B( 5.6) | 口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | P 216　80%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 199 | 坏<br>土師器 | A〔12.9〕<br>B 5.9<br>C 4.0 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 217　80%<br>北コーナー壁際覆土下層 |
| 200 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 6.0 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P 218　80%<br>南部覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | 坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 6.3<br>C 3.5 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境にかけての弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 219　75%<br>北コーナー壁際覆土下層 |
| 202 | 坏<br>土師器 | A〔12.7〕<br>B 5.6 | 胴部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 220　60%<br>北コーナー壁際覆土下層 |
| 203 | 坏<br>土師器 | A 13.3<br>B 5.0 | 胴部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 221　80%<br>北コーナー壁際覆土下層 |
| 204 | 坏<br>土師器 | A〔13.6〕<br>B 5.7 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境にかけての弱い稜をもつ。口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P 222　50%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 205 | 坏<br>土師器 | A〔14.8〕<br>B 5.2 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。口縁部内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 224　50%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 206 | 坏<br>土師器 | A〔13.2〕<br>B 4.6 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内そぎ状で外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 223　50%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 207 | 坏<br>土師器 | A〔15.5〕<br>B 5.6<br>C〔4.0〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 226　40%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 208 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B(4.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。内面及び口縁部内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 227　30%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 209 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B 5.3<br>C〔4.0〕 | 底部から口縁部にかけての破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 228　20%<br>東コーナー壁付近覆土下層 |
| 210 | 高坏<br>須恵器 | A〔11.4〕<br>B 10.3<br>D〔8.8〕 | 脚部及び坏部の破片。脚部は外下方に下り，裾部は僅かに内下方へ屈曲する。坏部は内彎して立ち上がり，外面中位に2条の凸帯とその下に6条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。坏部の外面下端回転ヘラ削り。坏部内・外面横ナデ。脚部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰色<br>良好 | P 231　10%<br>中央部覆土中層 |
| 211 | 甕<br>須恵器 | | 甕の頸部片。 | 外面6条の櫛描波状文。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP15　5%<br>覆土<br>内面自然釉 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 212 | 石製模造品勾玉 | 3.2 | 2.2 | 0.4 | --- | 5.0 | 100 | 南東壁際床面 | Q46　滑石 |
| 213 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.6 | 2.0 | 0.1 | 100 | 貯蔵穴B覆土中層 | Q47　滑石 |
| 214 | 球状土錘 | 1.3 | 1.9 | --- | 5.0 | 3.6 | 100 | 南コーナー付近覆土下層 | DP5 |

**第25号住居跡**（第58・59図）

**位置**　調査区の北部，G11f$_5$区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸6.88m，短軸6.64mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－46°－W。

**壁**　壁高は55～73cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅15～20cm，深さ8～12cmである。断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　7条（a～g）検出されている。南西壁付近に2条(a，b)，北西壁付近に1条(c)，北東壁付近に4条（d～g）検出され，長さ0.9～1.5m，上幅14～34cm，深さ5～13cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，南東壁中央部の出入口部から北西壁中央部にかけては硬くしまっている。南東壁中央部には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，その中央付近に梯子ピット（P$_5$）が検出されている。出入口部の高まりと床との比高は約8cmである。

**ピット**　8か所（P$_1$～P$_8$）検出されている。P$_1$～P$_4$は，長径43～63cm，短径36～42cmの楕円形を呈し，深さ56～62cmで主柱穴と考えられる。P$_5$は，長径44cm，短径16cmの不定形を呈し，深さ17cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。P$_6$～P$_8$の性格は不明である。

**炉**　2基検出され，いずれも地床炉である。炉Aは，中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径80cm，短径67cmの不整楕円形を呈し，床面を約6cm掘り窪められている。炉床は明褐色に焼けている。炉Bは，中央から北東寄りのP$_1$とP$_4$の主柱穴間に検出され，平面形は長径48cm，短径36cmの楕円形を呈し，床面を約3cm掘り窪められている。炉床は，厚さ4cmにわたり赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　東コーナーから検出されている。平面形は，長径99cm，短径78cmの不整楕円形で，深さは64cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴内には，焼土粒子，炭化粒子，ロームの中・小ブロックやローム粒子を少量含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

**覆土**　15層からなる。各層に焼土やロームの小ブロックが混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為的な堆積と思われる。

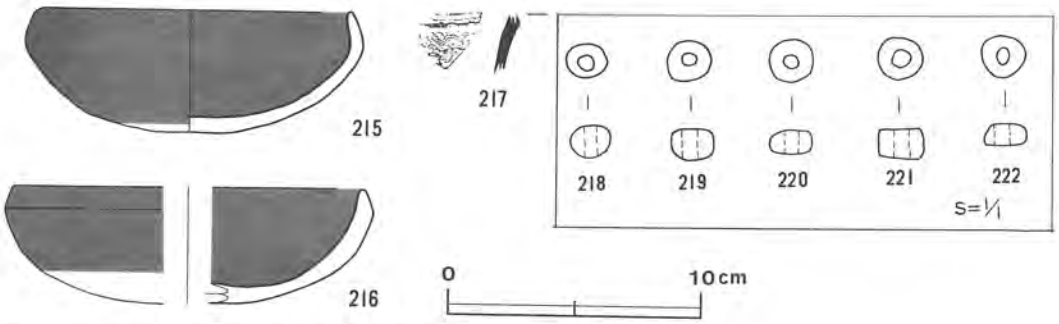
**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（坏2）・細片（1097点），須恵器の細片（1点）が出土している。その他，石製品や炭化物が出土し，炭化材が，壁際の床面から少量出土している。215の土師器の坏は，東コーナー付近の覆土下層から出土している。219～222の臼玉は,西コーナー付近の床面から，218の臼玉は中央部の床面から出土している。

**所見**　本跡は，多量の焼土と，焼土の下位から炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

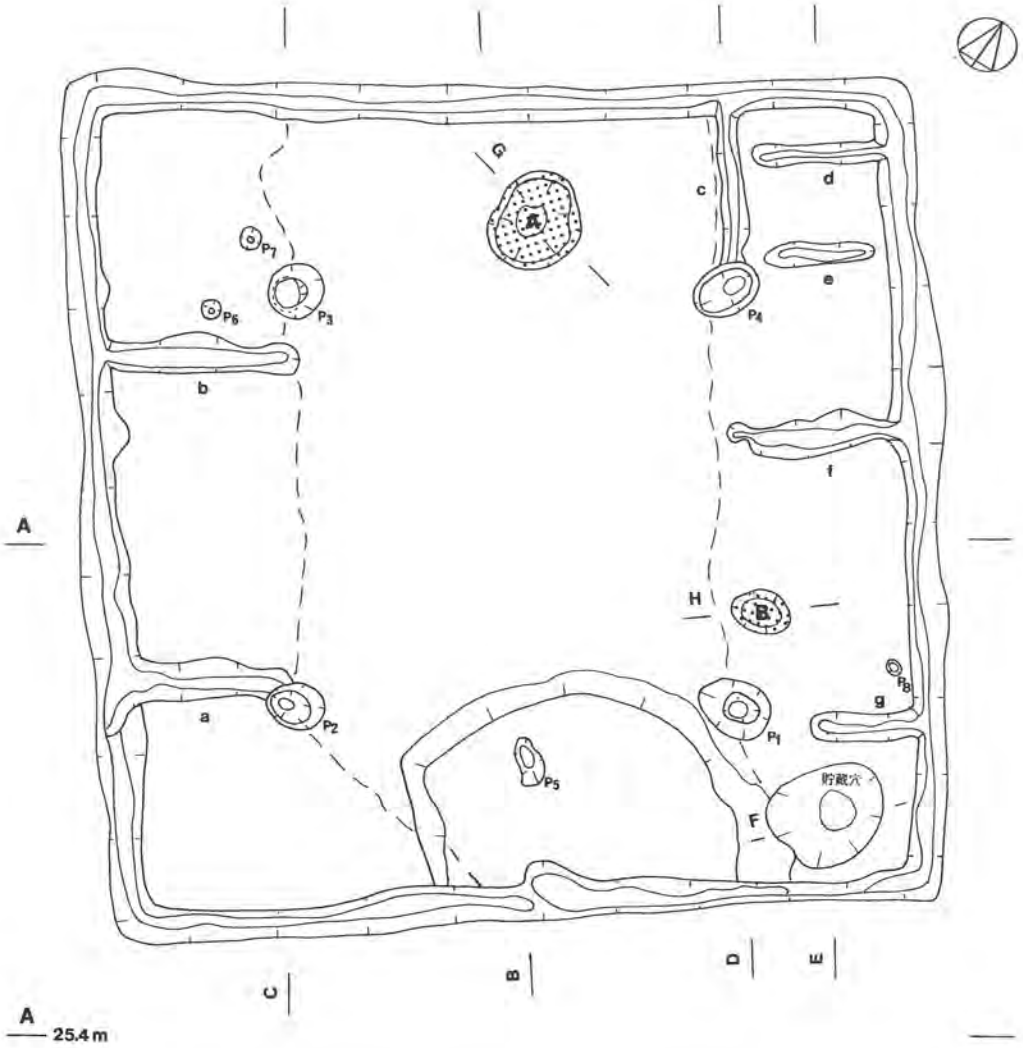
## 第25号住居跡出土遺物観察表

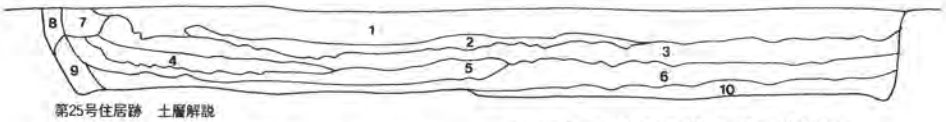
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第57図<br>215 | 坏<br>土師器 | A 12.3<br>B 4.9 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 232　50%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 216 | 坏<br>土師器 | A〔14.0〕<br>B( 4.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外そぎ状で，直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P 233　20%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 217 | 甕<br>須恵器 | | 甕の頸部片。 | 外面櫛描波状文。内面横ナデ。 | 砂粒<br>灰白色<br>良好 | TP16　5%<br>覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 218 | 臼玉 | 0.4 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q50　滑石 |
| 219 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 西コーナー付近床面 | Q51　滑石 |
| 220 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 西コーナー付近床面 | Q52　滑石 |
| 221 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 西コーナー付近床面 | Q53　滑石 |
| 222 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.5 | 2.0 | 0.1 | 100 | 西コーナー付近床面 | Q54　滑石 |




第57図　第25号住居跡出土遺物実測・拓影図

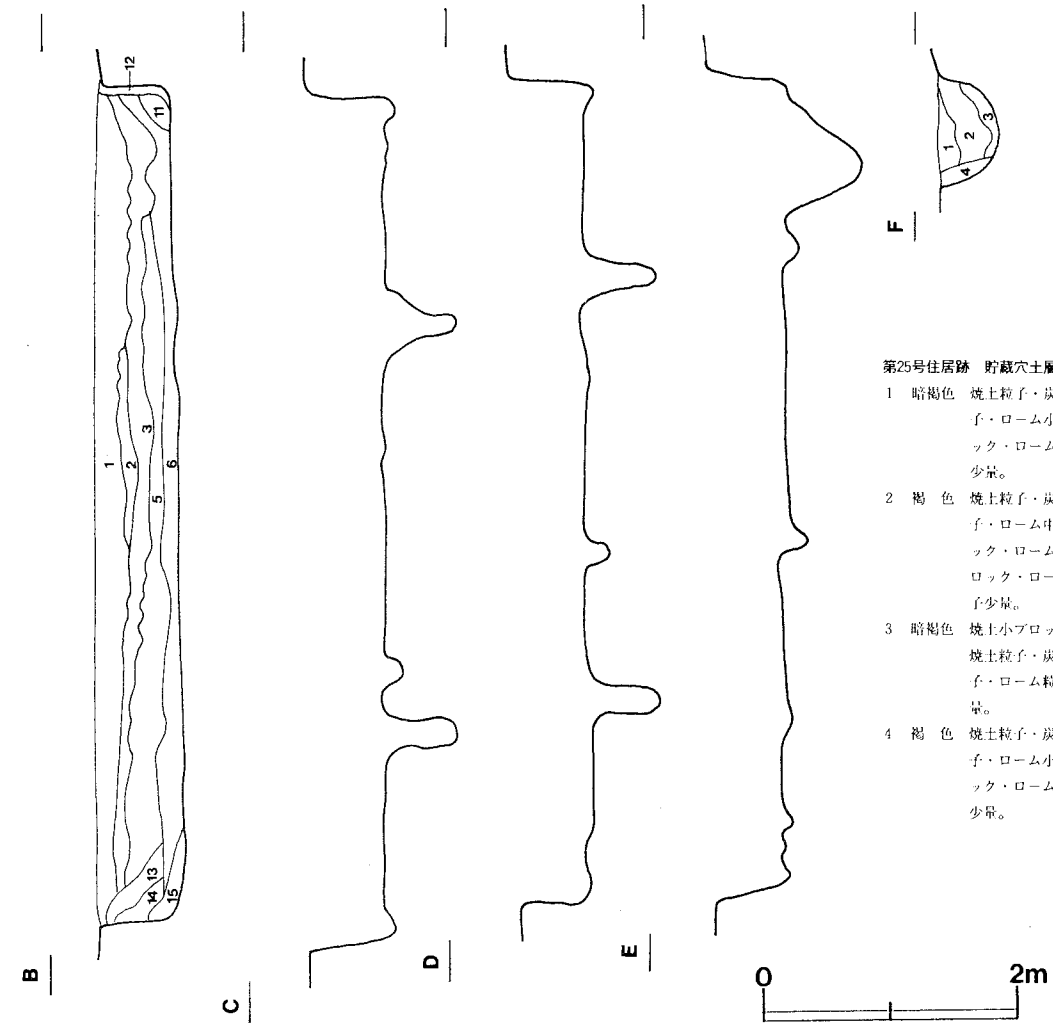



第25号住居跡　土層解説

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
4　灰褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
7　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
9　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
10　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
11　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
12　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
13　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
14　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
15　黒褐色　焼土小ブロック・・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第58図　第25号住居跡実測図



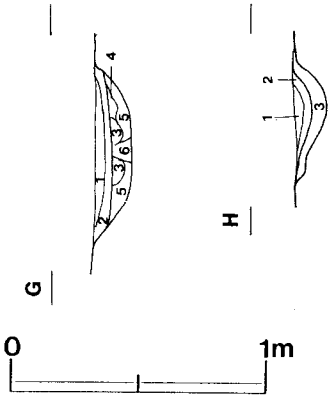

**第25号住居跡　貯蔵穴土層解説**

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

3　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。




**第25号住居跡　炉A土層解説**

1　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。

2　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

3　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。

4　赤褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック多量，焼土粒子少量。

5　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。

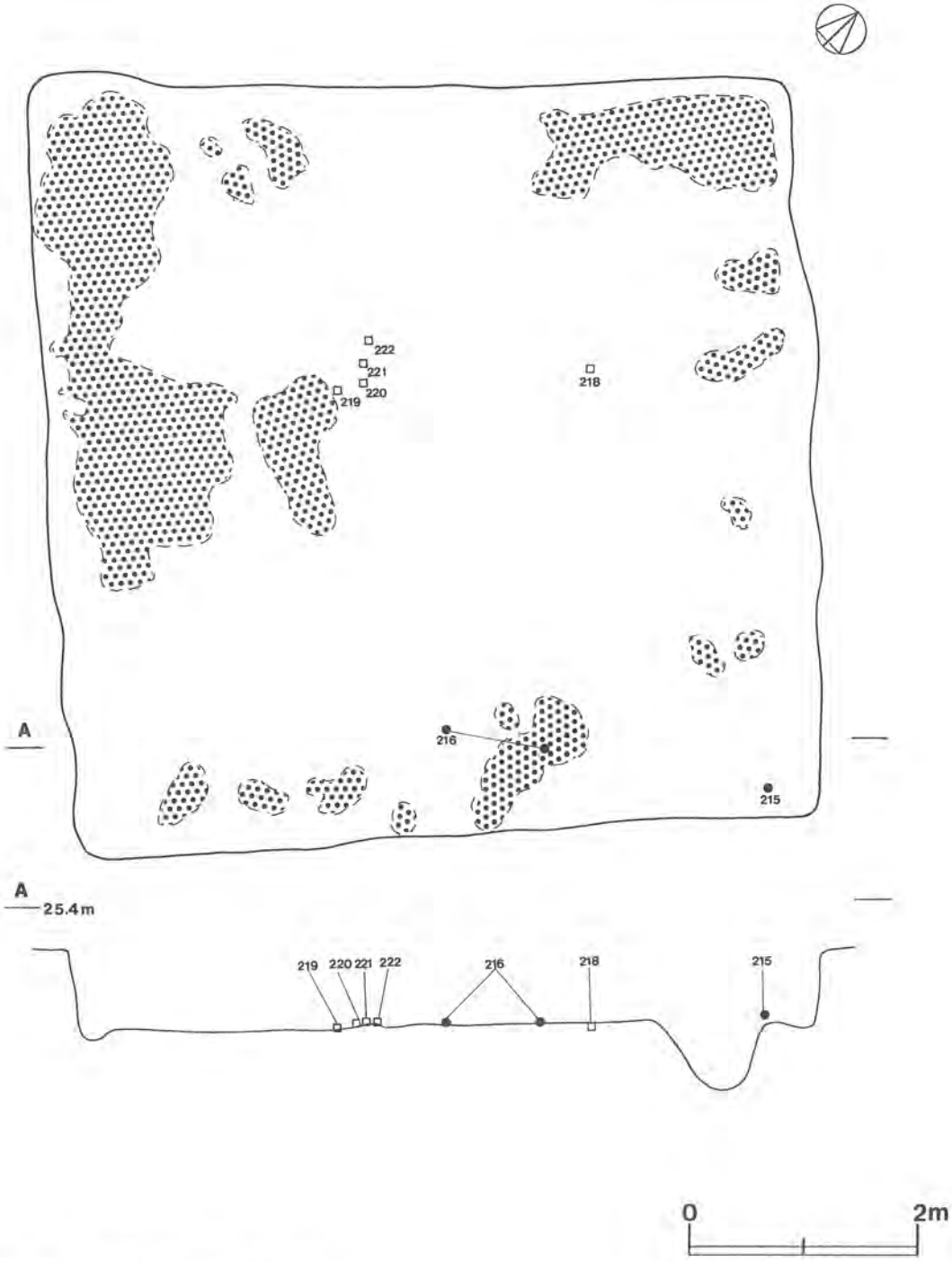
6　褐　色　焼土粒子少量。

**第25号住居跡　炉B土層解説**

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

2　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子多量。

3　明 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子少量。




第59図　第25号住居跡出土遺物位置図

**第26号住居跡**（第60図）

**位置**　調査区の北部，G11j6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸2.75m，短軸2.47mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－13°－W。

**壁**　壁高は14～21cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

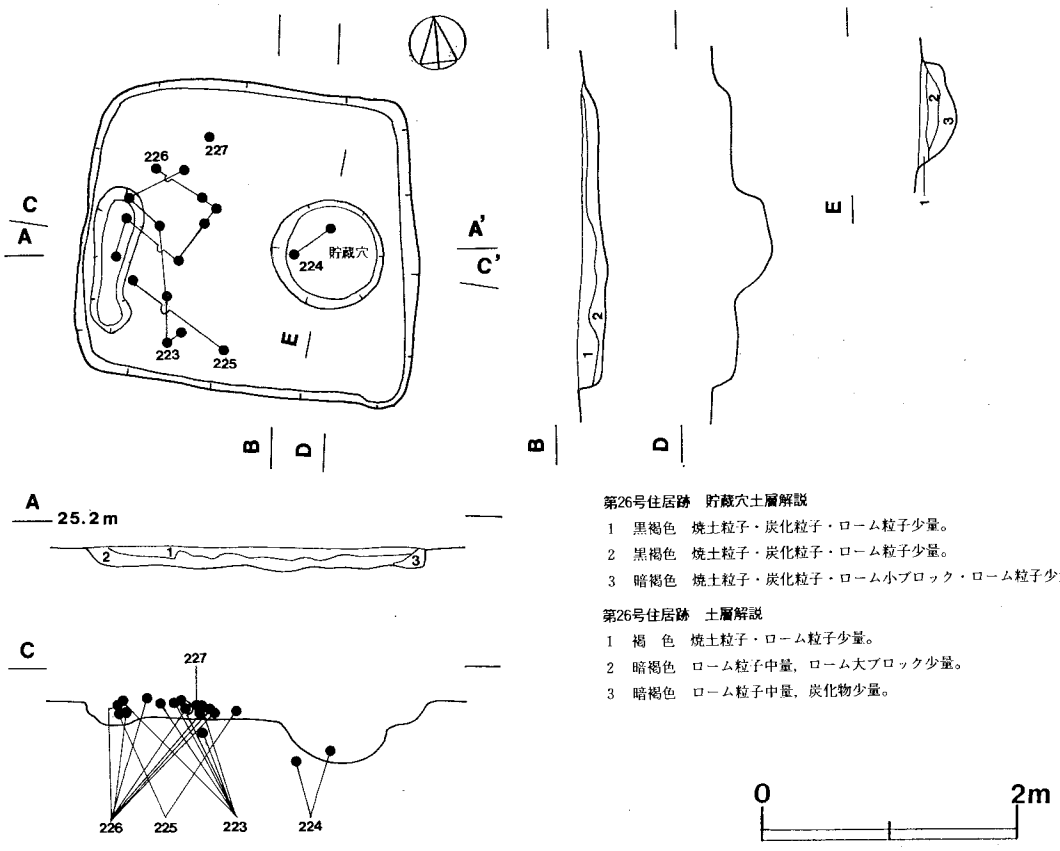
**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**貯蔵穴**　東壁の中央部付近から検出されている。平面形は，径90cmの円形を呈し，深さは31cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化物，ローム粒子を含む褐色土，暗褐色土がほぼレンズ状に堆積している。

**覆土**　3層からなり，自然堆積である。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕1，壺1，椀1，鉢1）・細片（467点），須恵器（甑1）が出土している。226の土師器の鉢は，西壁付近の覆土中層から出土している。227の須恵器の甑は，北東コーナー付近の覆土中層から出土している。

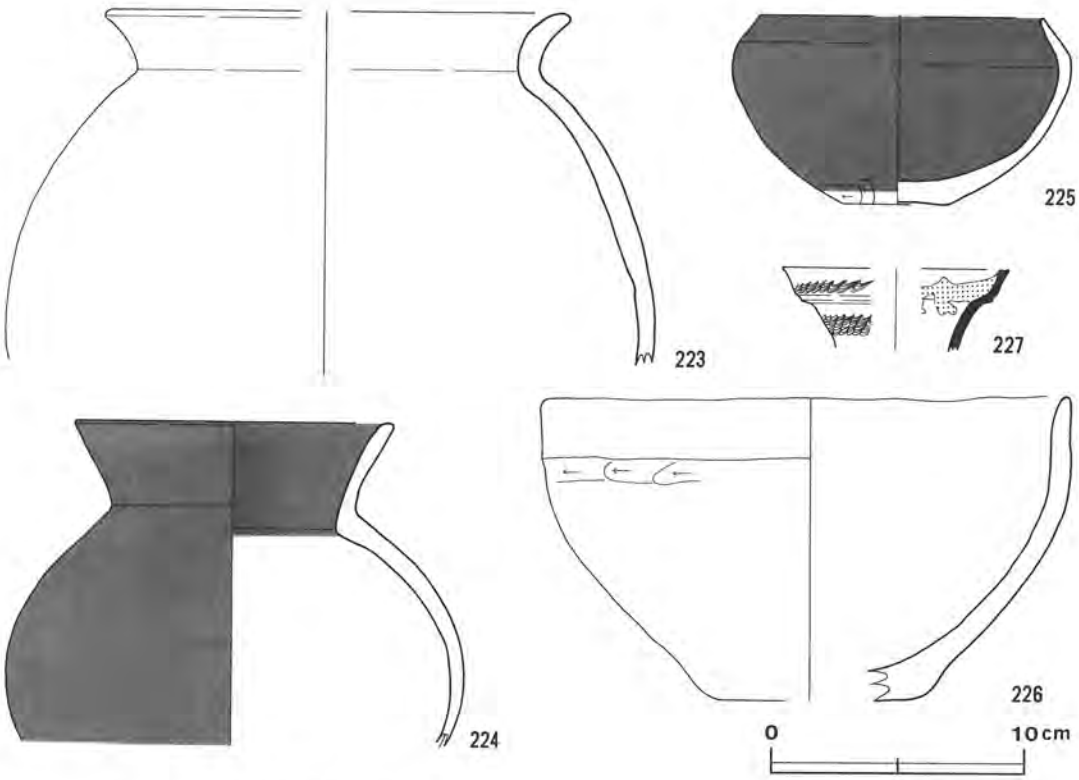
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第60図　第26号住居跡実測図

## 第26号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第61図<br>223 | 甕<br>土師器 | A〔18.4〕<br>B(14.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ナデ。胴部内・外面ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>明褐色<br>普通 | P 234　30%<br>南壁付近覆土中層 |
| 224 | 壺<br>土師器 | A 12.7<br>B(12.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎する。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部外面ナデ，内面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 235　40%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 225 | 埦<br>土師器 | A〔11.3〕<br>B 7.5<br>C 4.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内彎し，口唇部を内上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 237　70%<br>南西部覆土中層<br>外面煤付着 |
| 226 | 鉢<br>土師器 | A 21.0<br>B 12.1<br>C〔7.4〕 | 底部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P 236　90%<br>西壁付近覆土中層<br>外面煤付着 |
| 227 | 甕<br>須恵器 | A〔9.1〕<br>B(3.3) | 口縁部片。口縁部は外反気味に立ち上がり，中位で強い稜をなした後，内彎して外上方に開く。稜の下方に8条の櫛描波状文，上方に4条の櫛描波状文を施す。端部は水平で僅かに凹面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | P 238　10%<br>北東コーナー付近覆土中層<br>内面自然釉 |




第61図　第26号住居跡出土遺物実測図

**第27号住居跡**（第62・63図）

**位置**　調査区の北部，G10d6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸7.15ｍ，短軸7.04ｍの方形を呈している。

**主軸方向**　N－56°－W。

**壁**　壁高は28～50cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅８～24cm，深さ４～10cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　10条（ａ～ｊ）検出されている。南東壁付近に２条（ａ，ｂ），南西壁付近に３条（ｃ～ｅ），北西壁付近に２条（ｆ，ｇ），北東壁付近に３条（ｈ～ｊ）検出され，長さ0.8～1.7ｍ，上幅13～24cm，深さ10～15cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。南東壁中央部から南コーナー寄りには，出入口部と考えられる不定形の高まりがあり，出入口部の高まりと床との比高は約６cmである。

**ピット**　４か所（$P_1$～$P_4$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径16～21cmの楕円形を呈し，深さ70～71cmで主柱穴と考えられる。

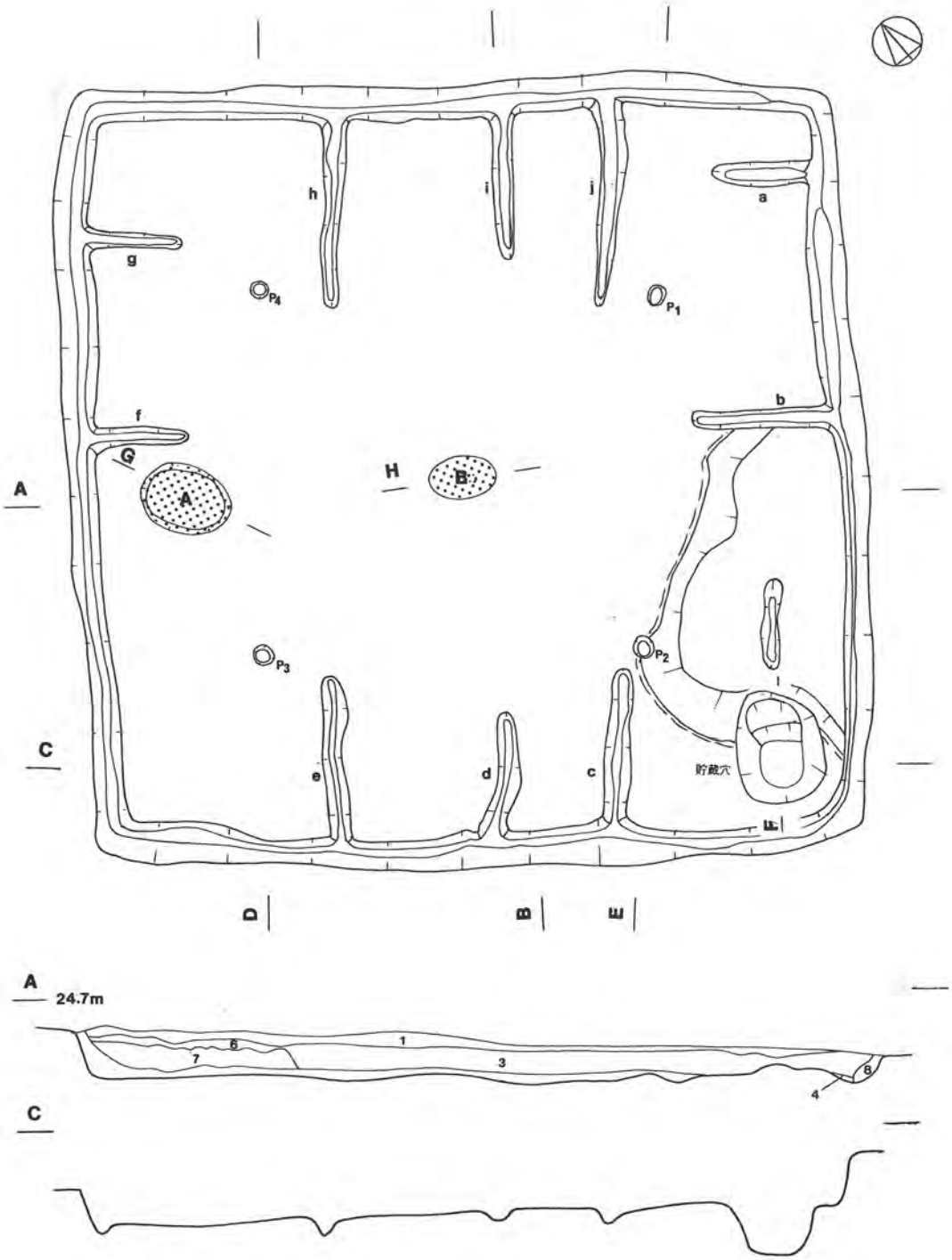
**炉**　２基検出され，どちらも地床炉である。炉Ａは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径82cm，短径59cmの楕円形を呈し，床面を約６cm掘り窪められている。炉床は，部分的ではあるが，約７cmの厚さに赤色に焼けている。炉Ｂは，中央部に検出され，平面形は長径58cm，短径40cmの楕円形を呈し，床面を約２cm掘り窪めている。炉床は，約４cmの厚さに赤色に焼けており，長く使い込まれていたと思われる。

**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，長径108cm，短径78cmの不整楕円形で，深さは47cmである。底面は平坦で，北東壁は緩やかに外傾して立ち上がり，南西壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，炭化粒子，ロームの中・小ブロックと粒子を少量含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

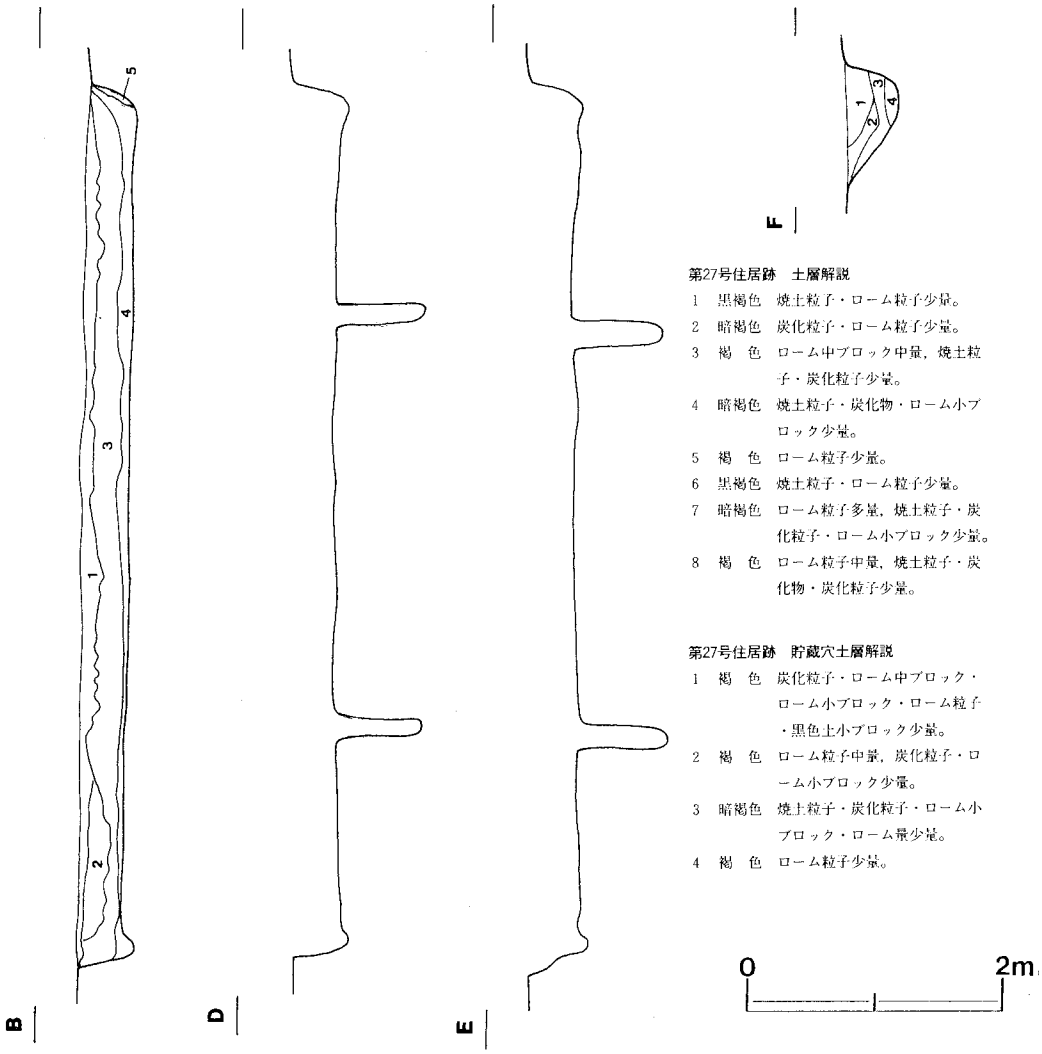
**覆土**　８層からなる。各層にロームブロックやローム粒子が混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為的に堆積したものと思われる。

**遺物**　覆土の下層や中層から，土師器（甕11，壺１，甑３，坏２，埦２）・細片（1007点），須恵器（坏蓋１）・細片（１点）が多量に出土し，中央部から北コーナー付近にかけては，炭化材が出土している。237の土師器の甕は，貯蔵穴の覆土から出土している。炉Ａからは，228，231，233の土師器の甕が炉を囲むように出土し，228は横位，231と233は逆位の状態で出土している。いずれも炉床側の胴部面が焼けていることから，五徳のように使用したものと思われる。

**所見**　本跡は，焼土や炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第62図　第27号住居跡実測図

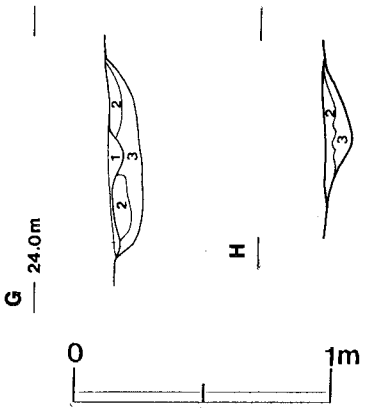



第27号住居跡　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗褐色　焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　ローム粒子少量。
6　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子少量。
7　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量。

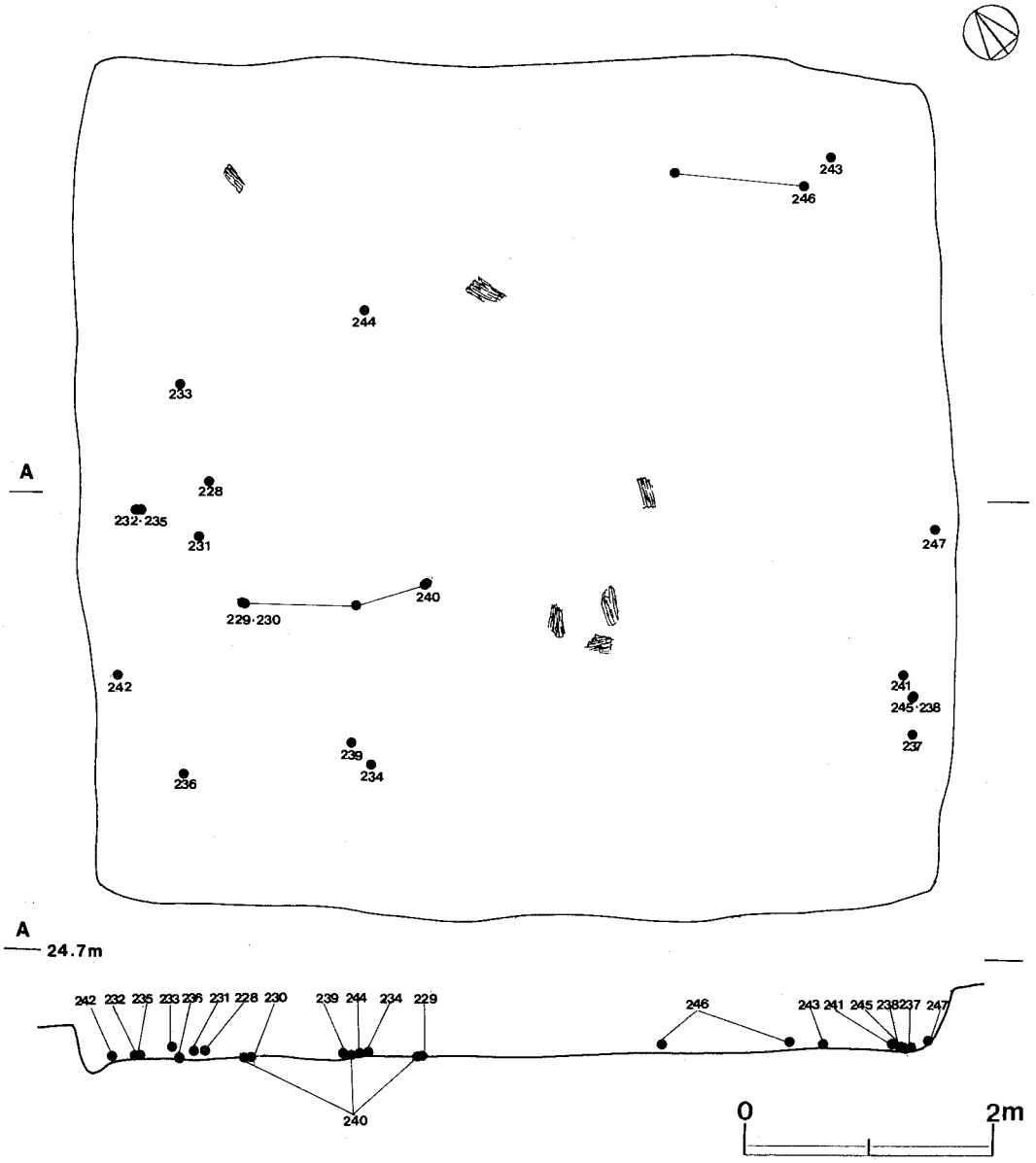
第27号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　褐　色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土小ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム量少量。
4　褐　色　ローム粒子少量。

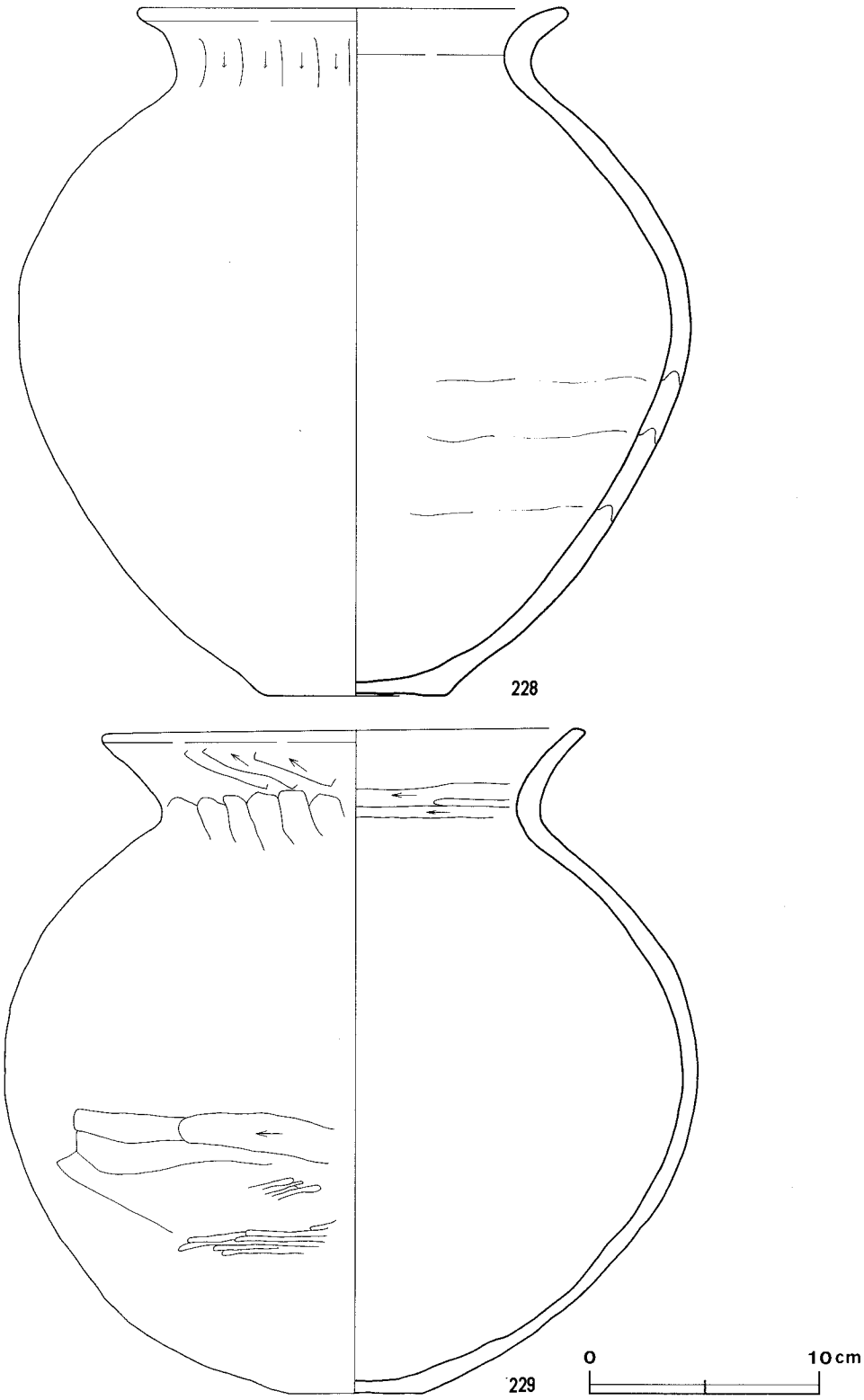



第27号住居跡　炉Ａ・Ｂ土層解説

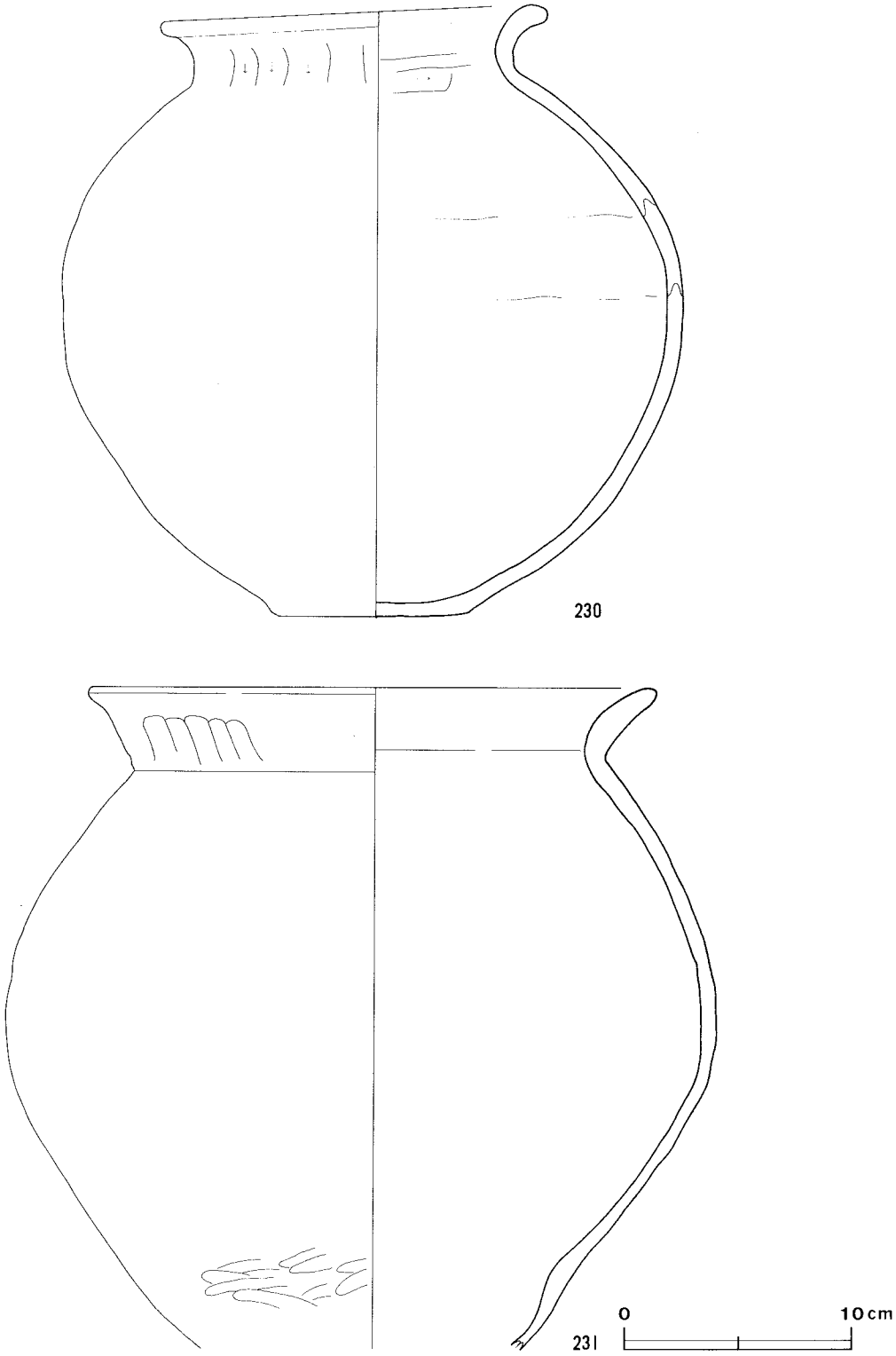
1　赤褐色　焼土粒子・灰粒子多量。
2　赤　色　焼土大ブロック多量。
3　褐　色　ローム粒子多量，黒色粒子少量。



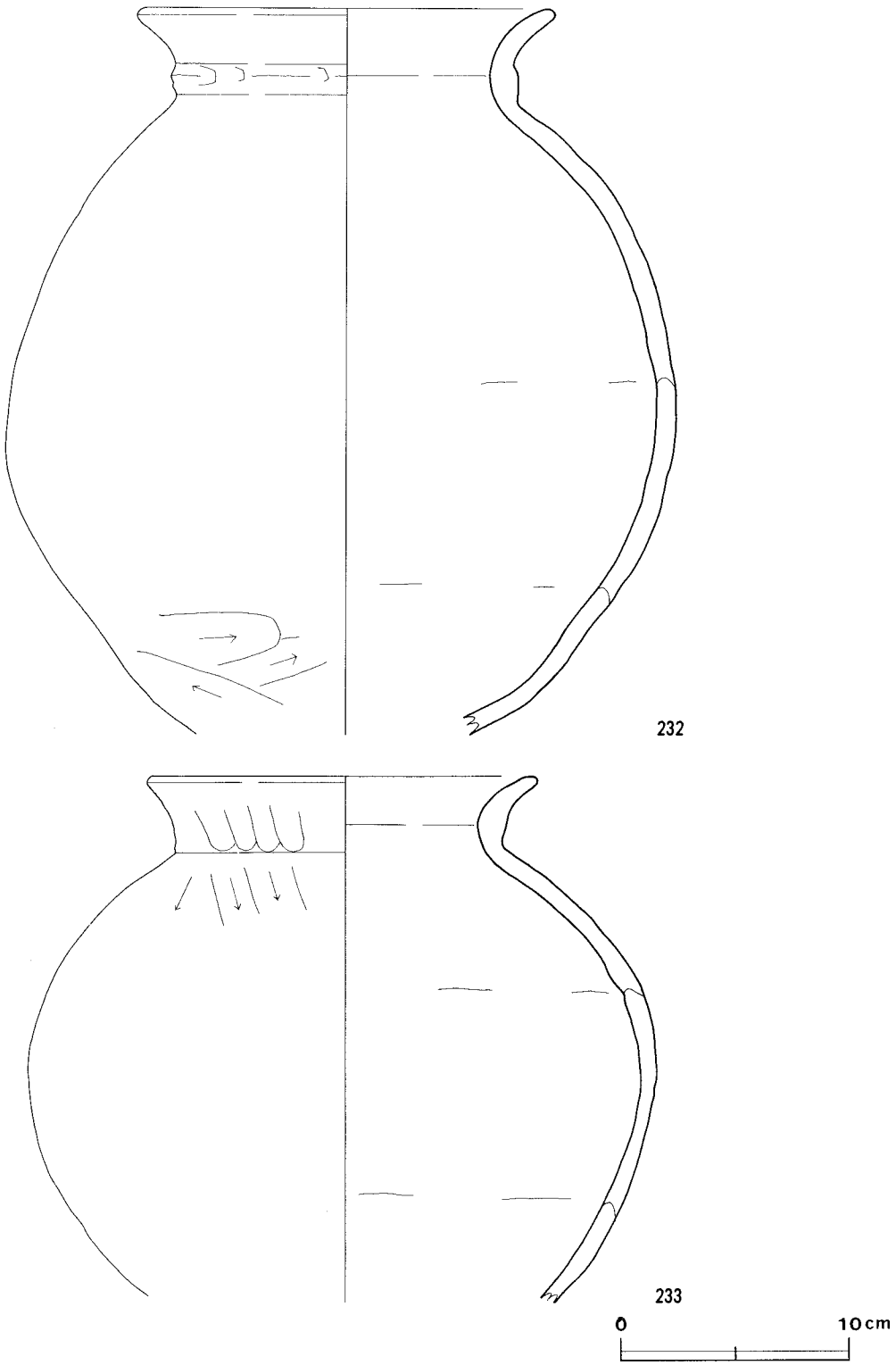

第63図　第27号住居跡出土遺物位置図



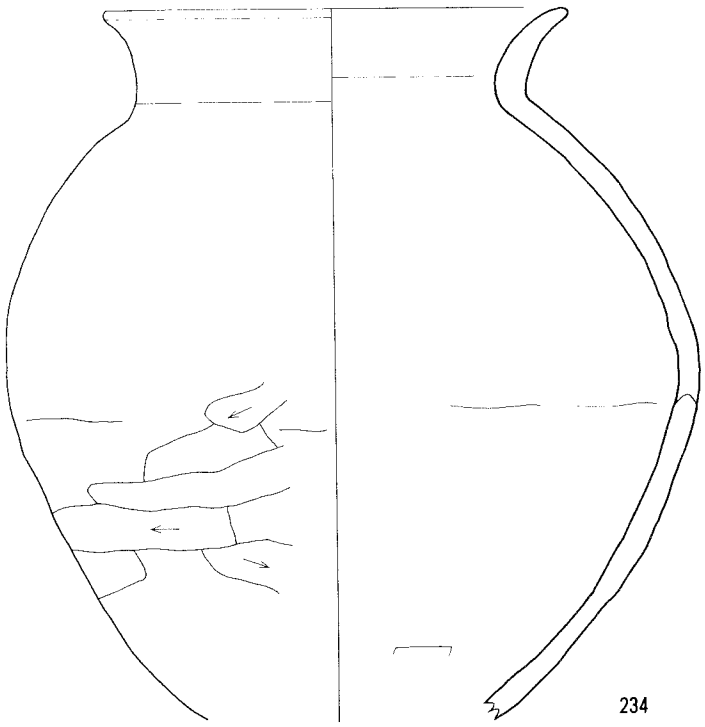

第64図　第27号住居跡出土遺物実測図(1)

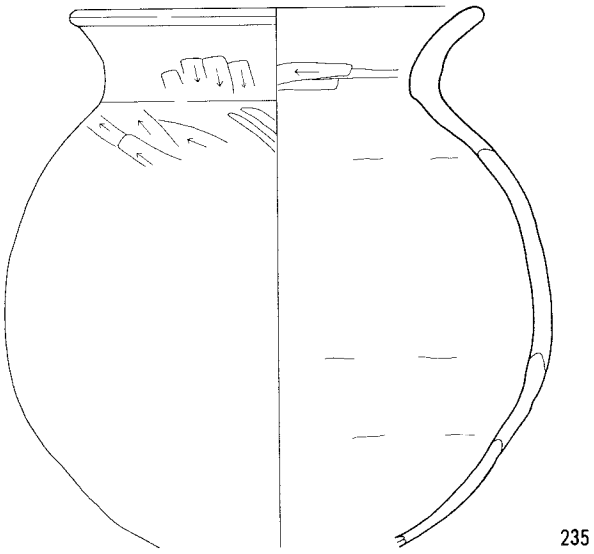


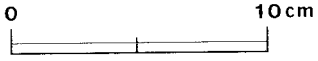

第65図　第27号住居跡出土遺物実測図(2)



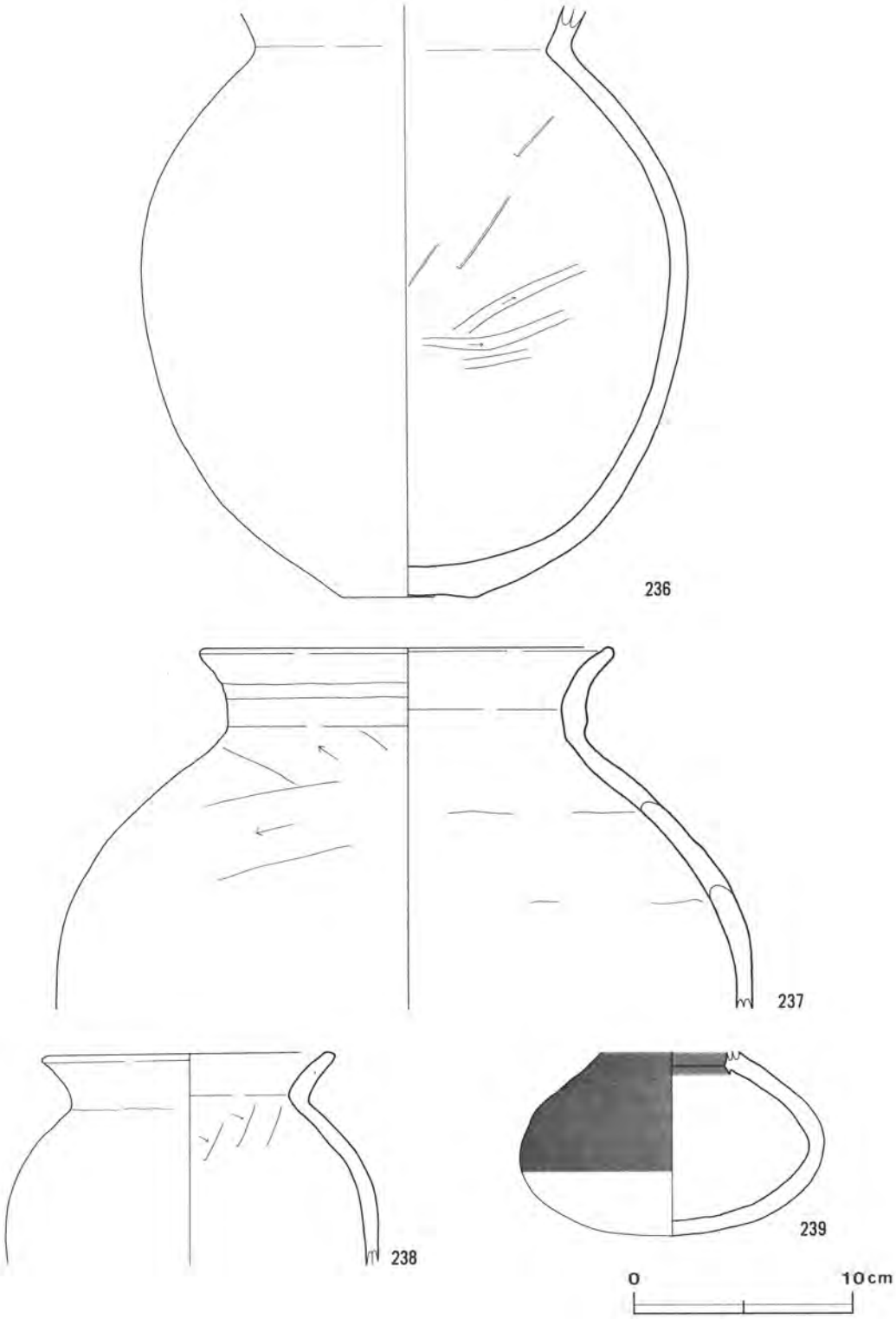

第66図　第27号住居跡出土遺物実測図(3)



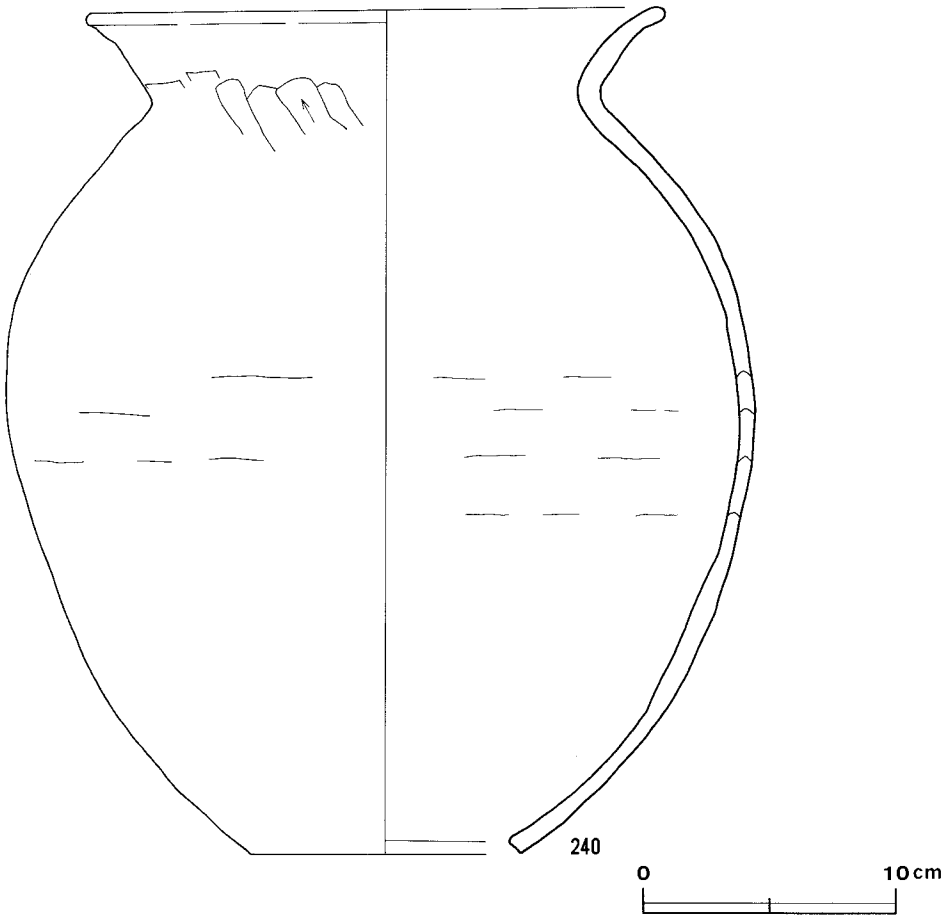




第67図　第27号住居跡出土遺物実測図(4)



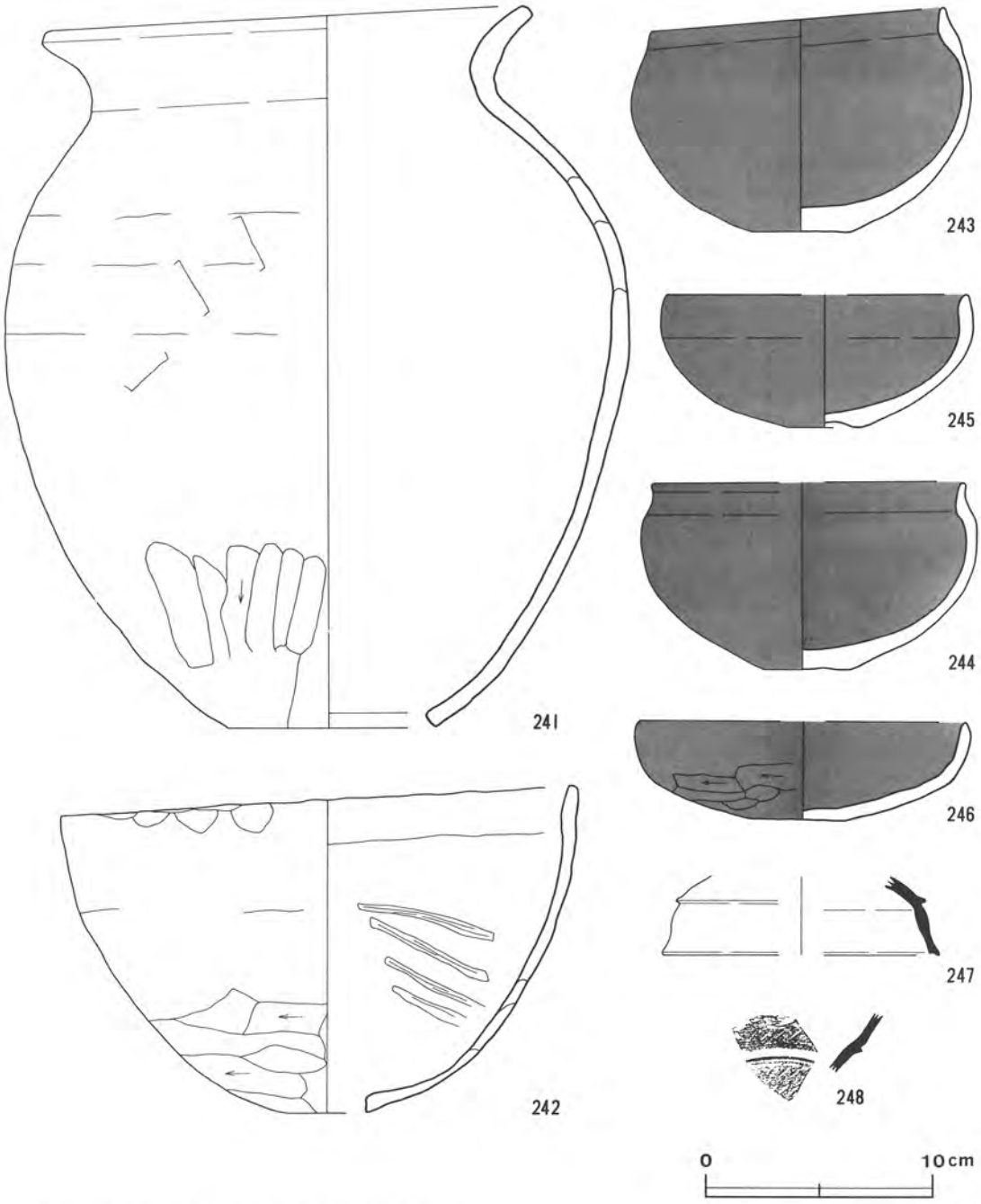

第68図　第27号住居跡出土遺物実測図(5)




第69図　第27号住居跡出土遺物実測図(6)

第27号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64～70図 228 | 甕 土師器 | A 19.0 B 30.5 C 8.0 | 口縁部の一部欠損。平底で突出気味。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通 | P 239 95% 中央部床面 外面煤付着 |
| 229 | 甕 土師器 | A 21.2 B 29.5 C 5.8 | 口縁部の一部欠損。平底。胴部はほぼ球状に内彎し，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 頸部内・外面ヘラ削り。胴部外面ヘラ削り及びヘラ磨き。底部ヘラ削り。二次焼成。 | 砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通 | P 240 95% 中央部覆土下層 外面煤付着 |
| 230 | 甕 土師器 | A 17.1 B 27.6 C 8.7 | 口縁部の一部欠損。平底。胴部はほぼ球状に内彎し，頸部はくびれ，口縁部は外反する。口唇部は水平に伸びる。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り。胴部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。二次焼成。 | 砂粒・雲母 明赤褐色 普通 | P 241 90% 北西壁付近覆土下層 外面煤付着 |
| 231 | 甕 土師器 | A 25.4 B(29.7) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部はやや外反する。 | 口縁部外面ヘラ削り。胴部外面下位ヘラ削り。胴部外面中・上位ヘラナデ後，ナデ。二次焼成。 | 砂粒 明褐色 普通 | P 242 90% 中央部床面 外面煤付着 |
| 232 | 甕 土師器 | A 18.4 B(32.5) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は段をもち，外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラ削り後，ナデ。二次焼成。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P 243 90% 北西壁付近覆土下層 外面煤付着 |




第70図　第27号住居跡出土遺物実測・拓影図(7)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 233 | 甕<br>土師器 | A 17.4<br>B(23.5) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部外面ヘラ削り後，横ナデ。口縁部内面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。二次焼成。 | 砂粒・長石・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 244　85%<br>中央部床面<br>外面煤付着 |
| 234 | 甕<br>土師器 | A 18.3<br>B(28.3) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。口縁部内面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P 245　80%<br>南西壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 235 | 甕<br>土師器 | A 16.4<br>B(21.5) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，器厚を増して頸部に至る。口縁部は外反する。 | 口縁部外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り後ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ。二次焼成。 | 砂粒・長石・雲母<br>橙色<br>普通 | P 246　75%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 236 | 甕<br>土師器 | B(27.2)<br>C 6.0 | 口縁部欠損。平底。胴部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。 | 底部ヘラ削り後，ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。頸部内・外面ナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P 247　75%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 237 | 甕<br>土師器 | A 19.0<br>B(16.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰黄褐色<br>普通 | P 248　40%<br>貯蔵穴覆土 |
| 238 | 甕<br>土師器 | A 13.5<br>B( 9.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 249　40%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 239 | 甕<br>土師器 | B( 8.5) | 口縁部欠損。丸底。胴部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。 | 胴部外面下位ヘラ削り後ナデ，上位ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 257　80%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 240 | 甑<br>土師器 | A 23.1<br>B 33.8<br>C 10.7 | 口縁部の一部欠損。無底式。胴部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部はやや外反する | 口縁部外面ヘラナデ，内面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラナデ，内面ナデ。 | 砂粒<br>灰黄褐色<br>普通 | P 250　90%<br>中央部覆土下層<br>外面煤付着 |
| 241 | 甑<br>土師器 | A 21.7<br>B 32.1<br>C 9.2 | 胴部の一部欠損。無底式。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位ヘラ削り後ナデ，上位ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P 251　95%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 242 | 甑<br>土師器 | A 22.9<br>B 14.6<br>C 3.7 | 胴部及び口縁部の一部欠損。短孔式。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。 | 口縁部外面押圧痕，内面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P 252　60%<br>北西壁際覆土下層<br>内・外面煤付着 |
| 243 | 埦<br>土師器 | A 12.9<br>B 10.0<br>C 4.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は内そぎ状で直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 253　80%<br>東コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 244 | 埦<br>土師器 | A〔13.9〕<br>B 8.3<br>C 4.0 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 254　60%<br>中央部覆土下層 |
| 245 | 坏<br>土師器 | A〔13.2〕<br>B 5.9<br>C 3.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 255　60%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 246 | 坏<br>土師器 | A〔14.7〕<br>B 4.4<br>C 4.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P 256　50%<br>東コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 247 | 坏蓋<br>須恵器 | A〔12.2〕<br>B( 3.5) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。端部は内傾する平面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。天井部外面中位回転ヘラ削り。天井部外面中位及び口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・小礫<br>灰色<br>良好 | P258　10%<br>南東壁際覆土下層 |
| 248 | 甕<br>須恵器 | | 甕の口縁部片。 | 巻き上げ・水挽き成形。中位に稜をもち，稜の下方に8条の櫛描波状文，上方に4条の櫛描波状文を施す。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP17　5%<br>覆土 |

**第28号住居跡**（第71・72図）

**位置**　調査区の北部，G10g3区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸6.31m，短軸6.08mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－66°－W。

**壁**　壁高は33～68cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下に部分的に検出されている。上幅約12cm，深さ約8cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　8条（a～h）検出されている。南東壁付近に1条（a），南西壁付近に5条（b～f），北東壁付近に2条（g，h）検出され，長さ0.6～1.4m，上幅11～20cm，深さ6～10cm，断面形は逆台形状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。南東壁のほぼ中央部には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりがあり，その中央には梯子ピット（$P_5$）が検出されている。出入口部の高まりと床との比高は8～10cmである。

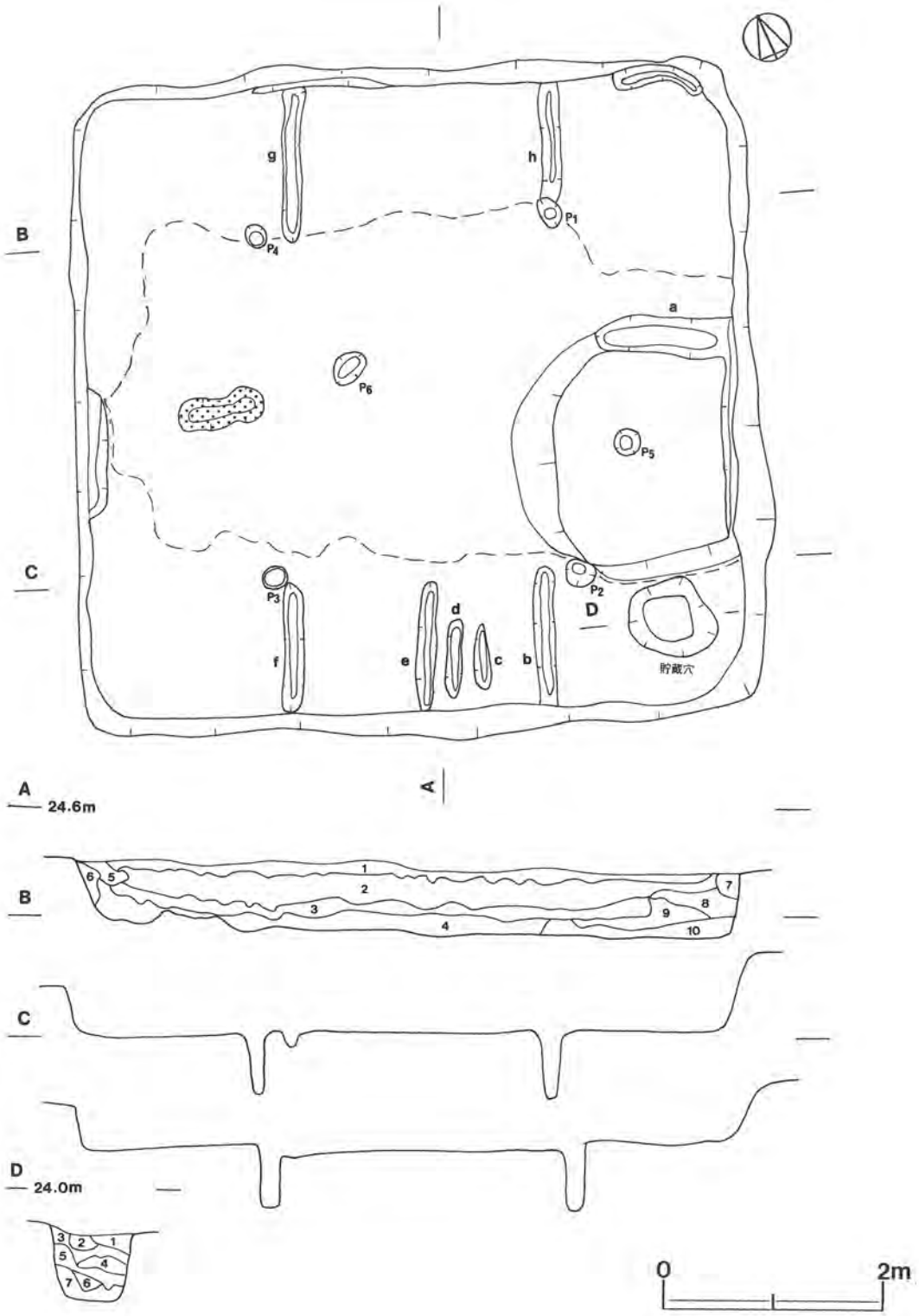
**ピット**　6か所（$P_1$～$P_6$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，長径22～28cm，短径17～23cmの楕円形を呈し，深さは48～61cmで主柱穴と考えられる。$P_5$は，長径25cm，短径23cmの円形を呈し，深さは11cmで出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_6$の性格は不明である。

**炉**　中央から北西寄りの$P_3$と$P_4$の主柱穴間に検出されている。平面形は長径82cm，短径24cmの不整楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めた地床炉である。炉床は，赤褐色に焼けている。

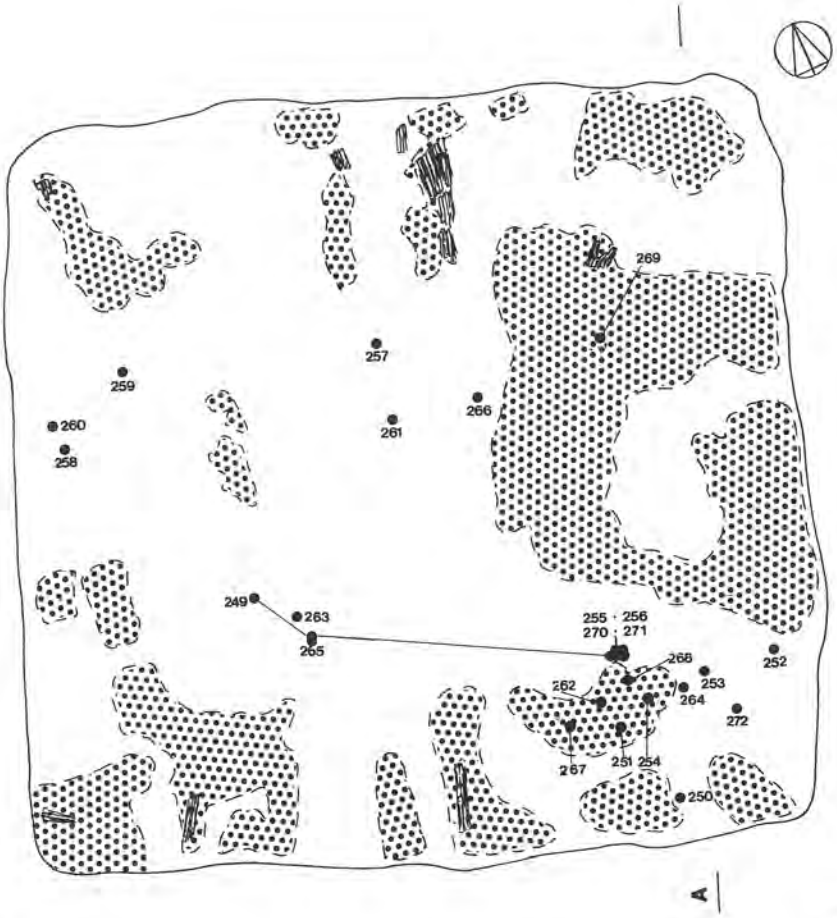
**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，長径89cm，短径77cmの楕円形で，深さは68cmである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム中・小ブロック少量を含む褐色土，暗褐色土，暗赤褐色土が堆積している。

**覆土**　10層からなる。各層に焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックが混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層や中層からは，土師器（甕3，壺1，坏15，埦4）・細片（785点），須恵器




第71図　第28号住居跡実測図




第28号住居跡　土層解説

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量。
3　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量。
4　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
7　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
9　極暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
10　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。

第28号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・ローム中ブロック中量，炭化粒子少量。
2　褐　　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　炭化粒子中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量。
4　褐　　色　炭化粒子・焼土粒子・ローム中ブロック少量。
5　褐　　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子少量。
6　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量。
7　にぶい黄褐色　ローム小ブロック少量。

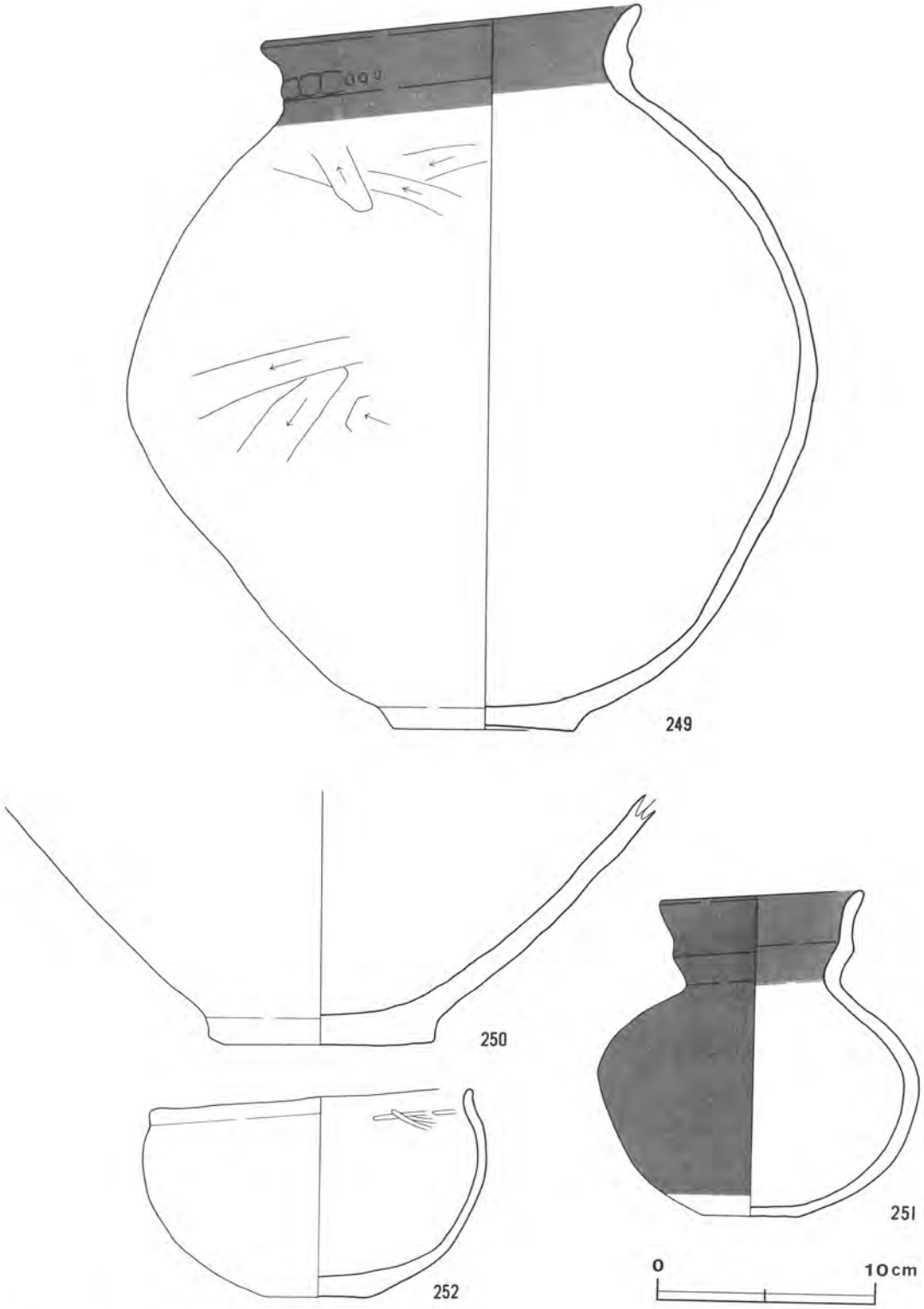
第72図　第28号住居跡出土遺物位置図

（𨻶１）が出土している。また，炭化材が，南西壁際と北東壁付近の床面から出土している。253の土師器の甕は，南コーナー付近の覆土下層から，斜位の状態で出土している。262と267の土師器の坏は，南コーナー付近の覆土下層から，ともに正位の状態で，267が262の上に重ねられた状態で出土している。272の須恵器の𨻶は，貯蔵穴の覆土から正位の状態で出土し，一部の破片は，第27号住居跡の覆土からも出土している。

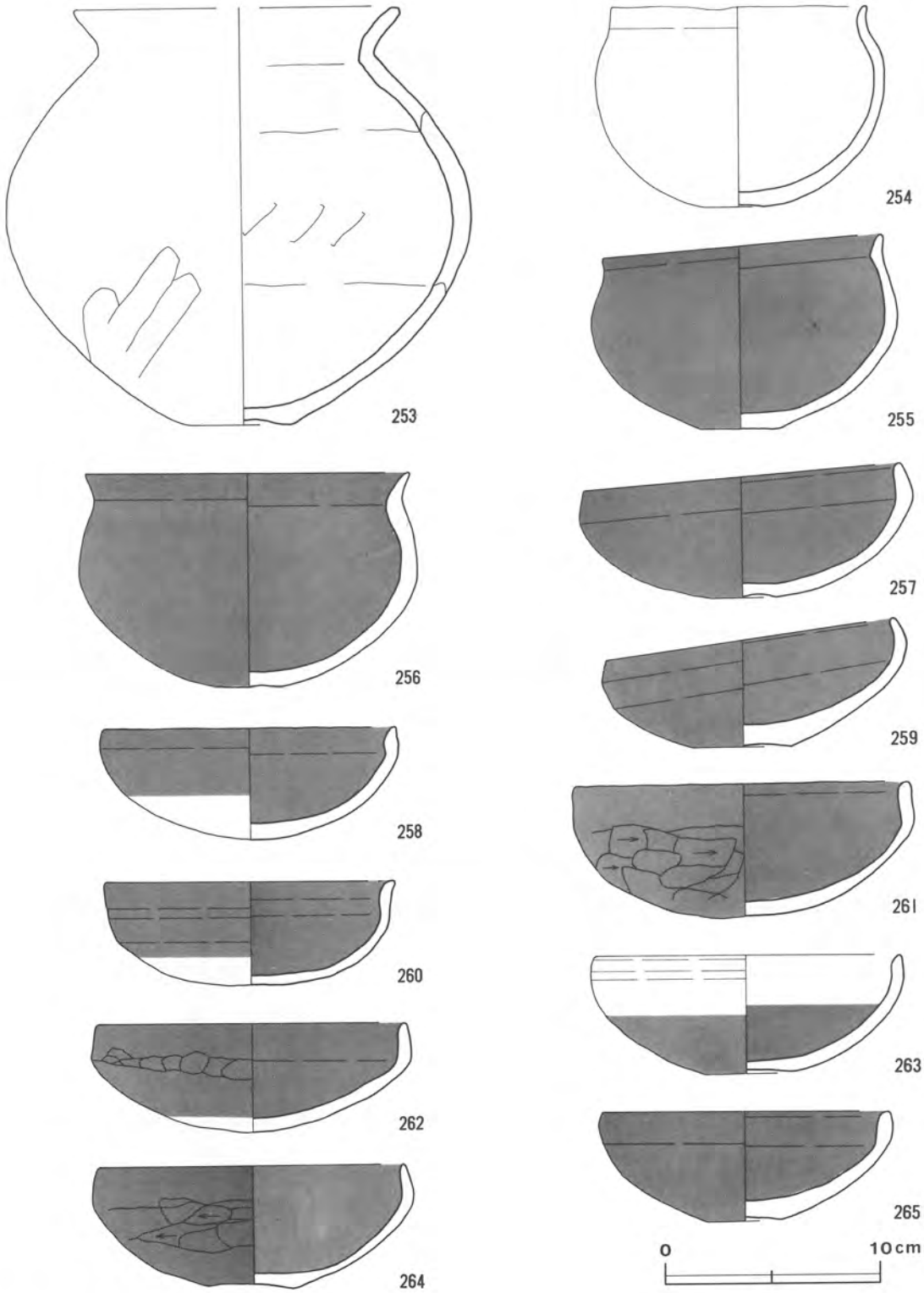
**所見**　本跡は，焼土や炭化材が出土していることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第28号住居跡出土遺物観察表**

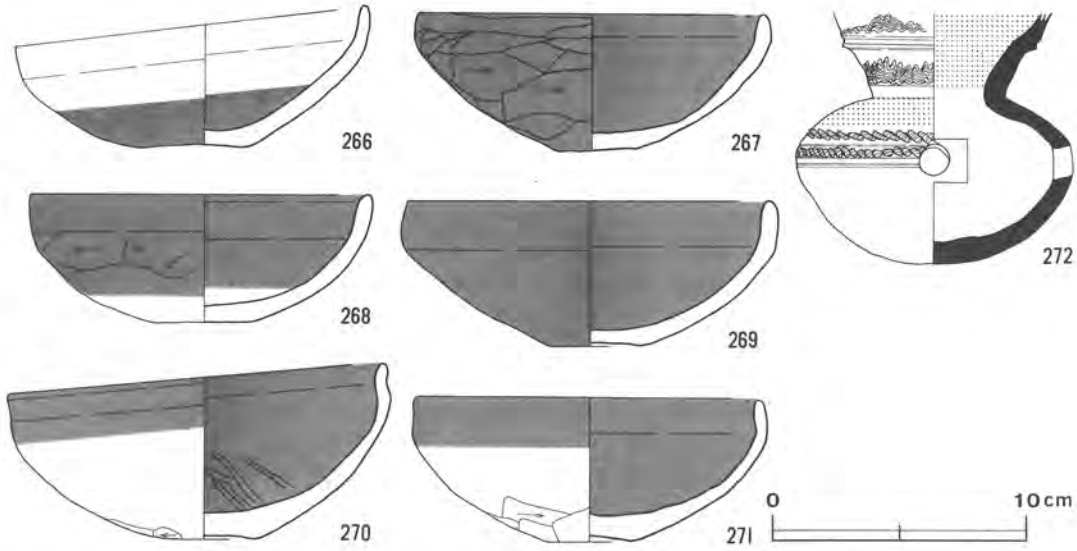
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第73～75図<br>249 | 甕<br>土師器 | A 17.5<br>B 33.8<br>C 8.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底気味で突出する。胴部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，中位に弱い稜をもつ。 | 口縁部外面中位刺突痕。口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P259　80%<br>南西壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 250 | 甕<br>土師器 | B(11.8)<br>C 10.7 | 底部から口縁部にかけての破片。平底で突出する。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部外面ヘラナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。二次焼成。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P260　30%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 251 | 壺<br>土師器 | A 9.5<br>B 15.3<br>C 4.5 | 平底。胴部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部は段をもち，やや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 石英・長石・雲母<br>暗赤色<br>良好 | P262　100%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 252 | 埦<br>土師器 | A 15.1<br>B 9.8<br>C 4.8 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り後，ナデ。体部内面上位ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P263　100%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 253 | 甕<br>土師器 | A〔15.2〕<br>B 19.8<br>C 5.2 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。胴部はほぼ球状に内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部はやや外反する。 | 口縁部外面横ナデ。胴部外面下位ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ヘラナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰黄褐色<br>普通 | P261　70%<br>南コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 254 | 埦<br>土師器 | A 12.0<br>B 9.5<br>C 2.1 | 上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>黒褐色<br>普通 | P264　100%<br>南コーナー付近覆土下層<br>内・外面煤付着 |
| 255 | 埦<br>土師器 | A 13.2<br>B 9.2<br>C 4.0 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内そぎ状でやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P265　95%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 256 | 埦<br>土師器 | A 15.2<br>B 10.0<br>C 3.0 | 口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>褐色<br>普通 | P266　80%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 257 | 坏<br>土師器 | A 15.1<br>B 5.8<br>C 3.0 | 上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P267　100%<br>中央部覆土下層 |
| 258 | 坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 5.4 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P268　100%<br>北西壁際覆土下層 |




第73図　第28号住居跡出土遺物実測図(1)




第74図　第28号住居跡出土遺物実測図(2)




第75図　第28号住居跡出土遺物実測図(3)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 259 | 坏<br>土師器 | A 13.9<br>B 6.0<br>C 4.5 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ切り後，ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明褐色<br>普通 | P269　100%<br>北コーナー付近覆土下層<br>口縁部煤付着 |
| 260 | 坏<br>土師器 | A 13.5<br>B 4.9 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P270　100%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 261 | 坏<br>土師器 | A 15.9<br>B 6.3 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>黄灰色<br>普通 | P271　100%<br>中央部覆土下層<br>外面煤付着 |
| 262 | 坏<br>土師器 | A 14.6<br>B 5.1 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ，内面肌荒れ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P272　100%<br>南コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 263 | 坏<br>土師器 | A 14.2<br>B 5.7<br>C 4.3 | 上げ底。体部は，内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>明赤灰色<br>普通 | P273　100%<br>中央部覆土下層<br>内・外面煤付着 |
| 264 | 坏<br>土師器 | A 14.4<br>B 5.7<br>C 4.0 | 上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P274　100%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 265 | 坏<br>土師器 | A 13.5<br>B 5.1<br>C 3.6 | 上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>明赤褐色<br>普通 | P275　100%<br>中央部覆土中層 |
| 266 | 坏<br>土師器 | A 14.2<br>B 5.0<br>C 3.7 | 上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P276　100%<br>中央部覆土下層 |
| 267 | 坏<br>土師器 | A 13.8<br>B 5.5<br>C 3.3 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P277　100%<br>南コーナー付近覆土下層<br>内面煤付着 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 268 | 坏<br>土師器 | A 13.7<br>B 5.1<br>C 4.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P278 100%<br>南コーナー付近覆土中層 |
| 269 | 坏<br>土師器 | A 14.4<br>B 5.8<br>C 3.5 | 口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P279 90%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 270 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 7.1<br>C 4.3 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面下位ヘラ磨き。体部外面及び底部下位ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P280 70%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 271 | 坏<br>土師器 | A 13.8<br>B 5.8<br>C 3.6 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P281 60%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 272 | 壺<br>須恵器 | B(10.0) | 口唇部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔を穿つ。円孔を挟んで不連続2条の沈線を施し，上方1条の沈線を挟む櫛描刺突文を施す。口縁部は外傾して立ち上がり，中位で強い稜をなした後，内彎して外上方に開く。稜の下方に6条，上方に6条の櫛描波状文を施す。 | 巻き上げ・水挽き成形。頸部内面横ナデ。体部外面ヘラナデ。 | 長石<br>オリーブ黒色<br>良好 | P282 80%<br>貯蔵穴覆土<br>口頸部内面及び体部外面上位自然釉 |

**第29号住居跡**（第76・77図）

**位置**　調査区の中央部やや北寄り，G11i2区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸10.73m，短軸10.40mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－54°－W。

**壁**　壁高は21～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　南西壁下と北西壁下の一部を除いて回っている。上幅12～16cm，深さ4～10cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　16条（a～p）検出されている。南東壁付近に3条（a～c），南西壁付近に4条（d～g），北西壁付近に4条（h～k），北東壁付近に5条（l～p）検出され，長さ0.6～2.1m，上幅6～18cm，深さ5～14cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。南東壁中央部から南コーナー寄りには，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出されており，そのほぼ中央部に梯子ピット（$P_9$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約8cmである。

**ピット**　15か所（$P_1$～$P_{15}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径21～52cmのほぼ円形を呈し，深さは15～56cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は，長径36cm，短径21cmの楕円形を呈し，深さは25cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{10}$，$P_{11}$は，壁柱穴と思われる。$P_{12}$～$P_{15}$の性格は不明

である。

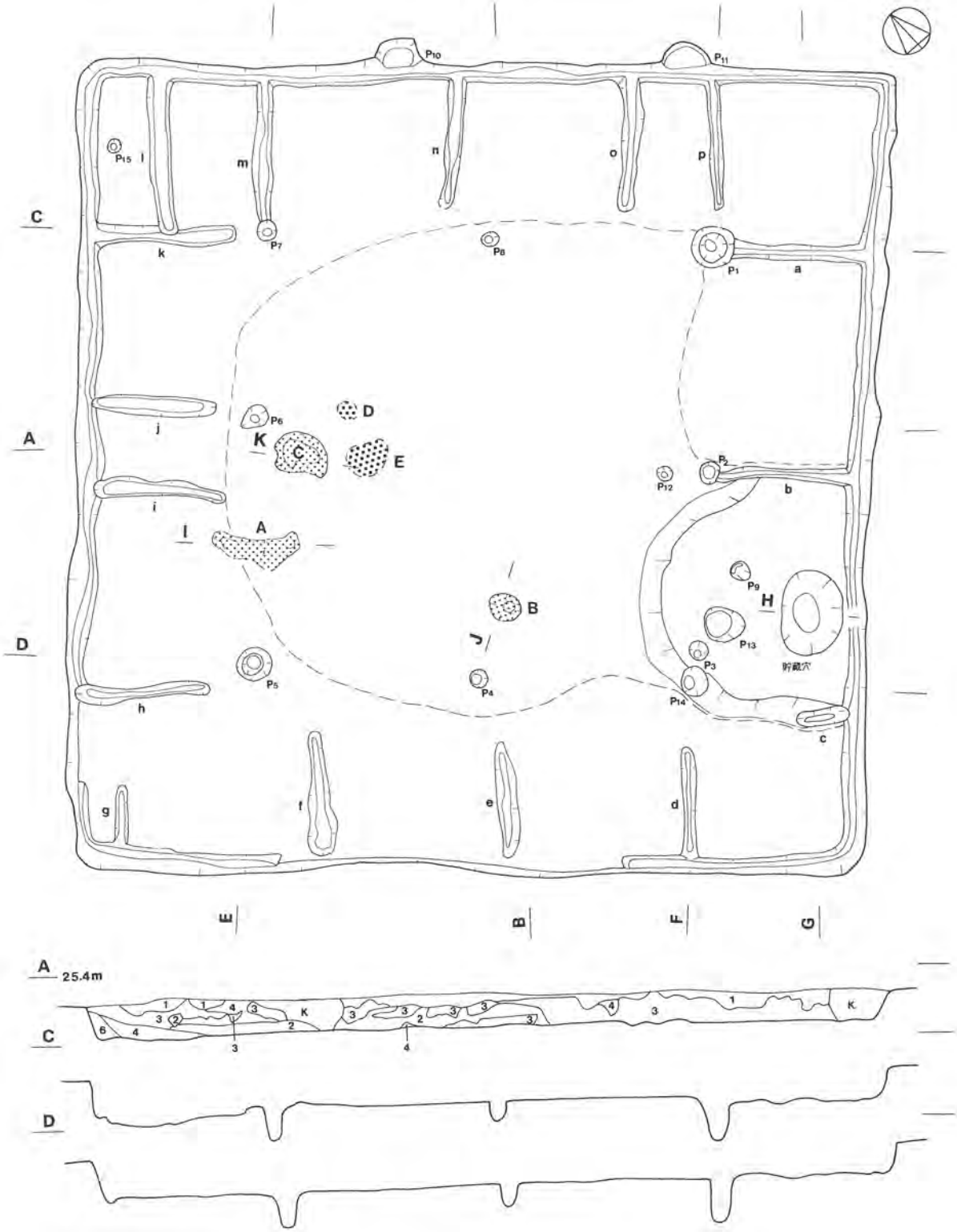
**炉**　3基検出され，すべて地床炉である。炉Aは，中央から北西寄りの$P_5$，$P_6$の主柱穴間に検出され，平面形は長径115cm，短径42cmの不整楕円形を呈し，床面を約3cm掘り窪めている。炉床は部分的に約4cmの厚さに赤変硬化している。炉Bは，中央から南西寄りに検出され，平面形は長径41cm，短径33cmの楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めている。炉床は，部分的に約5cmの厚さに赤変硬化している。炉Cは，中央から北西寄りの炉Aの北東側に検出され，平面形は，長径64cm，短径57cmの不整楕円形を呈し，床面を約3cm掘り窪めている。炉床は，約8cmの厚さにレンガ状に硬く焼けており，長期にわたり使用されたものと考えられる。その他，床が焼土化した所が2か所（D，E）検出されているが，これら焼土化している床は，炉と比べると焼け具合が弱いもので，一時的に炉として使用されたものか，火災によるものか判然としない。

**貯蔵穴**　南東壁際の南コーナー寄りから検出されている。平面形は，長径112cm，短径80cmの不整楕円形を呈し，深さは84cmである。底面はやや凹凸があり，南東壁は緩やかに外傾して立ち上がり，他の壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，ローム小ブロックやローム粒子を少量含む黒褐色土，暗褐色土，赤褐色土が堆積している。

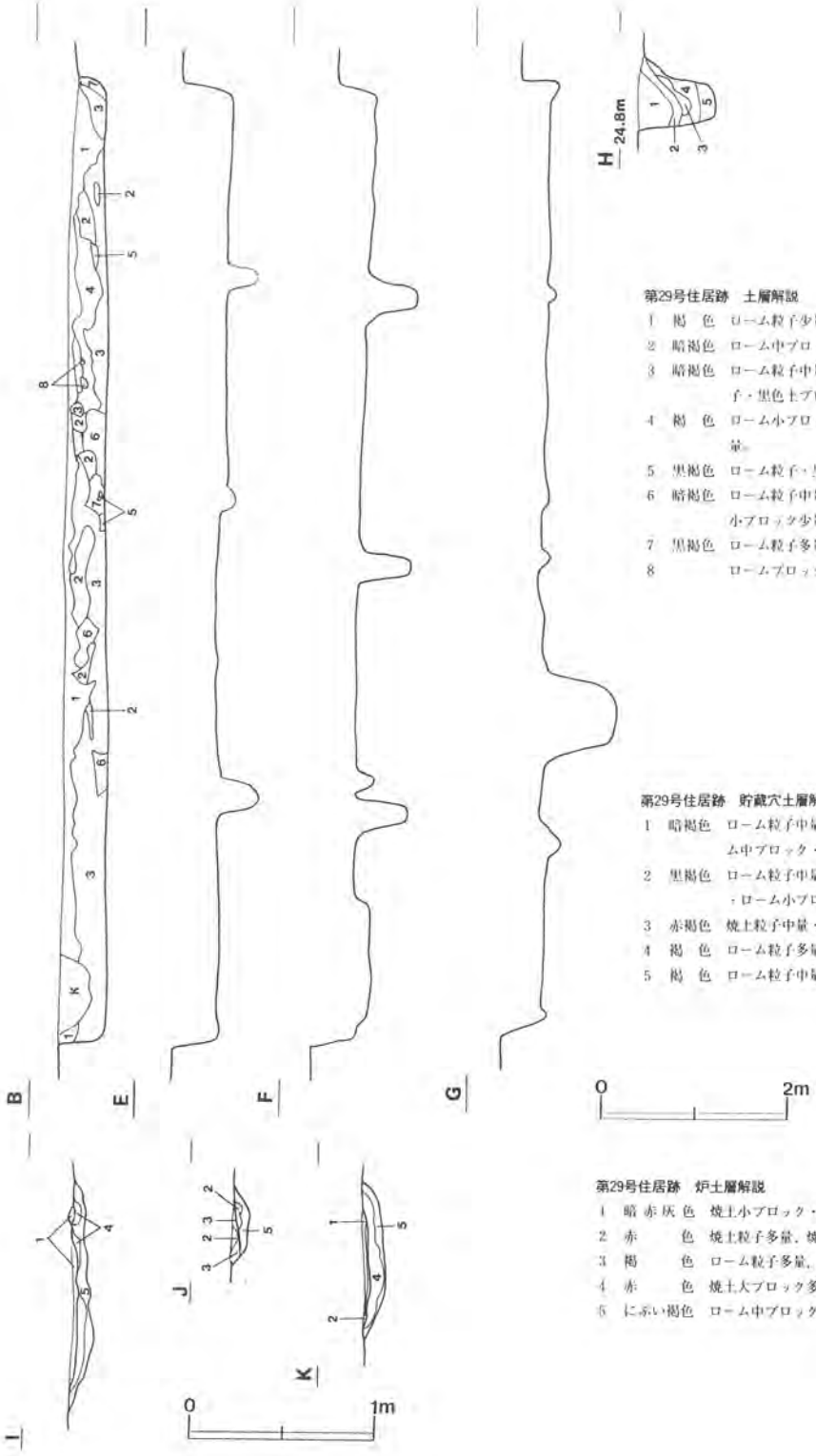
**覆土**　8層からなる。各層にロームブロックやローム粒子が混入し，覆土の中層から上層にかけてはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　床面や覆土下層から，土師器（甕1，壺1，坏3，椀2，小形壺1，鉢1）・細片（1649点）が多量に，須恵器（把手付椀1）・細片（3点）が少量出土し，石製品も出土している。276の土師器の椀は，南東壁付近の覆土から出土している。282の須恵器の把手付椀は，破片の状態で中央部の床面から出土し，第33号住居跡の覆土からも破片が1点出土している。287，288，290～294の臼玉は住居跡の床面全体から分散する状態で出土しているが，北西壁付近の床面からは108点まとまって出土している。402のガラス玉は南西壁付近の床面から出土している。

**所見**　本跡は，覆土下層から焼土が広範囲に検出されていることから，焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第76図　第29号住居跡実測図




第29号住居跡　土層解説

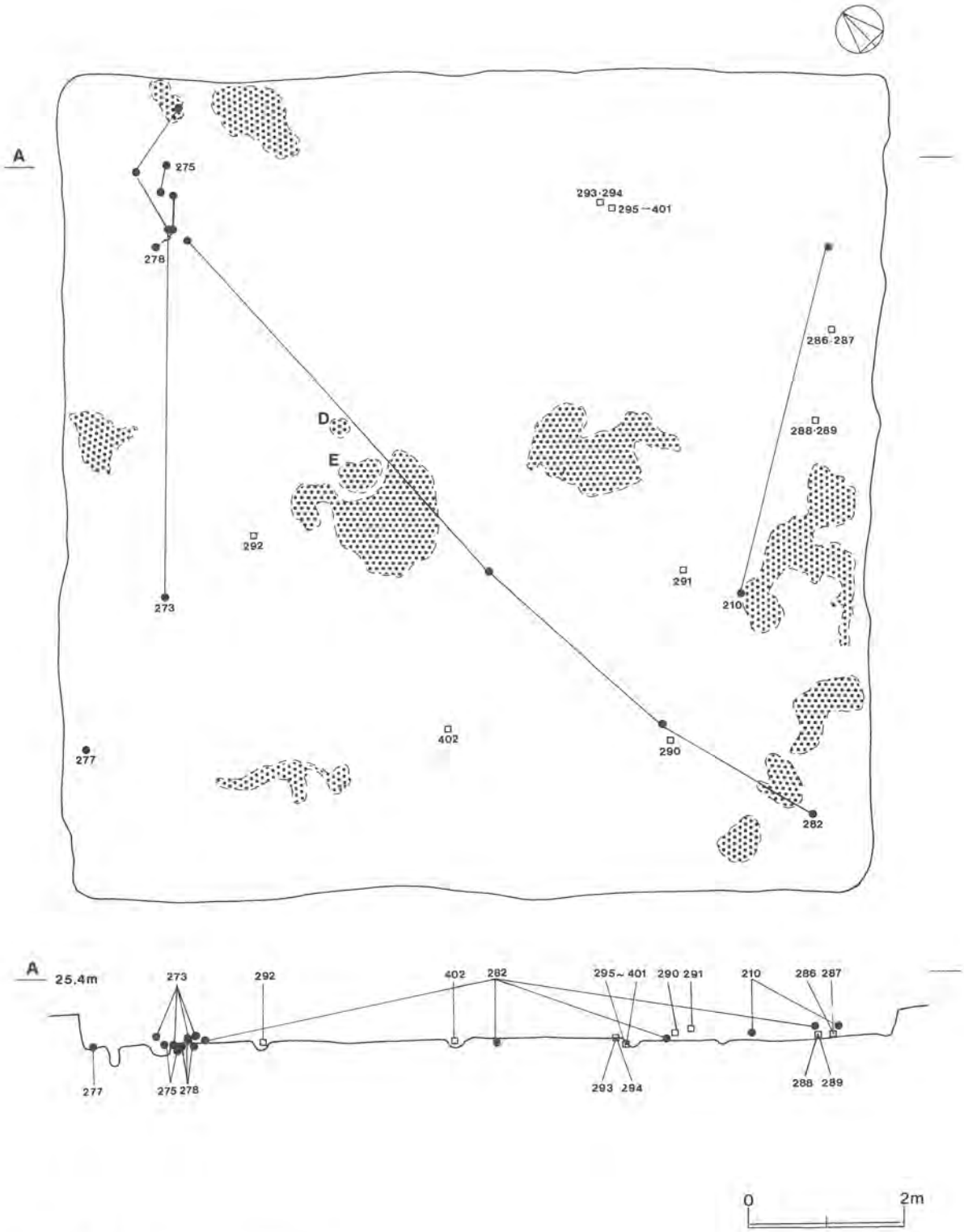
1　褐　色　ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・黒色土ブロック少量。
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・黒色粒子少量。
5　黒褐色　ローム粒子・黒色粒子少量。
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
7　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量。
8　　ロームブロック。

第29号住居跡　貯蔵穴土層解説

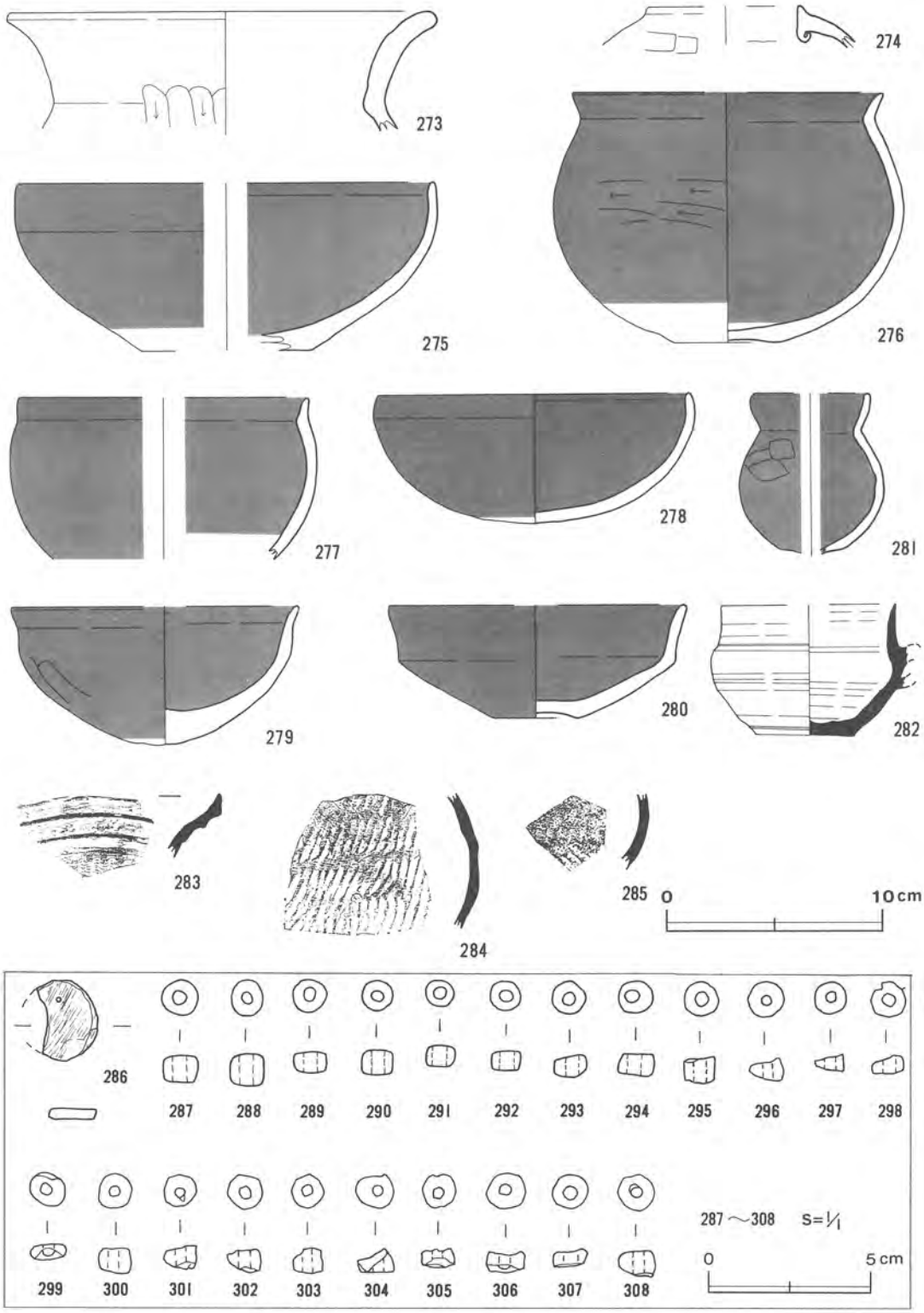
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量。
3　赤褐色　焼土粒子中量・ローム小ブロック少量。
4　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量。
5　褐　色　ローム粒子中量。

第29号住居跡　炉土層解説

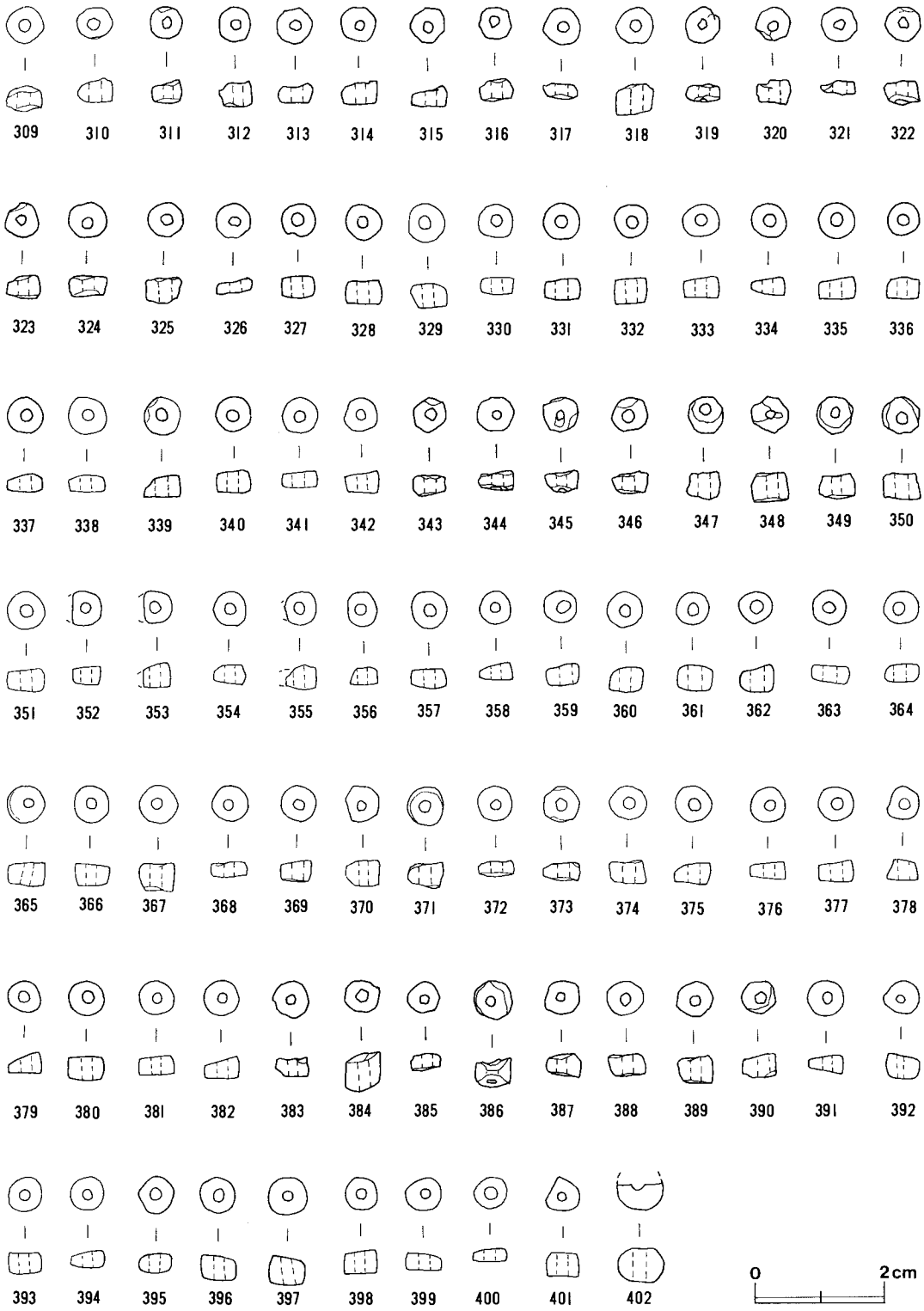
1　暗赤灰色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量。
2　赤　　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量。
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量。
4　赤　　色　焼土大ブロック多量，ローム粒子少量。
5　にぶい褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量。




第77図　第29号住居跡出土遺物位置図




第78図　第29号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)




第79図　第29号住居跡出土遺物実測図(2)

## 第29号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第78・79図<br>273 | 甕<br>土師器 | A 20.0<br>B( 5.7) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>にぶい褐色<br>普通 | P283 5%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 274 | 壺<br>土師器 | A〔 7.2〕<br>B( 2.1) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りがあり，口縁部は短く直立する。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P284 10%<br>中央部覆土中層 |
| 275 | 鉢<br>土師器 | A〔19.4〕<br>B 7.9<br>C〔 8.0〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P286 40%<br>北コーナー付近覆土下層<br>口縁部煤付着 |
| 276 | 椀<br>土師器 | A〔14.5〕<br>B 11.6<br>C 5.0 | 体部及び口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P285 60%<br>南東壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 277 | 椀<br>土師器 | A〔13.4〕<br>B( 7.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内そぎ状でやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P287 30%<br>北西壁際覆土下層 |
| 278 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B 6.1 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに内彎する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。底部及び内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P288 90%<br>北コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 279 | 坏<br>土師器 | A〔13.5〕<br>B 6.5 | 体部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P289 60%<br>中央部覆土中層 |
| 280 | 坏<br>土師器 | A〔13.9〕<br>B 5.3<br>C 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。上げ底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P290 50%<br>中央部覆土中層 |
| 281 | 小形壺<br>土師器 | A〔 5.7〕<br>B( 7.6) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は内彎する。 | 口縁部内面ナデ。胴部及び口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>暗赤褐色<br>普通 | P292 25%<br>中央部覆土中層 |
| 282 | 把手付椀<br>須恵器 | A〔 8.2〕<br>B 6.1<br>C 4.6 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に段をもち，段の下方に把手が付く。口縁部はほぼ直立する。 | 巻き上げ・水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位回転ヘラナデ。体部外面上位及び内面横ナデ。底部ヘラナデ。 | 長石<br>黒灰褐色<br>良好 | P293 60%<br>中央部床面 |
| 283 | 甕<br>須恵器 | | 甕の口縁部片。 | 巻き上げ・水挽き成形。口唇部近くに稜をもち，稜の下位に波状文を施す。 | 砂粒<br>オリーブ黒色<br>良好 | TP18 5%<br>南コーナー付近覆土下層<br>内面自然釉 |
| 284 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP19 5%<br>貯蔵穴覆土<br>外面自然釉 |
| 285 | 甕<br>須恵器 | | 甕の体部片。 | 巻き上げ・水挽き成形。4条の櫛描波状文を施す。内面横ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP20 5%<br>覆土<br>外面自然釉 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 286 | 有孔円板 | 2.5 | (1.9) | 0.4 | 2.0 | (3.0) | 60 | 南東壁付近覆土下層 | Q58 滑石 |
| 287 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 南東壁際床面 | Q60 滑石 |
| 288 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.5 | 2.0 | 0.2 | 100 | 南東壁際床面 | Q61 滑石 |
| 289 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q62 滑石 |
| 290 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 南コーナー付近床面 | Q63 滑石 |
| 291 | 臼玉 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q64 滑石 |
| 292 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q65 滑石 |
| 293 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q66 滑石 |
| 294 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q67 滑石 |
| 295 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.3 | 100 | 北西壁付近床面 | Q68 滑石 |
| 296 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q69 滑石 |
| 297 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 1.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q70 滑石 |
| 298 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q71 滑石 |
| 299 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q72 滑石 |
| 300 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.3 | 100 | 北西壁付近床面 | Q73 滑石 |
| 301 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q74 滑石 |
| 302 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q75 滑石 |
| 303 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.3 | 100 | 北西壁付近床面 | Q76 滑石 |
| 304 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.3 | 100 | 北西壁付近床面 | Q77 滑石 |
| 305 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q78 滑石 |
| 306 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q79 滑石 |
| 307 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q80 滑石 |
| 308 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q81 滑石 |
| 309 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q82 滑石 |
| 310 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q83 滑石 |
| 311 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q84 滑石 |
| 312 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q85 滑石 |
| 313 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q86 滑石 |
| 314 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q87 滑石 |
| 315 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q88 滑石 |
| 316 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q89 滑石 |
| 317 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q90 滑石 |
| 318 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q91 滑石 |
| 319 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q92 滑石 |
| 320 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q93 滑石 |
| 321 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.2 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q94 滑石 |
| 322 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q95 滑石 |
| 323 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q96 滑石 |
| 324 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q97 滑石 |
| 325 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q98 滑石 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 326 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q99　滑石 |
| 327 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q100　滑石 |
| 328 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q101　滑石 |
| 329 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q102　滑石 |
| 330 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q103　滑石 |
| 331 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q104　滑石 |
| 332 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q105　滑石 |
| 333 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q106　滑石 |
| 334 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q107　滑石 |
| 335 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q108　滑石 |
| 336 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q109　滑石 |
| 337 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q110　滑石 |
| 338 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q111　滑石 |
| 339 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q112　滑石 |
| 340 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q113　滑石 |
| 341 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q114　滑石 |
| 342 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q115　滑石 |
| 343 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q116　滑石 |
| 344 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q117　滑石 |
| 345 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q118　滑石 |
| 346 | 臼　玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q119　滑石 |
| 347 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q120　滑石 |
| 348 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q121　滑石 |
| 349 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q122　滑石 |
| 350 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q123　滑石 |
| 351 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q124　滑石 |
| 352 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q125　滑石 |
| 353 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q126　滑石 |
| 354 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q127　滑石 |
| 355 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q128　滑石 |
| 356 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q129　滑石 |
| 357 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q130　滑石 |
| 358 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q131　滑石 |
| 359 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q132　滑石 |
| 360 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q133　滑石 |
| 361 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q134　滑石 |
| 362 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q135　滑石 |
| 363 | 臼　玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q136　滑石 |
| 364 | 臼　玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q137　滑石 |
| 365 | 臼　玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q138　滑石 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 366 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q139 滑石 |
| 367 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q140 滑石 |
| 368 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.2 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q141 滑石 |
| 369 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q142 滑石 |
| 370 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q143 滑石 |
| 371 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q144 滑石 |
| 372 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q145 滑石 |
| 373 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q146 滑石 |
| 374 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q147 滑石 |
| 375 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q148 滑石 |
| 376 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q149 滑石 |
| 377 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q150 滑石 |
| 378 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q151 滑石 |
| 379 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q152 滑石 |
| 380 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q153 滑石 |
| 381 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q154 滑石 |
| 382 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q155 滑石 |
| 383 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q156 滑石 |
| 384 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.6 | 2.0 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q157 滑石 |
| 385 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q158 滑石 |
| 386 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q159 滑石 |
| 387 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q160 滑石 |
| 388 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q161 滑石 |
| 389 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 北西壁付近床面 | Q162 滑石 |
| 390 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q163 滑石 |
| 391 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q164 滑石 |
| 392 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q165 滑石 |
| 393 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q166 滑石 |
| 394 | 臼玉 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q167 滑石 |
| 395 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q168 滑石 |
| 396 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.3 | 100 | 北西壁付近床面 | Q169 滑石 |
| 397 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q170 滑石 |
| 398 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q171 滑石 |
| 399 | 臼玉 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q172 滑石 |
| 400 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.2 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q173 滑石 |
| 401 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 2.0 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q174 滑石 |
| 402 | ガラス玉 | (0.4) | 0.7 | 0.6 | 1.5 | (0.2) | 60 | 南西壁付近床面 | Q175 |

**第31号住居跡**（第80図）

**位置**　調査区の中央部の北寄り，H11c6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸5.36m，短軸4.30mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－56°－W。

**壁**　壁高は29～44cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　南東壁下及び北東壁下の一部を除いて回っている。上幅14～20cm，深さ7～10cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　1条（a），北東壁付近に検出されている。長さ0.9m，上幅20cm，深さ6cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は硬く締まっている。南東壁中央部付近には，出入口部と考えられる半円形状の高まりが検出され，出入口部の高まりと床との比高は約6cmである。

**ピット**　1か所（$P_1$）検出されているが，性格は不明である。

**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径56cm，短径44cmの楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めた地床炉である。炉床は約6cmの厚さに赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，東コーナーから検出されている。平面形は，長径73cm，短径63cmの楕円形を呈し，深さは34cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームブロックを少量，ローム粒子を含む褐色土が堆積している。貯蔵穴Bは，南コーナーから検出されている。平面形は，長径115cm，短径112cmの不整円形を呈し，深さは68cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

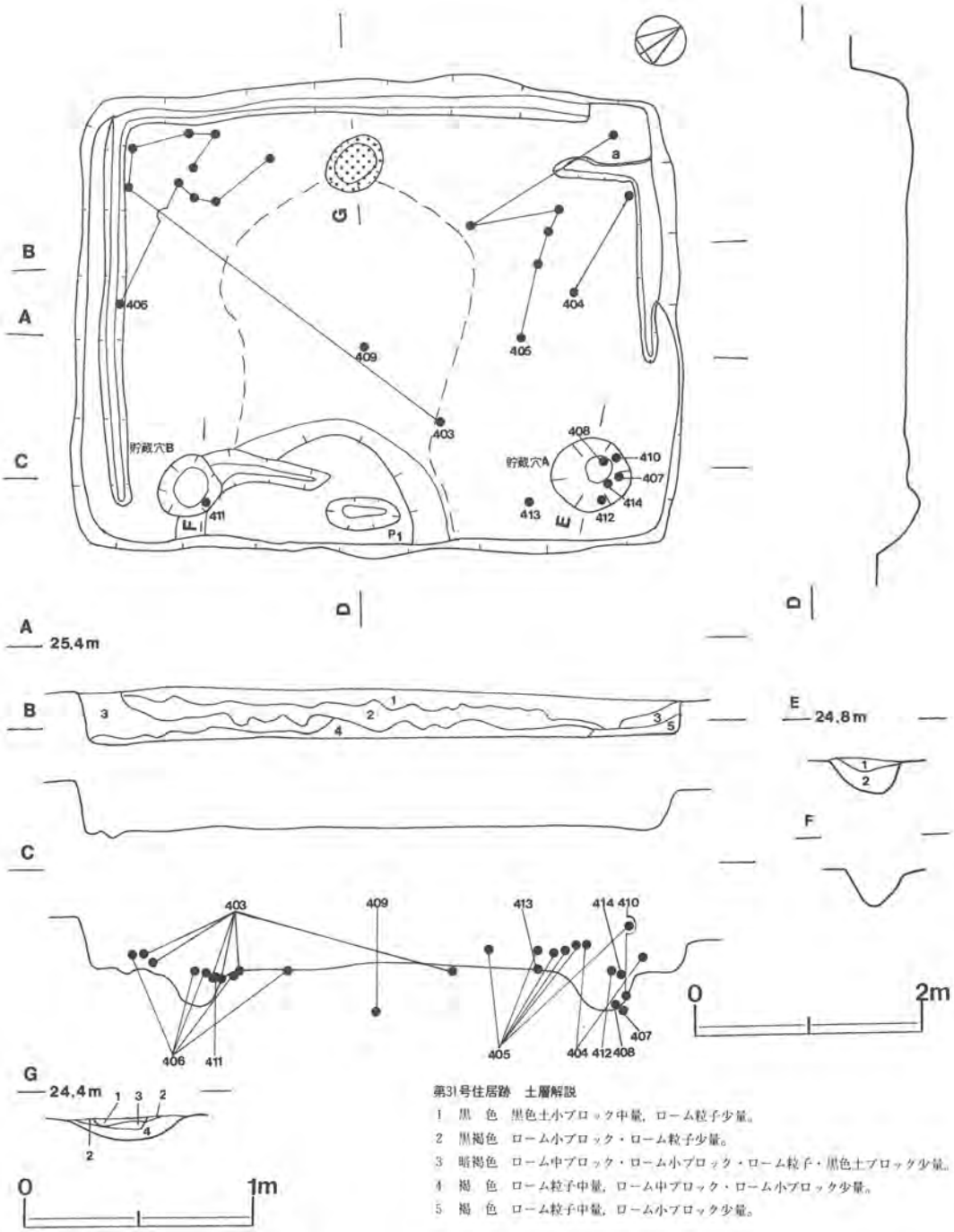
**覆土**　5層からなる。1・2層は自然堆積，3～5層はロームのブロックが混入していることから人為堆積と思われる。

**遺物**　床面や覆土下層から，土師器（甕3，坏6，小形坏1，埦2）・細片（989点）が出土している。411の土師器の坏は，貯蔵穴Bの覆土から，正位の状態で出土している。412の土師器の小形坏は，東コーナー付近の覆土上層から，逆位の状態で出土している。407～410の土師器の坏は，貯蔵穴Aの覆土から斜位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第31号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第81・82図<br>403 | 甕<br>土師器 | A〔24.3〕<br>B(20.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は緩やかに内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口唇部刺突痕。口縁部内・外面横ナデ。胴部外面中位ヘラ削り後ナデ，上位ヘラ削り。 | 砂粒<br>にぶい橙色<br>普通 | P294　30%<br>西コーナー壁際覆土下層<br>外面煤付着 |




第31号住居跡　土層解説

1　黒　色　黒色土小ブロック中量，ローム粒子少量。
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土ブロック少量。
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

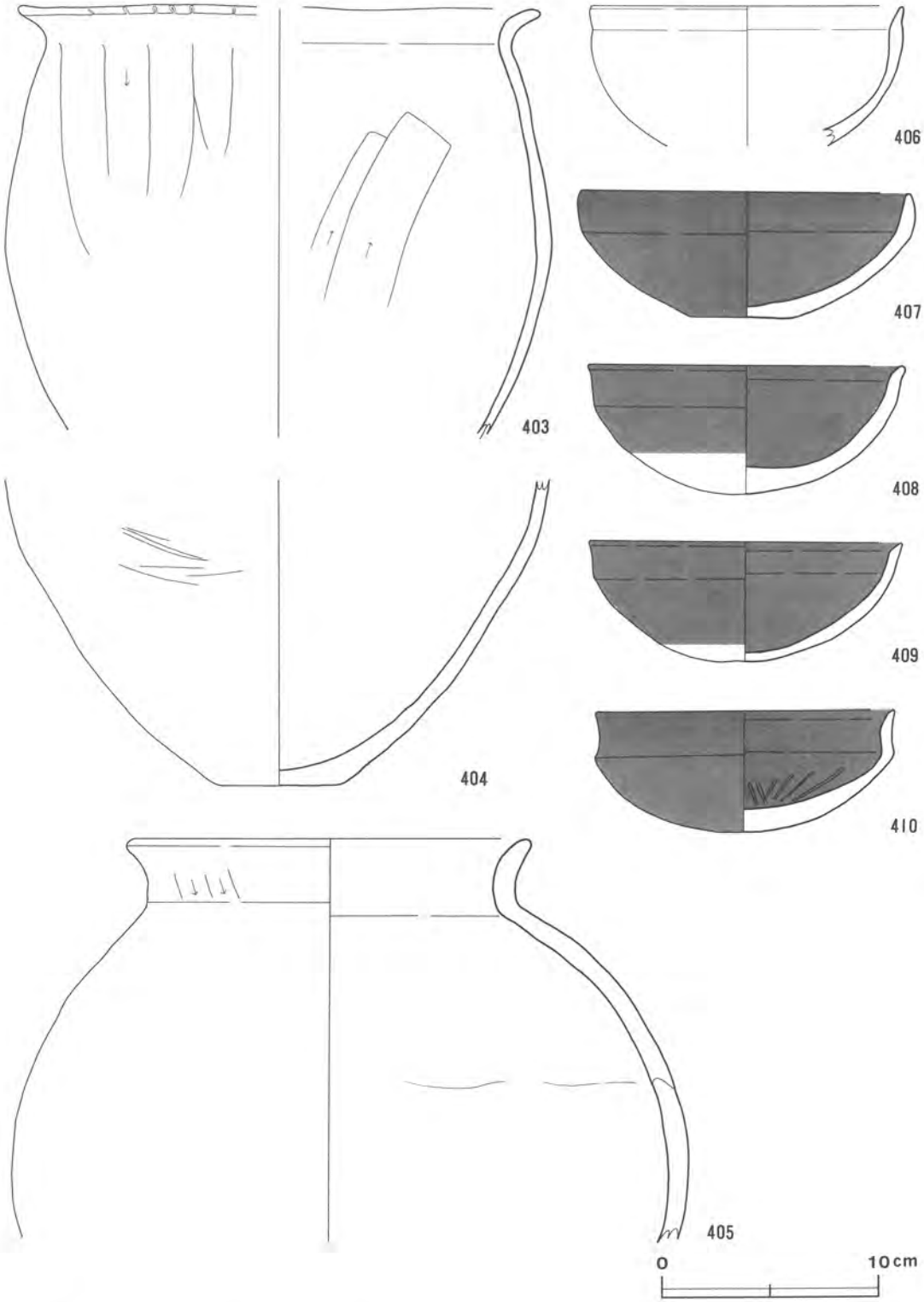
第31号住居跡　炉土層解説

1　赤　色　焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量。
4　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量。

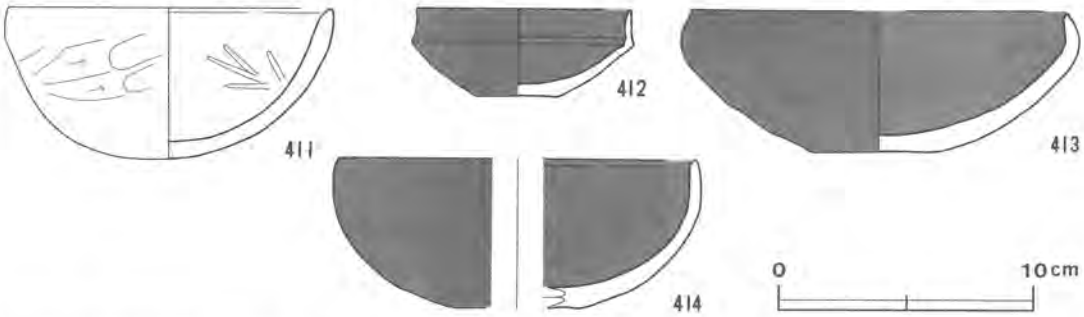
第31号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

第80図　第31号住居跡実測図




第81図　第31号住居跡出土遺物実測図(1)




第82図　第31号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 404 | 甕<br>土師器 | B(14.3)<br>C 5.0 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ナデ。底部肌荒れ。 | 砂粒・雲母<br>浅黄橙色<br>普通 | P296 20%<br>北コーナー付近覆土中層<br>外面煤付着 |
| 405 | 甕<br>土師器 | A 18.8<br>B(18.8) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>にぶい褐色<br>普通 | P295 25%<br>北コーナー壁際覆土中層 |
| 406 | 埦<br>土師器 | A 14.5<br>B( 6.6) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は内そぎ状でやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P304 60%<br>南西壁際覆土下層 |
| 407 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 6.0<br>C 4.8 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>明赤褐色<br>普通 | P297 100%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 408 | 坏<br>土師器 | A 14.8<br>B 6.0 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P298 100%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 409 | 坏<br>土師器 | A 14.7<br>B 5.6 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>普通 | P299 100%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 410 | 坏<br>土師器 | A 13.9<br>B 5.8 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に強い稜をもつ。口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤色<br>良好 | P300 100%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 411 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 6.0 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・長石<br>黄橙色<br>普通 | P301 100%<br>貯蔵穴B覆土<br>外面煤付着 |
| 412 | 小形坏<br>土師器 | A 7.5<br>B 3.5<br>C 3.4 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>赤褐色<br>良好 | P302 100%<br>東コーナー付近覆土上層 |
| 413 | 坏<br>土師器 | A〔14.9〕<br>B 5.6<br>C 4.9 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口唇部を上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母<br>暗赤褐色<br>普通 | P303 50%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 414 | 坏<br>土師器 | A〔14.4〕<br>B 6.0<br>C〔 5.2〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに内傾する。 | 口縁部外面横ナデ，内面ヘラ削り後ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P305 20%<br>東コーナー付近覆土下層 |

第32号住居跡（第83図）

**位置**　調査区の中央部よりやや北東寄り，H11$g_6$区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北東部は，第71・72号土坑によって掘り込まれ，第73号土坑を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸10.23m，短軸10.18mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－59°－W。

**壁**　壁高は18～28cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　南西壁下及び南東壁下と北東壁下に部分的に検出されている。上幅約18cm，深さ約5cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　9条（a～i）検出されている。南東壁付近に3条（a～c），南西壁付近に1条(d)，北西壁付近に3条（e～g），北東壁付近に2条（h，i）検出され，長さ1.0～1.8m，上幅16～27cm，深さ約12cm，断面形は，「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から南東壁にかけては硬く踏み固められている。

**ピット**　13か所（$P_1$～$P_{13}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径18～39cmのほぼ円形を呈し，深さ29～72cmで主柱穴と考えられる。$P_9$は，長径50cm，短径34cmの楕円形を呈し，深さは10cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_{10}$は，壁柱穴と思われる。$P_{11}$～$P_{13}$の性格は不明である。

**炉**　4基検出され，すべて地床炉である。炉Aは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径72cm，短径64cmの不整楕円形を呈し，床面を約6cm掘り窪めている。炉床は，にぶい赤褐色に焼けている。炉Bは，中央部に検出され，平面形は，長径70cm，短径60cmの楕円形を呈し，床面を約9cm掘り窪めている。炉床は約10cmの厚さに赤褐色に焼け，長期間にわたり使用したものと思われる。炉Cは，中央部の炉Bの北側に検出され，平面形は長径47cm，短径38cmの楕円形を呈し，床面を約6cm掘り窪めている。炉床は，にぶい赤褐色に焼けている。炉Dは，中央から南西寄りの$P_3$，$P_4$の主柱穴間に検出され，平面形は長径60cm，短径58cmの不整楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めている。炉床は，約12cmの厚さに赤褐色に焼け，長く使用したものと思われる。その他，床が焼土化した所が3か所（E～G）が検出されている。これら焼土化した床は，炉と比べると焼け具合が弱いもので，一時的に炉として使用されたものか，火災によるものか判然としない。

**貯蔵穴**　2基検出されている。貯蔵穴Aは，南東壁の中央から南コーナー寄りに検出され，平面形は，長径89cm，短径58cmの楕円形を呈し，深さは31cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴Bは，北西壁の中央から西コーナー寄りに検出され，平面形は長径72cm，短径60cmの不整楕円形を呈し，深さは41cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームの小ブロックやローム粒子を含む褐色土が堆積している。

**覆土**　6層からなる。各層にロームブロックやローム粒子が混入していることから人為堆積と思

われる。

**遺物**　床面や覆土下層から，土師器（甕６，坏５，高坏１，椀３）・細片（1090点），須恵器（椀１）が出土し，石製品も出土している。425の土師器の坏は，貯蔵穴Ａの覆土から，正位の状態で出土している。422の土師器の椀は，貯蔵穴Ｂの覆土から出土している。424の土師器の坏は，南コーナー付近の覆土下層から，斜位の状態で出土している。430の須恵器の椀は，北西壁中央部付近の床面から破片の状態で出土している。431のガラス玉は，中央部の覆土下層から出土している。

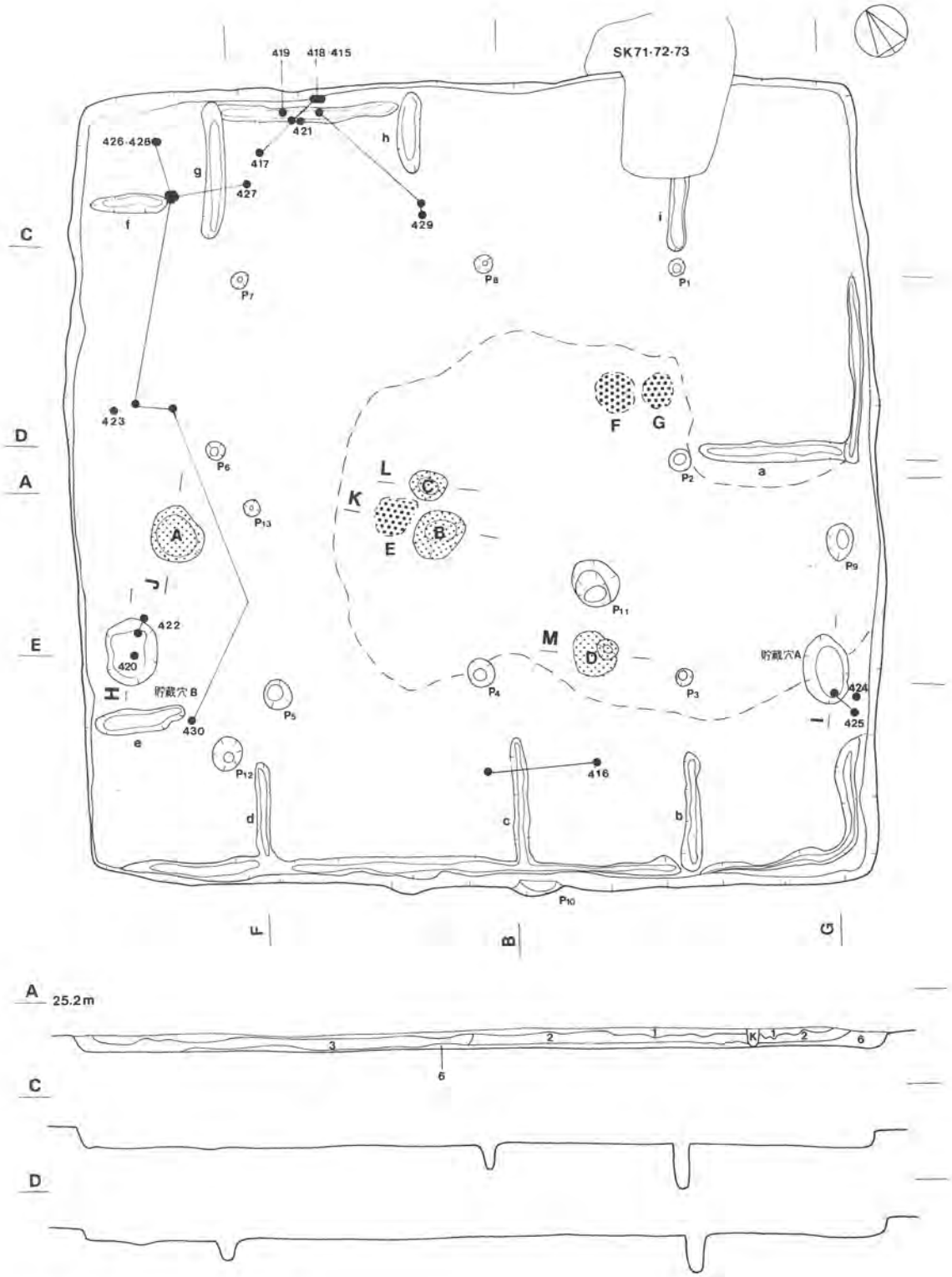
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

### 第32号住居跡出土遺物観察表

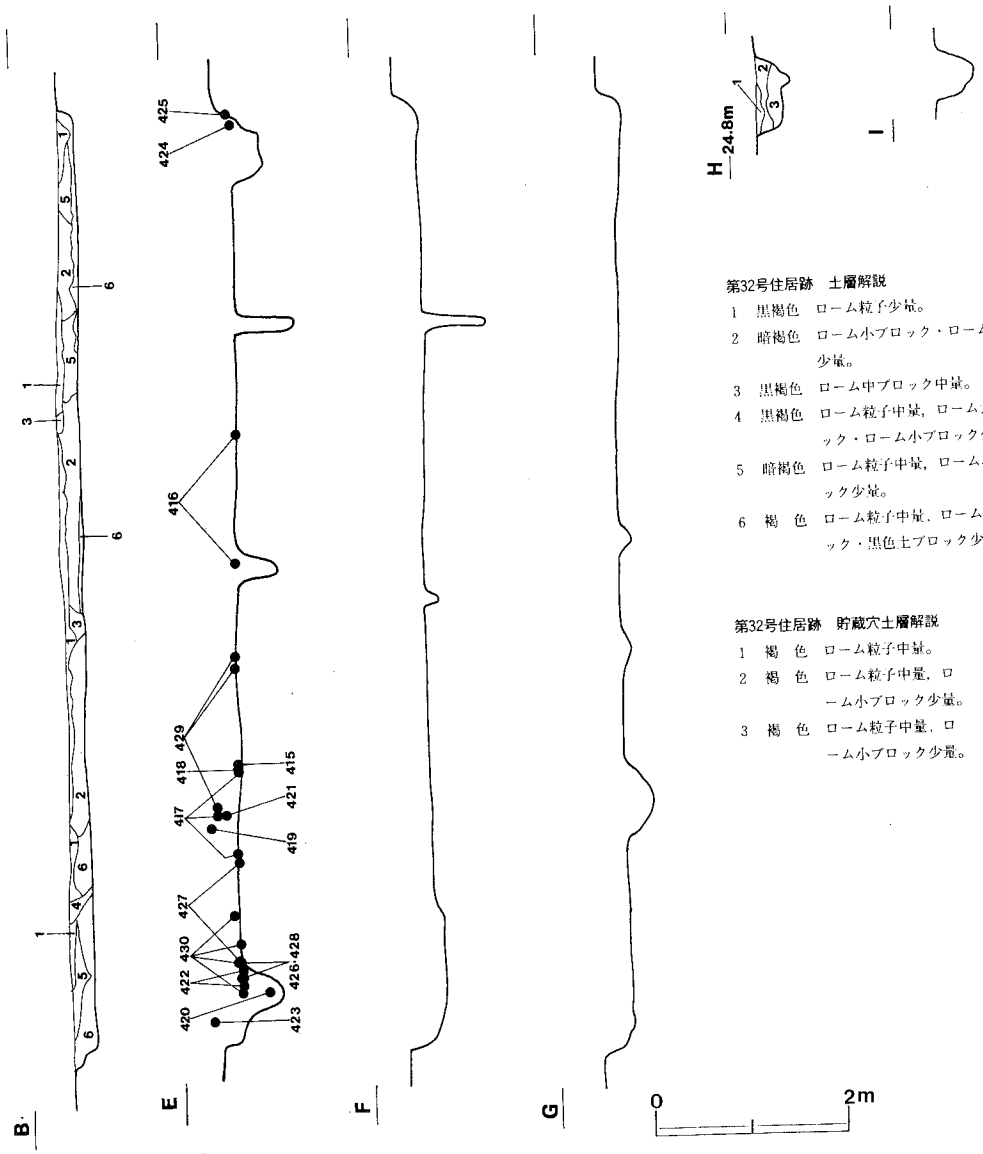
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第84・85図<br>415 | 甕<br>土師器 | A 16.2<br>B 27.5<br>C 6.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底でやや突出する。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ及びヘラナデ。胴部内面ナデ。胴部及び底部外面ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P 306　75%<br>北東壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 416 | 甕<br>土師器 | A〔17.2〕<br>B(12.7) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。胴部外面肌荒れ，内面ナデ。 | 砂粒・石英・長石<br>褐灰色<br>普通 | P 307　20%<br>南西壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 417 | 甕<br>土師器 | A〔14.4〕<br>B(11.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し，頸部はくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ヘラ削り後ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 309　25%<br>北東壁際覆土下層 |
| 418 | 甕<br>土師器 | B(11.4)<br>C〔 5.4〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 310　10%<br>北東壁際覆土下層 |
| 419 | 甕<br>土師器 | A 12.5<br>B 18.7<br>C 4.8 | 口縁部欠損。平底。胴部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。二次焼成。 | 砂粒・長石<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 311　95%<br>北東壁際覆土下層<br>外面煤付着 |
| 420 | 椀<br>土師器 | A 13.0<br>B 11.5<br>C 4.6 | 口縁部欠損。平底で僅かに突出する。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石<br>赤色<br>良好 | P 312　90%<br>北東壁際覆土下層<br>外面煤付着 |
| 421 | 甕<br>土師器 | B( 7.5)<br>C 7.2 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り，内面肌荒れ。底部ヘラ削り。二次焼成。 | 砂粒・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 308　10%<br>貯蔵穴Ｂ覆土 |
| 422 | 椀<br>土師器 | A〔13.8〕<br>B 9.8<br>C〔 5.0〕 | 体部及び口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 313　50%<br>貯蔵穴Ｂ覆土<br>外面煤付着 |
| 423 | 椀<br>土師器 | A 10.8<br>B 5.4<br>C 4.1 | 平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 318　100%<br>北西壁付近覆土中層 |
| 424 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 5.9 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，器厚を減じて口縁部に至る。口縁部は僅かに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面肌荒れ。内・外面赤彩。二次焼成。 | 砂粒・石英・小礫<br>赤色<br>普通 | P 314　90%<br>南コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 425 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B( 5.6) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石<br>暗赤色<br>良好 | P 315 70%<br>貯蔵穴A覆土 |
| 426 | 坏<br>土師器 | A 12.6<br>B 4.9 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英<br>赤色<br>普通 | P 316 90%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 427 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 5.5 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P 317 70%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 428 | 坏<br>土師器 | A〔14.5〕<br>B( 5.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，内面の口縁部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 319 20%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 429 | 高坏<br>土師器 | A 15.0<br>B 12.7<br>D 12.4<br>E 6.1 | 脚部から坏部の一部欠損。脚部はほぼ垂直に下り，中位で外反気味に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり，下位に稜をもち，口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラナデ，内面ナデ。脚部上位ヘラ削り。脚部外面下位及び内面ナデ。脚部外面及び坏部内・外面赤彩。 | 石英・長石<br>赤色<br>良好 | P 320 85%<br>北東壁付近覆土下層 |
| 430 | 埦<br>須恵器 | A〔11.0〕<br>B( 5.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，中位に2条の凸線をもち，凸線の下方に4条の櫛描波状文を施す。口唇部は丸味を有する。 | 巻き上げ・水挽き成形。体部下位ヘラ削り。体部外面上位横ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰色<br>普通 | P 321 10%<br>北西壁中央部床面<br>坏部内面自然釉 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 431 | ガラス玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 中央部下層 | Q 176 |




第83図　第32号住居跡実測図

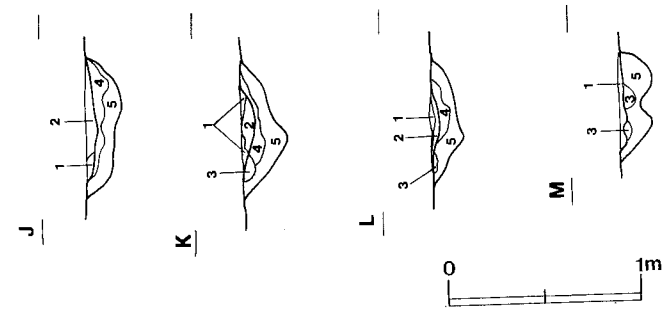



第32号住居跡　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　黒褐色　ローム中ブロック中量。
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・黒色土ブロック少量。

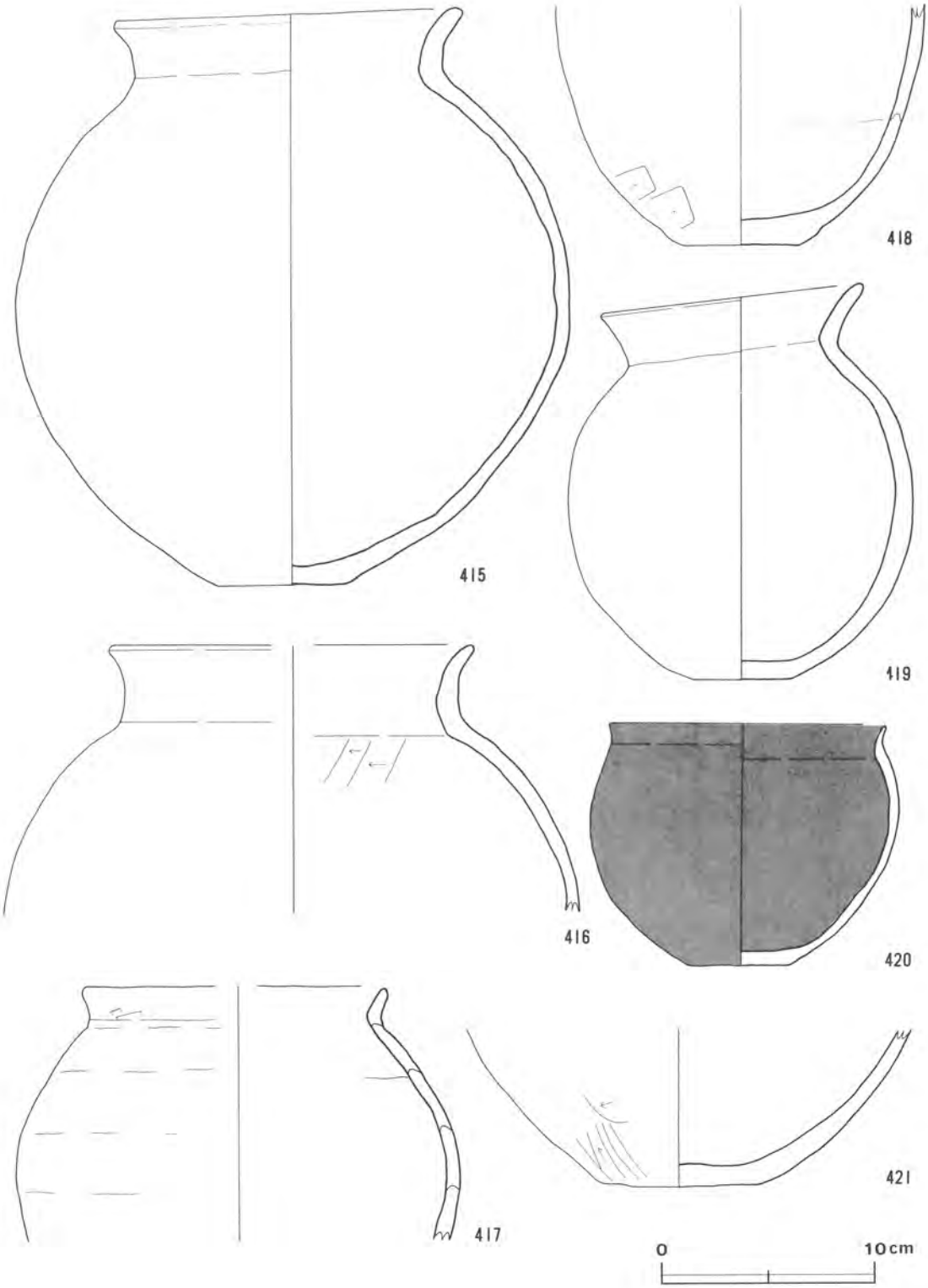
第32号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

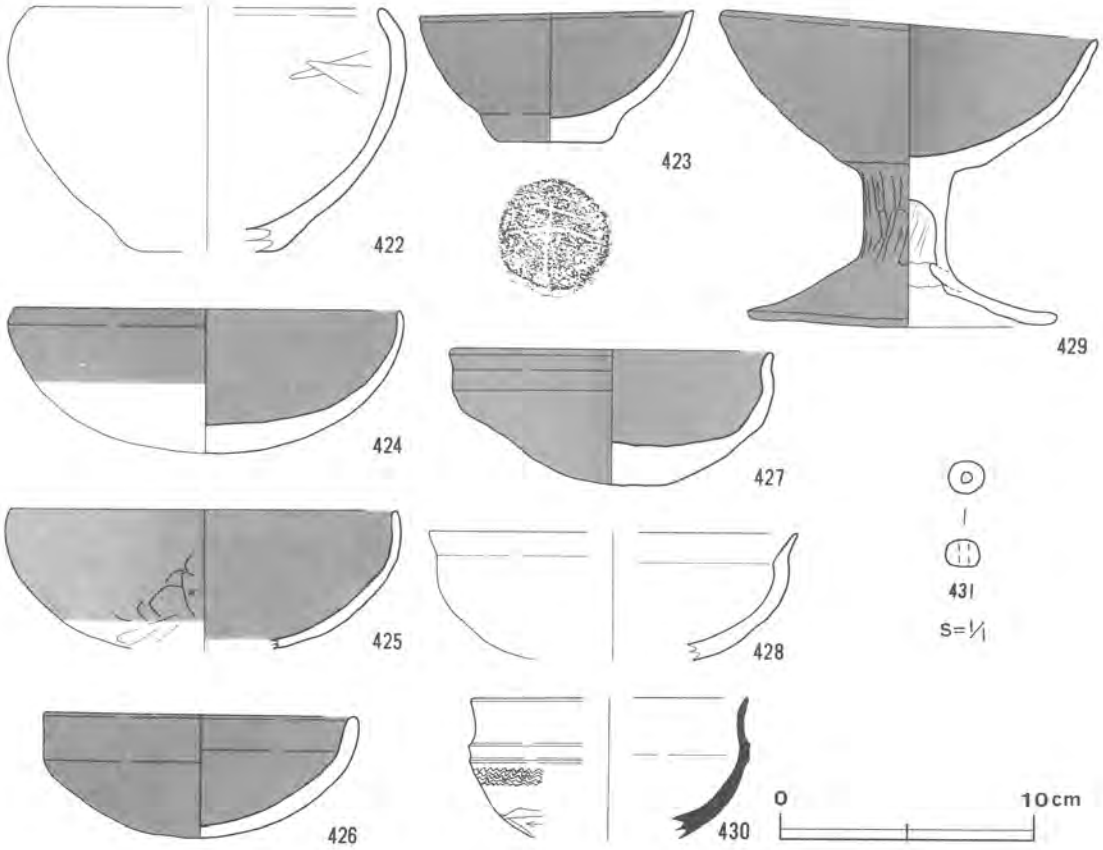



第32号住居跡　炉A・B・C・D土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量。
2　赤　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量。
3　赤　褐　色　焼土中ブロック多量。
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量。




第84図　第32号住居跡出土遺物実測図(1)




第85図　第32号住居跡出土遺物実測図(2)

**第33号住居跡**（第86・87図）

**位置**　調査区の中央部，H11g1区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸9.10m，短軸9.04mの方形を呈している。

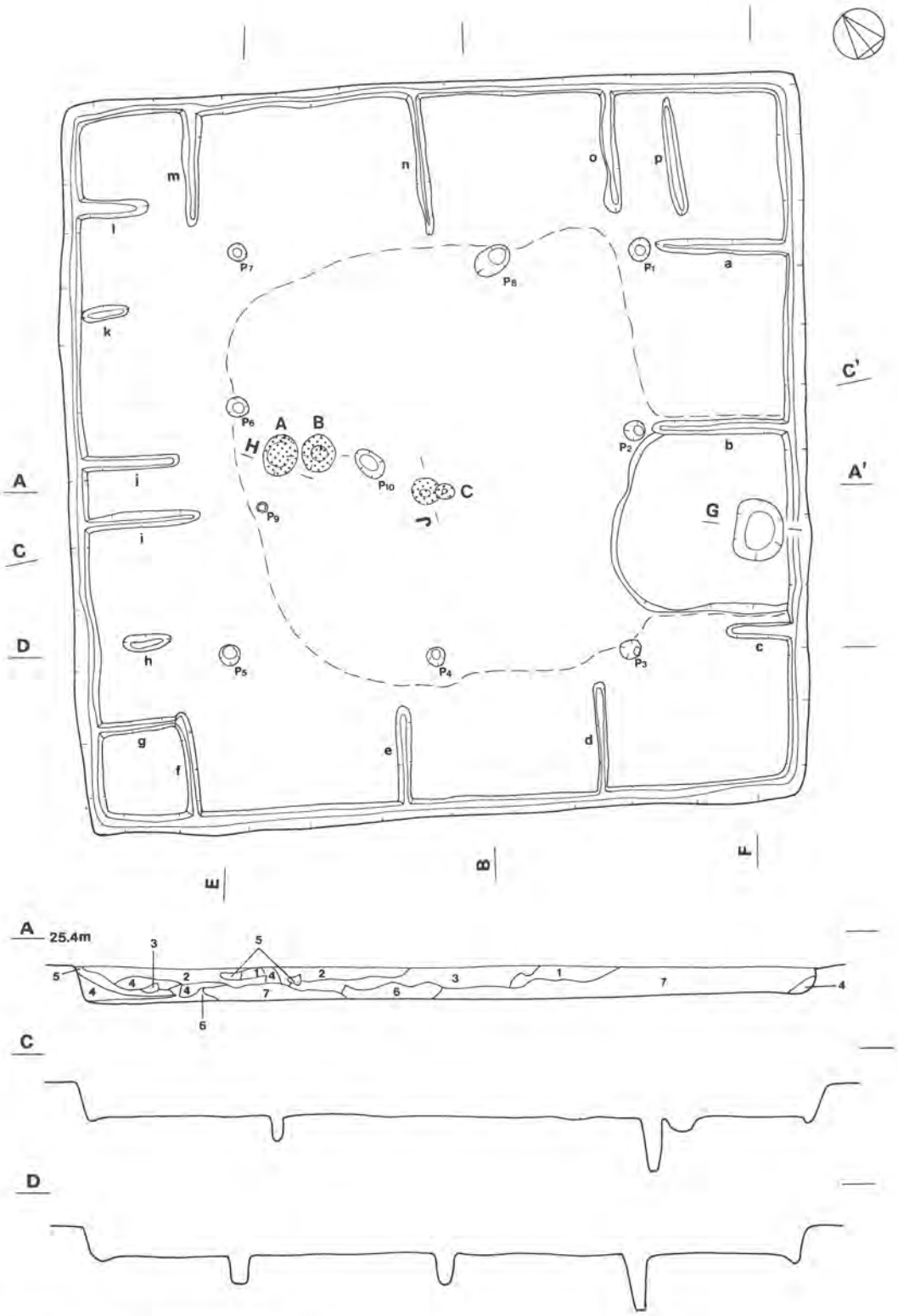
**主軸方向**　N－50°－W。

**壁**　壁高は27～46cmで，外傾して立ち上がっている。

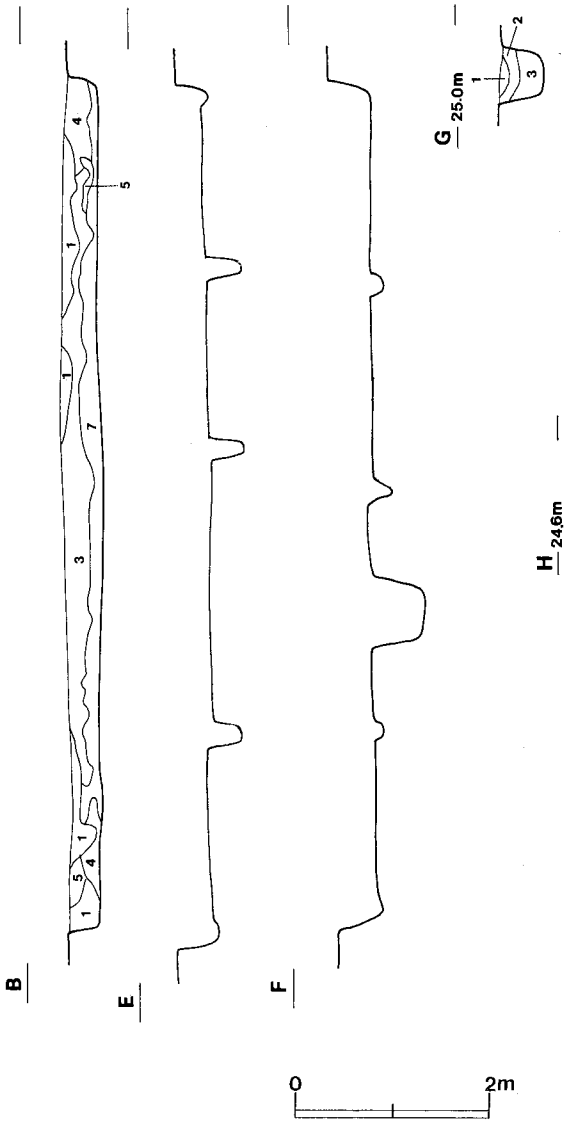
**壁溝**　壁直下を全周している。上幅約12～23cm，深さ約2～9cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　16条（a～p）検出されている。南東壁付近に3条（a～c），南西壁付近に3条（d～f），北西壁付近に6条（g～l），北東壁付近に4条（m～p）検出され，長さ0.6～1.7m，上幅10～22cm，深さ9～19cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，主柱穴を結んだ線の内側の床は，非常に硬く締まっている。南東壁中央部から南コーナー寄りには，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，出入口部の高まりと床との比高は約6cmである。




第86図　第33号住居跡実測図

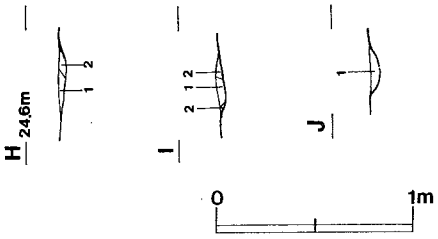



第33号住居跡　土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土ブロック少量。
2　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色粒子少量。
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，黒色粒子少量。
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量。

第33号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。




第33号住居跡　炉A・B土層解説

1　暗赤褐色　黒色土ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量。
2　褐　　色　炭化粒子・ローム小ブロック少量。

第33号住居跡　炉C土層解説

1　暗赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量。

**ピット**　10か所（$P_1$～$P_{10}$）検出されている。$P_1$～$P_8$は，径21～44cmのほぼ円形を呈し，深さ36～69cmで主柱穴と考えられる。$P_9$，$P_{10}$の性格は不明である。

**炉**　3基検出され，すべて地床炉である。炉Aは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径48cm，短径42cmの楕円形を呈し，床面を約6cm掘り窪めている。炉床は暗赤褐色に焼けている。炉Bは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径40cm，短径33cmの楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めている。炉床は暗赤褐色に焼けている。炉Cは，中央部に検出され，平面形は，長径48cm，短径27cmの不定形を呈し，床面を約10cm掘り窪めている。炉床は暗赤褐色に焼けており，炉の覆土からは鉄滓が出土している。小鍛冶の炉の可能性も考えられる。

**貯蔵穴**　南東壁の中央から南コーナー寄りに検出されている。平面形は，長軸74cm，短軸60cmの不整隅丸方形を呈し，深さは52cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム小ブロックやローム粒子を含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

**覆土**　7層からなる。各層にロームのブロックが混入し，覆土の上層や中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

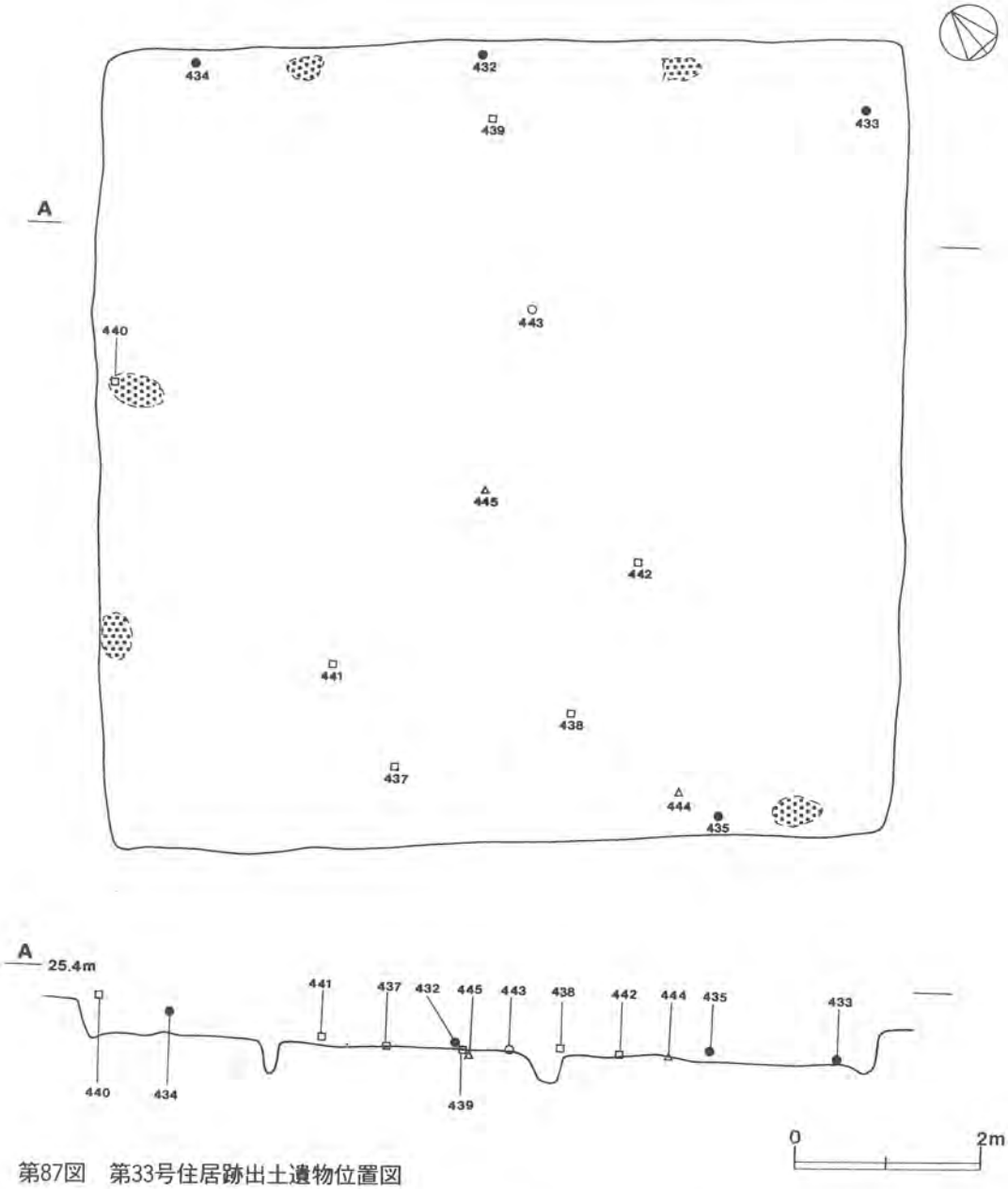
**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（坏2，高坏1，椀1）・細片（1357点），須恵器の細片（1点）が多量に出土し，石製品，土製品，鉄製品も出土し，炭化材が東コーナー付近の床面から少量出土している。その他，流れ込みと思われる石鏃が出土している。435の土師器の高坏は，南西壁際の覆土下層から斜位の状態で出土している。432の土師器の椀は，北東壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。442の臼玉は，中央部の床面から出土している。439の双孔円板は北東壁付近の覆土下層から，444の刀子は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡は，焼土や炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

### 第33号住居跡出土遺物観察表

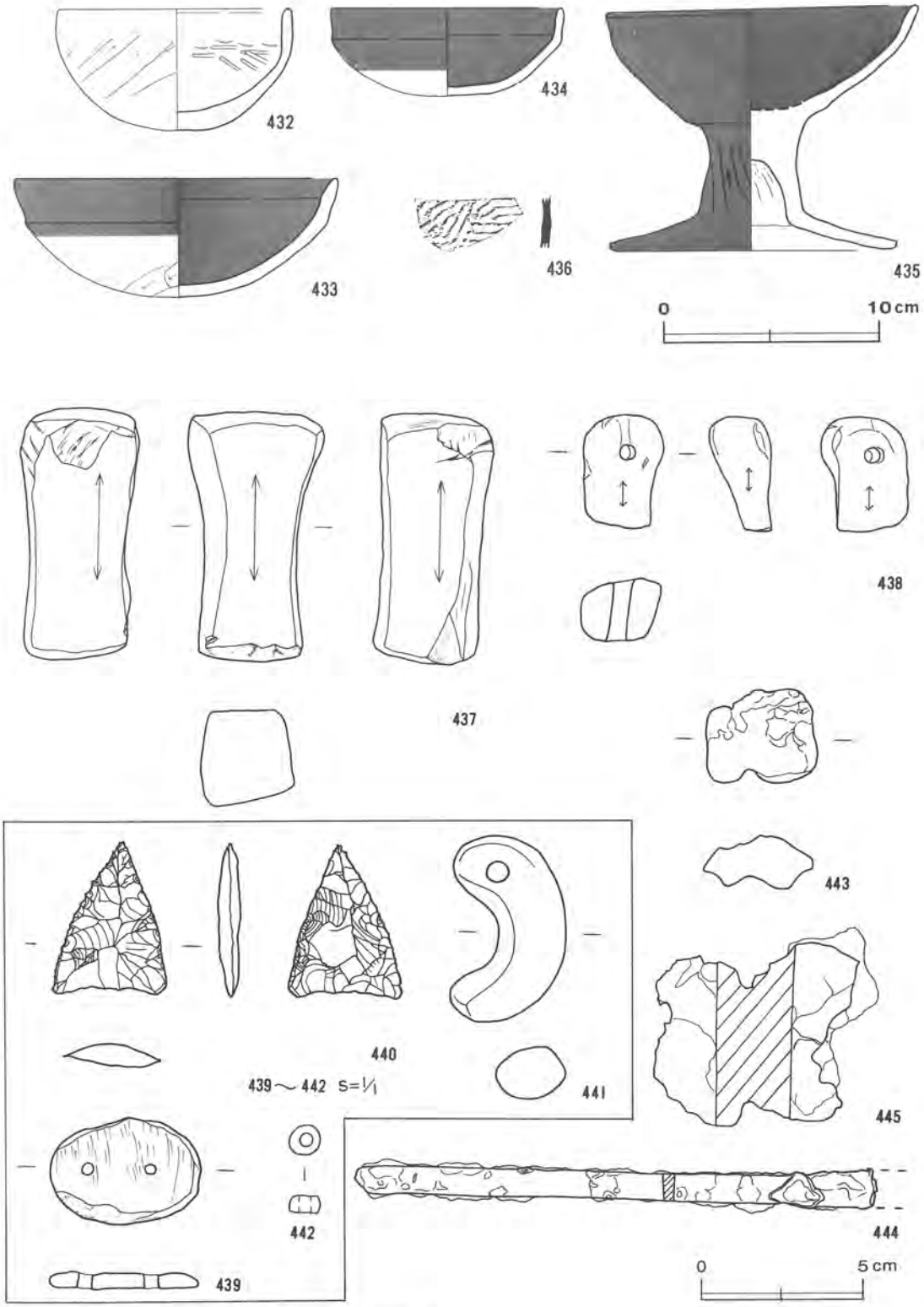
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第88図<br>432 | 椀<br>土師器 | A 11.1<br>B 5.8 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 324　100%<br>北東壁際覆土下層 |
| 433 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 5.7 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・長石<br>赤色<br>普通 | P 323　85%<br>東コーナー壁付近覆土下層 |
| 434 | 坏<br>土師器 | A 11.0<br>B 4.2 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 325　100%<br>北コーナー壁際覆土上層 |
| 435 | 高坏<br>土師器 | A 14.6<br>B 11.7<br>D 13.4<br>E 5.7 | 坏部から口縁部の一部欠損。脚部は僅かに開きながら下り，下位で大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。脚部上位ヘラ削り，下位内・外面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石<br>暗赤色<br>普通 | P 326　70%<br>南西壁際覆土下層 |
| 436 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP27　5%<br>南東壁付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 437 | 砥石 | 7.9 | 4.2 | 3.0 | --- | 170.2 | 100 | 南西壁付近覆土下層 | Q177　頁岩 |
| 438 | 砥石 | 3.6 | 2.7 | 2.0 | --- | (19.8) | 95 | 南西壁付近覆土下層 | Q178　砂岩 |
| 439 | 双孔円板 | 1.7 | 2.3 | 0.3 | 2.0 | 1.6 | 100 | 北東壁付近覆土下層 | Q179　滑石 |




第87図　第33号住居跡出土遺物位置図

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 440 | 石鏃 | 2.4 | 1.8 | 0.4 | --- | 1.3 | 100 | 北東壁際覆土中層 | Q180チャート |
| 441 | 勾玉 | 2.9 | 1.8 | 0.9 | 3.5 | 5.1 | 100 | 中央部覆土下層 | Q181　滑石 |
| 442 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 2.0 | 0.1 | 100 | 中央部床面 | Q182　滑石 |
| 443 | 羽口 | (2.9) | (3.5) | --- | --- | (12.9) | 5 | 中央部覆土下層 | DP6 |
| 444 | 刀子 | (16.3) | (0.9) | (0.9) | --- | (17.8) | 70 | 南西壁際床面 | M10 |
| 445 | 鉄滓 | (6.9) | (6.4) | (2.4) | --- | (95.0) | 70 | 中央部覆土下層 | M11 |




第88図　第33号住居跡出土遺物実測・拓影図

**第34号住居跡**（第89図）

**位置**　調査区の中央部，H10c7区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.56m，短軸3.53mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－53°－W。

**壁**　壁高は8～10cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　凹凸が多く，比較的軟らかい。南東壁の中央部には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，その西端からは梯子ピット（$P_4$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約6cmである。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）検出されている。$P_1$～$P_3$は，径12～24cmの円形を呈し，深さ19～24cmで主柱穴と考えられるが，残る1本は検出できなかった。$P_4$は，長径23cm，短径15cmの楕円形を呈し，深さ11cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_5$の性格は不明である。

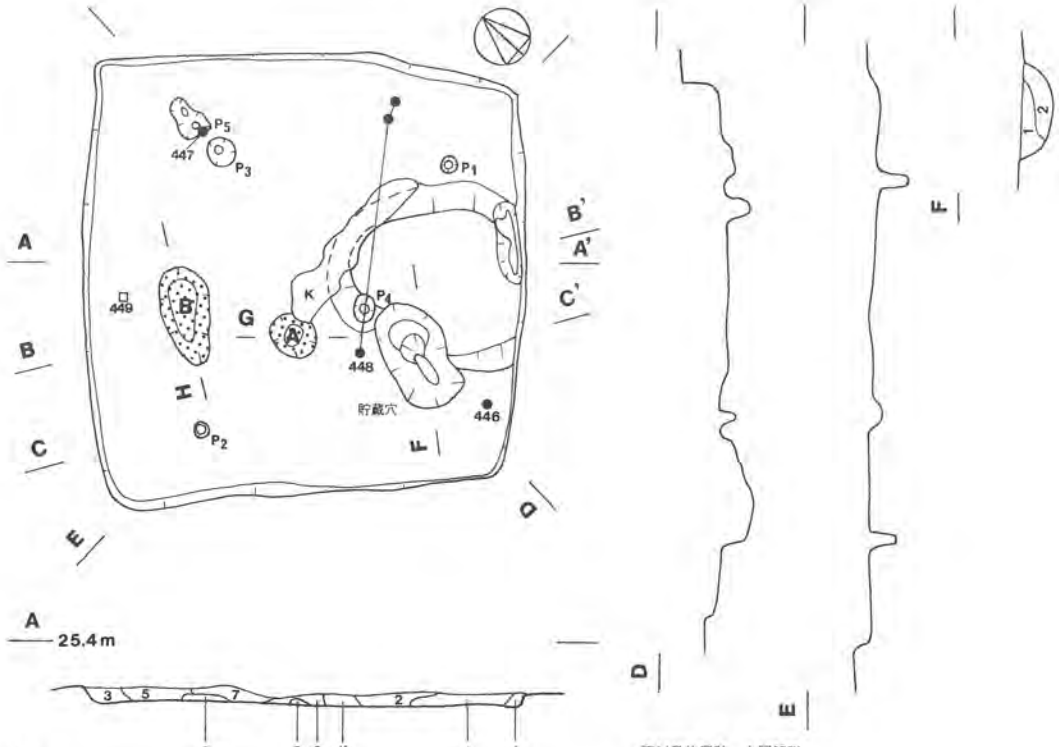
**炉**　2基検出され，どちらも地床炉である。炉Aは，中央部に検出され，平面形は長径39cm，短径［34cm］の楕円形を呈するものと思われる。炉床は，床面を約6cm掘り窪められ，暗赤褐色に焼けている。炉Bは，中央から北西寄りの$P_2$と$P_3$の主柱穴間に検出され，平面形は長径80cm，短径41cmの楕円形を呈し，床面を約8cm掘り窪めている。炉床は暗赤褐色に焼けている。

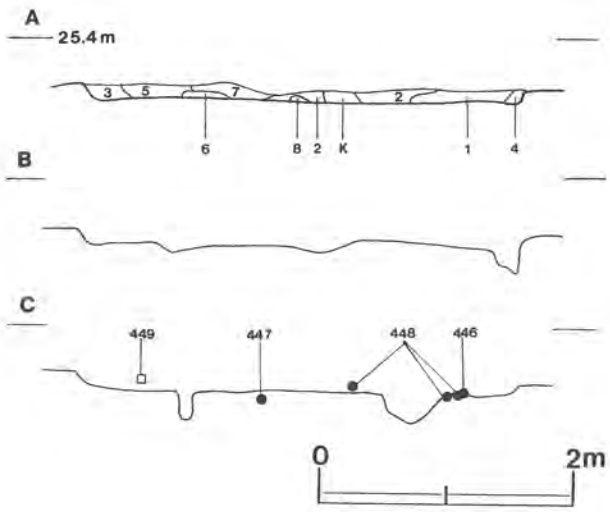
**貯蔵穴**　南コーナーに検出されている。平面形は，長径90cm，短径44cmの不整楕円形を呈し，深さは26cmである。底面はほぼ平坦で，南壁は外傾して立ち上がり，その他の壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴内には，ローム中ブロックとローム粒子を少量含む褐色土が堆積している。

**覆土**　8層からなる。各層には焼土粒子，ローム粒子やロームブロックが混入しており，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕3）・細片（849点），須恵器の細片（1点）が出土し，石製品も出土している。447の土師器の甕は，北コーナー付近の床面から，口縁部のみが正位の状態で出土している。446の土師器の甕は，南コーナーの覆土下層から，口縁部のみが正位の状態で出土している。449の臼玉は，北西壁付近の床面から出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。



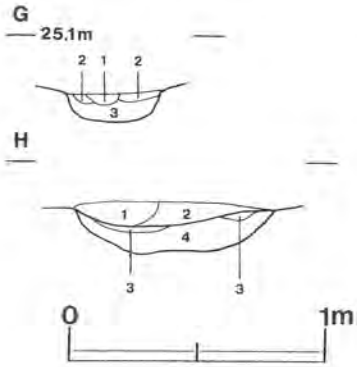




第34号住居跡　土層解説

1　褐　色
2　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色
4　褐　色　焼土小ブロック少量。
5　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量。
6　黒褐色　ローム大ブロック・ローム粒子少量。
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
8　　ロームブロック少量。

第34号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム中ブロック。




第34号住居跡　炉A土層解説

1　暗褐色　焼土小ブロック・ローム中ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量。

第34号住居跡　炉B土層解説

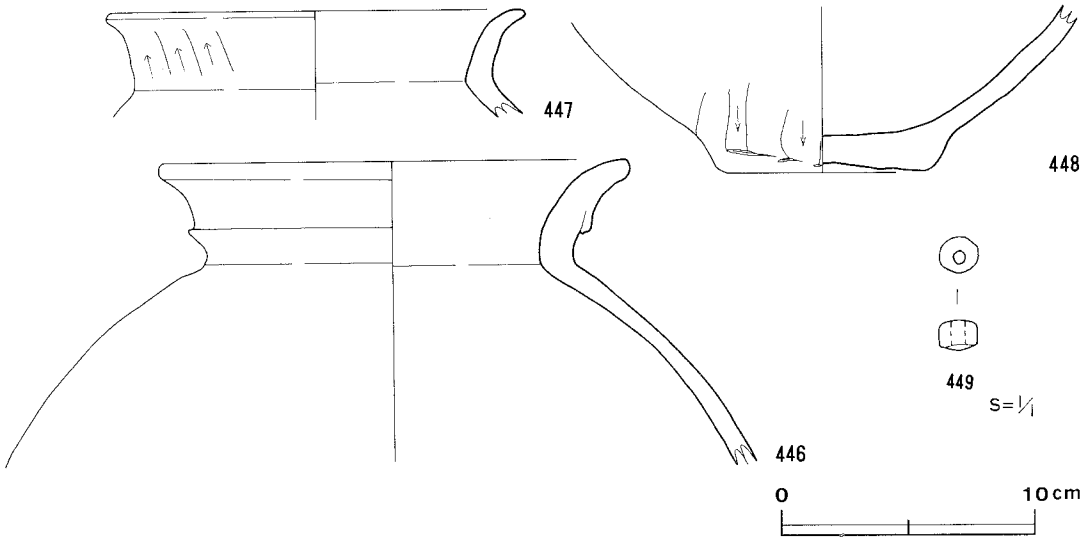
1　赤褐色　焼土小ブロック少量。
2　明褐色　焼土中ブロック少量。
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。

第89図　第34号住居跡実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第90図<br>446 | 甕<br>土師器 | A 18.6<br>B(12.2) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。口縁部は外反し，中位に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 328　30%<br>南コーナー覆土下層 |
| 447 | 甕<br>土師器 | A 16.6<br>B( 4.3) | 口縁部片。口縁部は外傾し，口唇部をほぼ水平につまみ出す。 | 口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。口縁部内面横ナデ。 | 砂粒・長石・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 329　10%<br>北コーナー付近床面 |
| 448 | 甕<br>土師器 | B( 6.6)<br>C 7.8 | 底部から胴部にかけての破片。上げ底で突出する。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面ヘラナデ。底部ナデ。 | 砂粒・石英<br>橙色<br>普通 | P 330　20%<br>中央部覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 449 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 1.5 | 0.1 | 100 | 北西壁付近床面 | Q183　滑石 |




第90図　第34号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡（第91図）

位置　調査区の中央部，H10i3区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸（2.85）m，短軸（2.73）mの方形を呈するものと推定される。

主軸方向　［N－39°－W］。

壁　削平されているが，遺存部の壁高は0～6cmである。

床　ほぼ平坦で硬い。

ピット　1か所（P1）検出されているが，性格は不明である。

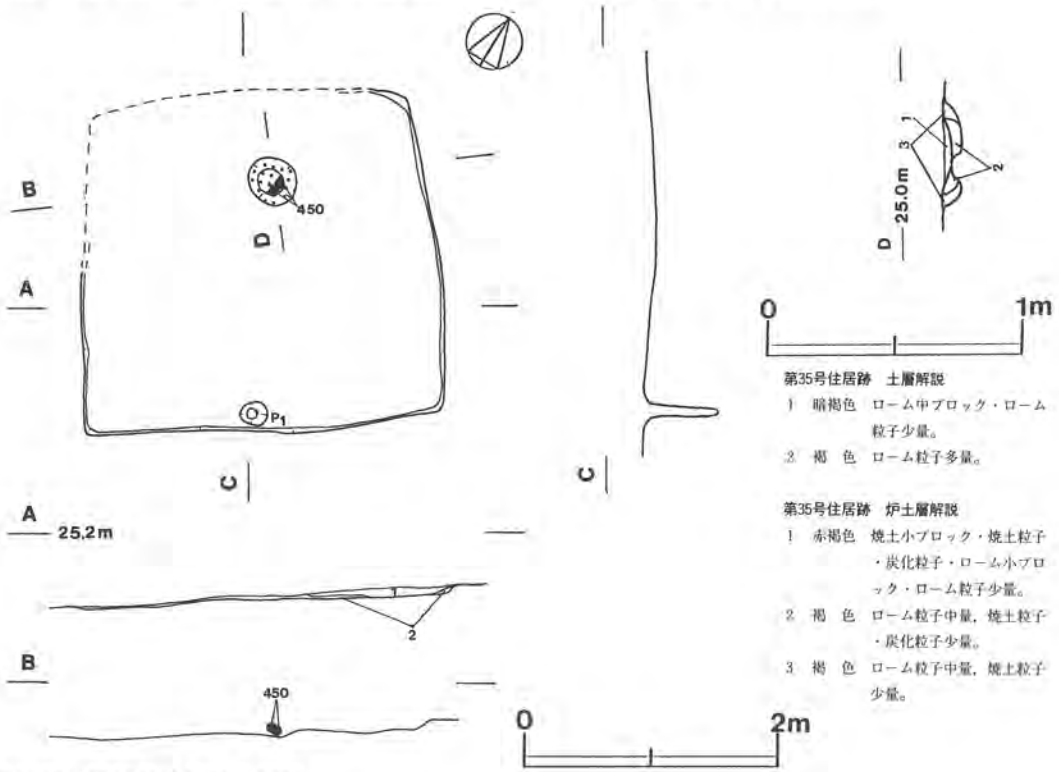
炉　中央から北西寄りに検出され，平面形は長径37cm，短径36cmの円形を呈し，床面を約4cm掘

り窪められている。炉床はあまり焼けていない。

**覆土**　2層からなるが，削平されており，堆積状態は不明確である。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（埦1）・細片（58点）が出土している。450の土師器の埦は，北コーナー付近の覆土下層から，潰れた状態で出土している。

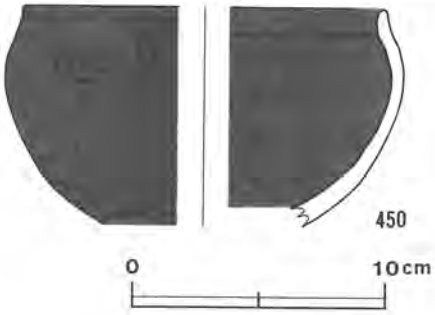
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第91図　第35号住居跡実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第92図<br>450 | 埦<br>土 師 器 | A〔14.1〕<br>B( 8.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，器厚を減じて口縁部に至る。口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 331　　25%<br><br>北コーナー付近覆土下層 |




第92図　第35号住居跡出土遺物実測図

**第36号住居跡**（第93・94図）

**位置**　調査区の中央，I10d₀区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸6.45m，短軸6.38mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－48°－W。

**壁**　壁高は38～47cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅14～24cm,深さ５～11cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　10条（a～j）検出されている。南東壁付近に１条（a），南西壁付近に２条（b，c），北西壁付近に２条（d，e），北東壁付近に５条（f～j）検出され，長さ0.5～1.4m，上幅14～30cm，深さ７～12cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，主柱穴を結んだ線の内側の床は，非常に硬く締まっている。南東壁のほぼ中央部付近には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出されており，その中央に梯子ピット（$P_5$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約８cmである。

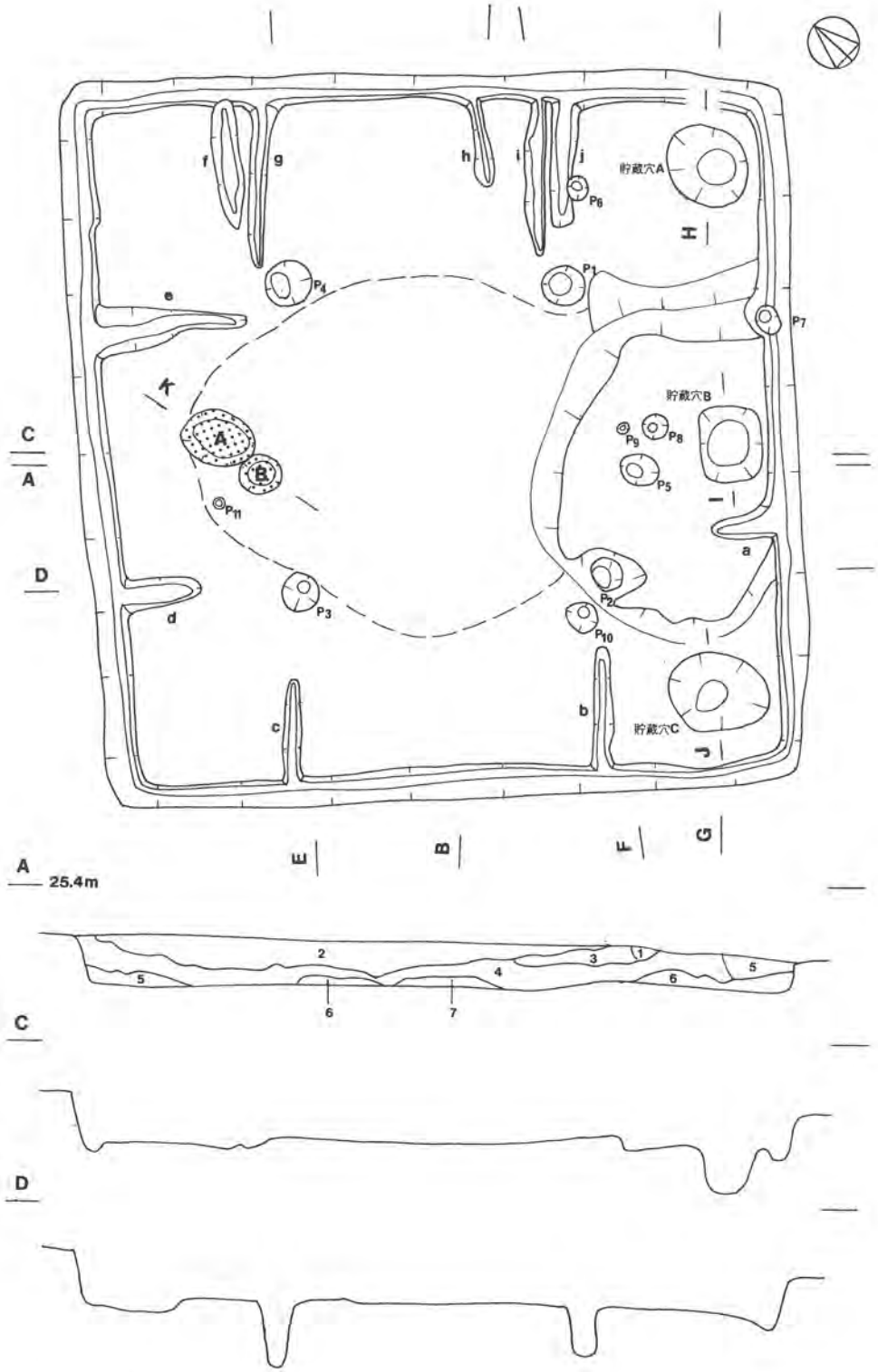
**ピット**　11か所（$P_1$～$P_{11}$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径25～42cmのほぼ円形を呈し，深さ48～68cmで主柱穴と考えられる。$P_5$は，長径35cm，短径25cmの楕円形を呈し，深さ12cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_6$～$P_{11}$の性格は不明である。

**炉**　２基検出され，どちらも地床炉である。炉Ａは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径65cm，短径50cmの楕円形を呈し，床面を約６cm掘り窪めている。炉床は暗褐色に焼けている。炉Ｂは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径39cm，短径35cmの楕円形を呈し，床面を約４cm掘り窪めている。炉床は，明赤褐色に焼けている。

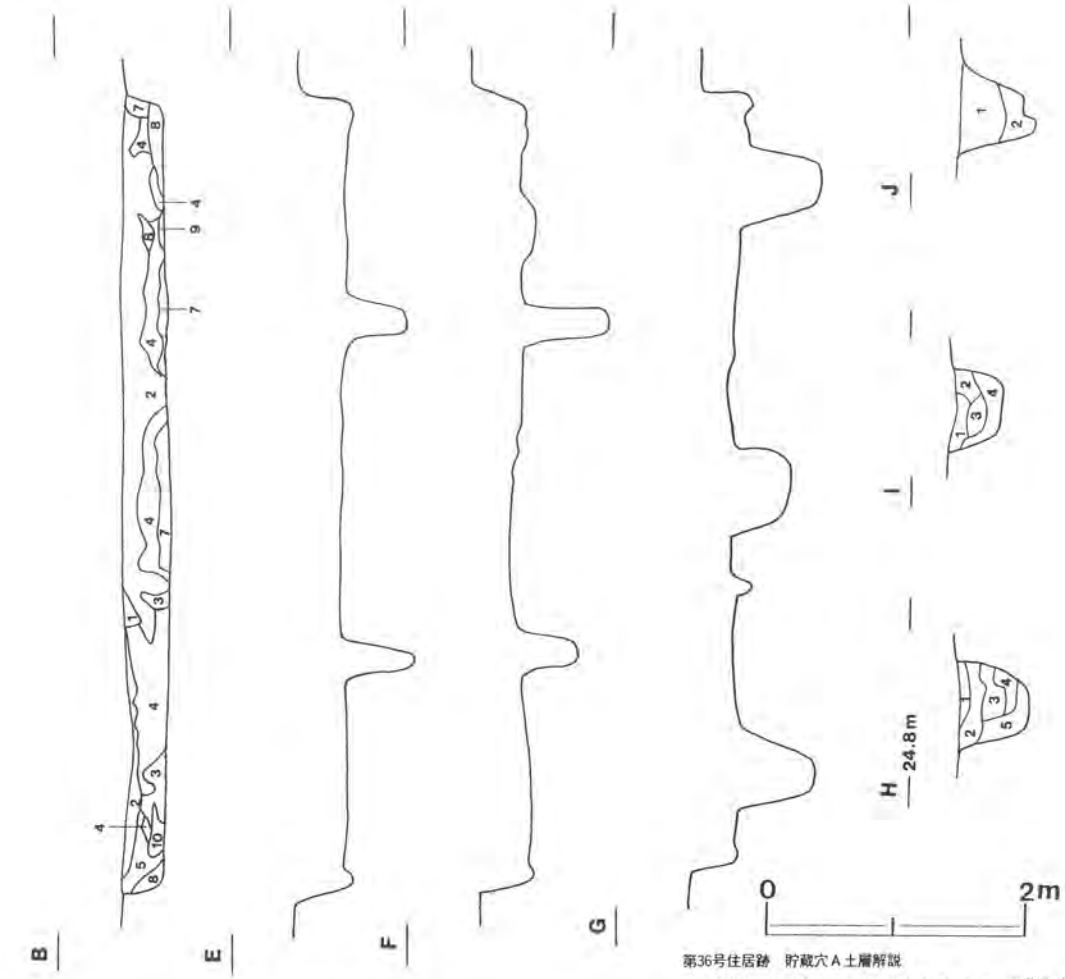
**貯蔵穴**　３基検出されている。貯蔵穴Ａは，東コーナーから検出され，平面形は，長径78cm，短径67cmの楕円形を呈し，深さは61cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土，炭化粒子，ローム小ブロックを少量含む暗褐色土，褐色土が堆積している。貯蔵穴Ｂは，南東壁際の中央部から検出され，平面形は，長軸66cm，短軸54cmの隅丸方形を呈し，深さは45cmである。底面はぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む黒褐色土，明褐色土が堆積している。貯蔵穴Ｃは，南コーナーから検出され，平面形は長径92cm，短径74cmの不整楕円形を呈し，深さは62cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームの大・小ブロックを少量含む褐色土が堆積している。

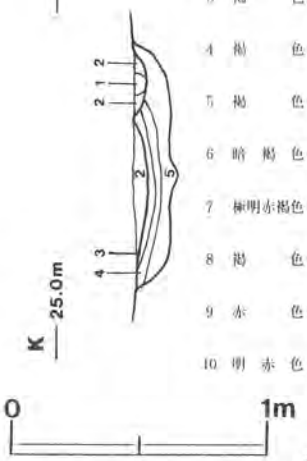
**覆土**　10層からなる。各層にロームブロックが混入し，覆土中層にはロームが帯状に堆積していることが確認できることや，上層と下層の土器が接合されることから人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕２，埦１）・細片（877点），須恵器（坏蓋１）




第93図　第36号住居跡実測図




**第36号住居跡　土層解説**

1　極　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗　褐　色
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・黒色土ブロック少量。
6　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・黒色土ブロック少量。
7　極明赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
8　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
9　赤　　色　焼土中ブロック多量，焼土粒子中量，黒色粒子少量。
10　明　赤　色　焼土粒子中量，炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

**第36号住居跡　貯蔵穴Ａ土層解説**

1　暗褐色　焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。

**第36号住居跡　貯蔵穴Ｂ土層解説**

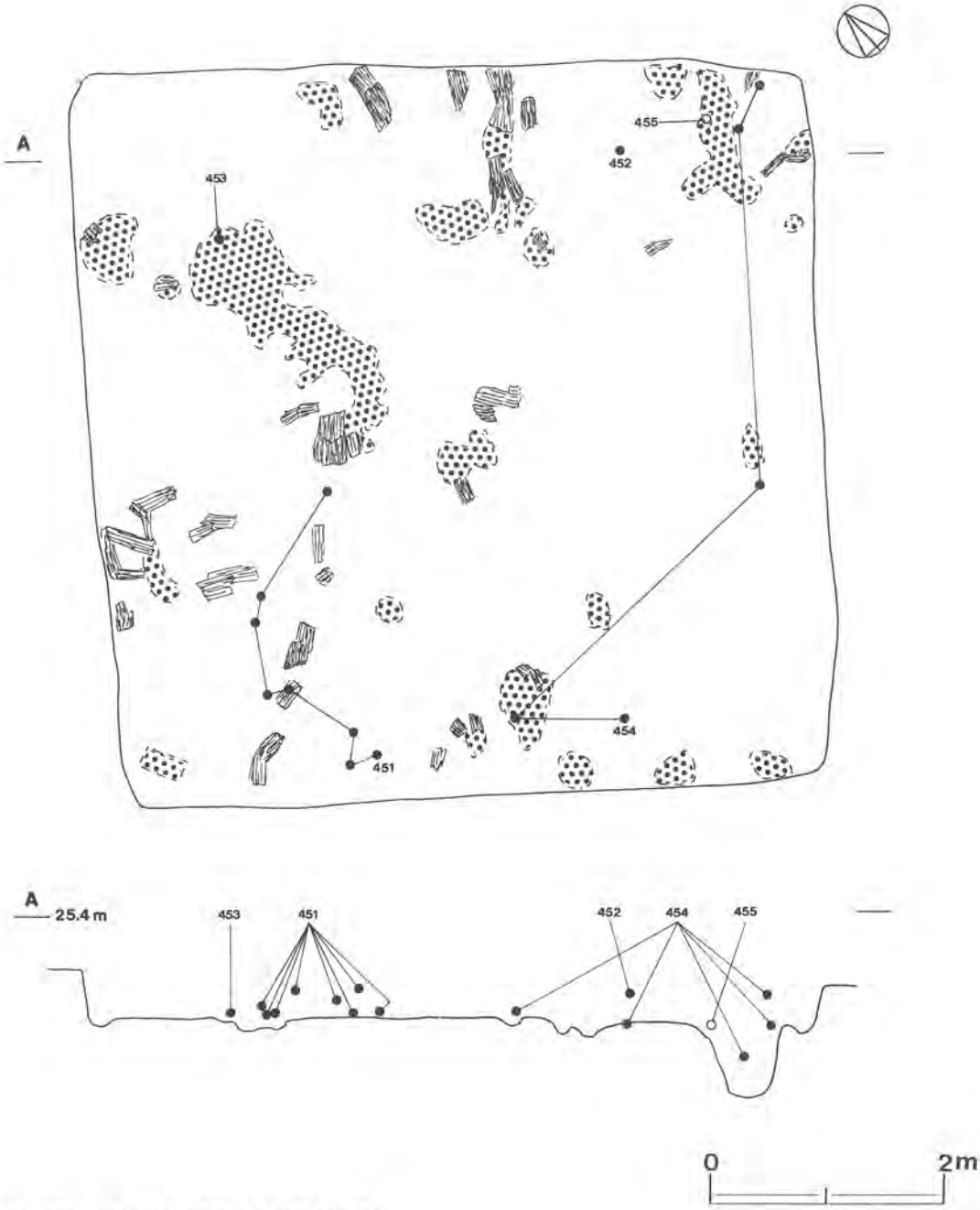
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量。
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック少量。
3　明　赤　褐　色　ローム粒子中量，炭化材・ローム大ブロック少量。
4　にぶい黄褐色　焼土粒子・炭化粒子少量。

**第36号住居跡　貯蔵穴Ｃ土層解説**

1　褐　色　ローム大ブロック少量。
2　褐　色　ローム小ブロック少量。

**第36号住居跡　炉Ａ・Ｂ土層解説**

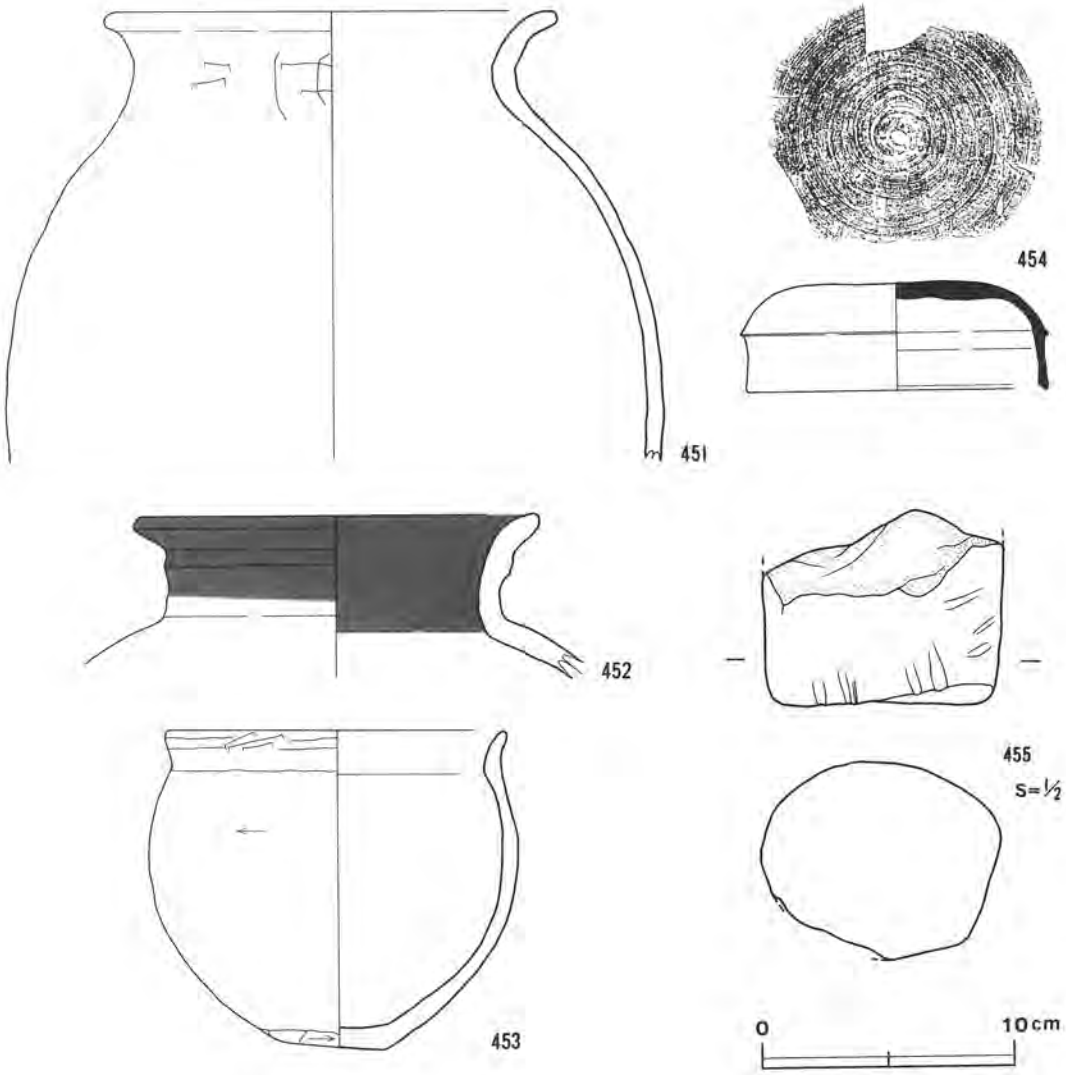
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量。
3　暗　褐　色　焼土粒子少量。
4　明赤褐色
5　褐　　色　焼土粒子・黒色粒子少量。




第94図　第36号住居跡出土遺物位置図

が出土し，土製品も出土している。さらに，炭化材が，西コーナー付近と北東壁際の下層から多数出土している（炭化材のＡとＢは，ともに主柱が炭化したものであり，材質はコナラ節の一種である）。452の土師器の甕は，東コーナー付近の覆土中層から出土している。454の須恵器の坏蓋は，南東壁付近の覆土中層から出土している。

**所見**　本跡は，焼土と炭化材が多量に検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第95図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第95図<br>451 | 甕<br>土師器 | A 18.1<br>B(18.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒<br>にぶい褐色<br>普通 | P 332　20%<br>南西壁付近覆土中層<br>外面煤付着 |
| 452 | 甕<br>土師器 | A 16.2<br>B( 6.6) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれる。口縁部は外反し，中位に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面赤彩。頸部内・外面ナデ。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 333　10%<br>東コーナー付近覆土中層 |
| 453 | 埦<br>土師器 | A 13.7<br>B 12.8<br>C 4.1 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。 | 口縁部外面ヘラ削り後，横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。体部外面下端及び底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 334　80%<br>北コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 454 | 坏蓋<br>須恵器 | A 12.0<br>B 4.3 | 口縁部の一部欠損。天井部は平坦で，内彎しながら口縁部に至り，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。端部は内傾する平面をなす。 | 巻き上げ・水挽き成形。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面及び口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰色<br>良好 | P 335　60%<br>南東壁付近覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 455 | 不明土製品 | (5.2) | 6.3 | 5.3 | --- | (160.9) | 50 | 東コーナー付近覆土下層 | DP7 |

## 第37号住居跡（第96・98図）

**位置**　調査区の中央部，I11f$_4$区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北東部が第45号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長軸5.96m，短軸5.94mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－54°－W。

**壁**　壁高は37～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅11～17cm，深さ4～12cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　4条（a～d）検出されている。南西壁付近に2条（a，b），北東壁付近に2条（c，d）検出され，長さ1.1～1.3m，上幅12～19cm，深さ4～6cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部の床は，非常に硬く締まっている。南東壁中央からやや南コーナー寄りには，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，その中央からやや北寄りに梯子ピット（P$_5$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約4cmである。

**ピット**　6か所（P$_1$～P$_6$）検出されている。P$_1$～P$_4$は，径18～35cmのほぼ円形を呈し，深さ74～96cmで主柱穴と考えられる。P$_5$は，長径23cm，短径20cm，深さ13cmで，出入口施設に伴う梯子ピ

ットと考えられる。$P_6$の性格は不明である。

**炉**　2基検出され，どちらも地床炉である。炉Aは，中央から北西寄りに検出され，平面形は長径62cm，短径46cmの不整楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めている。炉床は，赤褐色に焼けている。炉Bは，炉Aの南東側の$P_3$と$P_4$の主柱穴間に検出され，平面形は長径75cm，短径53cmの不整楕円形を呈し，床面を約4cm掘り窪めている。炉床は，約4cmの厚さに赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，長径81cm，短径80cmの不整円形を呈し，深さは44cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム小ブロックやローム粒子を少量含む褐色土，暗褐色土が堆積している。

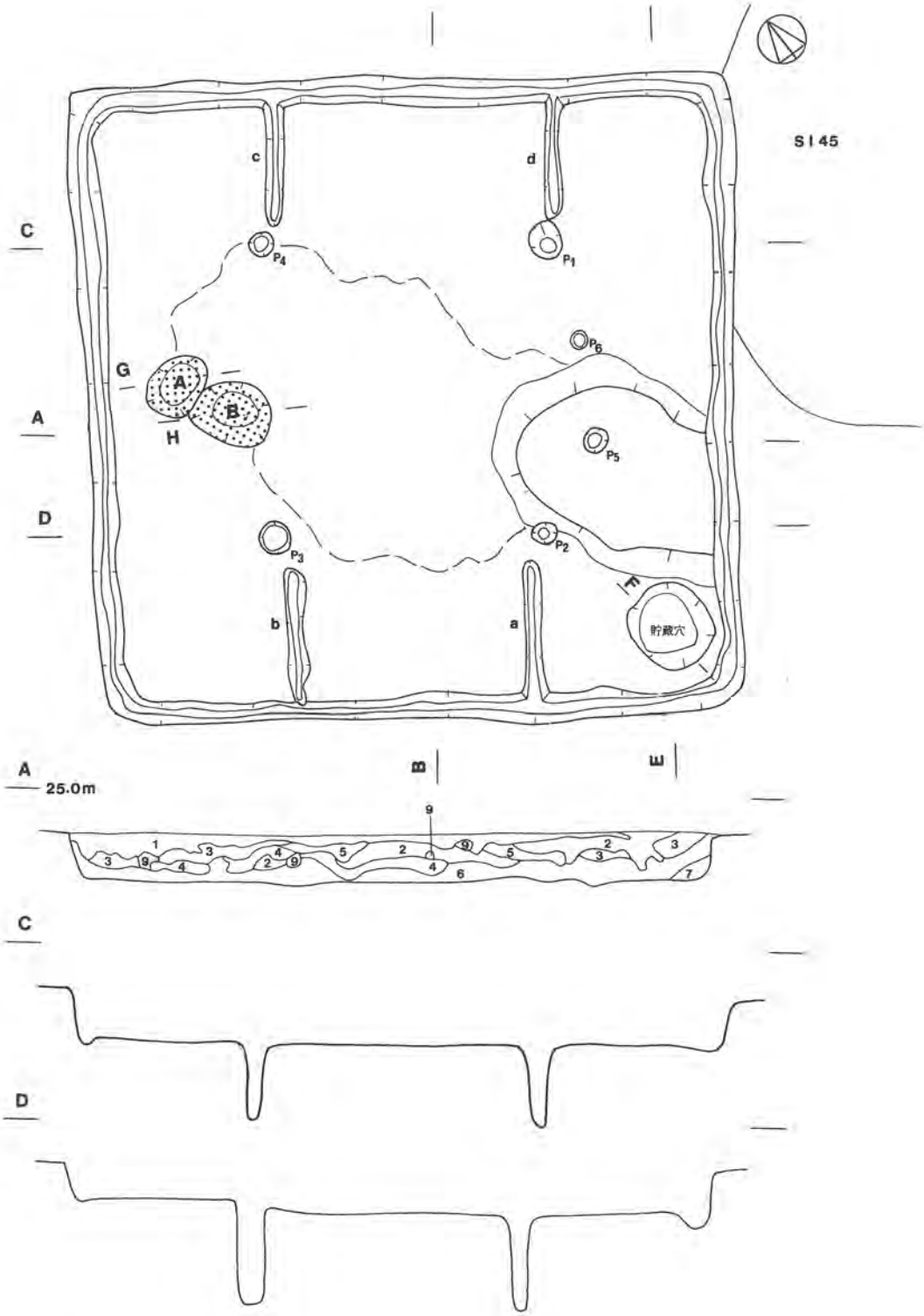
**覆土**　9層からなる。各層にロームブロックが混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土の中層を中心に，土師器（坏1，埦2）・細片（397点），須恵器の細片（1点）が少量出土している。さらに，炭化材が，中央部の床面から出土している。456の土師器の埦は，北西壁際の覆土下層から出土している。

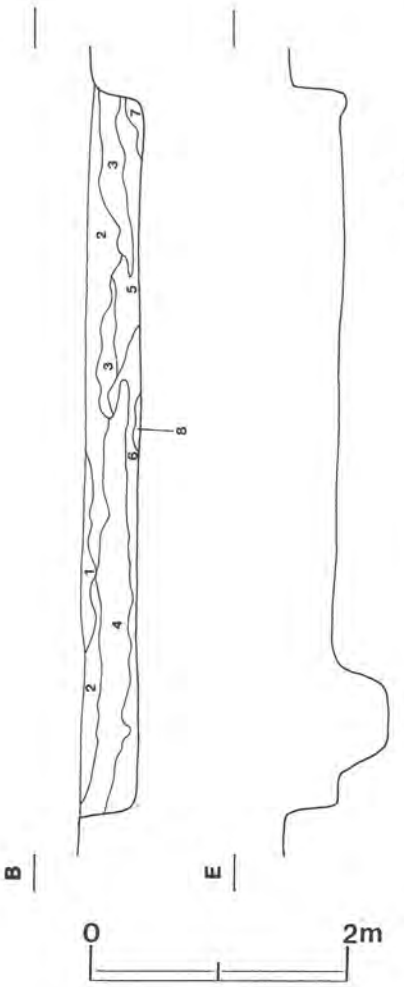
**所見**　本跡は，重複関係から第45号住居跡より新しい時期に構築され，炭化材と焼土が出土していることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第37号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第97図<br>456 | 埦<br>土師器 | A 15.4<br>B 8.4<br>C 5.7 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>赤色<br>普通 | P338　80%<br>北西壁際覆土下層 |
| 457 | 埦<br>土師器 | A 13.3<br>B 6.7<br>C 5.8 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P339　70%<br>南東壁付近覆土下層 |
| 458 | 坏<br>土師器 | B(4.3)<br>C 3.4 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P340　40%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 459 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | TP28　5%<br>中央部覆土中層 |




第96図　第37号住居跡実測図

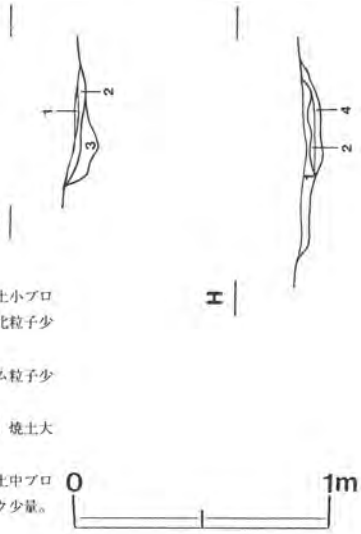


**第37号住居跡　貯蔵穴土層解説**

1　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
4　褐　色　ローム粒子少量。

**第37号住居跡　土層解説**

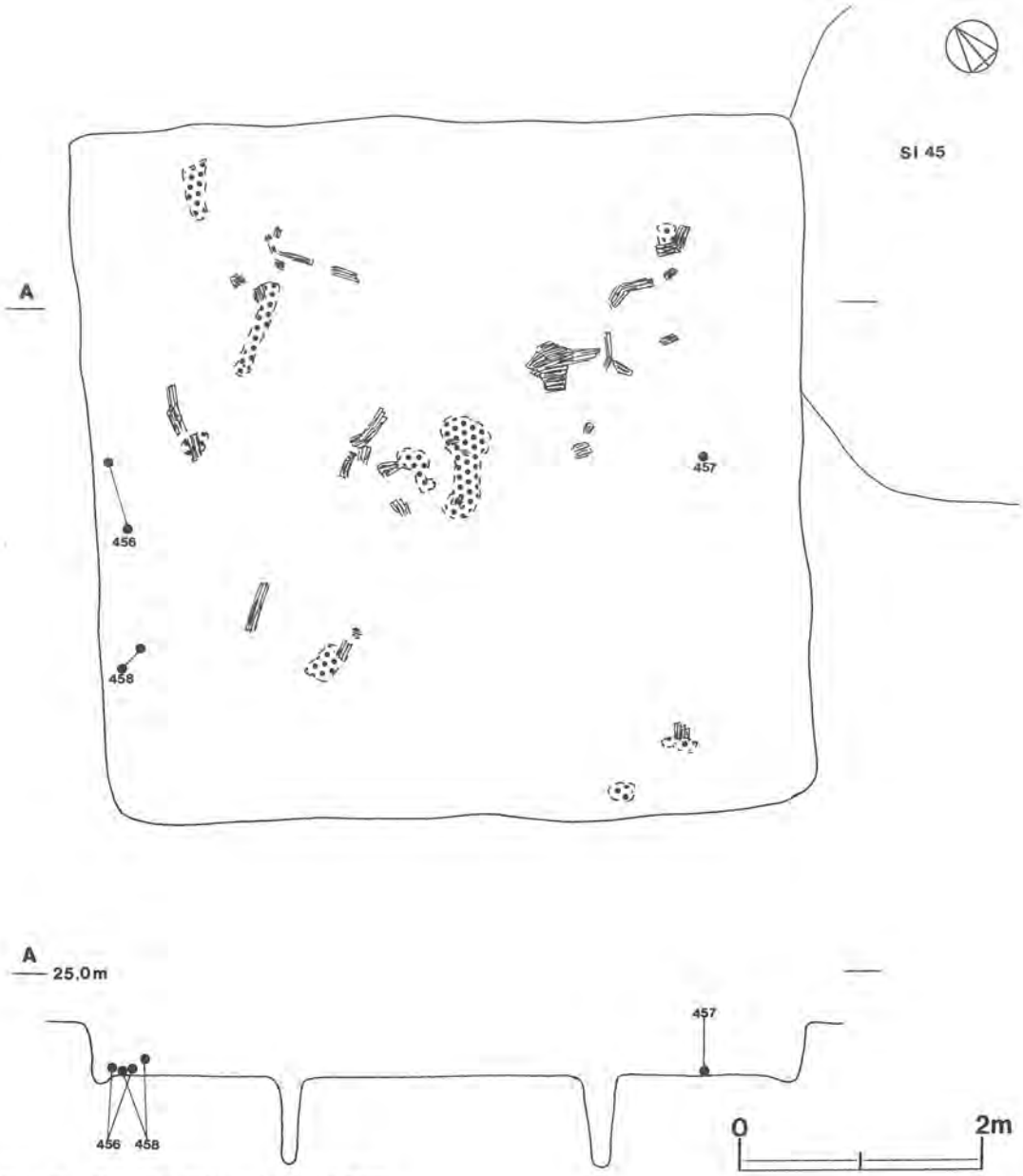
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
2　黒 褐 色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土ブロック少量。
4　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土ブロック少量。
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土ブロック少量。
7　暗 褐 色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
8　暗赤褐色　焼土中ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量。
9　　ロームブロック。




**第37号住居跡　炉A・B土層解説**

1　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
2　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量。
3　赤 褐 色　焼土小ブロック中量，焼土大ブロック少量。
4　赤 褐 色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量。

第97図　第37号住居跡出土遺物実測・拓影図




第98図　第37号住居跡出土遺物位置図

第38号住居跡（第99図）

位置　調査区の中央部，111h₁区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸6.67m，短軸5.54mの長方形を呈している。

主軸方向　N－51°－W。

壁　壁高は14～26cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　南東壁下の一部を除いて回っている。上幅18～23cm，深さ4～11cmで，断面形は逆台形状，

あるいは「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　5条（a～e）検出されている。南東壁付近に1条（a），南西壁付近に2条（b，c），北東壁付近に2条（d，e）検出され，長さ0.7～1.4m，上幅14～22cm，深さ6～10cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から北西壁にかけての床は硬く締まっている。南東壁の中央部付近には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，出入口部の高まりと床との比高は約2cmである。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径10～16cmのほぼ円形を呈し，深さ17～27cmで主柱穴と考えられる。$P_5$の性格は不明である。

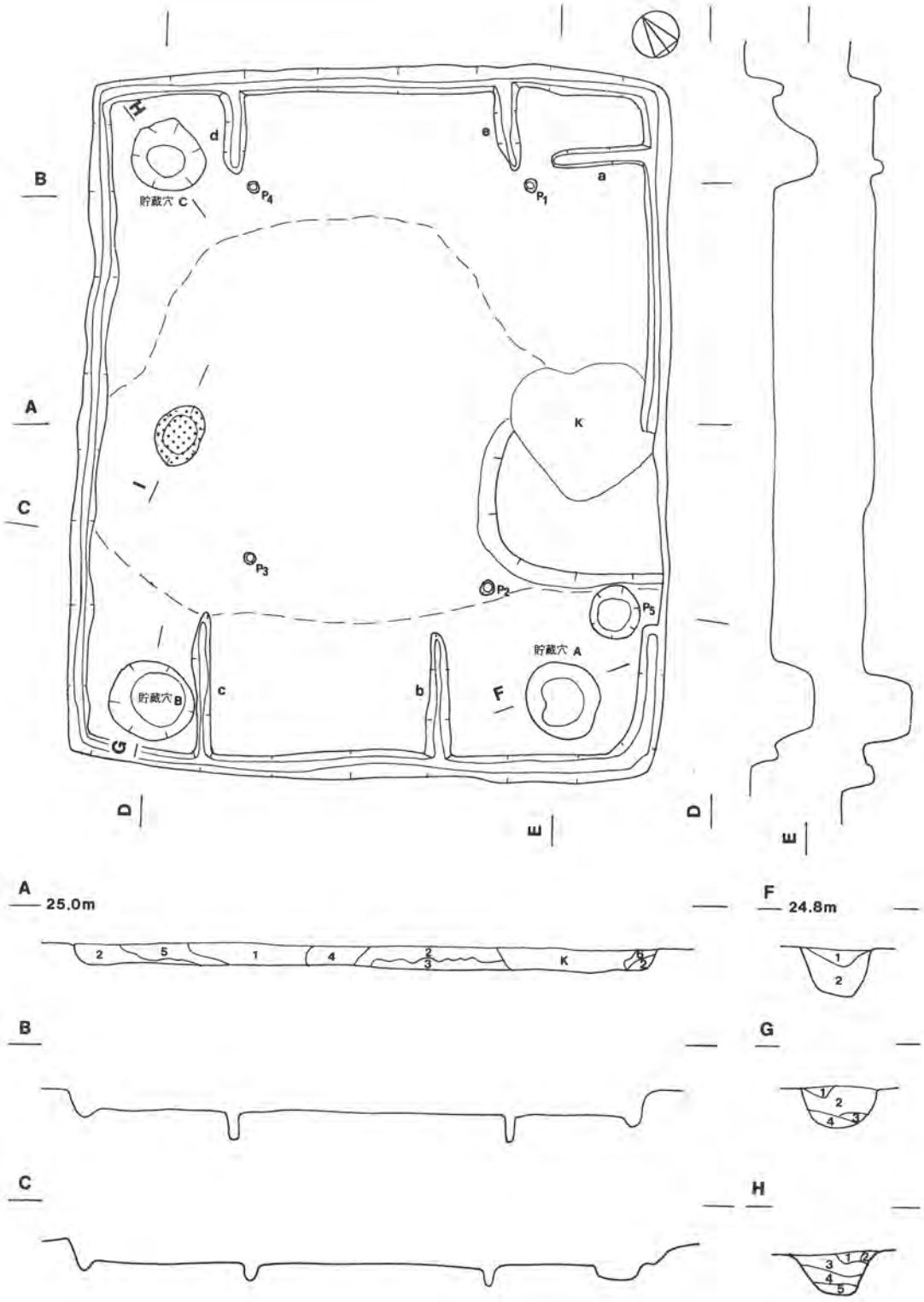
**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径60cm，短径42cmの楕円形を呈し，床面を約5cm掘り窪めた地床炉である。炉床は，約7cmの厚さに焼けている。

**貯蔵穴**　3基検出されている。貯蔵穴Aは，南コーナーから検出され，平面形は，径74cmの円形を呈し，深さは44cmである。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ローム粒子を含む褐色土，黒褐色土が堆積している。貯蔵穴Bは，西コーナーから検出され，平面形は，長径82cm，短径78cmの円形を呈し，深さは39cmである。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム粒子を含む赤褐色土，暗褐色土，褐色土が堆積している。貯蔵穴Cは，北コーナーから検出され，平面形は，長径70cm，短径64cmの不整円形を呈し，深さは42cmである。底面はやや凹凸があり，南西壁はほぼ垂直に立ち上がり，その他の壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化物を含む赤褐色土，暗褐色土，褐色土が堆積している。

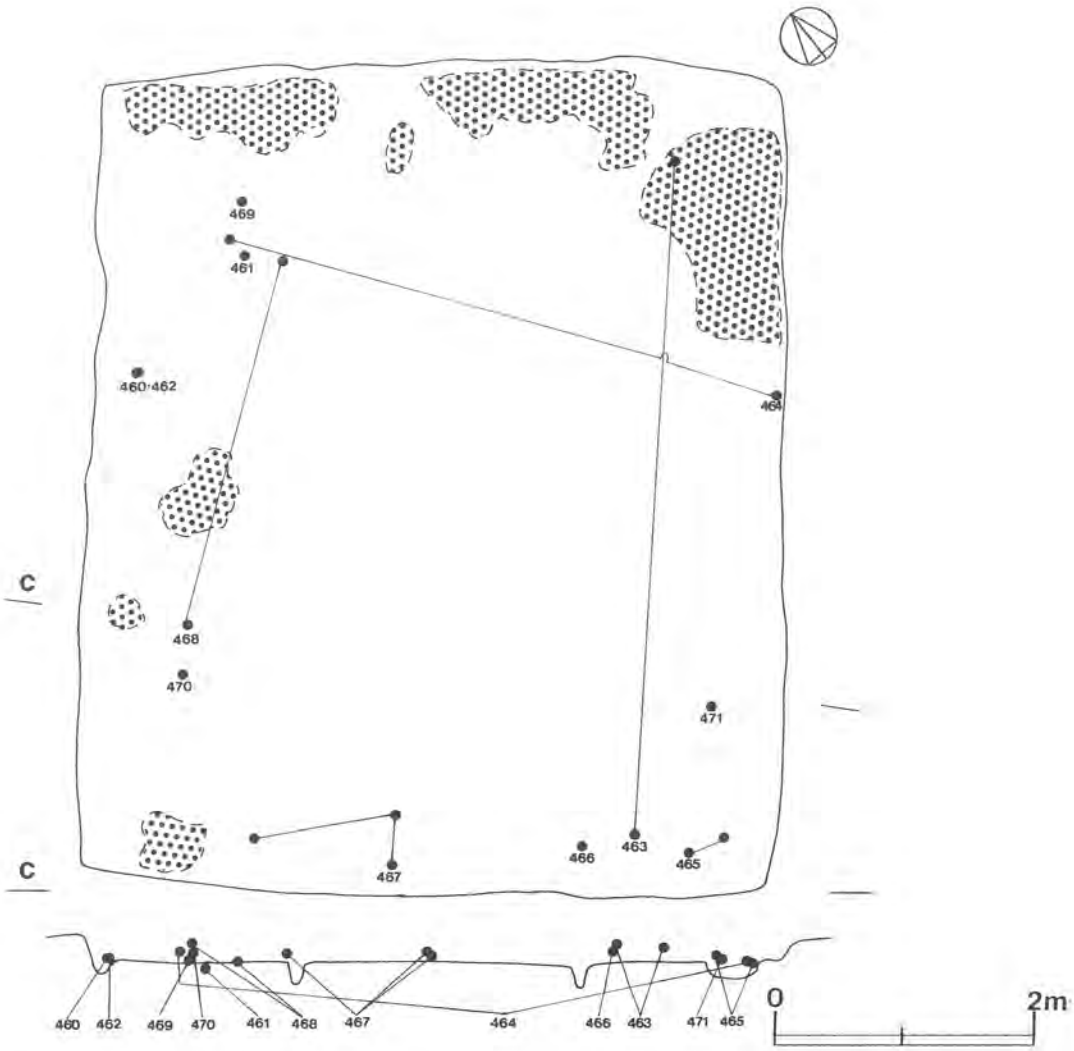
**覆土**　6層からなる。各層にロームブロックが混入し，層が乱れているので人為堆積と思われる。

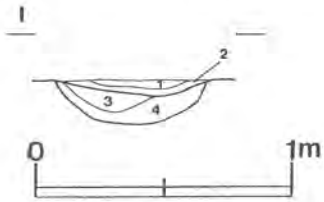
**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕4，小形甕1，坏6，埦1）・細片(1219点）が多量に出土している。その他，中央部と北コーナーの覆土下層から，木の実の炭化物が出土している。471の土師器の埦は，南コーナー付近の覆土下層から，正位の状態で出土している。460の土師器の甕は，北西壁際の覆土下層から上層にかけて，破片の状態で出土している。461の土師器の甕は，貯蔵穴Cの覆土上層から，横位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第99図　第38号住居跡実測図




第38号住居跡　炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量。

2　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。

3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

4　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。

第38号住居跡　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

5　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

6　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第38号住居跡　貯蔵穴A土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量。

2　褐　色　ローム粒子多量。

第38号住居跡　貯蔵穴B土層解説

1　赤褐色　焼土粒子多量。

2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

3　褐　色　炭化粒子・ローム粒子少量。

4　暗褐色　ローム粒子少量。

第38号住居跡　貯蔵穴C土層解説

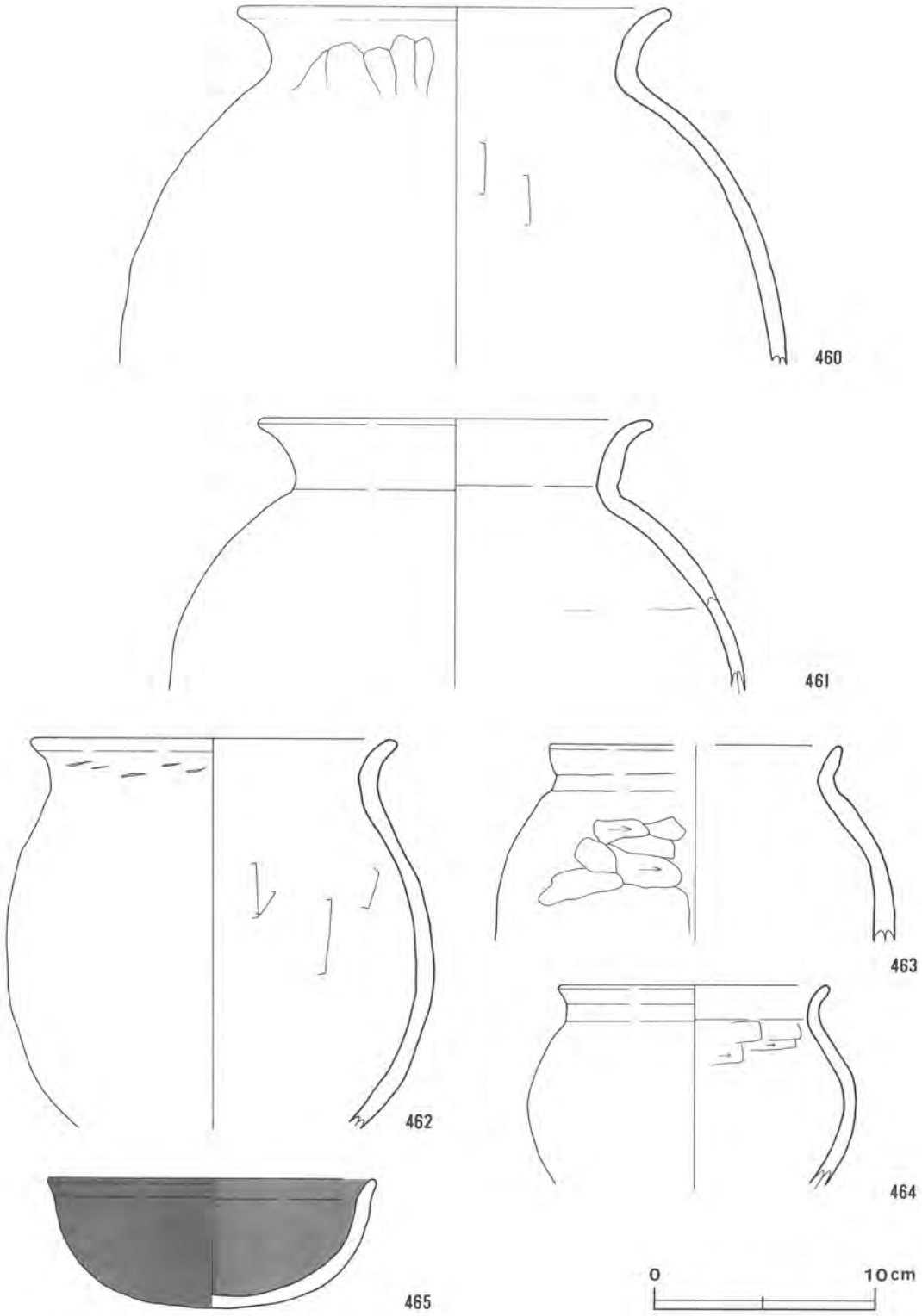
1　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量。

2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量。

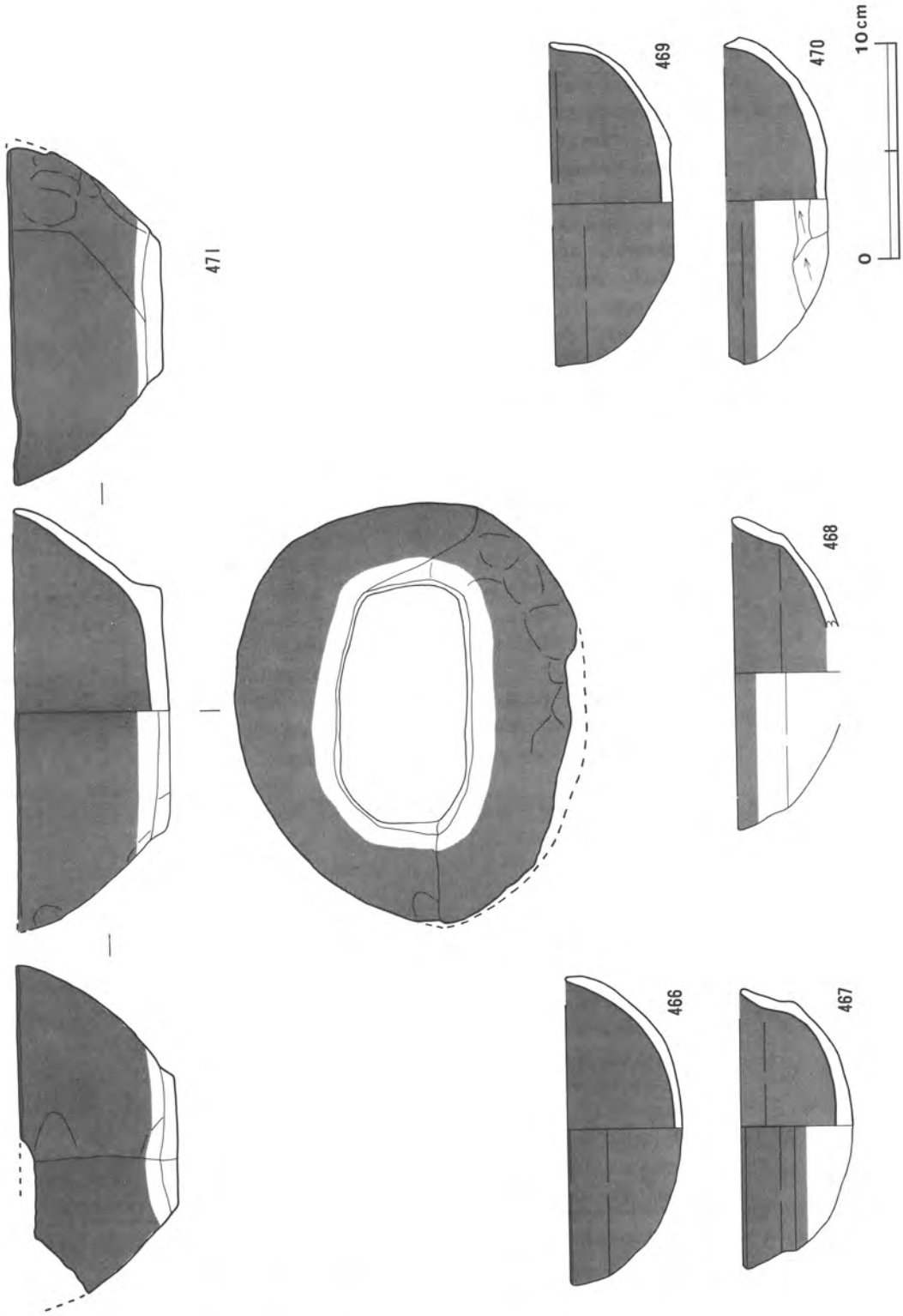
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量。

4　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量。

5　褐　色　焼土粒子少量。




第100図　第38号住居跡出土遺物実測図(1)




第101図　第38号住居跡出土遺物実測図(2)

## 第38号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第100・101図<br>460 | 甕<br>土師器 | A 19.9<br>B(16.6) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P 341　50%<br>北西壁際覆土 |
| 461 | 甕<br>土師器 | A 18.0<br>B(12.5) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれる。口縁部は外反し，口唇部を水平につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面赤彩。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 342　40%<br>貯蔵穴C覆土上層<br>外面煤付着 |
| 462 | 甕<br>土師器 | A 17.0<br>B(18.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部外面ヘラ当て痕，内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 343　50%<br>北西壁付近覆土下層 |
| 463 | 甕<br>土師器 | A〔13.5〕<br>B( 9.1) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや張りがある。頸部はくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面及び頸部横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P 345　20%<br>東部覆土下層 |
| 464 | 小形甕<br>土師器 | A 12.5<br>B( 9.3) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後，ナデ。胴部内面中位ヘラナデ，上位ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄褐色<br>普通 | P 344　30%<br>東部覆土下層<br>外面煤付着 |
| 465 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 6.1 | 体部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内そぎ状で外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 346　75%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 466 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B 5.4 | 体部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 347　80%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 467 | 坏<br>土師器 | A 13.1<br>B 5.1 | 体部及び口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に段をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 348　90%<br>南西壁付近覆土下層 |
| 468 | 坏<br>土師器 | A 14.5<br>B( 4.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 349　50%<br>西部覆土下層 |
| 469 | 坏<br>土師器 | A〔15.2〕<br>B 5.6<br>C〔 5.6〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 350　40%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 470 | 坏<br>土師器 | A〔14.7〕<br>B 4.7<br>C〔 5.0〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外そぎ状でほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 351　40%<br>西コーナー付近覆土下層 |
| 471 | 埦<br>土師器 | A 19.7<br>B( 7.5)<br>C 11.5 | 口縁部の一部欠損。平底で長楕円形を呈する。体部は内彎気味に立ち上がり，平面形は舟形状である。 | 口縁部外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。二次焼成。 | 砂粒・石英・長石<br>にぶい赤色<br>普通 | P 352　90%<br>南コーナー付近覆土下層<br>外面煤付着 |

**第39号住居跡**（第102図）

**位置**　調査区の中央部，110e₈区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.24ｍ，短軸2.93ｍの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－32°－W。

**壁**　壁高は４～12㎝で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

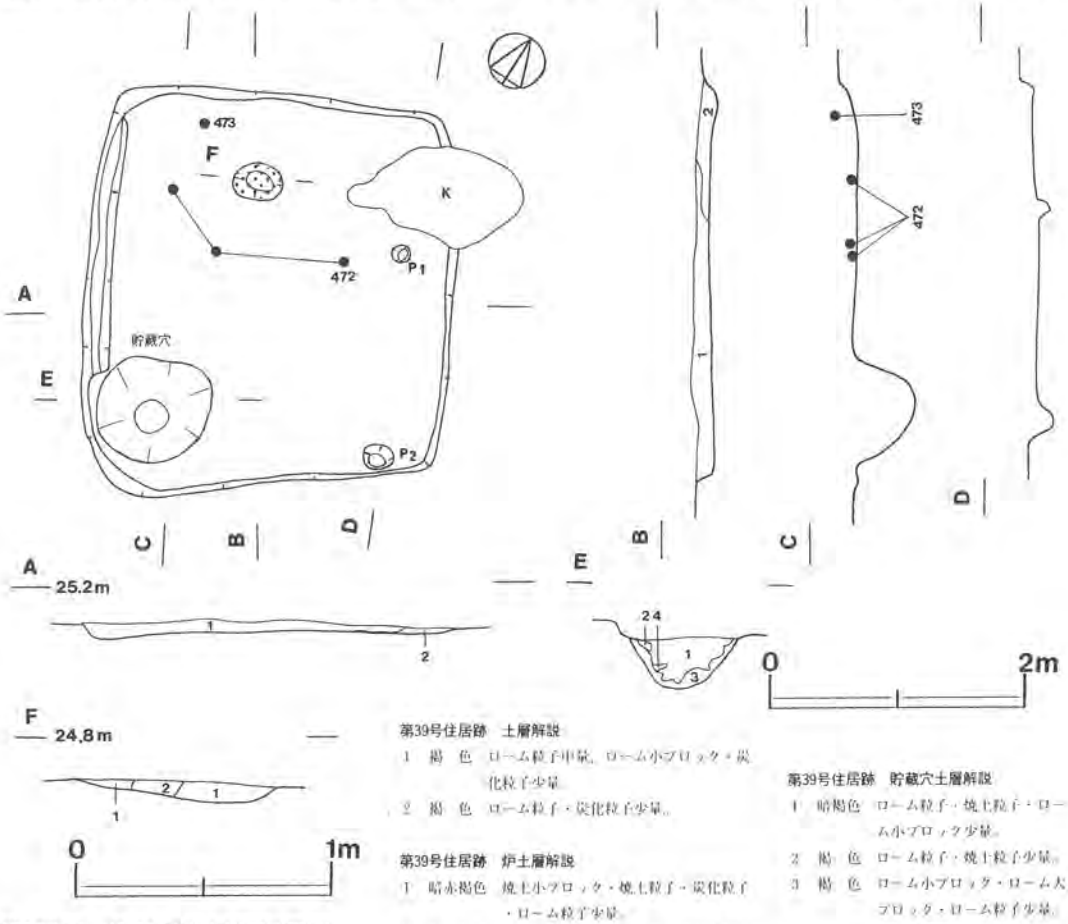
**壁溝**　南西壁際だけに確認されている。上幅約16㎝，深さ約５㎝，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**ピット**　２か所（$P_1$～$P_2$）検出されているが，$P_1$，$P_2$ともに性格は不明である。

**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径40㎝，短径30㎝の楕円形を呈し，床面を約４㎝掘り窪めた地床炉である。炉床はあまり焼けていない。

**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，径約97㎝の円形を呈し，深さは46㎝である。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，ロームブ




第39号住居跡　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量。

2　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量。

第39号住居跡　炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第39号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・ローム小ブロック少量。

2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量。

3　褐　色　ローム小ブロック・ローム大ブロック・ローム粒子少量。

4　　ロームブロック。

第102図　第39号住居跡実測図

ロックやローム粒子を含む暗褐色土，褐色土が堆積している。

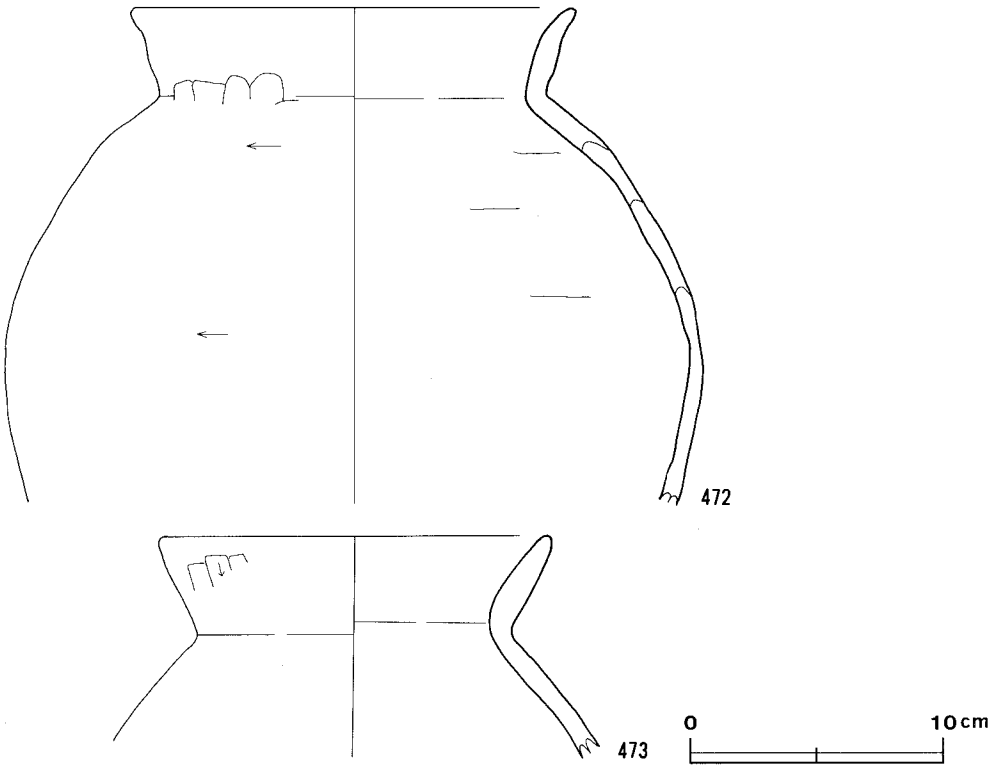
**覆土**　2層からなるが，覆土が薄く，堆積状態は不明確である。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕２）・細片（305点）が出土している。473の土師器の甕は，西コーナー付近の覆土上層から，破片の状態で出土している。472の土師器の甕は，西コーナー付近の覆土中層から，破片の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。

**第39号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第103図<br>472 | 甕<br>土師器 | A 17.8<br>B(19.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面押圧痕。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石<br>にぶい褐色<br>普通 | P 353　20%<br>西コーナー付近覆土中層 |
| 473 | 甕<br>土師器 | A 15.6<br>B( 8.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面肌荒れ。 | 砂粒<br>灰黄褐色<br>普通 | P 354　15%<br>西コーナー付近覆土上層 |




第103図　第39号住居跡出土遺物実測図

**第40号住居跡**（第104図）

**位置**　調査区の中央部，I11i$_4$区に確認されている。

**規模と平面形**　長軸5.76m，短軸5.58mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－46°－W。

**壁**　壁高は54～63cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅約18～34cm，深さ約4～11cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　5条（a～e）検出されている。南東壁付近に1条（a），南西壁付近に2条（b，c），北東壁付近に2条（d，e）検出され，長さ0.8～1.0m，上幅14～28cm，深さ8～12cmで，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，主柱穴を結んだ線の内側の床は，非常に硬く締まっている。南東壁中央部からやや南コーナー寄りには，出入口部と考えられる半円形状の高まりが検出され，そのほぼ中央に梯子ピット（P$_5$）が確認されている。出入口部の高まりと床との比高は約5cmである。

**ピット**　7か所（P$_1$～P$_7$）検出されている。P$_1$～P$_4$は，径16～45cmの楕円形を呈し，深さ49～61cmで主柱穴と考えられる。P$_5$は，径24cm程の円形を呈し，深さ11cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。P$_6$，P$_7$の性格は不明である。

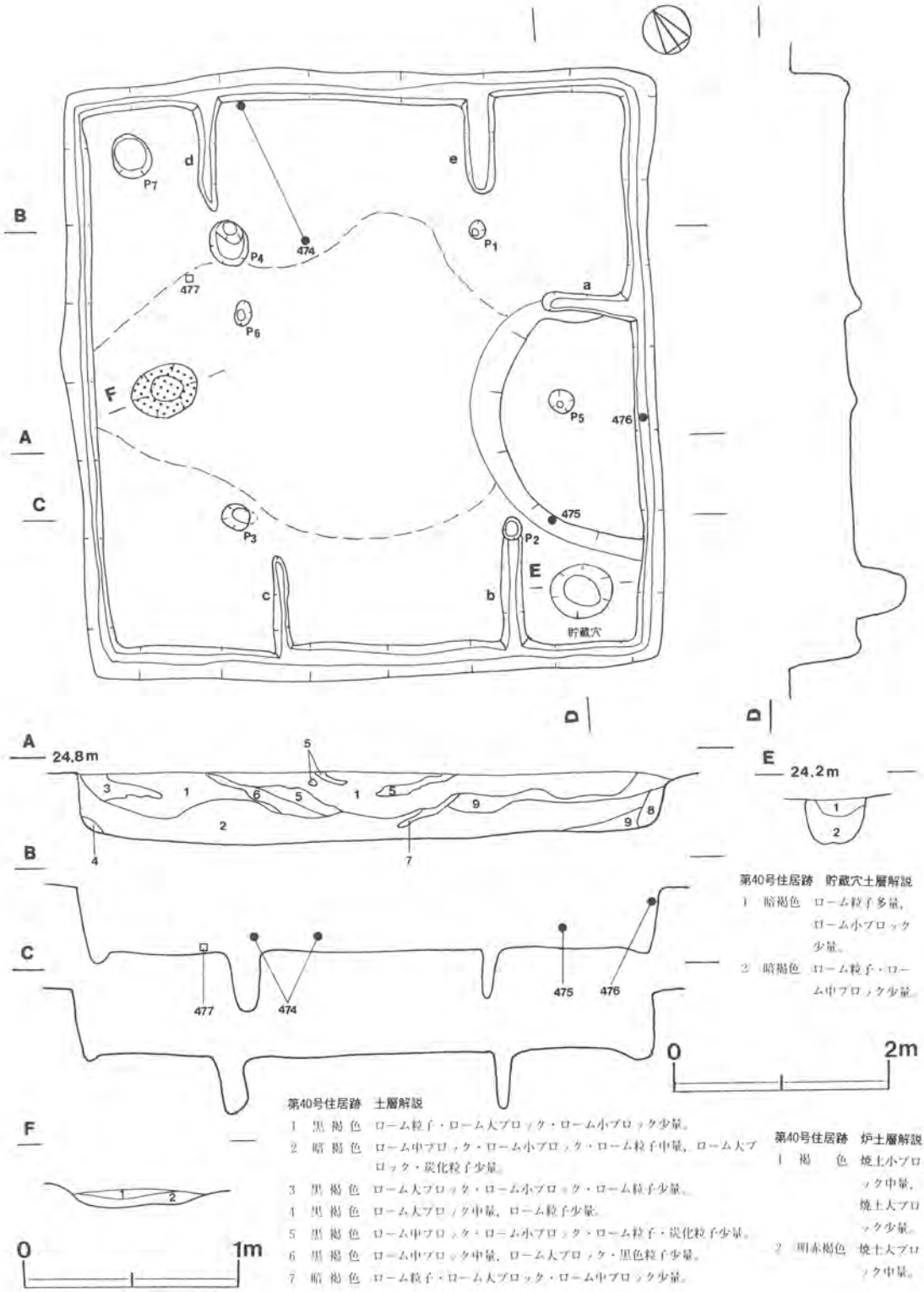
**炉**　中央から北西寄りに検出されている。平面形は長径63cm，短径45cmの不整楕円形を呈し，床面を約7cm掘り窪めた地床炉である。炉床は明赤褐色に焼けている。

**貯蔵穴**　南コーナーから検出されている。平面形は，長径55cm，短径48cmの楕円形を呈し，深さは44cmである。底面はやや凹凸があり，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土が堆積している。

**覆土**　9層からなる。各層にロームブロックが混入し，覆土中層からはロームが帯状に堆積していることが確認でき，人為堆積と思われる。

**遺物**　覆土下層，及び住居跡の壁付近から，土師器（甕1，坏2）・細片（829点），須恵器が（2点）出土し，石製品も出土している。476の土師器の坏は,南東壁付近の覆土中層から出土している。475の土師器の坏は，南コーナー付近の覆土下層から出土している。477の管玉が，北コーナー付近の床面から出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第40号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。

2　暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック少量。

第40号住居跡　土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。

2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量。

3　黒 褐 色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

4　黒 褐 色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量。

5　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。

6　黒 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・黒色粒子少量。

7　暗 褐 色　ローム粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量。

8　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

9　極暗褐色　ローム粒子・ローム大ブロック少量。

第40号住居跡　炉土層解説

1　褐　　色　焼土小ブロック中量，焼土大ブロック少量。

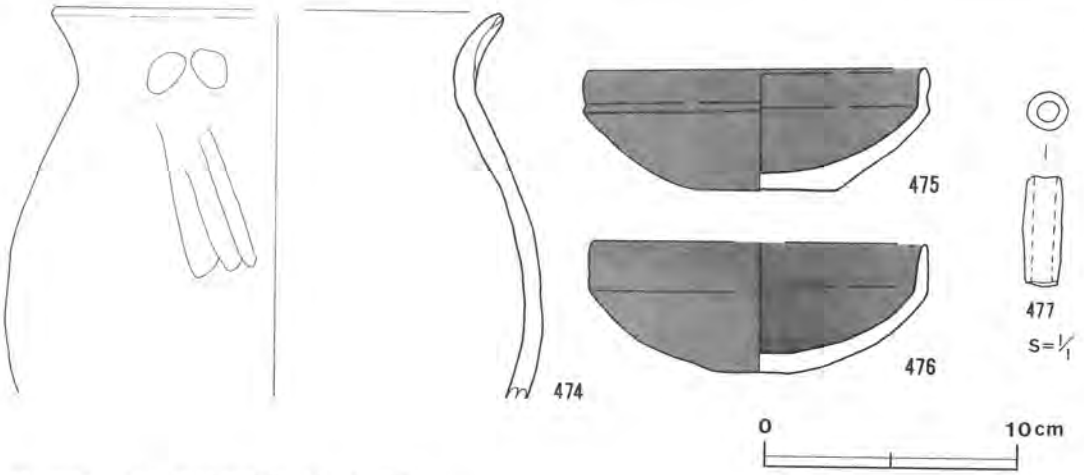
2　明赤褐色　焼土大ブロック中量。

第104図　第40号住居跡実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第105図<br>474 | 甕<br>土師器 | A〔17.9〕<br>B(15.4) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部外面押圧痕。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>浅黄色<br>普通 | P355　10%<br>中央部下層<br>外面煤付着 |
| 475 | 坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 5.0<br>C 6.0 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P356　70%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 476 | 坏<br>土師器 | A〔13.5〕<br>B 5.2<br>C 4.0 | 胴部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P357　60%<br>南東壁付近覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 477 | 管玉 | 1.5 | 0.6 | 0.5 | 2.5 | 0.4 | 100 | 北コーナー付近床面 | Q184　滑石 |




第105図　第40号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡（第106・107図）

**位置**　調査区の南部，J11d₀区を中心に確認されている。

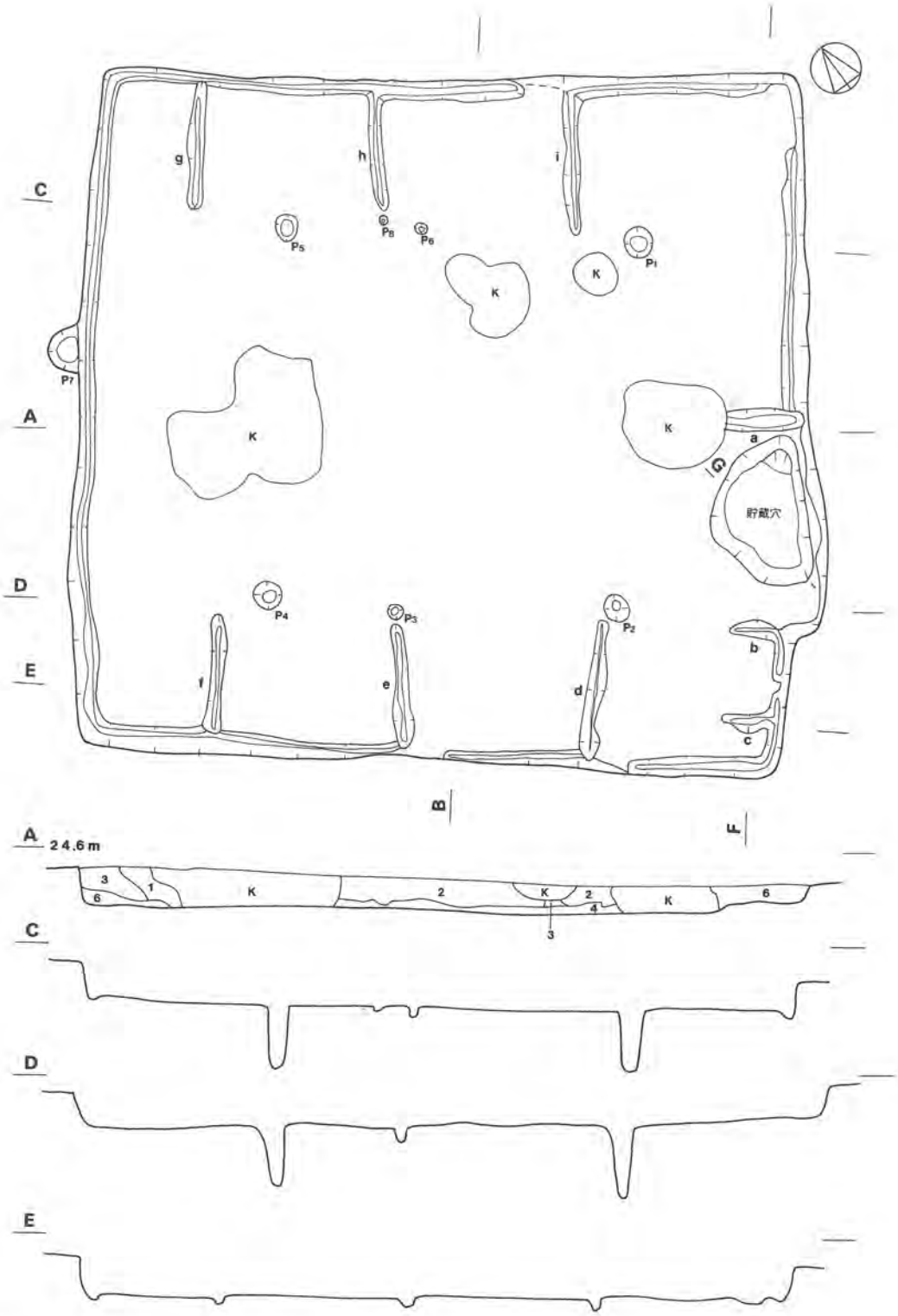
**規模と平面形**　長軸8.85m，短軸8.34mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－56°－W。

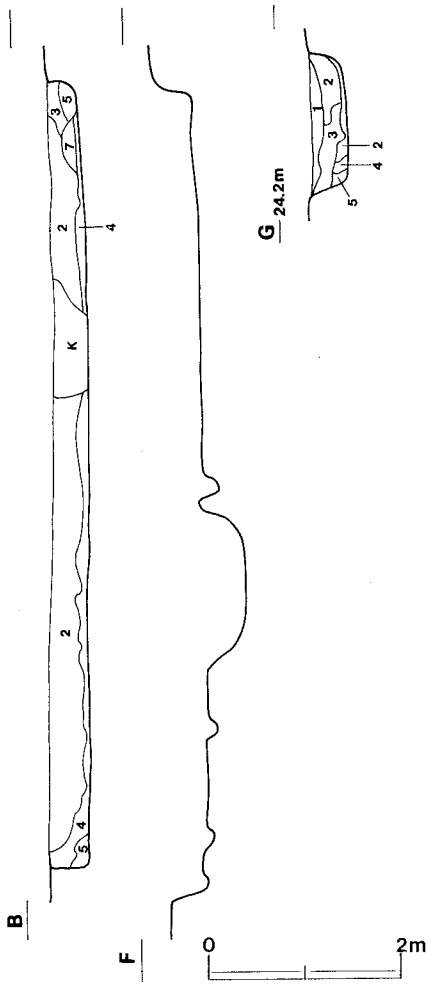
**壁**　壁高は23～50cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　北東壁下と南東壁下と南西壁下の一部を除いて回っている。上幅8～28cm，深さ約4～10cm，断面形は「U」字状を呈している。

**間仕切溝**　9条（a～i）検出されている。南東壁付近に3条（a～c），南西壁付近に3条(d




第106図　第43号住居跡実測図




第43号住居跡　土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量。
2　黒　　色　ローム粒子少量。
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量。
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・黒色粒子少量。
5　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量。
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・ローム中ブロック少量。
7　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量。

第43号住居跡　貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・粘土少量。
4　灰褐色　ローム粒子少量。
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

～ｆ），北東壁付近に３条（ｇ～ｉ）検出され，長さ0.6～1.7ｍ，上幅14～26㎝，深さ10～14㎝で，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。

**ピット**　８か所（$P_1$～$P_8$）検出されている。$P_1$～$P_6$は，径14～36㎝のほぼ円形を呈し，深さ７～91㎝で主柱穴と考えられる。$P_7$は壁柱穴と考えられる。$P_8$の性格は不明である。

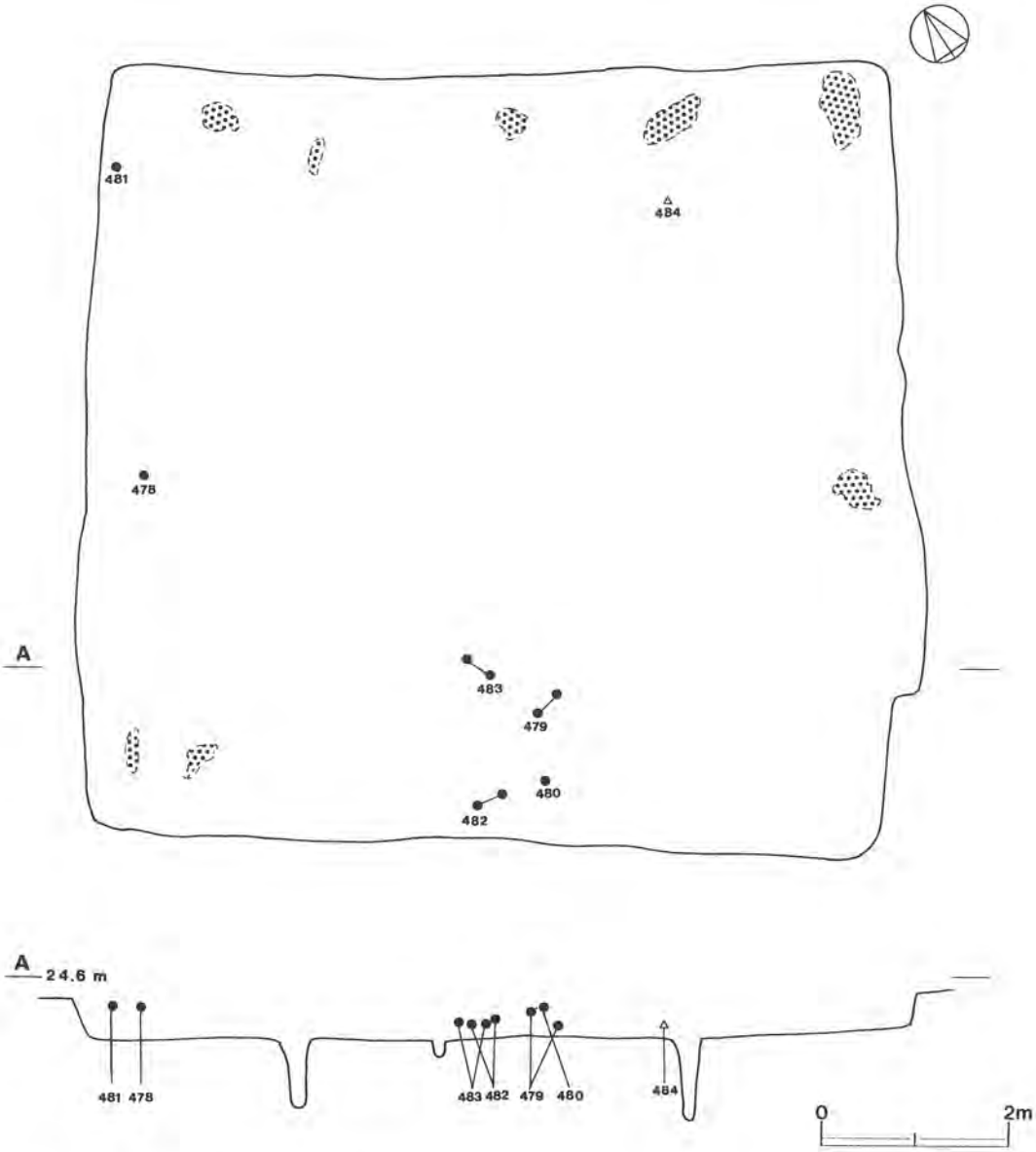
**貯蔵穴**　南東壁の中央部のやや南コーナー寄りから検出され，壁外に約35㎝張り出すかたちで構築されている。平面形は，長径137㎝，短径121㎝の不整楕円形を呈し，深さは43㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の覆土は，焼土粒子，炭化粒子，ローム小ブロックやローム粒子を含む暗褐色土，褐色土等が堆積している。

**覆土**　７層からなる。各層にロームブロックが混入し，層が乱れており，人為堆積と思われる。

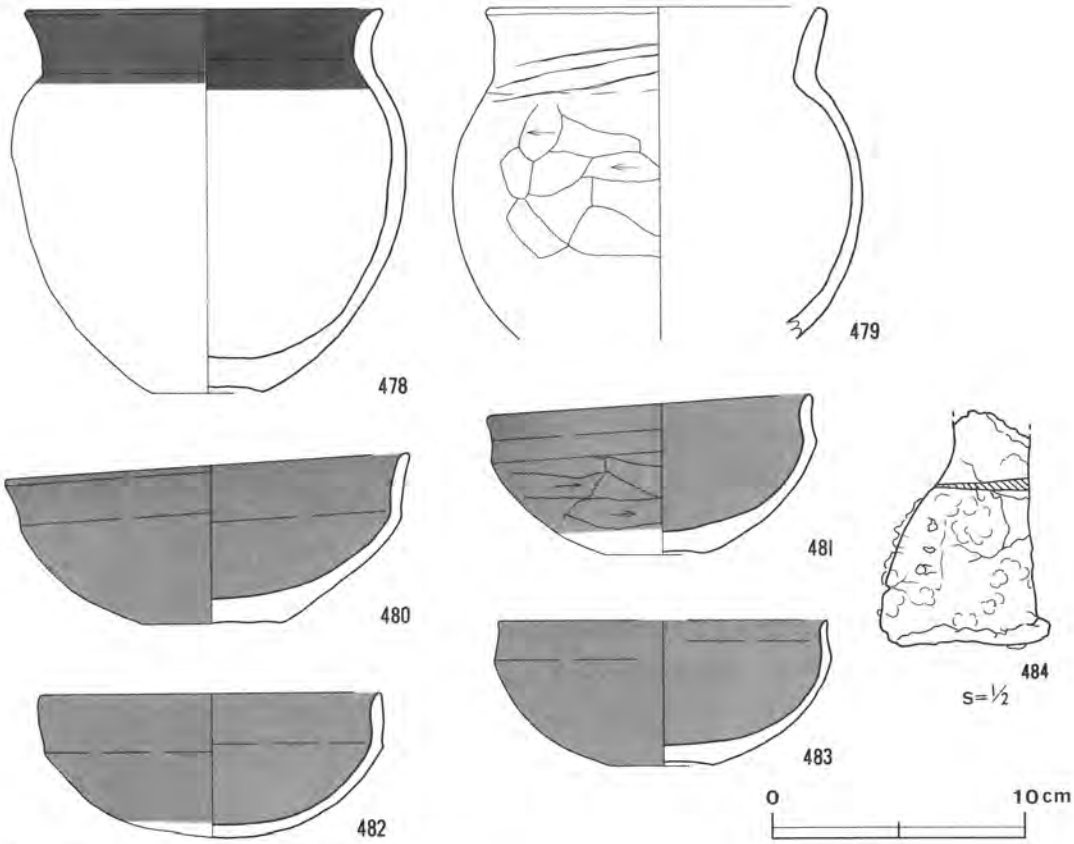
**遺物**　覆土の下層や中層から，土師器（甕２，坏４）・細片（332点），須恵器の細片（２点）が出土し，鉄製品も出土している。481の土師器の坏は，北コーナー付近の覆土中層から，逆位の

状態で出土している。479の土師器の甕は，南西壁付近の覆土下層から，逆位の状態で出土している。484の鉄鎌は，北東壁付近の覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。




第107図　第43号住居跡出土遺物位置図




第108図　第43号住居跡出土遺物実測図

## 第43号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第108図<br>478 | 甕<br>土師器 | A 14.1<br>B 15.3<br>C 4.4 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内面肌荒れ。胴部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。口縁部内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 358　80%<br>北西壁付近覆土下層<br>外面煤付着 |
| 479 | 甕<br>土師器 | A 13.5<br>B(13.3) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。頸部ヘラ当て痕。胴部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。 | 砂粒<br>灰黄褐色<br>普通 | P 359　60%<br>南西壁付近覆土下層 |
| 480 | 坏<br>土師器 | A 15.2<br>B 6.8<br>C 5.6 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P 360　60%<br>南西壁付近覆土中層 |
| 481 | 坏<br>土師器 | A 13.1<br>B 6.1<br>C 4.3 | 上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>暗赤褐色<br>良好 | P 361　100%<br>北コーナー付近覆土中層 |
| 482 | 坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 5.8 | 口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内面ナデ。胴部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>赤色<br>普通 | P 362　90%<br>南西壁付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 483 | 坏<br>土師器 | A〔13.0〕<br>B　5.8<br>C　4.2 | 体部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 363　60%<br>中央部覆土下層 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 484 | 鎌 | (6.2) | 4.5 | 0.3 | --- | (25.1) | 20 | 北東壁付近覆土下層 | M13 |

## 3　奈良時代の住居跡

**第1号住居跡**（第109図）

**位置**　調査区の南部，K8a6区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.20m，短軸3.09mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－2°－E。

**壁**　壁高は64～74cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　東壁と北壁際に検出されている。上幅約13cm，深さ約3cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。

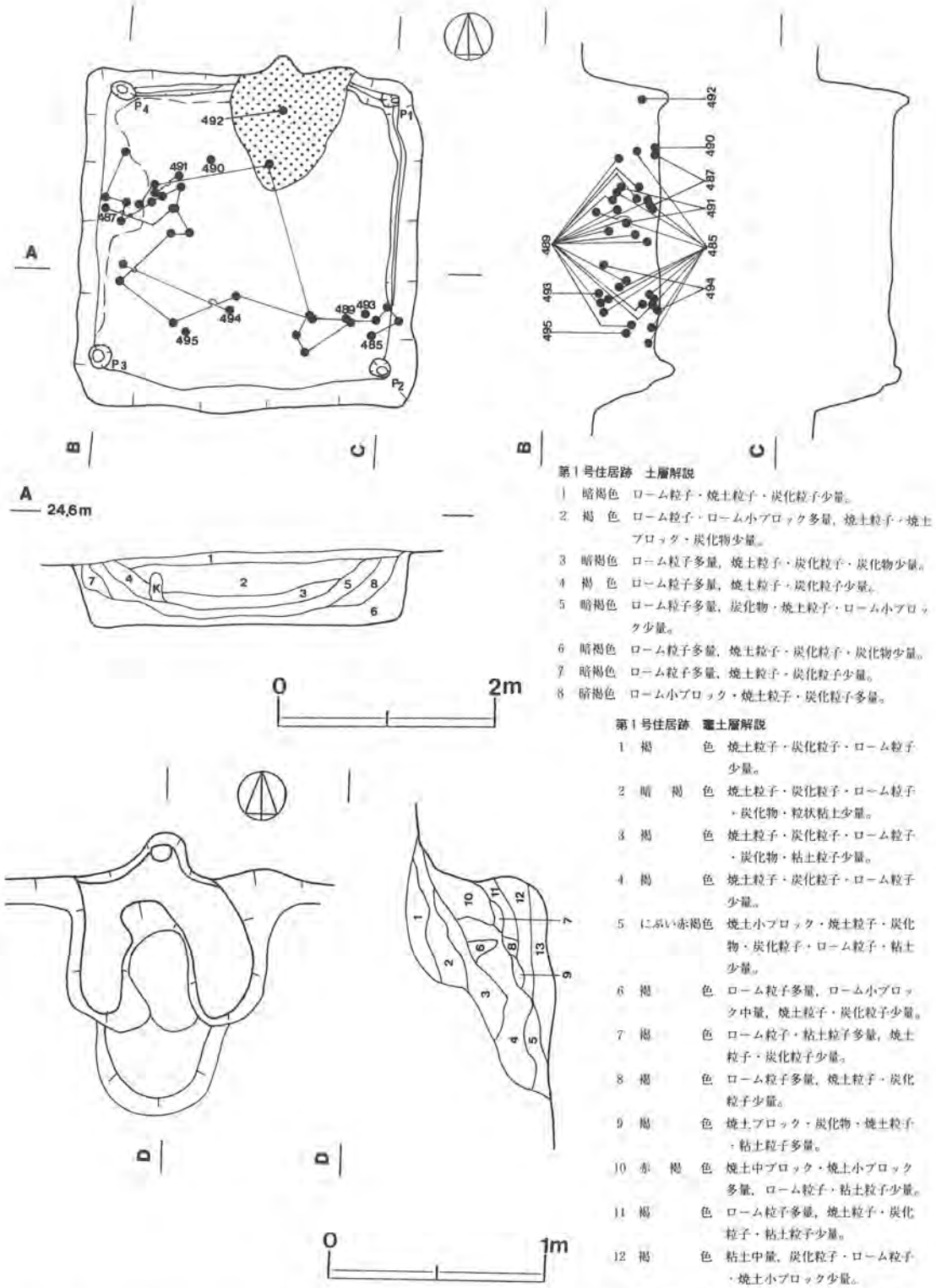
**ピット**　4か所（$P_1$～$P_4$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径12～25cmの楕円形，不整楕円形を呈し，深さ8～14cmで主柱穴と考えられる。

**竈**　北壁中央部の壁を約18cm壁外に掘り込み，砂まじりの粘土とロームで構築されている。規模は長さ135cm，幅96cmである。天井部は崩落しているが，袖部は良好に遺存し,床のロームを掘り残して袖基部としている。燃焼部からは，焼土ブロック，炭化粒子が検出されている。火床は床面を約4cm掘り窪めている。煙道は火床からほぼ垂直に立ち上がっている。

**覆土**　8層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内と覆土下層，中層から，土師器（甕4，甑1，坏1）・細片（134点），須恵器（甑1，坏2，高台付坏2）・細片（19点）が出土している。490の土師器の坏は，竈付近の床面から，正位の状態で出土している。489の土師器の甑は，西壁際の覆土下層から上層にかけて，破片の状態で出土している。492の須恵器の高台付坏は，竈の火床から逆位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代の住居跡と考えられる。



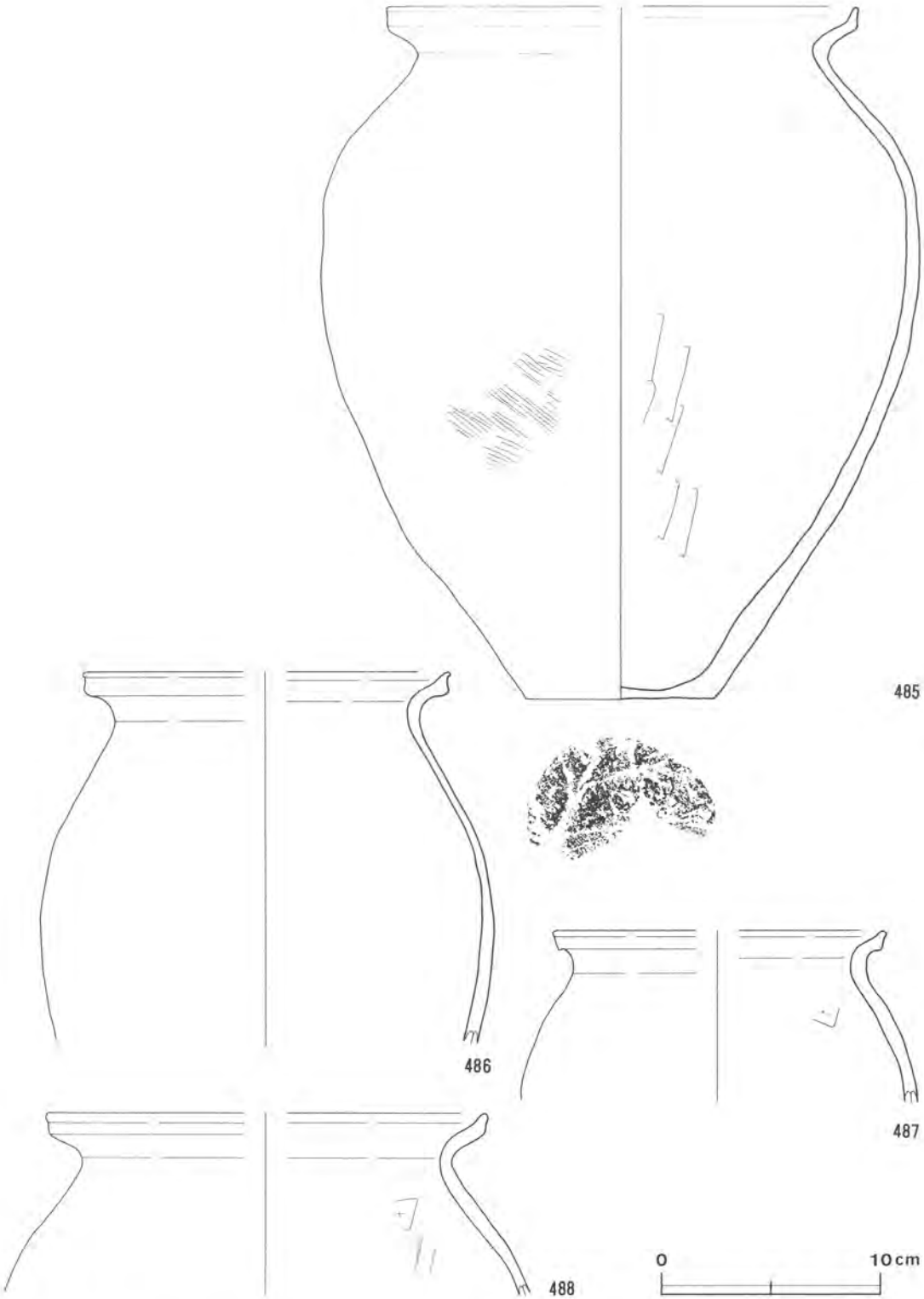

第109図　第１号住居跡実測図

**第１号住居跡　土層解説**

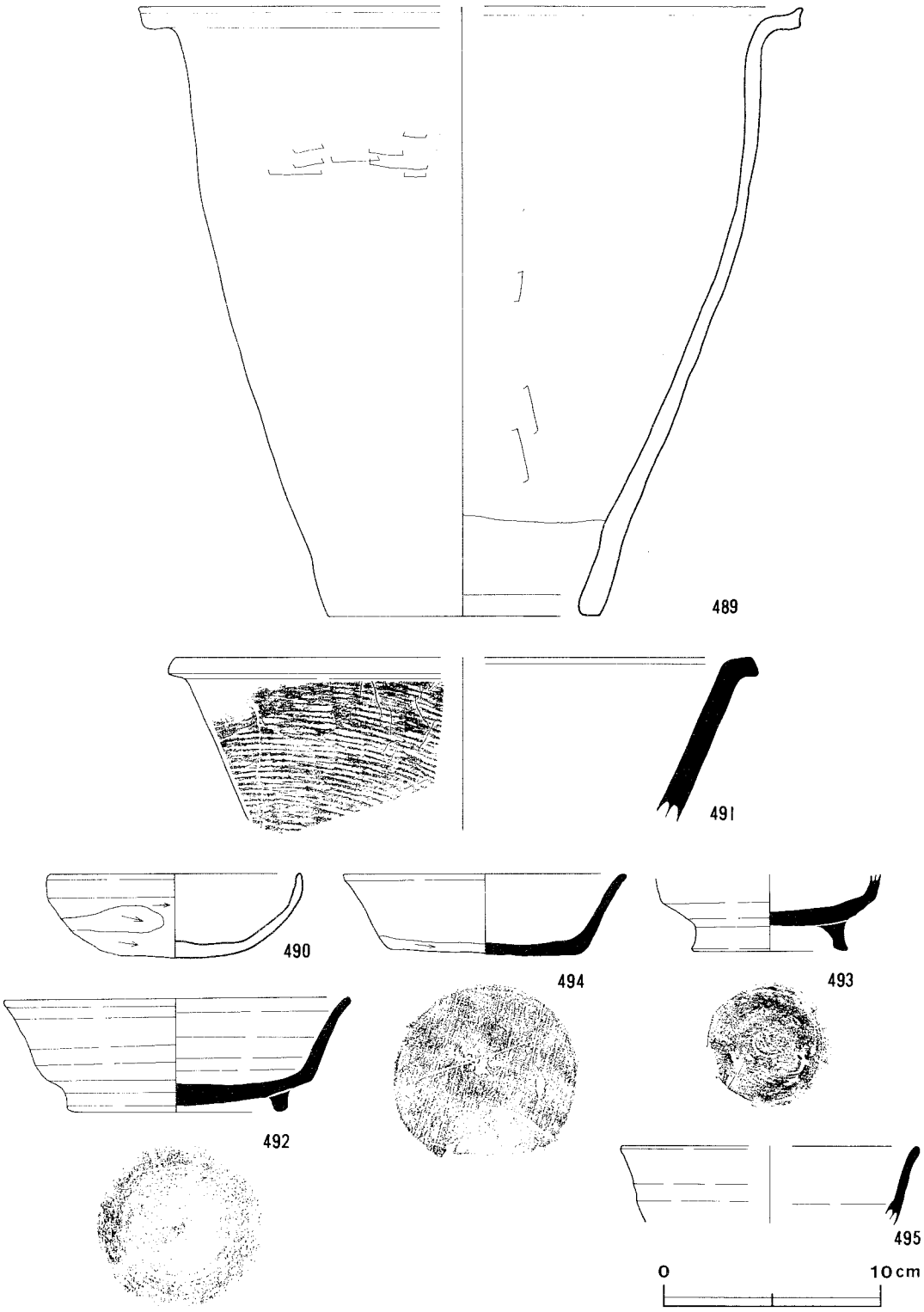
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・焼土ブロック・炭化物少量。
3　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量。
4　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
5　暗褐色　ローム粒子多量，炭化物・焼土粒子・ローム小ブロック少量。
6　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量。
7　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
8　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量。

**第１号住居跡　竈土層解説**

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・炭化物・粒状粘土少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子・粘土少量。
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
7　褐　色　ローム粒子・粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
8　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
9　褐　色　焼土ブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子多量。
10　赤　褐　色　焼土中ブロック・焼土小ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子少量。
11　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量。
12　褐　色　粘土中量，炭化粒子・ローム粒子・焼土小ブロック少量。
13　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量。




第110図　第１号住居跡出土遺物実測図(1)




第111図　第１号住居跡出土遺物実測図(2)

## 第1号住居跡 出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第110・111図<br>485 | 甕<br>土師器 | A〔21.8〕<br>B 32.4<br>C 8.8 | 口縁部一部欠損。平底。胴部は内彎気味に立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面中位に刷毛目痕。胴部内面中位ヘラ削り。底部に木葉痕。 | 砂粒・石英・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | P 1 70%<br>中央部覆土 |
| 486 | 甕<br>土師器 | A〔17.0〕<br>B(17.4) | 胴部から口縁部にかけての破片。張りの弱い胴部で，頸部は器厚を増して立ち上がる。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口頸部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 2 20%<br>竈覆土 |
| 487 | 甕<br>土師器 | A〔15.4〕<br>B( 8.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。やや張りの弱い胴部で，頸部はくびれ，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。 | 口縁部内面横ナデ。頸部外面摩耗。胴部内・外面ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 3 20%<br>中央部覆土 |
| 488 | 甕<br>土師器 | A〔20.6〕<br>B( 8.4) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ，口縁部は外反する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内面ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母<br>橙色<br>普通 | P 4 5%<br>竈覆土 |
| 489 | 甑<br>土師器 | A〔30.6〕<br>B 28.3<br>C 12.5 | 口縁部の一部欠損。無底式。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面上位横位のヘラ削り。胴部内面中位から下位ヘラ削り。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>橙色<br>良好 | P 5 80%<br>西壁際覆土下層から上層 |
| 490 | 坏<br>土師器 | A 11.7<br>B 3.9 | 胴部から口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面手持ちヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 6 60%<br>竈付近床面 |
| 491 | 甑<br>須恵器 | A〔27.4〕<br>B( 7.7)<br>E 1.0 | 胴部から口縁部の破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は大きく外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面平行叩き。 | 砂粒・雲母<br>灰白色<br>普通 | P 7 5%<br>西壁付近覆土中層 |
| 492 | 高台付坏<br>須恵器 | A 16.2<br>B 5.3<br>C 10.4<br>E 1.0 | 口縁部の一部欠損。平底でやや「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰白色<br>普通 | P 8 90%<br>竈火床 |
| 493 | 高台付坏<br>須恵器 | B( 3.5)<br>D 7.3<br>E 1.3 | 底部から胴部にかけての破片。平底で，やや「ハ」の字状に開く高台がつく。 | 体部下端及び底部回転ヘラ削り。高台張り付け後，ナデ。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>灰白色<br>普通 | P 9 10%<br>南東コーナー付近覆土下層 |
| 494 | 坏<br>須恵器 | A 13.1<br>B 3.8<br>C 8.7 | 底部から口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母<br>灰色<br>普通 | P10 70%<br>南西部覆土 |
| 495 | 坏<br>須恵器 | A〔13.8〕<br>B( 3.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | P11 5%<br>南西部覆土中層 |

## 4　平安時代の住居跡

**第２号住居跡**（第112図）

**位置**　調査区の南西部，K8f9区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸2.53ｍ，短軸2.52ｍの方形を呈する。

**主軸方向**　N－34°－E。

**壁**　壁高は13～35cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦であるが，北東から南東の方向に緩やかに傾斜しており，硬く締まっている。

**竈**　北東壁中央からやや東寄りの壁を約66cm壁外に掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ102cm，幅119cmである。天井部は崩落しているが，袖部は遺存している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子が検出されている。火床は床面を約４cm掘り窪めている。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

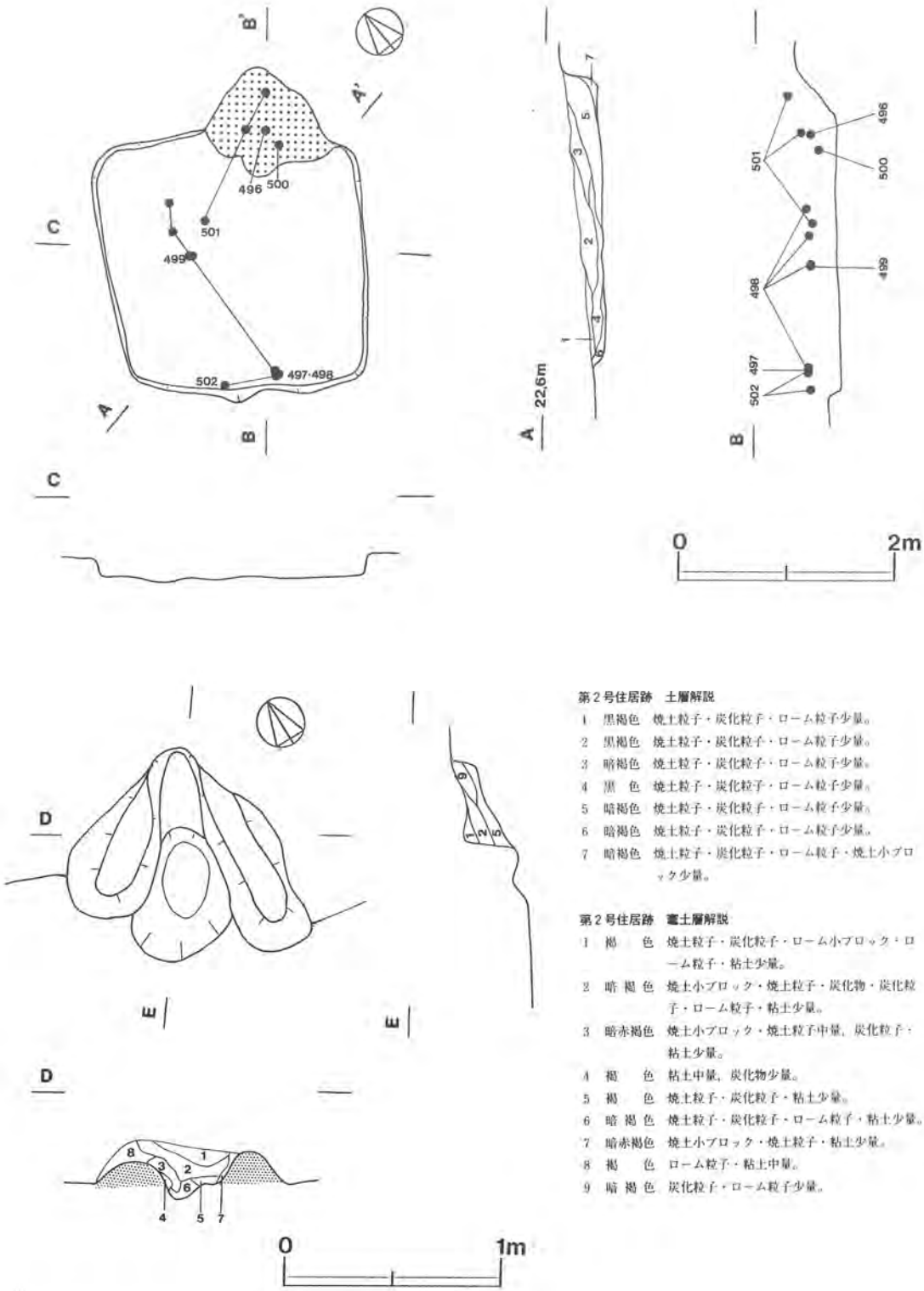
**覆土**　７層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内と覆土上層からは土師器の細片（４点），須恵器（坏５，高台付坏２）・細片（12点）が出土している。496の須恵器の坏は，竈の燃焼部から出土している。502の須恵器の高台付坏は，南西壁際の覆土から破片の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

**第２号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第113図<br>496 | 坏<br>須恵器 | A 13.6<br>B 4.0<br>C 6.0 | 平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部外面中位から上位及び体部内面横ナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | P15　100%<br>竈燃焼部 |
| 497 | 坏<br>須恵器 | A 13.9<br>B 4.6<br>C 6.2 | 胴部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部内・外面中位から上位横ナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。 | 砂粒・長石・雲母<br>褐灰色<br>不良 | P16　80%<br>南西壁際覆土上層 |
| 498 | 坏<br>須恵器 | A 13.6<br>B 4.2<br>C 5.8 | 胴部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部内・外面中位から上位横ナデ。底部回転ヘラ切り後，一方向の手持ちヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>灰白色<br>普通 | P17　70%<br>中央部覆土上層 |
| 499 | 坏<br>須恵器 | A〔13.4〕<br>B 3.9<br>C 5.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部内・外面中位から上位横ナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P18　50%<br>中央部覆土上層 |
| 500 | 坏<br>須恵器 | B（1.6）<br>C 6.6 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・石英・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P19　15%<br>竈覆土<br>底部刻書「#」 |




第２号住居跡　土層解説

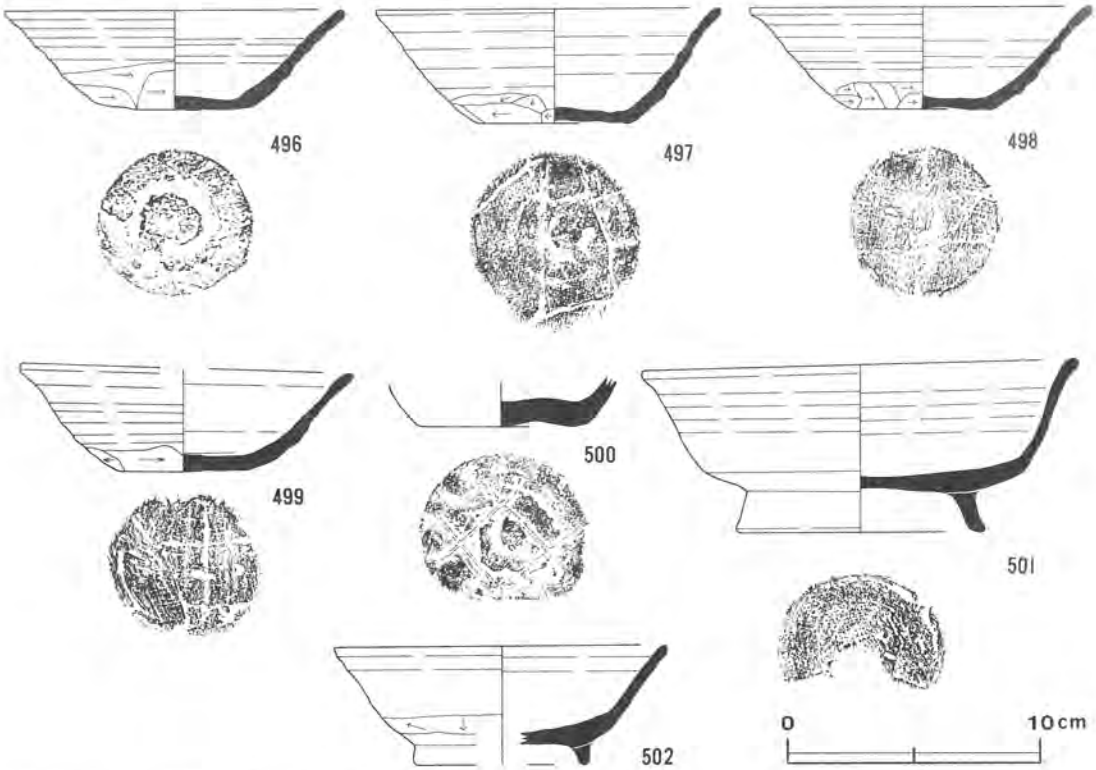
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　黒　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・焼土小ブロック少量。

第２号住居跡　竈土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土少量。
2　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子・粘土少量。
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土少量。
4　褐　　色　粘土中量、炭化物少量。
5　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土少量。
6　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土少量。
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土少量。
8　褐　　色　ローム粒子・粘土中量。
9　暗 褐 色　炭化粒子・ローム粒子少量。

第112図　第２号住居跡実測図

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 501 | 高台付坏<br>須恵器 | A 17.4<br>B 6.9<br>D 9.7<br>E 1.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底で「ハ」の字状に開く高台がつく。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面中位から上位及び体部内面横ナデ。体部及び底部外面下位回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P13　50%<br>北東壁付近覆土上層 |
| 502 | 高台付坏<br>須恵器 | A 13.4<br>B 4.8<br>D〔7.0〕<br>E 0.8 | 底部から口縁部にかけての一部欠損。平底でやや「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部内・外面上位横ナデ。底部ナデ。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P14　65%<br>南西壁際覆土 |




第113図　第２号住居跡出土遺物実測図

**第３号住居跡**（第114図）

**位置**　調査区の南部，K10c₃区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.86ｍ，短軸3.43ｍの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－37°－E。

**壁**　壁高は36～44cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　北東壁下と南東壁下の一部を除いて回っている。上幅18～23cm，深さ３～６cmで，断面形は皿状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部から竈にかけての範囲は，非常に硬く締まっている。

**竈**　北東壁中央部の壁を約69cm壁外に掘り込み，床のロームを掘り残して袖基部として，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ123cm，幅106cmである。天井部は一部のみが遺存しているが，袖部はほぼ良好に遺存している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子が検出されている。火床は床面を約3cm掘り窪められているが，あまり熱をうけていない。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

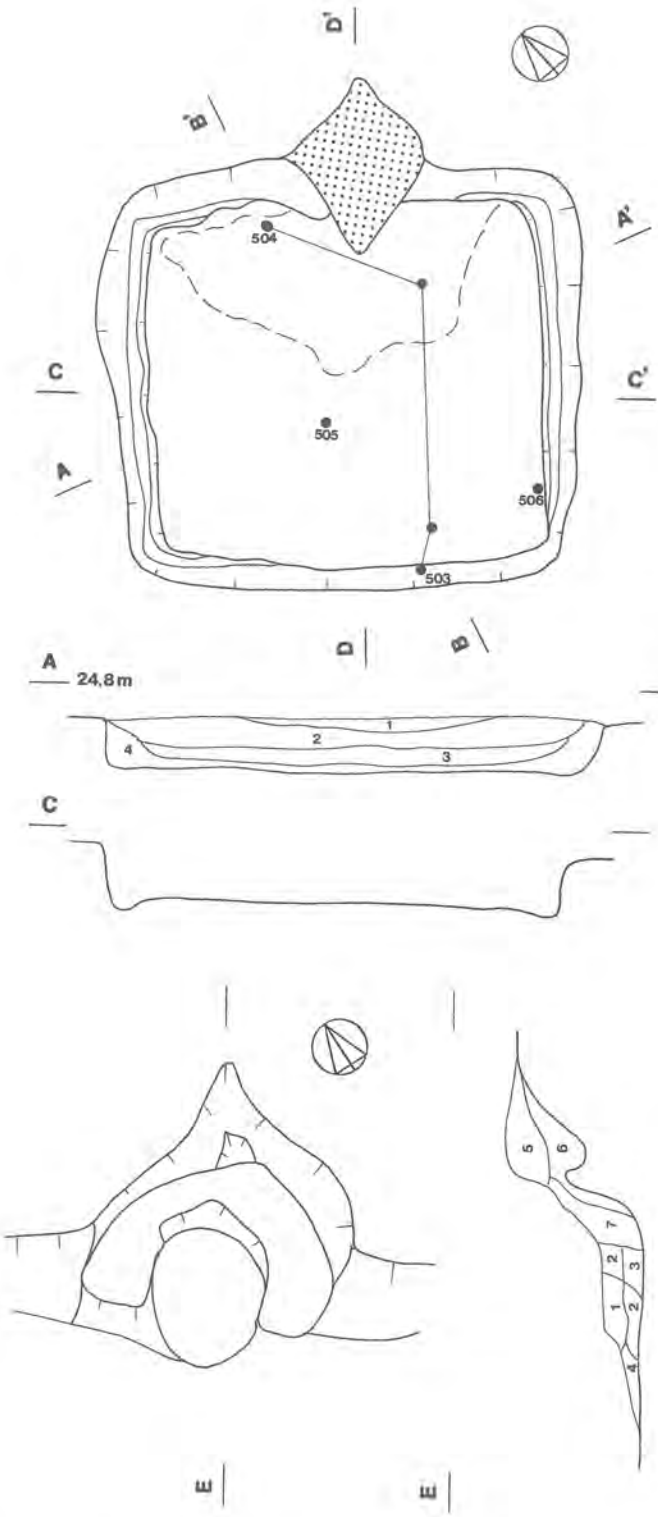
**覆土**　6層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内と覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕2）・細片（81点），須恵器（甕1，鉢1）・細片（33点）が出土している。504の土師器の甕は，竈燃焼部の下層から，破片の状態で出土している。505の須恵器の甕は，中央部の覆土下層から出土している。炭化材が北コーナー付近から出土している。

**所見**　本跡は，覆土上層や床面から，焼土や炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

**第3号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第115図<br>503 | 甕<br>土師器 | A 20.6<br>B( 8.5) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部はくびれている。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P21　20%<br>南西壁際及び北東壁付近の覆土下層 |
| 504 | 甕<br>土師器 | A〔13.5〕<br>B 16.0<br>C 8.4 | 胴部から口縁部にかけての破片。平底。胴部は内彎気味に立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部は器厚を増しながら外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位ヘラ削り。胴部内面下位から中位ヘラナデ及び刷毛目痕。底部に木葉痕。 | 砂粒・石英<br>橙色<br>普通 | P20　50%<br>竈燃焼部下層 |
| 505 | 甕<br>須恵器 | B( 8.5) | 胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り。胴部内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P22　5%<br>中央部覆土下層 |
| 506 | 鉢<br>須恵器 | A〔21.6〕<br>B(16.1)<br>C 4.5 | 胴部から口縁部にかけての破片。平底。体部はやや内彎しながら立ち上がる。口縁部は内傾し，口唇部を上方につまみ出す。 | 体部外面下位手持ちヘラ削り。体部及び口縁部内・外面横ナデ。底部ナデ。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P23　40%<br>覆土及びSI-2の覆土 |
| 507 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ヘラナデ。 | 砂粒・小礫<br>灰色<br>普通 | TP1　5%<br>南東コーナー付近覆土上層 |




第3号住居跡　土層解説

1　黒　色　炭化材中量，焼土粒子・ローム粒子・焼土小ブロック少量。
2　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。

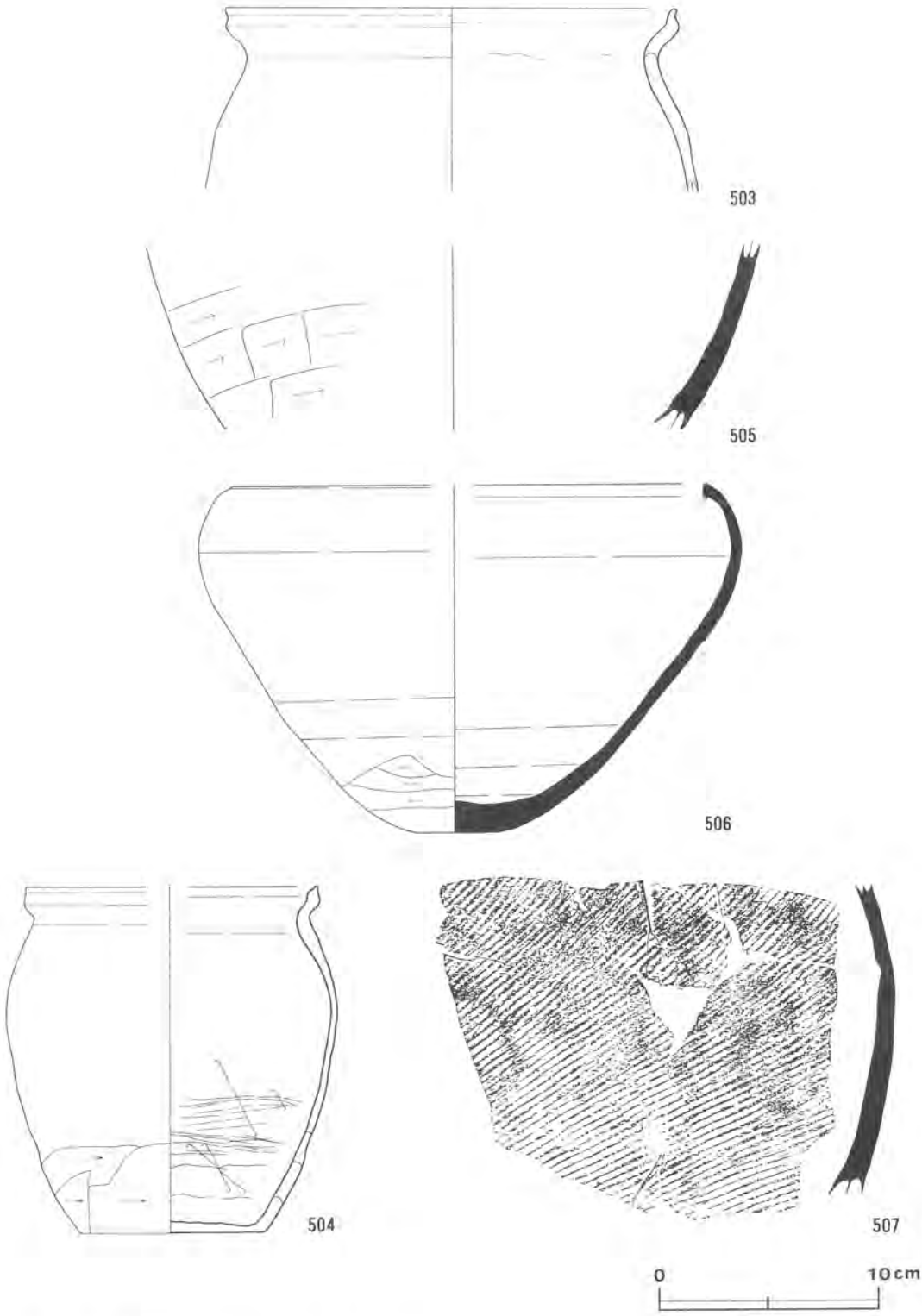
0　2m

第3号住居跡　竈土層解説

1　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・炭化物・粘土少量。
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　赤　褐　色　焼土粒子・焼土ブロック・ローム粒子少量。
4　にぶい赤褐色　焼土中ブロック中量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粒状粘土少量。
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
7　褐　色　粘土中量，焼土小ブロック・炭化物少量。

0　1m

第114図　第3号住居跡実測図




第115図　第３号住居跡出土遺物実測・拓影図

**第4号住居跡**（第116図）

**位置**　調査区の南部，K10h2区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.16m，短軸3.14mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－15°－E。

**壁**　壁高は33～46cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。

**竈**　北壁中央部の壁を約42cm壁外に掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ155cm，幅95cmである。天井部の一部が遺存している。袖部は比較的よく遺存し，西側袖部は熱を受けて赤色に変化している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子が検出されている。火床は床面を約6cm掘り窪められているが，あまり熱をうけていない。煙道は火床からほぼ垂直に立ち上がっている。

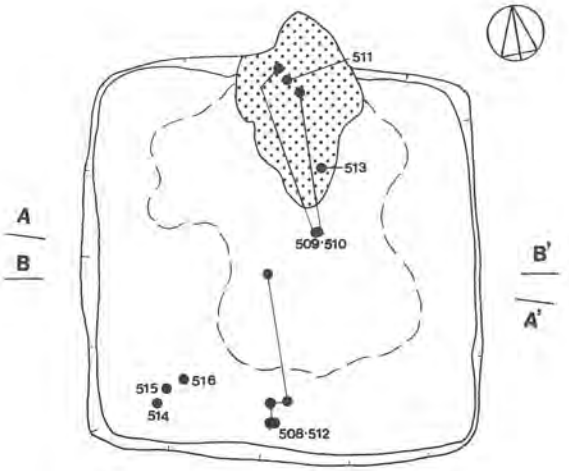
**覆土**　6層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内と覆土中層から，土師器（甕3，坏6）・細片（84点），須恵器の細片（4点）が出土している。南西コーナーからは内面黒色の土師器の坏が3点，それぞれ正位の状態で出土し，514の坏には「大生○」が，515の坏には「阿弥厨」が，516の坏には「佛」の墨書が見られる。508の土師器の甕は，竈内の燃焼部の中層から逆位の状態で出土している。炭化材が南東コーナー付近から出土している。

**所見**　本跡は，床面から多量の焼土や炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

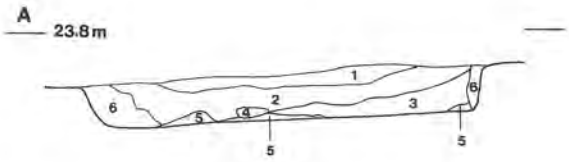
**第4号住居跡出土遺物観察表**

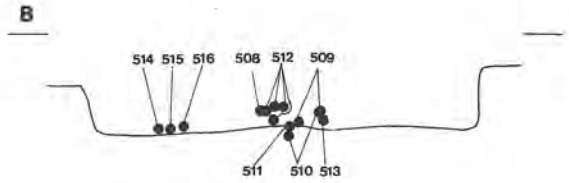
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第117・118図<br>508 | 甕<br>土師器 | B(30.9)<br>C 6.8 | 口縁部欠損。平底。胴部は内彎しながら立ち上がり，長胴を呈する。 | 頸部内・外面横ナデ。胴部外面刷毛目痕。胴部内面ヘラ削り。底部ナデ。 | 砂粒・雲母<br>浅黄橙色<br>普通 | P24　90%<br>南壁際覆土中層 |
| 509 | 甕<br>土師器 | A 18.0<br>B( 2.7) | 口縁部片。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P25　5%<br>竈燃焼部下層 |
| 510 | 甕<br>土師器 | B( 9.8)<br>C〔 6.6〕 | 胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部外面ヘラナデ。胴部内面下位ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P26　5%<br>竈燃焼部下層 |
| 511 | 坏<br>土師器 | A 15.8<br>B 5.3<br>C 8.2 | 口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ヘラナデ。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P27　95%<br>竈燃焼部中層 |
| 512 | 坏<br>土師器 | A 14.8<br>B 5.2<br>C 7.9 | 胴部から口縁部にかけての破片。上げ底気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部回転糸切り後，ヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>良好 | P28　70%<br>南壁付近覆土中層 |

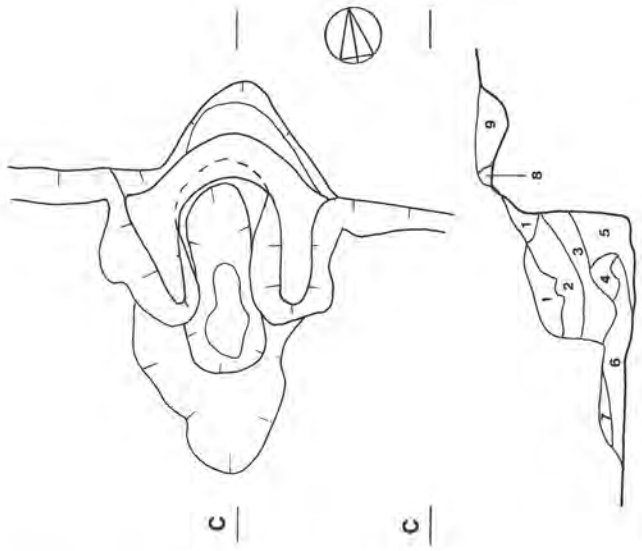



第４号住居跡　土層解説

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化材・ローム小ブロック少量。
4　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
5　黒赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化材・ローム粒子少量。
6　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量。



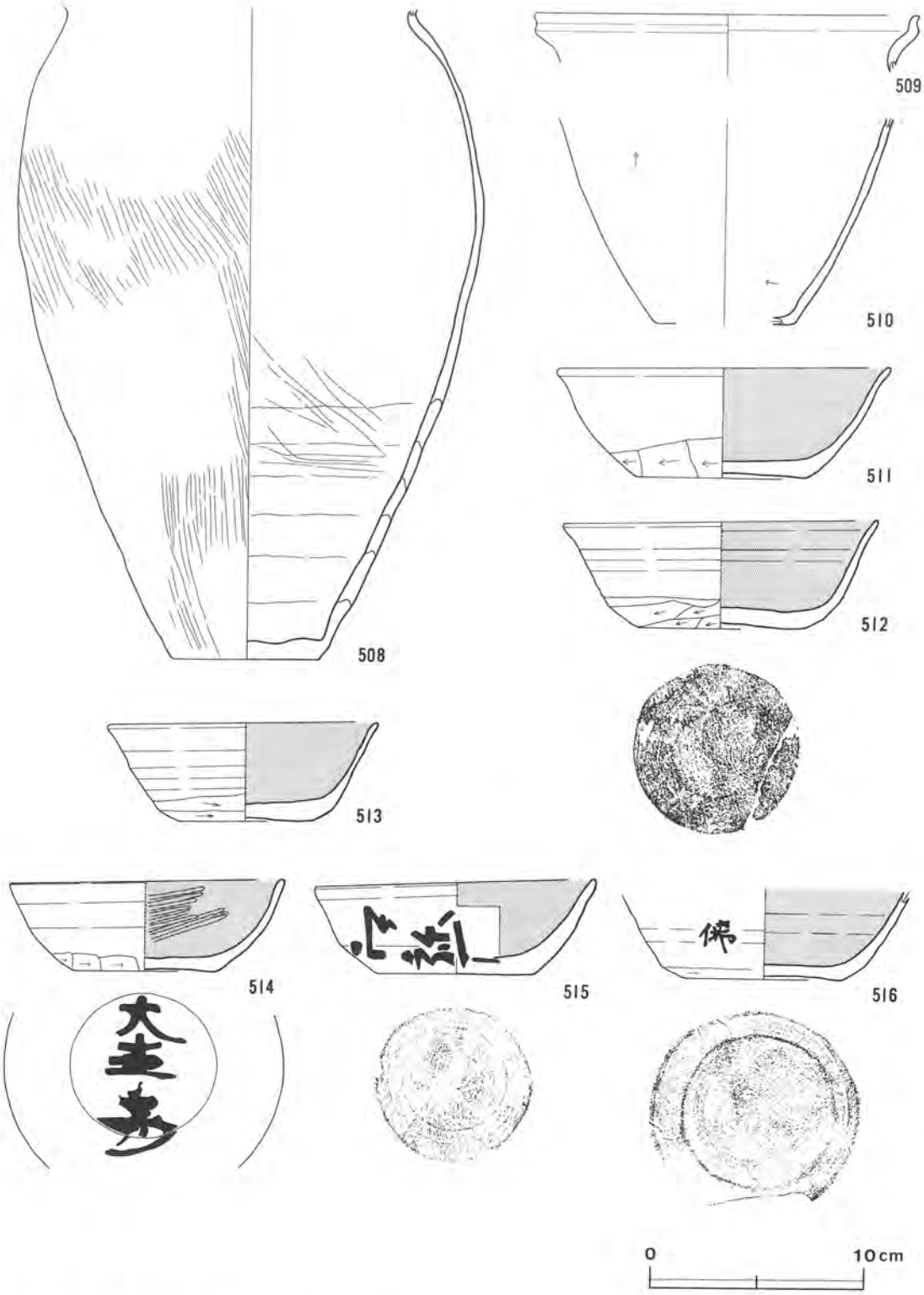






第４号住居跡　竈土層解説

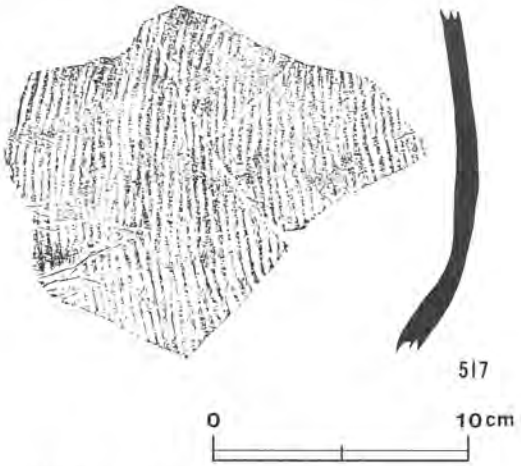
1　暗　　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・炭化物少量。
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・炭化物少量。
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量。
4　暗　　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量。
5　暗　　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量。
6　暗　　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量。
7　赤　　褐　　色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量。
8　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
9　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粒状粘土少量。

第116図　第４号住居跡実測図




第117図　第４号住居跡出土遺物実測図(1)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 513 | 坏<br>土師器 | A 12.7<br>B 4.7<br>C 6.3 | 口縁部の一部欠損。上げ底気味。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P29 80%<br>竈燃焼部中層 |
| 514 | 坏<br>土師器 | A 12.9<br>B 5.4<br>C 6.6 | 平底。体部はやや内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部下端及び底部手持ちヘラ削り。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P30 100%<br>南西コーナー付近覆土下層<br>墨書「大生○」 |
| 515 | 坏<br>土師器 | A 13.2<br>B 4.6<br>C 7.3 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>明黄褐色<br>普通 | P31 100%<br>南西コーナー<br>墨書「阿弥厨」 |
| 516 | 坏<br>土師器 | B(4.3)<br>C 7.4 | 口縁部欠損。上げ底気味。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部下端回転ヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後，手持ちヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・スコリア<br>明黄褐色<br>普通 | P32 90%<br>南西コーナー付近覆土下層<br>墨書「佛」 |
| 517 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>オリーブ灰色<br>普通 | TP2 5%<br>南西コーナー付近覆土上層 |




第118図　第４号住居跡出土遺物拓影図(2)

**第５号住居跡**（第119図）

**位置**　調査区の南端部，Ｌ10a₃区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北東部の床は，第12号土坑に掘り込まれている。

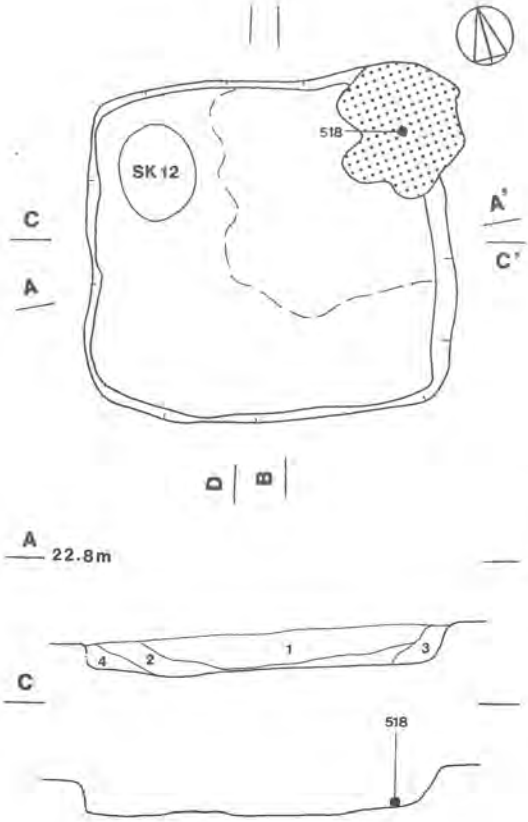
**規模と平面形**　長軸2.94ｍ，短軸2.76ｍの方形を呈している。

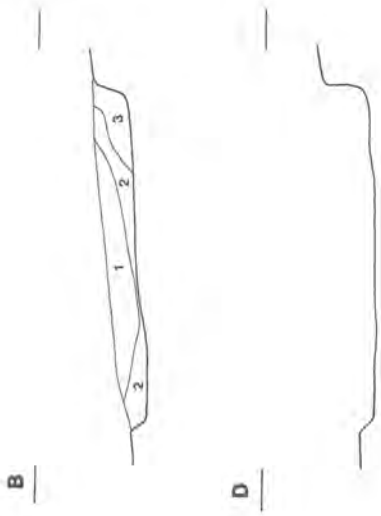
**主軸方向**　Ｎ－11°－Ｅ。

**壁**　壁高は８～34cmで，外傾して立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，中央から竈にかけての床は，特に硬く締まっている。

**竈**　北東コーナーの壁を約30cm壁外に掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ

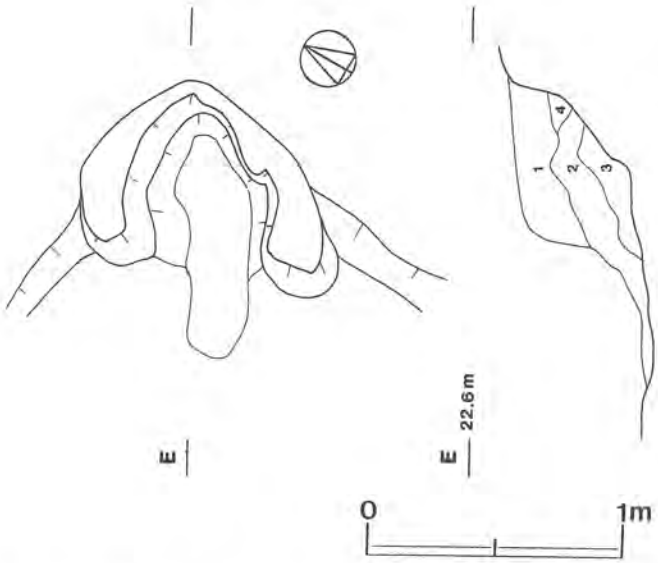



第５号住居跡　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量。
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土少量。
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量。

0　2m



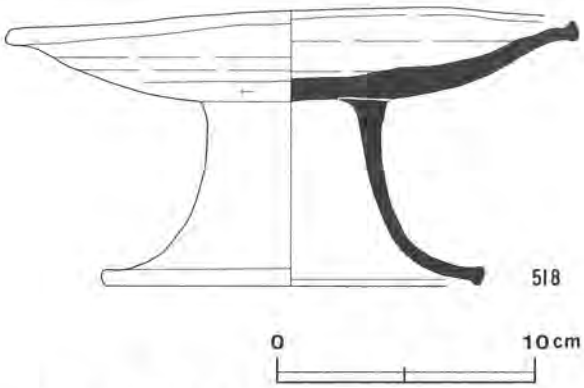

第５号住居跡　覆土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・焼土小ブロック少量。
3　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量。

第119図　第５号住居跡実測図

第５号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第120図<br>518 | 高　盤<br>須恵器 | A 22.4<br>B 10.6<br>C 7.5 | 脚部の裾部及び口縁部の一部欠損。脚部は緩やかに外反し，裾部は大きく反り返り，端部は段なして短く垂下する。盤部は段外上方に大きく開き，口縁部はほぼ垂直に屈曲する。 | 盤部及び脚部の内・外面横ナデ。盤部下端回転ヘラ削り。脚部貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・石英<br>灰褐色<br>普通 | P33　　70%<br>竈燃焼部覆土下層 |



第120図　第５号住居跡出土遺物実測図

110cm，幅100cmである。天井部は崩落しているが，袖部は遺存している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子が検出されている。火床は床面を約４cm掘り窪められているが，あまり焼けていない。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土**　４層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内及び覆土の下層から上層にかけて，土師器の細片（６点），須恵器（高盤１）・細片（２点）が出土している。518の須恵器の高盤は，竈の燃焼部の覆土下層から破片の状態で出土している。

**所見**　本跡は，重複関係から第12号土坑より古い時期に構築されている。遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

**第６号住居跡**（第121・122図）

**位置**　調査区の南端部，Ｌ10a₀区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸5.22ｍ，短軸4.58ｍの長方形を呈している。

**主軸方向**　Ｎ－17°－Ｗ。

**壁**　壁高は20～76cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　北西コーナー壁際から検出されている。上幅約９cm，深さ約３cm，断面形は「Ｕ」字状を呈している。

**床**　凹凸のはげしい床であるが，硬く締まっている。

**ピット**　６か所（$P_1$～$P_6$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径23～38cmのほぼ円形を呈し，深さ23～58cmで主柱穴と考えられる。$P_5$は長径49cm，短径37cmの楕円形を呈し，深さ16cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_6$の性格は不明である。

**竈**　北壁中央部の壁を約43cm壁外に掘り込み,砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ194cm，幅252cmを測り，天井部は崩落している。袖部は良好に遺存し,袖部の補強に使用されたと思われる多数の土師器の甕片が袖部から出土している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子，粘土粒子，砂が検出されている。火床は，床面を約6cm掘り窪めており，熱をうけて赤変硬化している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

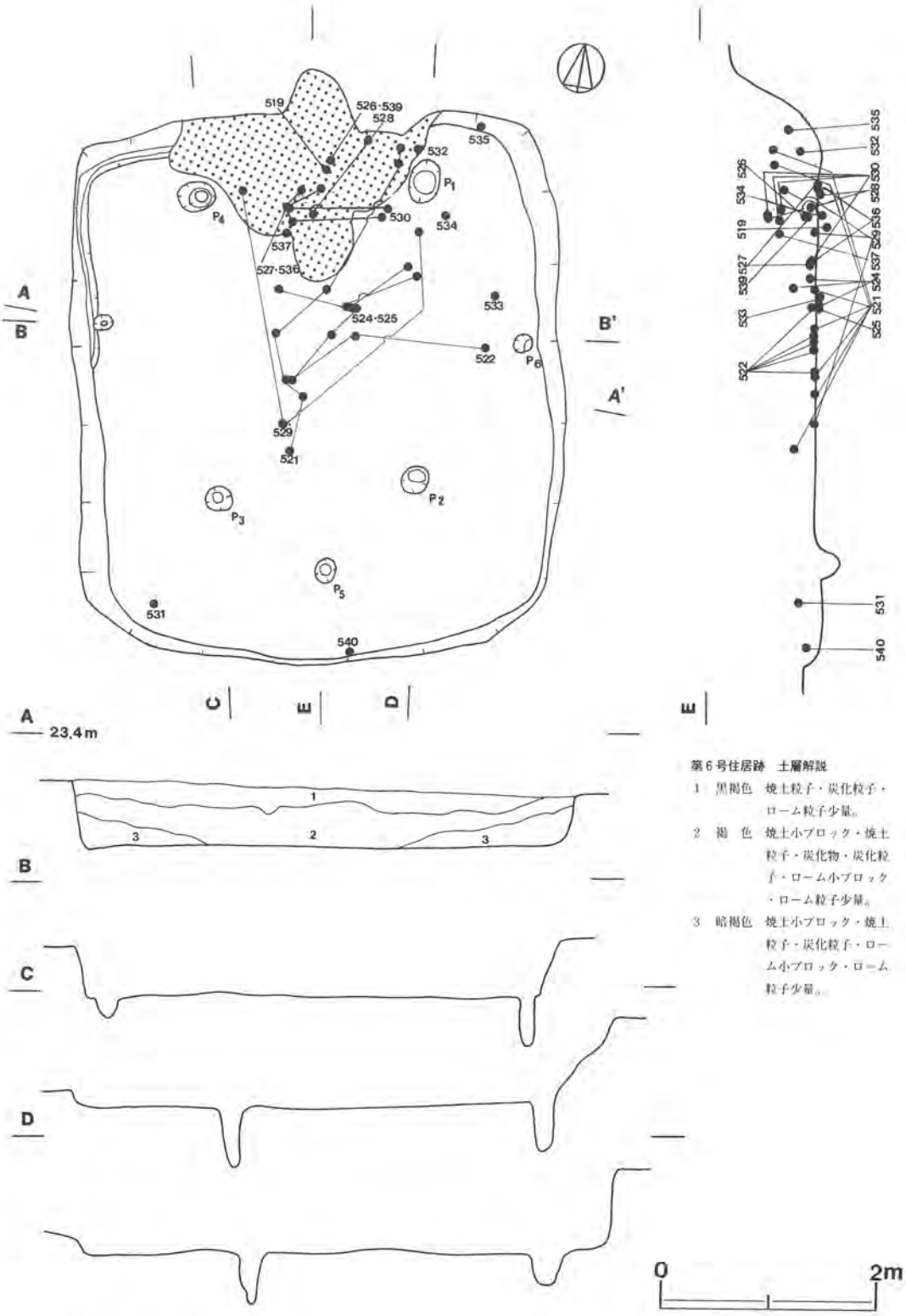
**覆土**　3層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内及び覆土の下層や中層から，土師器（甕7，甑1，鉢1）・細片（671点），須恵器（甕1，甑1，坏7，蓋3，小形短頸壺1，鉢1）・細片（85点）が多量に出土している。その他，流れ込みと思われる土製品も出土している。519の土師器の甕は，竈の東袖際の火床から，逆位の状態で出土している。520の土師器の甕は，竈の西袖寄りの火床から，逆位の状態で出土している。531の須恵器の坏は，南西コーナー付近の覆土上層から逆位の状態で出土している。532の須恵器の坏は，竈付近の覆土下層から逆位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

**第6号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第123～125図<br>519 | 甕<br>土師器 | A(15.6)<br>B(17.3)<br>C 16.8 | 口縁部の一部欠損。平底。胴部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラ削り。底部に木葉痕。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 34　90%<br>竈東袖際火床 |
| 520 | 甕<br>土師器 | A 13.9<br>B 15.6<br>C 7.0 | 平底。胴部は内彎しながら立ち上がり，中位に最大径をもつ。口唇部はやや外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面下位から中位ヘラ削り。胴部内面下位ヘラナデ。胴部内面上位ナデ。底部に木葉痕。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P 35　100%<br>竈西袖寄り火床 |
| 521 | 甕<br>土師器 | A 22.5<br>B(23.4) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ磨き。胴部内面ヘラ削り。 | 砂粒・石英・長石<br>にぶい橙色<br>普通 | P 36　50%<br>中央部覆土中層 |
| 522 | 甕<br>土師器 | A 20.8<br>B(12.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，器厚を増しながら口縁部に至る。口唇部はほぼ垂直につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 37　30%<br>中央部覆土下層 |
| 523 | 甕<br>土師器 | B( 6.4)<br>C 8.6 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ磨き。底部に木葉痕。 | 砂粒<br>にぶい赤褐色<br>普通 | P 38　10%<br>南東部覆土 |
| 524 | 甕<br>土師器 | A〔21.4〕<br>B(11.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱く，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反し，口唇部はやや外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 39　15%<br>北西部覆土 |
| 525 | 甕<br>土師器 | A〔20.9〕<br>B( 6.5) | 胴部から口縁部にかけての破片。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P 40　5%<br>中央部覆土中層 |



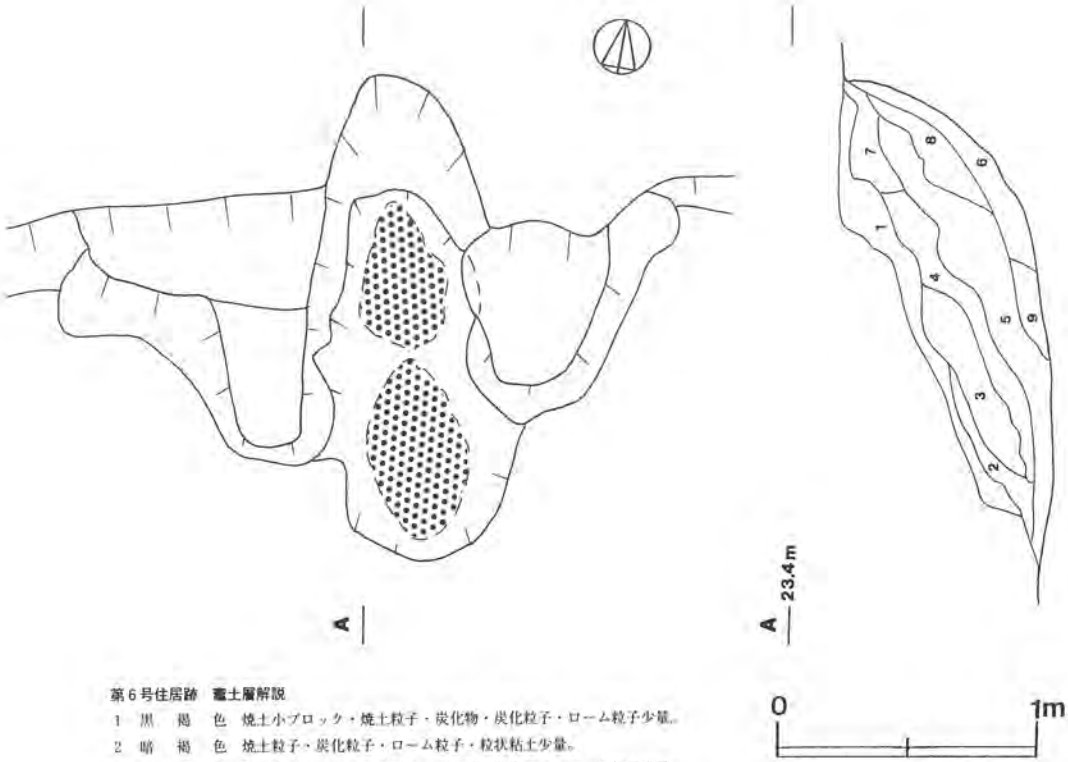

第6号住居跡　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

2　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

3　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第121図　第6号住居跡実測図

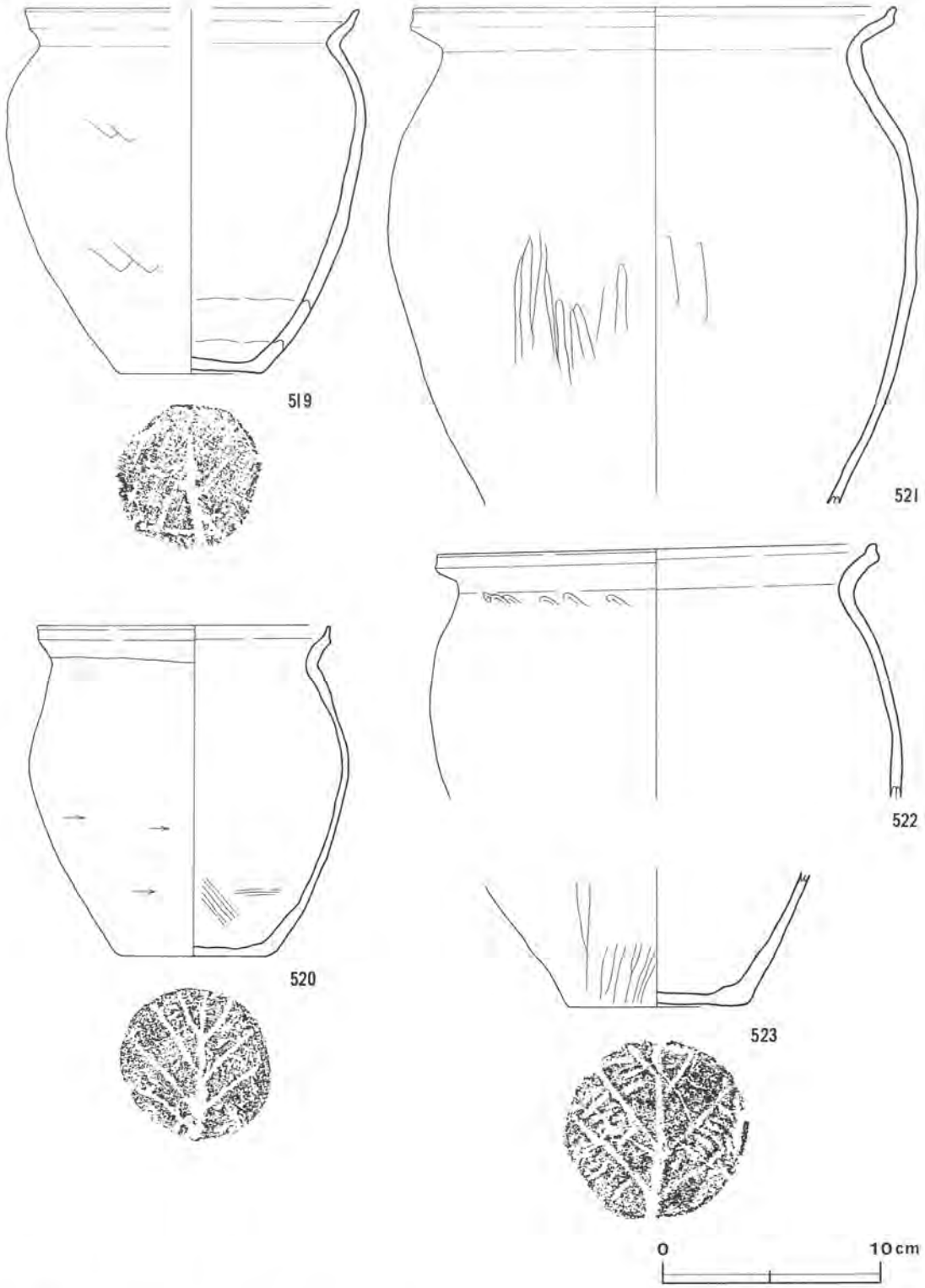



第6号住居跡　竈土層解説

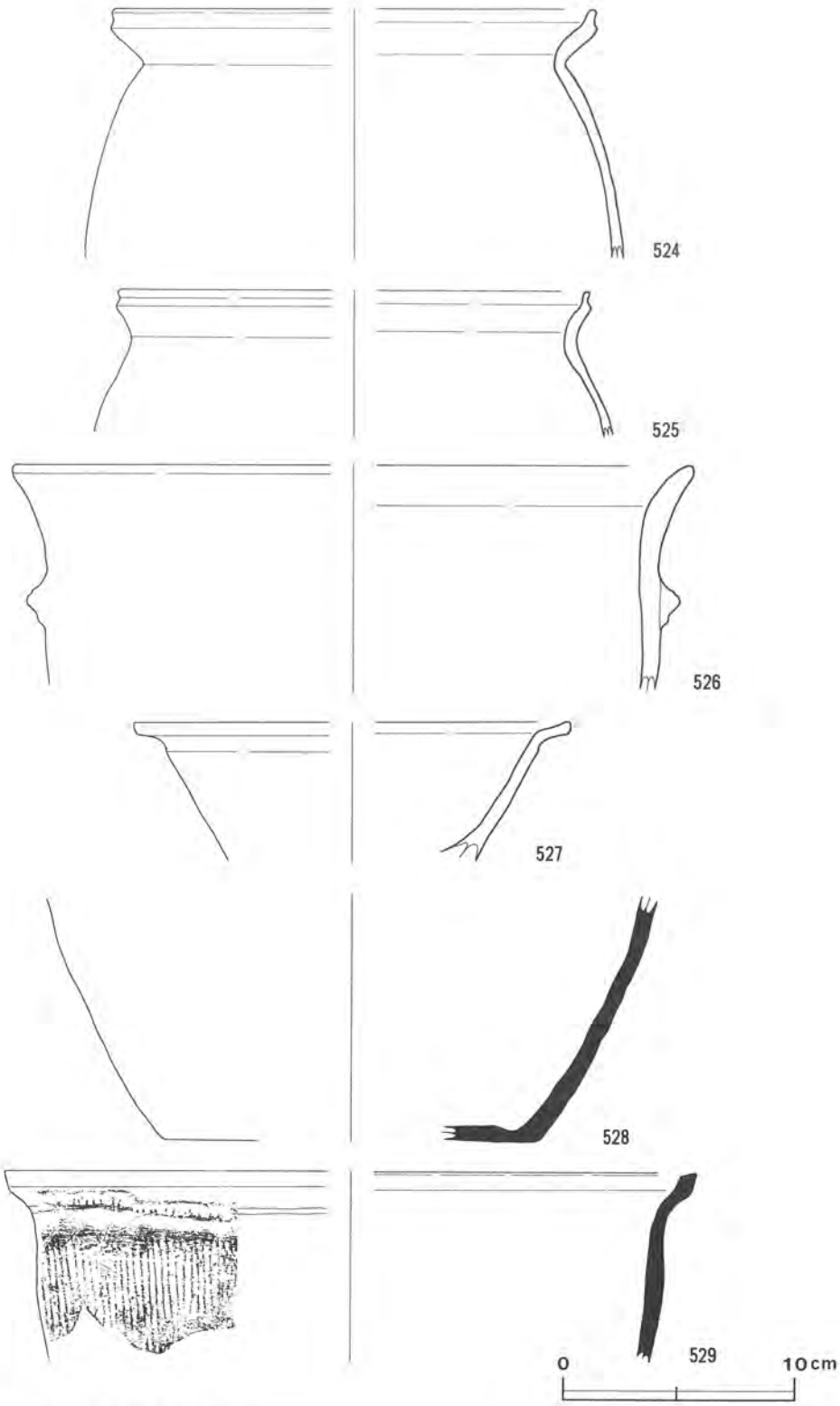
1　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粒状粘土少量。
3　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　にぶい赤褐色　粘土中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
6　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土少量。
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
8　にぶい黄褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量。
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量。

第122図　第6号住居跡竈実測図

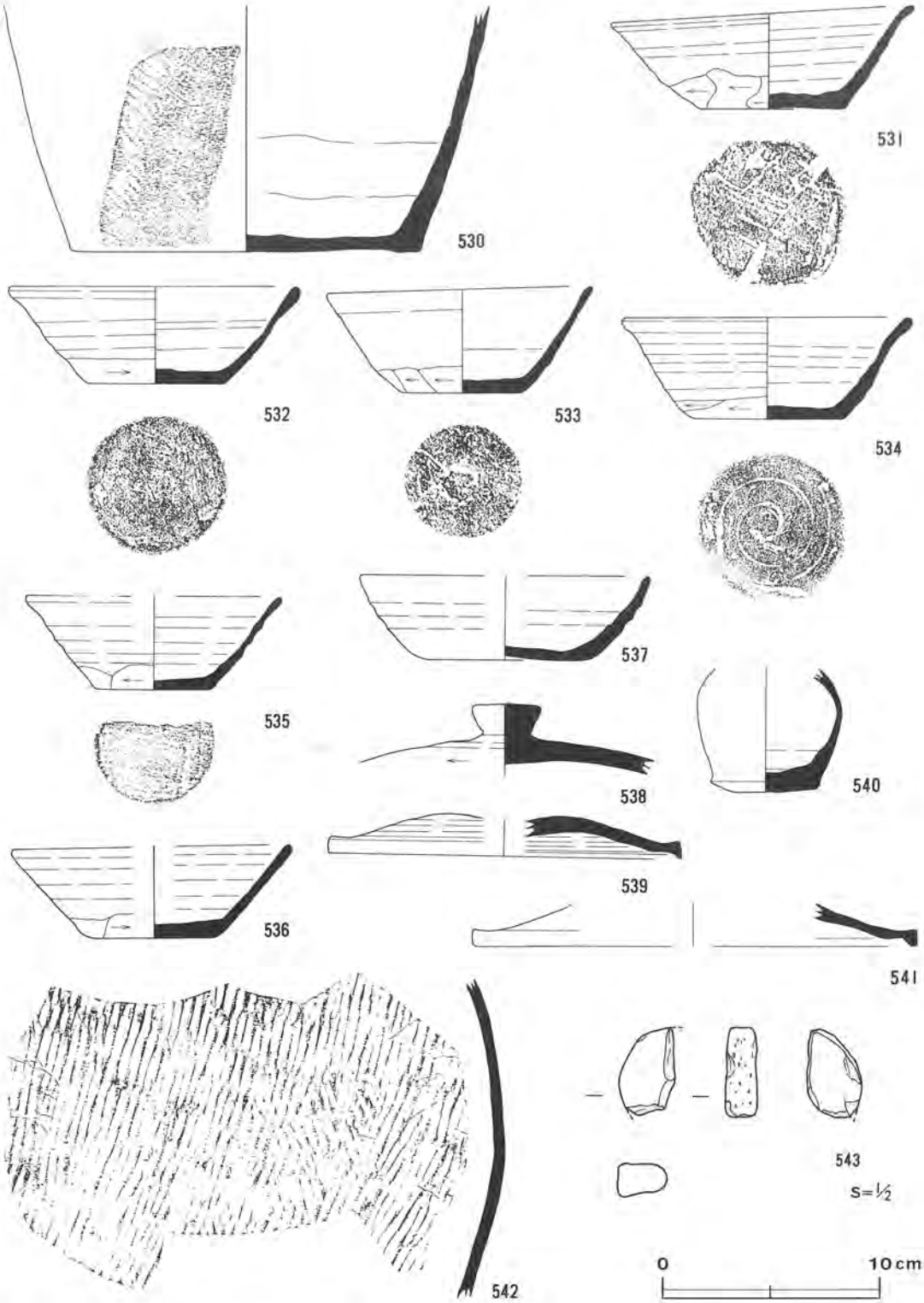
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 526 | 甕<br>土師器 | A〔29.9〕<br>B( 9.9) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内彎しながら立ち上がり，上位に突起をもつ。頸部から口縁部にかけて僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P41　5%<br>竈燃焼部下層 |
| 527 | 鉢<br>土師器 | A〔19.0〕<br>B( 6.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部は大きく外反する。口唇部を僅かに上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P42　20%<br>竈燃焼部下層 |
| 528 | 甕<br>須恵器 | B(10.8)<br>C〔16.4〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は内彎気味に立ち上がる。 | 胴部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>浅黄色<br>普通 | P44　10%<br>竈燃焼部上層 |




第123図　第６号住居跡出土遺物実測図(1)




第124図　第６号住居跡出土遺物実測図(2)




第125図　第６号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 529 | 甑<br>須恵器 | A〔30.5〕<br>B( 8.3) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら立ち上がり，器厚を減じながら頸部に至る。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面平行叩き。 | 砂粒・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P45　10%<br>中央部覆土下層 |
| 530 | 鉢<br>須恵器 | B(11.5)<br>C(16.2) | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は僅かに内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面下位ヘラ削り。体部外面中位平行叩き。底部ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P43　15%<br>竈燃焼部上層 |
| 531 | 坏<br>須恵器 | A 13.8<br>B 4.8<br>C 6.6 | 平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。底部手持ちヘラ削り。 | 砂粒<br>黒褐色<br>普通 | P50　100%<br>南西コーナー付近覆土上層 |
| 532 | 坏<br>須恵器 | A 13.6<br>B 4.5<br>C 6.5 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，器厚を増しながら口縁部に至る。口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。底部手持ちヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>灰色<br>普通 | P51　95%<br>竈付近覆土下層 |
| 533 | 坏<br>須恵器 | A 12.3<br>B 4.9<br>C 5.5 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部横ナデ。体部及び底部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・雲母<br>灰色<br>普通 | P53　80%<br>東壁付近覆土下層 |
| 534 | 坏<br>須恵器 | A 13.4<br>B 4.7 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部下端ヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>灰色<br>普通 | P52　95%<br>北東コーナー付近覆土下層 |
| 535 | 坏<br>須恵器 | A〔11.9〕<br>B( 4.3)<br>C〔 5.2〕 | 胴部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。 | 体部下端ヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部一方向のヘラ削り。 | 砂粒<br>にぶい黄色<br>普通 | P54　50%<br>北東コーナー壁際覆土中層 |
| 536 | 坏<br>須恵器 | A〔13.1〕<br>B 4.3<br>C 5.8 | 胴部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | P55　20%<br>竈燃焼部下層 |
| 537 | 坏<br>須恵器 | A(13.4)<br>B 4.0<br>C( 8.0) | 体部から口縁部にかけての破片。上げ底気味。体部はやや内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>浅黄色<br>普通 | P57　10%<br>竈燃焼部中層 |
| 538 | 蓋<br>須恵器 | A(11.0)<br>B 3.1<br>F 3.1<br>G 1.4 | 天井部片。天井部はほぼ平坦で緩やかに内彎する。つまみは宝珠状を呈する。 | 天井部回転ヘラ削り。内面横ナデ。 | 砂粒<br>褐灰色<br>普通 | P47　20%<br>南東部覆土 |
| 539 | 蓋<br>須恵器 | A〔16.4〕<br>B( 1.9) | 天井部から口縁部にかけての破片。天井部は凹み，緩やかに内彎して口縁部に至る。口縁部は僅かに外反し，端部は短く垂下する。 | 天井部回転ヘラ削り。内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>黄灰色<br>普通 | P48　10%<br>竈燃焼部下層 |
| 540 | 小形短頸壺<br>須恵器 | B( 5.8)<br>C 5.1 | 底部から胴部にかけての破片。丸底気味。胴部下端は僅かに突出し，胴部は内彎しながら立ち上がる。 | 胴部内・外面横ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒<br>灰オリーブ色<br>普通 | P58　40%<br>南壁際覆土上層 |
| 541 | 蓋<br>須恵器 | A〔20.5〕<br>B( 2.6) | 天井部から口縁部にかけての破片。口縁部は僅かに外反し，端部は短く垂下する。 | 内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>褐灰色<br>普通 | P49　10%<br>南東部覆土 |
| 542 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ヘラナデ。 | 砂粒・小礫<br>灰色<br>良好 | TP 3　5 %<br>竈燃焼部下層 |

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 543 | 耳　飾　り | (2.8) | (1.8) | 1.1 | --- | (5.0) | 40 | 覆土 | DP1 |

**第7号住居跡**（第126図）

**位置**　調査区の南東部，K12e₁区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.75m，短軸3.23mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－25°－W。

**壁**　壁高は38～66cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。

**竈**　北西壁のほぼ中央部の壁を約152cm壁外に掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ約152cm，幅182cmを測り，天井部は崩落している。袖部は比較的よく遺存し，袖部からは補強に使用されたと思われる土師器の甕片が出土している。燃焼部からは，焼土粒子，炭化粒子，粘土粒子が検出されている。火床は，床面を約12cm掘り窪められているが，あまり焼けていない。煙道は火床から外傾して立ち上がっている。

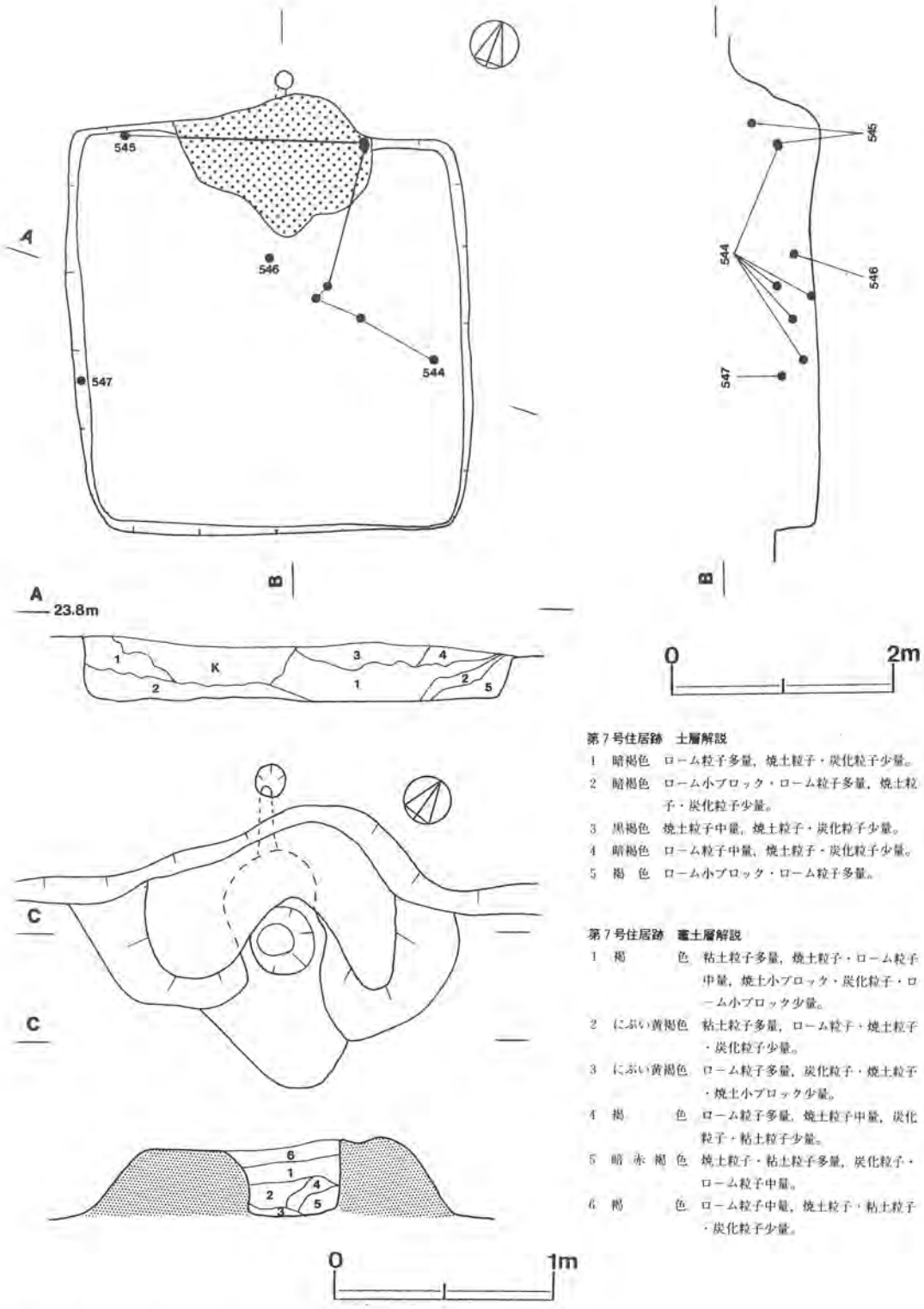
**覆土**　5層からなる。各層にローム小ブロックが混入していることや，下層から中層は隣接する古墳に使用されたと考えられる石が多数出土することから人為堆積と思われる。

**遺物**　竈内及び覆土の下層や中層から，土師器（甕2）・細片（127点），須恵器（甕1，坏1）・細片（13点）が出土している。また，覆土の下層から中層にかけては，隣接している古墳に使われたと考えられる板状の石が多数出土している。544の土師器の甕は，竈の燃焼部の覆土下層及び北東コーナー付近の下層から上層にかけて，破片の状態で出土している。547の須恵器の坏は，南西壁際の覆土中層から逆位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

**第7号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第127図<br>544 | 甕<br>土 師 器 | A 20.6<br>B(31.2) | 底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，器厚を増しながら口縁部に至る。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・長石・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P59　85%<br>竈燃焼部下層 |
| 545 | 甕<br>土 師 器 | A〔22.2〕<br>B( 9.2) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は張りが弱い。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部横ナデ。胴部内・外面ナデ。 | 砂粒・長石・雲母<br>橙色<br>普通 | P60　5%<br>北西壁付近覆土中層 |
| 546 | 甕<br>須 恵 器 | B( 5.2)<br>C〔17.6〕 | 胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>灰黄褐色<br>普通 | P61　5%<br>中央部覆土下層 |




**第７号住居跡　土層解説**

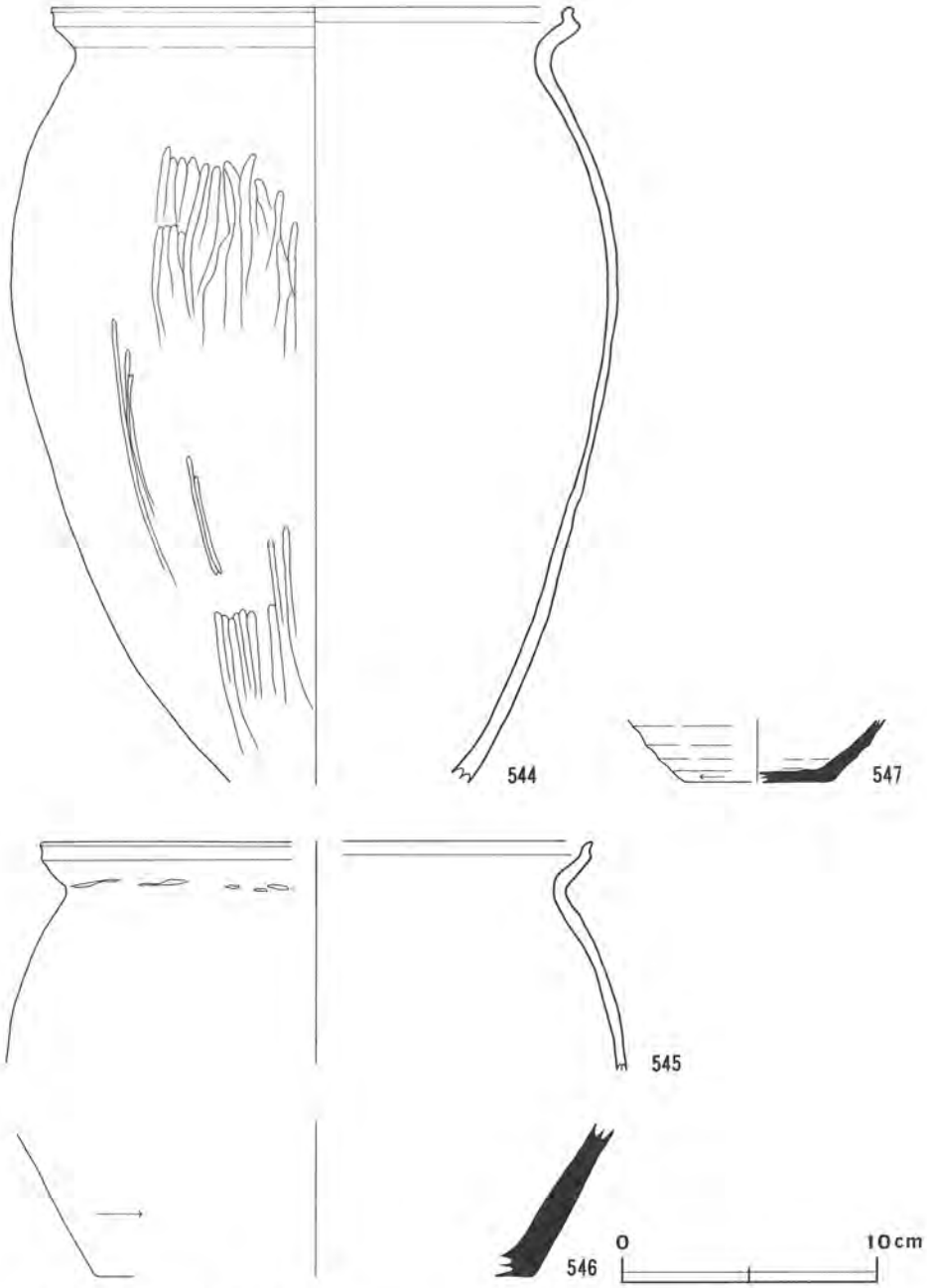
1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
3　黒褐色　焼土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量。

**第７号住居跡　竈土層解説**

1　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
2　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。
3　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量。
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量。
5　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子中量。
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・炭化粒子少量。

第126図　第７号住居跡実測図

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 547 | 坏<br>須恵器 | B( 2.6)<br>C〔 5.8〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底。体部は僅かに内彎しながら立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>褐灰色<br>普通 | F62　　10%<br><br>南西壁際覆土中層 |




第127図　第７号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡（第128図）

**位置**　調査区の南部，Ｊ9g5区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸4.57ｍ，短軸3.65ｍの長方形を呈している。

**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ。

**壁**　壁高は43～69cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　壁直下を全周している。上幅16～26cm，深さ５～９cm，断面形は皿状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，硬く締まっている。

**ピット**　３か所（$P_1$～$P_3$）検出されている。$P_1$は，径23cm程の円形を呈し，深さ11cmで主柱穴と思われる。$P_2$は，長径26cm，短径23cmの不整楕円形を呈し，深さ15cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_3$の性格は不明である。

**竈**　２基検出されている。竈Ａは，東壁の南東コーナー寄りに検出され，壁を約53cm壁外に掘り込んで構築されているが，竈は削除され，床と壁が新たに構築されていることから竈Ｂよりも古いと思われる。竈Ｂは，北壁中央部の壁を約60cm壁外へ掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。規模は，長さ142cm，幅183cmを測る。天井部は崩落しているが，袖部は良く遺存している。燃焼部からは，焼土ブロック，炭化粒子，粘土粒子，砂が検出されている。火床は平坦で，あまり焼けていない。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

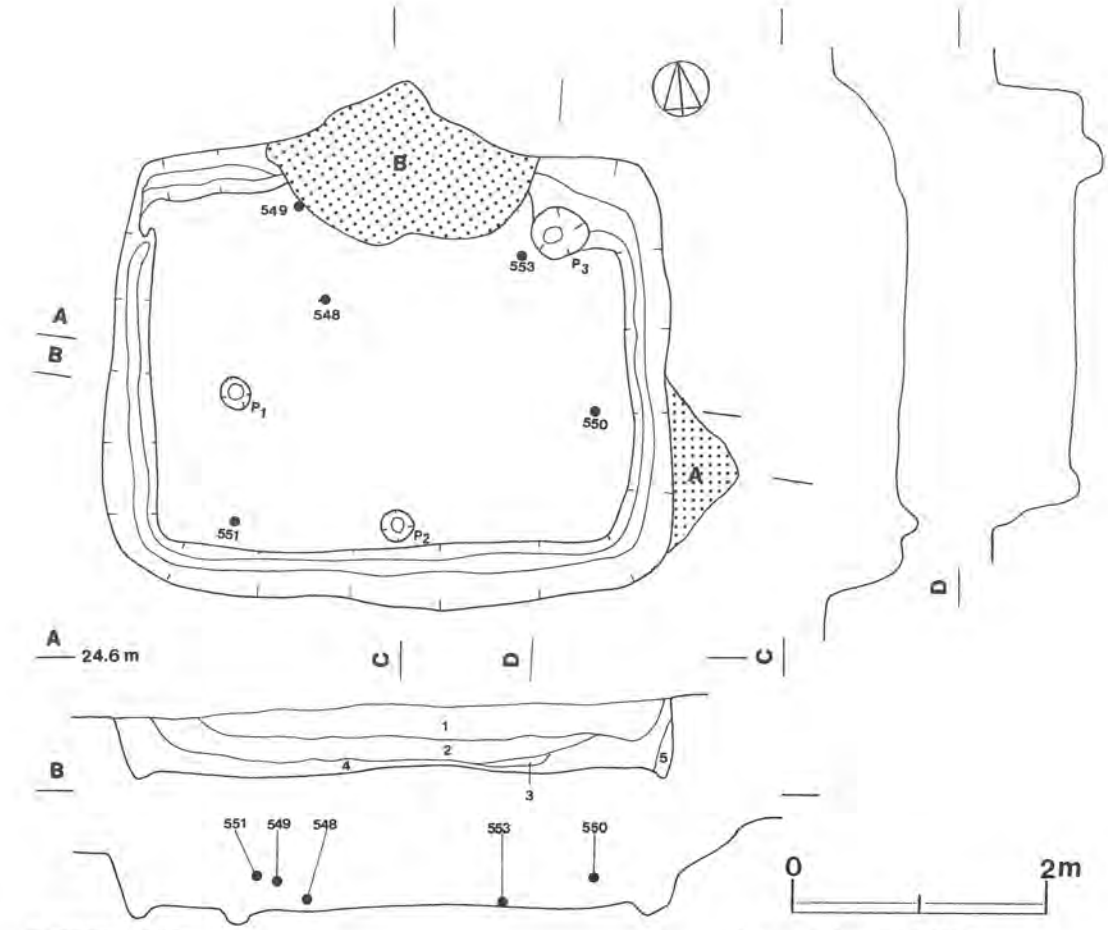
**覆土**　５層からなり，自然堆積である。

**遺物**　覆土の下層や中層から，土師器（高台付坏１，小皿１）・細片（163点），須恵器（坏２，高台付坏１，鉢１）・細片（63点）が出土している。548の土師器の小皿は，中央部の覆土下層から出土している。551の須恵器の鉢は，口縁部が南西コーナー付近の覆土下層から出土している。553の須恵器の高台付坏は，北東コーナー付近の覆土下層から斜位の状態で出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

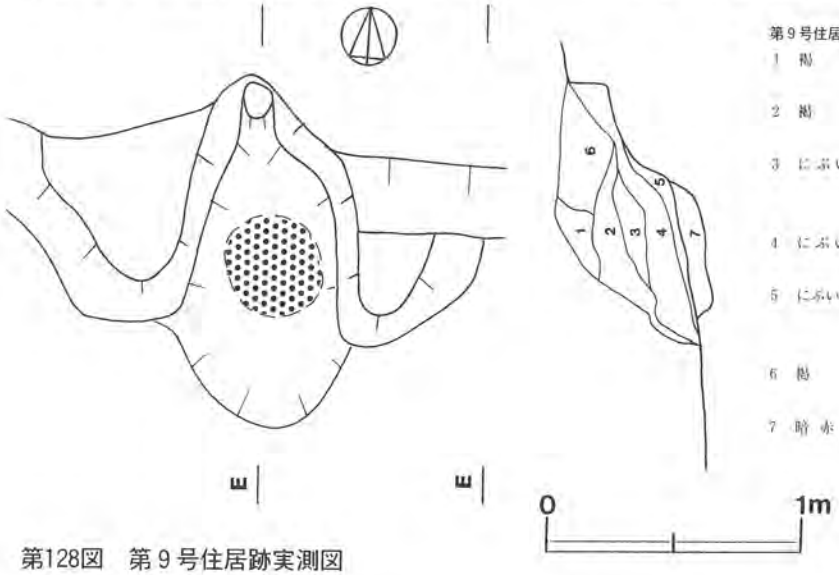
**第９号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第129図<br>548 | 小皿<br>土師器 | A 8.6<br>B 2.8<br>C 5.5 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部外面横ナデ。体部下位手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P68　90%<br>中央部覆土下層 |
| 549 | 高台付坏<br>土師器 | A〔12.9〕<br>B（4.7）<br>D〔6.1〕<br>E 8.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部下端回転ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P67　25%<br>北壁付近覆土中層 |
| 550 | 坏<br>須恵器 | B（2.5）<br>C 6.8 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は僅かに内彎しながら立ち上がる。 | 体部下位回転ヘラ削り。体部内面ナデ。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P72　15%<br>東壁付近覆土中層 |




第９号住居跡　土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量。
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量。
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量。
5　褐　　色　焼土粒子中量。

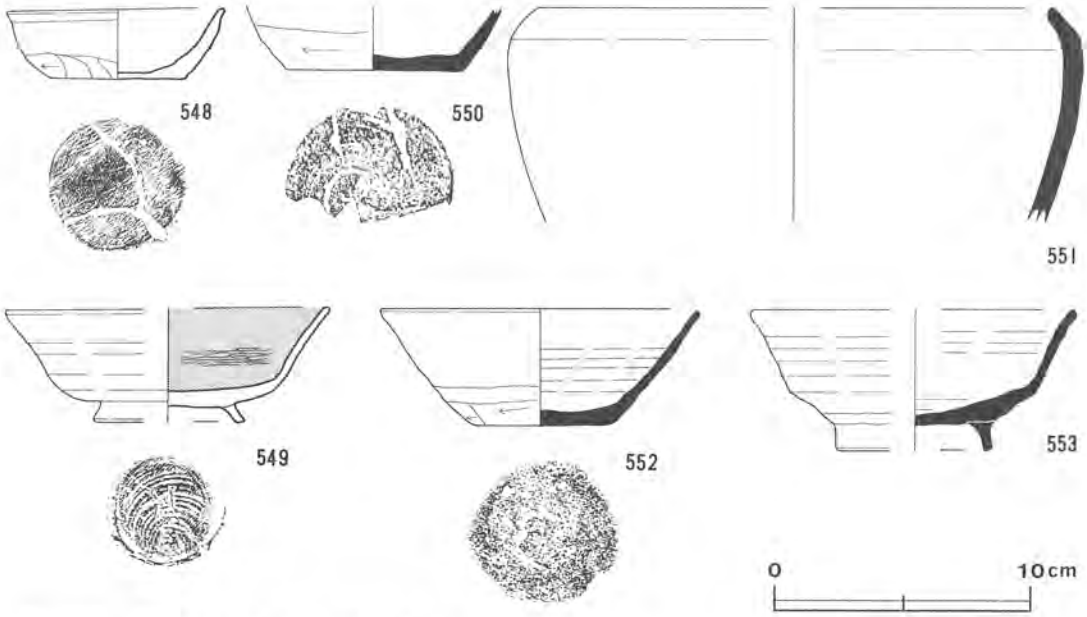



第９号住居跡　竈土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　にぶい褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　にぶい褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土少量。
7　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土少量。

第128図　第９号住居跡実測図

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 551 | 鉢<br>須恵器 | A[20.4]<br>B( 8.6) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰オリーブ色<br>普通 | P69　5%<br>南西コーナー付近覆土下層 |
| 552 | 坏<br>須恵器 | A 12.6<br>B 4.6<br>C 5.5 | 胴部から口縁部にかけての一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り。 | 砂粒・雲母・石英<br>灰オリーブ色<br>普通 | P71　60%<br>覆土上層 |
| 553 | 高台付坏<br>須恵器 | A[12.9]<br>B( 5.6)<br>D[ 6.2]<br>E 1.2 | 底部から口縁部にかけての破片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後，ヘラナデ。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・雲母・石英<br>灰色<br>普通 | P70　40%<br>北東コーナー付近覆土下層 |




第129図　第９号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡（第130・131図）

**位置**　調査区の南部，Ｊ9c8区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.78ｍ，短軸2.96ｍの長方形を呈している。

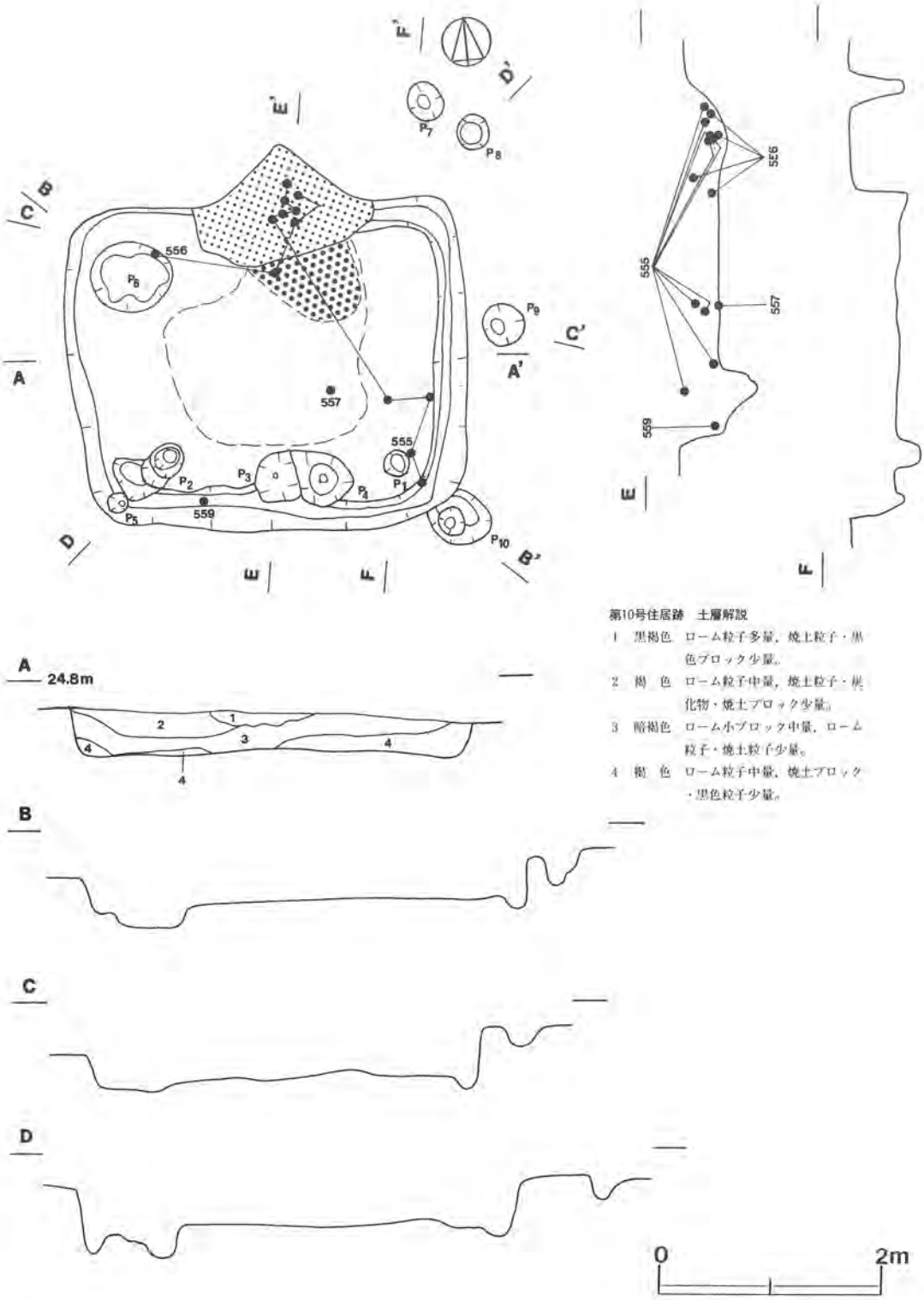
**主軸方向**　Ｎ－６°－Ｗ。

**壁**　壁高は44～50cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　西壁及び北壁の一部を除いて回っている。上幅14～20cm，深さ約６cm，断面形は逆台形状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央から竈にかけては，特に硬く締まっている。

**ピット**　10か所（$P_1$～$P_{10}$）検出されている。$P_1$～$P_2$は，径23～30cmのほぼ円形を呈し，深さ22～




第10号住居跡　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・黒色ブロック少量。

2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・焼土ブロック少量。

3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量。

4　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・黒色粒子少量。

第130図　第10号住居跡実測図

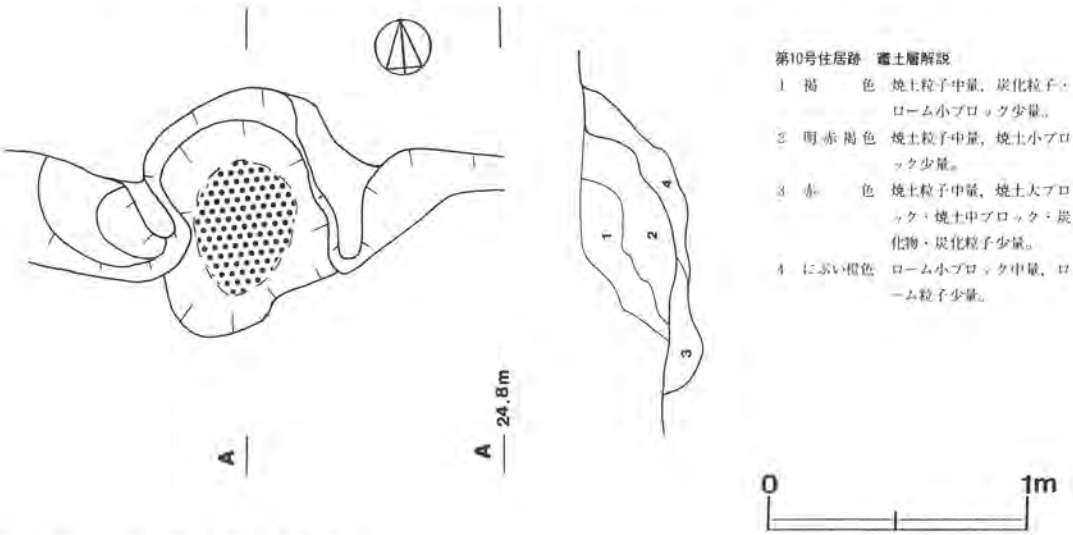
26cmで主柱穴と考えられる。$P_3$は，長軸46cm，短軸36cmの隅丸長方形を呈し，深さ33cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_9$～$P_{10}$の性格は不明である。

**竈**　北壁中央部の壁を約55cm壁外に掘り込み，床のロームを掘り残して袖基部とし，砂まじりの粘土で構築されている。規模は長さ102cm，幅166cmである。天井部は崩落しているが，袖部は遺存し，内壁は焼けている。燃焼部からは，焼土ブロック，炭化粒子，山砂が検出されている。火床は，床面を約10cm掘り窪めており，熱をうけて赤変硬化していることから，長期間にわたり，使用したものと考えられる。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がり，内壁は焼土化している。

**覆土**　4層からなり，自然堆積である。

**遺物**　竈内及び覆土の下層から上層にかけて，土師器（甕4）・細片（271点），須恵器（甑1，坏1，高台付坏1）・細片（45点）が出土している。554の土師器の甕は，竈の覆土から潰れた状態で出土している。557の土師器の甕は，中央部の覆土下層から出土している。559の須恵器の坏は，南壁際の覆土下層から破片の状態で出土し，「子」の墨書がみられる。

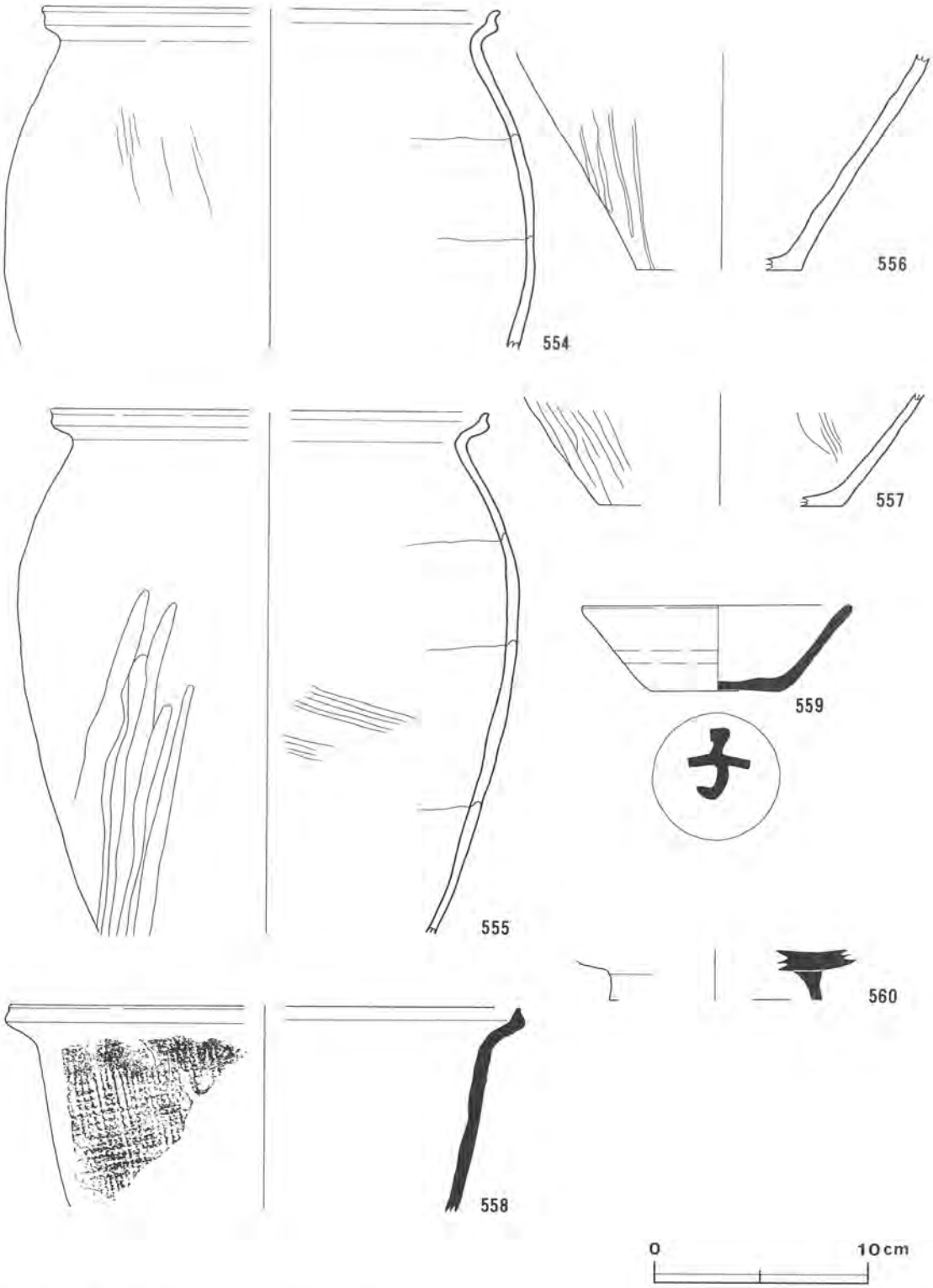
**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。




第131図　第10号住居跡竈実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第132図<br>554 | 甕<br>土師器 | A(21.5)<br>B(16.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面ナデ。胴部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・石英<br>橙色<br>普通 | P73　30%<br>竈燃焼部 |




第132図　第10号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 555 | 甕<br>土師器 | A〔20.6〕<br>B〔24.9〕 | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，上位に最大径をもつ。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ヘラ磨き。胴部内面ヘラナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P74　10%<br>竈及び南東コーナー付近覆土中層 |
| 556 | 甕<br>土師器 | A〔10.0〕<br>B〔 7.8〕 | 胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ磨き。胴部内面ナデ。 | 砂粒・石英<br>橙色<br>普通 | P75　5%<br>竈燃焼部中層 |
| 557 | 甕<br>土師器 | A〔 5.3〕<br>B〔11.5〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ磨き。胴部内面ヘラナデ。底部ナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P76　5%<br>中央部覆土下層 |
| 558 | 甑<br>須恵器 | A〔24.6〕<br>B〔 9.8〕 | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎し，口縁部は外反する。口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面平行叩き。 | 砂粒・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P77　5%<br>中央部覆土 |
| 559 | 坏<br>須恵器 | A 12.6<br>B 4.1<br>C 6.2 | 胴部から口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面ナデ。底部一方向手持ちヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>灰白色<br>普通 | P79　60%<br>南壁際覆土下層<br>墨書「子」 |
| 560 | 高台付坏<br>須恵器 | B〔 2.3〕<br>C〔10.0〕 | 底部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。 | 高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | P78　5%<br>中央部覆土 |

**第11号住居跡**（第133・134図）

**位置**　調査区の南部，J 10b2区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸4.23m，短軸3.62mの長方形を呈している。

**主軸方向**　N－16°－E。

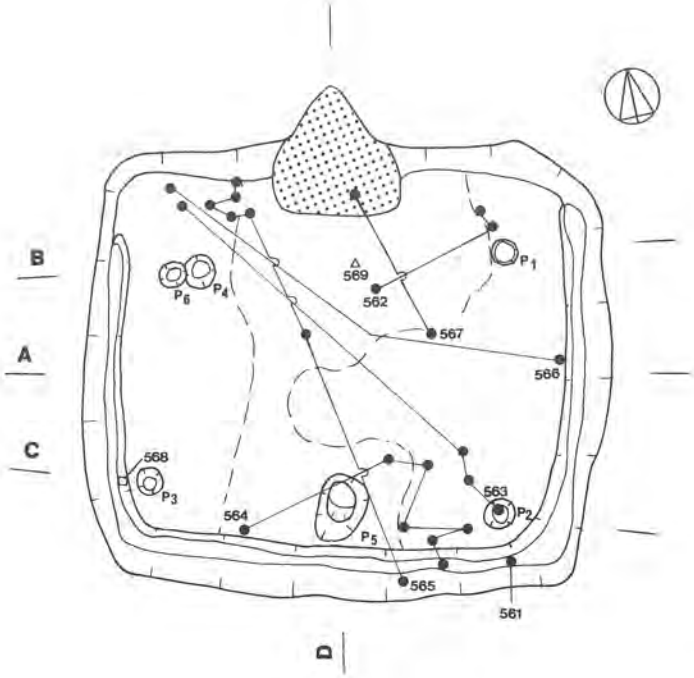
**壁**　壁高は56～64cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

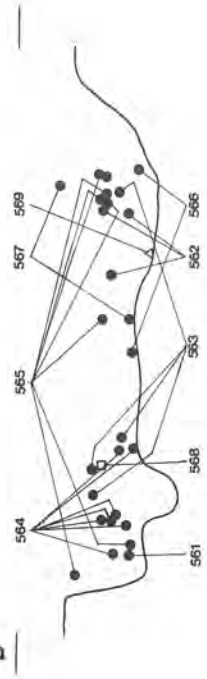
**壁溝**　北壁の部分を除いて回っている。上幅19～26cm，深さ約5～8cm，断面形は皿状を呈している。

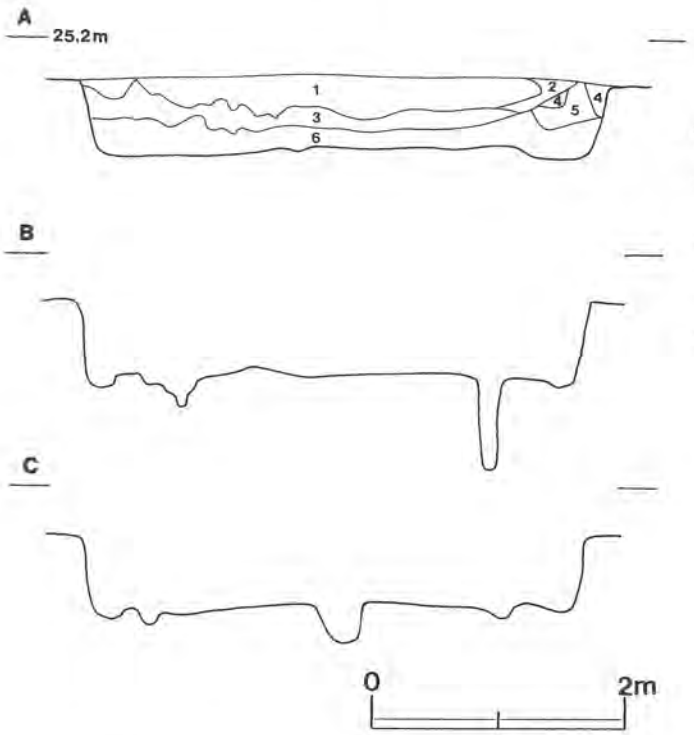
**床**　ほぼ平坦で，北壁中央部付近の竈の南側には，出入口部と考えられる馬蹄形状の高まりが検出され，その高まりから南壁中央部にかけては，特に硬く締まっている。出入口部の高まりと床との比高は約9cmである。

**ピット**　6か所（$P_1$～$P_6$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径21～26cmのほぼ円形を呈し，深さ10～72cmで主柱穴と考えられる。$P_5$は，長径56cm，短径22cmの長楕円形を呈し，深さ26cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。$P_6$の性格は不明である。

**竈**　北壁中央部の壁を約48cm壁外に掘り込み，ロームを掘り残して袖基部とし，砂まじりの粘土で構築されている。規模は，長さ105cm，幅約104cmである。天井部は崩落しているが，袖部は良好に遺存している。燃焼部からは，焼土ブロック，炭化粒子，砂が検出されている。火床部はほとんど掘り窪められていないが，熱をうけて赤変硬化し，中央からは支脚として使用した石が出




第11号住居跡　土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子中量。
2　褐　　色　ローム粒子中量，黒色土ブロック・ロームブロック少量。
3　褐　　色　ローム粒子中量。
4　にぶい褐色　ロームブロック少量。
5　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子少量。
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量。

第133図　第11号住居跡実測図

土している。煙道は火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土**　6層からなる。各層にロームブロックが混入し，土層が乱れており，人為堆積と思われる。

**遺物**　竈内及び覆土の下層から上層にかけて，土師器の細片（302点），須恵器（甕1，坏2，高台付盤3）・細片（144点）が出土し，灰釉陶器（短頸壺1），石製品等も出土している。562の須恵器の坏は，北東コーナー付近の覆土下層から，破片の状態で出土している。564の須恵器の高台付盤は，南東コーナー付近の覆土の中層から下層にかけて，破片の状態で出土している。567の灰釉陶器の短頸壺の底部は，北壁付近の覆土上層から出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

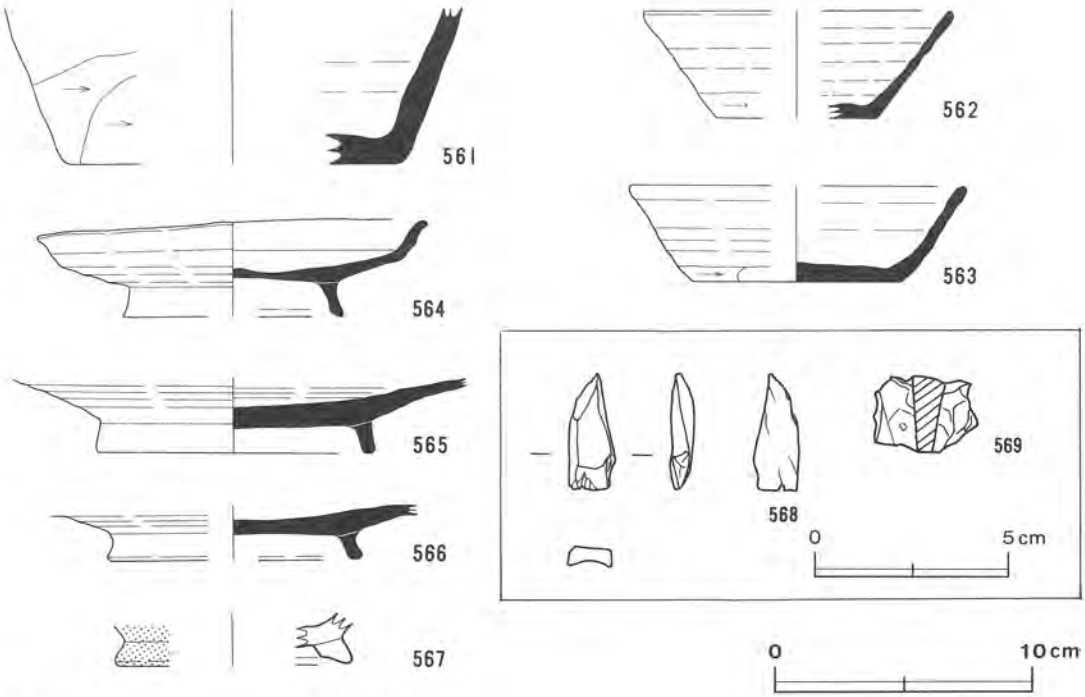
第134図　第11号住居跡竈実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第135図<br>561 | 甕<br>須恵器 | B( 6.2)<br>C〔12.9〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ヘラ削り。胴部内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P80　5％<br>南東コーナー壁際覆土下層 |
| 562 | 坏<br>須恵器 | A〔12.2〕<br>B 4.3<br>C〔 6.4〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。 | 砂粒<br>灰オリーブ色<br>普通 | P84　30％<br>北東コーナー付近覆土下層 |
| 563 | 坏<br>須恵器 | A〔13.3〕<br>B 3.3<br>C 8.1 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部下端ヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・小礫<br>黄灰色<br>普通 | P85　25％<br>南西コーナー付近覆土中層 |
| 564 | 高台付盤<br>須恵器 | A 15.3<br>B 3.9<br>D〔 8.8〕<br>E 1.5 | 底部の一部欠損。上げ底気味で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾し，中位に弱い稜をもって立ち上がる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面及び体部横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>普通 | P81　85％<br>南東コーナー付近覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 565 | 高台付盤<br>須恵器 | B( 3.0)<br>D 11.0<br>E 1.3 | 口縁部欠損。平底でやや「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・雲母・石英・長石<br>浅黄色<br>普通 | P82　80%<br>中央部覆土中層 |
| 566 | 高台付盤<br>須恵器 | B( 2.2)<br>D〔10.0〕<br>E( 1.1) | 底部から口縁部にかけての破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾して立ち上がる。 | 体部内面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒<br>灰白色<br>普通 | P83　15%<br>東壁際覆土下層 |
| 567 | 短頸壺<br>陶器 | B( 2.1)<br>C〔 9.4〕 | 底部片。高台は，「ハ」の字状に開く。 | 水挽き成形。内・外面横ナデ。外面灰釉施釉。 | 砂粒<br>内面灰色・外面オリーブ色<br>良好 | P86　5%<br>北壁付近覆土上層 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 568 | 不明石製品 | 3.1 | 1.2 | 0.6 | --- | 2.2 | 100 | 南西コーナー付近覆土上層 | Q1　頁岩 |
| 569 | 鉄滓 | (2.8) | 2.0 | 0.8 | --- | (12.9) | 10 | 北壁付近覆土下層 | M1 |




第135図　第11号住居跡出土遺物実測図

**第44号住居跡**（第136図）

**位置**　調査区の南部，J 11d$_6$区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長軸3.46m，短軸3.38mの方形を呈している。

**主軸方向**　N－24°－E。

**壁**　壁高は47～63cmで，外傾して立ち上がっている。

**壁溝**　東コーナーの部分を除いて回っている。上幅8～20cm，深さ約4～19cm，断面形は「U」字状を呈している。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は，非常に硬く締まっている。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）検出されている。$P_1$～$P_4$は，径16～25cmの楕円形を呈し，深さ9～23cmで主柱穴と考えられる。$P_5$は，長径16cm，短径14cmの楕円形を呈し，深さ10cmで，出入口施設に伴う梯子ピットと考えられる。

**竈**　北東壁中央部付近に，長径36cm，短径25cmの楕円形を呈する竈の火床部の痕跡が検出されている。

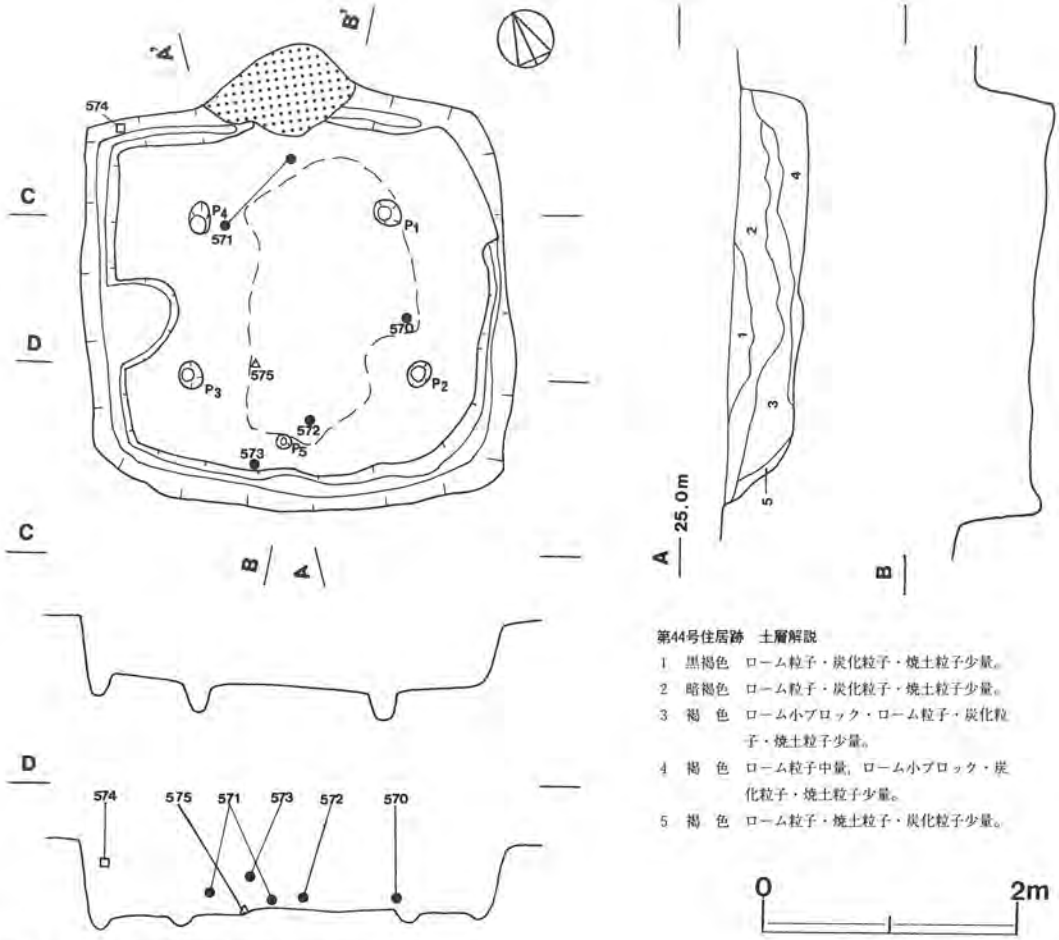
**覆土**　5層からなり，自然堆積である。

**遺物**　覆土の中層を中心に，土師器（坏1）・細片（116点），須恵器（甑2，坏1）・細片（25点）が少量出土し，石製品，鉄製品も出土している。572の土師器の坏は，南西壁際の覆土下層から正位の状態で出土している。573の須恵器の坏は，南西壁際の覆土下層から斜位の状態で出土している。575の刀子は，中央部の床面から出土している。574の紡錘車は，北コーナー付近の覆土中層から出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期の住居跡と考えられる。

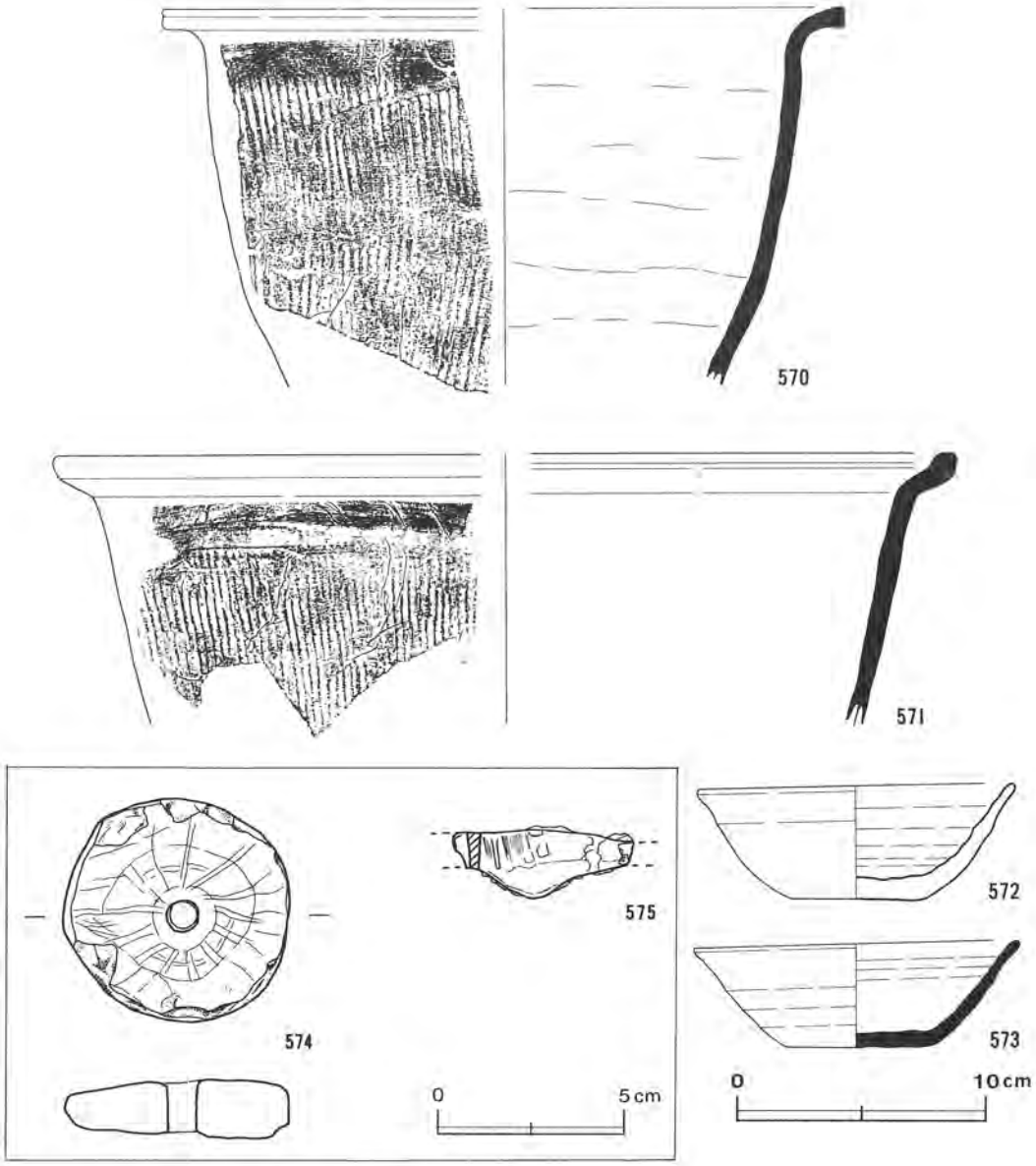
**第44号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第137図<br>570 | 甑<br>須恵器 | A〔27.6〕<br>B(15.3) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は大きく外反し，口唇部を水平につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面平行叩き，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰色<br>普通 | P 366　15%<br>中央部覆土中層 |
| 571 | 甑<br>須恵器 | A〔36.5〕<br>B(11.0) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面横ナデ。胴部外面平行叩き，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>暗灰黄色<br>普通 | P 367　10%<br>北東壁付近覆土中層 |
| 572 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 4.7<br>C 5.1 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り後，ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P 365　80%<br>南西壁際覆土下層<br>外面煤付着 |
| 573 | 坏<br>須恵器 | A 13.1<br>B 4.4<br>C 5.6 | 口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端及び底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石<br>灰黄色<br>普通 | P 368　70%<br>南西壁際覆土下層 |




第136図　第44号住居跡実測図

| 図版番号 | 器　種 | 法　量(cm) | | | 孔　径 | 重　量 | 現存率 | 出　土　地　点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 574 | 紡　錘　車 | 6.0 | 6.1 | 1.6 | 8.0 | 75.1 | 100 | 北コーナー付近覆土中層 | Q185　流紋岩 |
| 575 | 刀　　子 | (4.9) | (2.0) | (0.4) | — | (6.0) | 10 | 中央部床面 | M14 |




第137図　第44号住居跡出土遺物実測図

## 表２　住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 | | | 床面 | ピット数 | | 炉・竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長軸・径(m) | 短軸・径(m) | 壁高(cm) | | 総数 | 主柱 | | | | |
| 1 | K8a6 | N-2°-E | 方形 | 3.20 | 3.09 | 64～74 | 平坦 | 4 | 4 | 竈1 | 自然 | 土師器片134点，須恵器片19点 | |
| 2 | K8f9 | N-34°-E | 方形 | 2.53 | 2.52 | 13～35 | 平坦 | --- | --- | 竈1 | 自然 | 土師器片4点，須恵器片12点 | |
| 3 | K10c3 | N-37°-E | 長方形 | 3.86 | 3.43 | 36～44 | 平坦 | --- | --- | 竈1 | 自然 | 土師器81点，須恵器33点 | 焼失 |
| 4 | K10h2 | N-15°-E | 方形 | 3.16 | 3.14 | 33～46 | 平坦 | --- | --- | 竈1 | 自然 | 土師器片84点，須恵器片4点 | 焼失 |
| 5 | L10a3 | N-11°-E | 方形 | 2.94 | 2.76 | 8～34 | 平坦 | --- | --- | 竈1 | 自然 | 土師器片6点，須恵器片2点 | ＳＫ－12と重複 |
| 6 | L10a0 | N-17°-W | 長方形 | 5.22 | 4.58 | 20～76 | 凹凸 | 6 | 4 | 竈1 | 自然 | 土師器片671点，須恵器85点 | |
| 7 | K12e1 | N-25°-W | 長方形 | 3.75 | 3.23 | 38～66 | 平坦 | --- | --- | 竈1 | 人為 | 土師器片127点，須恵器片13点 | |
| 8 | J10g0 | [N-76°-W] | 楕円形 | [3.74] | [3.00] | 0～3 | やや凹凸 | 17 | 14 | --- | 不明 | 土師器片11点，縄文式土器片55点 | ＳＫ－19と重複 |
| 9 | J9g5 | N-2°-W | 長方形 | 4.57 | 3.65 | 43～69 | 平坦 | 3 | 1 | 竈2 | 自然 | 土師器片163点，須恵器片63点 | |
| 10 | J9c8 | N-6°-W | 長方形 | 3.78 | 2.96 | 44～50 | 平坦 | 10 | 2 | 竈1 | 自然 | 土師器片271点，須恵器片45点 | |
| 11 | J10b2 | N-16°-E | 長方形 | 4.23 | 3.62 | 56～64 | 平坦 | 6 | 4 | 竈1 | 人為 | 土師器片302点，須恵器片144点 | |
| 12 | J11g6 | N-40°-W | 長方形 | 6.52 | 5.42 | 15～30 | 平坦 | 5 | --- | 炉2 | 自然 | 土師器片368点，須恵器片5点 | |
| 13 | E11h0 | N-47°-W | 方形 | 8.83 | 8.75 | 59～72 | 平坦 | 18 | 8 | 炉1 | 人為 | 土師器片2035点，須恵器片6点 | 焼失 |
| 14 | E12f4 | N-40°-E | 長方形 | 3.81 | 3.08 | 31～36 | 凹凸 | --- | --- | 炉1 | 自然 | 土師器片909点 | |
| 15 | F11a6 | N-42°-E | 長方形 | 3.65 | 2.72 | 24～32 | やや凹凸 | 1 | --- | --- | 人為 | 土師器片96点，須恵器片6点 | |
| 16 | F11e0 | N-43°-E | 長方形 | 4.14 | 3.39 | 12～17 | 平坦 | 2 | --- | 炉1 | 自然 | 土師器片1029点，須恵器8点 | |
| 17 | F11e4 | N-46°-W | 長方形 | 3.35 | 2.25 | 11～21 | 平坦 | 1 | --- | --- | 人為 | 土師器片118点 | |
| 18 | G11a1 | N-52°-W | 方形 | 8.90 | 8.70 | 34～58 | 平坦 | 12 | 8 | 炉1 | 人為 | 土師器片1927点，須恵器片2点 | ＳＩ－19と重複　焼失 |
| 19 | G11c3 | N-53°-W | 方形 | 9.68 | 9.41 | 20～34 | 平坦 | 15 | 8 | 炉4 | 人為 | 土師器片3902点，須恵器片1点 | ＳＩ－18と重複　焼失 |
| 20 | G12a3 | N-30°-E | 方形 | 3.11 | 2.92 | 23～35 | 平坦 | 1 | --- | --- | 人為 | 土師器片488点，須恵器片8点 | ＳＫ－93と重複 |
| 21 | G11b8 | N-61°-E | 長方形 | 6.45 | 4.71 | 17～30 | 平坦 | 13 | 6 | 炉2 | 人為 | 土師器片3272点，須恵器片1点 | |
| 22 | F11e5 | N-54°-W | 長方形 | 2.92 | 2.60 | 8～10 | 平坦 | 1 | --- | --- | 不明 | 土師器片251点，須恵器片1点 | |
| 23 | G11c7 | N-56°-W | 方形 | 8.30 | 8.25 | 35～50 | 平坦 | 16 | 8 | 炉2 | 人為 | 土師器片1696点，須恵器片3点 | 焼失 |
| 24 | G12g1 | N-51°-W | 方形 | 8.43 | 8.22 | 42～60 | 平坦 | 19 | 7 | 炉2 | 人為 | 土師器片1070点，須恵器片1点 | |
| 25 | G11f5 | N-46°-W | 方形 | 6.88 | 6.64 | 55～73 | 平坦 | 8 | 4 | 炉2 | 人為 | 土師器片1097点，須恵器片1点 | 焼失 |
| 26 | G11j6 | N-13°-W | 方形 | 2.75 | 2.47 | 14～21 | 平坦 | --- | --- | --- | 自然 | 土師器片467点 | |
| 27 | G10d6 | N-56°-W | [方形] | 7.15 | 7.04 | 28～50 | 平坦 | 4 | 4 | 炉2 | 人為 | 土師器片1007点，須恵器片1点 | 焼失 |
| 28 | G10g3 | N-66°-W | 方形 | 6.31 | 6.08 | 33～68 | 平坦 | 6 | 4 | 炉1 | 人為 | 土師器片785点 | 焼失 |

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 | | | 床面 | ピット数 | | 炉・竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長軸・径(m) | 短軸・径(m) | 壁高(cm) | | 総数 | 主柱 | | | | |
| 29 | G11i2 | N-54°-W | 方形 | 10.73 | 10.40 | 21～54 | 平坦 | 15 | 8 | 炉3 | 人為 | 土師器片1649点，須恵器片3点 | 焼失 |
| 31 | H11c6 | N-56°-W | 長方形 | 5.36 | 4.30 | 29～44 | 平坦 | 1 | --- | 炉1 | 人為 | 土師器片989点 | |
| 32 | H11g6 | N-59°-W | 方形 | 10.23 | 10.18 | 18～28 | 平坦 | 13 | 8 | 炉4 | 人為 | 土師器片1090点 | SK－71・72・73と重複 |
| 33 | H11g1 | N-50°-W | 方形 | 9.10 | 9.04 | 27～46 | 平坦 | 10 | 8 | 炉3 | 人為 | 土師器片1357点，須恵器片1点 | 焼失 |
| 34 | H10c7 | N-53°-W | 方形 | 3.56 | 3.53 | 8～10 | 凹凸 | 5 | 3 | 炉2 | 人為 | 土師器片849点，須恵器片1点 | |
| 35 | H10i3 | [N-39°-W] | 方形 | (2.85) | (2.73) | 0～6 | 平坦 | 1 | --- | 炉1 | 不明 | 土師器片58点 | |
| 36 | I10d0 | N-48°-W | 方形 | 6.45 | 6.38 | 38～47 | 平坦 | 11 | 4 | 炉2 | 人為 | 土師器片877点 | 焼失 |
| 37 | I11f4 | N-54°-W | 方形 | 5.96 | 5.94 | 37～50 | 平坦 | 6 | 4 | 炉2 | 人為 | 土師器片397点，須恵器片1点 | SI－45と重複　焼失 |
| 38 | I11h1 | N-51°-W | 長方形 | 6.67 | 5.54 | 14～26 | 平坦 | 5 | 4 | 炉1 | 人為 | 土師器片1219点 | |
| 39 | I10e8 | N-32°-W | 長方形 | 3.24 | 2.93 | 4～12 | 平坦 | 2 | --- | 炉1 | 不明 | 土師器片305点 | |
| 40 | I11i4 | N-46°-W | 方形 | 5.76 | 5.58 | 54～63 | 平坦 | 7 | 4 | 炉1 | 人為 | 土師器片829点，須恵器片2点 | |
| 41 | I10g8 | [N-50°-W] | [楕円形] | [4.56] | [3.36] | --- | 平坦 | 6 | 6 | 炉1 | 不明 | 土師器片51点，縄文土器片11点 | |
| 42 | I10f7 | [N-40°-E] | [円形] | [6.72] | [6.11] | 0～4 | 平坦 | 7 | 3 | 炉1 | 不明 | 土師器片71点，縄文土器片42点 | |
| 43 | J11d0 | N-56°-W | 方形 | 8.85 | 8.34 | 23～50 | 平坦 | 8 | 6 | --- | 人為 | 土師器片332点，須恵器片2点 | |
| 44 | J11d6 | N-24°-E | 方形 | 3.46 | 3.38 | 47～63 | 平坦 | 5 | 4 | 竈1 | 自然 | 土師器片116点，須恵器片25点 | |
| 45 | I11f5 | N-85°-E | 楕円形 | 5.72 | 4.89 | 8～18 | 平坦 | 5 | 3 | --- | 自然 | 縄文土器片36点 | SI－37と重複 |
| 46 | I10c3 | [N-51°-E] | [楕円形] | [7.12] | [6.38] | --- | 平坦 | 8 | 6 | 炉1 | 不明 | 土師器片23点，縄文土器片9点 | |

## 第３節　掘立柱建物跡

当調査区からは，調査区の南部から平安時代の掘立柱建物跡が７棟検出されている。以下，検出された掘立柱建物跡の特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

**第１号掘立柱建物跡**（第138図）

**位置**　調査区の南部，Ｊ9$j_5$区を中心に確認されている。

**規模**　柱穴数は10か所（$P_1$～$P_{10}$）であり，長方形に検出されている。南北２間（約4.34ｍ），東西３間（約6.48ｍ）の東西棟の建物で，柱間寸法は，桁行1.75～2.54ｍ，梁行1.16～2.40ｍである。掘方は，$P_1$，$P_3$，$P_5$，$P_8$，$P_{10}$が径0.83～1.16ｍの円形を呈し，$P_4$，$P_7$，$P_9$が長径0.02～1.33ｍ，短径0.69～0.89ｍの楕円形を呈し，$P_2$，$P_6$は長径1.06～1.23ｍ，短径1.00～1.14ｍの不定形を呈している。深さは，69～94cmで，断面形は「Ｕ」字状を呈している。柱痕跡は，$P_1$～$P_{10}$で確認されている。

**長軸方向**　Ｎ－72°－Ｗ。

**覆土**　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む褐色土及び暗褐色土が人為的に堆積している。

**遺物**　確認面から，須恵器（坏１），縄文式土器細片（２点）が出土し，その他，流れ込みと思われる尖頭器が出土している。576の須恵器の坏は，$P_1$の南側の確認面から出土している。

**所見**　本跡は，出土遺物から平安時代の建物跡と考えられる。

**第２号掘立柱建物跡**（第139図）

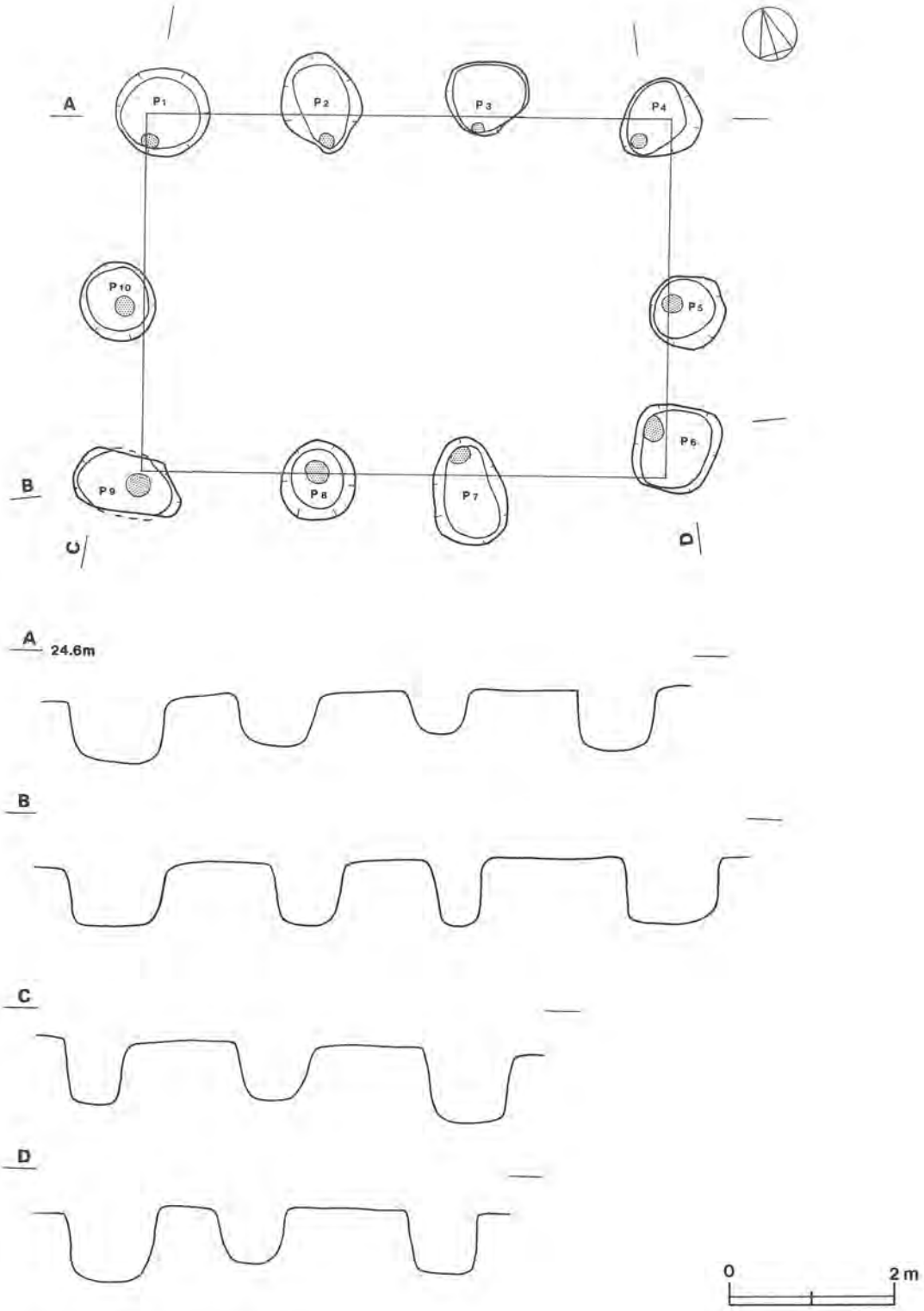
**位置**　調査区の南部，Ｋ9$a_3$区を中心に確認されている。

**規模**　柱穴数は，４か所（$P_1$～$P_4$）であり，方形に検出されている。南北１間（約3.12ｍ），東西１間（約2.72ｍ）の南北棟の建物で，柱間寸法は，桁行2.71～2.85ｍ，梁行2.62～2.68ｍである。掘方は，$P_1$～$P_3$は径1.12～1.19ｍの円形を呈し，$P_4$は長径1.42ｍ，短径1.07ｍの楕円形を呈している。深さは，77～108cmで，断面形は「Ｕ」字状を呈している。柱痕跡は確認できなかった。$P_1$～$P_4$のすべてのピットの底面から，硬く締まった部分が検出されている。

**長軸方向**　Ｎ－23°－Ｅ。

**覆土**　ロームブロック，ローム粒子混じりの褐色土，暗褐色土及び黒褐色土が人為的に堆積している。

**遺物**　確認面から，須恵器（高台付坏１），縄文式土器細片（２点）が出土している。577の須恵器の高台付坏は，中央部の確認面から出土している。




第138図　第１号掘立柱建物跡実測図

**所見**　本跡は，出土遺物から平安時代の建物跡と考えられる。

**第３号掘立柱建物跡**（第140図）

**位置**　調査区の南部，K10i6区を中心に確認されている。

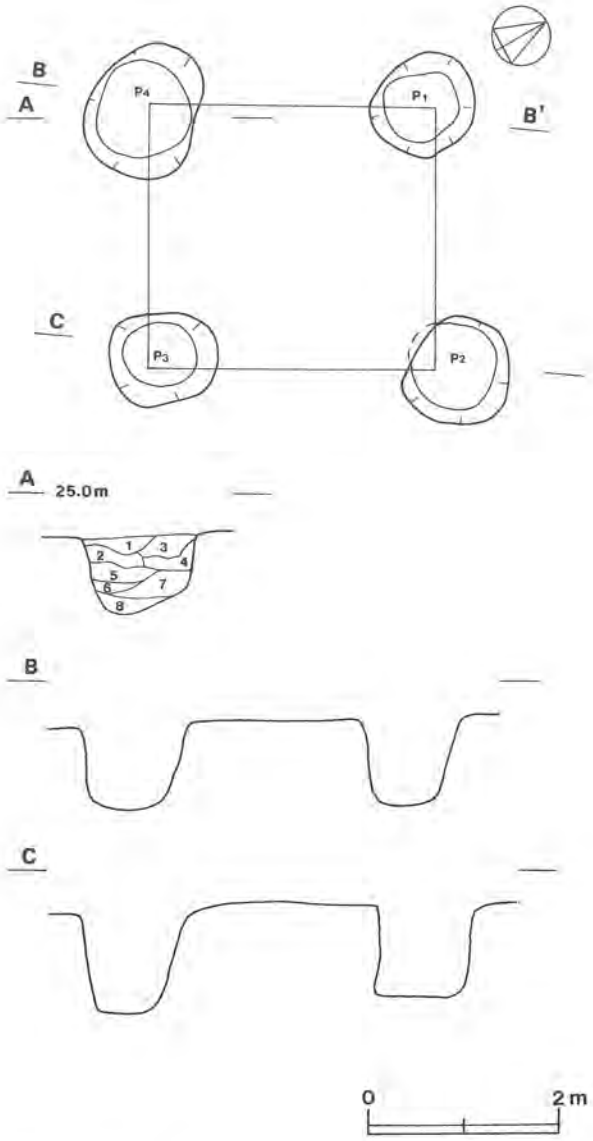
**規模**　柱穴数は，10か所（$P_1$～$P_{10}$）であり，長方形に検出されている。南北３間（約6.83ｍ），東西２間（約4.57ｍ）の南北棟の建物で，柱間寸法は，桁行1.85～2.85ｍ，梁行1.82～2.45ｍである。掘方は，$P_1$，$P_{10}$が径0.65～0.86ｍの円形を呈し，$P_2$，$P_3$，$P_5$，$P_6$，$P_8$，$P_9$が長径0.79～1.07ｍ，短径0.63～0.93ｍの楕円形を呈し，$P_4$，$P_7$が長径0.79～0.88ｍ，短径0.60～0.69ｍの不定形を呈している。深さは，35～102cmで，断面形は「U」字状や逆台形状を呈している。柱痕跡は確認できなかった。

**長軸方向**　N－6°－E。

**覆土**　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む褐色土及び暗褐色土が人為的に堆積している。

**遺物**　確認面から，土師器の細片（２点）が出土している。

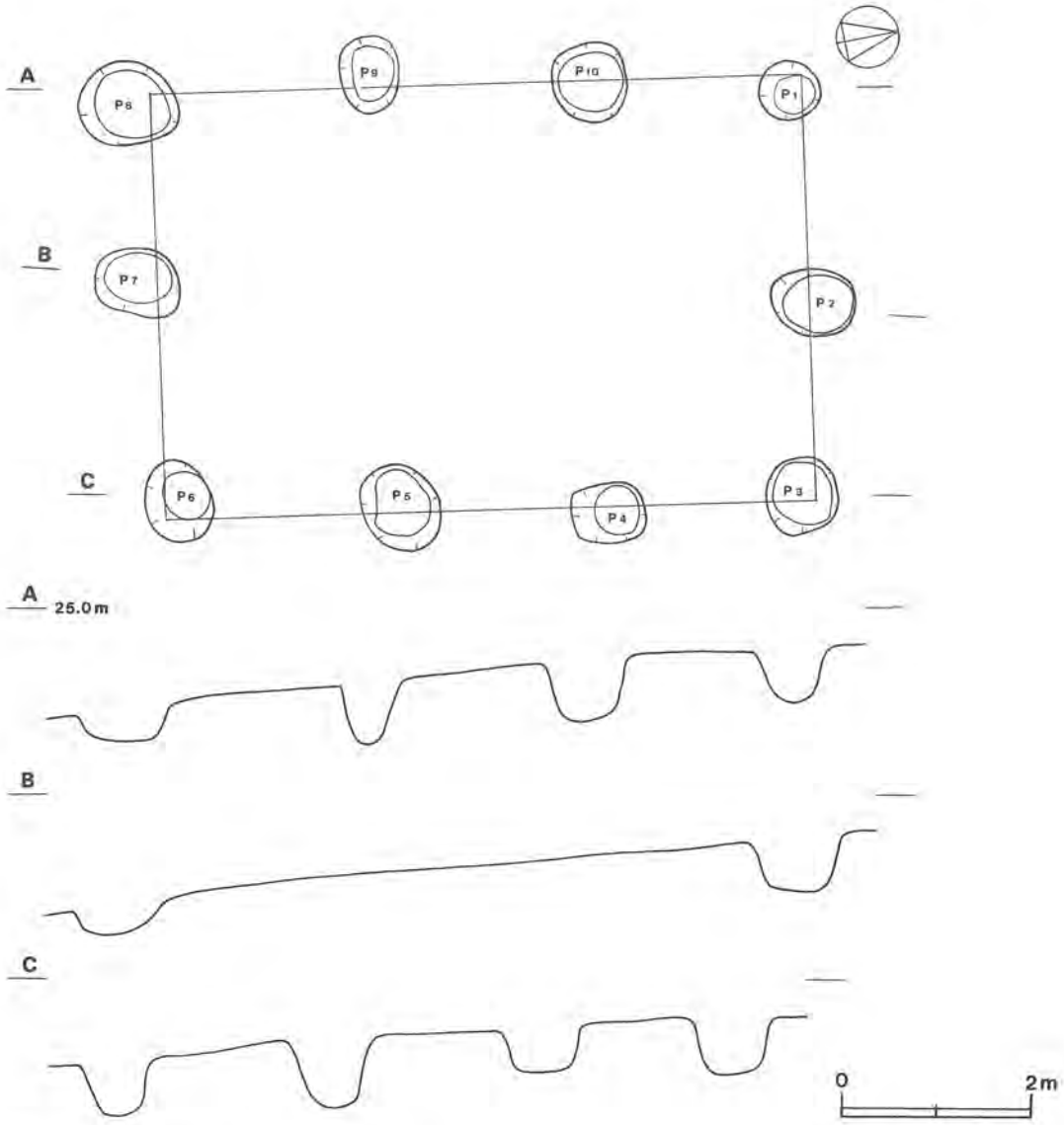
**所見**　本跡は，遺構の配置から平安時代の建物跡と考えられる。




第２号掘立柱建物跡　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　粘土多量，粘土小ブロック少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
7　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量。
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量。

第139図　第２号掘立柱建物跡実測図




第140図　第３号掘立柱建物跡実測図

**第４号掘立柱建物跡**（第141図）

**位置**　調査区の南部，K 10d$_0$区を中心に確認されている。

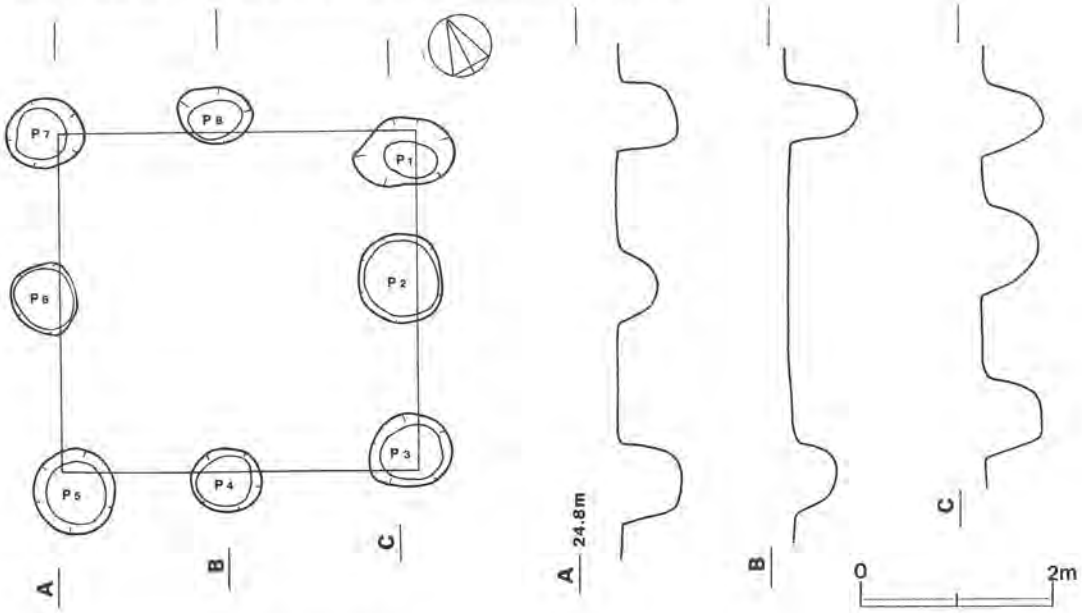
**規模**　柱穴数は，８か所（$P_1$～$P_8$）であり，方形に検出されている。南北２間（約3.62ｍ），東西２間（約3.74ｍ）の東西棟の建物で，柱間寸法は，桁行1.16～2.06ｍ，梁行1.78～2.11ｍである。掘方は，$P_1$，$P_2$，$P_6$，$P_8$が長径0.78～1.06ｍ，短径0.61～0.86ｍの楕円形を呈し，$P_3$～$P_5$，$P_7$が径0.72～0.92ｍの円形を呈している。深さは，54～65cmで，断面形は「U」字状を呈している。柱痕跡は確認できなかった。

長軸方向　N－66°－W。

覆土　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む暗褐色土及び黒褐色土が人為的に堆積している。

遺物　確認面から，須恵器の細片（１点），縄文式土器の細片（14点）が出土している。

所見　本跡は，出土遺物から平安時代の建物跡と考えられる。




第141図　第４号掘立柱建物跡実測図

第５号掘立柱建物跡（第142図）

位置　調査区の南部，Ｊ10i₁区を中心に確認されている。

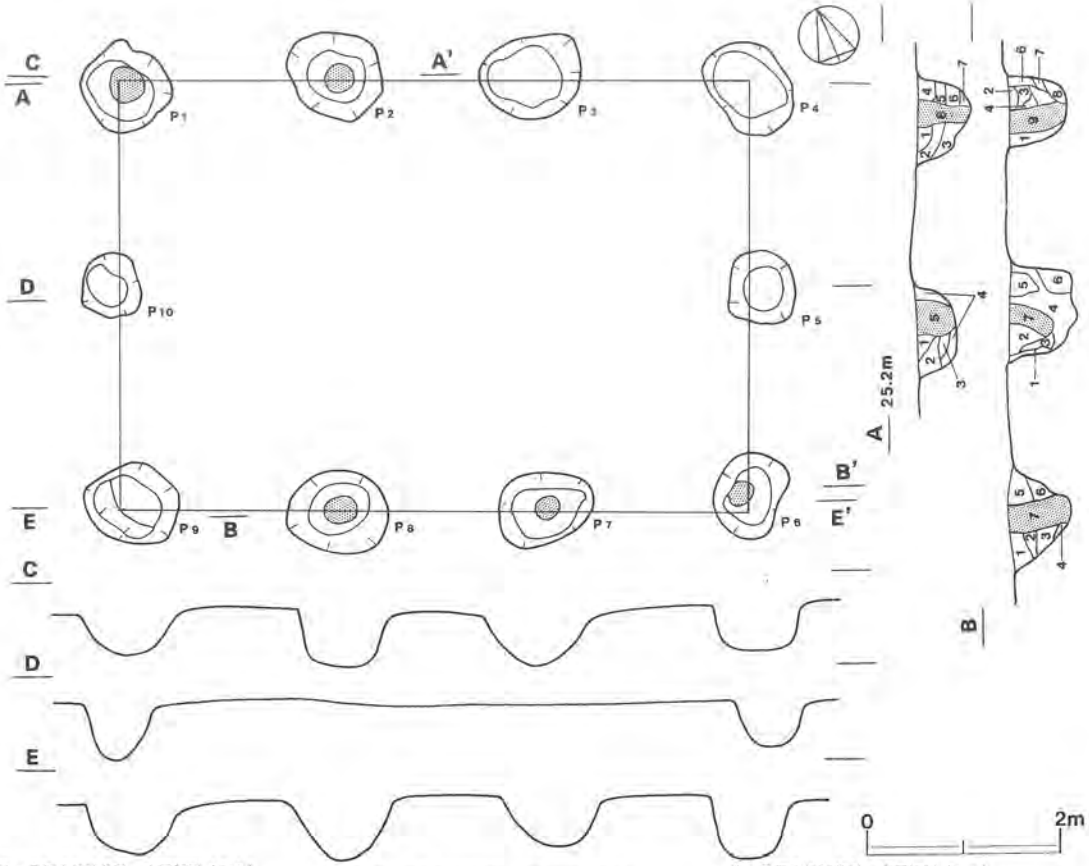
規模　柱穴数は，10か所（$P_1$～$P_{10}$）であり，長方形に検出されている。南北２間（約4.55ｍ），東西３間（約6.69ｍ）の東西棟の建物で，柱間寸法は，桁行1.98～2.38ｍ，梁行2.02～2.49ｍである。掘方は，$P_1$が長径1.02ｍ，短径0.90ｍの不定形を呈し，$P_2$～$P_{10}$が長径0.71～1.12ｍ，短径0.63～0.91ｍの楕円形を呈している。深さは，39～70cmで，断面形は「Ｕ」字状を呈している。柱痕跡は，$P_1$，$P_2$，$P_6$～$P_8$で確認されている。

長軸方向　N－71°－W。

覆土　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む褐色土及び暗褐色土が人為的に堆積している。

遺物　確認面から，土師器（甕１）・細片（１点），縄文式土器の細片（１点）が出土している。$P_8$の覆土から，578の土師器の甕が出土している。

所見　本跡は，遺構配置から平安時代の建物跡と考えられる。




第５号掘立柱建物跡　土層解説（Ｐ１）

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第５号掘立柱建物跡　土層解説（Ｐ２）

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
8　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第５号掘立柱建物跡　土層解説（Ｐ６）

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
9　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第５号掘立柱建物跡　土層解説（Ｐ７）

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
7　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第５号掘立柱建物跡　土層解説（Ｐ８）

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第142図　第５号掘立柱建物跡実測図

第６号掘立柱建物跡（第143図）

**位置**　調査区の南部，K11f₁区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の北部には，第２号土坑が構築されている。

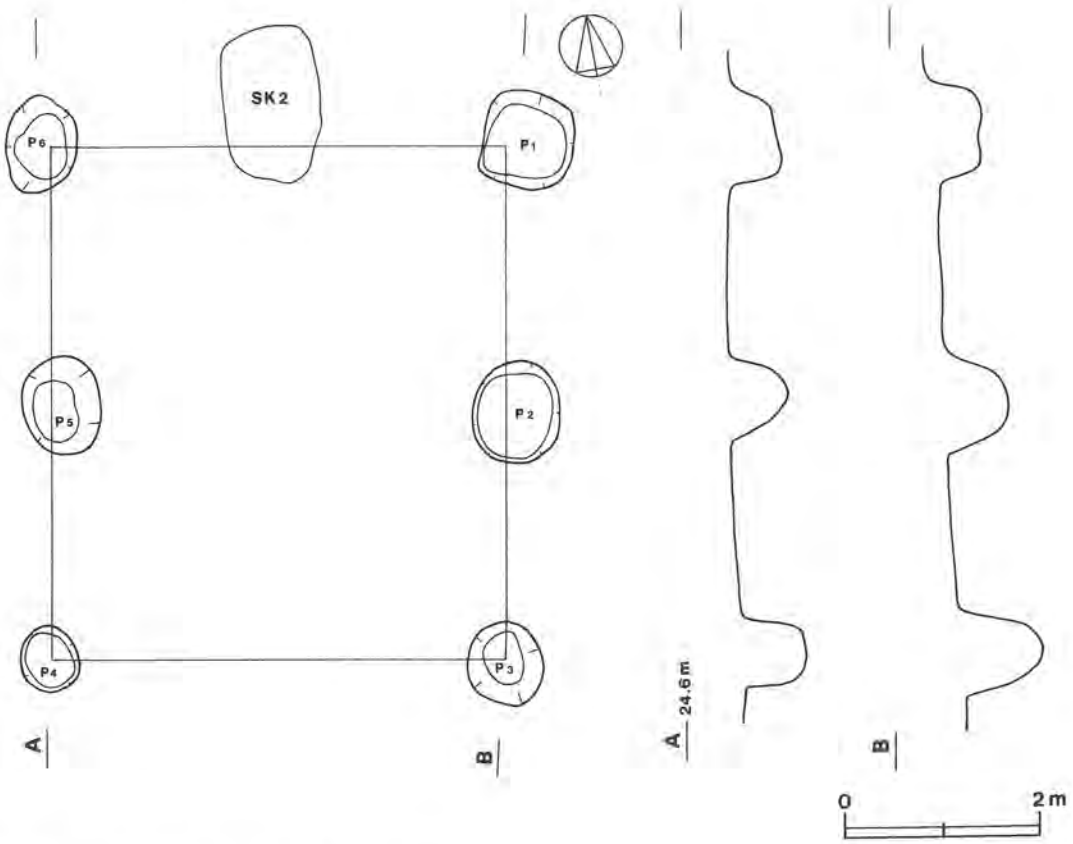
**規模**　柱穴数は，６か所（$P_1$～$P_6$）であり，長方形に検出されている。南北１間（約4.98ｍ），東西２間（約5.66ｍ）の東西棟の建物で，柱間寸法は，桁行2.66～2.84ｍ，梁行4.84～5.10ｍである。掘方は，$P_1$が長径1.12ｍ，短径1.10ｍの不定形を呈し，$P_2$，$P_4$～$P_6$が長径0.69～1.05ｍ，短径0.61～0.89ｍの楕円形を呈し，$P_3$が径0.90ｍの円形を呈している。深さは，43～71cmで，断面形は「U」字状を呈している。柱痕跡は確認できなかった。

**長軸方向**　N－16°－E。

**覆土**　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む褐色土及び暗褐色土が人為的に堆積している。

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡は，遺構配置から平安時代の建物跡と考えられる。




第143図　第６号掘立柱建物跡実測図

第７号掘立柱建物跡（第144図）

**位置**　調査区の南部，Ｊ10i₄区を中心に確認されている。

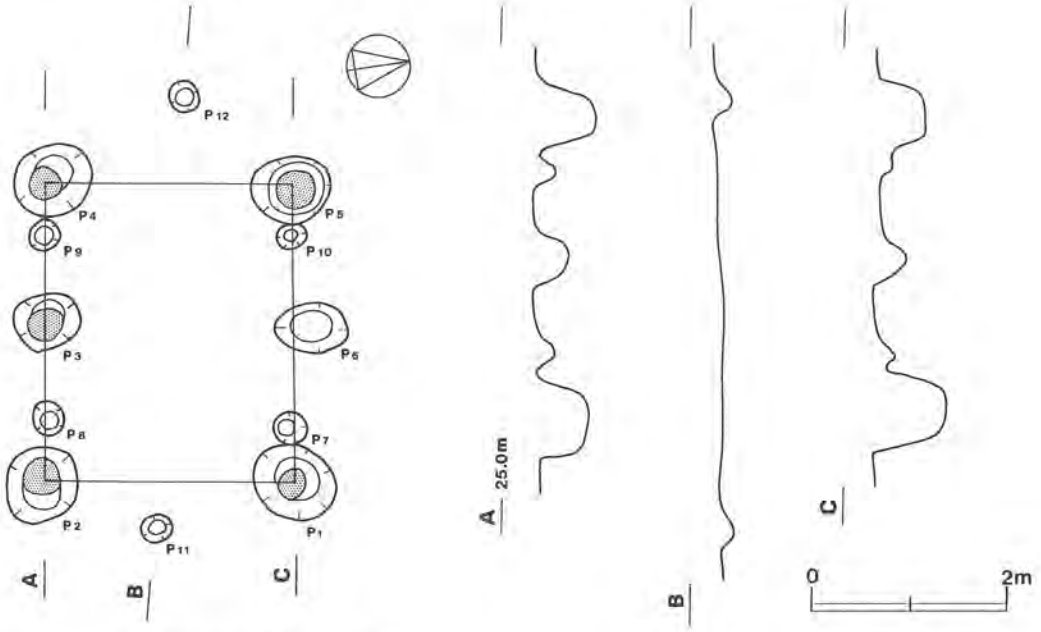
**規模**　柱穴数は，12か所（$P_1$～$P_{12}$）であり，長方形に検出されている。南北１間（約2.70ｍ），東西２間（約3.11ｍ）の東西棟の建物で，柱間寸法は，桁行1.75～1.96ｍ，梁行2.70～2.74ｍである。掘方は，$P_1$～$P_6$が長径0.69～0.98ｍ，短径0.57～0.80ｍの楕円形を呈している。深さは，29～72㎝で，断面形は「Ｕ」字状，逆台形状を呈している。柱痕跡は，$P_1$～$P_5$に確認されている。$P_7$～$P_{10}$は，それぞれ$P_1$～$P_4$の支柱穴と思われる。$P_{11}$，$P_{12}$の性格は不明である。

**長軸方向**　Ｎ－85°－Ｗ。

**覆土**　焼土粒子，炭化粒子，ロームブロックを少量含む褐色土及び明褐色土が人為的に堆積している。

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡は，遺構の配置から平安時代の建物跡と考えられる。




第144図　第７号掘立柱建物跡実測図

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表

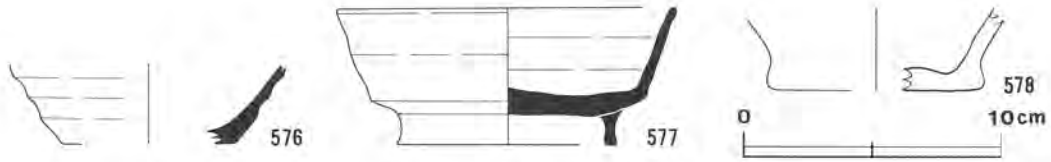
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第145図<br>576 | 坏<br>須恵器 | B( 3.2)<br>C[ 6.8] | 体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部外面横ナデ。体部内面肌荒れ。 | 砂粒・長石・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P369　　5％<br><br>$P_1$南側の確認面 |

第２号掘立柱建物跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第145図<br>577 | 高台付坏<br>須 恵 器 | A 13.4<br>B 5.5<br>C 8.6<br>D 1.5 | 口縁部の一部欠損。平底で，僅かに「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。 | 砂粒・長石<br>灰色<br>普通 | P370　90%<br><br>中央部確認面<br>口縁部煤付着 |

第５号掘立柱建物跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第145図<br>578 | 甕<br>土 師 器 | B( 3.3)<br>C〔 7.8〕 | 底部から胴部にかけての破片。平底で突出する。胴部は外傾して立ち上がる。 | 胴部外面ナデ，内面肌荒れ。底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒<br>褐灰色<br>普通 | P371　5%<br><br>P8の覆土 |




第145図　第１・２・５号掘立柱建物跡出土遺物実測図

## 第４節　土坑

当調査区のほぼ全域から土坑が85基検出されている。ここでは，陥し穴と考えられる土坑２基について記述することとし，残る83基の土坑については，一覧表に記載した。なお，土坑番号は調査当初に付した番号である。

### 第80号土坑（第146図）

**位置**　調査区の南部，Ｊ12a₂区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径3.26ｍ，短径2.06ｍの楕円形を呈し，深さ152cmである。

**長径方向**　Ｎ－16°－Ｗ。

**壁面**　外傾して立ち上がり，中位で段をなしている。

**底面**　長楕円形を呈し，皿状である。

**覆土**　自然堆積。

**遺物**　覆土の上層から，土師器の細片（２点），須恵器の細片（１点）が出土している。

**所見**　本跡は，遺構の形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。

第93号土坑（第146図）

**位置**　調査区の北部，G12a3区を中心に確認されている。

**重複関係**　本跡の南東部は，第20号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

**規模と平面形**　長径3.20m，短径1.41mの長楕円形を呈し，深さ219cmである。

**長径方向**　N－42°－E。

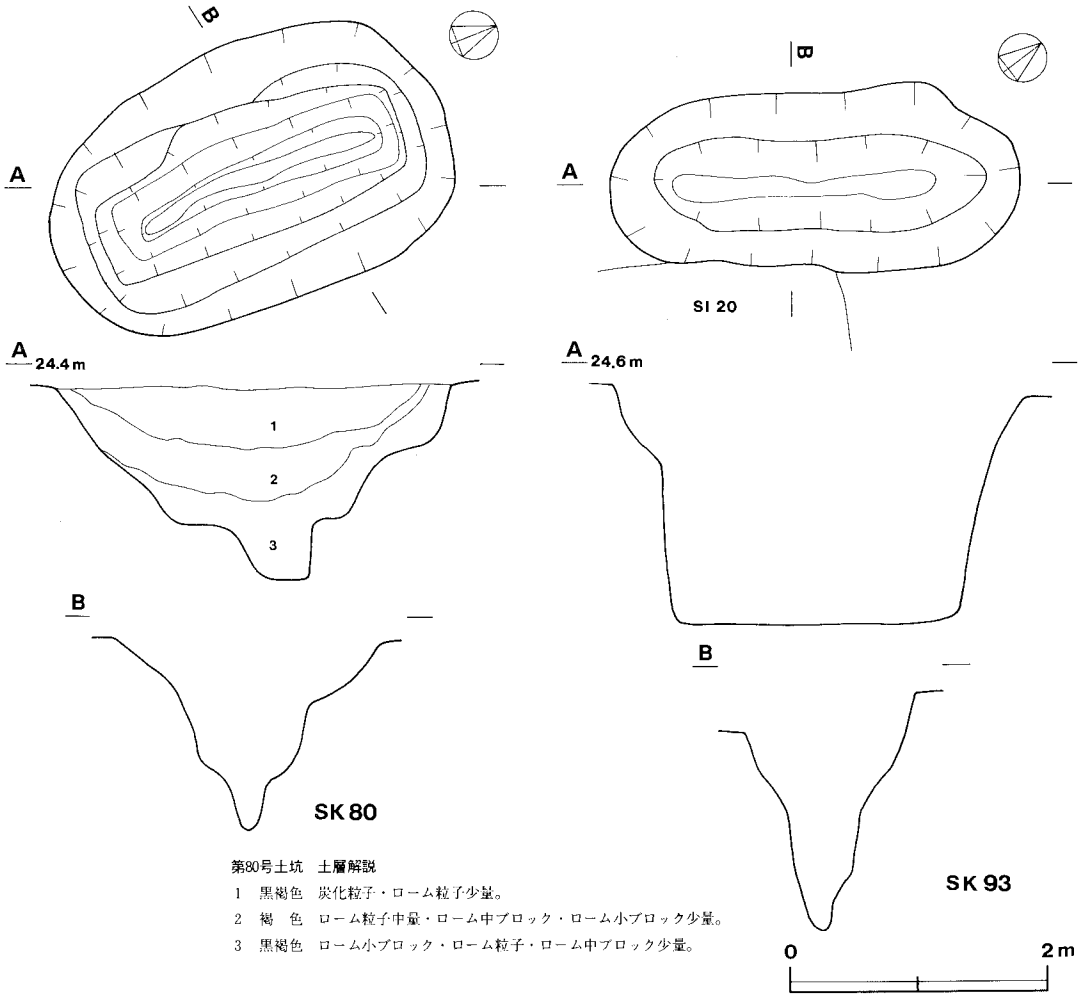
**壁面**　外傾して立ち上がり，中位で段をなしている。

**底面**　長楕円形を呈し，皿状である。

**覆土**　1層は自然堆積，2層はロームの大・小ブロックが多く含まれており人為堆積と思われる。

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡は，重複関係から第20号住居跡より新しい時期に構築されている。遺構の形態及び重複関係から古墳時代中期以降に構築されたものと考えられる。



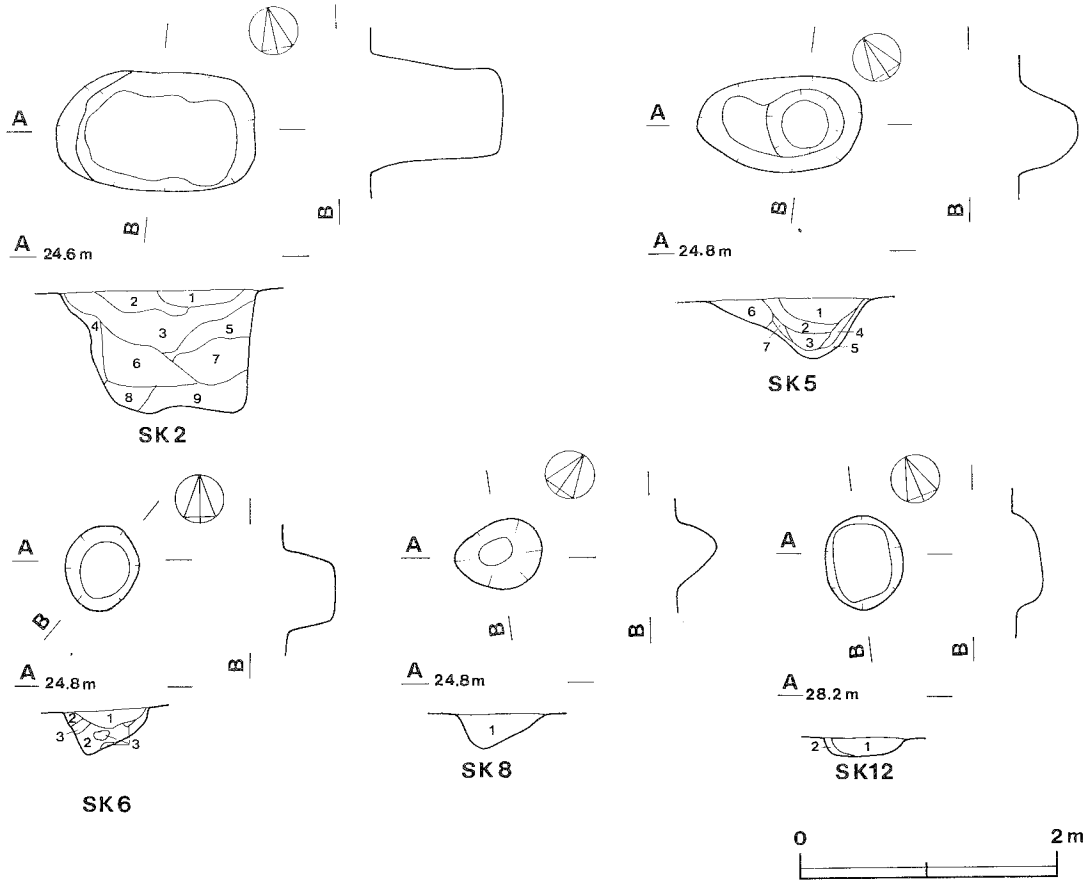

第80号土坑　土層解説

1　黒褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。

2　褐　色　ローム粒子中量・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。

3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・ローム中ブロック少量。

第146図　土坑実測図(1)




第2号土坑　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
6　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
9　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。

第5号土坑　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
7　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第6号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。

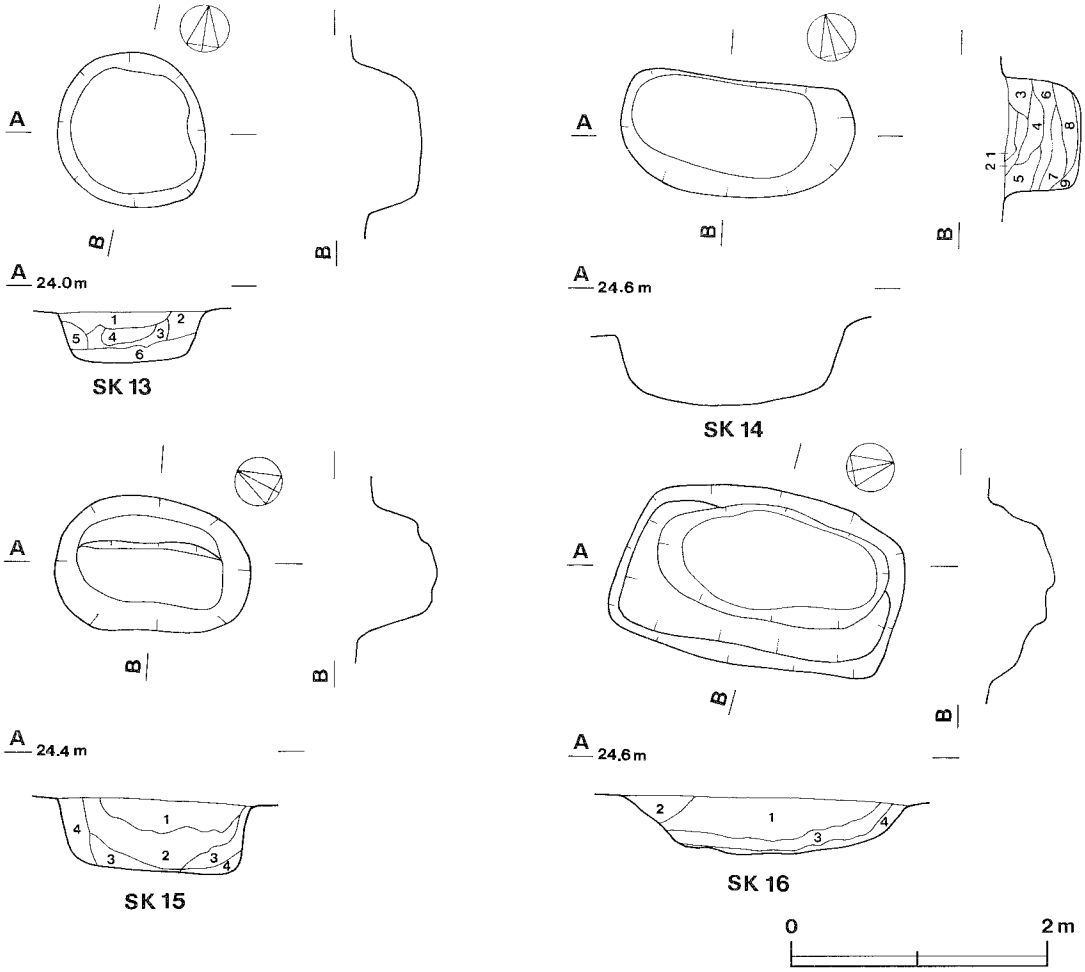
第8号土坑　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第12号土坑　土層解説

1　褐　色　粘土多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　黄褐色　粘土多量，焼土粒子・炭化粒子少量。

第147図　土坑実測図(2)




第13号土坑　土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム
　　ブロック・ローム粒子少量。
2　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・
　　炭化粒子・ロームブロック少
　　量。
3　褐　　色　炭化物多量，焼土粒子・ロー
　　ムブロック・ローム粒子少量。
4　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒
　　子多量，焼土粒子・炭化粒子
　　多量。
5　褐　　色　ロームブロック多量，ローム
　　粒子少量。
6　褐　　色　ローム大ブロック・ローム中
　　ブロック多量，炭化物少量。

第14号土坑　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子
　　・炭化粒子少量。
2　黒　褐　色　炭化物多量，ローム小ブロ
　　ック少量。
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ロー
　　ム粒子少量。
4　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土
　　・砂少量。
5　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ロー
　　ム粒子・粘土・砂少量。
6　暗　褐　色　ローム粒子多量。
7　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物・ローム
　　小ブロック少量。
8　黒　　色　炭化物中量。
9　にぶい褐色　ローム粒子・粘土多量。

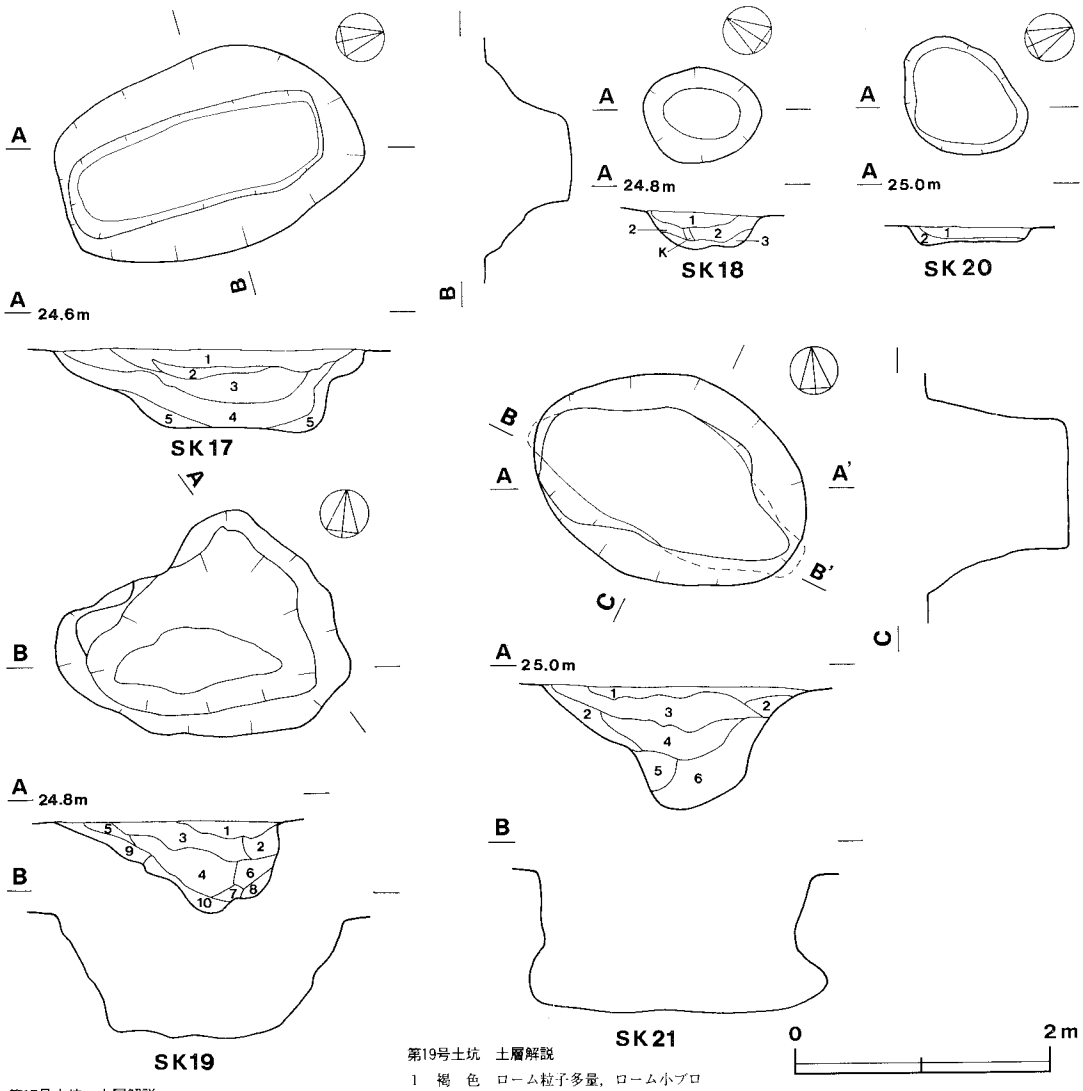
第15号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量。
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブ
　　ロック・黒色粒子少量。
3　暗　褐　色　ローム中ブロック中量。
4　暗　褐　色　ローム中ブロック中量。

第16号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒
　　子少量。
2　褐　　色　ローム粒子少量。
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブ
　　ロック・ローム小ブロック少
　　量。
4　褐　　色　ローム小ブロック少量。

第148図　土坑実測図(3)




第17号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　黒 褐 色　ローム小ブロック少量。
3　暗 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
5　褐　　色　黒色粒子少量。

第18号土坑　土層解説

1　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子少量。

第19号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子多量，黒色粒子・ロームブロック少量。
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量。
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
6　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量。
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量。
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。
10　褐　色　ローム粒子多量。

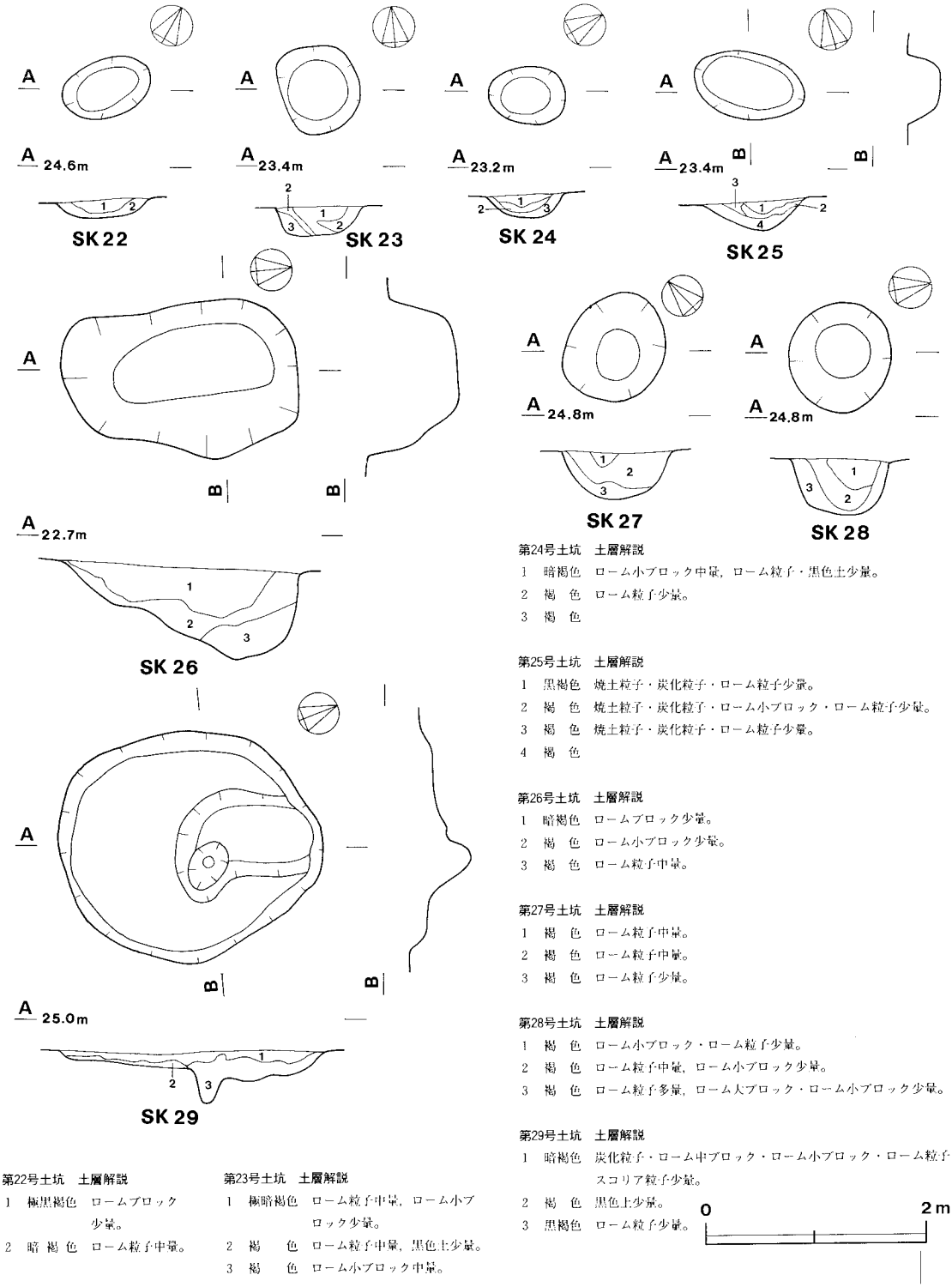
第20号土坑　土層解説

1　暗褐色　黒色土ブロック少量。
2　褐　色

第21号土坑　土層解説

1　黒 褐 色　炭化粒子・ローム小ブロック少量。
2　暗 褐 色　ローム粒子少量。
3　極暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　黒　　色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
5　暗 褐 色　ローム小ブロック少量。
6　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第149図　土坑実測図(4)




第24号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・黒色土少量。
2　褐　色　ローム粒子少量。
3　褐　色

第25号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　色

第26号土坑　土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量。
2　褐　色　ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子中量。

第27号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量。
2　褐　色　ローム粒子中量。
3　褐　色　ローム粒子少量。

第28号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。

第29号土坑　土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・スコリア粒子少量。
2　褐　色　黒色土少量。
3　黒褐色　ローム粒子少量。

0　2m

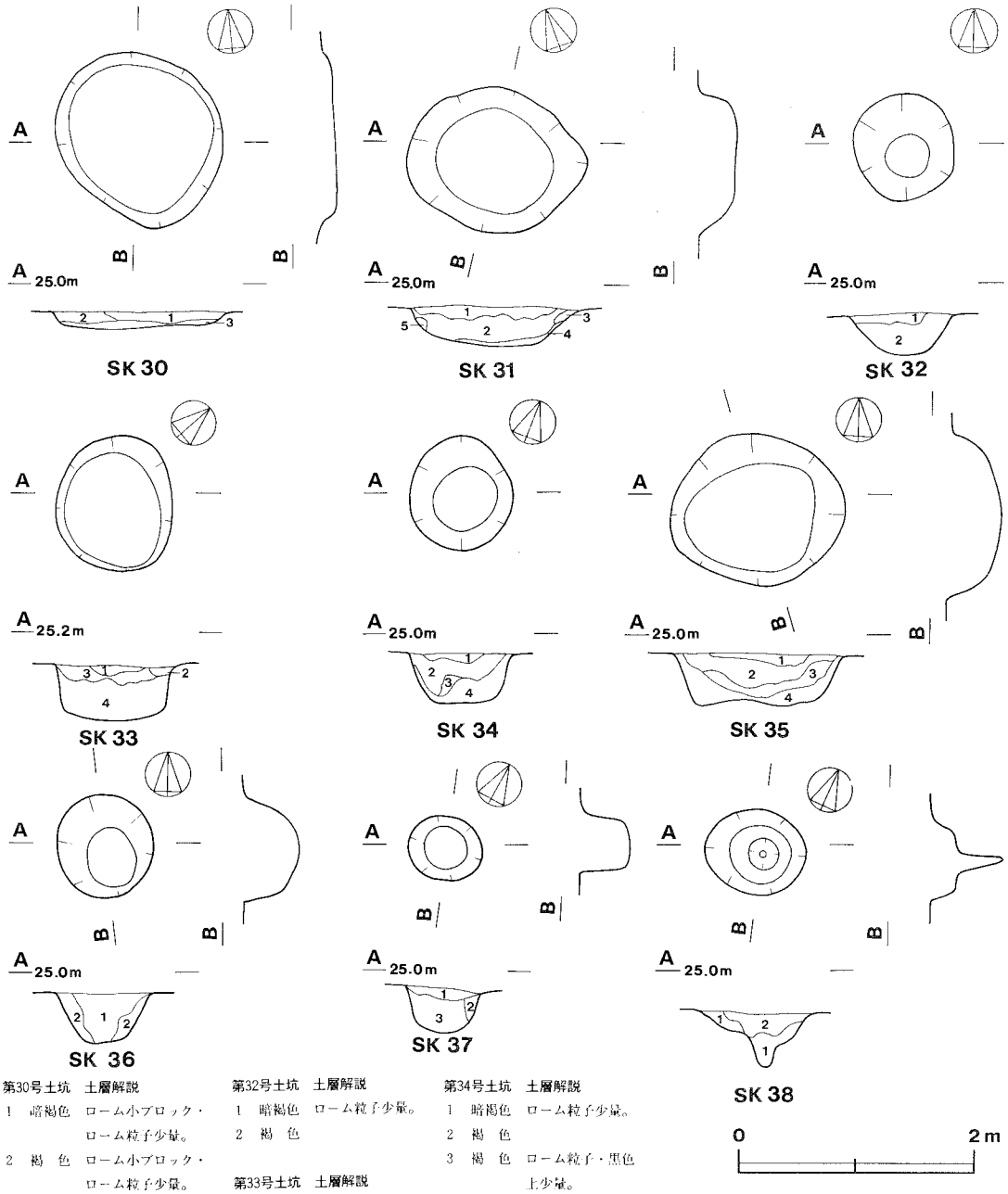
第22号土坑　土層解説

1　極黒褐色　ロームブロック少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量。

第23号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，黒色土少量。
3　褐　色　ローム小ブロック中量。

第150図　土坑実測図(5)




第30号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子中量。

第31号土坑　土層解説
1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子多量。
4　黄褐色　ローム粒子多量。
5　黄褐色

第32号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量。
2　褐　色

第33号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量。
2　褐　色　黒色土少量。
3　黒褐色　ローム粒子少量。
4　黄褐色

第36号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量。
2　黄褐色　黒色粒子少量。

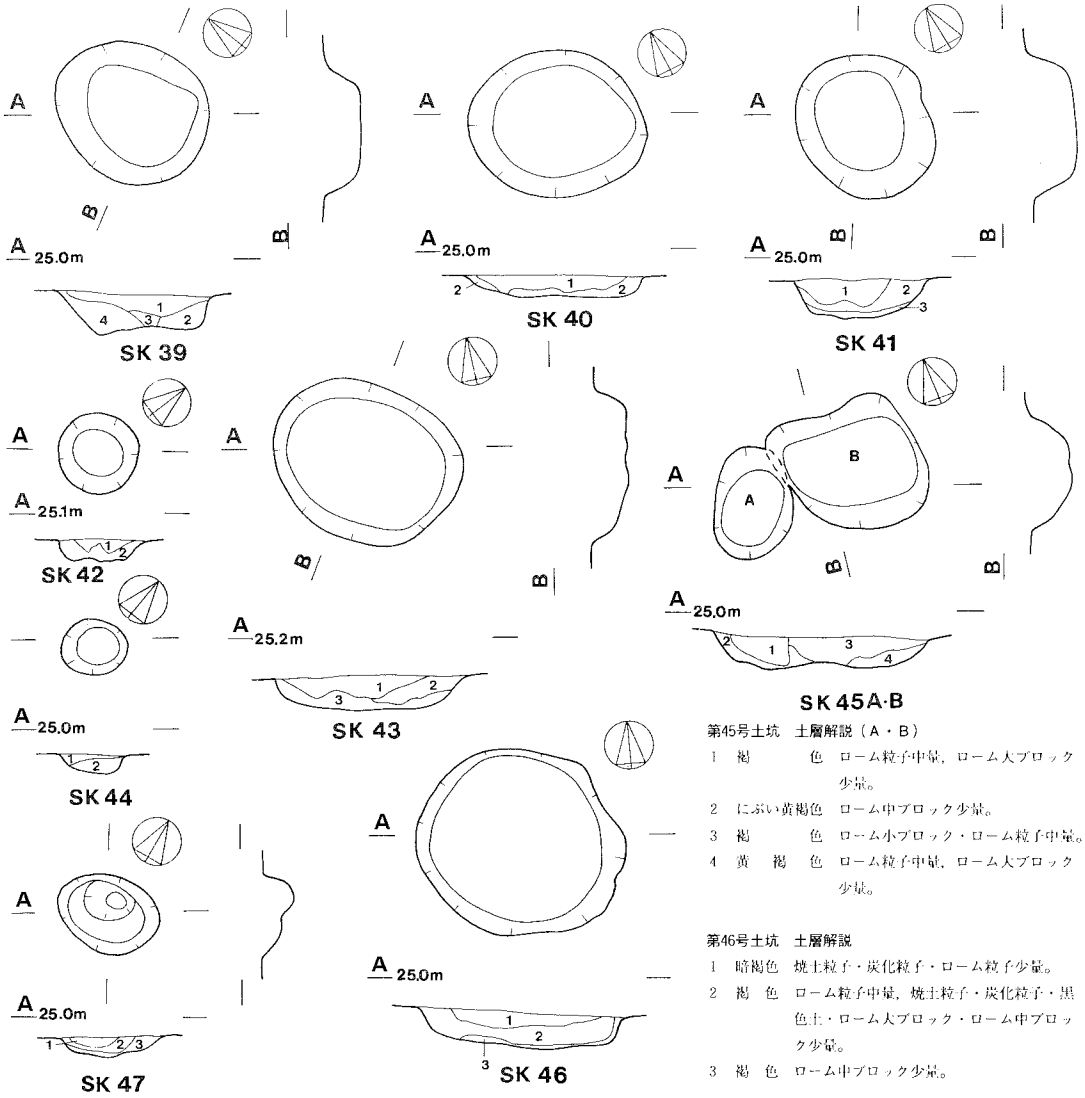
第34号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量。
2　褐　色
3　褐　色　ローム粒子・黒色土少量。
4　褐　色

第35号土坑　土層解説
1　暗褐色　炭化粒子少量。
2　褐　色　黒色粒子少量。
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色

第37号土坑　土層解説
1　褐　色
2　暗褐色
3　褐　色

第38号土坑　土層解説
1　褐　色
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。

第151図　土坑実測図(6)




第39号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子少量。
4　褐　色

第40号土坑　土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　　色

第41号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第42号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。

第43号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量。
2　褐　色　ローム粒子中量。
3　褐　色　黒色土少量。

第44号土坑　土層解説

1　暗　褐　色
2　にぶい黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。

第45号土坑　土層解説（A・B）

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量。
2　にぶい黄褐色　ローム中ブロック少量。
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量。
4　黄　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量。

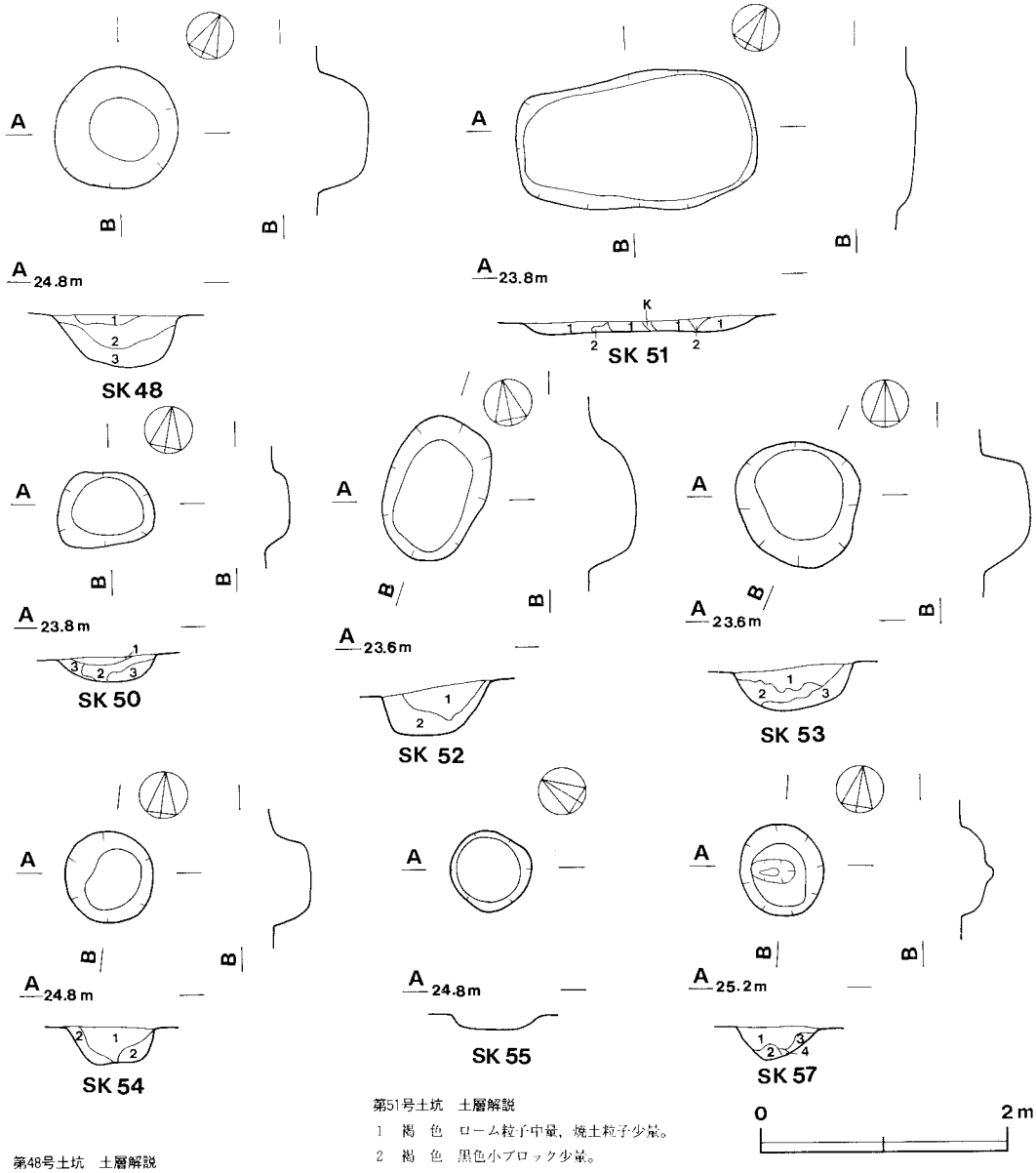
第46号土坑　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・黒色土・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量。
3　褐　色　ローム中ブロック少量。

第47号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。
3　褐　色　黒色土少量。

第152図　土坑実測図(7)




第48号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量。

第50号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
3　褐　色　黒色粒子少量。

第51号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量。
2　褐　色　黒色小ブロック少量。

第52号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。
2　褐　色　炭化物少量。

第53号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量。
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。
3　褐　色　黒色小ブロック少量。

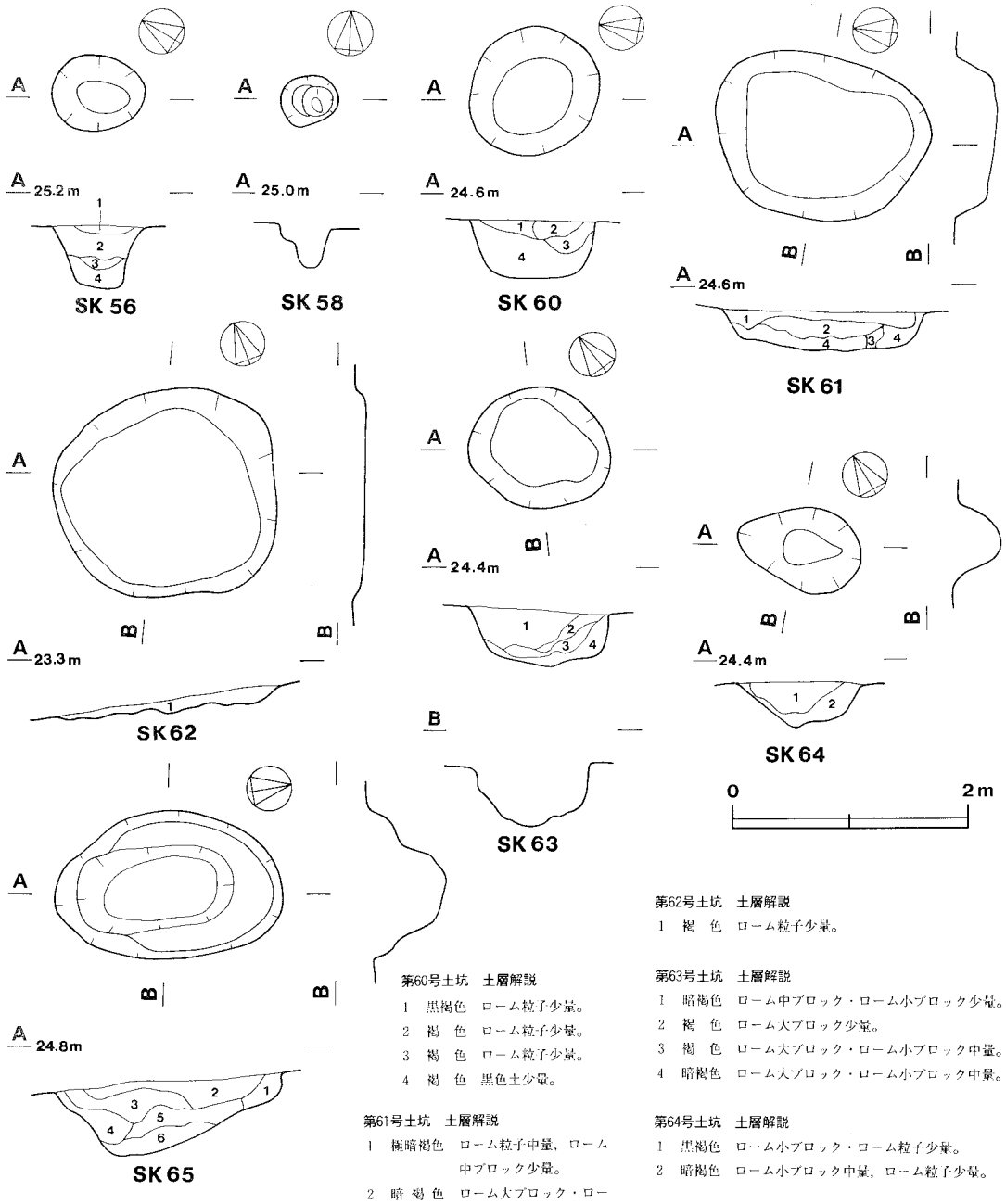
第54号土坑　土層解説

1　黒　色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。

第57号土坑　土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム小ブロック少量。
3　褐　色　ローム小ブロック少量。
4　黄　褐　色　ローム大ブロック少量。

第153図　土坑実測図(8)




第56号土坑　土層解説

1　灰黄褐色　ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
4　褐　色　ローム小ブロック中量。

第60号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム粒子少量。
4　褐　色　黒色土少量。

第61号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量。
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色ブロック少量。
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量。

第62号土坑　土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量。

第63号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
2　褐　色　ローム大ブロック少量。
3　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック中量。
4　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック中量。

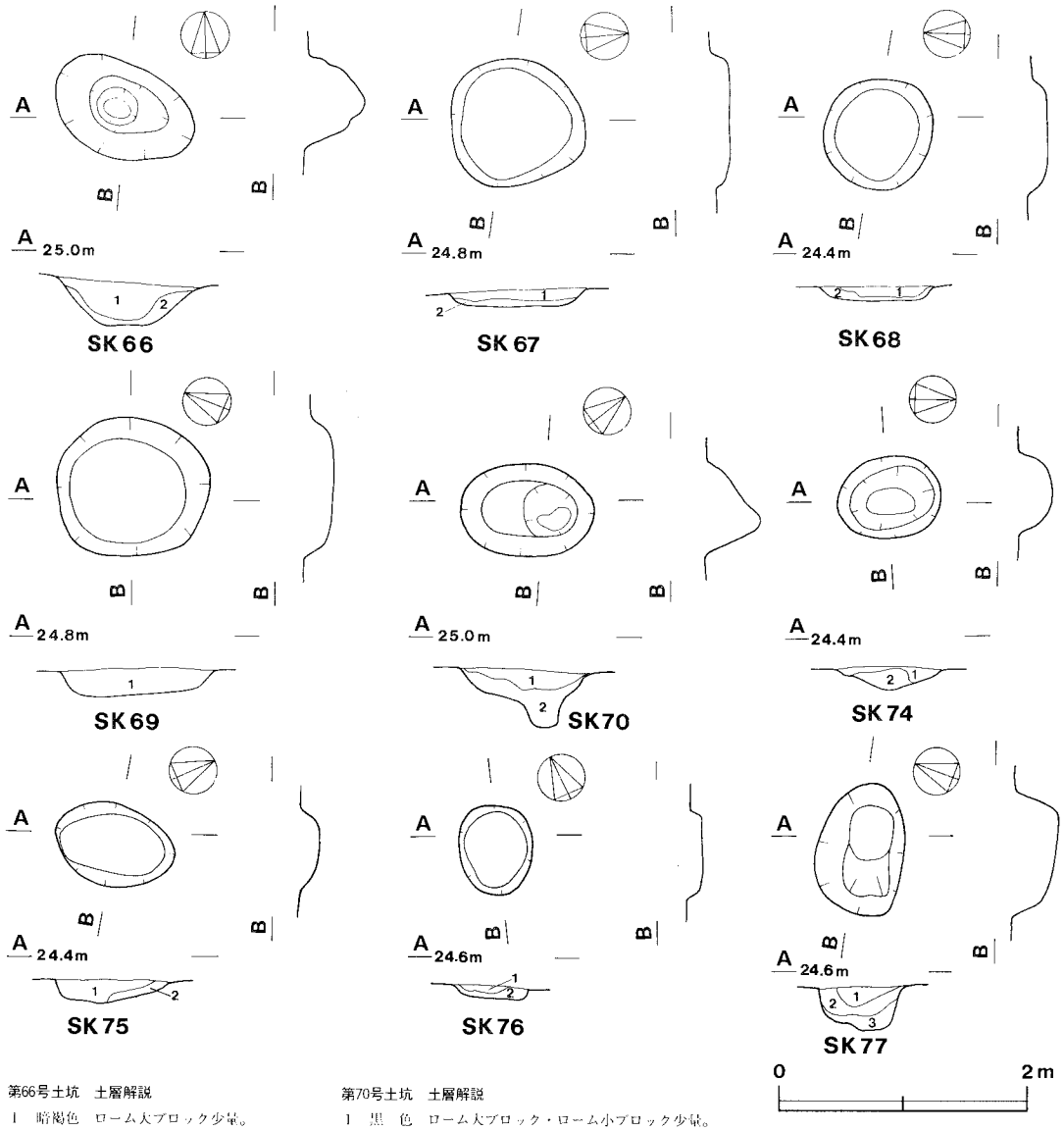
第64号土坑　土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量。

第65号土坑　土層解説

1　褐　色
2　暗褐色　ローム小ブロック少量。
3　暗褐色　ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム小ブロック少量。
5　褐　色　ローム小ブロック少量。
6　黄褐色　ローム大ブロック中量。

第154図　土坑実測図(9)




第66号土坑　土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック少量。
2　褐　色

第67号土坑　土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，黒色粒子少量。
2　褐　色　ローム粒子少量。

第68号土坑　土層解説
1　褐　色
2　暗褐色

第69号土坑　土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量。

第70号土坑　土層解説
1　黒　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック少量。
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量。

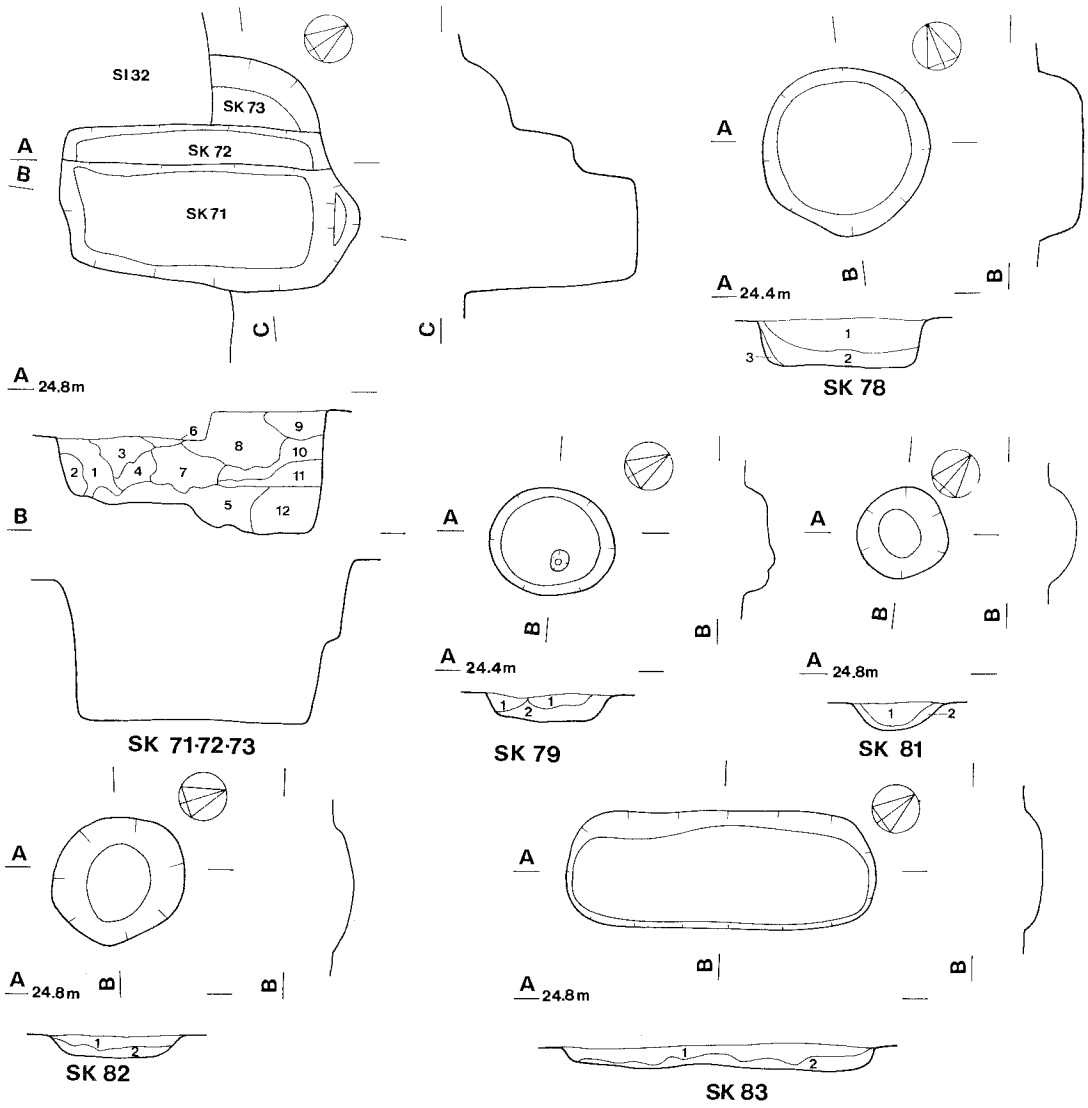
第74号土坑　土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第75号土坑　土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第76号土坑　土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第77号土坑　土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第155図　土坑実測図(10)




第72号土坑　土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量。
2　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量。
3　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　暗　褐　色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
5　黄　褐　色　ローム大ブロック・黒色粒子少量。
6　褐　　色　ローム粒子少量。
7　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量。
8　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
9　褐　　色　ローム粒子少量。
10　にぶい黄褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
11　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・黒色粒子少量。
12　褐　色　ハードローム粒子多量。量。

第78号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第79号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第81号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

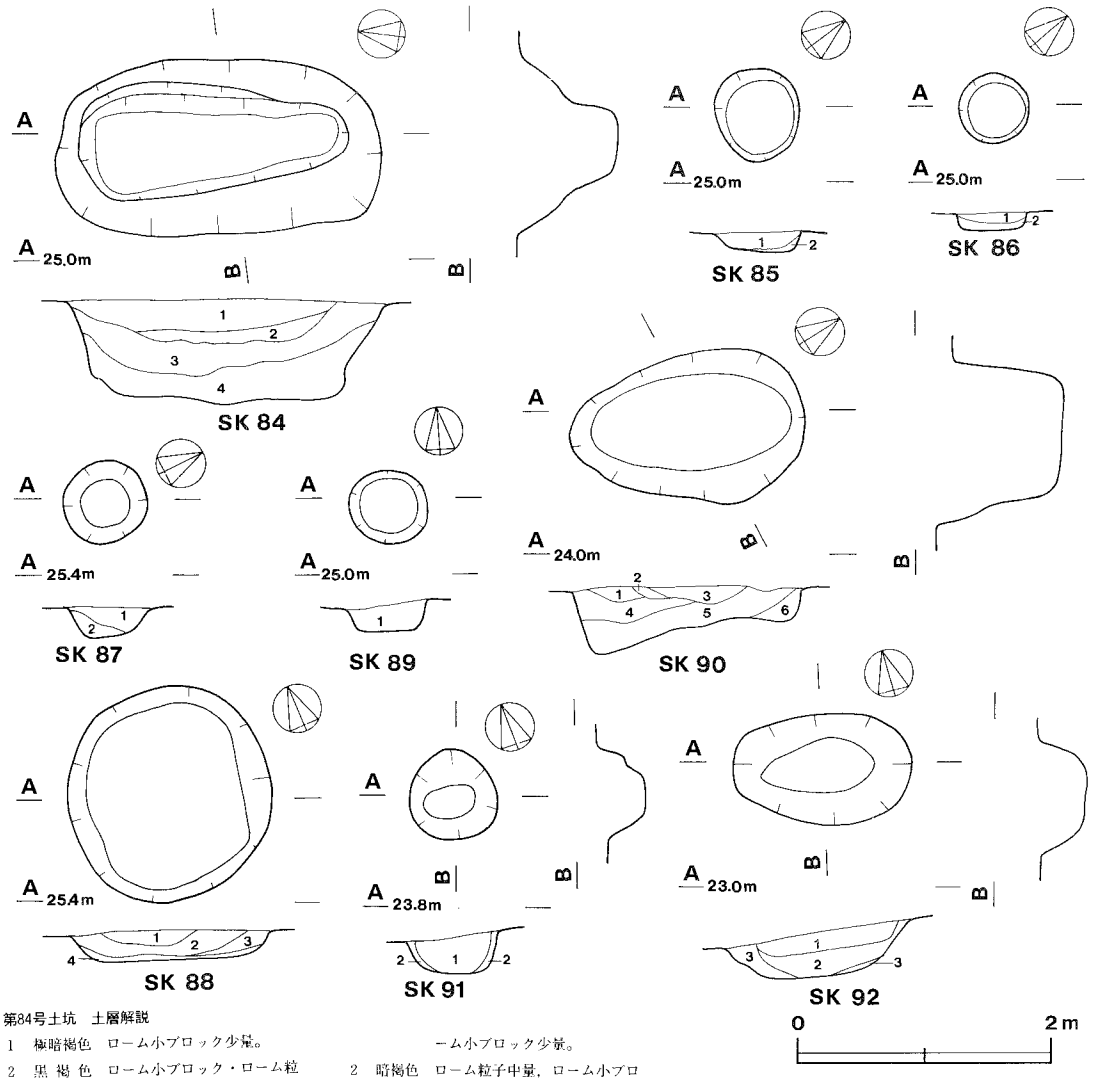
第82号土坑　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第83号土坑　土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子中量。
2　褐　色　炭化粒子少量。

第156図　土坑実測図(11)




第84号土坑　土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック少量。
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第85号土坑　土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色　黒色粒子少量。

第86号土坑　土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　黒色粒子少量。

第87号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

第88号土坑　土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子少量。
2　黒褐色　炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　暗褐色　炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　黒　色　炭化物中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第89号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

第90号土坑　土層解説

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量。
5　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
6　明褐色　ローム小ブロック少量。

第91号土坑　土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
2　褐　色

第92号土坑　土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子少量。
2　黒暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・黒色土ブロック少量。
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量。

第157図　土坑実測図(12)

## 第13号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>579 | 坏<br>須恵器 | A 13.4<br>B 4.8<br>C 7.0 | 平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面下位ヘラ磨き，上位ナデ。体部下端及び底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P 372 100%<br>覆土<br>外面及び口縁部煤付着 |

## 第37号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>580 | 甕<br>土師器 | B( 7.2)<br>C 6.0 | 底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部内面ナデ。胴部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 373 10%<br>覆土 |

## 第42号土坑出土遺物観察表（第158図）

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 581 | 臼玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 100 | 覆土 | Q 187 滑石 |

## 第43号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>582 | 埦<br>土師器 | A〔12.6〕<br>B( 5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は内そぎ状で外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面肌荒れ，内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 375 15%<br>北部覆土中層 |

## 第47号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>583 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | T P 44 5 %<br>覆土<br>内面自然釉 |

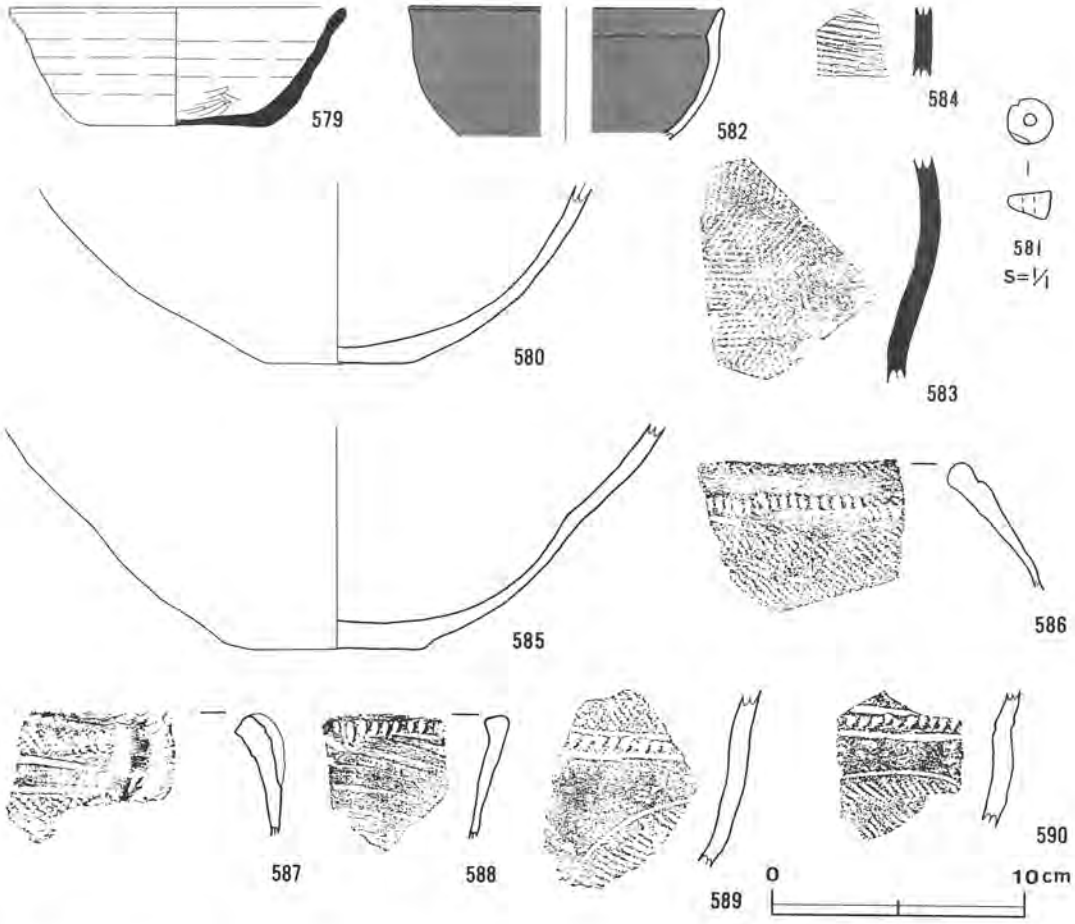
## 第49号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>584 | 甕<br>須恵器 | | 甕の胴部片。 | 外面平行叩き。内面ナデ。 | 砂粒<br>灰色<br>良好 | T P 45 5 %<br>覆土 |

## 第51号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第158図<br>585 | 甕<br>土師器 | B( 8.9)<br>C 6.6 | 底部から胴部にかけての破片。平底で突出する。胴部は内彎して立ち上がる。 | 胴部内面ヘラナデ。胴部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 376 20%<br>北東部覆土上層 |

第158図は，第62号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。586～588は口縁部片である。586は，口唇部の下位に刻み目を付けた隆帯をもち，その下位に縄文が施されている。587は，縄文地文に突起を付け，沈線で区画した部分を磨り消している。588は，口唇部に刻み目をもち，その下位に沈線が施されている。589，590は胴部片で，２本の沈線にはさまれた部分に棒状工具による刺突文が施され，沈線で区画した部分を磨り消している。




第158図　土坑出土遺物実測・拓影図

表３　土坑一覧表（第147～157図）

| 番号 | 位置 | 長経方向 | 平面形 | 規模 | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 2 | K11e₁ | N−18°−E | 楕円形 | 1.56 | 0.94 | 103 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器片4点(坏),縄文式土器片3点(深鉢) | SB-6と重複 |
| 5 | K11e₄ | N−60°−W | 楕円形 | 1.32 | 0.73 | 47 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | | |
| 6 | K11b₆ | N−5°−E | 楕円形 | 0.68 | 0.60 | 38 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | | |

| 番号 | 位置 | 長軸方向 | 平面形 | 規模 | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 8 | K10d9 | N−39°−E | 楕円形 | 0.68 | 0.63 | 27 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 12 | L9a2 | N−5°−E | 楕円形 | 0.73 | 0.64 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | | SI-5と重複 |
| 13 | K9a3 | N−0° | 円形 | 1.23 | 1.14 | 45 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器片166点(甕,坏),須恵器片1点(坏) | |
| 14 | K8i8 | N−73°−W | 楕円形 | 1.82 | 0.92 | 57 | 垂直 | 平坦 | 人為 | | |
| 15 | J12j2 | N−27°−W | 楕円形 | 1.50 | 1.70 | 59 | 垂直 | 凹凸 | 人為 | 土師器片21点(甕,坏),縄文式土器片3点(深鉢) | |
| 16 | I12h2 | N−23°−E | 隅丸長方形 | 2.23 | 1.43 | 45 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | 土師器片1点(坏) | |
| 17 | J12h1 | N−9°−W | 不整楕円形 | 2.40 | 1.52 | 66 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器片11点(坏) | |
| 18 | J11i4 | N−24°−W | 楕円形 | 0.92 | 0.77 | 26 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 19 | J0g9 | N−79°−E | 不整形 | 2.28 | 1.91 | 73 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | | |
| 20 | J10e7 | N−64°−E | 不整楕円形 | 1.80 | 0.93 | 12 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | |
| 21 | J0e3 | N−58°−W | 楕円形 | 2.27 | 1.66 | 94 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | | |
| 22 | J9e6 | N−42°−E | 楕円形 | 0.84 | 0.55 | 17 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 23 | J9f4 | N−33°−W | 楕円形 | 0.84 | 0.75 | 22 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器片1点(坏) | |
| 24 | I9e4 | N−9°−W | 楕円形 | 0.66 | 0.55 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 25 | I9h1 | N−34°−W | 楕円形 | 1.20 | 0.64 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 26 | I9i2 | N−6°−E | 不整楕円形 | 2.18 | 1.52 | 86 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 27 | E11d3 | N−80°−E | 楕円形 | 1.50 | 0.94 | 41 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 28 | E11a2 | N−48°−W | 円形 | 1.00 | 0.93 | 50 | 外傾 | 皿状 | 人為 | | |
| 29 | F11a4 | N−34°−E | 楕円形 | 2.45 | 2.15 | 50 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | 土師器片109点(甕,坏) | |
| 30 | F11a4 | N−46°−W | 楕円形 | 1.46 | 1.31 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片13点(甕,坏) | |
| 31 | F11a5 | N−46°−W | 楕円形 | 1.39 | 1.23 | 31 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片7点(坏) | |
| 32 | E12i4 | N−34°−W | 円形 | 0.89 | 0.83 | 35 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | | |
| 33 | F12i3 | N−32°−W | 楕円形 | 1.17 | 0.96 | 47 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器片5点(甕,坏) | |
| 34 | F12a3 | N−29°−W | 楕円形 | 0.97 | 0.85 | 46 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器片4点(坏) | |
| 35 | F12a3 | N−59°−W | 円形 | 1.38 | 1.30 | 43 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片12点(甕) | |
| 36 | F12a4 | N−25°−W | 円形 | 0.87 | 0.80 | 43 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 37 | E12j5 | N−72°−E | 楕円形 | 0.64 | 0.53 | 47 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器片16点(甕) | |
| 38 | F12e4 | N−75°−E | 楕円形 | 0.90 | 0.76 | 47 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 39 | F12e3 | N−15°−W | 円形 | 1.22 | 1.11 | 31 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器片15点(甕) | |
| 40 | F11j9 | N−46°−W | 楕円形 | 1.40 | 1.22 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片7点(坏) | |
| 41 | F11i9 | N−17°−E | 楕円形 | 1.18 | 1.03 | 33 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片9点(坏) | |
| 42 | F11i8 | N−0° | 円形 | 0.64 | 0.64 | 15 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | 土師器片9点(坏) | |
| 43 | F11h7 | N−52°−W | 楕円形 | 1.52 | 1.22 | 30 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | 土師器片77点(甕,坏),縄文式土器片1点(深鉢) | |
| 44 | F11d6 | N−63°−E | 楕円形 | 0.53 | 0.44 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片5点(甕,坏) | |
| 45-A | F11h5 | N−35°−E | 楕円形 | 0.90 | 0.64 | 24 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | | |
| 45-B | F11h5 | N−44°−W | 不整楕円形 | 1.36 | 1.10 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器片12点(甕,坏) | |
| 46 | F11g5 | N−83°−W | 楕円形 | 1.63 | 1.48 | 30 | 外傾 | 凹凸 | 人為 | 土師器片(甕,坏) | |
| 47 | F11i2 | N−71°−W | 楕円形 | 0.79 | 0.62 | 15 | 緩斜 | 凹凸 | 自然 | | |
| 48 | F11f1 | N−42°−E | 楕円形 | 1.70 | 0.98 | 40 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片17点(甕,坏) | |
| 50 | G10c2 | N−65°−E | 楕円形 | 0.78 | 0.60 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片1点(坏) | |

| 番号 | 位置 | 長軸方向 | 平面形 | 規模 | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 51 | G10d1 | N−42°−E | 隅丸長方形 | 1.92 | 1.10 | 8 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器片19点(甕,坏) | |
| 52 | G12c1 | N−22°−E | 楕円形 | 1.19 | 0.82 | 38 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器片1点(甕) | |
| 53 | G10c2 | N−39°−W | 楕円形 | 1.80 | 1.00 | 39 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器片9点(甕) | |
| 54 | G10e7 | N−49°−W | 円形 | 0.75 | 0.72 | 30 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片3点(甕) | |
| 55 | G10a0 | N−0° | 円形 | 0.33 | 0.33 | 10 | 垂直 | 平坦 | 不明 | 土師器片19点(甕) | |
| 56 | G11g7 | N−42°−W | 楕円形 | 0.80 | 0.65 | 54 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片6点(坏) | |
| 57 | G11f8 | N−37°−W | 楕円形 | 0.78 | 0.65 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師器片5点(甕,坏) | |
| 58 | G11e9 | N−89°−E | 楕円形 | 0.47 | 0.40 | 64 | 外傾 | 皿状 | 不明 | | |
| 60 | G12d2 | N−49°−W | 円形 | 1.15 | 1.10 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器片1点(坏) | |
| 61 | G12d2 | N−1°−W | 不整楕円形 | 1.85 | 1.40 | 34 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器片2点(甕) | |
| 62 | G9f9 | N−80°−W | 円形 | 1.92 | 1.84 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師器片9点(甕),縄文式土器片20点(深鉢) | |
| 63 | H12b3 | N−50°−W | 楕円形 | 1.20 | 1.07 | 48 | 緩斜 | 凹凸 | 人為 | | |
| 64 | H12c3 | N−47°−W | 楕円形 | 1.08 | 0.72 | 36 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 65 | G11i0 | N−16°−E | 楕円形 | 1.96 | 1.29 | 56 | 緩斜 | 凹凸 | 自然 | 土師器片2点(甕,坏) | |
| 66 | H11c7 | N−65°−W | 楕円形 | 1.18 | 0.76 | 35 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器片2点(坏) | |
| 67 | H11f9 | N−24°−E | 楕円形 | 1.12 | 1.07 | 13 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 68 | H12e3 | N−82°−W | 円形 | 0.91 | 0.86 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 69 | H11i8 | N−10°−E | 円形 | 1.22 | 1.15 | 21 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | |
| 70 | H11i6 | N−30°−E | 楕円形 | 1.60 | 0.79 | 48 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 71 | H11i6 | N−37°−E | [不整長方形] | 2.36 | [1.02] | 135 | 垂直 | 平坦 | 不明 | | SI32,SK72・73と重複 |
| 72 | H11f7 | N−36°−E | [長方形] | 2.07 | 不明 | (90) | 垂直 | 凹凸 | 人為 | | SI32,SK71・73と重複 |
| 73 | H11f7 | [N−39°−E] | 不明 | 不明 | 不明 | 56 | 緩斜 | (皿状) | 不明 | | SI32,SK71・72と重複 |
| 74 | I11c0 | N−52°−W | 楕円形 | 0.80 | 0.70 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 75 | I12c1 | N−39°−E | 楕円形 | 0.98 | 0.74 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 76 | I11c8 | N−13°−E | 楕円形 | 0.71 | 0.60 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 77 | I11c7 | N−54°−E | 不整楕円形 | 1.56 | 0.74 | 36 | 垂直 | 凹凸 | 自然 | 土師器片2点(甕) | |
| 78 | I12f2 | N−86°−W | 円形 | 1.38 | 1.30 | 41 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 79 | I12h2 | N−16°−E | 楕円形 | 0.98 | 0.75 | 25 | 外傾 | 凹凸 | 自然 | | |
| 81 | J11b7 | N−54°−E | 円形 | 0.75 | 0.72 | 23 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 82 | I11j6 | N−33°−W | 円形 | 1.07 | 1.00 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 83 | I11f8 | N−38°−E | 長楕円形 | 2.40 | 0.94 | 23 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | |
| 84 | J11c4 | N−8°−W | 不整楕円形 | 2.58 | 1.58 | 84 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片1点(甕) | |
| 85 | I11b4 | N−71°−W | 楕円形 | 0.74 | 0.67 | 17 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片3点(甕) | |
| 86 | I11c2 | N−45°−E | 円形 | 0.55 | 0.54 | 13 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片4点(甕) | |
| 87 | I10j9 | N−52°−W | 楕円形 | 0.70 | 0.60 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | |
| 88 | H10i5 | N−21°−E | 円形 | 1.73 | 1.59 | 21 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器片33点(甕,坏),縄文式土器片2点(深鉢) | |
| 89 | H10g2 | N−61°−W | 楕円形 | 0.64 | 0.58 | 17 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片7点(甕) | |
| 90 | H9b9 | N−13°−E | 楕円形 | 1.83 | 1.32 | 54 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | |
| 91 | H9g4 | N−5°−E | 円形 | 0.73 | 0.69 | 26 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器片2点(坏) | |
| 92 | H9i4 | N−76°−W | 楕円形 | 1.41 | 0.90 | 34 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 縄文式土器片2点(深鉢) | |

## 第５節　古墳

### １　古墳の規模及び概観

本墳は，調査区の南東部Ｊ11区，Ｋ11区，Ｋ12区に所在する方墳である。本墳は，南側に突き出した標高約24.8ｍの舌状台地縁辺部に構築されている。現況は，山林である。

本墳は，Ｎ－23°－Ｗに主軸方向を持つ方墳で，墳丘部を方形に全周する周溝から成り立っている。本墳の規模は，北西から南東にかけての外法12.54ｍ，内法10.25ｍ，北東から南西にかけての外法13.06ｍ，内法10.14ｍである。墳丘は，地山を整形した後に盛土をしたもので，墳丘の高さは現況で0.52ｍである。

埋葬施設は，墳丘部の南東側中ほどに検出され，その埋葬施設から南東の周溝中央部に通じる墓道を有する。掘方は長方形を呈し，規模は，上端で長辺約3.12ｍ，短辺約2.42ｍ，深さ約70㎝で，底部は長辺2.92ｍ，短辺1.50ｍで，断面形は逆台形状を呈している。埋葬施設は，掘方の底面から石棺の痕跡が検出され，規模は長辺2.40ｍ，短辺1.42ｍである。墓道の掘方は，長さ約2.10ｍ，幅2.26～2.68ｍ，深さ54～66㎝で，底面の幅1.54～1.85ｍで，断面形は逆台形状を呈している。

本墳の北西側は，本墳の北東溝から約3.50ｍ北西に延び南西方向に折れる溝と，南西溝から約2.00ｍ北西に延び北東方向に折れ曲がる溝が検出されている。外法で，長辺12.24ｍ，短辺4.80ｍのほぼ長方形状を呈し，溝の北西部は，次第に浅くなり，２か所で切れている。

副葬品は出土していない。埋葬施設の覆土からは土師器（坏）片が少量，周溝の覆土からは土師器，須恵器，縄文式土器の細片が出土しているが，すべて流れ込みと思われる。また，石棺に使用したと思われる多数の石材が，墓道の底面から出土している。

### ２　墳丘（第159図）

墳丘の規模は，長辺10.25ｍ，短辺10.14ｍ，現況で高さ（0.52）ｍである。

墳丘の調査は，そのほぼ中央部に幅１ｍのトレンチを東西方向と南北方向に２本設定し，土層の観察を行い墳丘の構築状態等の観察を行った。墳丘の構築状況は，第159図の東西南北トレンチの土層断面で観察すると，標高約24.6ｍ地点で旧表土を地山整形し，その上位盛土して墳丘を構築していることが確認される。東西の第１号トレンチの土層は，１～19層からなり，１～２層は，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を少量含む褐色土及び暗褐色土が，帯状に堆積している。３層は，焼土粒子・炭化粒子を少量含み，ロームの小・中ブロックを少量，ローム粒子を中量含む暗褐色土が帯状に堆積している。４層は，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含む黒褐色土がほぼ帯状に堆積している。５層は，焼土中ブロック・炭化粒子を少量含み，

ローム粒子を中量含む褐色土が帯状に堆積している。6～9層は，焼土粒子・炭化粒子を少量，ローム粒子を少量及び中量含む褐色土及び暗褐色土が帯状に堆積している。10層は，焼土粒子・炭化粒子・ロームの小ブロック・ローム粒子を少量含む黒褐色土が帯状に堆積している。11～15層は，焼土粒子・炭化粒子を少量含み，ローム粒子を少量及び中量含む褐色土，暗褐色土が帯状及びブロック状に堆積している。16～18層は，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子を少量含む褐色土及び暗褐色土が帯状に堆積している。19層は，旧表土であり，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を少量含む黒褐色土が帯状に堆積している。南北の第2号トレンチの土層は，第1号土層断面とほぼ同様である。

## 3　周溝（第160図）

周溝は，墳丘を方形に全周している。規模は，外法で長辺13.06m，短辺12.54mである。北東溝は，上幅1.00～1.37m，下幅0.28～0.60m，深さ72～84cm，南東溝は，上幅0.90～1.50m，下幅0.62～1.40m，深さ36～50cm，南西溝は，上幅1.10～1.70m，下幅0.5～1.05m，深さ約54cm，北西溝は，上幅0.90～1.06m，下幅0.40～0.72m，深さ約62cmである。断面形は各周溝とも逆台形状を呈しており，底面は，ほぼ平坦で締まっている。北西溝の覆土は，土層が複雑に入り組み，各層にロームブロックが含まれており，人為的に埋め戻されたものと思われる。その他の周溝の覆土は，焼土粒子・炭化粒子を少量含み，ローム粒子を少量及び中量含む褐色土，暗褐色土，黒褐色土が堆積しており，自然堆積と思われる。

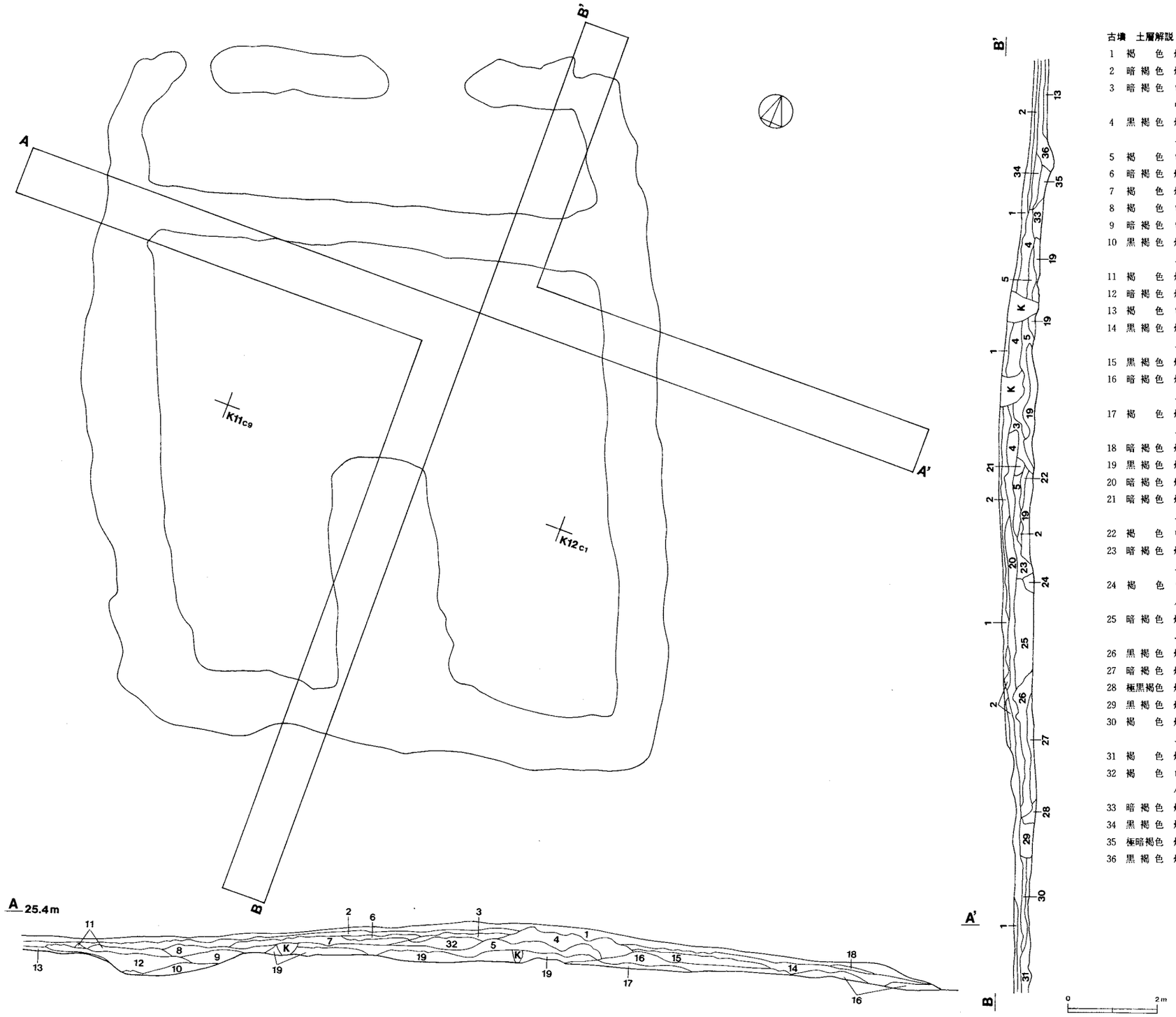
## 4　埋葬施設

埋葬施設は，墳丘部の南東側中ほどに検出されている。主軸方向は，N－23°－Wであり，掘方の規模は，長辺約3.12m，短辺約2.42m，深さ約70cmで，断面形は逆台形状を呈している。埋葬施設は，掘方の底面の8～52cm内側に長辺約2.40m，短辺約1.42mの長方形状に検出されている。埋葬施設は石棺で構築されていたものと思われるが，石材は抜き取られ，その痕跡が溝状に検出されている。溝の断面形は「U」字状及び逆台形状を呈している。また，石材の裏込めに使用されたと思われる粘土の一部が，掘方の壁際底面から検出されている。抜き取られた石材は，一部が墓道の底面や，本墳に隣接する第7号住居跡の覆土から出土している。

覆土は，全体的に焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を少量含んでいる土層であるが，覆土中層はローム小ブロックが少量混入する褐色土，暗褐色土，黒褐色土が堆積している。

副葬品は出土していない。

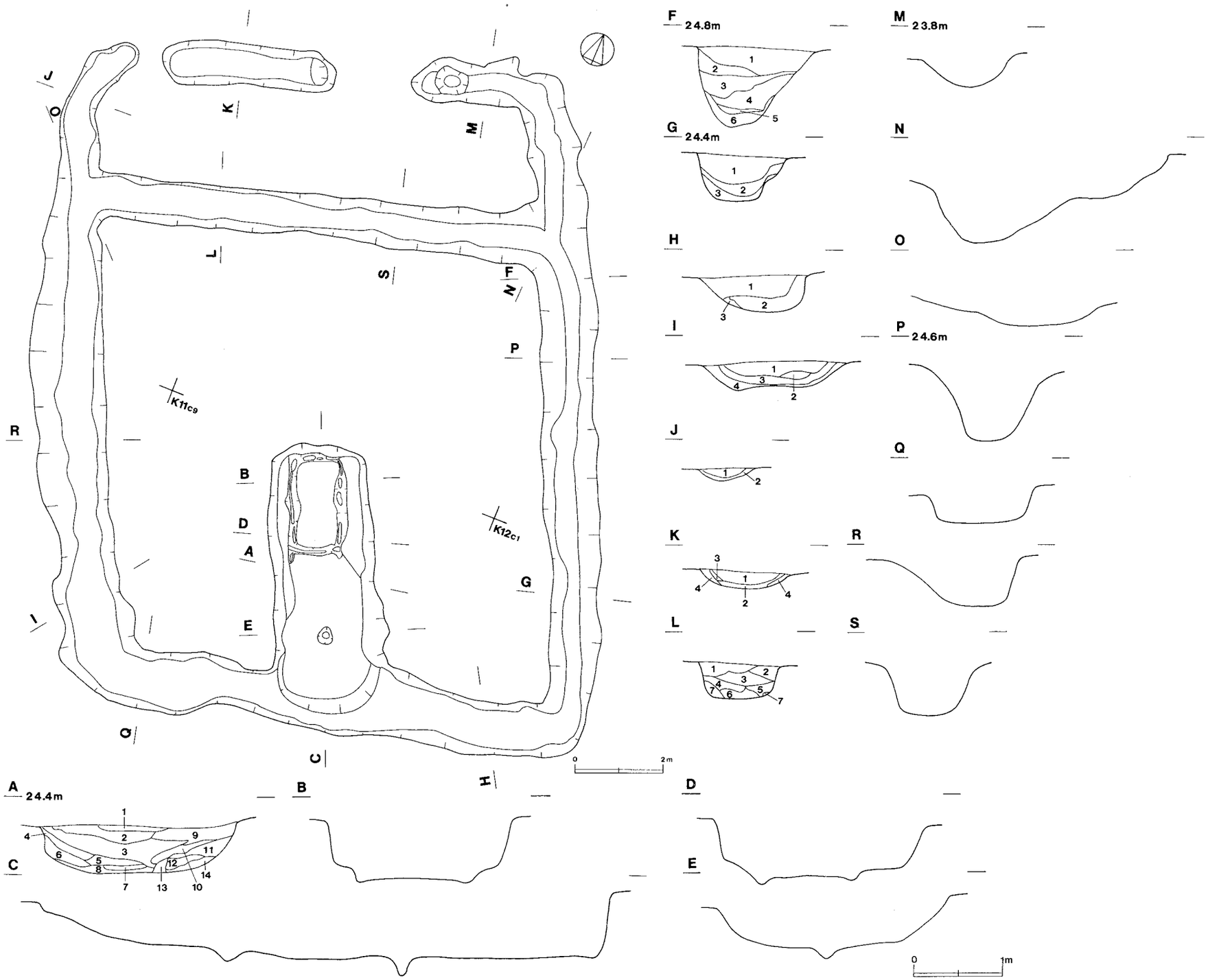
埋葬施設から南東溝の中央部にかけて墓道が検出されている。掘方は，長さ約2.10m，幅2.26～2.68m，深さは54～66cmで，底面の幅1.54～1.85mで，断面形は逆台形状を呈している。




古墳　土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量。
4　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
6　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
7　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
9　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
10　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
11　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
12　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
13　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
14　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
15　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
16　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
17　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
18　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
19　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
20　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
21　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
22　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
23　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
24　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
25　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
26　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
27　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
28　極黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
29　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
30　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
31　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
32　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量。
33　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
34　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
35　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
36　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第159図　第１号古墳トレンチ土層図




第160図　第１号古墳実測図

古墳主体部　土層解説（Ａ－Ａ’）

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量。
4　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　黒暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量。
6　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量。
7　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
8　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
9　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
10　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
11　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
12　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
13　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
14　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｆ－Ｆ’）

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
5　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
6　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｇ－Ｇ’）

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｈ－Ｈ’）

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｉ－Ｉ’）

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｊ－Ｊ’）

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第１号古墳周溝　土層解説（Ｋ－Ｋ’）

1　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量。
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　　色

第１号古墳周溝　土層解説（Ｌ－Ｌ’）

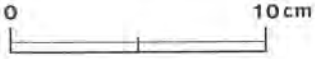
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，黒色土・ローム小ブロック少量。
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
3　黒 褐 色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量。
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量。
6　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量。
7　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量。

## 5　遺物

周溝及び埋葬施設からは，土師器（坏１）・細片（25点），須恵器の細片（38点），縄文式土器の細片（160点）が出土している。591の土師器の坏は，埋葬施設のほぼ中央部の覆土中層から破片で出土しているが，流れ込みによるものと思われる。

**第１号古墳出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第161図<br>591 | 坏<br>土 師 器 | A〔11.5〕<br>B　5.2<br>C　5.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部肌荒れ。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P 377　　25%<br>埋葬施設中央部覆土中層 |




第161図　第１号古墳出土遺物実測図

# 第６節　その他の遺構

## 1　炭焼窯跡

当遺跡からは，炭焼窯跡が１基検出されている。

**第１号炭焼窯**（第162図）

**位置**　調査区の北西端，Ｆ10b₂区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　全長3.86m，最大幅2.39mの不整楕円形を呈し，断面形は「ひ」状を呈している。

**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｗ。

**壁**　壁高は40～98cmで，内傾して立ち上がっている。粘土と瓦を交互に重ねて構築されており，熱をうけて，赤変硬化している。

**窯体底面**　ほぼ平坦で，焚口部付近は高くなっている。熱を受けて，約19cmの厚さに赤変硬化している。

**焚口部**　幅52cmで，裾部はほぼ扇状に広がっている。

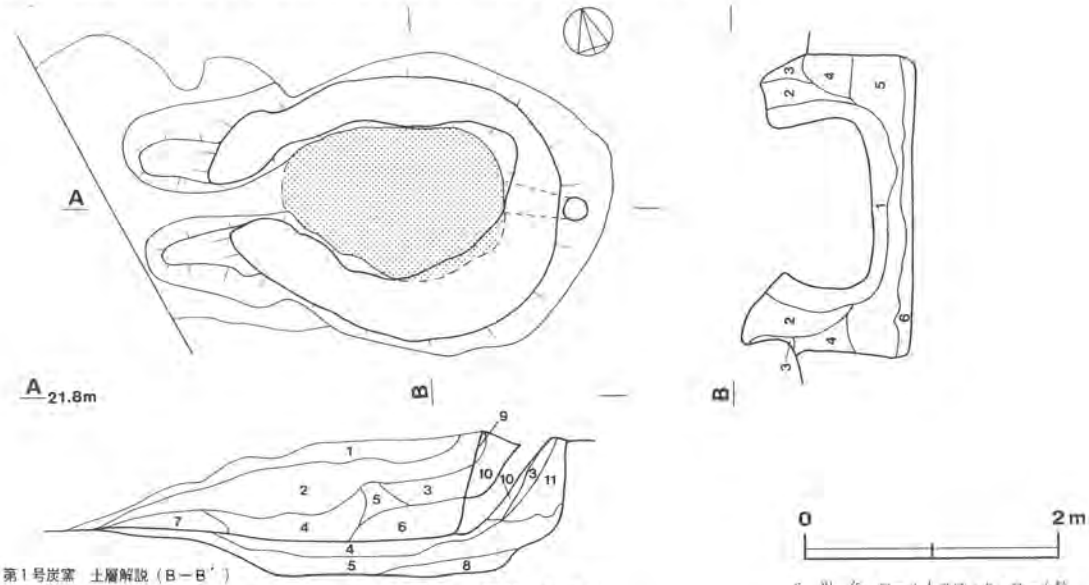
**煙道部**　奥壁中央部に検出されている。煙道の孔径は約18cmで，円筒形状を呈し，外傾して立ち上がっている。

**灰原**　焚口部の西部に検出され，不整半円形状を呈している。

**覆土**　自然堆積。中層には，焼土ブロックを多量に含む赤褐色土が厚く堆積しており，天井部の崩落による堆積と思われる。

**遺物**　出土していない。

**所見**　遺構の形態から，近世以降に構築されたものと思われる。




第1号炭窯　土層解説（B－B'）

1　明赤褐色　砂粒子中量。
2　明赤褐色　焼土粒子多量。
3　明赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量。
4　暗褐色
5　褐　色
6　褐　色

第1号炭窯　土層解説（A－A'）

1　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量。
2　暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・ロームブロック少量。
3　赤褐色　ローム粘土中量，炭化粒子少量。
4　赤褐色　焼土ブロック少量。
5　褐　色　砂・ロームブロック少量。
6　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子中量。
7　褐　色
8　褐　色　ロームブロック少量。
9　赤褐色　ローム粒子多量，砂粒子中量。
10　橙　色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量。
11　褐　色　ロームブロック少量。

第162図　第1号炭焼窯跡実測図

## 2　性格不明遺構

**第1号性格不明遺構**（第163図）

**位置**　調査区の南部，J 11j7区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径6.56m，短径4.32mの不整楕円形を呈している。

**長径方向**　N－38°－W。

**壁**　壁高は27～34cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

**床**　南東部は凹凸があり，その他はほぼ平坦で，比較的軟らかい。

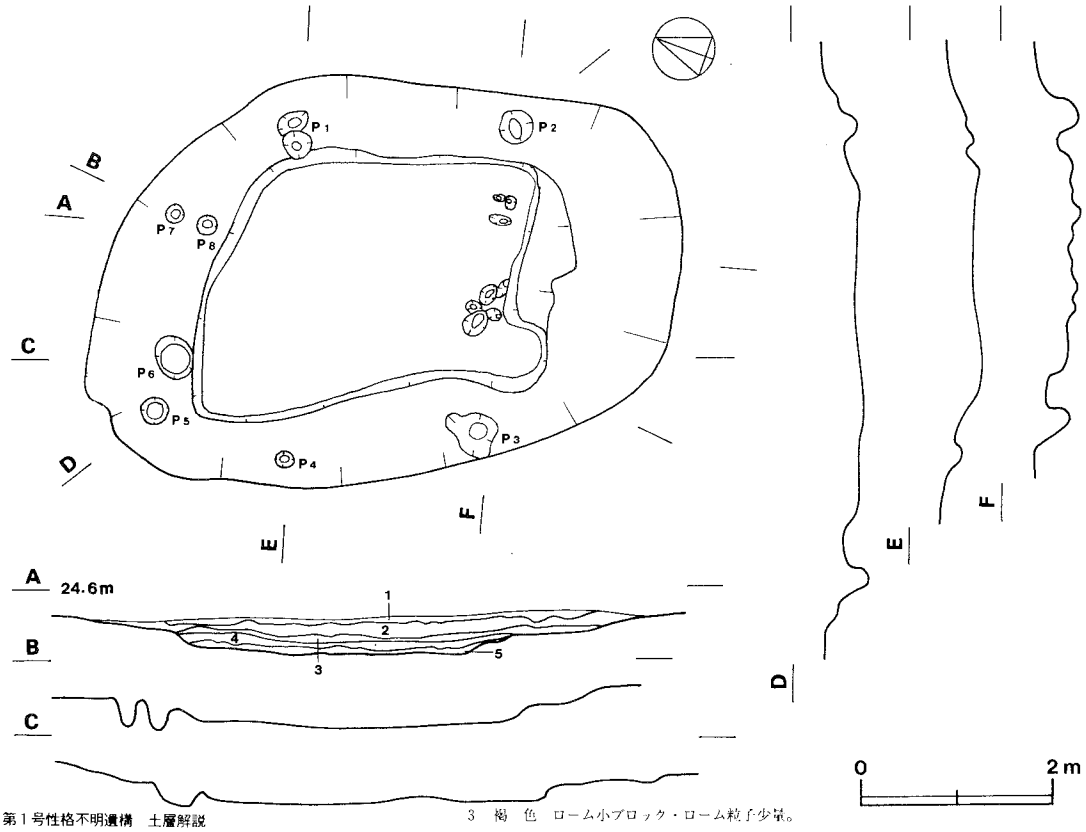
**ピット**　8か所（$P_1$～$P_8$）検出されている。$P_1$，$P_3$は，径17～57cmの不定形を呈し，深さ12～27cmであり，$P_2$，$P_4$～$P_8$は，径27～46cmの円形を呈し，深さ12～30cmで，いずれも性格は不明であ

る。

**覆土**　自然堆積。

**遺物**　覆土の下層から上層にかけて，土師器の細片（24点），縄文式土器の細片（２点）が出土している。

**所見**　遺物や隣接する遺構から判断すると，古墳時代の遺構と考えられるが，時期・性格を特定することはできなかった。




第１号性格不明遺構　土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量。

**第163図　第１号性格不明遺構実測図**

**第２号性格不明遺構**（第164図）

**位置**　調査区の北部，Ｇ10g1区を中心に確認されている。

**規模と平面形**　長径5.64ｍ，短径5.14ｍの不整楕円形を呈している。

**長径方向**　Ｎ－69°－Ｅ。

**壁**　壁高は14～20cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

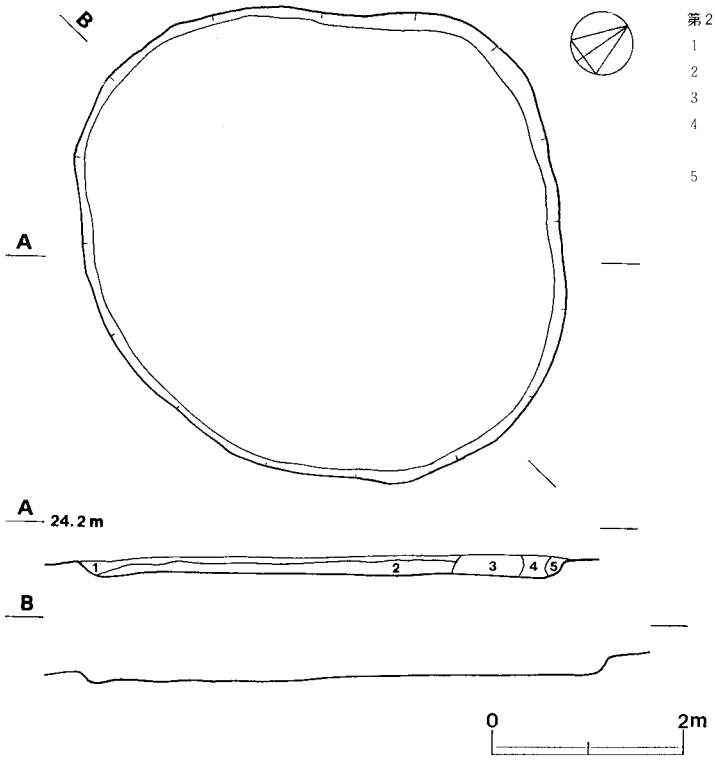
**床**　ほぼ平坦で，比較的軟らかい。

**覆土**　1・2層は自然堆積。3～5層は，ロームブロックが混入し，層が乱れていることから人為的に埋め戻されたものと思われる。

**遺物**　覆土の下層から中層にかけて，縄文式土器の細片（33点）が出土している。

**所見**　遺物から判断すると縄文時代の遺構と考えられるが，床面から出土した遺物もなく，時期・性格を特定することはできなかった。

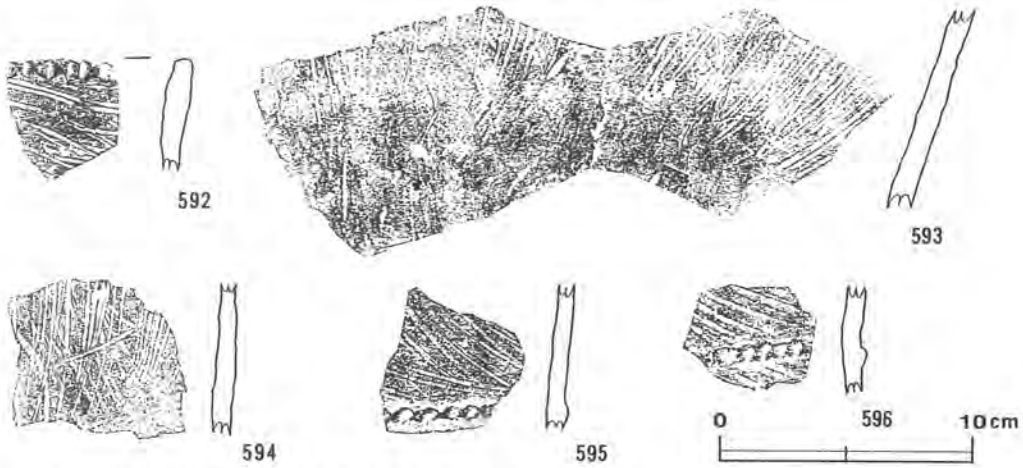
第165図は，第2号性格不明遺構から出土した縄文式土器片の拓影図である。592は，口縁部片で，口唇部に刻み目をもち，下位に沈線が施されている。593，594は胴部片で，沈線が施されている。595，596は，胴部片で，沈線が施され，貼り付けられた隆帯に棒状工具による刺突文が施されている。




第2号　性格不明遺構　土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
2　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
3　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量。
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量。

第164図　第2号性格不明遺構実測図



第165図　第２号性格不明遺構出土遺物拓影図

## 第７節　遺物包含層（第166～171図）

当調査区のＫ11区を中心とする地点からは，縄文時代早期から晩期にかけての土器片，及び石製品，土製品が表土から集中して出土している。ここでは，これらの縄文式土器片を時期分類して記載し，その他の遺物は一覧表に記載する。

第１群の土器　縄文時代早期

ａ類　井草式に比定される土器

597は口縁部片で，肥厚の口唇部をもち，撚糸文が施されている。

ｂ類　夏島式に比定される土器

598は口縁部片で，撚糸文が施されている。

ｃ類　芽山式に比定される土器

599～607は胴部片で，条痕文が施されている。

ｄ類　鵜ケ島台式に比定される土器

608～610は口縁部片，611～615は胴部片で，区画文が施されている。608～614は，円形刺突文が施され，608，609は，襷状の区画が施されている。

第２群の土器　縄文時代前期

ａ類　黒浜式に比定される土器

616～619は，口縁部片で半截竹管文が施されている。

ｂ類　浮島式に比定される土器

620～628は口縁部片，629～635は胴部片であり，いずれも沈線文が施されている。636は胴部

片で，波状貝殻文が施されている。637，638は口縁部片，639～641は胴部片であり，輪積痕を利用して文様化している。642～649は口縁部片で，口縁部にやや斜位の刻み目をもち，下位に刺突文が施されている。650～652は口縁部片で，650は下位に三角刺突文が施され，651,652は波状口縁を呈している。653～658は胴部片で，653は三角刺突文，654は半截竹管文，655～658はヘラ状工具による刺突文がそれぞれ施されている。

c 類　諸磯 a 式に比定される土器

659は口縁部片，660，661は胴部片で，半截竹管文が施されている。

d 類　諸磯 b 式に比定される土器

662～664は口縁部片，665～669は胴部片で沈線文が施されている。668は,円形竹管文が施されている。

e 類　十三菩提式に比定される土器

670は胴部片で，山形沈線文が施されている。

f 類　粟島台式に比定される土器

671は口縁部片で，撚紐押捺による文様が施されている。672，673は胴部片で，縄文が施され，原体の結節文が残っている。

g 類　大木 5 式に比定される土器

674は胴部片で山形沈線文が施されている。

第 3 群　縄文時代中期

a 類　五領ケ台式に比定される土器

675は，口縁部片である。口縁部に刻み目を施し,下位に隆帯をもち，隆帯には刻み目を施している。隆帯の下位には，鋸歯状文が施されている。

第 4 群　縄文時代後期

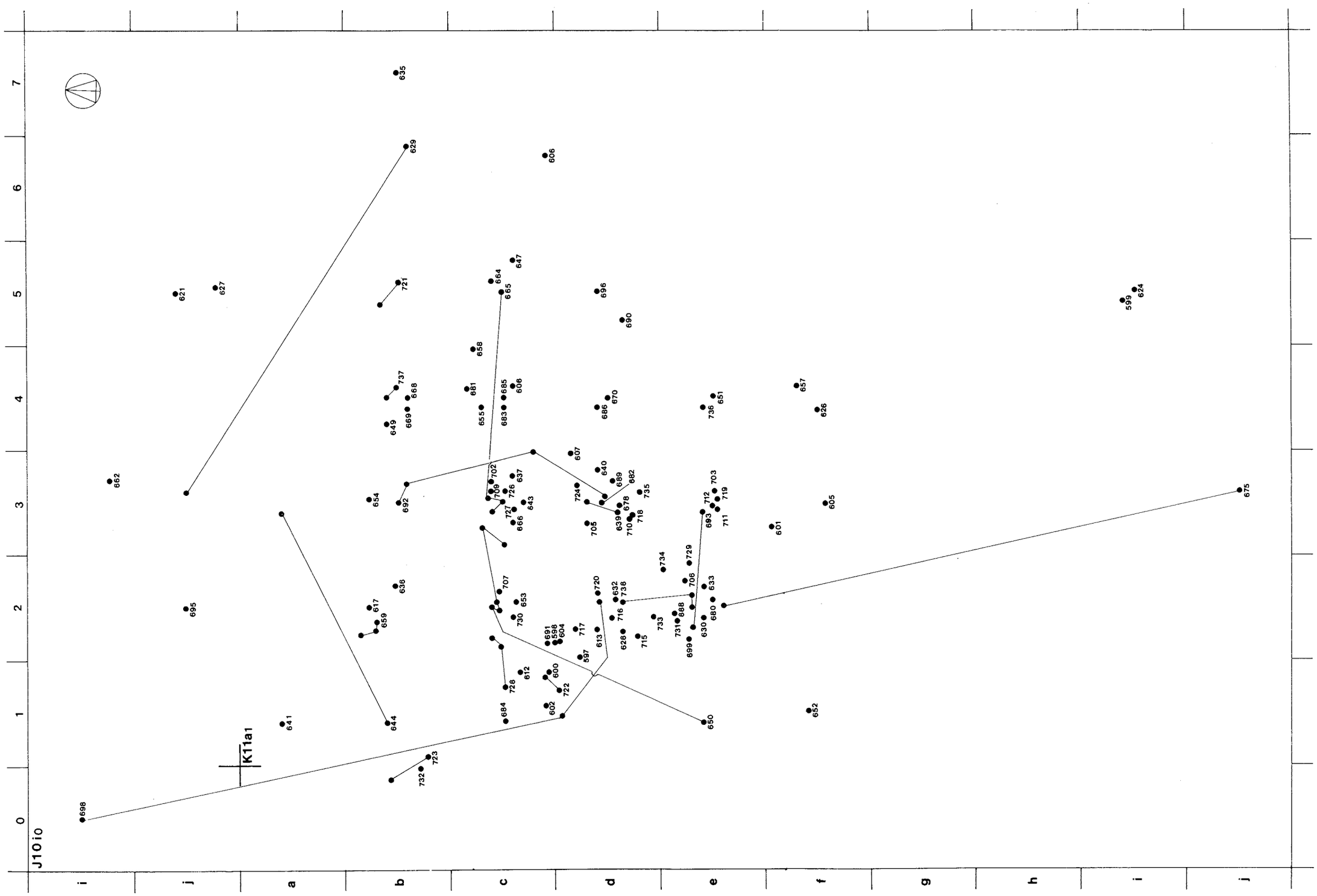
a 類　加曽利 B 式に比定される土器

676～678は口縁部片で，676，678は粗く，677は密に縄文が施されている。

第 5 群　縄文時代晩期

a 類　大洞 A 式に比定される土器

679は胴部片で，擬似工字文が施されている。680～683は口縁部片で，口唇部を折り返し,口唇部に縄文が施されている。683は口縁部片で，口唇部を折り返し，波状口縁を呈している。684～690は口縁部片で，口唇部を折り返し，口唇部及びその下位に縄文が施されている。691は口縁部片で,口唇部を折り返し，口唇部に縄文を施し，その下位に沈線が施されている。692は口縁部片で，口唇部を折り返し，無文である。693は口唇部を内・外両面に貼り付け,外面の口唇部に縄文が施されている。694～697は口縁部片で，口唇部に縄文を施し，隆帯部中央に沈線をもち，沈線



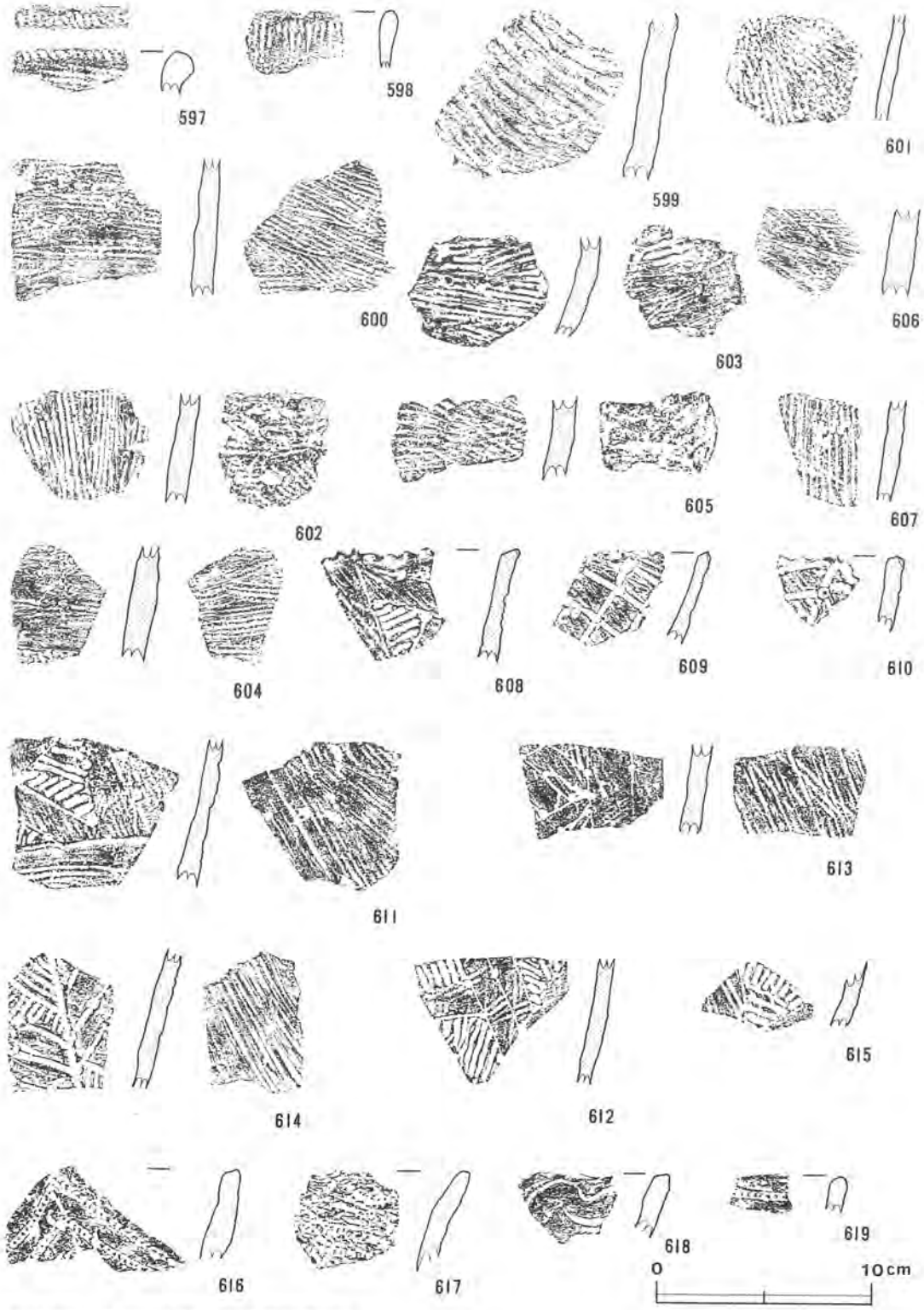

第166図　遺物包含層出土遺物位置図

の上位と下位に縄文が施されている。698～703は口縁部片で，A突起をもち,698は細く浅めの沈線を施し，699は太く深めの沈線が施され，700は刺突文が施され，701，702は沈線と刺突文が施されている。704は口縁部片であり，瘤状突起を貼付し,沈線とそれを挟む刺突文で瘤状突起を結んでいる。705は口縁部片，706,707は胴部片で,縄文を施した後に，太めの沈線が施されている。708～710は口縁部片，711～713は胴部片で，太めの沈線が施されている。714は口縁部片，715～717は胴部片で，縄文を施した後に沈線を施し,沈線で区画したところを部分的に削り取っている。718は口縁部片,719，720は胴部片で沈線によって挟まれた部分に，ヘラ状工具による刺突文が施されている。721は口縁部片，722～736は胴部片で，縄文が施されている。737は胴部片で網目状撚糸文が施されている。738は胴部片で，無文である。

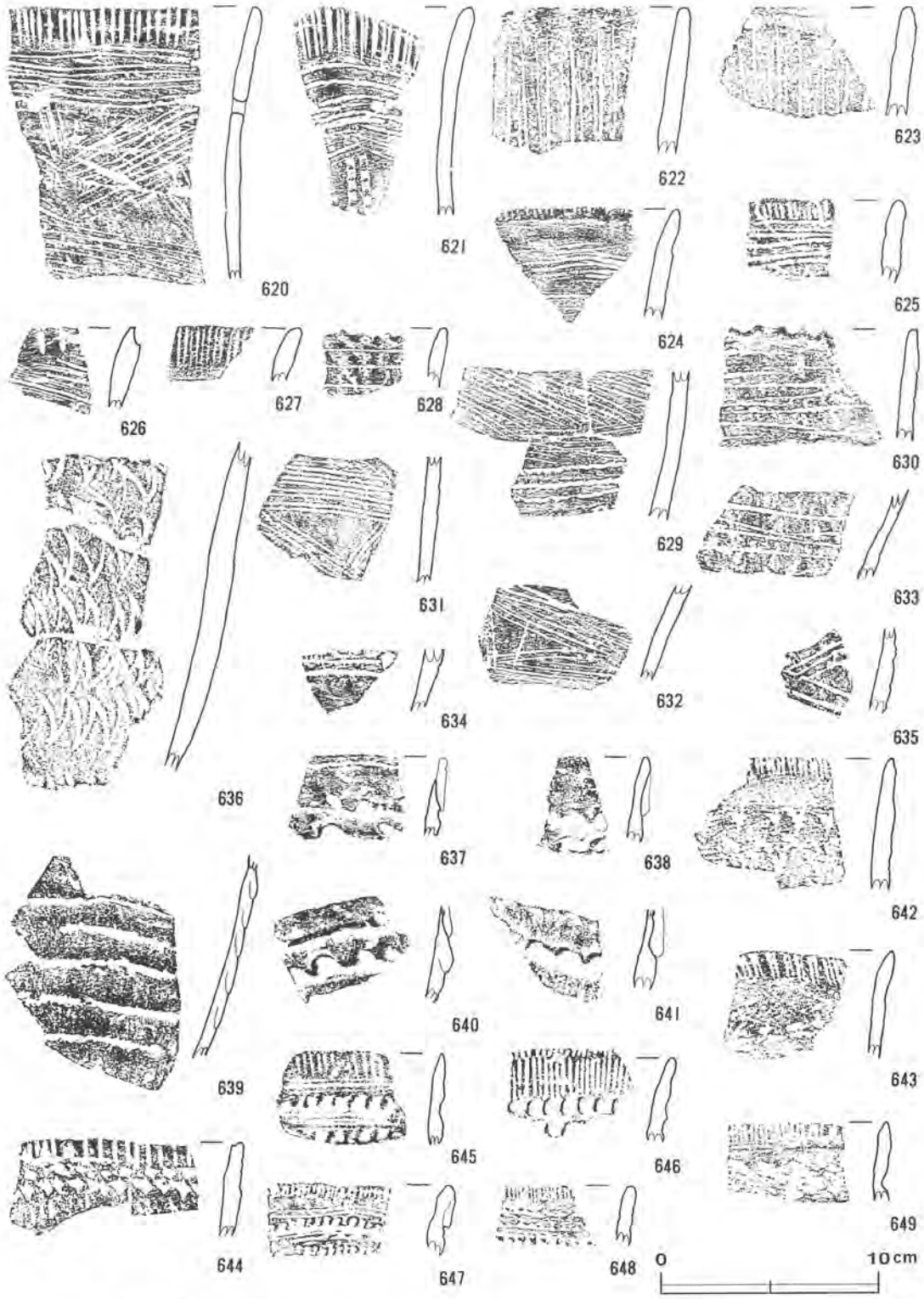
## 遺物包含層出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴及び文様 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第172・173図<br>739 | 深鉢<br>縄文式土器<br>(大洞A並行) | A 27.2<br>B(21.5) | 胴部はやや内彎しながら立ち上がり，器厚を増しながら口縁部に至る。口縁部は僅かに内傾する。口縁部の文様帯は2本の平行沈線によって区画され，沈線による文様が施されている。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P379 30%<br>K11区 |
| 740 | 深鉢<br>縄文式土器<br>(大洞A並行) | A〔28.6〕<br>B( 5.3) | 口縁部は，折り返し口縁で，折り返しの下位に円孔を穿ち，外傾する。口唇部に横位の付加条縄文を施している。 | 砂粒<br>灰白色<br>普通 | P380 5%<br>K11区 |
| 741 | 深鉢<br>縄文式土器<br>(大洞A) | A〔22.8〕<br>B(12.0) | 胴部上半部は内彎して頸部に至り，口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。頸部は無文で，下位に棒状工具による刺突文を施した隆起線をもつ。隆起線の下位に単節の縄文が施されている。口縁部は2本の沈線による文様が施され，高さ約2cmの突起をもつ。突起の先端は窪んでいる。 | 石英・長石・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P382 10%<br>K11区 |
| 742 | 深鉢<br>縄文式土器<br>(浮島) | A〔21.4〕<br>B( 4.6) | 口縁部は僅かに外反し，輪積み痕を残している。口縁部内・外面ナデ。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P390 5%<br>K11d3区 |

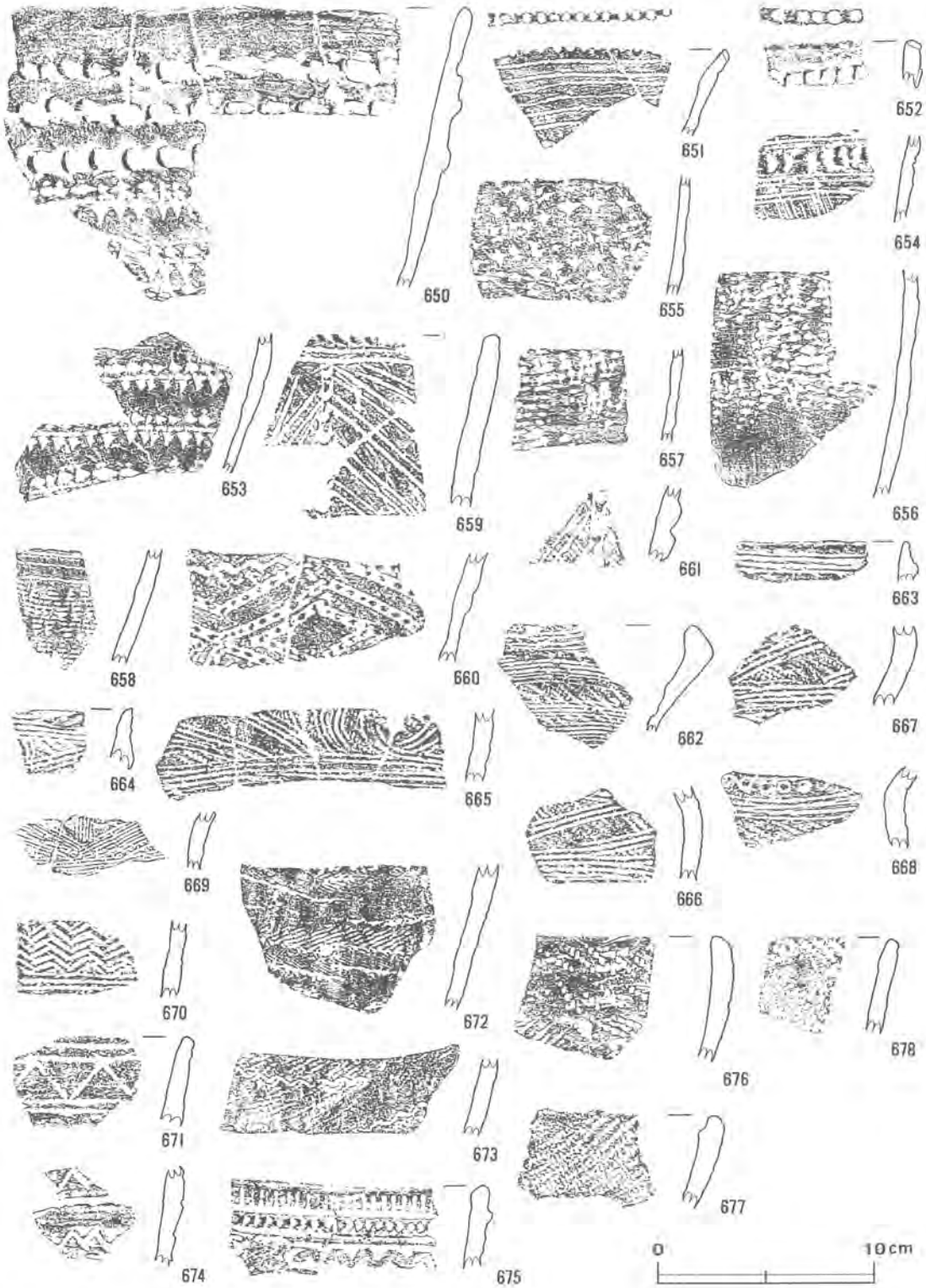
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 743 | 石棒 | ( 6.3) | 2.7 | ( 1.5) | --- | (33.1) | 10 | K11d3区 | Q188 角閃片岩 |
| 744 | 石棒 | ( 9.0) | ( 3.3) | ( 3.0) | --- | (116.7) | 10 | K11C3区 | Q189 頁岩 |
| 745 | 掻器 | 8.4 | 4.5 | 1.6 | --- | 36.6 | 100 | K11e5区 | Q190 頁岩 |
| 746 | 砥石 | 5.4 | 3.9 | 0.8 | --- | 30.7 | 100 | K11c3区 | Q193 流紋岩 |
| 747 | 不明石製品 | ( 4.9) | ( 2.7) | ( 1.2) | --- | (14.1) | 20 | K11d3区 | Q194 頁岩 |
| 748 | 磨製石斧 | ( 3.0) | ( 2.3) | 0.8 | --- | ( 7.2) | 20 | K11c4区 | Q195 角閃片岩 |
| 749 | 土偶 | ( 5.1) | ( 6.9) | ( 3.1) | --- | (58.9) | 20 | 表採 | DP10 |
| 750 | 土偶 | ( 3.3) | ( 3.7) | ( 2.3) | --- | (16.6) | 20 | 表採 | DP11 |
| 751 | 土偶 | ( 3.8) | ( 3.9) | ( 2.4) | --- | (20.8) | 5 | 表採 | DP12 |
| 752 | 土偶 | ( 3.0) | ( 2.6) | ( 1.2) | --- | (16.9) | 5 | 表採 | DP13 |
| 753 | 不明土製品 | ( 2.4) | ( 2.2) | ( 1.4) | --- | ( 5.1) | 5 | 表採 | DP14 |



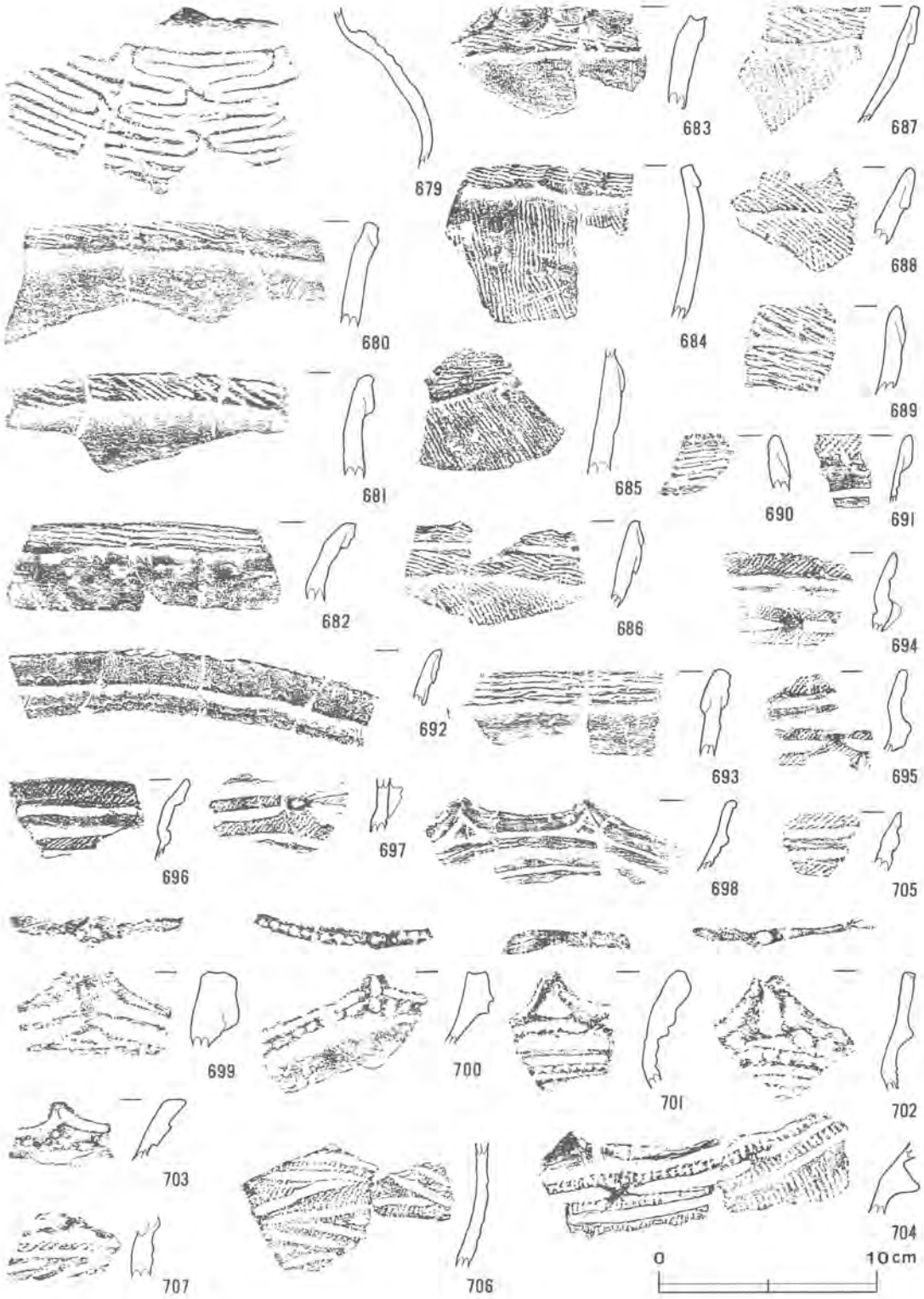

第167図　遺物包含層出土遺物拓影図(1)



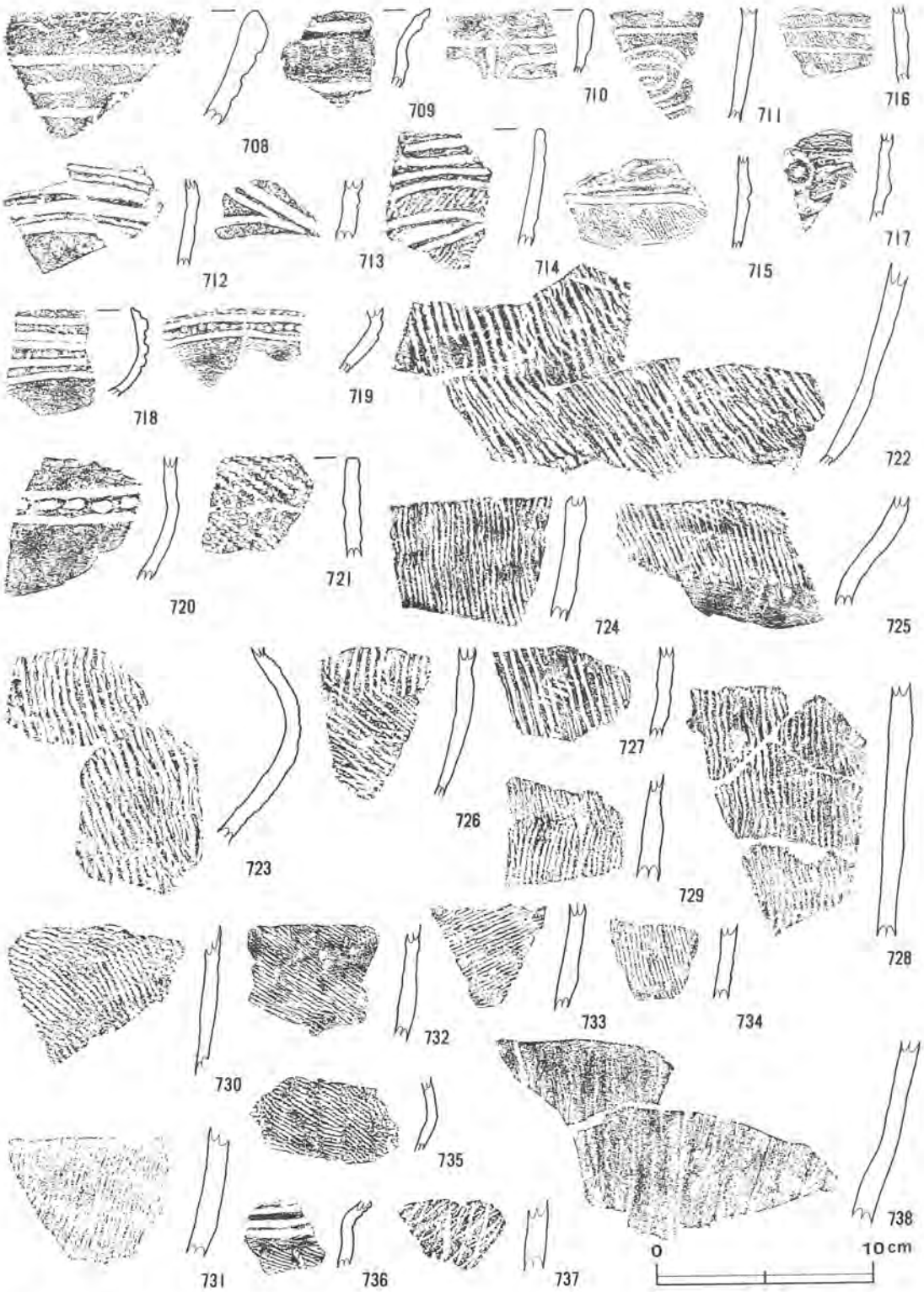

第168図　遺物包含層出土遺物拓影図(2)



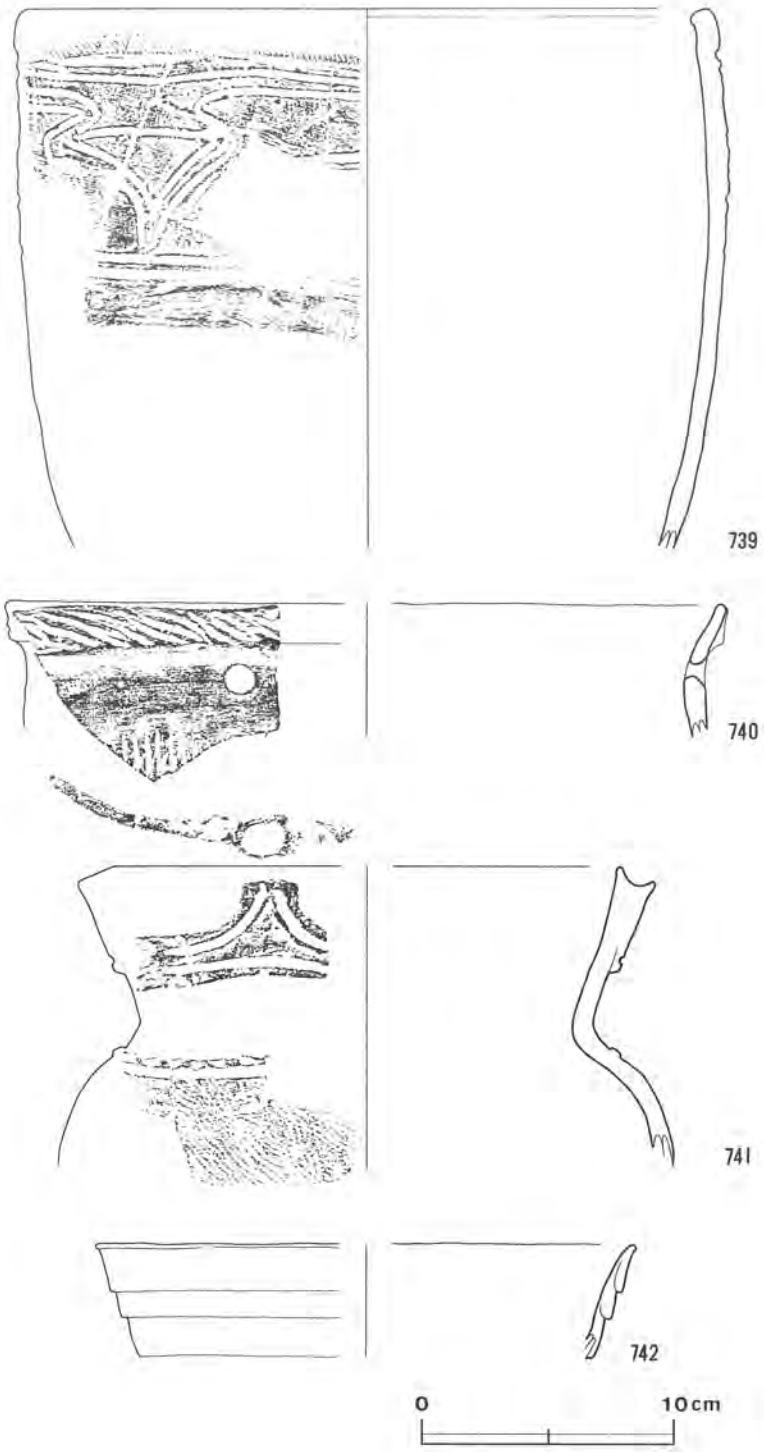

第169図　遺物包含層出土遺物拓影図(3)



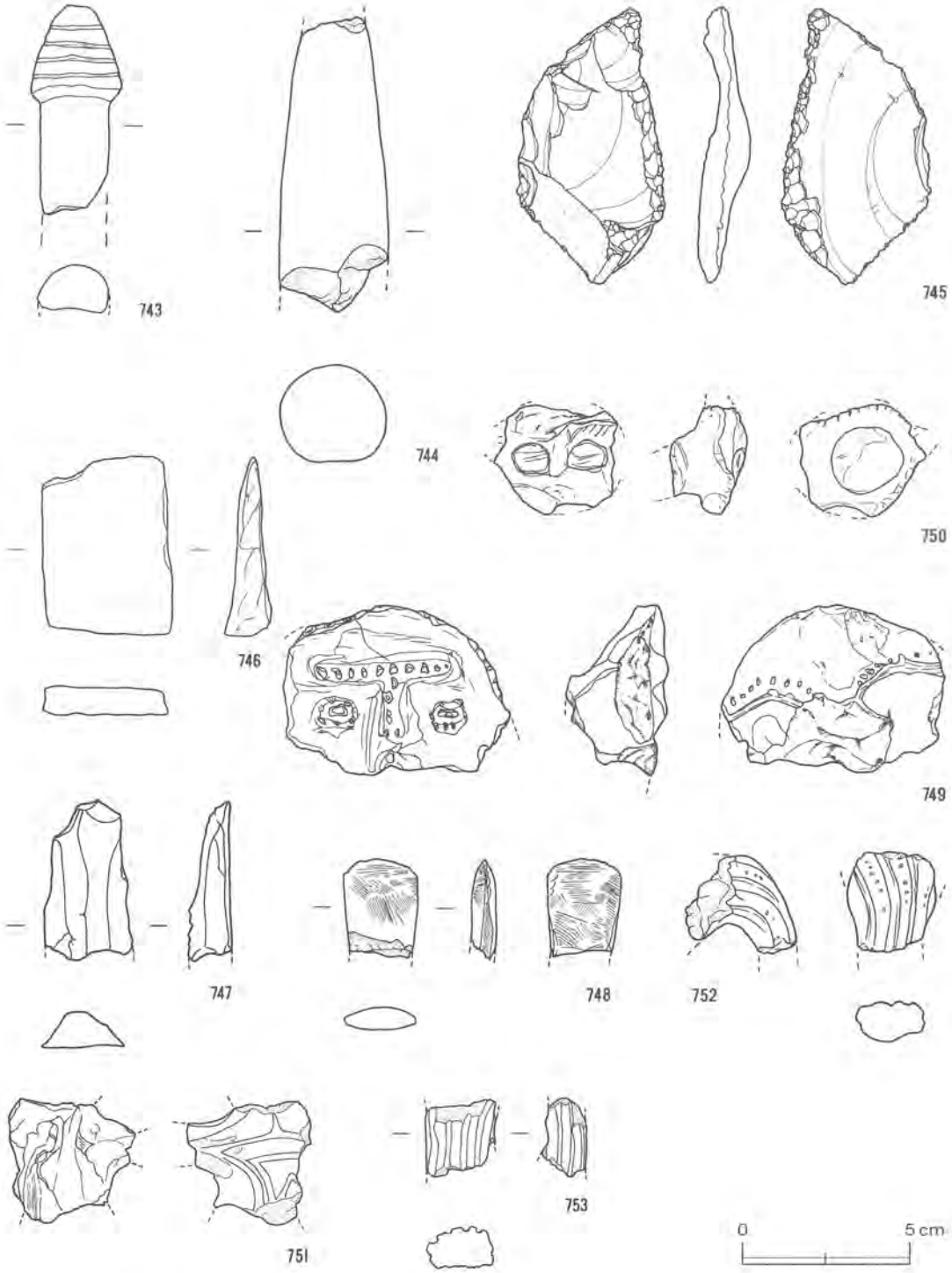

第170図　遺物包含層出土遺物拓影図(4)




第171図　遺物包含層出土遺物拓影図(5)




第172図　遺物包含層出土遺物実測図(6)




第173図　遺物包含層出土遺物実測図(7)

## 第８節　遺構外出土遺物

当調査区の遺構外から出土した遺物について，縄文式土器については，前節の分類に基づいて拓影図で紹介し，他の遺物については一覧表で紹介する。

**縄文式土器拓影図**（第174図）

第２群の土器　縄文時代前期

ｂ類　浮島式に比定される土器

754，755は口縁部片，756は胴部片である。754は，口縁部にやや斜位の刻み目をもち，下位に三角刺突文が施されている。755は波状貝殻文，756は沈線文が施されている。

ｃ類　諸磯ａ式に比定される土器

757は口縁部片，758，759は胴部片である。757は平行沈線文，758は半截竹管文，759は多截竹管文が施されている。

ｇ類　大木５式に比定される土器

760は口縁部片で，山形沈線文が施されている。761は胴部片で，単節の縄文を施し，上位に円形刺突をもつ。

第４群の土器　縄文時代後期

ｂ類　安行Ⅰ式に比定される土器

762は口縁部片で，口縁部に刻み目を施し，下位は条線文が斜行する。763は口縁部片で，隆起帯に縄文が施されている。

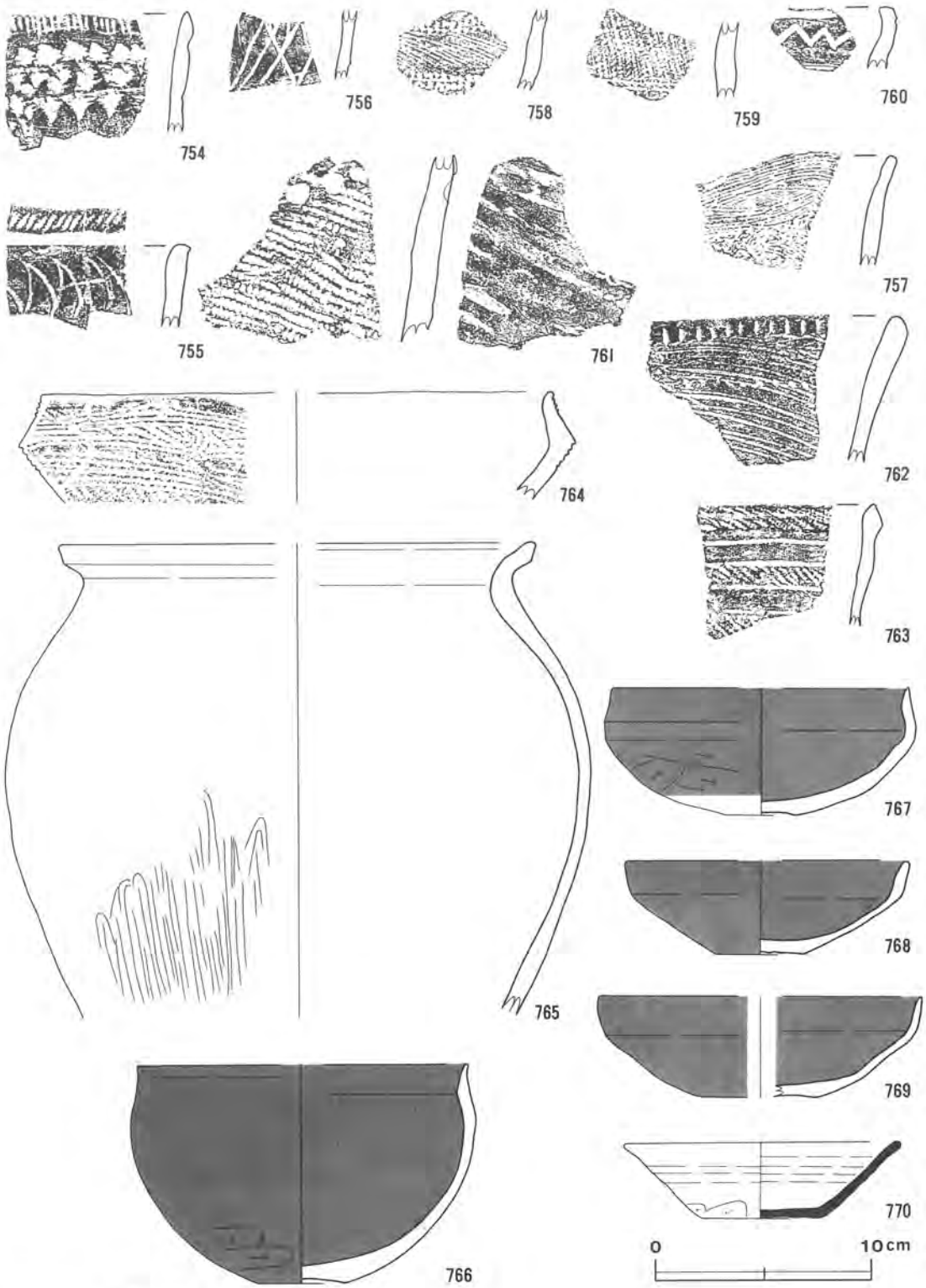
**遺構外出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴及び文様 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第174～177図<br>764 | 深　鉢<br>縄文式土器<br>（諸磯ｂ） | A〔24.2〕<br>B（ 5.2） | 胴部は外傾し，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾し，波状口縁を呈す。平行沈線文を施す。 | 砂粒・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | P 389　5％<br>表採 |

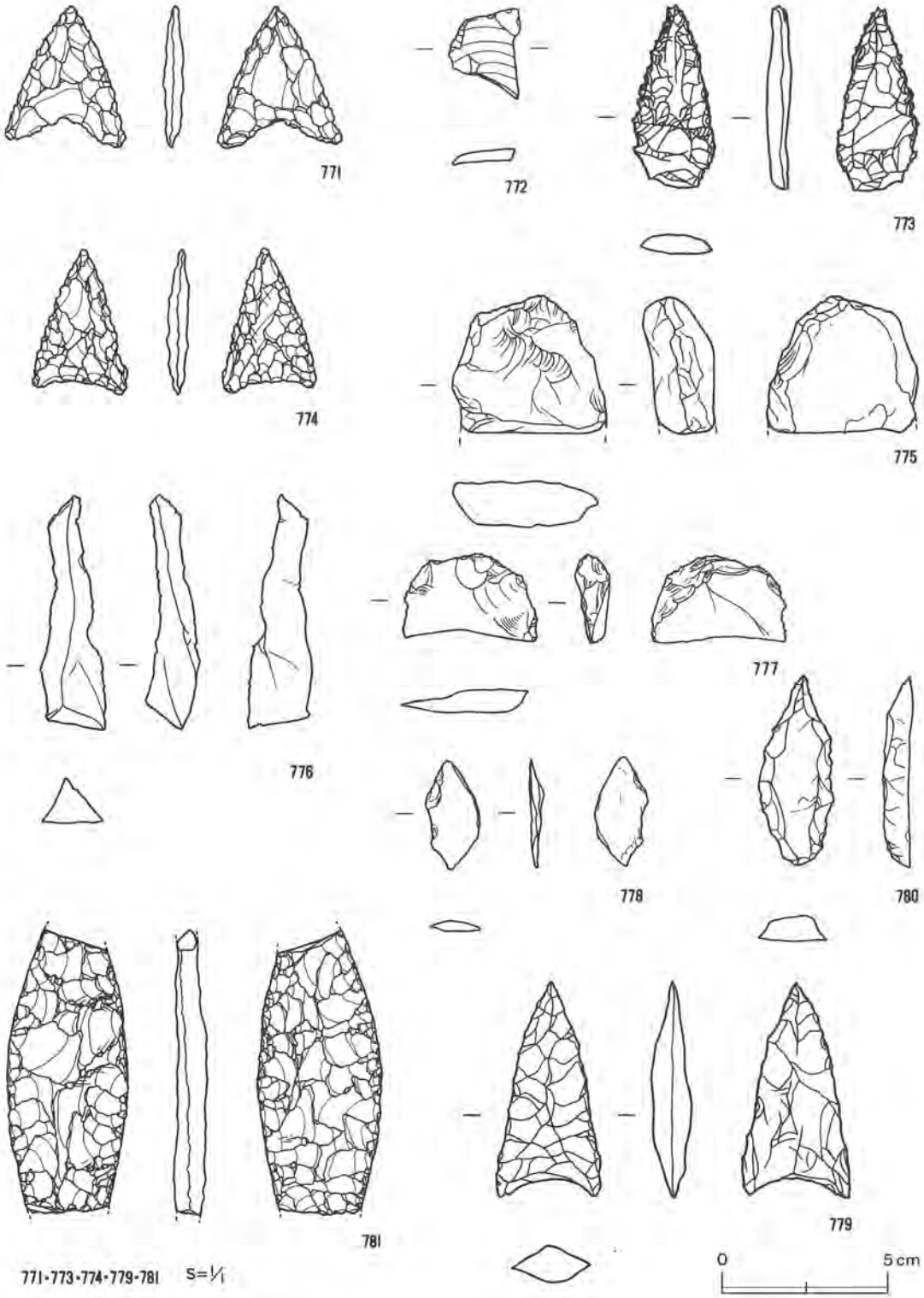
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 765 | 甕<br>土師器 | A〔22.4〕<br>B(22.3) | 胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は外反し，口唇部を外上方につまみ出す。 | 口縁部内・外面及び頸部横ナデ。胴部外面ヘラ磨き，内面ナデ。 | 砂粒・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | P 383　30％<br>表採 |
| 766 | 椀<br>土師器 | A(15.5)<br>B 10.4<br>C　4.2 | 胴部及び口縁部の一部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内そぎ状でほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P 384　70％<br>F 10a3区表採 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 767 | 坏<br>土師器 | A〔13.7〕<br>B 6.0<br>C 3.2 | 底部から口縁部にかけての破片。上げ底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母<br>赤褐色<br>普通 | P385 50%<br>表採 |
| 768 | 坏<br>土師器 | A〔13.3〕<br>B 4.5<br>C 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。上げ底。体部は僅かに内彎して立ち上がり，器厚を増して口縁部に至る。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤色<br>普通 | P386 50%<br>F11区表採 |
| 769 | 坏<br>土師器 | A〔15.0〕<br>B 4.9<br>C( 5.2) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎し，中位でさらに大きく内彎して口縁部に至る。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面肌荒れ。体部外面及び底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒<br>赤褐色<br>普通 | P387 40%<br>F11区表採 |
| 770 | 坏<br>須恵器 | A 12.9<br>B 3.8<br>C 5.6 | 体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。 | 口縁部の内・外面及び体部横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラナデ。 | 砂粒・石英・長石<br>灰色<br>普通 | P388 75%<br>K11a2区表採 |

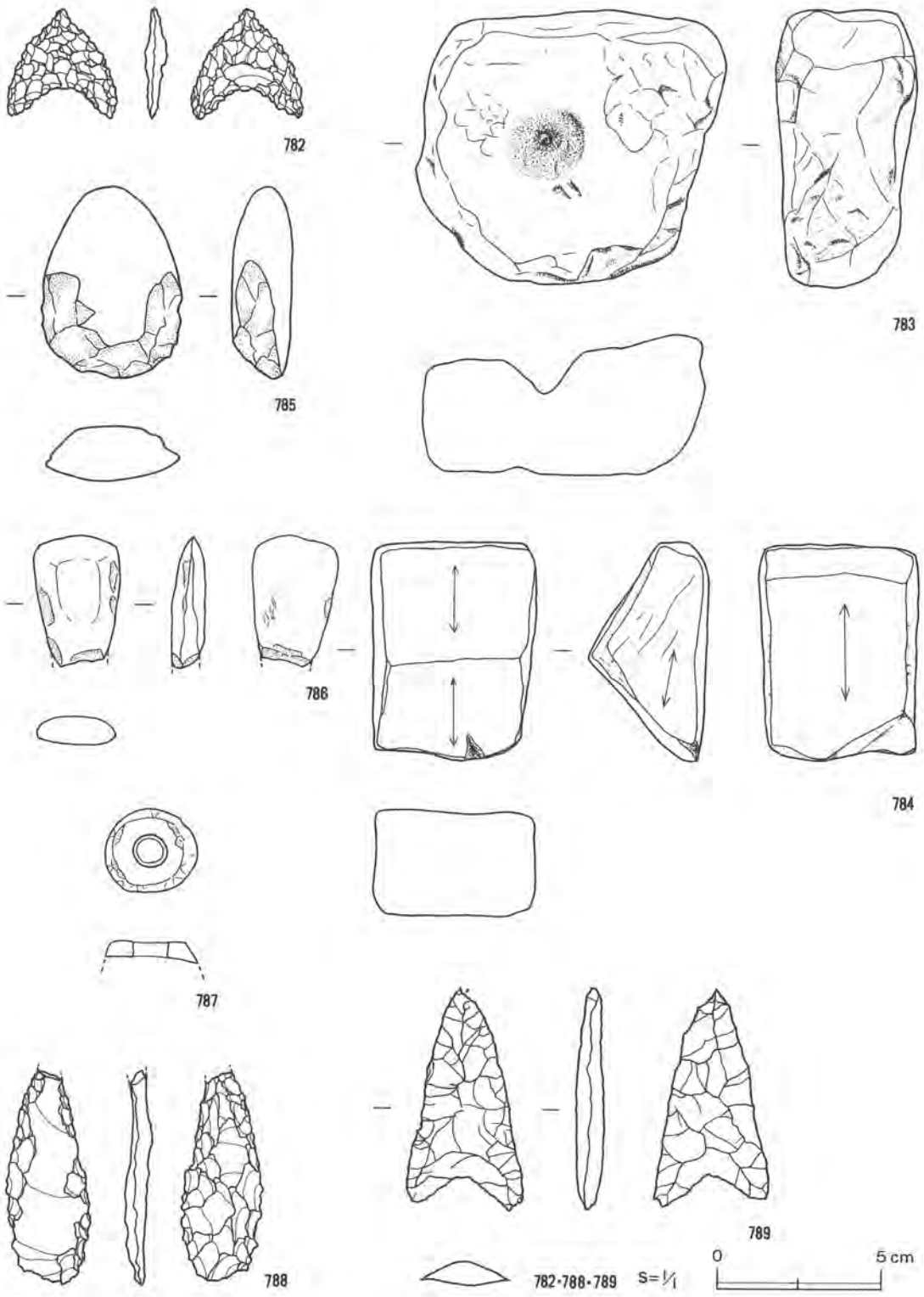
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | | | 孔径 | 重量 | 現存率 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | (mm) | (g) | (%) | | |
| 771 | 石鏃 | 2.2 | 1.9 | 0.3 | --- | 0.9 | 100 | 北東コーナー付近覆土上層 | Q2 頁岩 |
| 772 | 掻器 | 2.8 | 2.2 | 0.6 | --- | 2.1 | 100 | G11区 | Q24 黒曜石 |
| 773 | 石鏃 | ( 2.9) | 1.3 | 0.3 | --- | ( 1.2) | 90 | G11区 | Q31 チャート |
| 774 | 石鏃 | 2.3 | 1.4 | 0.3 | --- | 0.8 | 100 | G11区 | Q32 黒曜石 |
| 775 | 不明石製品 | ( 4.3) | 4.7 | 1.5 | --- | (45.0) | 50 | 中央部覆土中層 | Q48 メノウ |
| 776 | 不明石製品 | 7.3 | 1.9 | 1.7 | --- | 12.8 | 100 | 東コーナー付近覆土上層 | Q49 頁岩 |
| 777 | 掻器 | ( 2.8) | 4.1 | 1.1 | --- | ( 8.2) | 50 | G10区 | Q55 フォルンフェルス |
| 778 | 掻器 | 3.4 | 1.7 | 0.4 | --- | 2.1 | 100 | G10区 | Q56 頁岩 |
| 779 | 石鏃 | 3.4 | 1.6 | 0.6 | --- | 2.3 | 100 | 北コーナー付近覆土下層 | Q59 チャート |
| 780 | 尖頭器 | 5.9 | ( 2.3) | 0.9 | --- | 12.6 | 100 | J9区 | Q186 安山岩 |
| 781 | 尖頭器 | ( 8.9) | 3.8 | 1.1 | --- | (33.5) | 90 | K10a1区 | Q191 頁岩 |
| 782 | 石鏃 | 1.7 | 1.7 | 0.3 | --- | 0.5 | 100 | K10a1区 | Q196 チャート |
| 783 | 凹石 | 8.7 | 9.6 | 4.5 | --- | 484.5 | 100 | 表採 | Q197 流紋岩 |
| 784 | 砥石 | 6.9 | 5.1 | 3.4 | --- | (152.8) | 95 | J9区 | Q198 砂岩 |
| 785 | 礫器 | 6.0 | 4.3 | 1.7 | --- | 62.2 | 100 | 表採 | Q199 硬砂岩 |
| 786 | 磨製石斧 | ( 4.2) | 2.7 | 1.1 | --- | (17.7) | 50 | 表採 | Q200 角閃片岩 |
| 787 | 紡錘車 | ( 2.7) | ( 2.9) | ( 0.7) | 11.0 | ( 4.7) | 30 | 表採 | Q201 フォルンフェルス |
| 788 | 石鏃 | ( 3.4) | 1.4 | 0.5 | --- | ( 1.7) | 95 | 表採 | Q202 フォルンフェルス |
| 789 | 石鏃 | ( 3.5) | 1.3 | 0.4 | --- | ( 2.0) | 95 | J10区 | Q203 頁岩 |
| 790 | 石鏃 | ( 2.3) | 1.6 | 0.4 | --- | ( 1.3) | 90 | 表採 | Q204 黒曜石 |
| 791 | 石鏃 | 2.1 | 1.4 | 0.5 | --- | 1.0 | 100 | 表採 | Q205 フォルンフェルス |
| 792 | 石鏃 | 1.5 | 1.3 | 0.4 | --- | 0.7 | 100 | G10区 | Q206 黒曜石 |
| 793 | 石鏃 | 1.6 | 1.8 | 0.4 | --- | 0.7 | 100 | 表採 | Q207 フォルンフェルス |
| 794 | 臼玉 | 0.4 | 0.4 | 0.2 | 1.0 | 0.1 | 100 | 表採 | Q208 滑石 |
| 795 | ナイフ形石器 | 3.5 | 1.6 | 0.6 | --- | 1.9 | 100 | 表採 | Q209 流紋岩 |
| 796 | 耳飾り | 3.5 | ( 2.0) | 1.8 | --- | ( 9.0) | 50 | 表採 | DP9 |
| 797 | 鉄滓 | 7.0 | 7.1 | 1.0 | --- | 124.8 | 100 | 表採 | M15 |



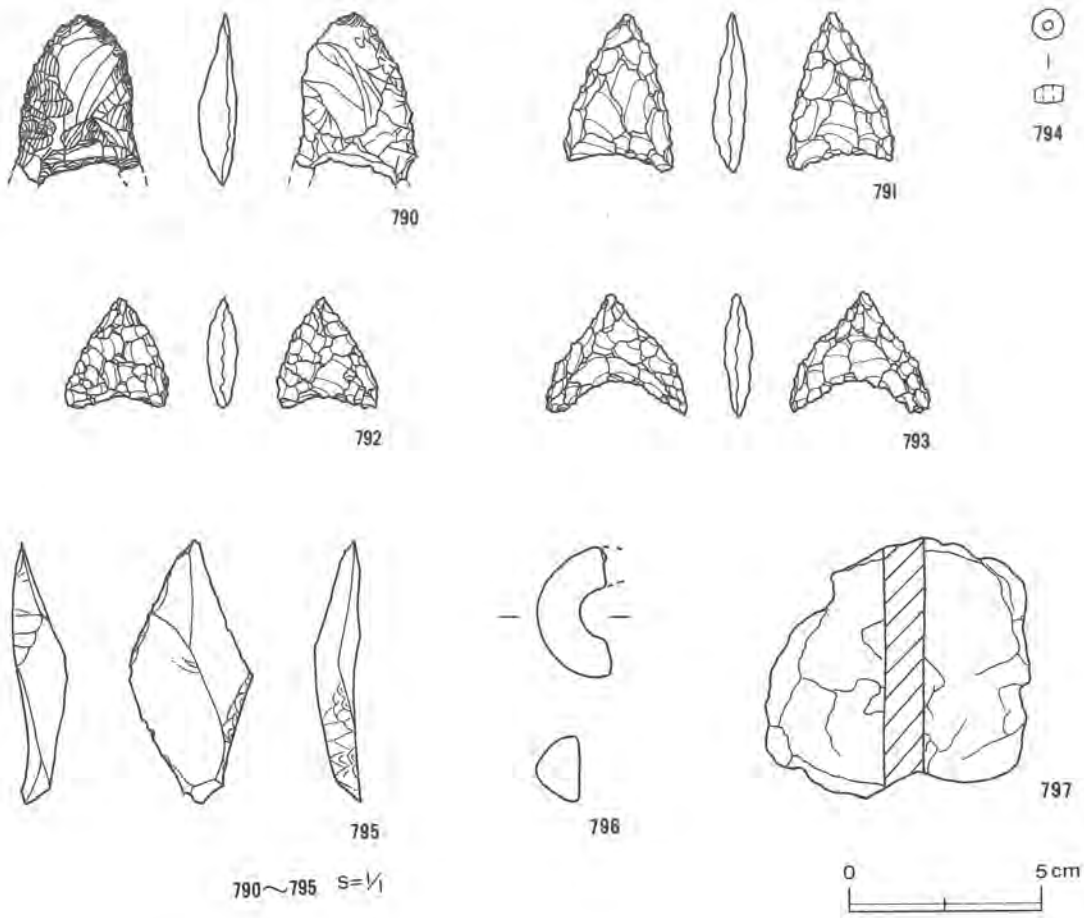

第174図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)




第175図　遺構外出土遺物実測図(2)




第176図　遺構外出土遺物実測図(3)




第177図　遺構外出土遺物実測図(4)

第178図　遺跡全体図

# 第5章　考　　察

当遺跡からは，竪穴住居跡45軒，掘立柱建物跡７棟，土坑85基，古墳１基，炭焼窯跡１基，性格不明遺構２か所が検出された。

本章では，(1)出土土器からみた竪穴住居跡の形態と集落について考察し，(2)古墳時代の間仕切溝をもつ住居跡について分析を試みた。

## 第１節　出土土器からみた竪穴住居跡の形態と集落について

ヤツノ上遺跡から検出された竪穴住居跡は45軒で，出土遺物等から縄文時代５軒，古墳時代29軒，奈良時代１軒，平安時代10軒に大別することができる。ここでは，土器をⅠ～Ⅷ期に区分し，各期ごとに住居跡の特徴を並べ，集落について検討していきたい。なお，第46号住居跡は，削平され，そのうえ出土遺物が細片のために時期を比定することが困難であることから，考察から省いた。

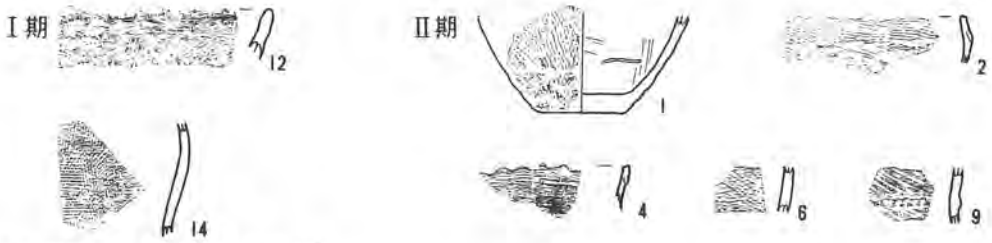
### 1　土器について

Ⅰ期（第179図）

本期に該当する土器は，堀之内式に比定される。器形は深鉢で，沈線による文様が施され，渦巻状を呈するものも見られる。

Ⅱ期（第179図）

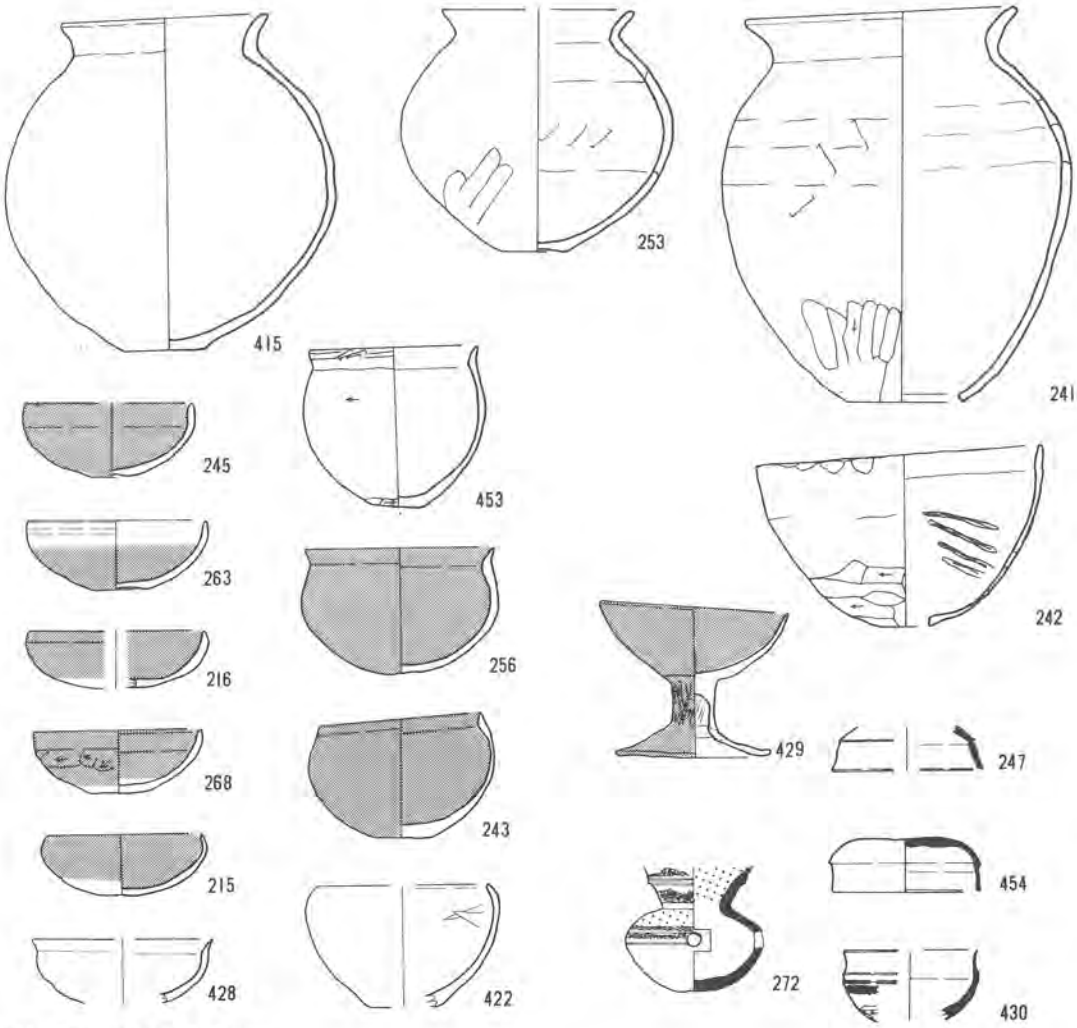
本期に該当する土器は，大洞式に比定される。口縁部は，折り返され，そこに縄文が施されているものが多く，波状口縁のものも見られる。胴部は，縦位回転による付加条縄文が施され，突起や，突起をはさむ沈線が施されているものも見られる。




第179図　Ⅰ・Ⅱ期出土土器

Ⅲ期（第180図）

本期に該当する土器は，土師器の甕，甑，埦，坏，高坏，須恵器の坏蓋，埦，瓶である。土師器の甕は，底部は平底で突出気味であり，球形状を呈し，頸部はくびれ，口縁部は外反する。胴




第180図　Ⅲ期出土土器

部はヘラ削り後にナデ整形が施され，頸部及び口縁部にヘラ削り痕があるものが多い。甑は，無底式と単孔式のものがある。無底式のもは，内彎してやや球形状を呈し，口縁部はくびれをもつ頸部から外反して開く。単孔式のものは，内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。整形はどちらもヘラ削りが施されている。埦は，平底で，内彎しながら立ち上がり，口縁部は短く外反するものが多く，内面に稜をもつものもある。口縁部が内傾するものや，ほぼ直立するものも一部にある。坏は，平底，上げ底，丸底のものがあり，平底のものが多い。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は，内彎するもの，ほぼ直立するもの，外傾するものがあり，口縁部内面，あるいは外面に稜を有するものもある。整形はヘラ削りが施されたものが多く，大部分は内面及び外面が赤彩されている。高坏は，脚部は中位で外反気味に大きく開き，坏部は下位に稜をもち，内彎して立ち上がり，ナデ整形が施され，赤彩されている。

須恵器の坏蓋は，天井部は平坦で内彎して口縁部に至り，口縁部との境に明瞭な稜をもち，端部は内傾する平面をなしている。巻き上げ・水挽き成形で，天井部外面は回転ヘラ削りが施されている。埦は，２条の凸線の下方に４条の櫛描波状文を施し，口唇部は丸味を有している。巻き上げ・水挽き成形で，体部下位はヘラ削り整形が施されている。瑞は，体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔を穿ち，円孔を挟んで沈線及び櫛描刺突文が施されている。頸部から口縁部にかけては外傾して立ち上がり，中位で強い稜をなした後，内彎して外上方に開き，稜の下方に櫛描波状文が施されている。巻き上げ・水挽き成形がなされている。

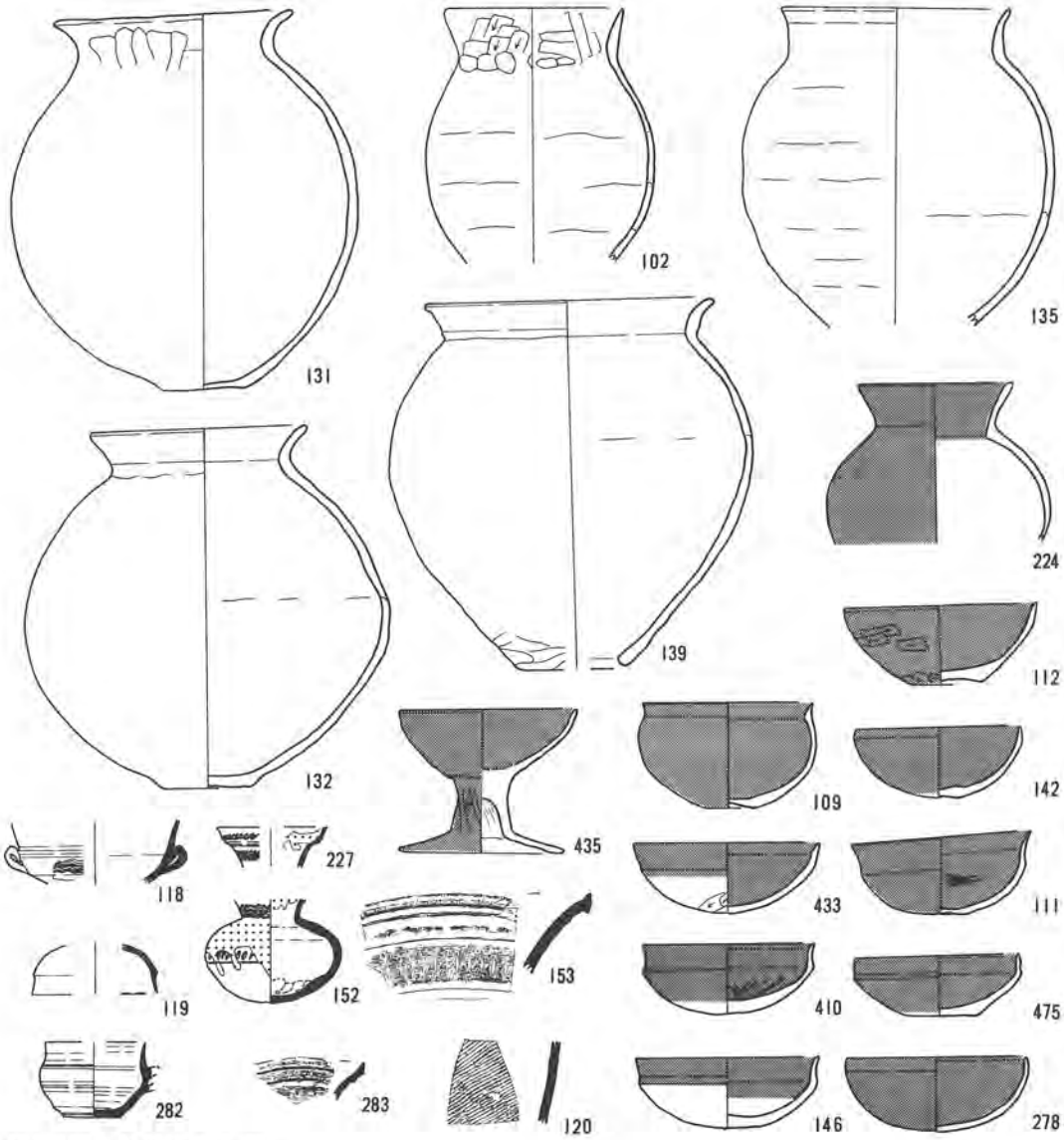
（１）古墳時代和泉期の特徴を持つ土師器の甕，坏が出土していること，（２）高蔵216・208号窯跡（ＴＫ－216・208）出土須恵器と類似点が多く認められる須恵器[1]（272等）が出土していることから，本期は，古墳時代中期（５世紀第３四半期）に位置付けられるものと思われる。

Ⅳ期（第181図）

本期に該当する土器は，土師器の甕，壺，甑，埦，坏，高坏，須恵器の甕，坏蓋，高坏，把手付埦，瑞である。土師器の甕は，底部は平底で突出し，胴部は球形状を呈し，小形のものでは長胴気味のものもある。整形は底部及び胴部外面はヘラ削り後にナデられ，頸部及び口縁部にヘラ削り痕があるものもある。壺は体部は内彎し，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は僅かに外反する。胴部外面は，ヘラ削り後にナデ整形が施されている。甑は，無底式で，胴部は内彎し，頸部上位に小さな段をもち，口縁部は外傾し，口唇部は外反する。整形は胴部内面及び外面ともにヘラナデ後に，ナデられている。埦は前期と同様の状況を呈し，上げ底のものが加わる。坏は，前期とほぼ同様の状況を呈するが，底部は前期に比べ丸底のものが増加し，体部と口縁部との境に前期よりも明確な稜をもつものが増加する。高坏は，前期とほぼ同様の状況を呈するが，坏部の稜は前期に比べ弱くなっている。

須恵器の甕は，胴部外面平行叩き痕，内面に叩きアテ具痕があり，口縁部は櫛描波状文が施されている。坏蓋は，天井部下位は内彎し，明瞭な稜をもち，口縁部は外反し，端部は凹面をなして内傾する。巻き上げ・水挽き成形をしている。高坏は，坏部は内彎して立ち上り，断面円形を呈する把手が付き，櫛描波状文や，凸線が施されている。瑞は，体部は内彎して立ち上がり，中位に２条の沈線をもち，その間に刺突文を施し，頸部から口縁部にかけては前期とほぼ同様の状況を呈する。

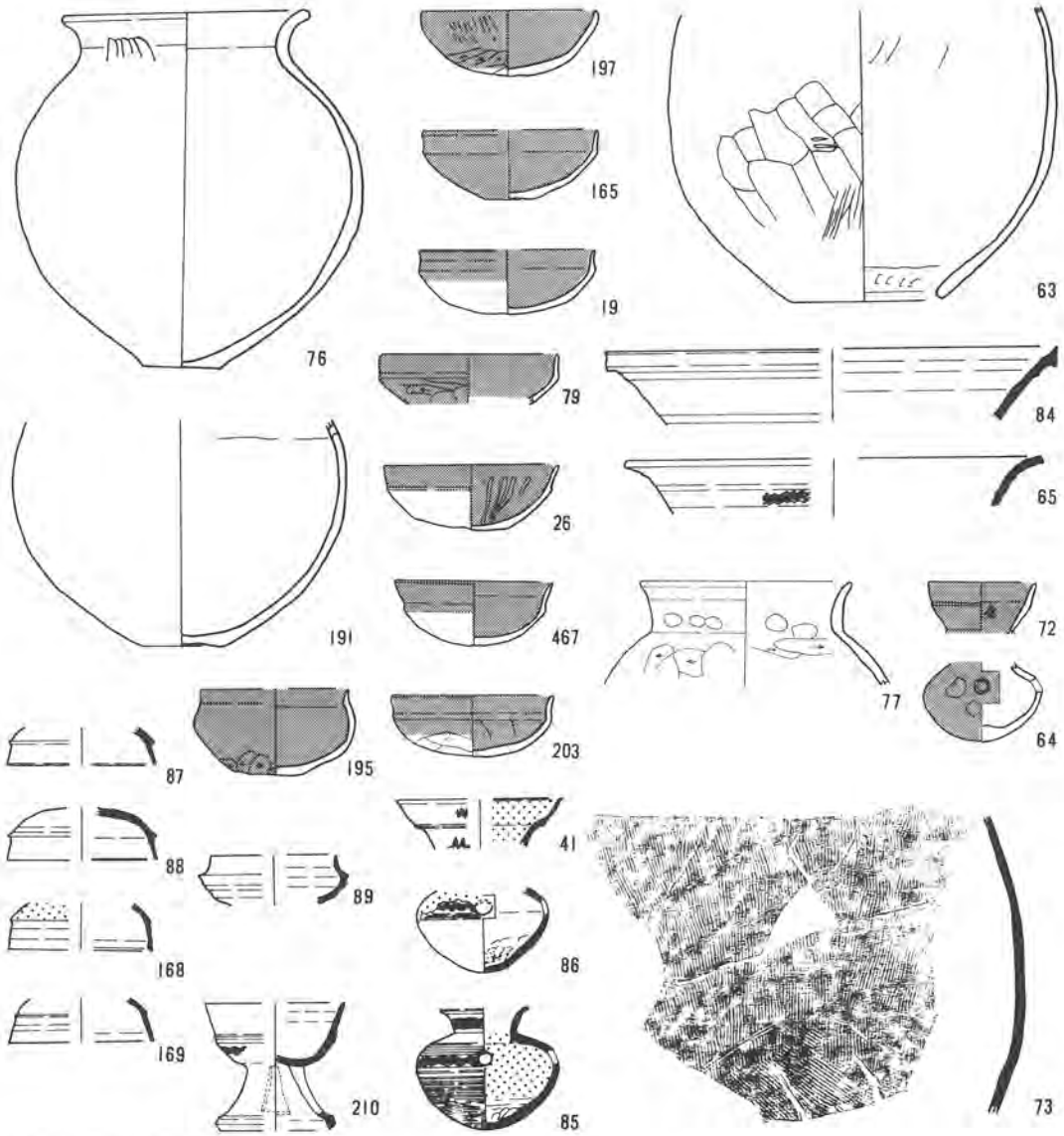
（１）和泉式土器の特徴をもつ土師器の甕・坏とともに，（２）須恵器の坏蓋を模倣した土師器の坏が出土し，（３）ＴＫ－208やＴＫ－23出土須恵器と類似点が多く認められる須恵器[1]（152等）が出土していることから，和泉式土器から鬼高式土器へと変容する過程にあった時期で，本期は，古墳時代中期終末（５世紀第４四半期）に位置付けられるものと思われる。




第181図　Ⅳ期出土土器

Ⅴ期（第182図）

本期に該当する土器は，土師器の甕，甑，埦，坏，鼎，須恵器の甕，坏蓋，坏身，高坏，鼎である。土師器の甕は，前期とほぼ同様の状況を呈するが，上げ底で，突出気味のものもある。甑は，前期とほぼ同様の器形で，胴部外面はヘラ削り整形が施されている。埦は，前期までの流れをくむものの他に，平底で，体部は内彎して立ち上がり，体部内面と口縁部との境に弱い稜をもち，口縁部は外傾し，体部下位にヘラ磨きが施されているものが加わる。坏は，個体数が一番多い器種で，前期とほぼ同様の状況を呈するが，須恵器の坏蓋，あるいは坏身を模倣したと思われる丸底で明瞭な稜をもったものがより増加する。鼎は，体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔




第182図　V期出土土器

を穿ち，口縁部は外傾し，中位に稜をもち，内面及び外面は赤彩されている。

須恵器の甕は，胴部の平行叩き痕，内面に円形叩きアテ具痕をもち，口縁部は櫛描波状文をもつものと無文のものとがある。坏蓋は，体部と口縁部との境の稜が明瞭で鋭いものと，やや鋭さに欠けるものとがある。端部は内傾し，凹面をなすものと，平面をなすものとがある。手法は前期と同様である。坏身は，底部は内彎して立ち上がり，受部に至り，受部はほぼ水平に伸び，端部は尖る。たちあがりは内傾し，端部は内傾する平面をなす。巻き上げ・水挽き成形で，底部外面は，回転ヘラ削りが施されている。高坏は，脚部の裾は僅かに内下方へ屈曲し，坏部外面の中位は凸帯及び櫛描波状文が施されている。巻き上げ・水挽き成形で，坏部外面の下端は，回転へ

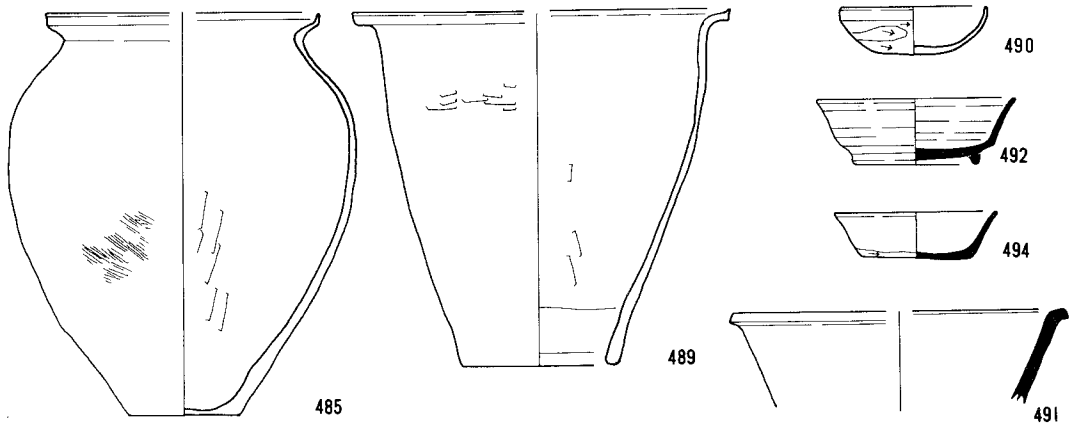
ラ削りが施されている。瑳は，前期と同様で差異は認められない。

（1）須恵器模倣の坏が増加し，（2）TK－208・23・47出土須恵器と類似点が多く認められる須恵器[1]（41等）が出土していることから，本期は，古墳時代中期最終末（6世紀第1四半期）に位置付けられるものと思われる。

Ⅵ期（第183図）

本期に該当する土器は，土師器の甕，甑，坏，須恵器の甑，坏，高台付坏である。土師器の甕は，緩く「く」の字状に屈曲し，口唇部が外上方につまみ出されるもので，底部に木葉痕をもつものもある。甑は，無底式で，胴部は内彎気味で，口縁部は大きく外反し，口唇部を外上方につまみ出し，胴部は内・外面ともにヘラ削り整形が施されている。坏は，丸底で，体部は内彎し，口縁部は直立し，体部外面は手持ちヘラ削り整形が施されている。

須恵器の甑は，胴部は外傾し，口縁部は大きく外反し，胴部は叩き整形が施されている。坏は，平底で，体部は外傾し，底部及び体部下端は丁寧な手持ちヘラ削りが施されている。高台付坏は，平底で，やや「ハ」の字状に開く高台が貼り付けられている。本期は奈良時代（8世紀後葉）に位置付けられるものと思われる。

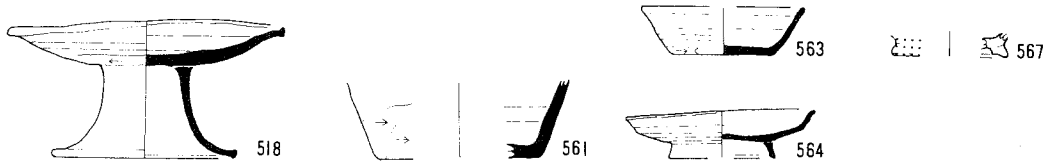



第183図　Ⅵ期出土土器

Ⅶ期（第184図）

本期に該当する時期は，須恵器の甕，坏，高盤，高台付盤，陶器の短頸壺である。須恵器の甕は，平底で，胴部は外傾して立ち上がり，底部及び胴部外面はヘラ削り整形が施されている。坏は，体部はほぼ直線的に外傾し，底部及び体部下端は回転ヘラ削り，あるいは，手持ちヘラ削り整形が施されている。高盤は，脚部は緩やかに外反し，裾部は大きく反り返り，口縁部はほぼ垂直に屈曲し，盤部下端は回転ヘラ削り整形が施されている。高台付盤は，「ハ」の字状に開く高台が付き，底部は回転ヘラ削り整形後，高台が貼り付けられている。陶器の短頸壺は，外開きの高台が，太く力強く裾が張り，胎土や釉の色調から灰釉陶器である。器形の特徴も考えあわせる

と，猿投窯出土のものと判断できる。本期は，須恵器の出土が多くなる時期で，猿投窯出土の短頸壺（灰釉陶器）を出土することから，平安時代前期（９世紀前葉）に位置付けられるものと思われる。

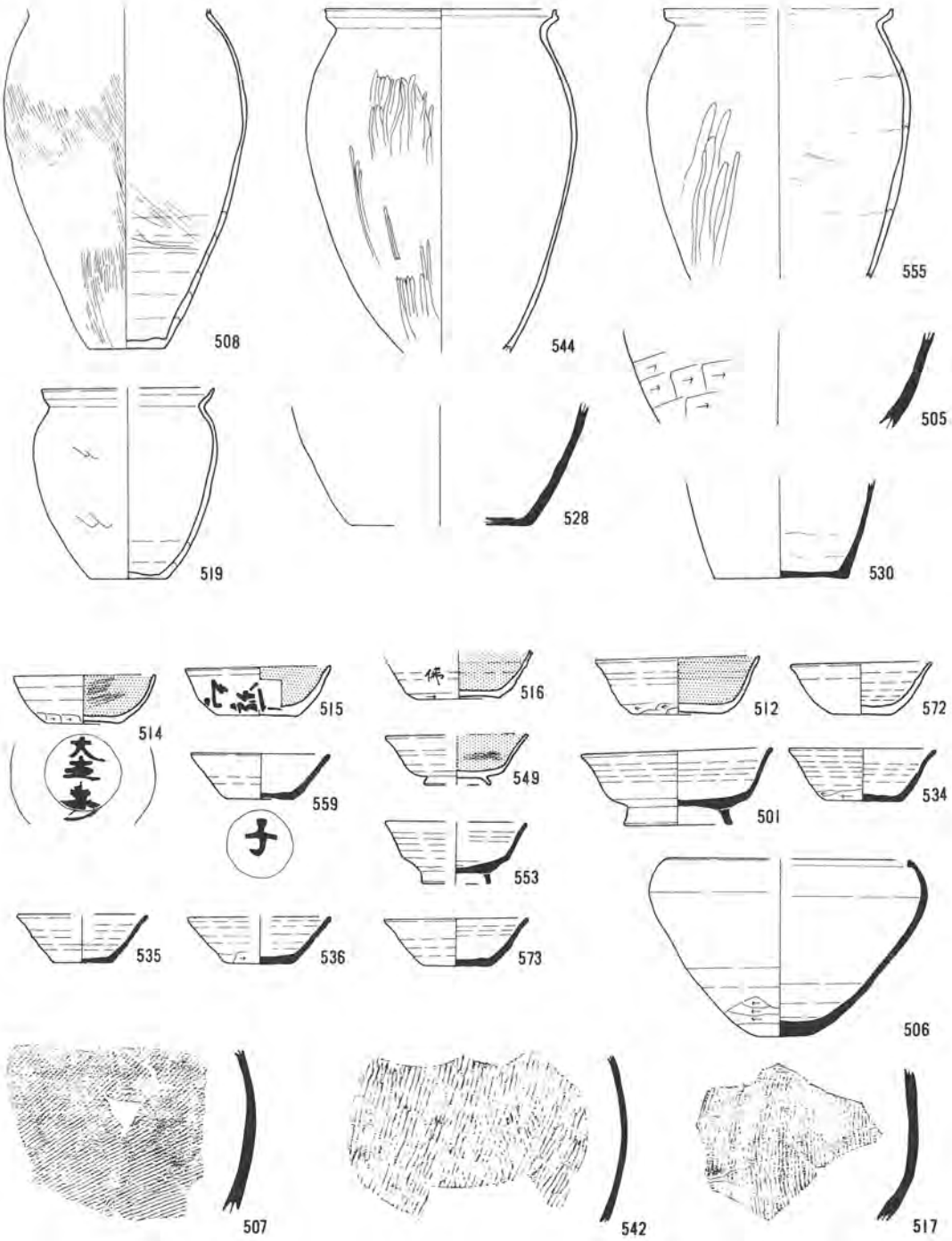



第184図　Ⅶ期出土土器

Ⅷ期（第185図）

本期に該当する土器は，土師器の甕，坏，高台付坏，須恵器の甕，鉢，坏，高台付坏である。土師器の甕は，頸部は「く」の字状に屈曲し，胴部上位に最大径をもち，前期に比べより長胴化し，ヘラ削り整形後，ヘラ磨き等を施している。坏は，底部は回転糸切りないし，回転ヘラ切りによる切り離しで，体部はほぼ直線的に外傾し，口縁部は僅かに外反するものが多く，一部に僅かに内彎しながら立ち上がるものがある。体部下端はヘラ削り整形が施されている。高台付坏は，「ハ」の字状に開く高台が付き，体部は外傾し，口縁部は僅かに外反し，回転糸切りによる切り離しをおこない，体部下端は回転ヘラ削りが施されている。坏，高台付坏は，内面がヘラ磨き整形後，黒色処理がなされているものが多く，底部や体部には墨書されているものもある。

須恵器の甕は，平底で内彎気味に立ち上がり，底部及び胴部外面ヘラ削り整形されているもの，あるいは，胴部外面に平行叩き目が残されているものがある。鉢は，平底で，胴部は僅かに内彎しながら立ち上がるもの，あるいは，小さな底部で，胴部は大きく内彎気味に立ち上がり，口縁部が内傾するもので，体部下端は，ヘラ削り整形が施されている。坏は，前期に比べて口径と底径ともに小さくなり，器高が高くなる。底部は回転ヘラ切り，体部下端は手持ちヘラ削り整形されるものが大部分である。高台付坏は，「ハ」の字状に開く高台が付き，体部は内彎気味に立ち上がるもの，あるいは，直線的に外傾するものがあり，口縁部は，僅かに外反する。底部は回転糸切り，あるいは，回転ヘラ切りが行われ，高台が貼り付けられている。本期は前期に比べ土師器の占める割合が増加しており，平安時代の前期（９世紀後葉）に位置付けられるものと思われる。




第185図　Ⅷ期出土土器

## 2　住居跡の形態と集落について（第186～192図）

**Ⅰ期**　縄文時代後期（前葉）

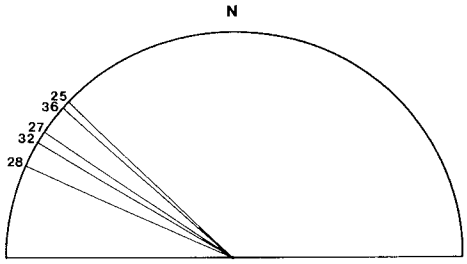
第45号住居跡が当該期に属し，調査区の中央部から検出されている。平面形は，古墳時代の住居に掘り込まれているが，楕円形を呈している。床面積は約22㎡である。床面から炉は検出されていない。３か所の主柱穴が検出されている。

**Ⅱ期**　縄文時代晩期（後葉）

第８・41・42号住居跡の３軒が当該期に属する。平面形は，楕円形が２軒（第８・41号），円形が１軒（第42号）である。床面積は，10㎡未満が１軒（第８号），10㎡以上～15㎡未満が１軒（第８号），35㎡以上～40㎡未満が１軒（第42号）である。炉は地床炉で，第41・42号住居跡から検出されている。主柱穴は，第８号住居跡で14か所，第41号住居跡で６か所，第42号住居跡で３か所検出されている。第41号と第42号の住居跡は，隣接して検出され，そこから南方へ約40ｍの位置に第８号住居跡が検出されている。当該期の集落は，調査区の中央部から南部にかけての舌状台地中央部の先端部寄りに形成されていたと思われる。

**Ⅲ期**　古墳時代中期（５世紀第３四半期）

第25・27・28・32・36号住居跡の５軒が当該期に属する。平面形は，すべて方形(第27号は推定)を呈し，床面積は35㎡以上～40㎡未満が１軒（第28号），40㎡以上～50㎡未満が２軒（第25・36号），50㎡以上～60㎡未満が１軒（第27号，推定値），100㎡以上～110㎡未満が１軒（第32号）である。



第186図　Ⅲ期主軸方向

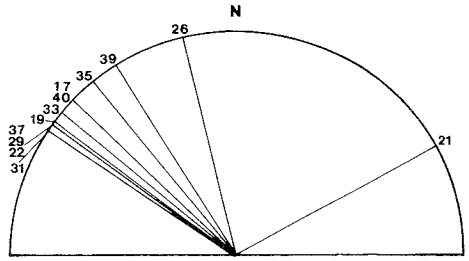
主軸方向は，Ｎ－46°～66°－Ｗで，すべての住居跡から地床炉が検出され，１基が１軒（第28号），２基が３軒（第25・27・36号），４基が１軒（第32号）である。住居跡における炉の位置は，大部分が住居跡の中央から北西，あるいは北東寄りに検出されている。主柱穴は，第25・27・28・36号住居跡で４か所，第32号住居跡で８か所検出されている。壁溝は，全周している住居跡が３軒（第25・27・36号），部分的に検出された住居跡が２軒（第28・32号）である。間仕切溝は，すべての住居跡から検出されている（７条～10条）。出入口部の床面の高まりは，第32号住居跡を除く各住居跡から，馬蹄形状（第25・28・36号），あるいは不定形（第27号）を呈し，すべて南東壁に接する位置に検出されている。梯子ピットは，第27号住居跡を除く各住居跡に検出されている。貯蔵穴は，すべての住居跡から検出され，１基が３軒（第25・27・28号），２基が１軒（第32号），３基が１軒（第36号）で，多くが東コーナー及び南コーナーに設置されている。焼失家屋は，第32号住居跡を除く各住居跡と思われる。

当該期の集落は，調査区の中央部の標高25ｍの舌状台地上に，南方に口を開くかたちで馬蹄形

状に形成されていたものと思われる。

Ⅳ期　古墳時代中期（５世紀第４四半期）

第17・19・21・22・26・29・31・33・35・37・39・40号住居跡の12軒が当該期に属する。平面形は，方形が７軒（第19・26・29・33・35・37・40号），長方形が５軒（第17・21・22・31・39号）である。床面積は，10㎡未満が５軒（第17・22・26・35・39号，第35号は推定値），20㎡以上～25㎡未満が１軒（第31号），30㎡以上～40㎡未満が３軒（第21・37・40号），80㎡以上～90㎡未満が１軒（第33号），90㎡以上～100㎡未満が１軒（第19号，推定値），110㎡以上～120㎡未満が１軒（第29号）である。主軸方向は，N－13°～56°－Wで，第21号住居跡はN－61°－Eである。地床炉は，第17・22・26号住居跡を除いて検出され，１基が４軒（第31・35・39・40号），２基が２軒（第21・37号），３基が２軒（第29・33号），４基が１軒（第19号）である。住居跡における炉の位置は，大部分が住居跡の中央から北西寄りの位置に検出されている。主柱穴は，第37・40号住居跡で４か所，第21号住居跡で６か所，第19・29・33号住居跡で８か所検出されている。壁溝は，全周している住居跡が３軒（第33・37・40号），一部を除いて回っている住居跡が４軒（第19・21・29・31号），一部分で検出された住居跡が１軒（第39号）である。間仕切溝は，７軒（第19・21・29・31・33・37・40号）の住居跡に検出されている（１条～16条）。出入口部の床面の高まりは，６軒の住居跡に検出され，馬蹄形状（第19・29・33・37号），あるいは半円形状（第31・40号）を呈し，すべて南東壁に接する位置に検出されている。梯子ピットは，５軒（第19・21・29・37・40号）の住居跡に検出されている。貯蔵穴は，９軒の住居跡に検出され，１基が７軒（第21・26・29・33・37・39・40号），２基が２軒（第19・31号）で，半数は南コーナーに設置されている。焼失家屋は，４軒（第19・29・33・37号）と思われる。

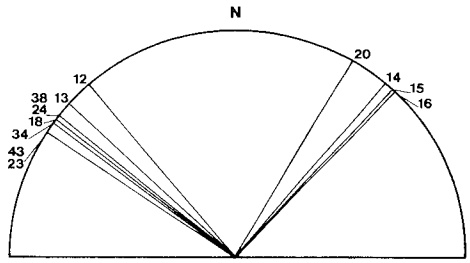


第187図　Ⅳ期主軸方向

当該期の集落は，調査区の中央部に，第19・29・33号の大形住居跡を中心として，標高24.5ｍ～25.0ｍの舌状台地に形成されていたものと思われる。

Ⅴ期　古墳時代中期（６世紀第１四半期）

第12・13・14・15・16・18・20・23・24・34・38・43号住居跡の12軒が当該期に属する。平面形は，方形が７軒（第13・18・20・23・24・34・43号），長方形が５軒（第12・14・15・16・38号）である。床面積は，10㎡未満が２軒(第15・20号)，10㎡以上～15㎡未満が３軒（第14・16・34号），



第188図　Ⅴ期主軸方向

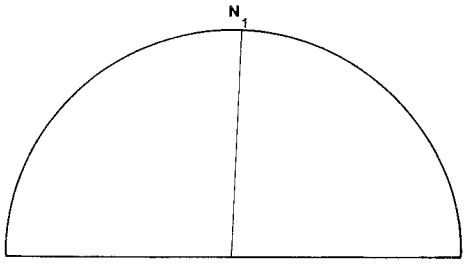
30㎡以上～40㎡未満が２軒（第12・38号），60㎡以上～70㎡未満が２軒（第23・24号），70㎡以上～80㎡未満が３軒（第13・38・43号）である。主軸方向は，N－40°～56°－W，N－30°～43°－Eである。地床炉は，第15・20・43号住居跡を除いて検出され，１基が５軒(第13・14・16・18・38号)，２基が４軒（第12・23・24・34号）である。住居跡における炉の位置は，大部分が住居跡の中央から北西寄りの位置に検出されている。主柱穴は，第34号住居跡で３か所，第38号住居跡で４か所，第43号住居跡で６か所，第24号住居跡で７か所，第13・18・23号で８か所検出されている。壁溝は，全周している住居跡が３軒（第18・23・24号），一部を除いて回っている住居跡が３軒（第13・38・43号）である。間仕切溝は，６軒（第13・18・23・24・38・43号）の住居跡に検出されている（５条～25条)。出入口部の床面の高まりは，８軒の住居跡に検出され，馬蹄形状(第13・16・18・24・34・38号），あるいは不定形（第20・23号）を呈し，南東壁に接する位置に検出された住居跡が６軒（第13・18・23・24・34・38号），北西壁に接する位置に検出された住居跡が２軒（第16・20号）である。梯子ピットは，８軒（第13・15・16・18・20・23・24・34号）の住居跡に検出されている。貯蔵穴は，すべての住居跡に検出され，１基が６軒（第12・13・18・23・34・43号），２基が４軒（第14・15・20・24号），３基が２軒（第16・38号）で，大部分がコーナー部（特に南コーナーに多い）に設置されている。焼失家屋は，３軒（第13・18・23号）と思われる。

当該期の集落は，調査区の北部を中心に中央部へ広がるように，標高24.5ｍ前後の舌状台地に形成されていたものと思われる。

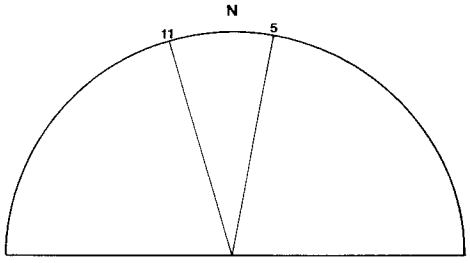
**Ⅵ期**　奈良時代（８世紀後葉）

第１号住居跡が当該期に属し，調査区の南西部から検出されている。平面形は，方形を呈し，床面積は約10㎡である。主軸方向はN－２°－Eで，北壁に竈が付設されている。４か所の主柱穴が検出されている。

当該期の集落は，調査区の南部の舌状台地の先端部付近に形成されている。



第189図　Ⅵ期主軸方向



第190図　Ⅶ期主軸方向

**Ⅶ期**　平安時代前期（９世紀前葉）

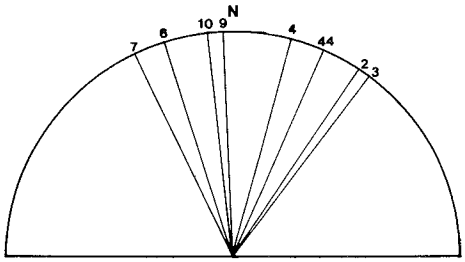
第５・11号住居跡の２軒が当該期に属する。平面形は，方形を呈するもの（第５号）と長方形を呈するもの（第11号)があり，床面積は約８㎡(第５号）と約13㎡（第11号）である。主軸方向はN－11°～16°－Eで，竈は北東コーナー（第５号）と

北壁（第11号）に付設されている。主柱穴は，第11号住居跡で４か所検出されている。

当該期の集落は，調査区の南部の舌状台地の先端部付近に形成されていたものと思われる。

**Ⅷ期**　平安時代前期（９世紀後葉）

第２・３・４・６・７・９・10・44号住居跡の８軒が当該期に属する。平面形は方形が３軒（第２・４・44号，第２号は推定形），長方形が５軒（第３・６・７・９・10号）である。床面積は，10㎡未満が２軒（第２号・推定値，第４号），10㎡以上～15㎡未満が４軒（第３・７・10・44号），15㎡以上～20㎡未満が１軒（第９号），20㎡以上～25㎡未満が１軒（第６号）である。主軸方向は，N－15°～37°－E，N－２°～25°－Wで，竈はすべての住居跡の北東壁，北壁，北西壁に付設され，第９号住居跡では東壁にも付設した痕跡が検出されている。主柱穴は，第９号住居跡で１か所，第10号住居跡で２か所，第６・44号住居跡で４か所検出されている。



第191図　Ⅷ期主軸方向

当該期の集落は，調査区の南部の舌状台地の先端部付近の平坦部から傾斜地にかけて，広く点在するかたちで形成されていたものと思われる。

## 3　古墳時代の住居跡の性格について

当遺跡から検出された29軒の古墳時代の住居跡は，３期（Ⅲ～Ⅴ期）に区分し，５世紀第３四半期から６世紀第１四半期に至る約75年間に比定されるものと判断した。ここでは，この「75年間」の性格について考えてみたい。

29軒の住居跡から出土した器種の構成を時期別にみると（表４），土師器の坏や甕が大きい割合を占め，壺や高坏の割合は極めて小さいことから，鬼高期のものと思われる。土師器の坏は，和泉期の特徴をもつものとともに，丸底で稜をもつ等の須恵器を模倣したと思われる鬼高期のものが出土し，表５からわかるようにⅢ～Ⅴ期へ

**表４　古墳時代の時期別出土土師器器種構成表**

| | Ⅲ期（５世紀第３四半期） | | Ⅳ期（５世紀第４四半期） | | Ⅴ期（６世紀第１四半期） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 器　種 | 個数 | 割合(％) | 個数 | 割合(％) | 個数 | 割合(％) |
| 甕 | 23 | 37.1 | 27 | 33.3 | 29 | 28.4 |
| 壺 | 1 | 1.6 | 3 | 3.7 | 2 | 2.0 |
| 甑 | 3 | 4.8 | 2 | 2.5 | 1 | 1.0 |
| 鉢 | 0 | 0 | 2 | 2.5 | 0 | 0 |
| 埦 | 10 | 16.1 | 12 | 13.6 | 7 | 6.9 |
| 坏 | 24 | 38.8 | 32 | 39.5 | 57 | 55.8 |
| 高　坏 | 1 | 1.6 | 1 | 1.2 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 3 | 3.7 | 6 | 5.9 |

**表５　須恵器模倣坏の出土割合**
（丸底あるいは体部と口縁部との境に稜をもつもの）

| | 坏の総数 | 須恵器模倣坏数 | 割合(％) |
|---|---|---|---|
| Ⅲ期 | 24 | 8 | 33.3 |
| Ⅳ期 | 32 | 18 | 56.3 |
| Ⅴ期 | 57 | 34 | 59.6 |

と進む程に，鬼高期の坏の割合が増加している。したがって，和泉期から鬼高期へ変容する過渡期のものと思われる。

29軒の住居跡は，平面形は方形，あるいは長方形を呈し，規模は大小様々で，主軸方向は真北から約45°西あるいは東にずれ，多くが炉を１基又は数基もっている。従来，炉にかわって竈が付設されるようになると，古墳時代後期であると考えられてきた。したがって，当遺跡の住居跡では，炉を有して竈をもっていないことから，古墳時代中期以前の住居跡と思われる。

当遺跡の古墳時代29軒の住居跡は，炉を有して古墳時代中期の特徴をもちながら，鬼高期の特徴をもつ土器を伴出している。土器の様相だけで判断すると，Ⅳ・Ⅴ期は古墳時代後期ということができるが，和泉式土器から鬼高式土器への変化に比べ，炉から竈への変化の方が屋内の使用方法を変革する結果となるなど生活に与える影響が大きいと思われるので，29軒の住居跡はすべて古墳時代中期と判断したい。

したがって，当遺跡の古墳時代は，６世紀第１四半期まで続き，Ⅴ期は，すでに鬼高期の土器を伴出していることから，古墳時代中期最終末期で，古墳時代後期の直前と理解したい。

以上のことから当調査区から検出された住居跡は，Ⅰ～Ⅷ期に区分することができ，当地区の集落は，縄文時代から始まり，弥生時代の空白を経て，古墳時代，奈良・平安時代と続いたものと思われる。縄文時代の集落は，後期が１軒，晩期が３軒で，舌状台地の標高24.5ｍ～25.0ｍの範囲の平坦地の南部に形成されている。古墳時代の集落は，５世紀第３四半期が５軒，続く第４四半期が13軒，６世紀第１四半期が11軒で，平坦地の全域に広がって形成されている。奈良・平安時代の集落は，奈良時代が１軒，平安時代の８世紀から９世紀初めが２軒，９世紀後半が８軒で，舌状台地先端部付近の平坦部から傾斜地にかけて形成されている。ヤツノ上遺跡における集落の変遷をみてみると，舌状台地平坦部の南方から始まり，時間の経過とともに平坦部に沿って北方に進み，奈良・平安時代になると舌状台地先端部の傾斜地にもどるようなかたちで形成されていることがわかる。

**注・参考文献**

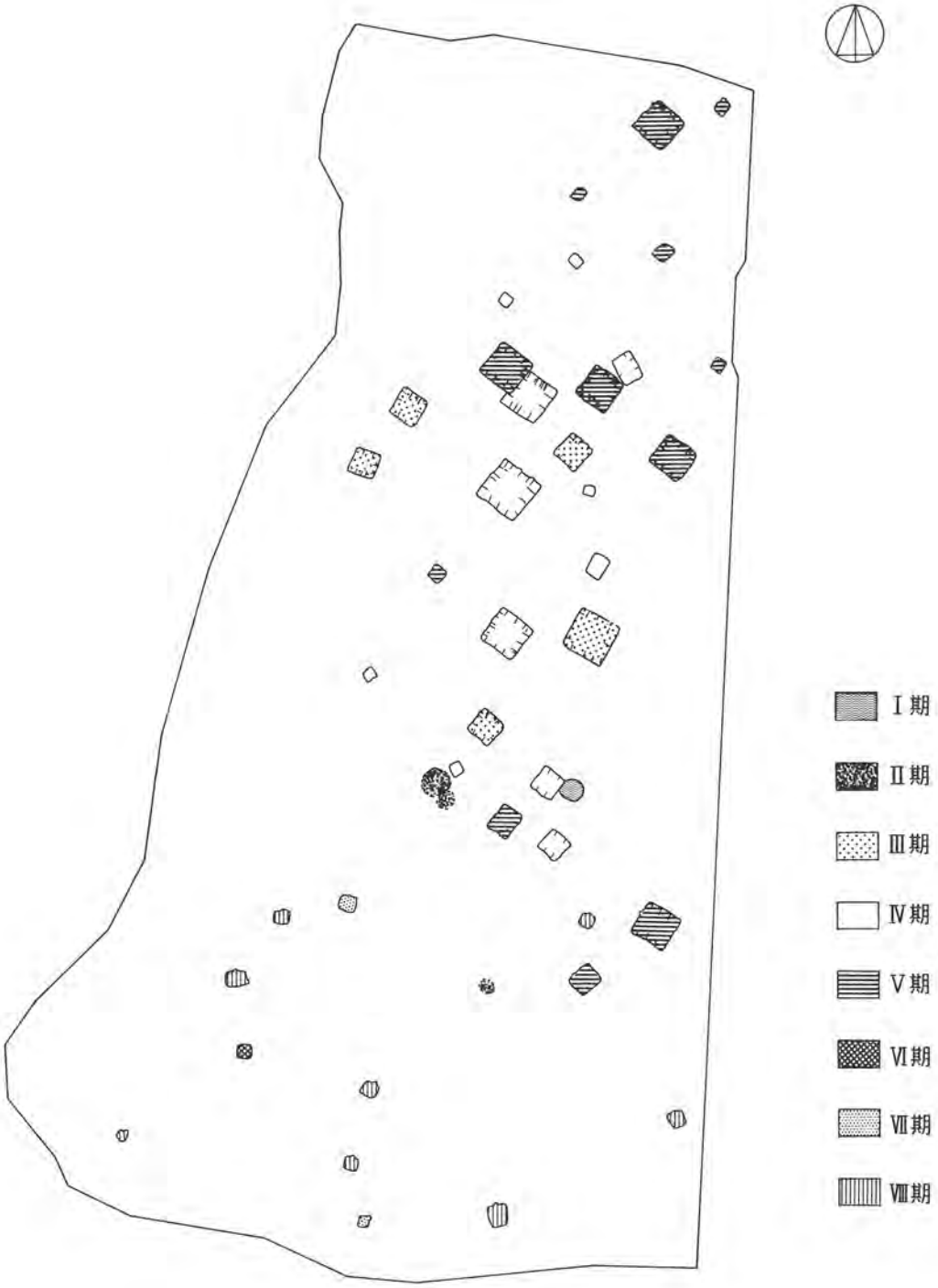

（１） 胎土分析（附章１参照）によると，大阪陶邑窯跡で生産された可能性が強い。

（２） 「向台Ⅱ遺跡」㈶印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第48集 1991年

（３） 橋本澄朗外「関東地方の土器様相」シンポジウム『福島県に於ける古代土器の諸問題』万葉の里シンポジウム実行委員会・鹿島町教育委員会 1989年

（４） 坂口一「東国須恵器の一様相」『考古学雑誌 第74巻 第１号』日本考古学会 1988年

（５） 坂口一「土器型式変化の要因」『研究紀要８』㈶群馬県埋蔵文化財事業団 1991年



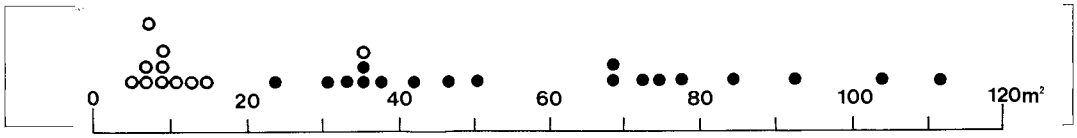

第192図　集落変遷図

(6) 坂口一「荒砥北三木堂遺跡出土の土師器と須恵器の編年」㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第110集 1991年
(7) 川井正一「龍ヶ崎市域における古墳時代集落の変遷について（上）」『龍ヶ崎市史研究第6号』 1992年
(8) 『古墳時代土器の研究』古墳時代土器研究会 1984年
(9) 茨城県教育財団「奥山A遺跡・奥山C遺跡・西原遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第31集 1986年
(10) 茨城県教育財団「平台遺跡」 茨城県教育財団文化財調査報告 第19集 1983年
(11) 茨城県教育財団「成沢遺跡・屋代A遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告 XⅣ 1982年
(12) 茨城県教育財団「北郷C遺跡・森戸遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告 第55集 1990年
(13) 樫村宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル 342』 1992年
(14) 森原明廣「関東地方におけるカマド初現をめぐって」『研究紀要6』山梨県立考古博物館 1990年
(15) 史館同人会「シンポジウム資料 房総における奈良・平安時代の土器」 1983年
(16) 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)」『研究ノート 創刊号』㈶茨城県教育財団 1992年

## 第2節　間仕切溝について

当調査区からは，45軒の竪穴住居跡が検出されているが，そのうち18軒の住居跡に間仕切溝がある。ここでは，間仕切溝について若干の検討を加えていきたい。

間仕切溝をもつ住居跡は，すべて古墳時代中期（5世紀第3四半期～6世紀第1四半期）であり，この時期の全住居跡（29軒）の約62％にあたる（表6）。この間仕切溝をもった18軒の住居跡についてみてみると，(1)主軸方向は，第21号住居跡を除くと，座標北から見て西に45°前後傾いている（17軒・94％）。(2)南東壁際に，出入口部の床面の高まりをもつ（15軒・83％）。(3)出入口部に相対する北西壁寄りに炉をもつ（16軒・約89％）。(4)コーナー部に貯蔵穴をもつ（18軒・100％）。(5)4か所，あるいは8か所の主柱穴をもつ（14軒・78％）。(6)面積は約23㎡をこえ，古墳時代中期の住居跡の中では，大形住居跡である（第12号住居跡を除くと，23㎡の住居跡は間仕切溝をもち，23㎡未満のそれは間仕切溝をもたないことがわかる。第193図）。18軒の住居跡から検出された間仕切溝についてみてみると，次のようである。(1)主柱穴で囲まれた部分の外側に検出されている（第18号住居跡の「m」を除く）。(2)検出された間仕切溝の総数は185条で，南東壁




第193図　古墳時代の住居跡の面積構成（●は間仕切溝住居跡）

際に30条（16.2％），南西壁際に54条（29.2％），北西壁際に35条（18.9％），北東壁際に66条（35.7％）で，北東壁際と南西壁際に多く検出されている。(3)間仕切溝によって区画された外区は，比較的柔らかな床で，踏み硬められた様子はない。

第194図は，石野博信氏の間仕切溝の類型細分[(1)]を基本にして，主柱穴との関係を重視しながら作成したものである。A類は主柱穴を4か所もつ中形住居跡，B類は主柱穴を8か所もつ大形住居跡，C類はA・B類にあてはまらないものである。ここでは，「間仕切溝」にかえて石野氏のいう「柱壁間溝[(1)]」（“主柱穴との関わりをもつ間仕切溝”の意味）の語句を使って考察していきたい。

A類は，柱壁間溝を4条もつ（$4_0$型）ことを基本とする。第28・37・40号住居跡は，出入口からみて左右の壁に柱壁間溝をもっている。$4_0$型は，屋内を縦分割して使用していることがはっきりとわかる。第25・27・38号住居跡は，$4_0$型に柱壁間溝を1条追加した型である（したがって，$4_{+1}$型となる）。第25・27号住居跡は北コーナーを囲い，第38号住居跡は東コーナーを囲うように検出されている。第36号住居跡は，$4_0$型に柱壁間溝を2条追加した型（$4_{+2}$型）で，北と西のコーナーを囲うように検出されている。

B類は，柱壁間溝を8条もつ（$8_0$型）ことを基本とする。第19号住居跡は，$8_0$型に柱壁間溝を2条追加した型（$8_{+2}$型）で，東と西のコーナーを囲うように検出されている。第13・18・23号住居跡は，$8_0$型に柱壁間溝を3条追加した型（$8_{+3}$型）で，第13・18号住居跡は西コーナーを除く各コーナーを囲い，第23号住居跡は南コーナーを除く各コーナーを囲うように検出されている。第29・33号住居跡は，$8_0$型に柱壁間溝を4条追加した型（$8_{+4}$型）で，すべてのコーナーを囲うように検出されている。第32号住居跡は，8か所の主柱穴をもちながら，柱壁間溝を伴うのは7か所で（$8_{-1}$型）といえるが，北と西のコーナーを囲うように2条追加した型になっている（$8_{-1+2}$型）。

C類はその他の型で，第24号住居跡は7か所の主柱穴すべてに柱壁間溝があり，3つのコーナーを囲うように3条の柱壁間溝が追加されているので$7_{+3}$型である。同様に考え，第43号住居跡は$6_0$型ということができる。第21・31号住居跡は，間仕切溝をもってはいるが，主柱穴に伴うものとは判断できにくいので，柱壁間溝はなしである。

茨城県内で，間仕切溝が検出されているのは，龍ヶ崎市平台遺跡[(2)]の47軒の住居跡（古墳時代中

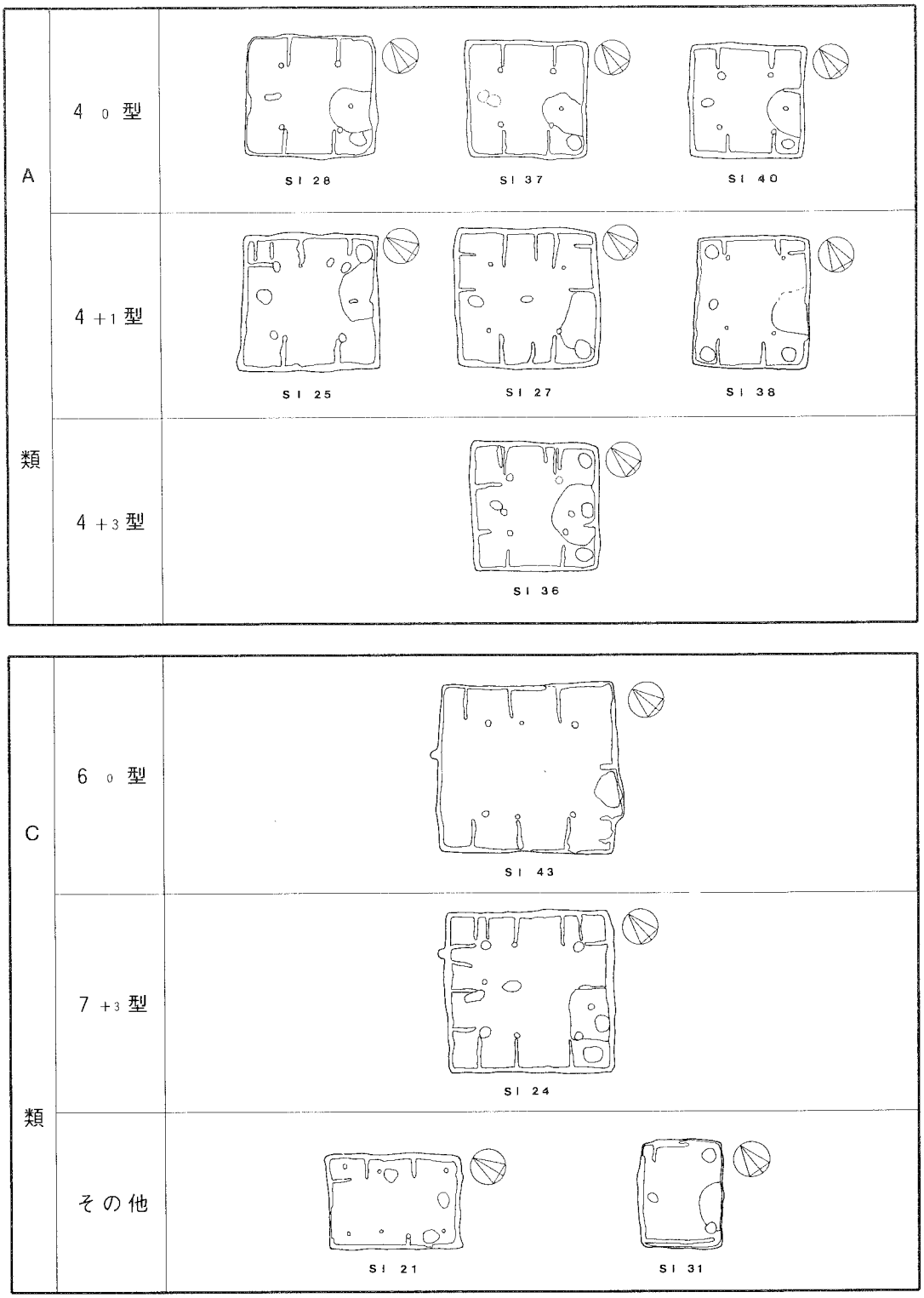
期）のうちの２軒，土浦市向原遺跡[3]の18軒の住居跡（古墳時代中期）のうちの１軒，稲敷郡阿見町阿見東遺跡[4]の10軒の住居跡（和泉・鬼高期）のうちの１軒である（表７）。平台遺跡の第38号住居跡では主柱穴に伴わない間仕切溝が１条，貯蔵穴付近に検出されている。第39号住居跡では主柱穴に伴うものが１条，伴わないものが１条検出され，北コーナーを囲うように検出されている。向原遺跡の第33号住居跡では，主柱穴は検出されておらず，南東壁の出入口部の高まりに沿って１条，北東壁に１条検出されている。阿見東遺跡の第３号住居跡では，主柱穴を伴わないもので，南東壁の出入口部の高まりに沿って１条検出されている。

これらの県内の出土例と当遺跡の間仕切溝を比較してみると，県内の出土例では，主柱穴を４か所もつ住居跡が３軒あるが，主柱穴に伴うと判断ができる「柱壁間溝」が１条だけと少なく，平台遺跡の第38号住居跡では，面積が約19㎡と狭いにもかかわらず間仕切溝をもっている。向原遺跡と阿見東遺跡の住居跡では，出入口部の高まりに沿って間仕切溝が検出されているが，当遺跡でそれが検出されているのは10軒（第13・18・19・23・24・27・28・29・33・40号住居跡）である（間仕切溝の類型のＢ型の大部分があてはまる）。

近県では，千葉県山武郡芝山町東台遺跡[5](和泉期)，千葉市上の台遺跡[6](和泉期～鬼高期)，千葉市荒久遺跡[7]（古墳時代前期～中期），佐倉市大篠原遺跡[8]（和泉期），船橋市夏見台遺跡[8]（和泉期～鬼高期），市原市千草山遺跡[8]（７世紀），群馬県群馬郡群馬町井手村東遺跡[9]（５世紀後半～６世紀前半），福島県岩瀬郡天栄村舞台遺跡[8]（鬼高期）で検出されている。ここでは，東台遺跡について詳しく考察してみたい。

東台遺跡は，竈をもたず，鬼高式様相をもつ土師器の坏，初期須恵器，臼玉等の石製品が出土するなど当遺跡との共通点が多くみうけられる。東台遺跡で検出された３軒のうち２軒に間仕切溝が検出されている（表７）。第１号住居跡は，６条の間仕切溝が検出され，柱壁間溝は１条で$4_{-3}$型である。ヤツノ上遺跡と比較すると，面積は広めで柱壁間溝は少ないものの，主軸方向がほぼ同じで，出入口部に高まりがあり，北西壁寄りに炉をもつことから$4_{0}$型の住居跡に類似している。第３号住居跡は，11条の間仕切溝が検出され，柱壁間溝は８条で$8_{-2+2}$型である。ヤツノ上遺跡と比較すると，面積，主軸方向，出入口部の高まり，炉や貯蔵穴の位置など$8_{+2}$型の住居跡に類似している。

ここでの考察では，「柱壁間溝」として主柱穴との関わりで間仕切溝を分類してきたが，主柱穴との関わりを認められない間仕切溝をどう理解するかについて，今後検討していかなければならない。さらに，笹森健一氏が，「間仕切溝は範囲を狭くする特徴がある」[10]と言うように，何らかの目的によって竪穴住居内を狭く仕切ったことは間違いのないことであるが，間仕切溝は，いかなる施設として使用されたのかについて，竪穴住居内の全体的な使い方を考えながら，検討していく必要があろう。




第194図　柱壁間溝の類型

| | | |
|---|---|---|
| B類 | 8 +2 型 | SI 19 |
| | 8 +3 型 | SI 13　SI 18　SI 23 |
| | 8 +4 型 | SI 29　SI 33 |
| | 8 −1+2 型 | SI 32 |

0　4 m

表6　間仕切溝をもつ住居跡の屋内施設（ヤツノ上遺跡）

| 遺跡 | 住居跡 | 間仕切溝 | | | | | 主柱穴数 | 面積（㎡） | 炉 | 出入口部高まり | 貯蔵穴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 総数 | 南東壁 | 南西壁 | 北西壁 | 北東壁 | | | | | |
| ヤツノ上遺跡 | SI－13 | 14 | 3 | 3 | 2 | 6 | 8 | 72.2 | 1 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－18 | 13 | 5 | 3 | 2 | 3 | 8 | 77.4 | 1 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－19 | 15 | 2 | 4 | 2 | 7 | 8 | 91.0 | 4 | 馬蹄形 | 2 |
| | SI－21 | 4 | 0 | 1 | 1 | 2 | 6 | 30.3 | 2 | --- | 1 |
| | SI－23 | 25 | 2 | 9 | 7 | 7 | 8 | 68.4 | 2 | 不定形 | 1 |
| | SI－24 | 14 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7〔8〕 | 69.2 | 2 | 馬蹄形 | 2 |
| | SI－25 | 7 | 0 | 2 | 1 | 4 | 4 | 45.6 | 2 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－27 | 10 | 2 | 3 | 2 | 3 | 4 | 50.3 | 2 | 不定形 | 1 |
| | SI－28 | 8 | 1 | 5 | 0 | 2 | 4 | 38.3 | 1 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－29 | 16 | 3 | 4 | 4 | 5 | 8 | 111.5 | 3 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－31 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | --- | 23.0 | 1 | 半円形 | 2 |
| | SI－32 | 9 | 1 | 3 | 2 | 3 | 8 | 104.1 | 4 | --- | 2 |
| | SI－33 | 16 | 3 | 3 | 6 | 4 | 8 | 82.2 | 3 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－36 | 10 | 1 | 2 | 2 | 5 | 4 | 41.1 | 2 | 馬蹄形 | 3 |
| | SI－37 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 | 35.4 | 2 | 馬蹄形 | 1 |
| | SI－38 | 5 | 1 | 2 | 0 | 2 | 4 | 36.9 | 1 | 馬蹄形 | 3 |
| | SI－40 | 5 | 1 | 2 | 0 | 2 | 4 | 32.1 | 1 | 半円形 | 1 |
| | SI－41 | 9 | 3 | 3 | 0 | 3 | 6〔8〕 | 73.8 | --- | --- | 1 |

表7　間仕切溝をもつ住居跡の屋内施設（県内・外の遺跡）

| 遺跡 | 住居跡 | 間仕切溝 | | | | | 主柱穴数 | 面積（㎡） | 炉 | 出入口部高まり | 貯蔵穴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 総数 | 南東壁 | 南西壁 | 北西壁 | 北東壁 | | | | | |
| 平台遺跡 | SI－38 | 1 | 1 | --- | --- | --- | 4 | 18.7 | 1 | --- | 1 |
| | SI－39 | 2 | --- | --- | 1 | 1 | 4 | 35.5 | 1 | --- | 1 |
| 向原遺跡 | SI－33 | 2 | 1 | --- | --- | 1 | --- | 34.7 | 2 | 不定形 | 2 |
| 阿見東遺跡 | SI－3 | 1 | 1 | --- | --- | --- | 4 | 38.1 | 1 | 不定形 | 1 |
| 東台遺跡 | SI－1 | 6 | 1 | 2 | --- | 3 | 4 | 55.3 | 3 | 有（形状不明） | 1 |
| | SI－3 | 12 | 1 | 3 | 2 | 6 | 8 | 116.2 | 2 | 有（形状不明） | 1 |

注

（1）　石野博信『日本原始・古代住居の研究』1991年。

石野氏は，間仕切溝を「主柱と壁の間を小溝で連絡して住居内の外区（主柱と周壁の間の空間）を区画するもの」として考え，それを「柱壁間溝」と呼び，「主柱に連絡しない小溝は原則として本数に加えない」ことで処理している。本報告書では，主柱穴との関係を重視しながら主柱穴に直接連絡していない間仕切溝でも，間仕切溝の延長上や間仕切溝の近くに主柱穴が位置すれば，「柱壁間溝」と判断し，本数として数えて処理をした。

（２） 茨城県教育財団「平台遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第19集　1982年
（３） 「向原遺跡」土浦市教育委員会　1992年
（４） 「阿見東遺跡第１地点」阿見町阿見東遺跡調査会　1992年
（５） 「下吹入遺跡群」芝山町教育委員会　1987年
（６） 「千葉・上の台遺跡」千葉市教育委員会　1982年
（７） 「千葉市荒久遺跡(1)」，「千葉市荒久遺跡(2)」千葉県教育委員会　1989年
（８） 石野博信，前載書より引用
（９） 「井手村東遺跡」山武考古学研究所　1983年
（10） 笹森健一「竪穴住居の使い方」『古墳時代の研究２』1990年

# 結　　語

牛久北部特定土地区画整理事業に伴うヤツノ上遺跡の発掘調査は平成２年10月から平成４年３月まで１年６か月にわたって実施した。調査の結果，縄文時代から平安時代の遺構や遺物が検出し，多くの貴重な資料を得ることができた。

当遺跡からは，縄文時代後・晩期，古墳時代中期，奈良時代，平安時代前期に属する竪穴住居跡が45軒検出されている。当遺跡の集落は，縄文時代後期に舌状台地平坦部から始まり，弥生時代の空白を経て，古墳時代には平坦部の全域に広がり隆盛期をむかえ，奈良・平安時代になると舌状台地先端部の傾斜地にもどるようなかたちで形成されている。特に，古墳時代では，主軸方向が45°前後傾き，南東壁際に出入口部の高まりと梯子ピットをもち，相対する北西壁寄りに炉をもって，主柱穴４か所，あるいは８か所，貯蔵穴，そして間仕切溝をもつというスタイルの住居跡群が形成されている。その他，掘立柱建物跡７棟，土坑85基，古墳１基，炭焼窯跡１基，性格不明遺構２か所が検出されている。

遺物は，土師器，須恵器を中心に豊富に出土している。特に大阪陶邑窯跡で生産された可能性の強い須恵器が出土していることから，近畿地方との交流についても窺い知ることができた。

今回の調査により当時の文化の交流が確認でき，一応の成果を上げることができた。本報告書が，今後当地域の歴史を解明するための研究資料として活用されれば幸いである。

なお，本報告書を作成するに当たり，牛久市教育委員会をはじめ，関係各位の御指導，御協力をいただいたことに対し，文末ながら深く感謝の意を表する次第である。

# 附　　章

## 1　ヤツノ上遺跡出土須恵器の胎土分析

奈良教育大学　三　辻　利　一

1）はじめに

生産地である窯跡を残す須恵器は遺跡出土須恵器を窯跡に結び付けることによって産地推定ができる。

窯跡から出土する須恵器の化学特性は全国的に調べられている。その数は数千基はあるといわれるが，決して，一様に分布している訳ではない。良質の粘土がある須恵器生産地域には，多数の窯跡が集中して見つけられている。しかし，これらの窯跡から出土する須恵器の化学特性は類似しており，窯跡群として一括できる。地元産の粘土を素材として使用しておれば，このことは当然の結果であるといえよう。現在,100基を越える窯跡が集中する大規模窯群は全国に15－20ケ所，数10基の窯跡が集中する中規模窯群は20－30ケ所あることがわかっている。これらの窯群が外部地域へ製品を搬出するための須恵器生産工場とみられる。数基単位の窯群は外部地域へ製品を搬出するだけの供給能力は持っていなかったと推定される。

多数の窯跡を窯群にまとめる上に有効な因子がK，Ca，Rb，Sr，Naである。これらは風化前の岩石中では主として，長石類中に存在したものと推定される。因子間の相関性からみて，K，Rbはカリ長石に，Ca，Srは斜長石に，Naはソーダ長石に存在したものと推定される。Fe因子は地域差を表わすこともあるが，一つの窯群の中でも，Fe因子が異なる窯がある場合もあり，窯群にまとめる上には前記の5因子ほど有効ではない。

現在，Rb－Sr分布図を使って定性的に産地推定をしたり，判別分析法を使って定量的に産地推定をしたりして，次第に，須恵器の産地推定法は固められつつある。

本報告では，ヤツノ上遺跡から出土した須恵器片を蛍光X線分析で分析し，判別分析法を使って産地推定した結果について報告する。

2）分析法

須恵器片試料はすべて，表面を研磨して付着物を除去したのち，タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は塩化ビニール製リングを枠にして,約10トンの圧力をかけてプレスし，内径20㎜，厚さ3－5㎜の錠剤試料を作成した。この錠剤試料はそのまま，蛍光X線分析に使用された。

蛍光X線分析には，理学電機製の波長分散型のスパクトロメータ，3270型機が使用された。得

られた蛍光X線強度は同時に測定された岩石標準試料JG-1の蛍光X線強度を使って標準化された。したがって，全分析値はJG-1による標準化値で表示された。

3）分析結果

全分析値は表にまとめられている。これらの須恵器の産地は判別分析によって推定された。はじめに，母集団の選択である。地元窯群として木葉下窯群が選択された。2群間判別分析の考え方として，地元産か搬入品かという考え方をとる。そのために，地元窯群を第一母集団として選択する。今回は茨城県内最大の窯群として木葉下窯群が選択された訳である。次に，外部からの供給源として，初期須恵器の可能性を考えて大阪陶邑群を第二母集団として選択した。これまでのデータでは地方窯産の初期須恵器は窯周辺の古墳に供給されているだけで，外部地域へは供給されていなかった。大阪陶邑群の製品のみが，一方的に各地の古墳へ供給されていた。このデータから，外部地域の第二母集団は初期須恵器については一般的に大阪陶邑群が選択される。木葉下群と大阪陶邑群の試料がどの程度に相互識別できるかをみるため，両群間の判別分析が試みられた。図1Kはその結果が示されている。$D_{(0)}$，$D_{(1)}$はそれぞれ，大阪陶邑群，木葉下群からのマハラノビスの汎距離である。5％の危険率をかけ，Hotelling のT検定によって許容される領界が$D^2$値にして，約10付近である。その結果，図1では$D^2_{(0)}=1$，$D^2_{(1)}=1$のところに領界線を引いてある。そうすると，木葉下群の試料はすべて，$D^2_{(1)}\leqq 10$の領域にまた，大阪陶邑群のほとんどの試料も，$D^2_{(0)}\leqq 10$の領域に分布していることがわかる。つまり，$D^2_{(X)}\leqq 10$が窯群（X）への所属条件となる。両群の試料が誤判別されることなく判別できるとすれば，互いに，相手群から遠く離れることが必要である。この条件が所属条件に合わせて，$D^2$（相手群）$>10$である。図1をみると，大阪陶邑群のほとんどは$D^2_{(1)}>10$を満足し，大阪陶邑領域［$D^2_{(0)}\leqq 10$，$D^2_{(1)}>10$］に分布している。これに対して，木葉下群の試料は木葉下領域［$D^2_{(1)}\leqq 10$，$D^2_{(0)}>10$］には分布せず，重複領域［$D^2_{(1)}\leqq 10$，$D^2_{(0)}\leqq 10$］に分布した。木葉下群の試料は大阪陶邑群に似た化学特性を持っているのである。しかし，図1では両群の試料は完全に分離して分布しており，相互識別の可能性は十分あることを示している。図2には，同じ判別分析図上にヤツノ上遺跡の須恵器をプロットしてある。全てが大阪陶邑領域に分布しており，地元，木葉下群の製品ではないことを明示している。

図2をみると，ヤツノ上遺跡の須恵器は大阪陶邑群産の可能性をもつ訳である。大阪陶邑産と推定する前に，もう少し可能性のある母集団をとり上げ，帰属し得るかどうかを調べてみる方がよい。その代表として，埼玉県の新開・俣野窯群と静岡県の湖西群をとり上げた。埼玉県内には南比企群という大きな窯群があるが，K，Rb量が少ないという特性をもっており，表1と比較すると，図を描くまでもなく，ヤツノ上遺跡の須恵器は対応しないので，母集団としては選択しなかった。その代わり，より近い特性をもつ新開・俣野窯群を選択した。また，これまでの分析デ

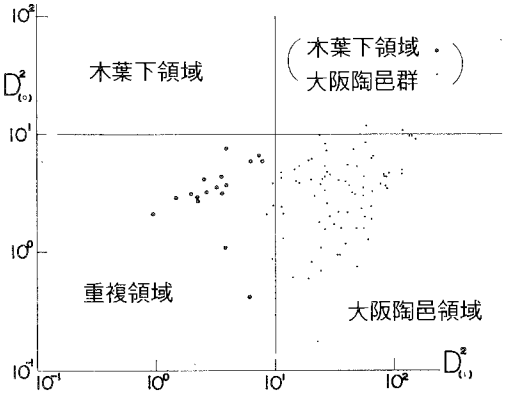
ータで，湖西群産と推定される製品が時折，関東地域の遺跡から出土するので，ヤツノ上遺跡にも供給されている可能性があるとみて，母集団として選択した。湖西群と新開・俣野群の相互識別の結果を図3に示す。$D_{(2)}$，$D_{(3)}$はそれぞれ，湖西群，新開・俣野群からのマハラノビスの汎距離である。湖西群の試料は1点を除いてすべて，湖西領域［$D^2_{(2)} \leqq 10$，$D^2_{(3)} > 10$］に分布しており，新開・俣野群の試料もすべて，$D^2_{(3)} \leqq 10$の領域に分布しているが，3点ばかりは新開・俣野領域［$D^2_{(3)} \leqq 10$，$D^2_{(2)} > 10$］をほんの少しはずれて，重複領域に分布している。とはいうものの，両群の試料は完全に分離して分布しており，相互識別は十分可能であることを示している。同じ判別分析図上に，ヤツノ上遺跡の須恵器をプロットしたのが図4である。湖西領域に分布するものは1点もなく，すべてが不明領域［$D^2_{(2)} > 10$，$D^2_{(3)} > 10$］に分布していることがわかる。つまり，ヤツノ上遺跡の須恵器は湖西群や新開・俣野群の製品である可能性はほとんどないということである。

問題は名古屋の猿投群である。これまでのデータでは6世紀代の関東地域の遺跡に供給されていたという例があり，ヤツノ上遺跡の須恵器が猿投群に所属しないかどうかを調べておく必要がある。猿投群を含めて，大阪陶邑群，木葉下群，湖西群，新開・俣野群からのマハラノビスの汎距離の二乗値を計算した結果を表2にまとめてある。勿論，遺跡出土須恵器の各窯群への帰属条件は$D^2_{(x)} \leqq 10$である。この条件を満足する母集団を産地推定の欄にリストしてある。地元，木葉下群や埼玉の新開・俣野群に対応する試料は1点もない。したがって，この2つの母集団は産地ではないことがわかる。ほとんどの須恵器の産地として大阪陶邑がリストされている。一部に猿投群が大阪陶邑と重複してリストされている。しかし，この場合でも，重心からの距離が近いのは大阪陶邑群であることがわかる。ただ，1点，No46のみが猿投群の方が距離は近い。この場合でも，大阪陶邑群からの距離も十分近く，No46のみが猿投群産というのも考え難い。むしろ，大阪陶邑群としておく方がよい。器形による吟味も必要であるが，ヤツノ上遺跡の須恵器のほとんどすべては大阪陶邑群産と推定される。No43は湖西群産と推定されているが，湖西群からの距離もそんなに近くはない。所属条件をぎりぎりのところで満足したにすぎない。したがって，ここでは産地不明としておいた方がよい。無理をして産地を推定する必要はない。

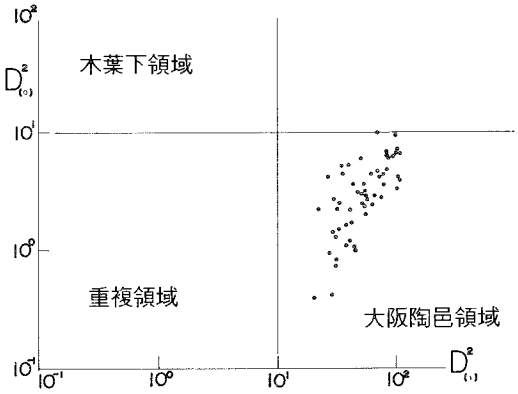
念のため，ヤツノ上遺跡の須恵器の Rb-Sr分布図を図5に示しておく。すべてが大阪陶邑領域に対応していることがわかる。

以上の結果，ヤツノ上遺跡の須恵器はNo43を除いてすべて，大阪陶邑群産と推定された。東日本でこれだけ多数の大阪陶邑群産の須恵器が検出されたのははじめてである。これまでは九州の古墳から出土する例が多く，初期須恵器の伝播からみたとき，九州は特別の地域かという感を与えて来たが，今回のデータはこの予感を払拭するものである。東日本での分析データが少なかったからに過ぎなかったのである。今後，各地で分析が進行するにつれて，東日本各地の遺跡から

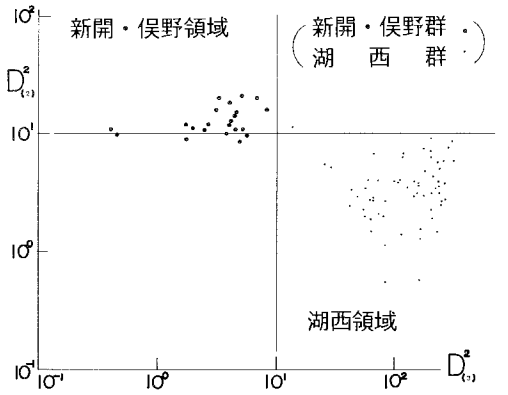
も大阪陶邑群の初期須恵器が出土するものと予想される。



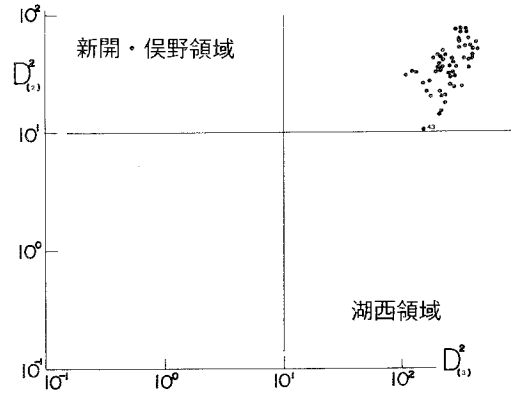

第１図　大阪陶邑群と木葉下群の
相互識別（K, Fe, Rb, Sr因子使用）



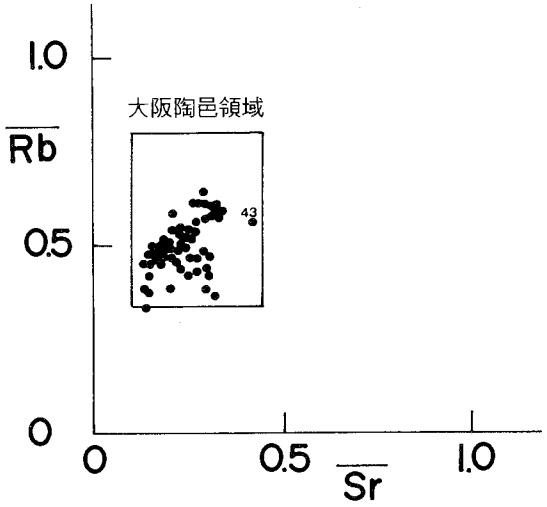

第２図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
産地推定（K, Fe, Rb, Sr因子使用）




第３図　湖西群と新聞・俣野群の
相互識別（K, Fe, Rb, Sr因子使用）




第４図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
産地推定（K, Fe, Rb, Sr因子使用）




第５図　ヤツノ上遺跡出土須恵器の
Rb－Srの分布図

## 2　ヤツノ上遺跡出土炭化材同定報告について

財団法人　茨城県教育財団
ヤツノ上遺跡出土炭化材同定業務報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

貴，財団法人茨城県教育財団殿より御依頼のありました「ヤツノ上遺跡出土炭化材同定業務」が終了致しましたので，その結果を下記の通り御報告申し上げます。

記

はじめに

ヤツノ上遺跡（牛久市下根町所在）は，小野川左岸の台地上に立地する。本遺跡の西側には先土器時代から近世にわたる遺構，遺物が検出された中久喜遺跡が存在し，本遺跡でも遺構・遺物の出土状況は同様な傾向をみせている。とくに古墳時代中期（５世紀後半）に相当する住居址が数件検出されたが，そのうちSI-13,19,21,23,28,36の各住居址から，炭化材や植物繊維状炭化物が検出された。住居址は遺物の出土状況などからいずれも焼失住居址とされており，炭化材は住居の建築材と考えられている。

今回の分析調査では，SI-13,19,21,23,28,36の各住居址から検出された炭化材，植物繊維状炭化物について材同定および灰像分析を行い，当時の建築材の樹種および植物遺体の素材を明らかにすることとした。

１．試料

試料は，S1-13,19,21,23,28,36の各住居址から検出された炭化材合計12点と植物繊維状炭化物１点である。試料の用途は，発掘調査所見から次のように考えられている。S1-13 イ，ロ，ニ，ホは住居址の側壁材または敷板材，ハが天井材が敷物とされる。S1-19Fは，形状が丸いことから柱材とされる。SI-21 No168は，床面のやや上位から検出されており，用途は不明である。SI-23 No5,6,7,9は住居址の側壁材とされ,No13は貯蔵穴の底面付近から出土した加工痕がある炭化材とされるが，用途は不明である。SI-28 イ，ロは，壁寄りの位置から検出され建築材と考えられるが，部材は不明である。SI-36 イ，ロは，柱穴より立った状態で検出されたことから柱材と考えられている。

これらの試料の内，SI-23 No5については,肉眼観察でイネ科と思われる炭化物が多く認められ

た。そこで，この試料については材同定と併せて灰像分析を行うこととした。

## 2．方法

### (1) 炭化材同定

試料を乾燥させたのち，横断面（木口）・放射断面（柾目）・接線断面（板目）の3断面を作製し，走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

### (2) 灰像分析

炭化物を数片採取し，過酸化水素水($H_2O_2$)・塩酸(HCl)処理により有機物を除去し,乾燥させる。これを，封入（封入剤：プリュウラックス)し，プレパラートを作製し，400倍の光学顕微鏡下で観察した。試料中にイネ科葉部に形成される植物珪酸体を含む組織が認められれば，これを近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定する。

## 3．結果

### (1) 炭化材同定

同定結果を表2に示す。12点の炭化材と1点の植物繊維状炭化物は，以下の3種類に同定された。同定根拠とした主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を，以下に記す。なお，一般的性質などについては「木の事典　第2巻」（平井，1979）を参考にした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.*）

ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形，小道管は管壁は中庸～厚く，横断面では角張った円形，ともに単独。単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年齢界は明瞭。

クヌギ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで，クヌギ（*Quercus acutissima*）とアベマキ(*Q. variabilis*）の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に，アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが，中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で，材は重硬である。古くから薪炭材として利用され，人里近くに萌芽林として造林されることも多く，薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材，楷木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり，果実は染料・飼料ともなった。アベマキはクヌギによく似た高木で，樹

皮のコルク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが，さらに重い。用途もクヌギと同様であるが，樹皮が厚いため薪材にはむかず，炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus sp.*）

環孔材で孔圏部は１～２列，孔圏外で急激に管径を減じのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形～楕円形，小道管は管壁は中庸～薄く，横断面では多角形，ともに単独。単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性，単列，１～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

コナラ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が１年目に熟するグループで，モンゴリナラ（*Quercus mongolica*）とその変種ミズナラ（*Q.mongolica var. grosseserrata*），コナラ（*Q. serrata*），ナラガシワ（*Q.aliena*），カシワ（*Q.dentata*）といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹波地方以北）に，ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に，ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。コナラは樹高20ｍになる高木で，古くから薪炭材として利用され，植栽されることも多かった。材は重硬で，加工は困難，器具・機械・樽材などの用途が知られ，薪炭材としてはクヌギ（*Q. acutissima*）に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり，虫えいを染料とすることもある。

・イネ科タケ亜科の一種（*Gramineae subfam. Bambusoideae sp.*）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。

タケ亜科は，タケ・ササ類であるが，現時点では解剖学的特徴で両者を区別することはできていない。

(2) 灰像分析

試料は，肉眼的に観察する限り，イネ科植物の葉部あるいは稈（茎）のように見える。これを分析すると，試料中の有機物が除去され，珪酸分が残留した。

この珪酸分を観察したところ，植物繊維が認められるだけで，イネ科葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体を含む組織が全く認められなかった。したがって，炭化物の由来した種類は判断できない。

今後，出土した炭化物にタケやススキなどの葉に似た部分があれば，それを試料とすることで種類が同定可能と期待される。また，材同定を併用することで，種類が明らかになることも期待される。

表1　ヤツノ上遺跡出土炭化材の樹種

| 遺構・試料名 | 用　　途 | 樹　　種　　名 |
|---|---|---|
| SI-13 イ | 側壁材または敷板材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-13 ロ | 側壁材または敷板材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-13 ハ | 天井材 | タケ亜科の一種 |
| SI-13 ニ | 側壁材または敷板材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-13 ホ | 側壁材または敷板材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-19 F | 柱材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-21 No.168 | 不明 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-23 No. 5 | 側壁材 | タケ亜科の一種 |
| SI-23 No. 6 | 側壁材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |
| SI-23 No. 7 | 側壁材 | タケ亜科の一種 |
| SI-23 No. 9 | 側壁材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |
| SI-23 No.13 | 不明 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |
| SI-28 イ | 建築材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |
| SI-28 ロ | 建築材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |
| SI-36炭化材イ | 柱材 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 |
| SI-36炭化材ロ | 柱材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 |

4．考察

炭化材同定の結果，クヌギ節，コナラ節，タケ亜科の3種類が確認された。SI-13,19ではクヌギ節が，SI-23,28ではコナラ節がそれぞれ使用されており，同時期でも住居址によって樹種構成に違いがみられる。このような類例は，群馬県渋川市中筋遺跡の報告例があり（高橋，1988），本遺跡でも住居址によって建築材の樹種構成が違っていたことは充分に考えられる。しかし，今回の分析調査では試料数に限りがあり，明確に判断することは難しい。

住居の側壁材とされる試料に対して材同定を行った例は，これまでに知られていないが，使用されているクヌギ節とコナラ節は，関東地方の古墳時代の住居の建築材として最も一般的な樹種であったことが，これまでの分析調査例（例えば，高岡，1984；パリノ・サーヴェイ株式会社，1984,1987など）から推定される。したがって，側壁材を建築材の一部と考えれば，両種が用いられていることは何ら特異な例ではない。

タケ亜科については，その材質を考えると柱などの部位に使用されていたというよりは，屋根材，壁材，敷物のような用途に用いられていたものと考える。今回の分析調査では，SI-13 ハの試料について灰像分析も行ったが，種類の同定には至らなかった。灰像分析は，イネ科の葉部に形成される珪酸体を観察して同定を行うが，住居址から検出されるイネ科植物の炭化物の多くは葉部が無く，稈しか残っていない。これは，最初から葉を切り落として使用したことや，火災時に燃焼し土壌中に混入してしまったため，検出できなかったことなどが考えられる。

文献

平井信二（1979）木の事典　第2巻．かなえ書房．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1984）古墳時代の樹種鑑定．「尾ケ崎遺跡－縄文・古墳時代集

落跡の調査ー」，埼玉県庄和町・尾ケ崎遺跡調査会，p.159-162.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1987）炭化材・炭化種子同定．「ー宇都宮競馬場附属総合きゅう舎建設地内遺跡ー御新田遺跡・富士前遺跡・ヤッチャラ遺跡・下り遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告第85集，p.193-197.

高橋利彦（1988）中筋遺跡出土炭化材の樹種．「中筋遺跡第２次発掘調査概要報告書」，群馬県渋川市教育委員会，p.42-47.

高岡正之（1984）赤羽根遺跡出土の炭化物について．「赤羽根一般国道50号（岩舟～小山バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告＜本文編＞」，栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団，p.360-361.

# 写 真 図 版

調査前風景

鍬入れ式

伐開風景

PL2

現地説明会

現地説明会

現地説明会

現地説明会

試掘作業

試掘作業

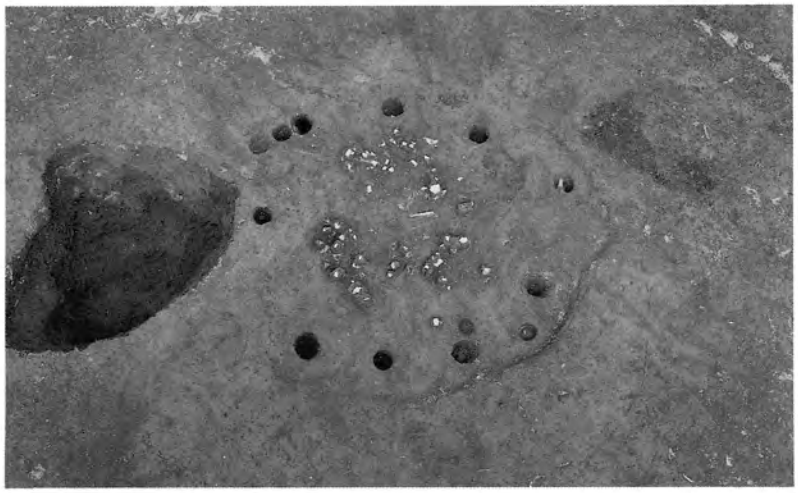
遺構確認作業

遺構確認状況

作業風景

作業風景

作業風景



第 8 号住居跡
遺物出土状況

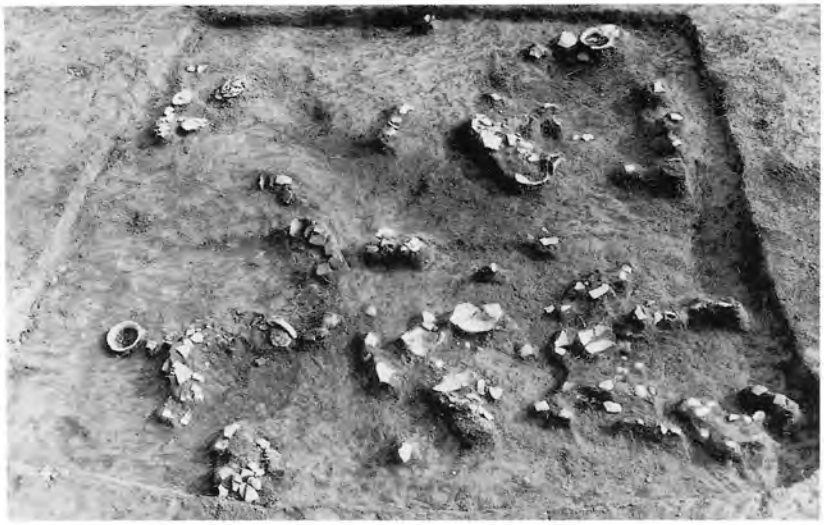
第21号住居跡
遺物出土状況

第21号住居跡
遺物出土状況

第19号住居跡
遺物出土状況

第26号住居跡
遺物出土状況

第32号住居跡
遺物出土状況



第34号住居跡
遺物出土状況

第38号住居跡
遺物出土状況

第38号住居跡
遺物出土状況

第26号住居跡貯蔵穴
遺物出土状況

第31号住居跡貯蔵穴A
遺物出土状況

第27号住居跡
遺物出土状況

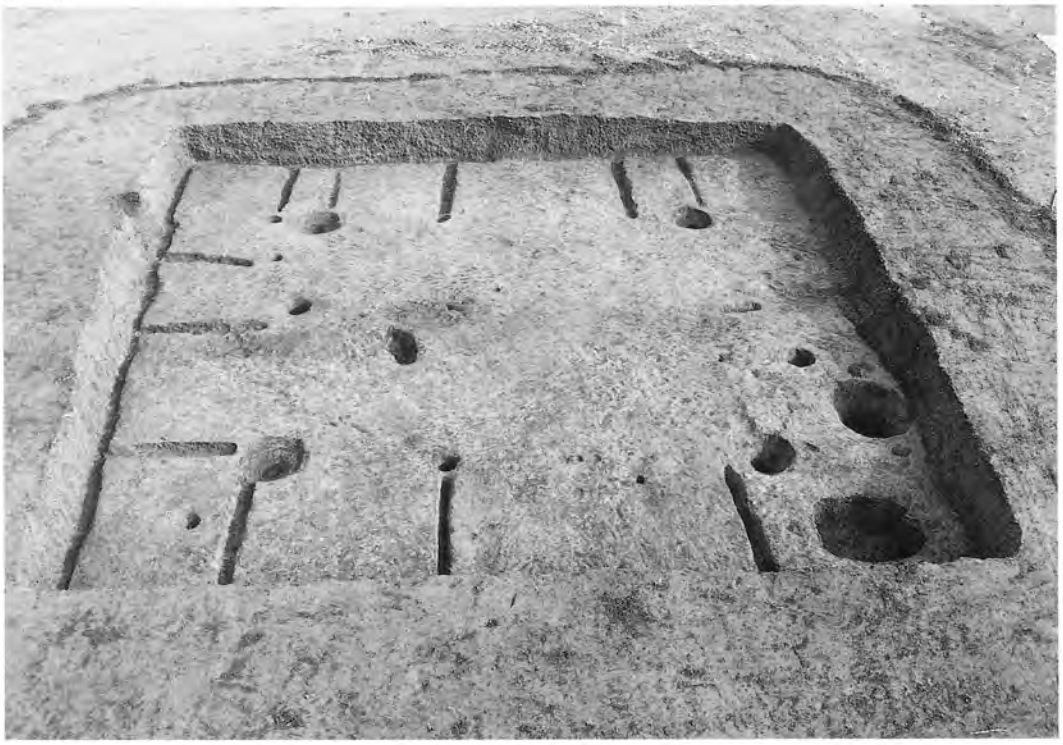
PL10

第13号住居跡
炭化材出土状況

第36号
住居跡
炭化材
出土状況

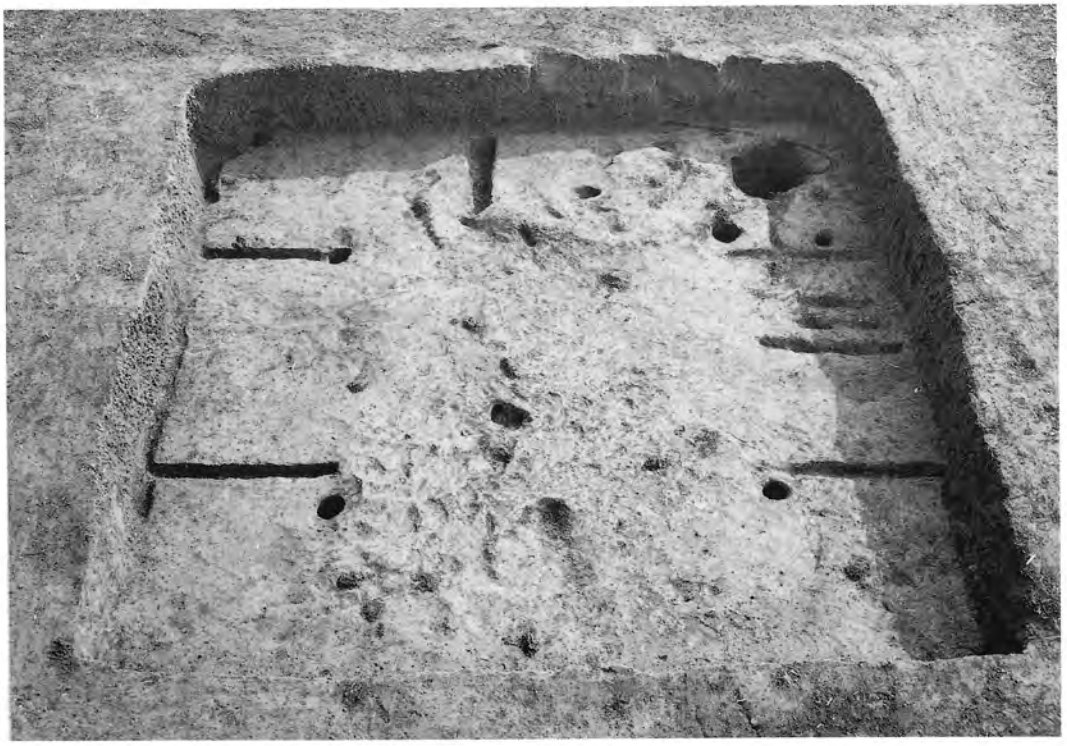
第13号住居跡
出入口部の高まり

第23号住居跡



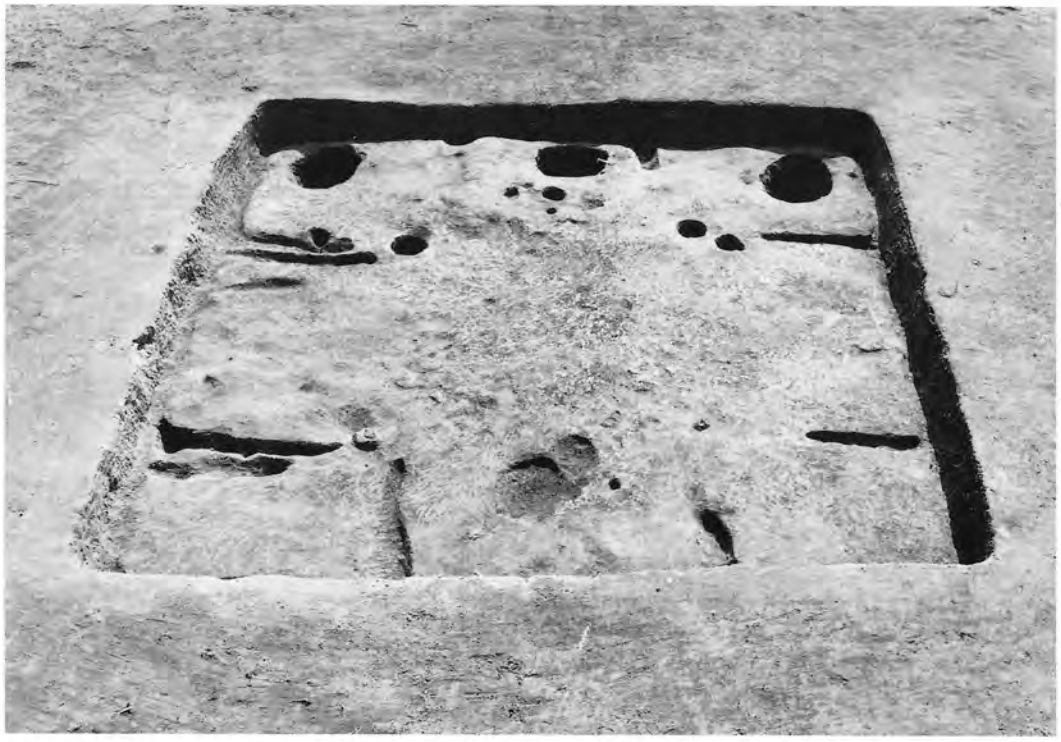
第24号住居跡

第27号住居跡

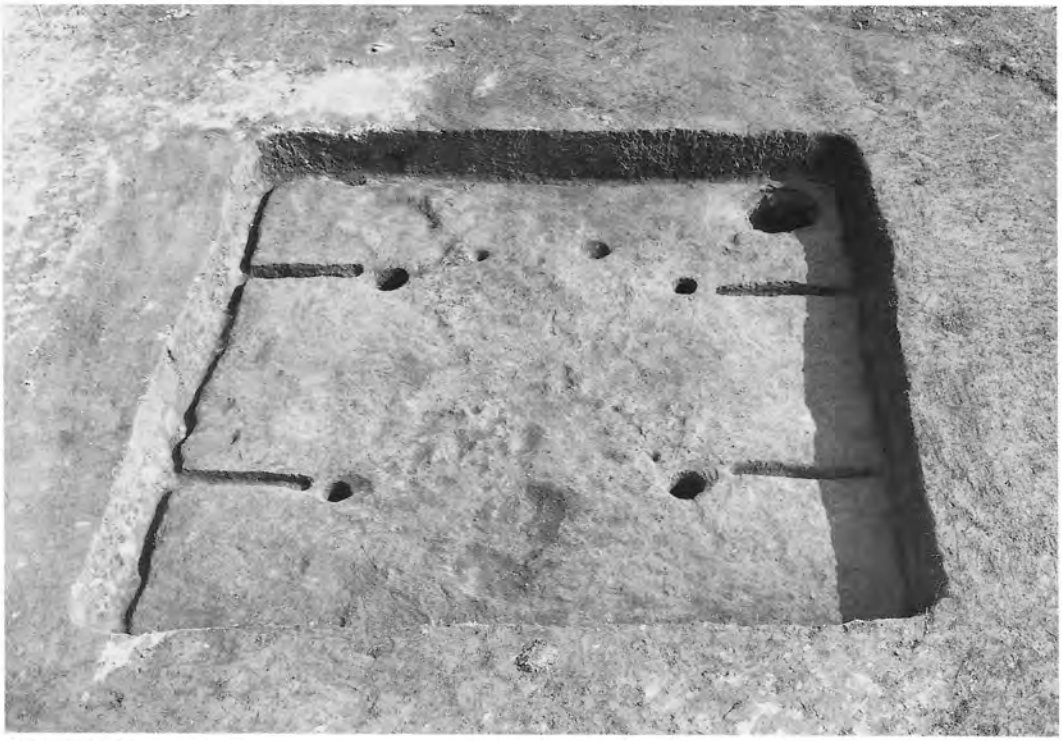


第28号住居跡

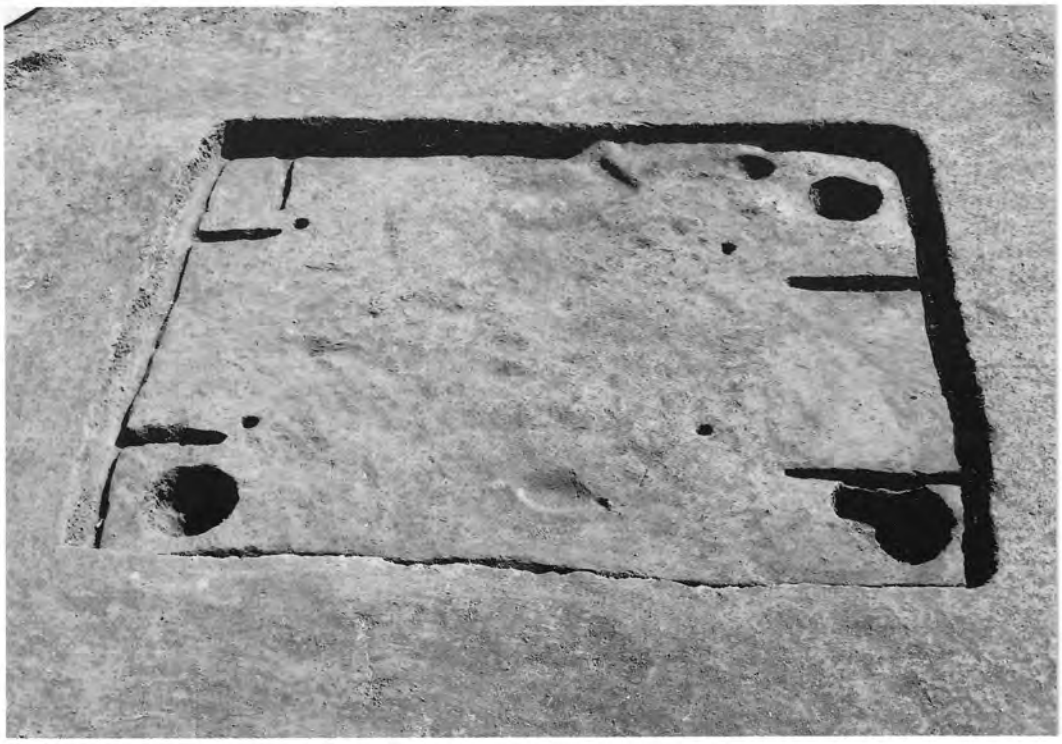
第33号住居跡



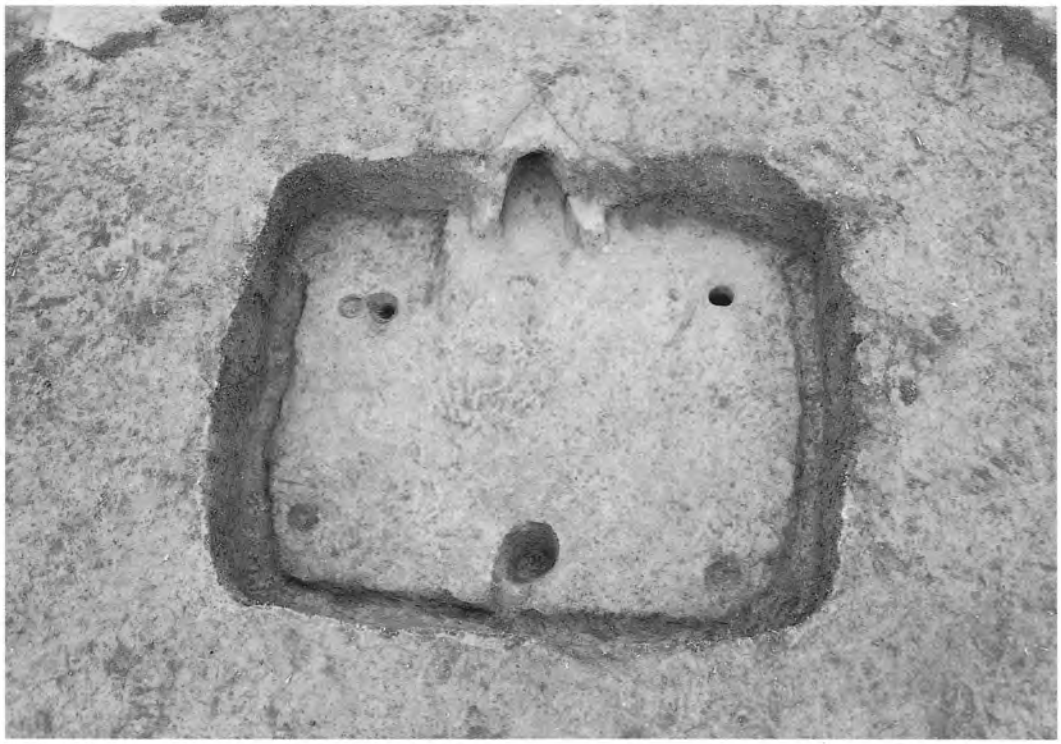
第36号住居跡



第37号住居跡



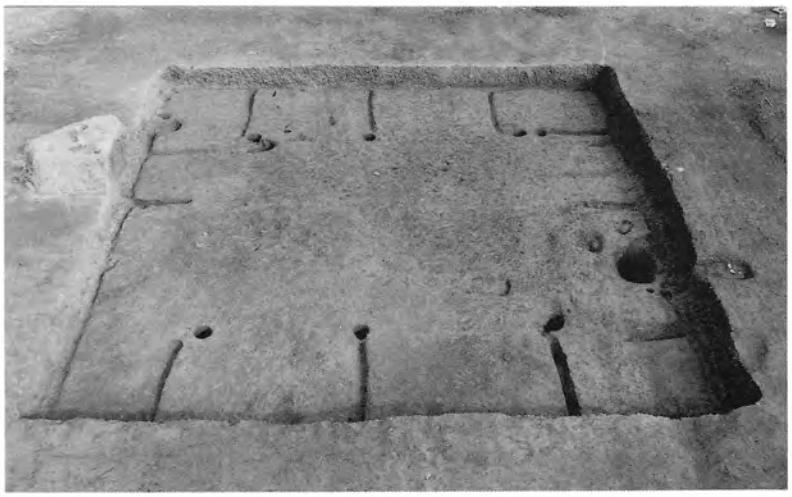
第38号住居跡



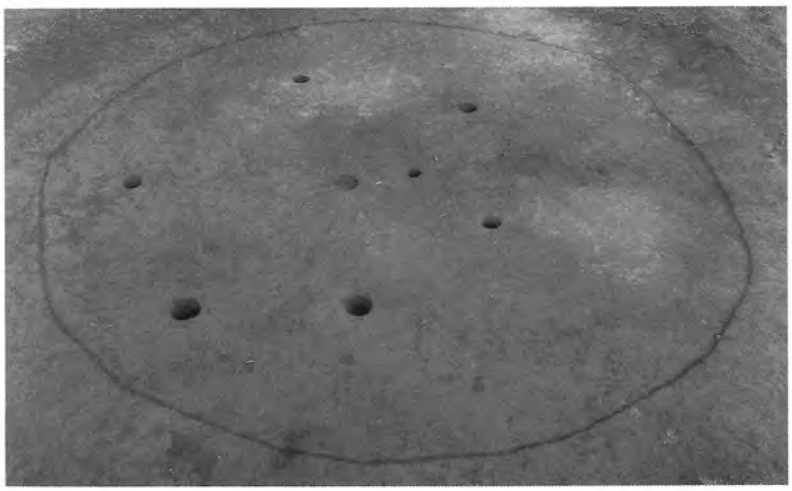
第11号住居跡

第１号古墳

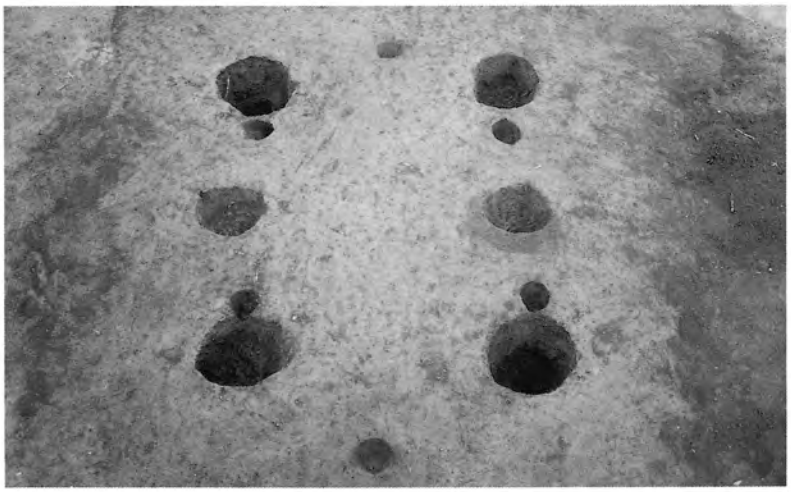
PL16



第18号住居跡



第46号住居跡



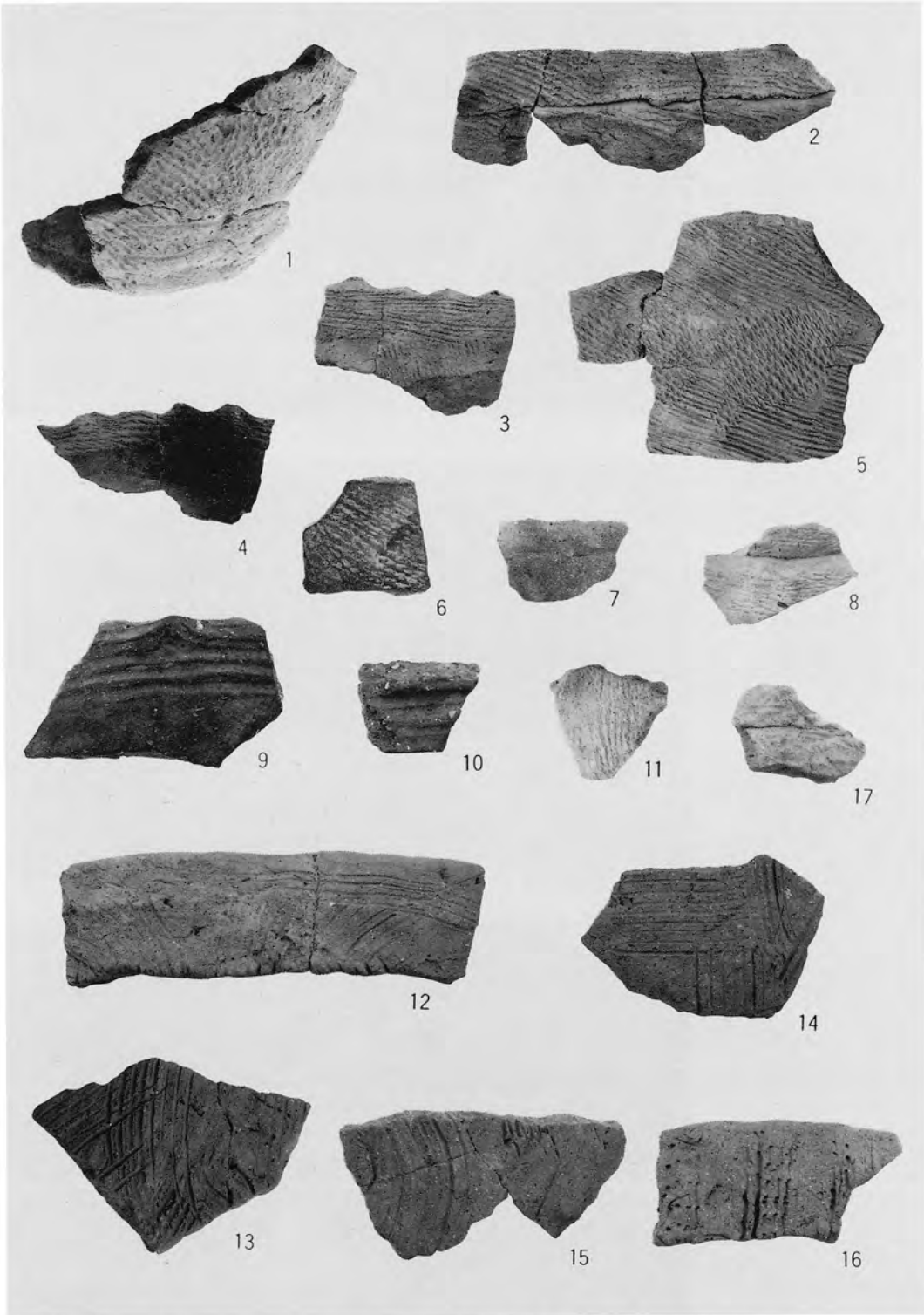
第７号掘立柱建物跡

第１号炭焼窯跡

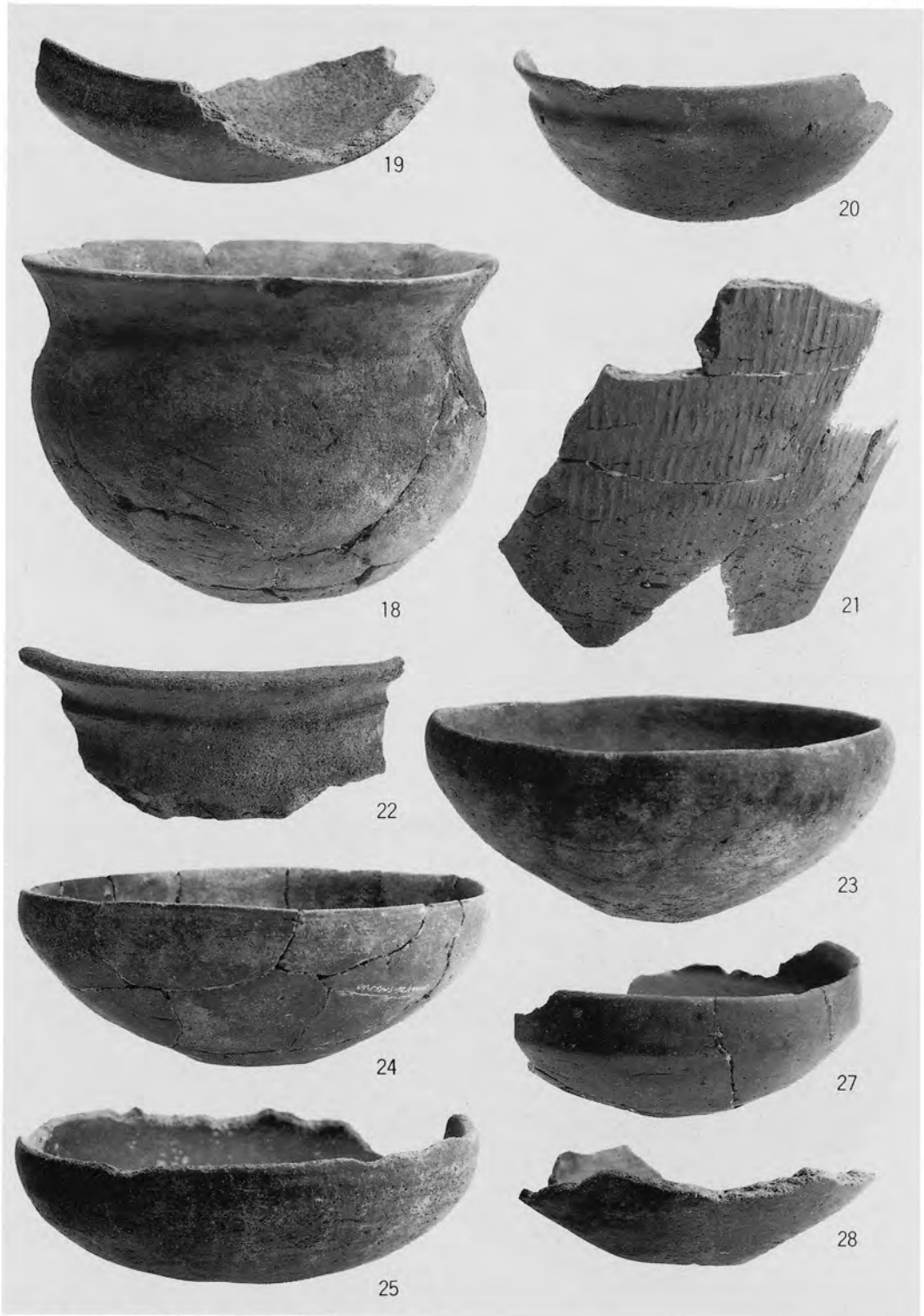
第80号土坑

第１号性格不明遺構

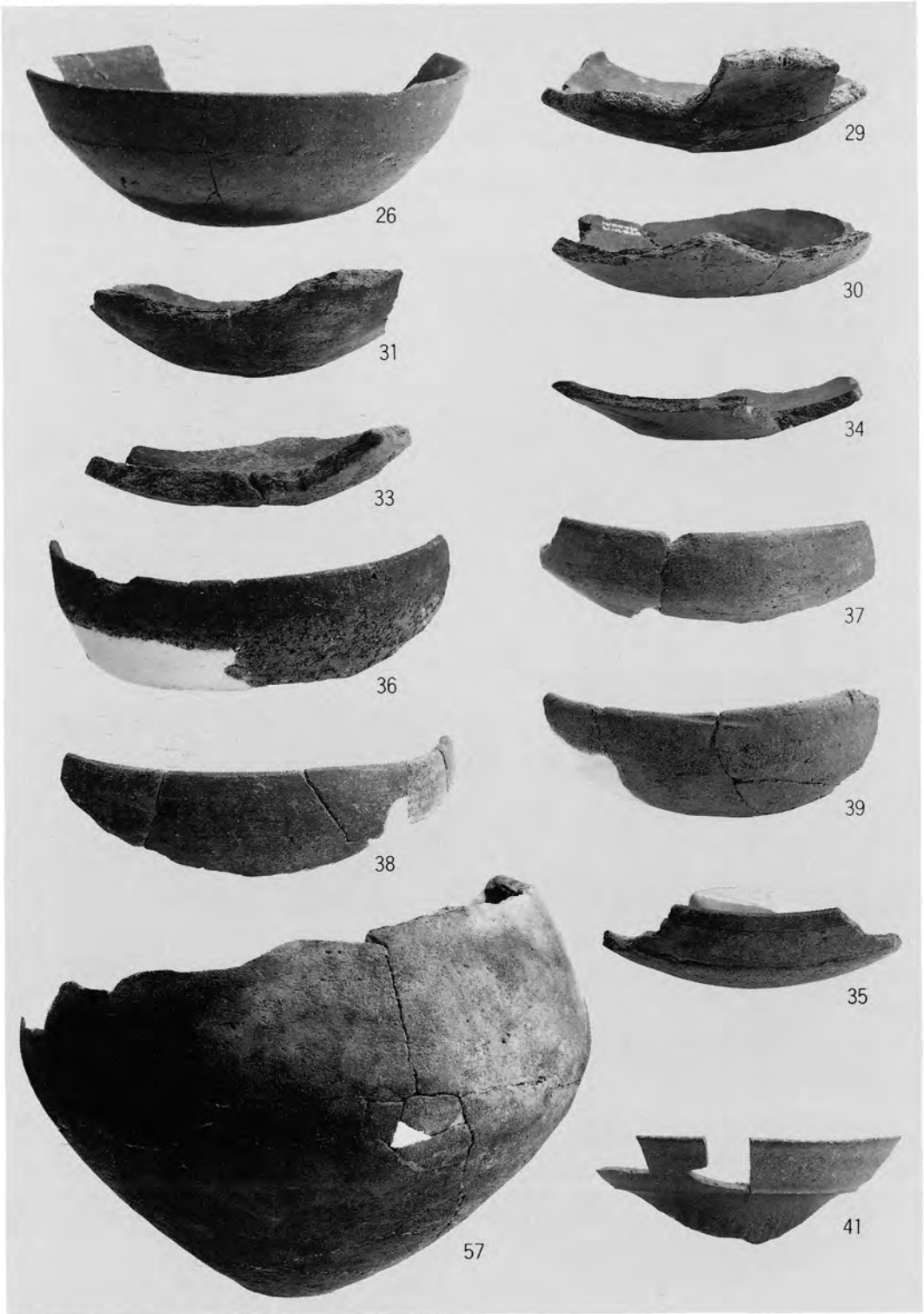
PL18



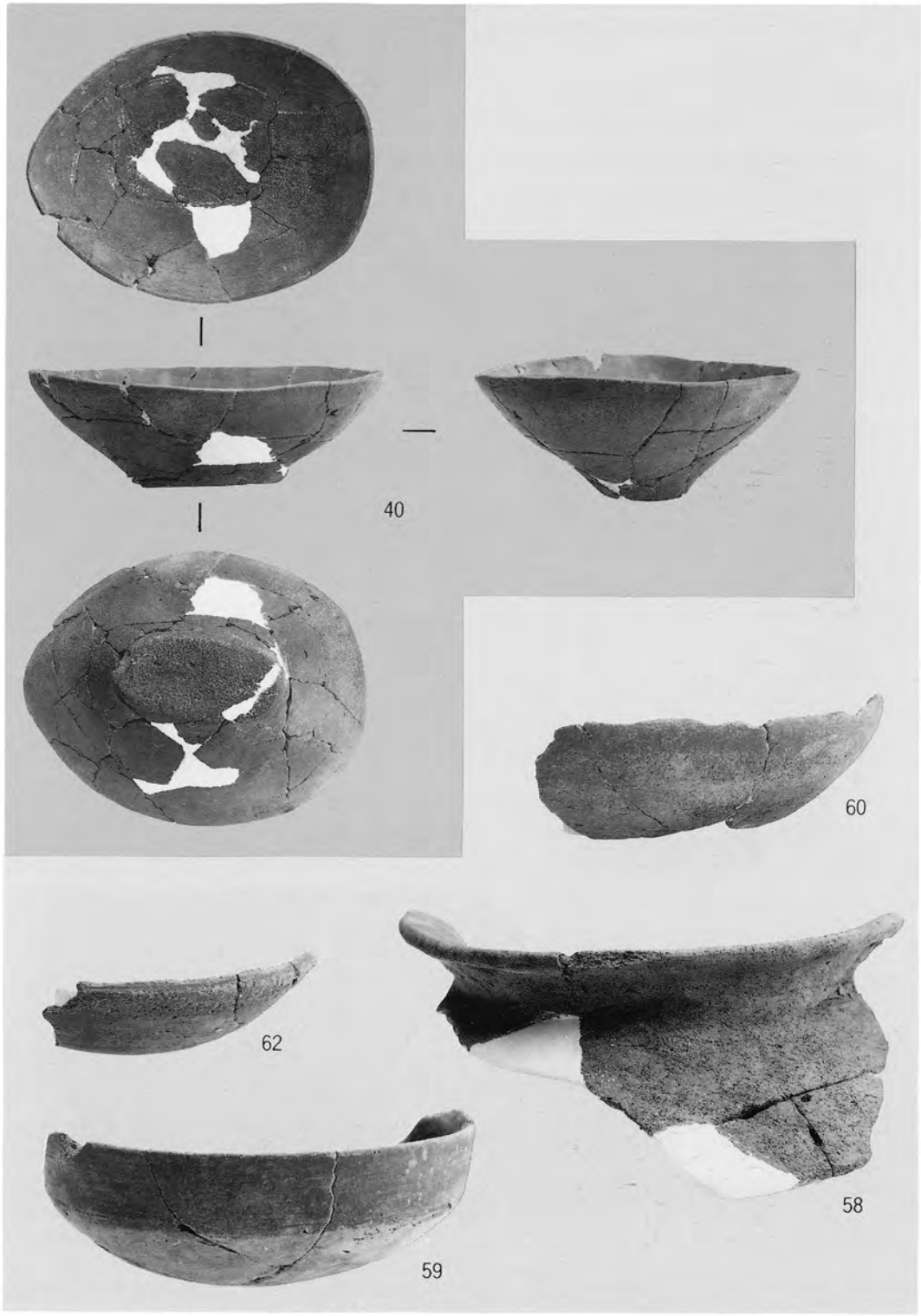

住居跡出土土器（SI8－1～5，SI41－6，SI42－7～11，SI45－12～16，SI46－17）



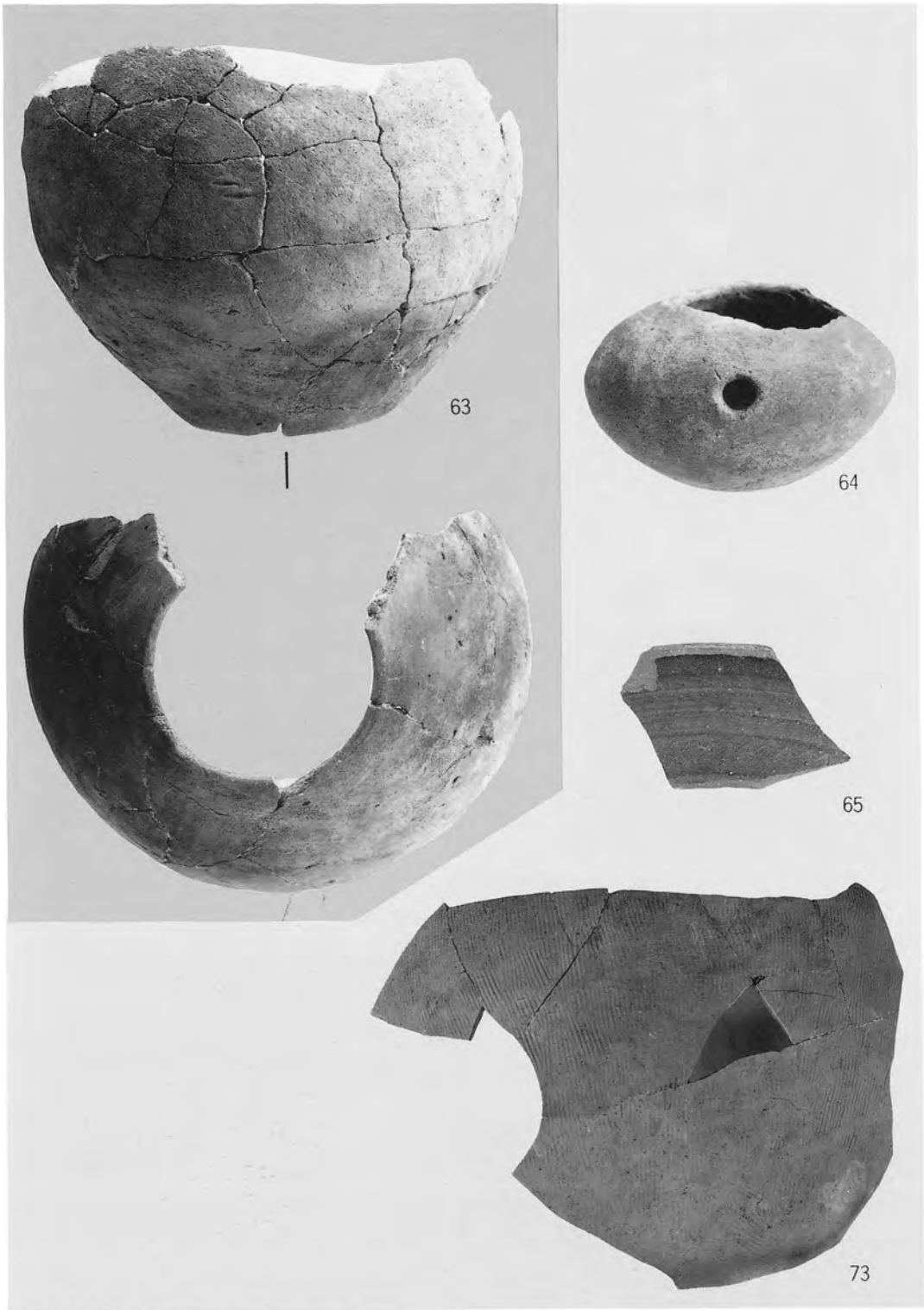

住居跡出土土器（SI12－18～21，SI13－22～28）



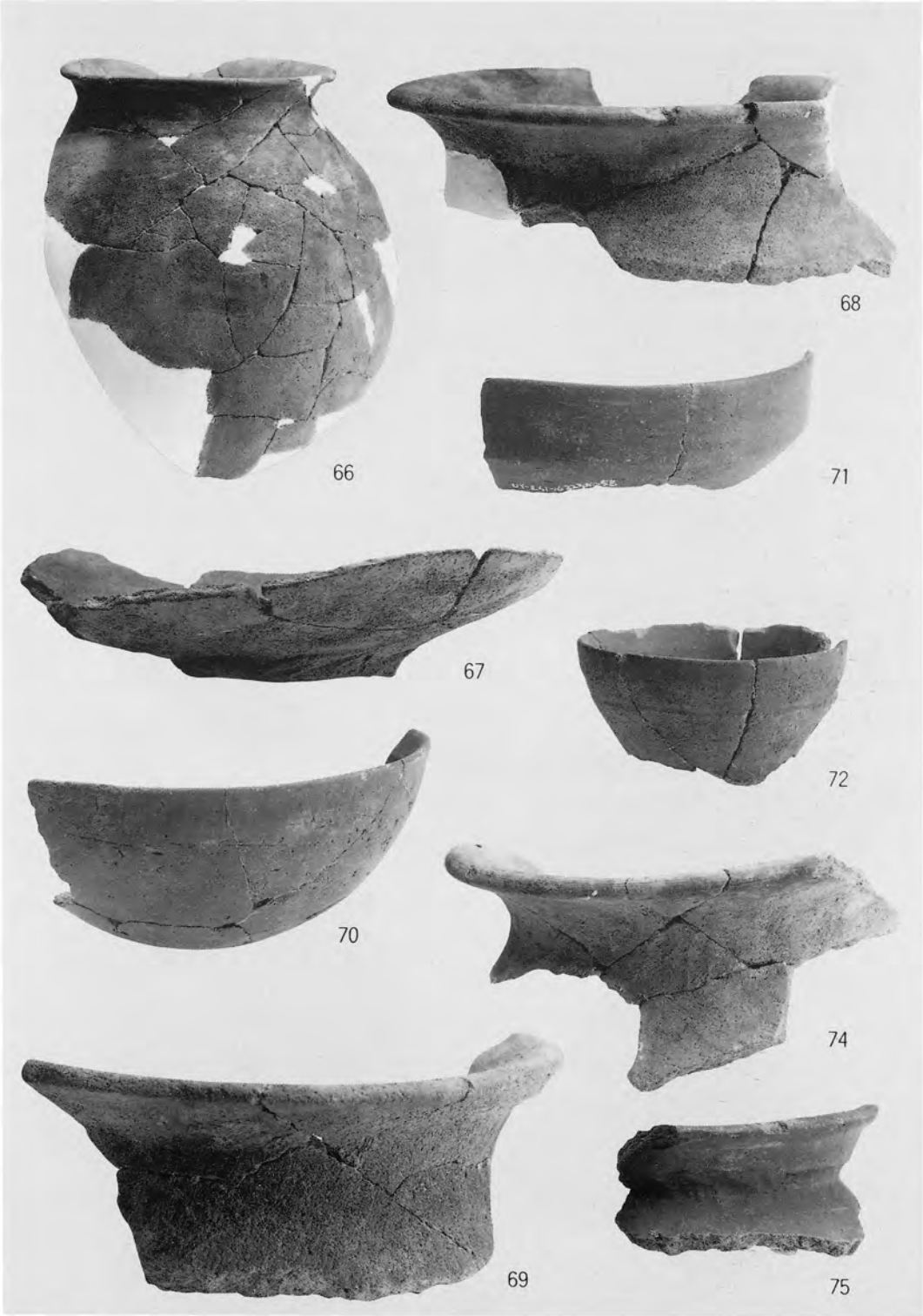

住居跡出土土器(1)（SI13－26～41，SI14－57）



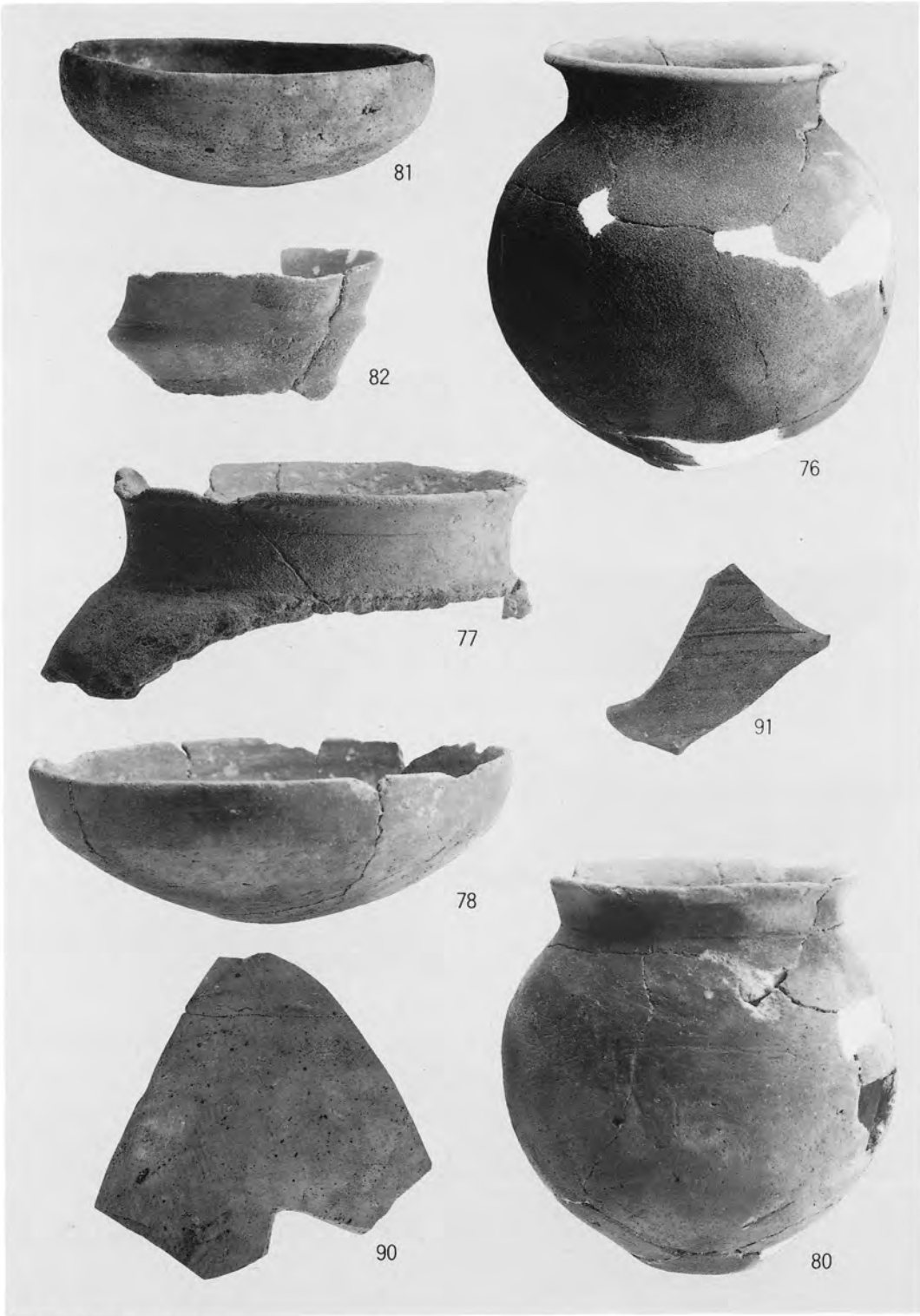

住居跡出土土器(2)（SI13－40，SI14－58～62）




住居跡出土土器（SI15－63～65，SI16－73）




住居跡出土土器（SI16－66～72，SI17－74・75）



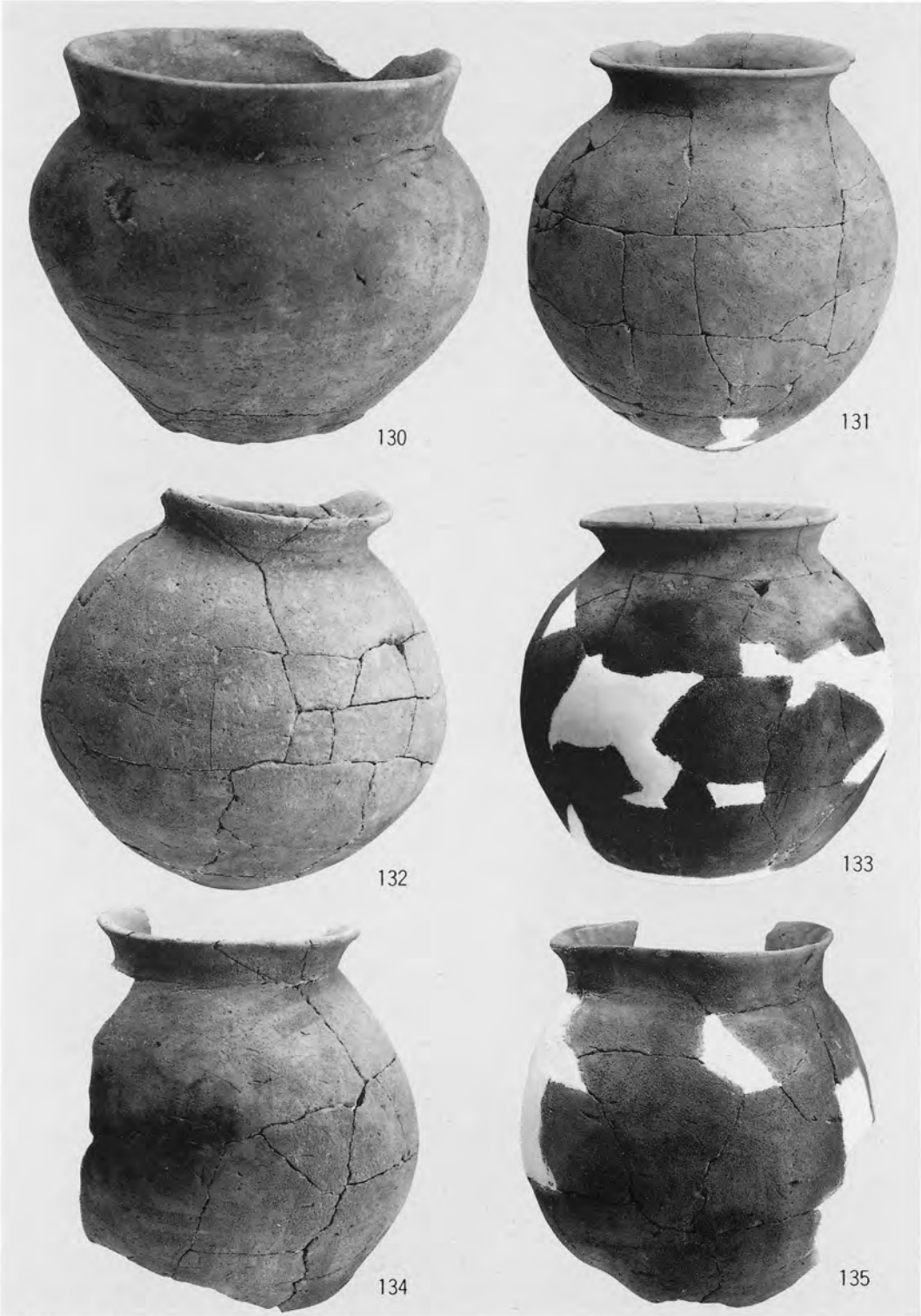

第18号住居跡出土土器

住居跡出土土器（SI18－79～89，SI19－101～106）

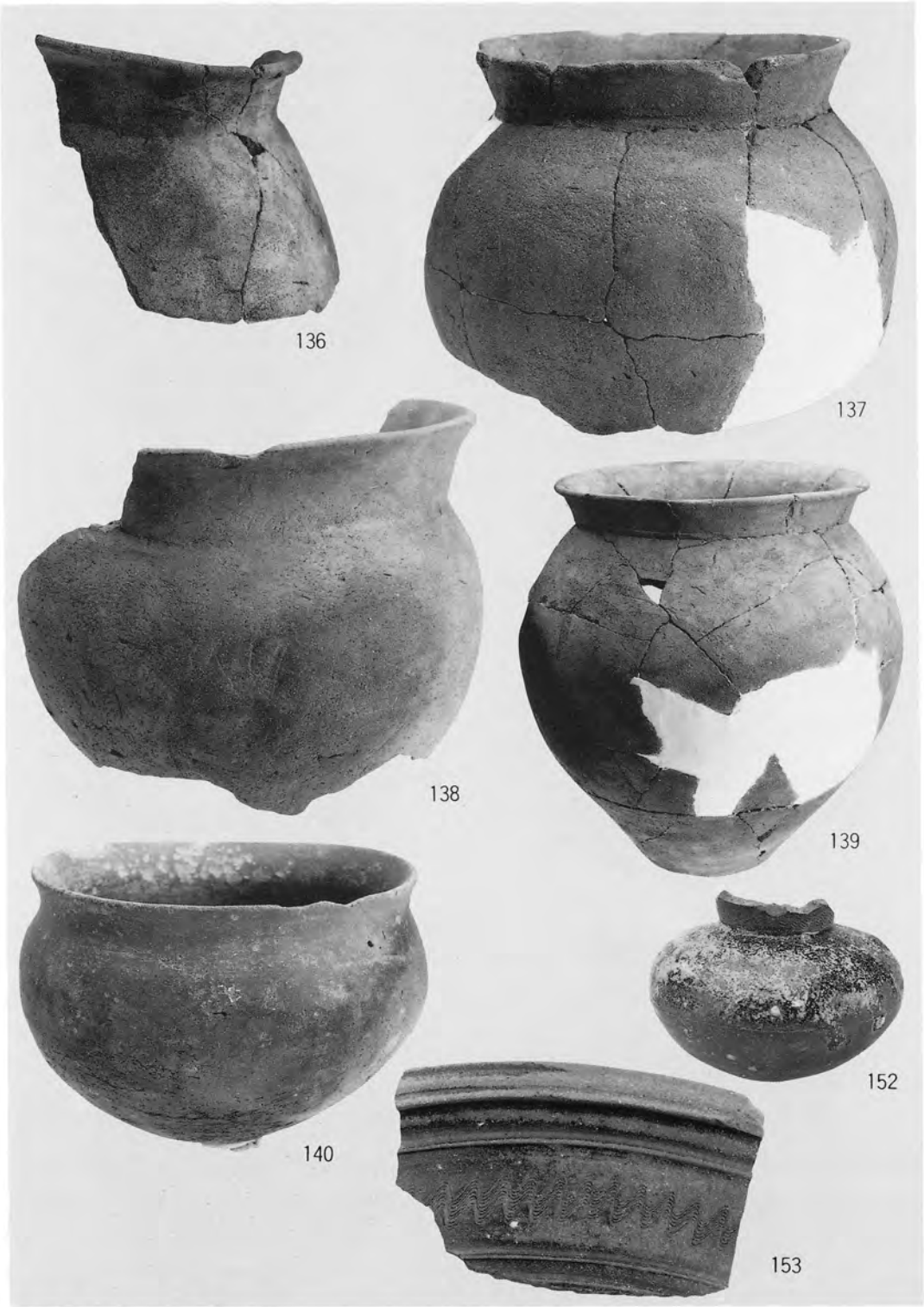
第19号住居跡出土土器(1)

第19号住居跡出土土器(2)

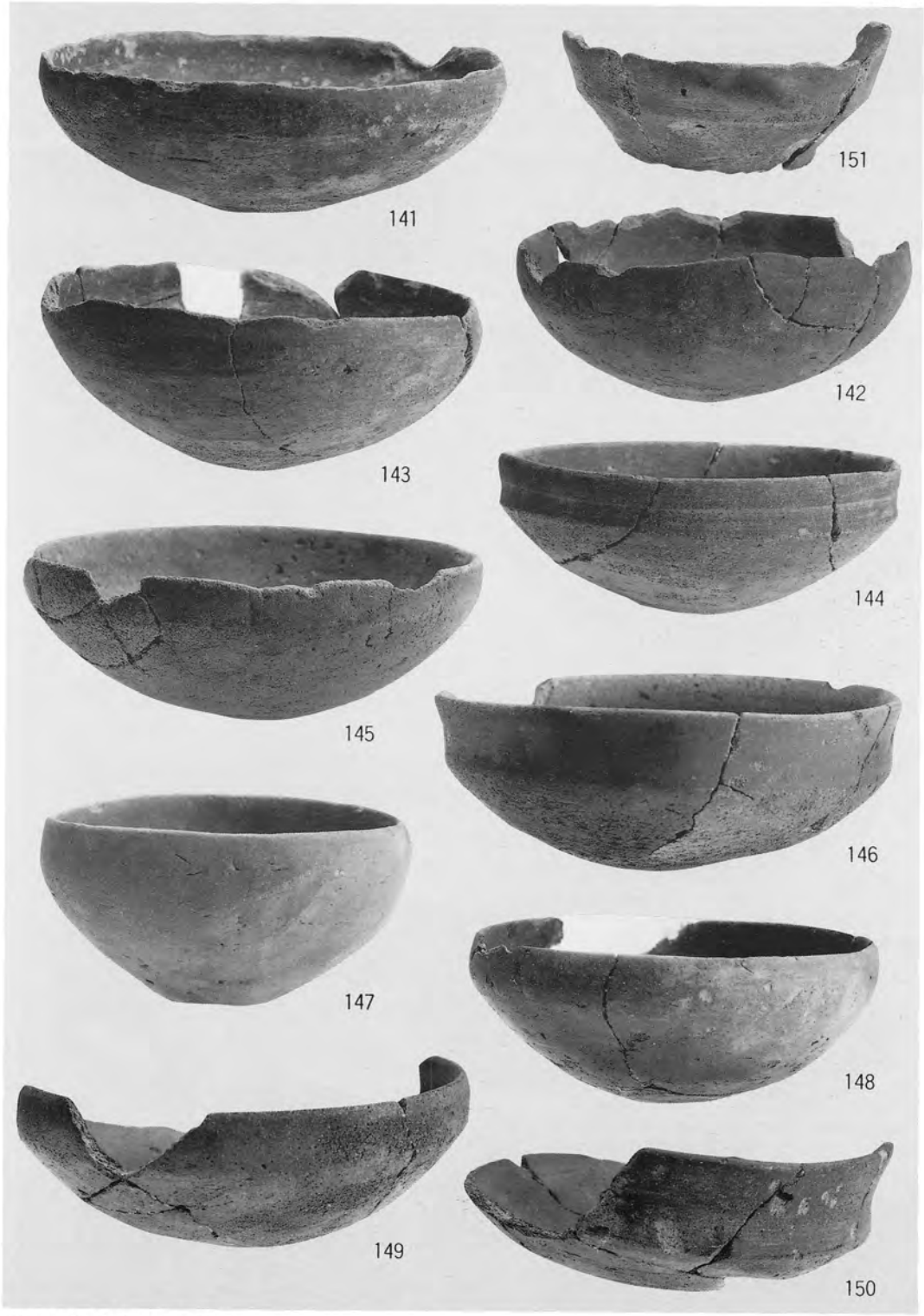
第20号住居跡出土土器



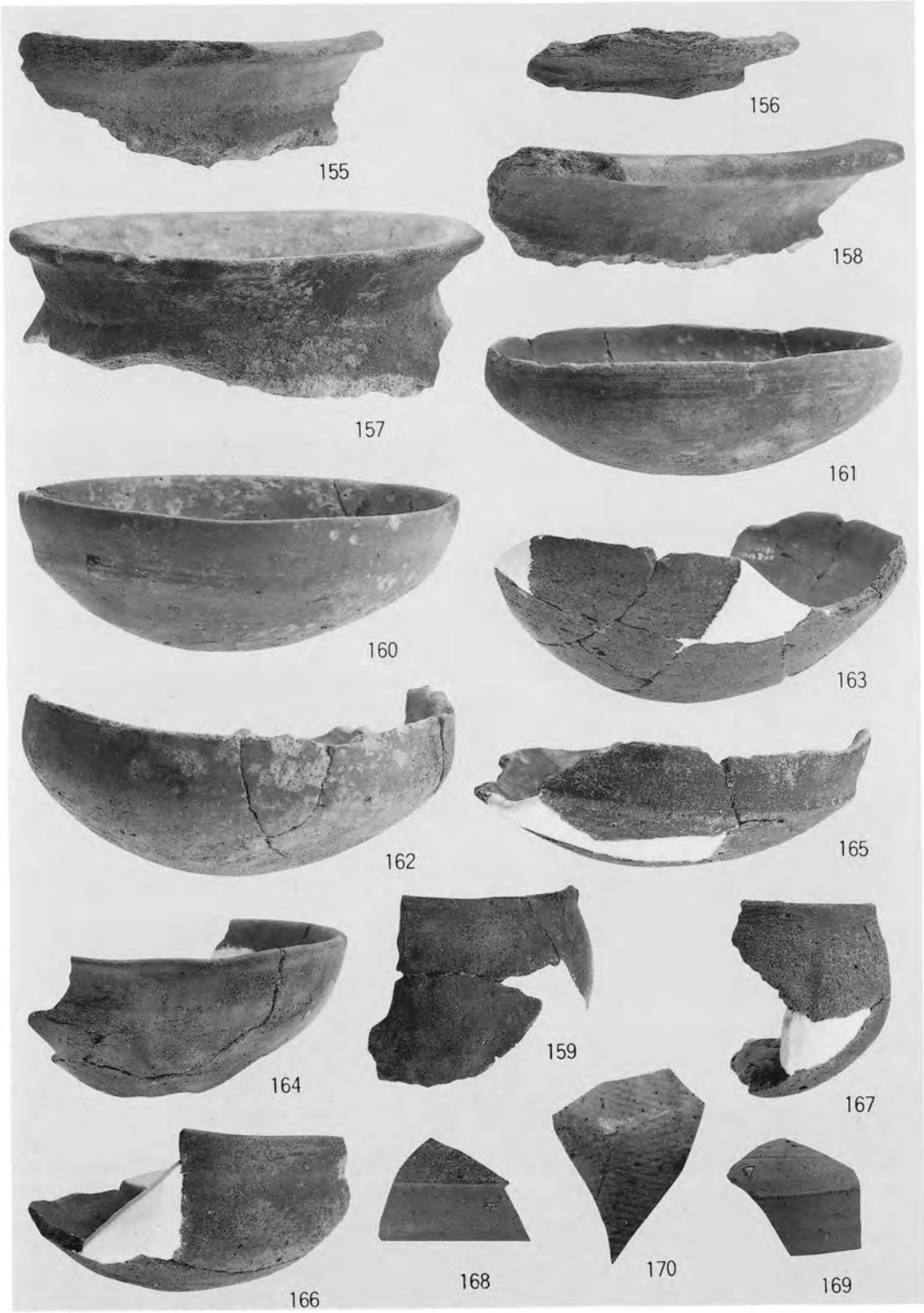

住居跡出土土器（SI20－130，SI21－131～135）



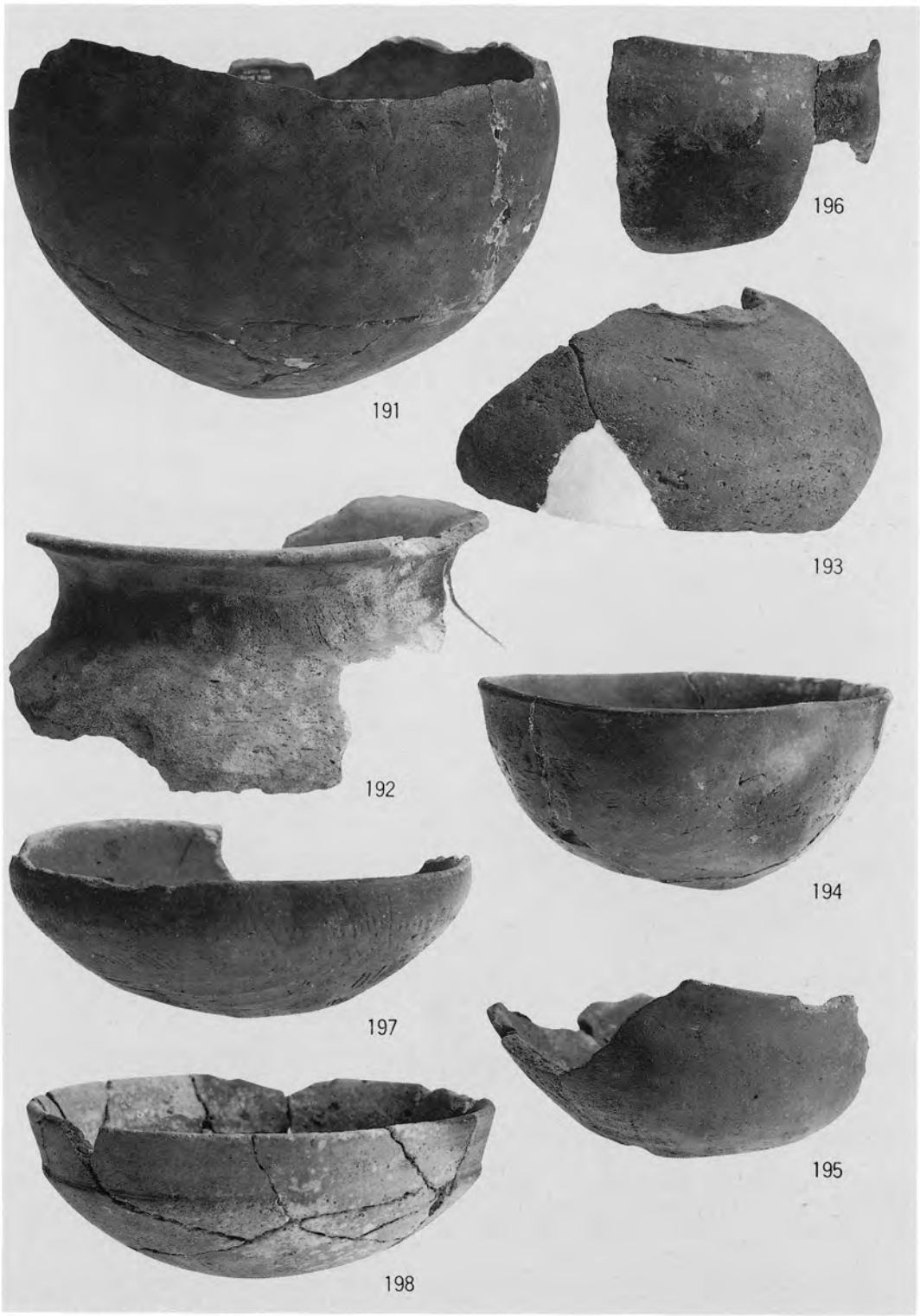

第21号住居跡出土土器(1)



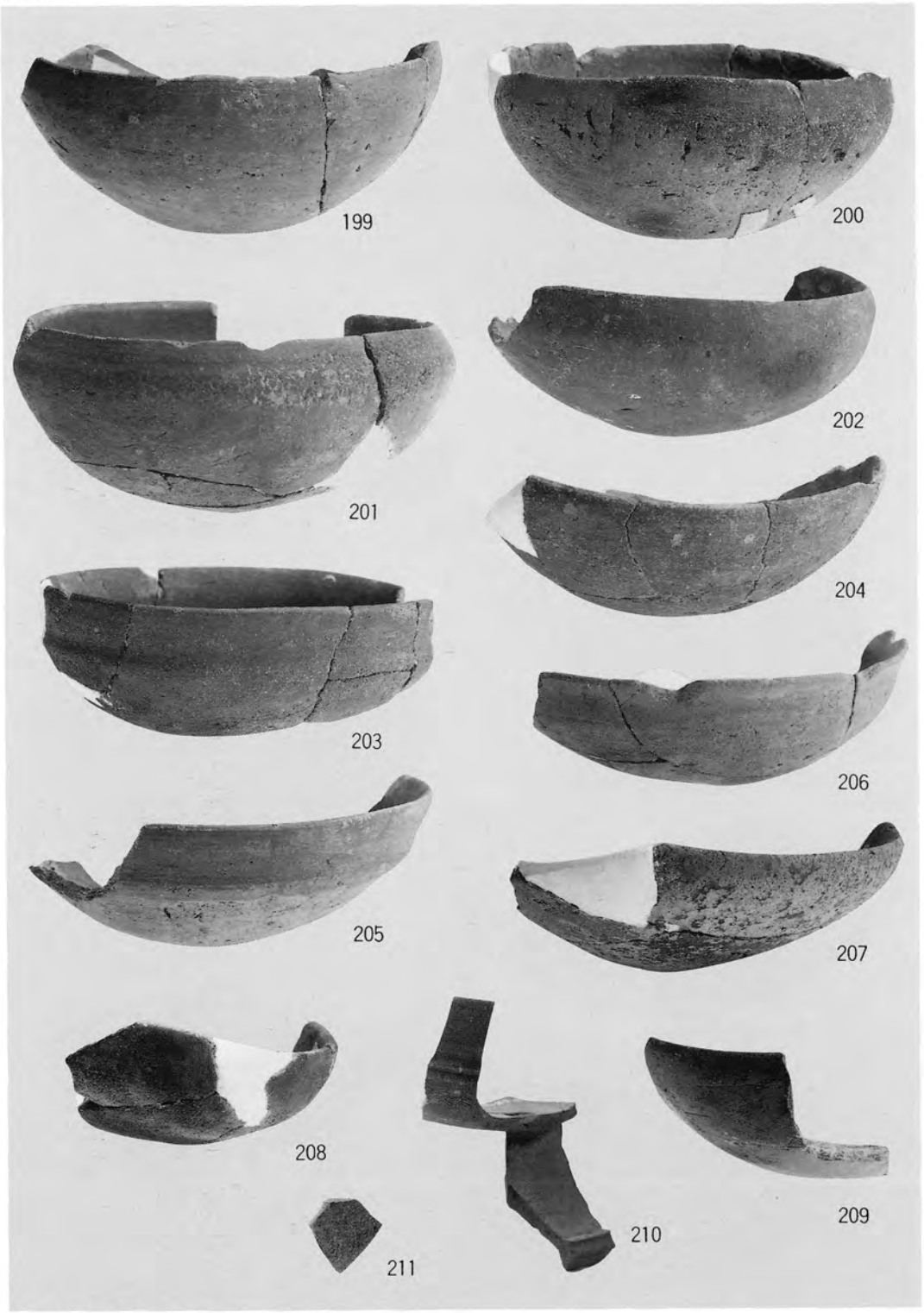

第21号住居跡出土土器(2)




住居跡出土土器（SI22－155・156，SI23－157～170）



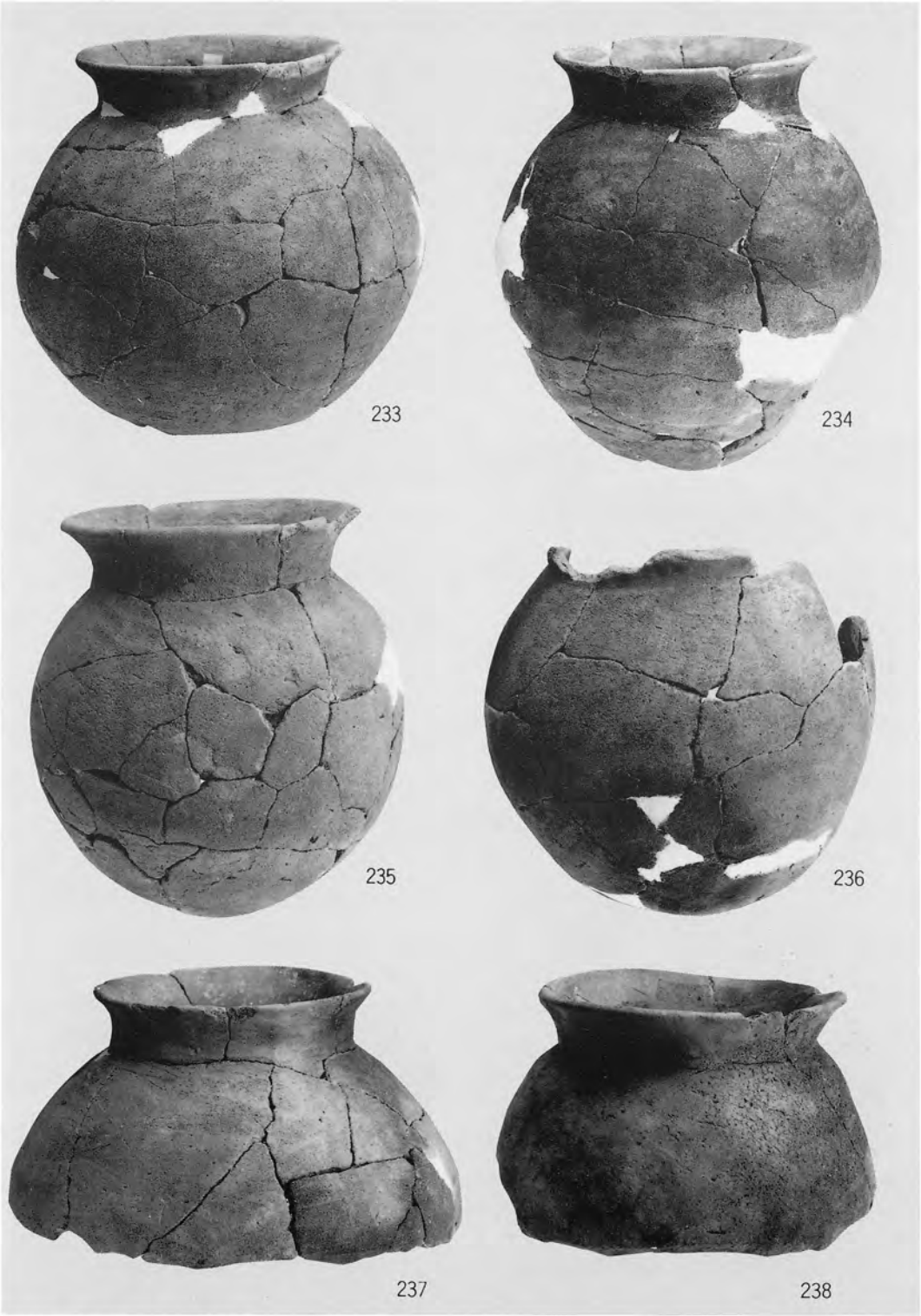

第24号住居跡出土土器(1)



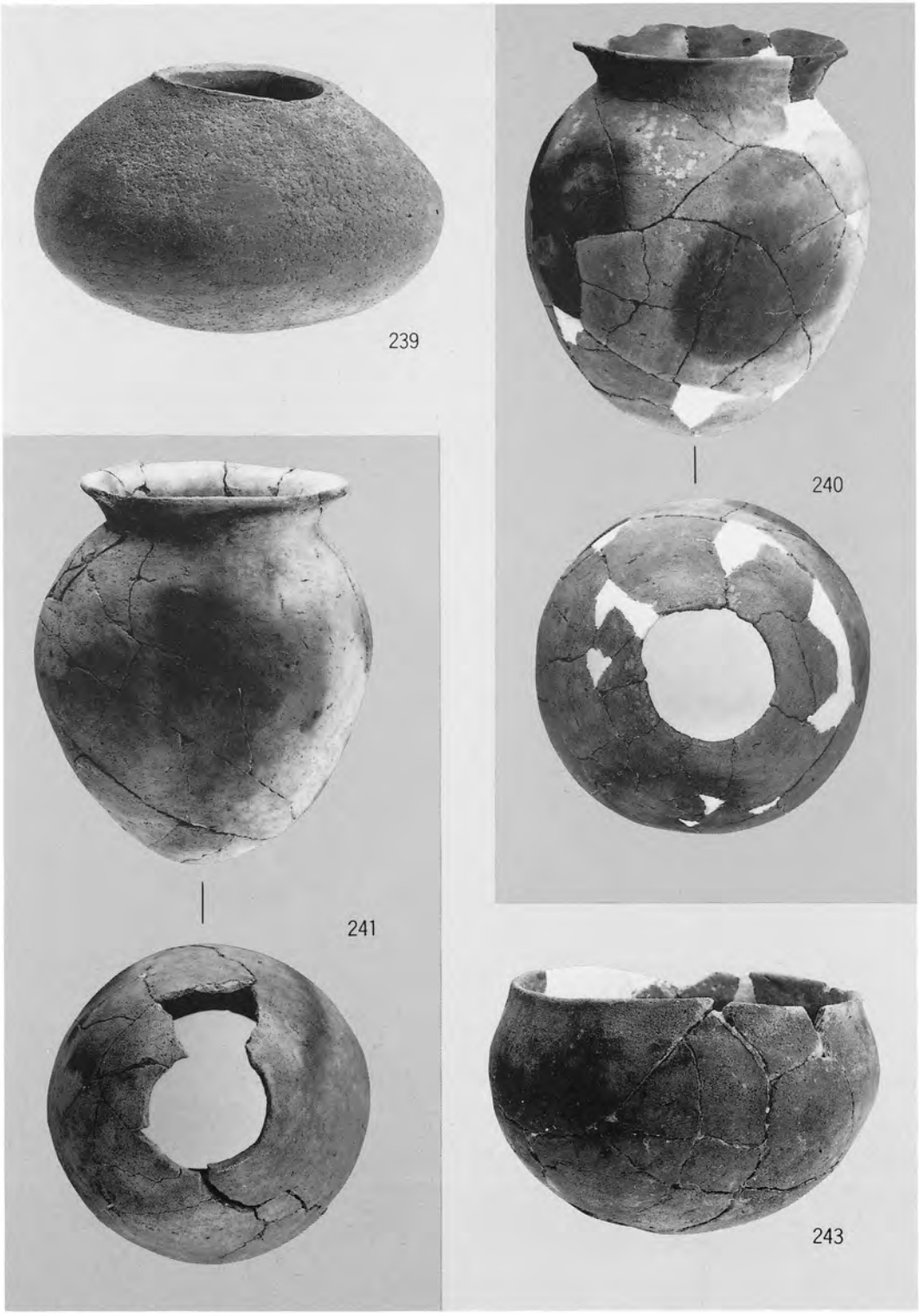

第24号住居跡出土土器(2)

住居跡出土土器（SI25－215～217，SI26－223～227）

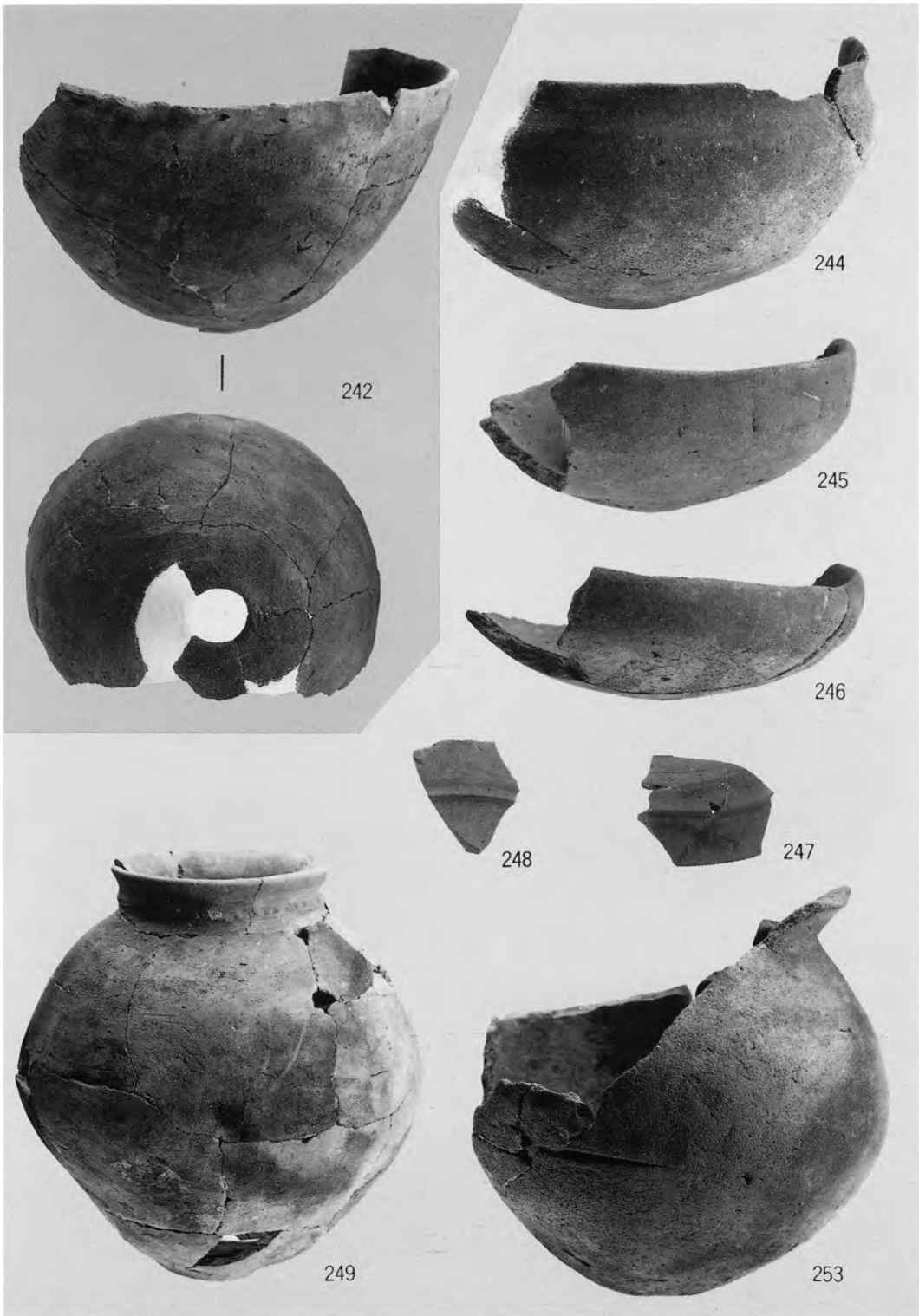
第27号住居跡出土土器(1)



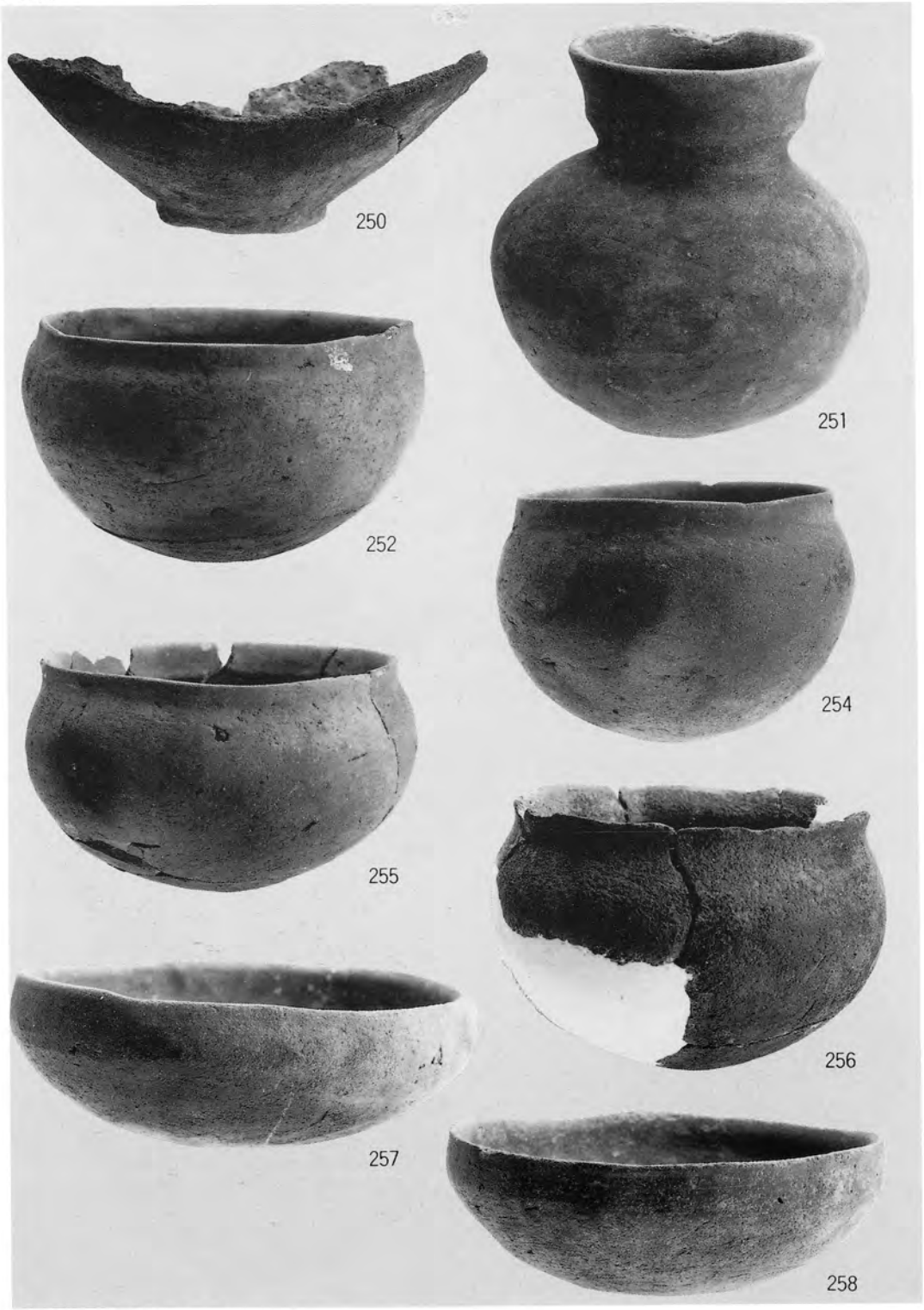

第27号住居跡出土土器(2)



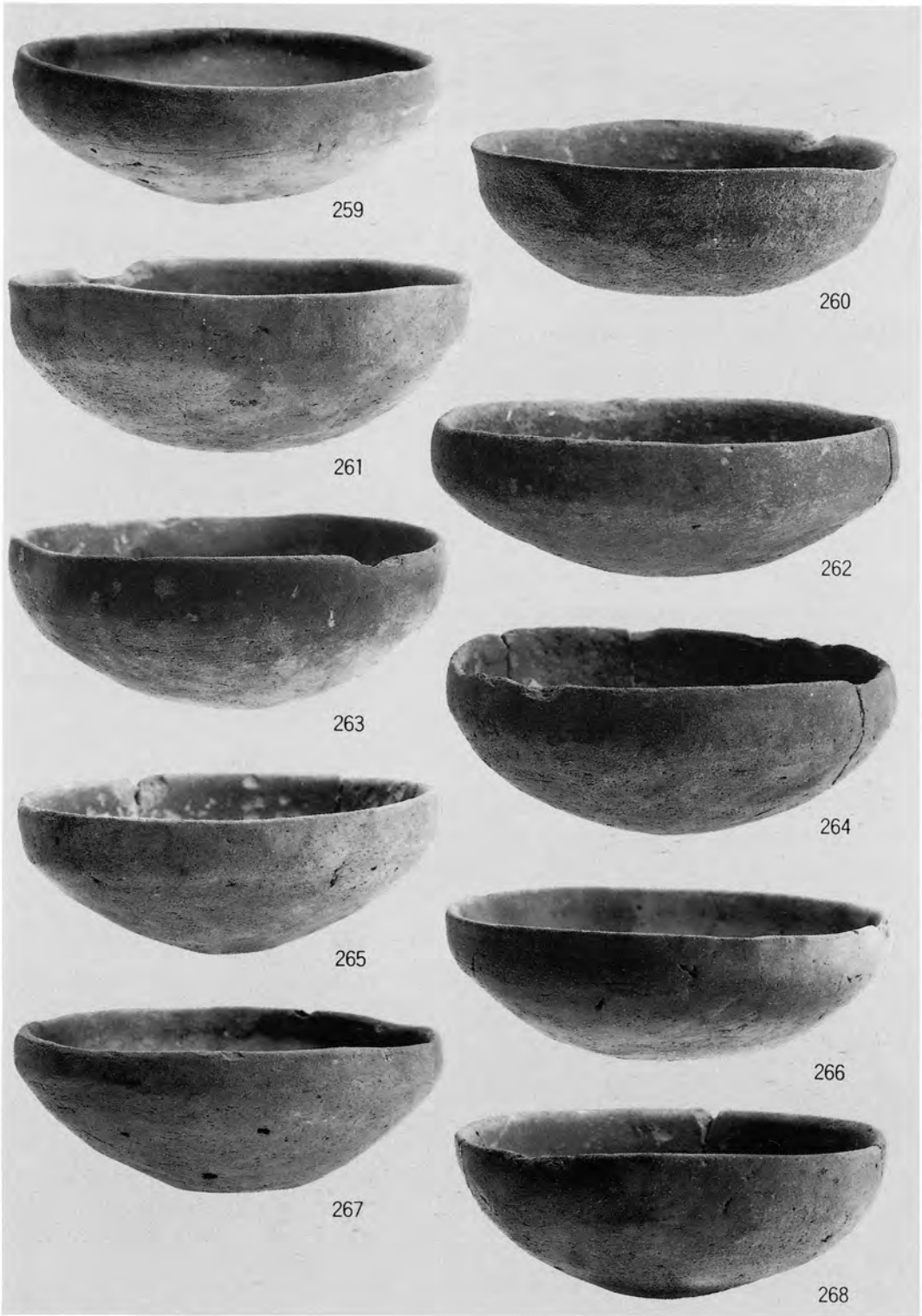

第27号住居跡出土土器(3)



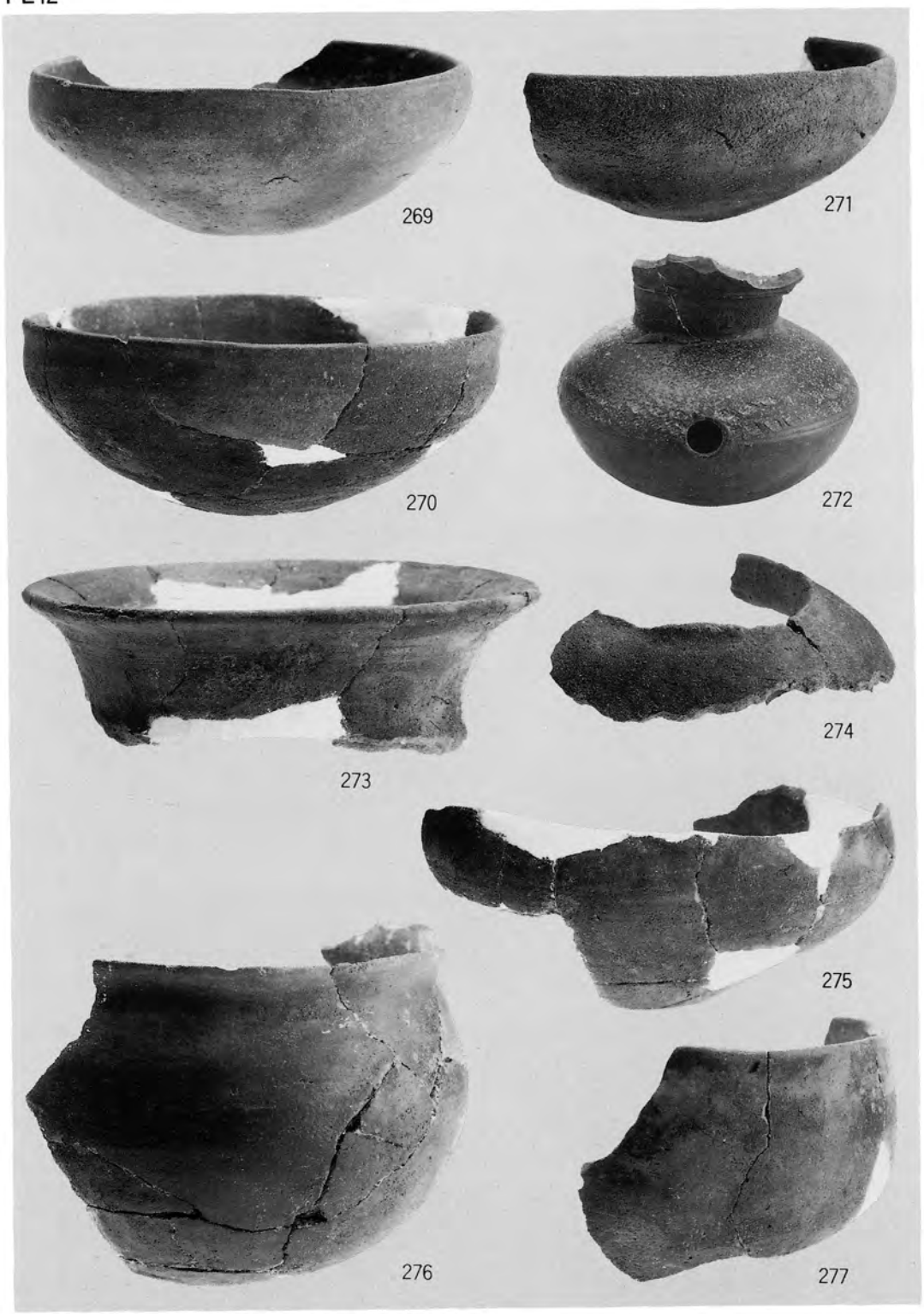

住居跡出土土器（SI27－242～248，SI28－249・253）



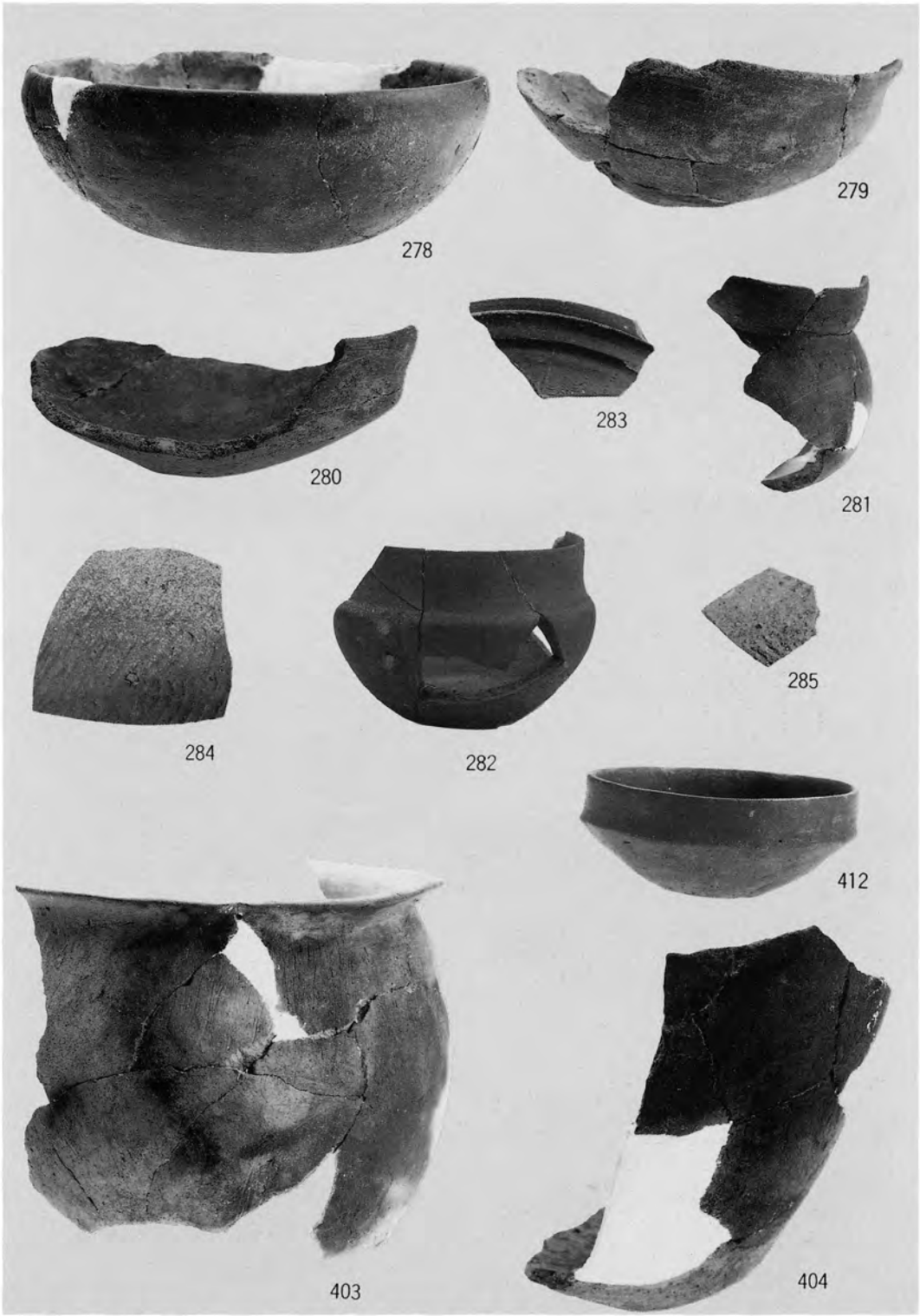

第28号住居跡出土土器(1)



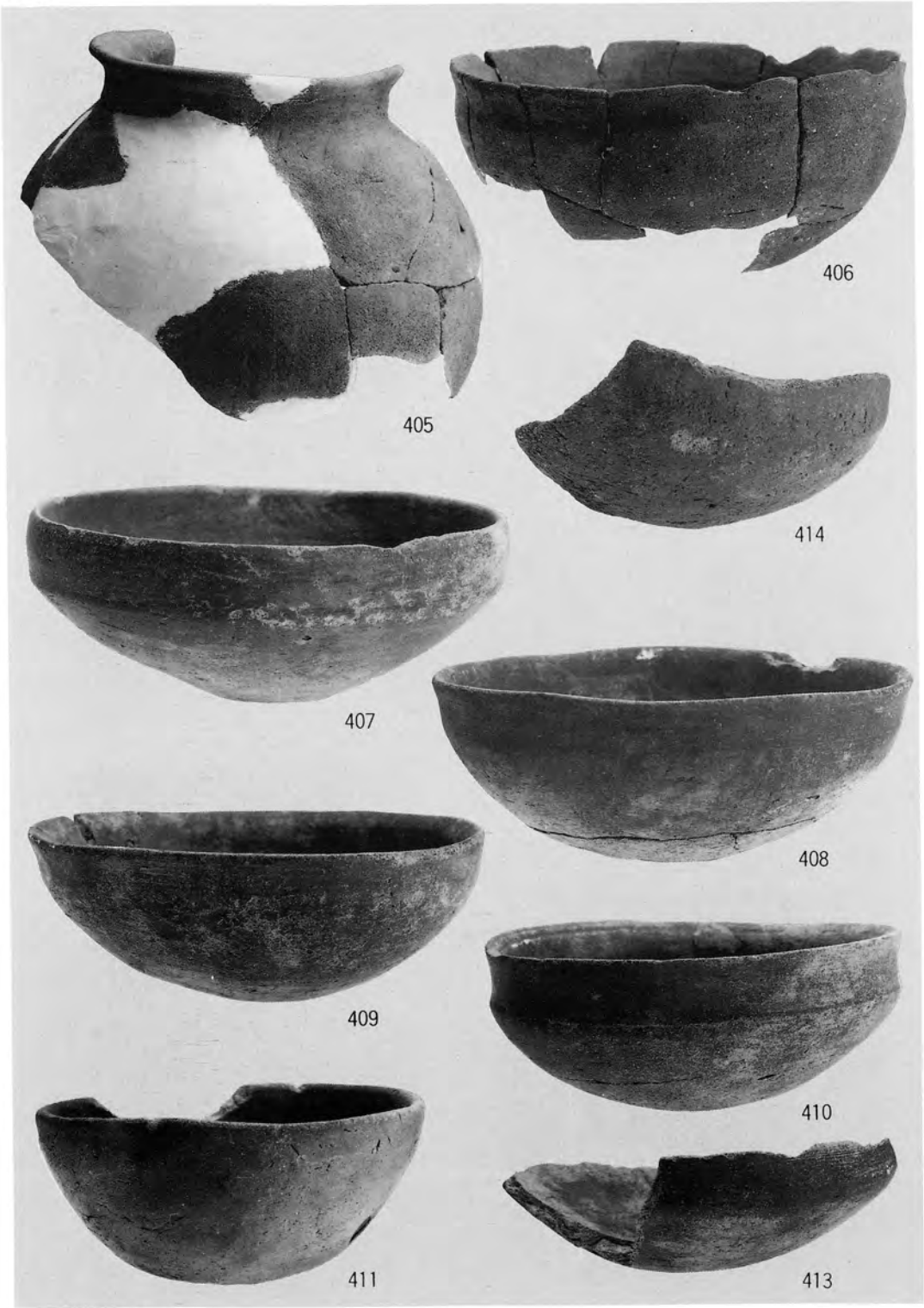

第28号住居跡出土土器(2)




住居跡出土土器（SI28－269～272，SI29－273～277）




住居跡出土土器（SI29－278～285，SI31－403～412）

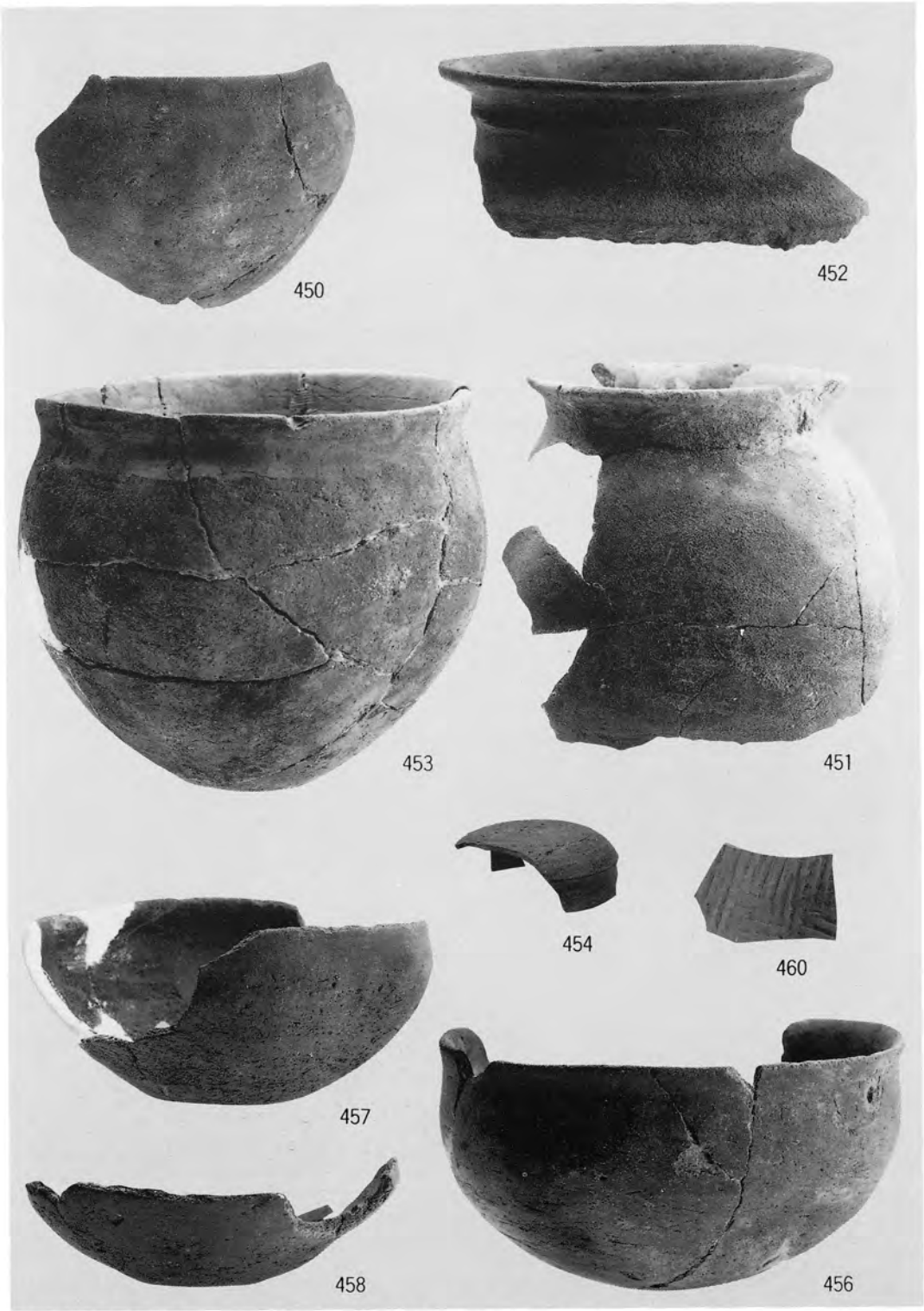



第31号住居跡出土土器

第32号住居跡出土土器(1)

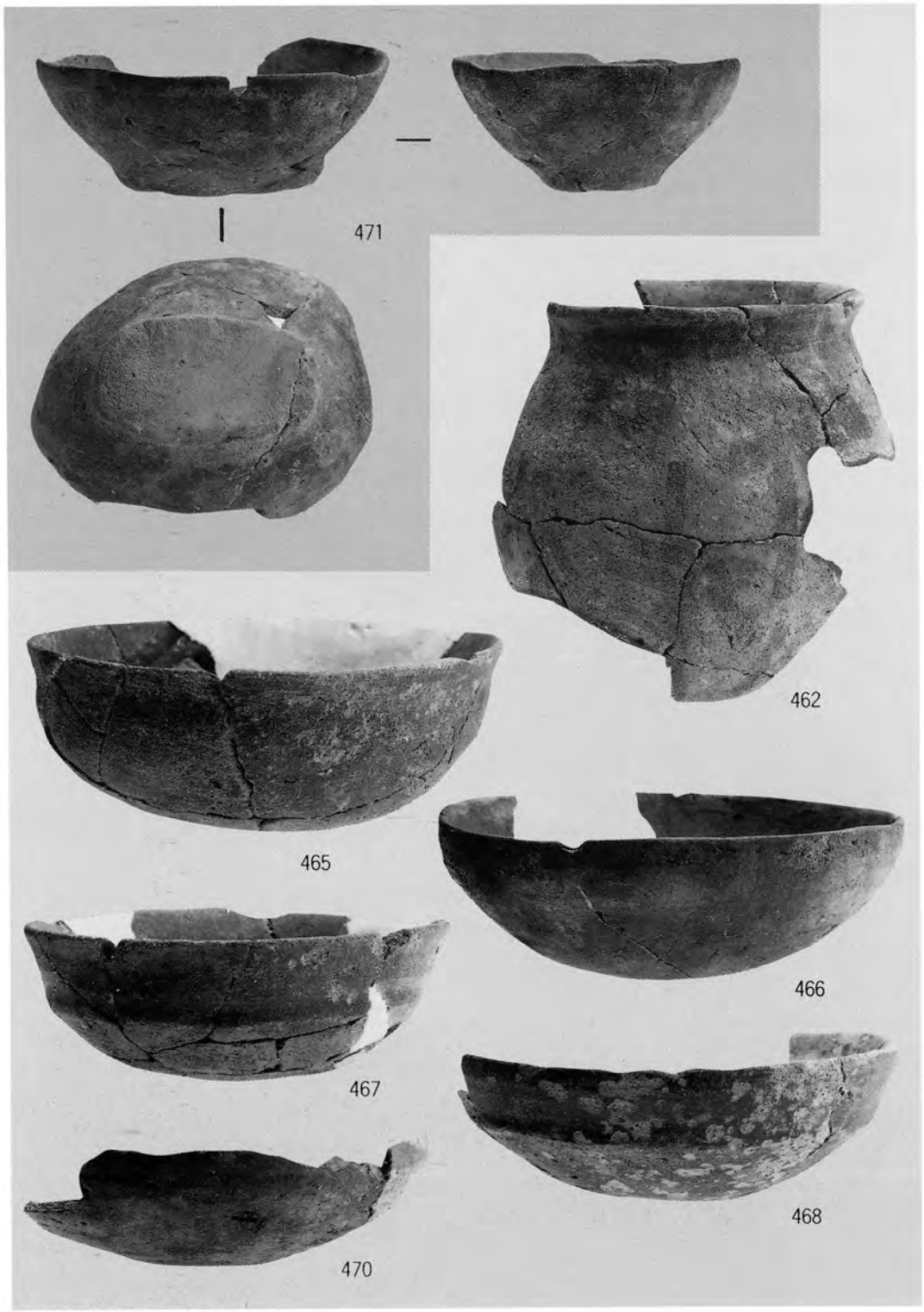
第32号住居跡出土土器(2)

住居跡出土土器（SI33－432～437，SI34－446～448）

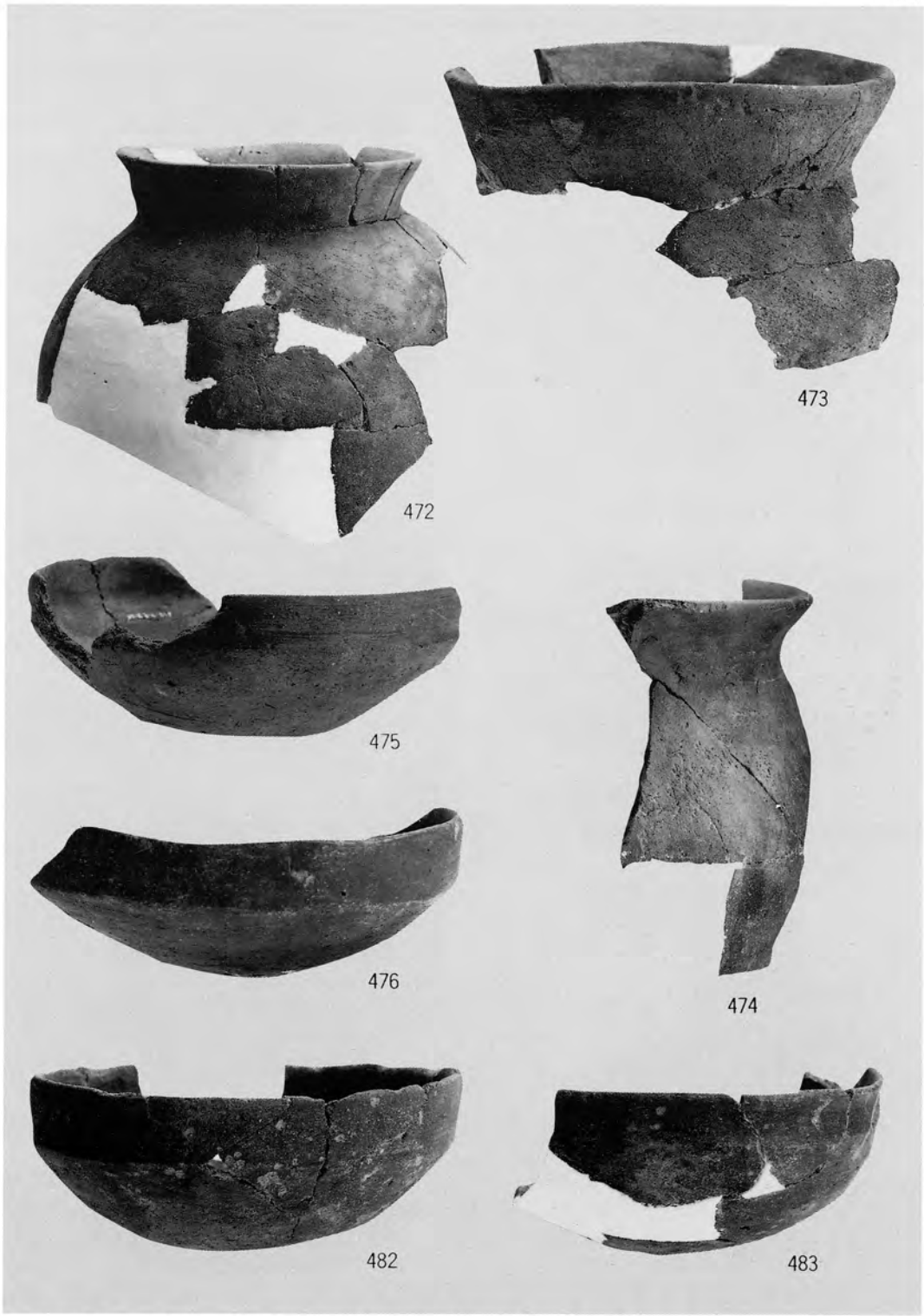



住居跡出土土器（SI35－450，SI36－451～454，SI37－456～460）

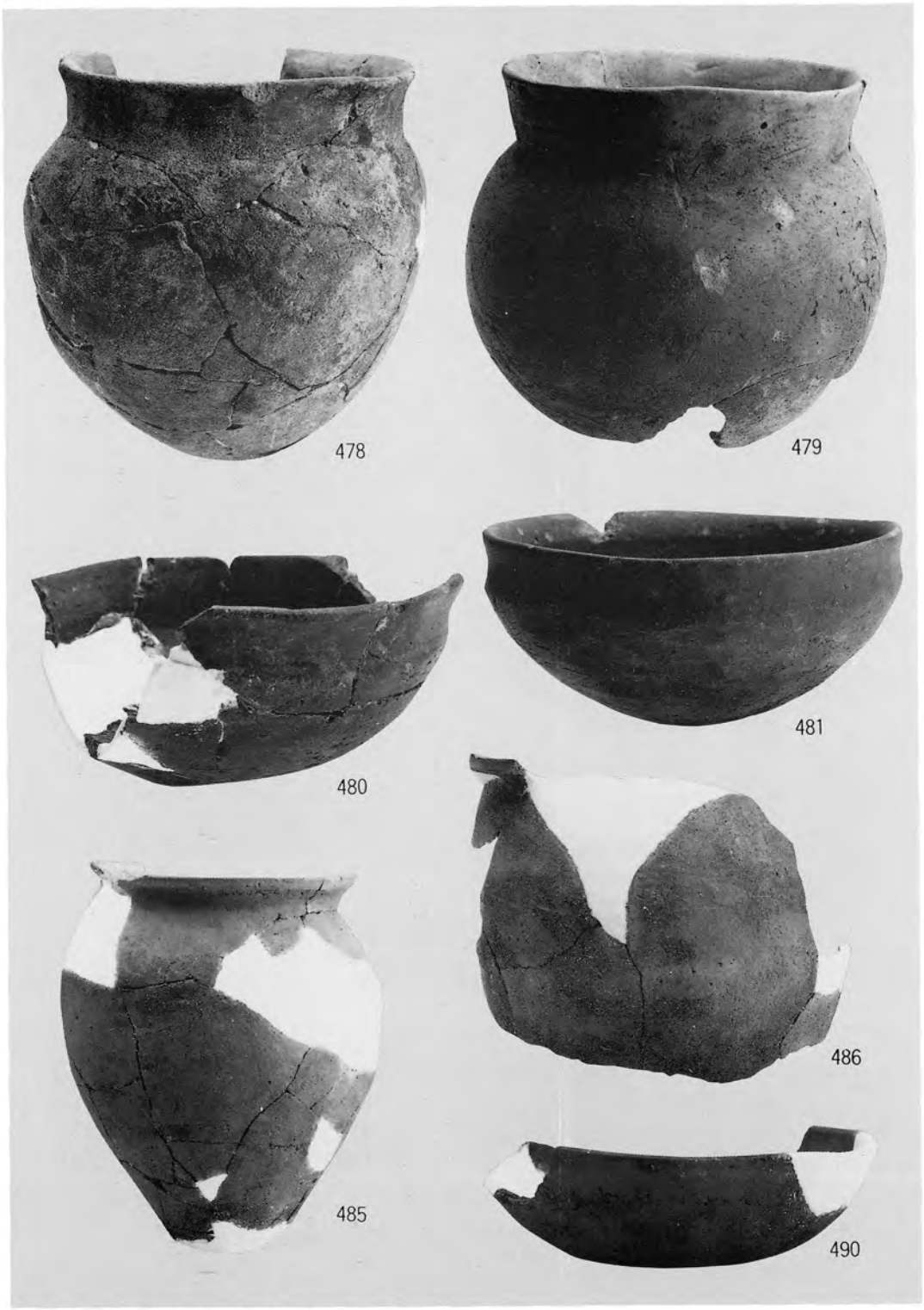
第38号住居跡出土土器(1)




第38号住居跡出土土器(2)

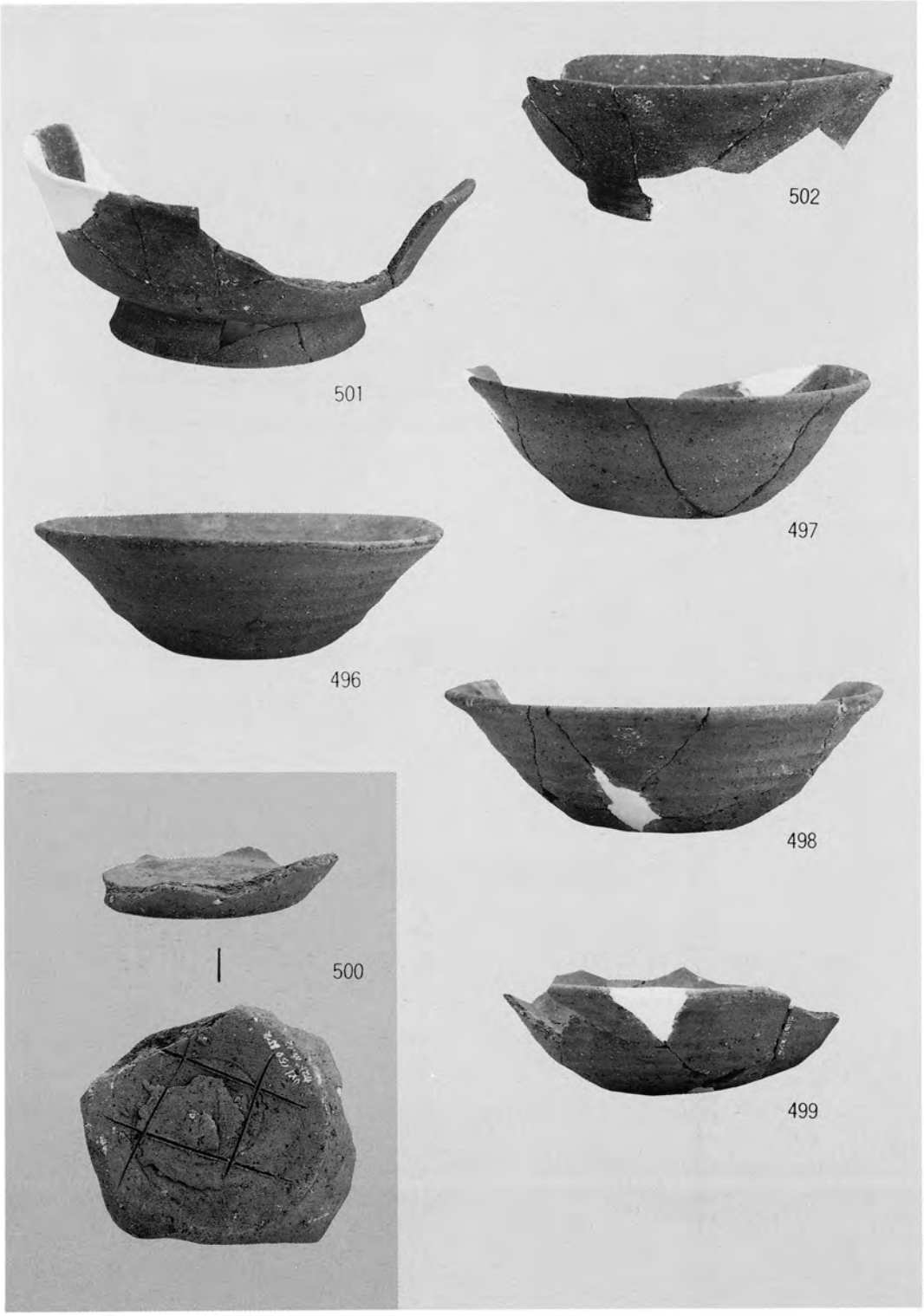



住居跡出土土器（SI39－472・473，SI40－474～476，SI43－482・483）



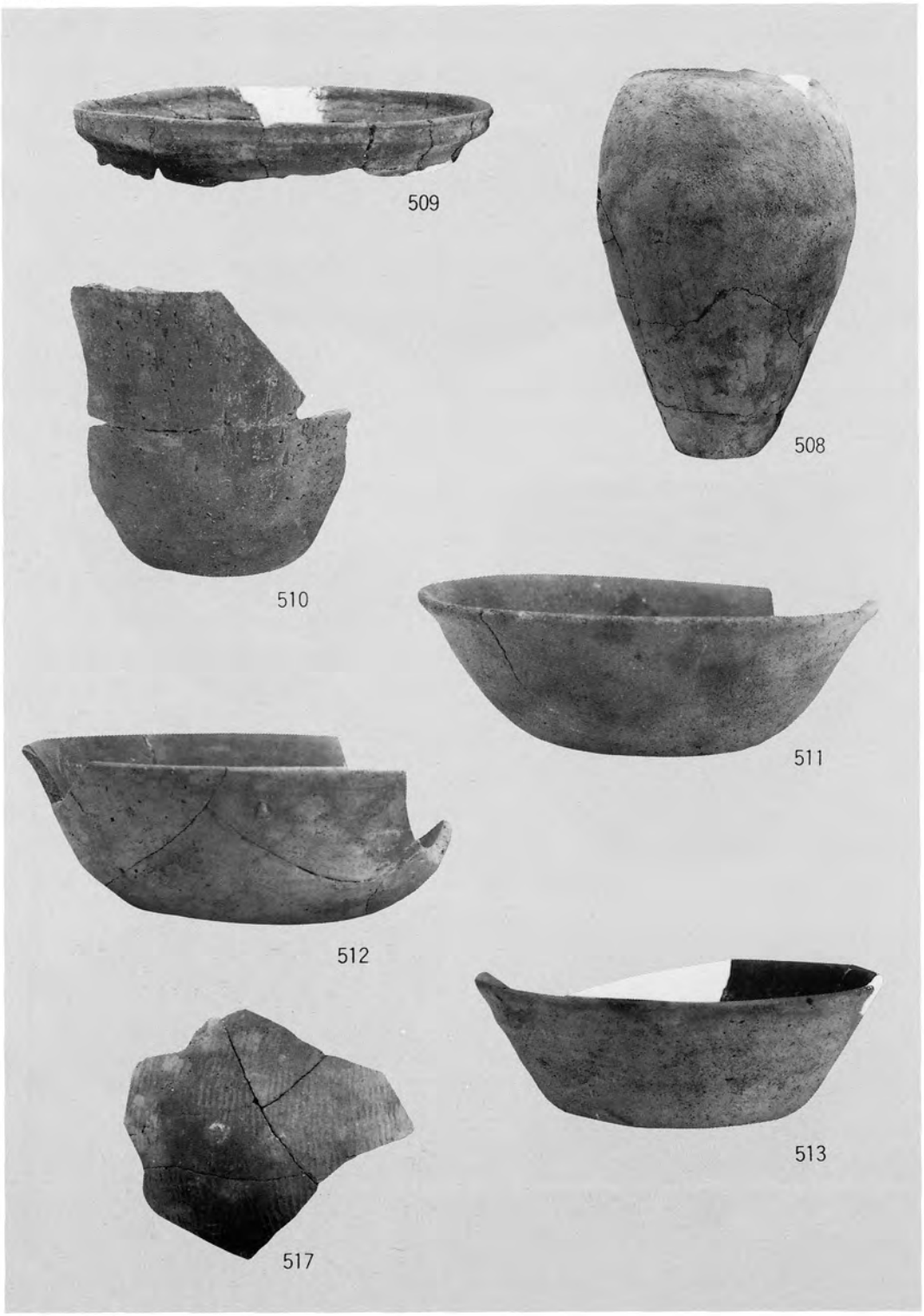

住居跡出土土器（SI43－478～481，SI1－485～490）

第１号住居跡出土土器

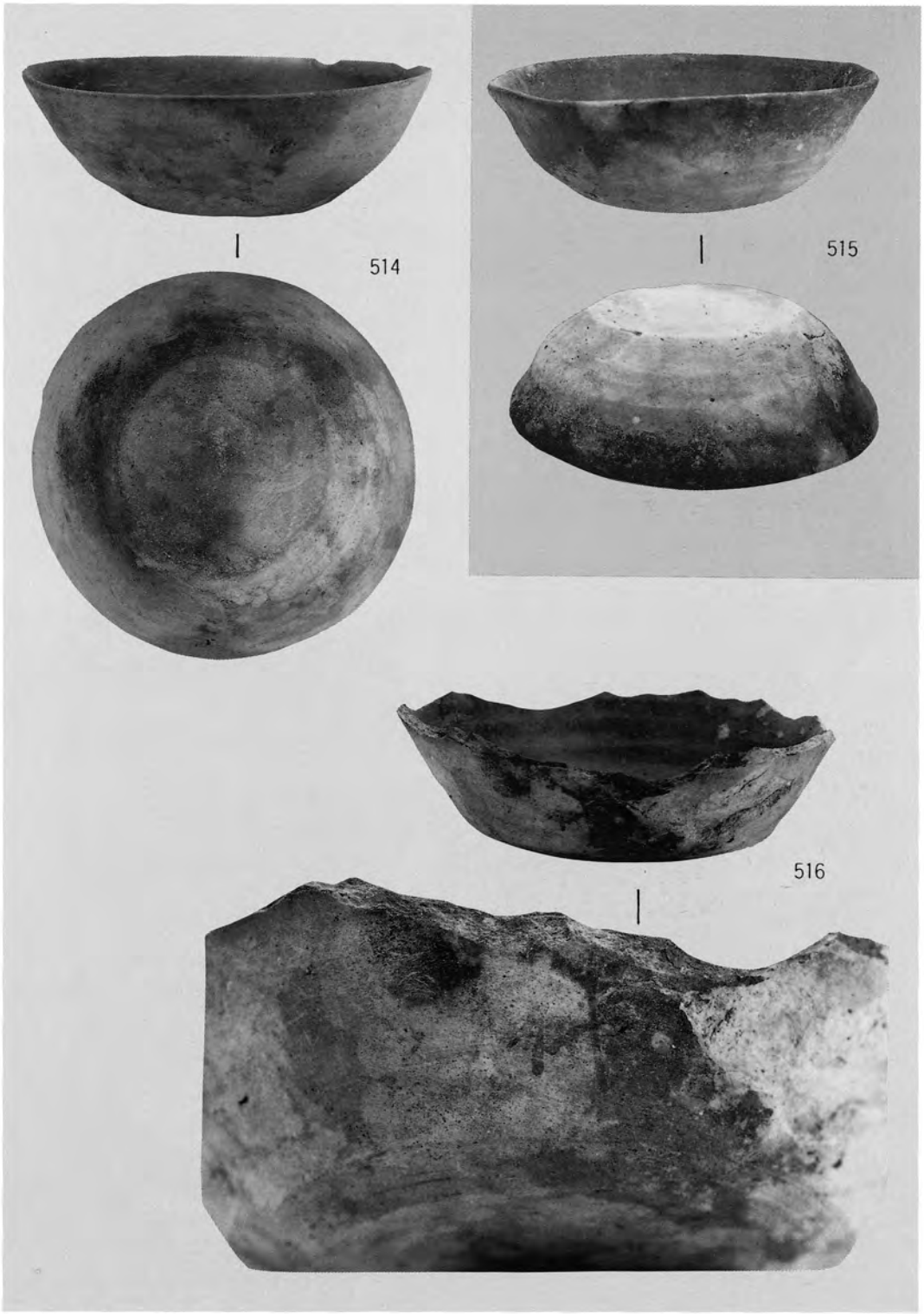



第 2 号住居跡出土土器

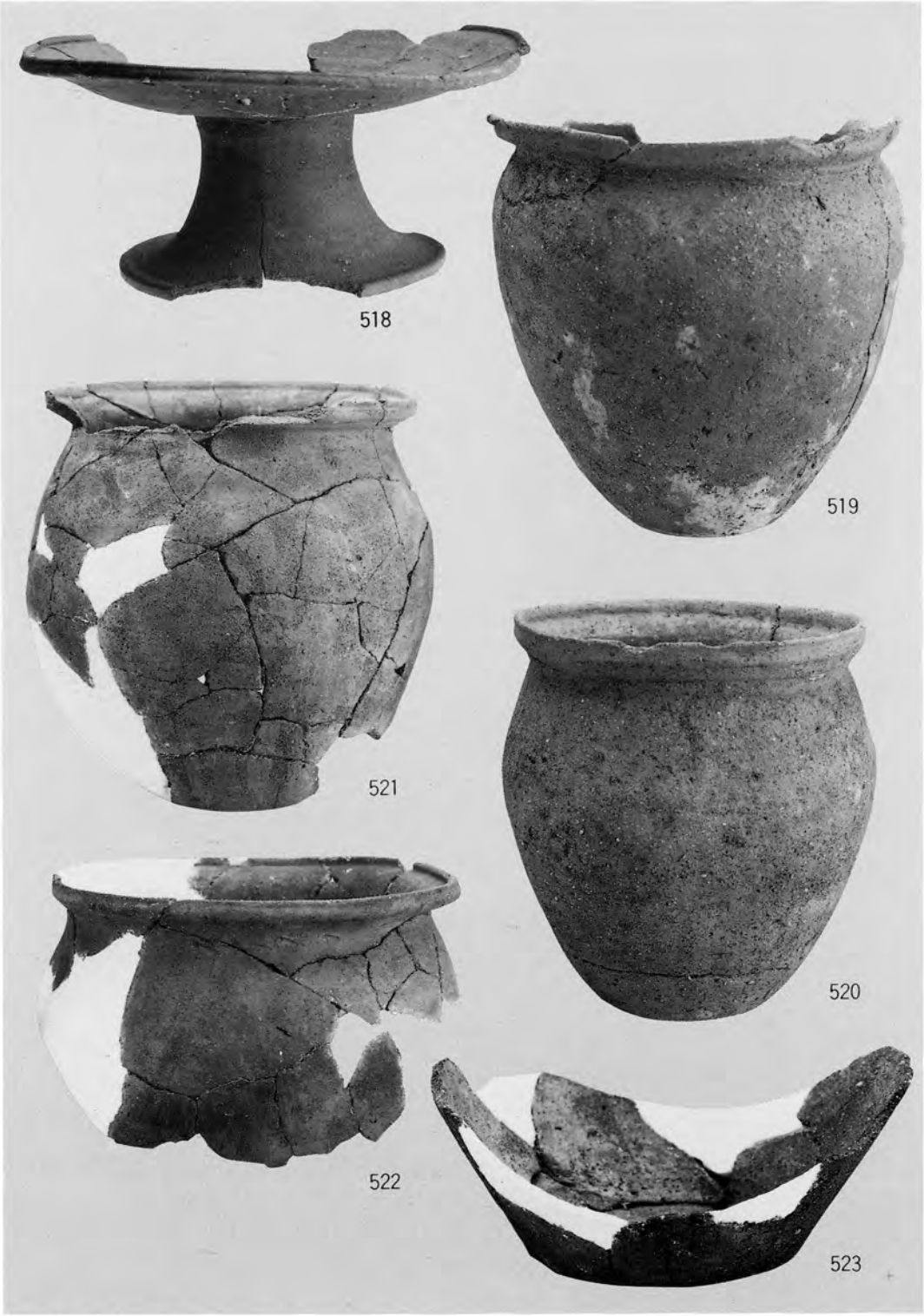
第３号住居跡出土土器



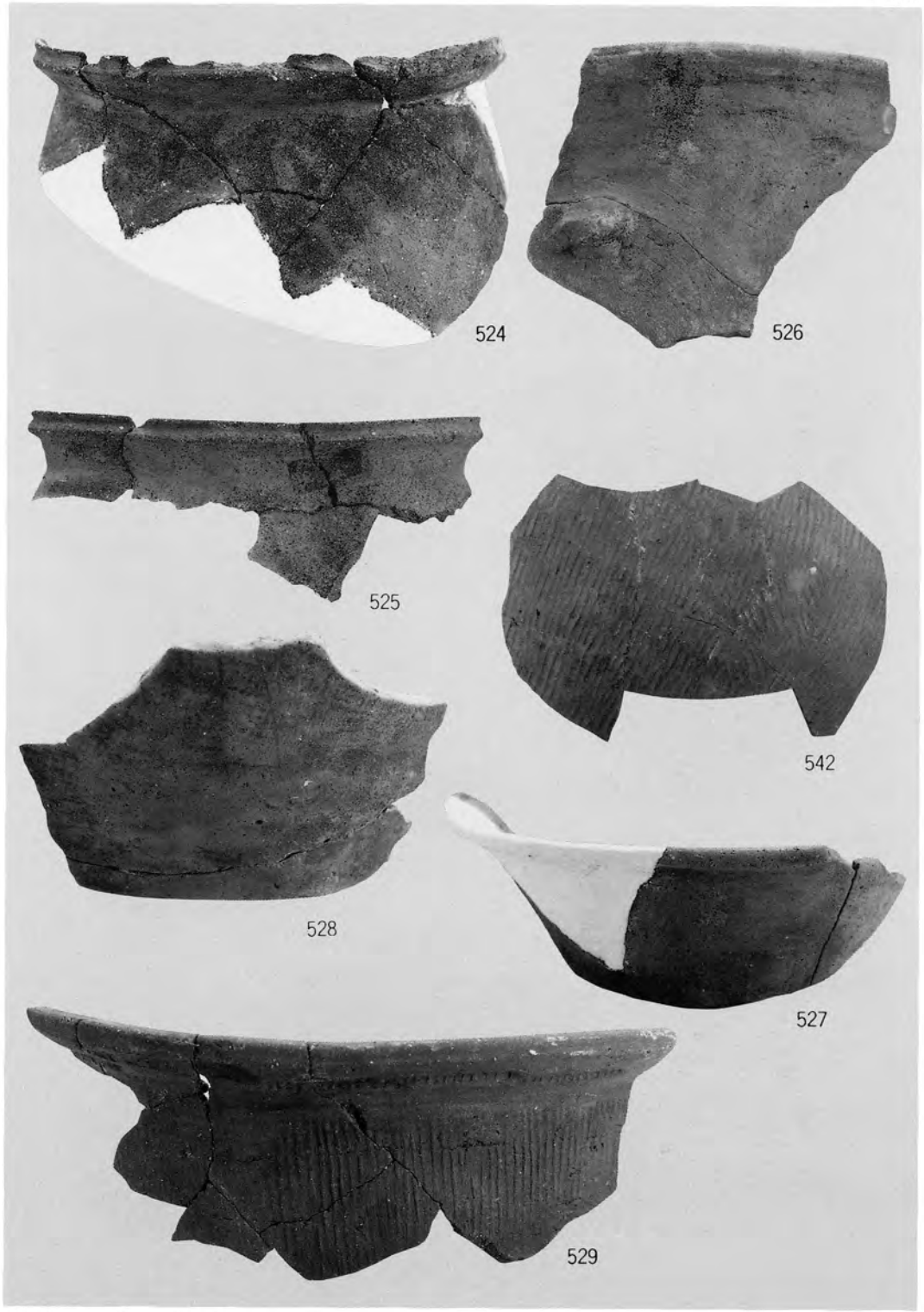

第４号住居跡出土土器(1)



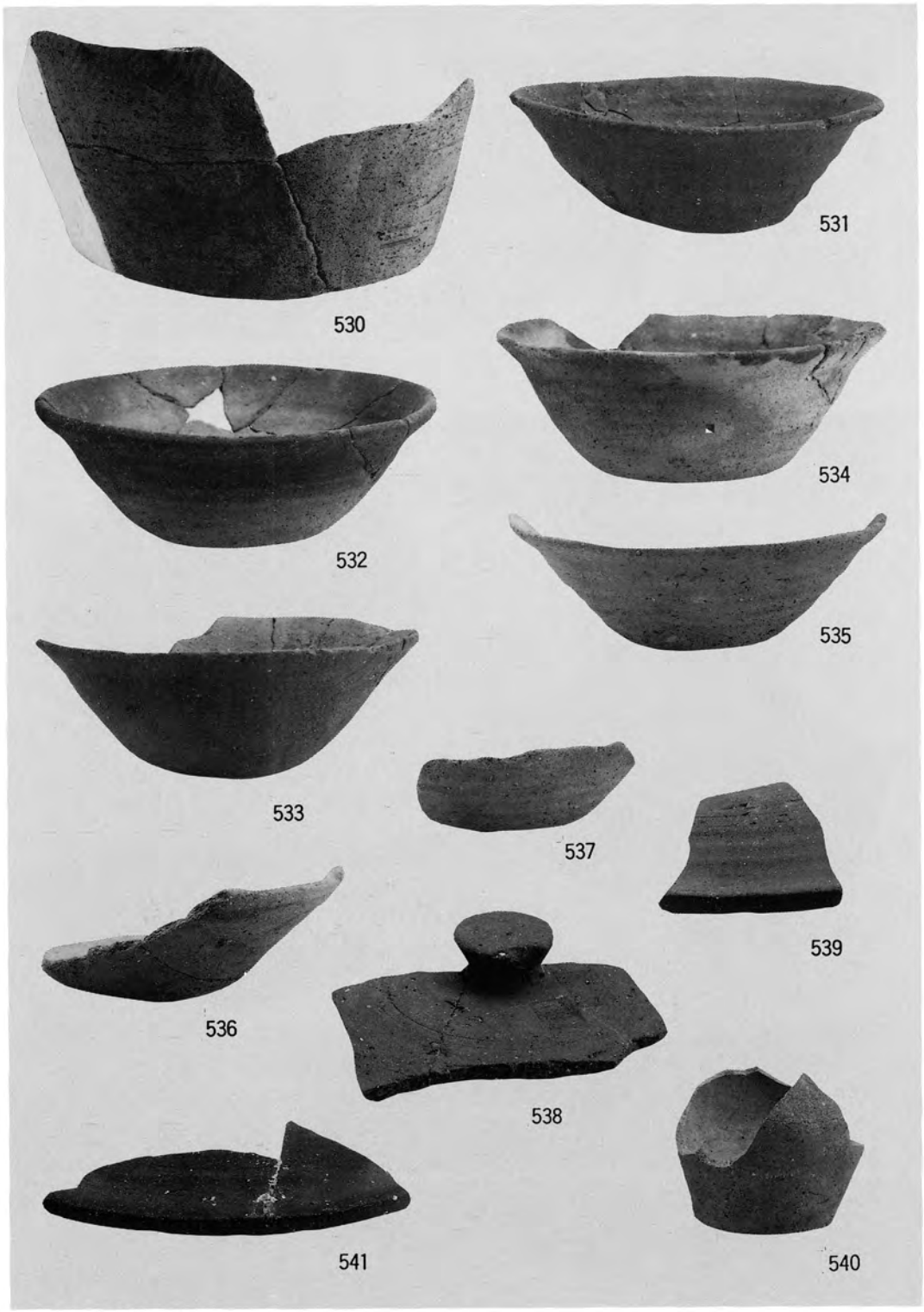

第 4 号住居跡出土土器(2)



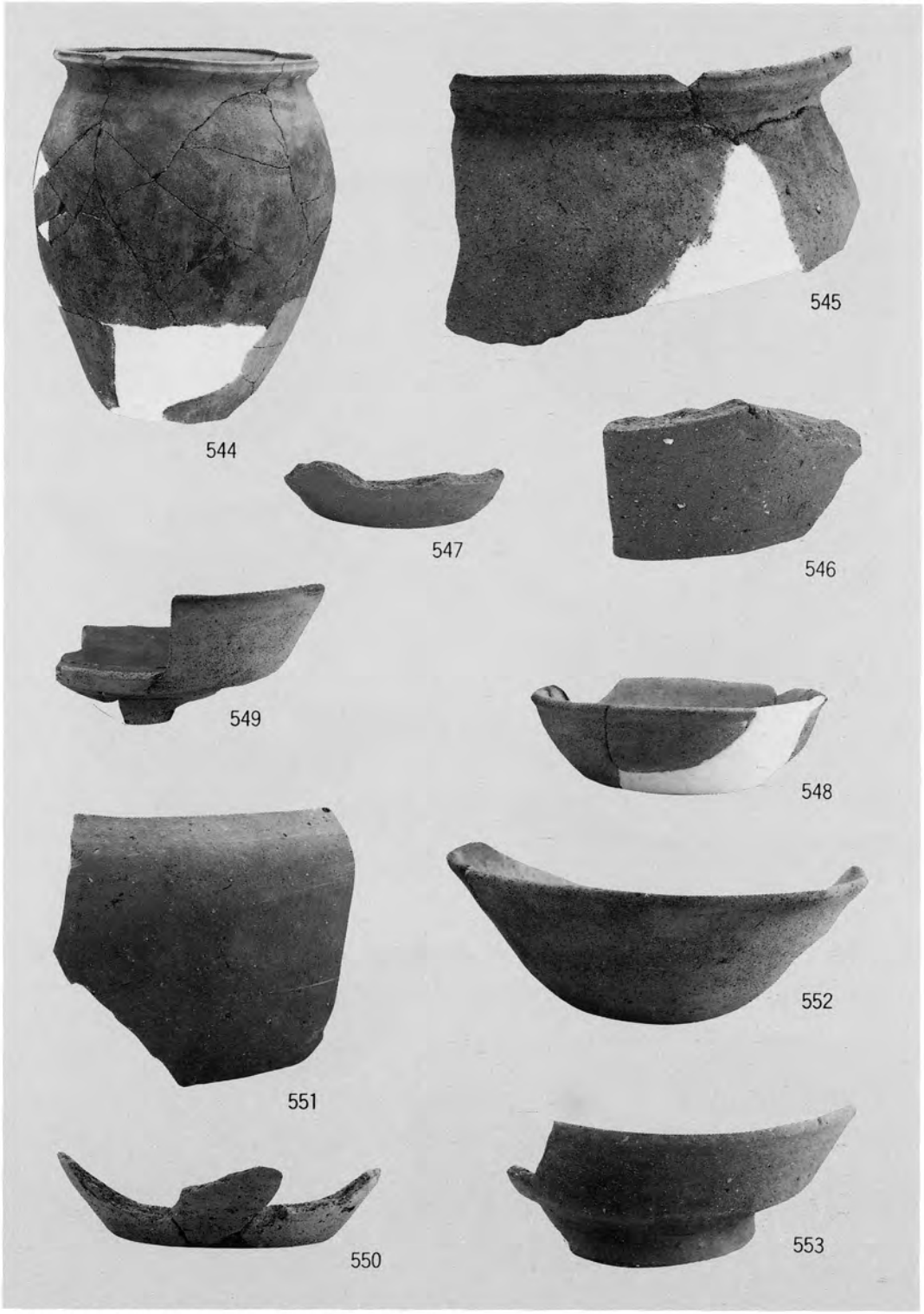

住居跡出土土器（SI5—518，SI6—519～523）




第６号住居跡出土土器(1)

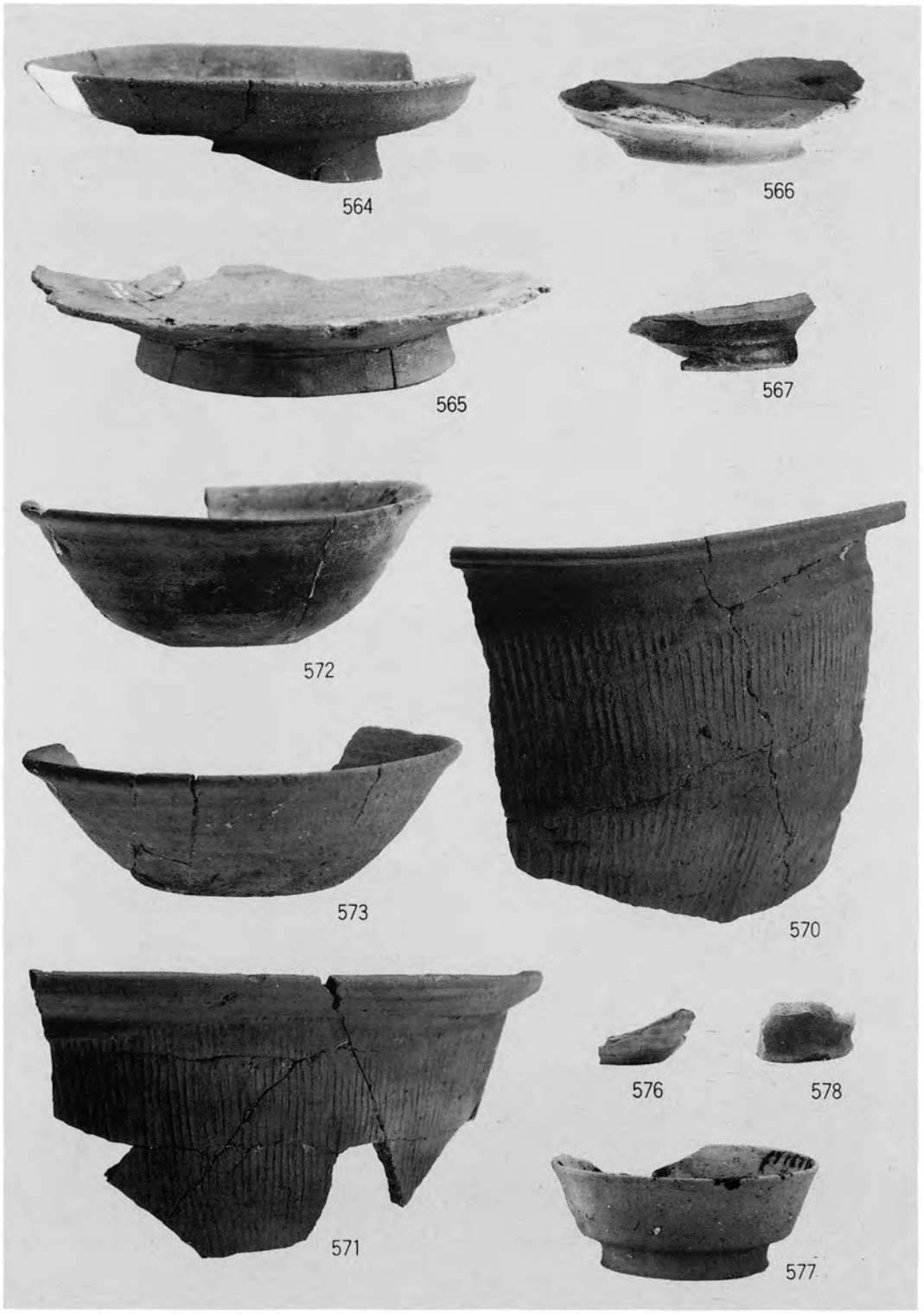



第 6 号住居跡出土土器(2)

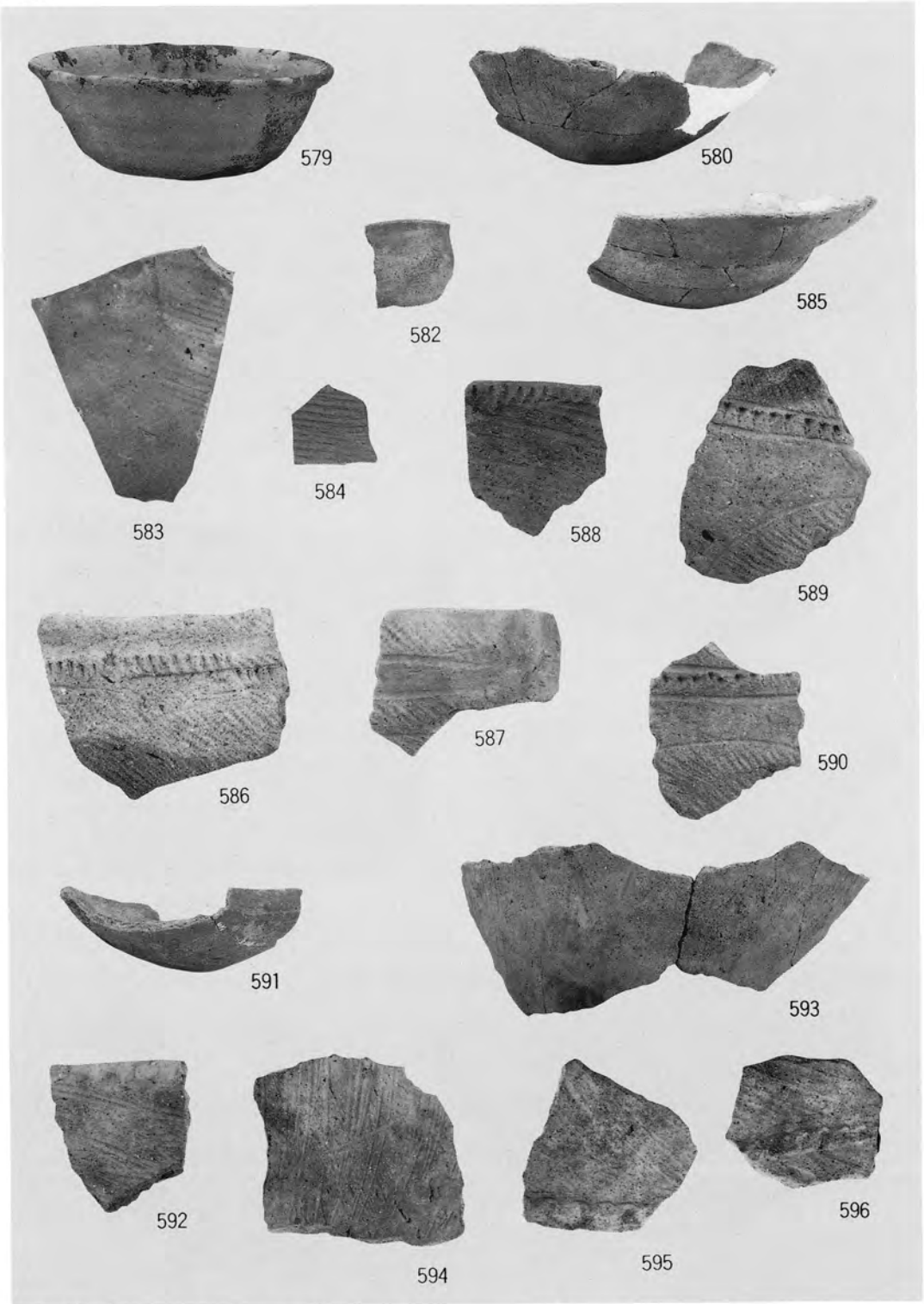



住居跡出土土器（SI7－544～547，SI9－548～553）

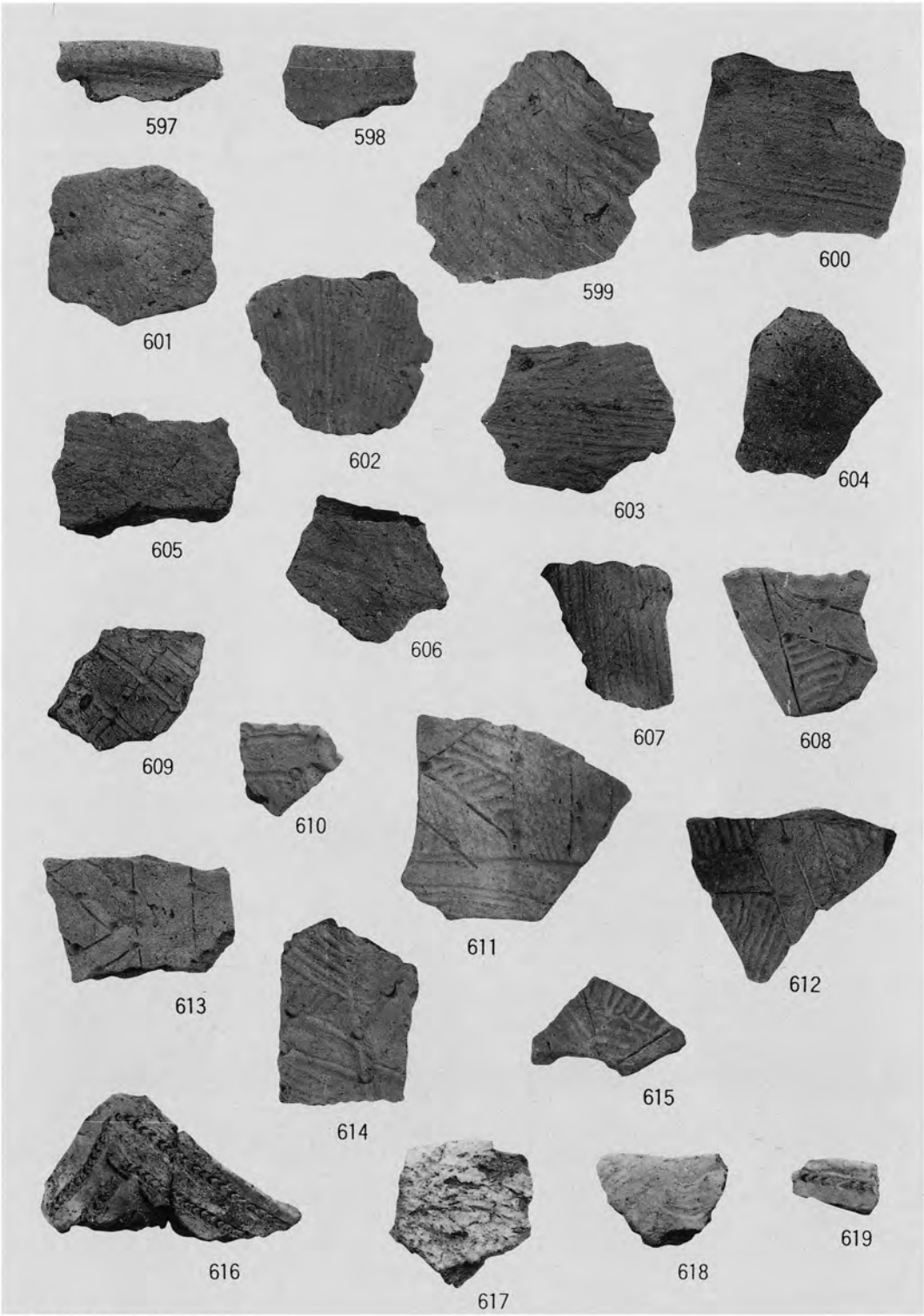
住居跡出土土器（SI10－554～560，SI11－561～563）



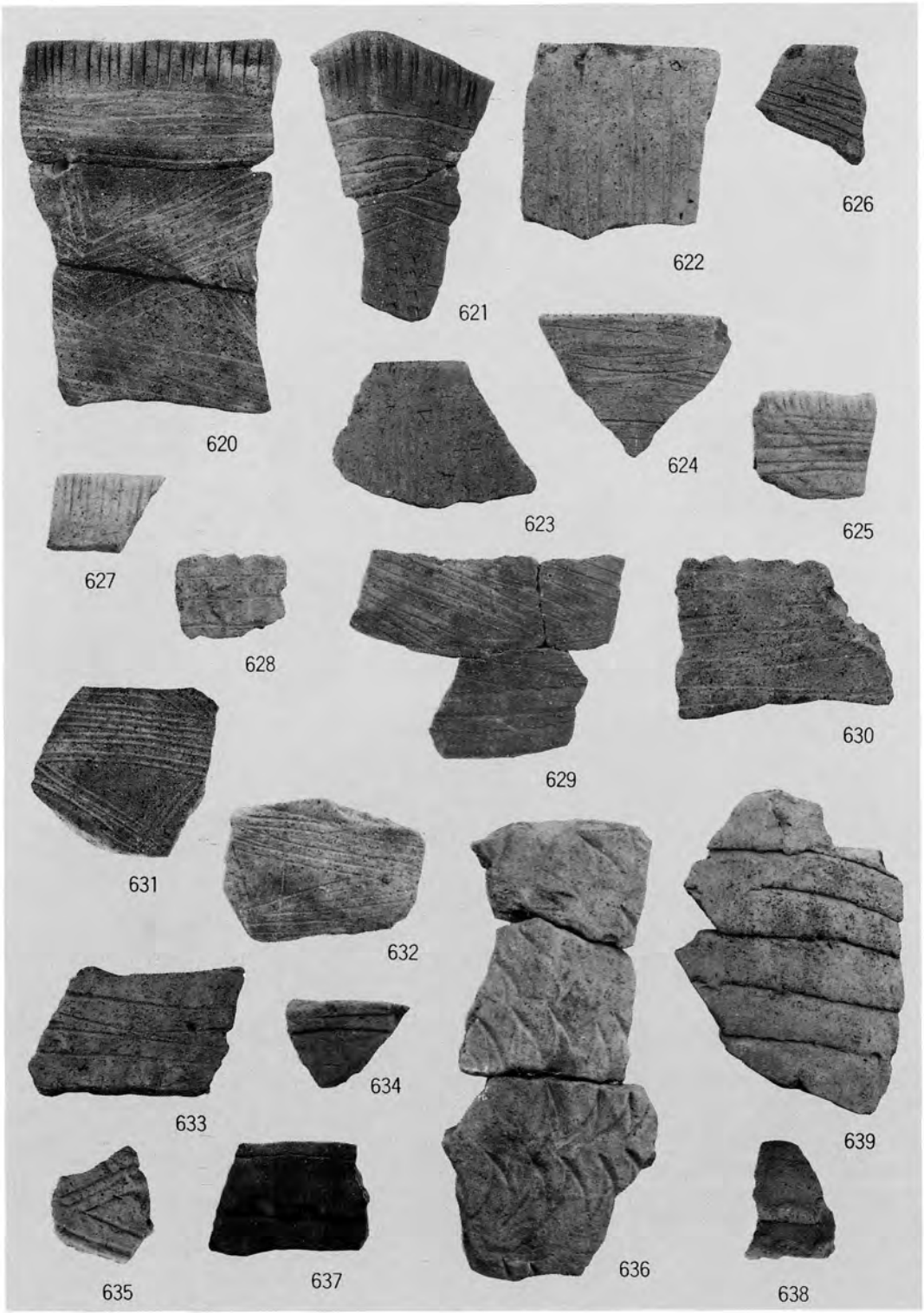

出土土器（SI11－564～567，SI44－570～573，SB1－576，SB2－577，SB5－578）



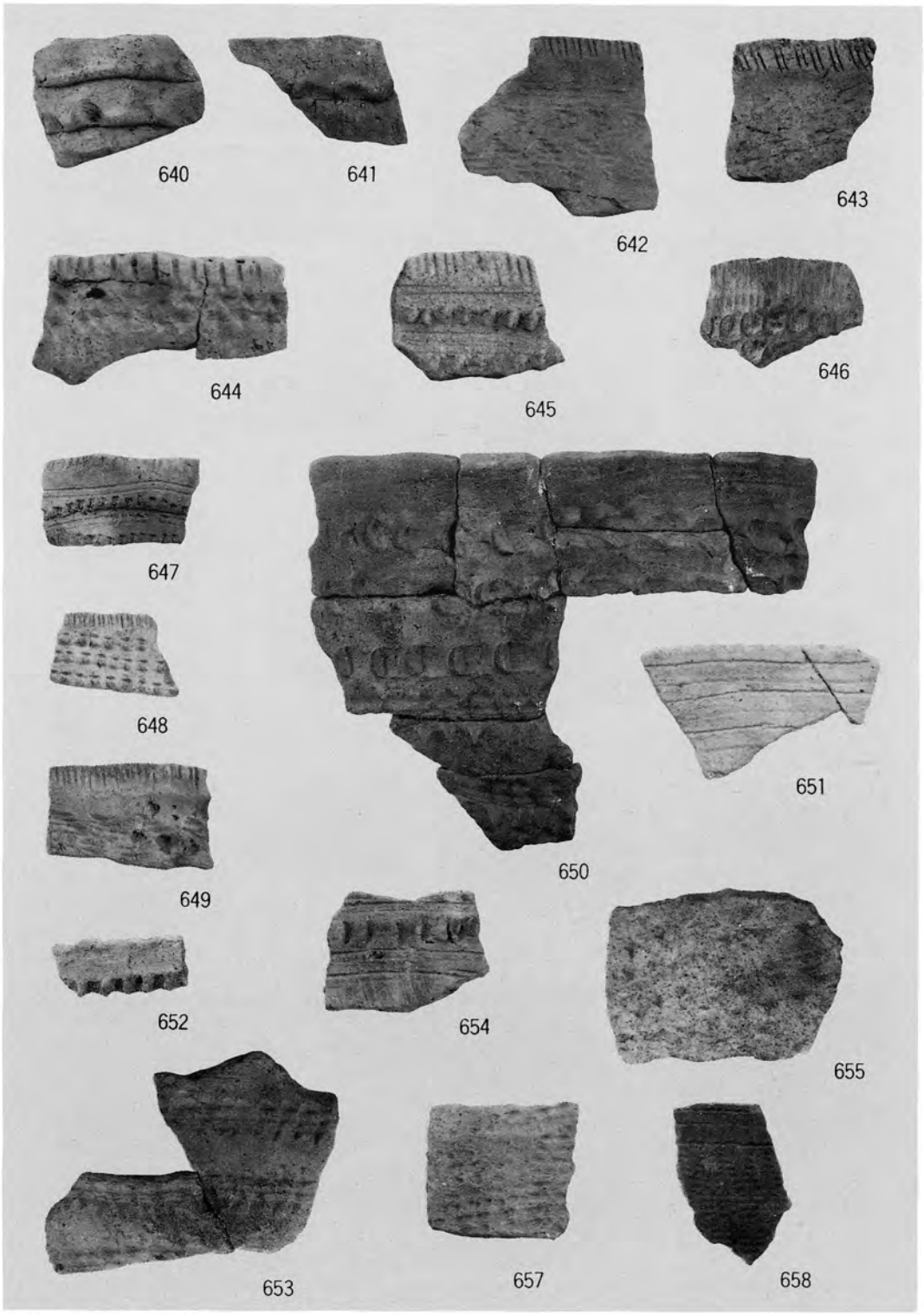

出土土器（SK13・37・43・47・49・51・62—579～590，TM1—591，SX2—592～596）


597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619

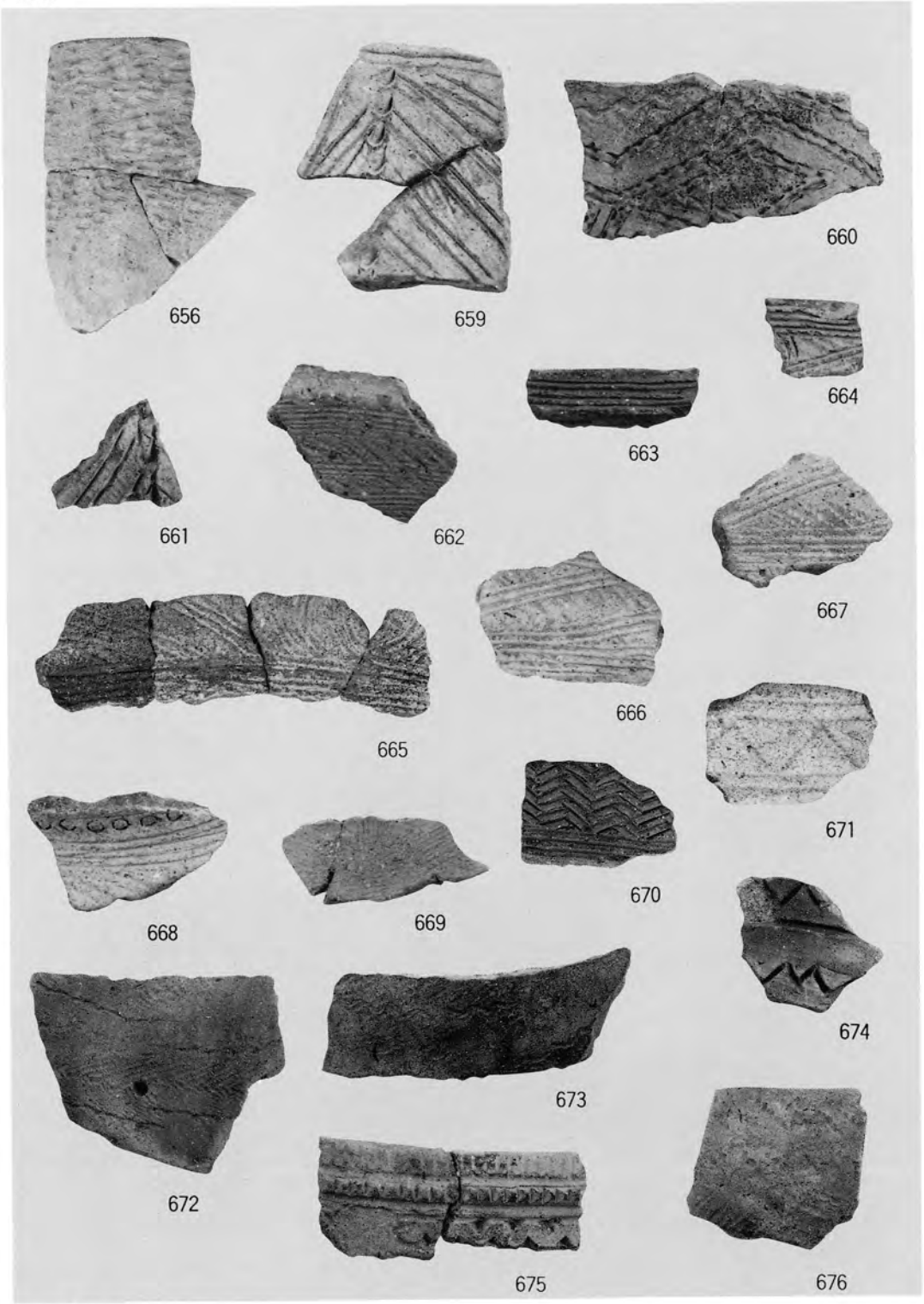
遺物包含層出土土器(1)


620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639

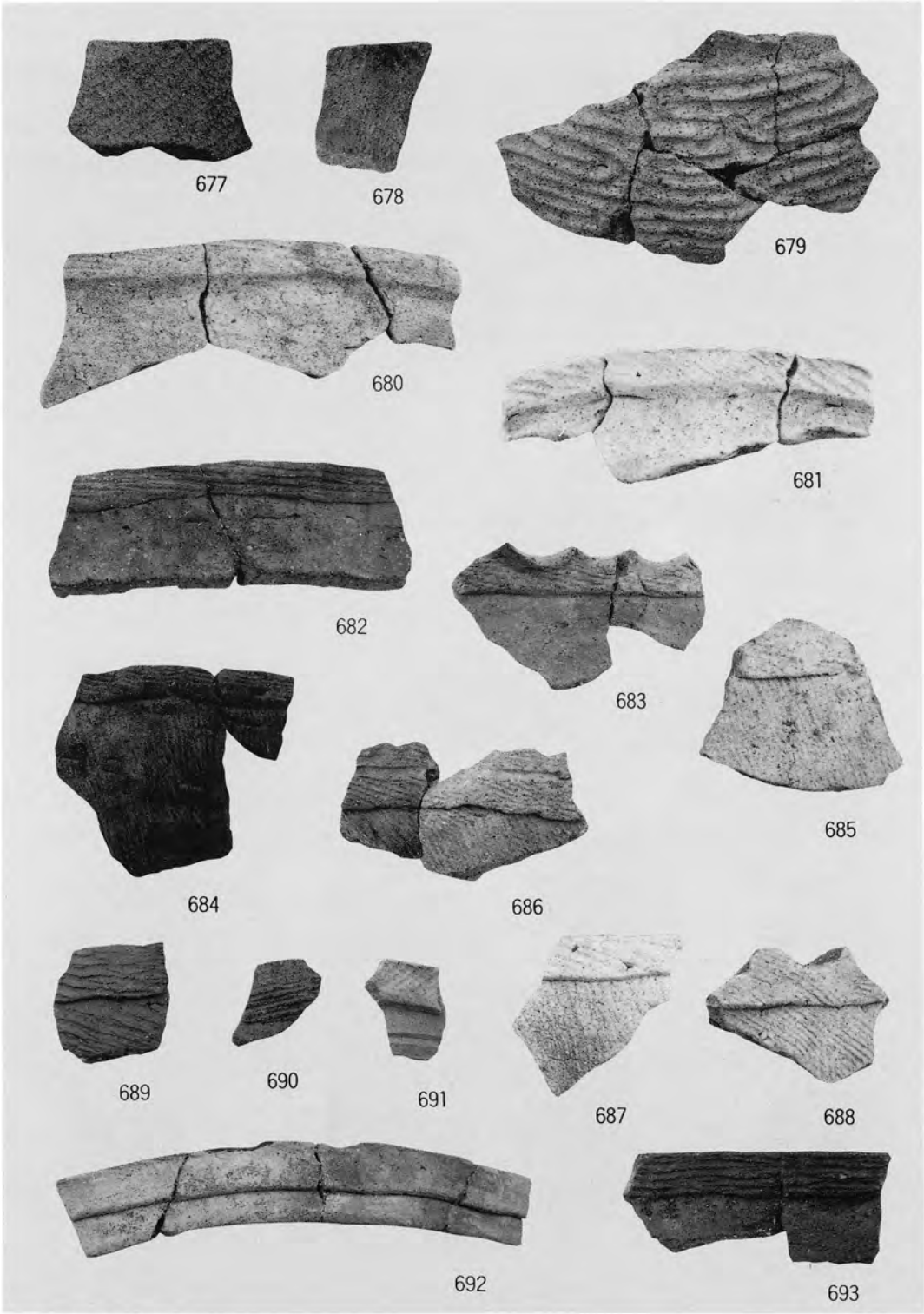
遺物包含層出土土器(2)


640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
657
658

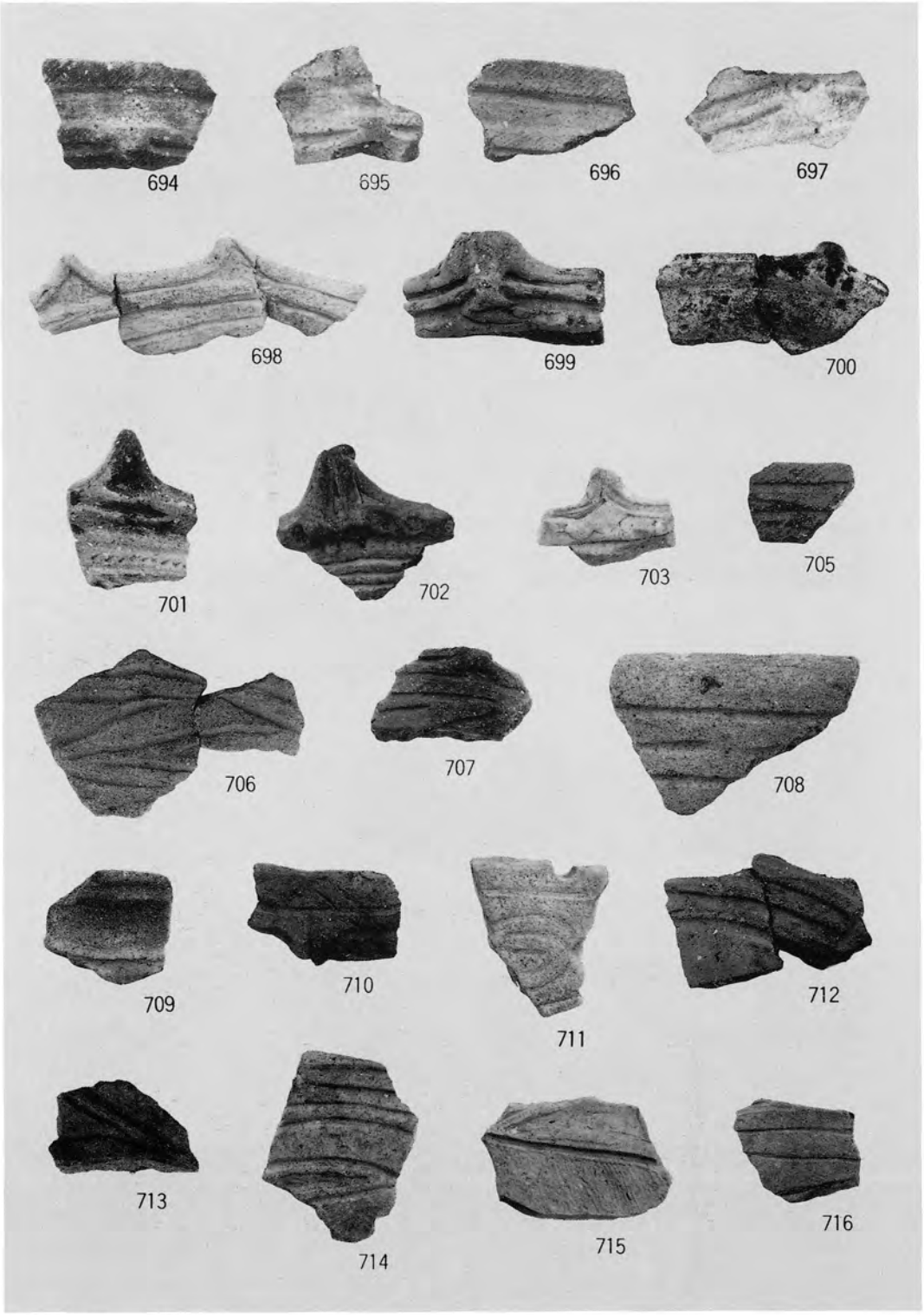
遺物包含層出土土器(3)


656
659
660
664
663
661
662
667
666
665
671
670
668
669
674
673
672
675
676

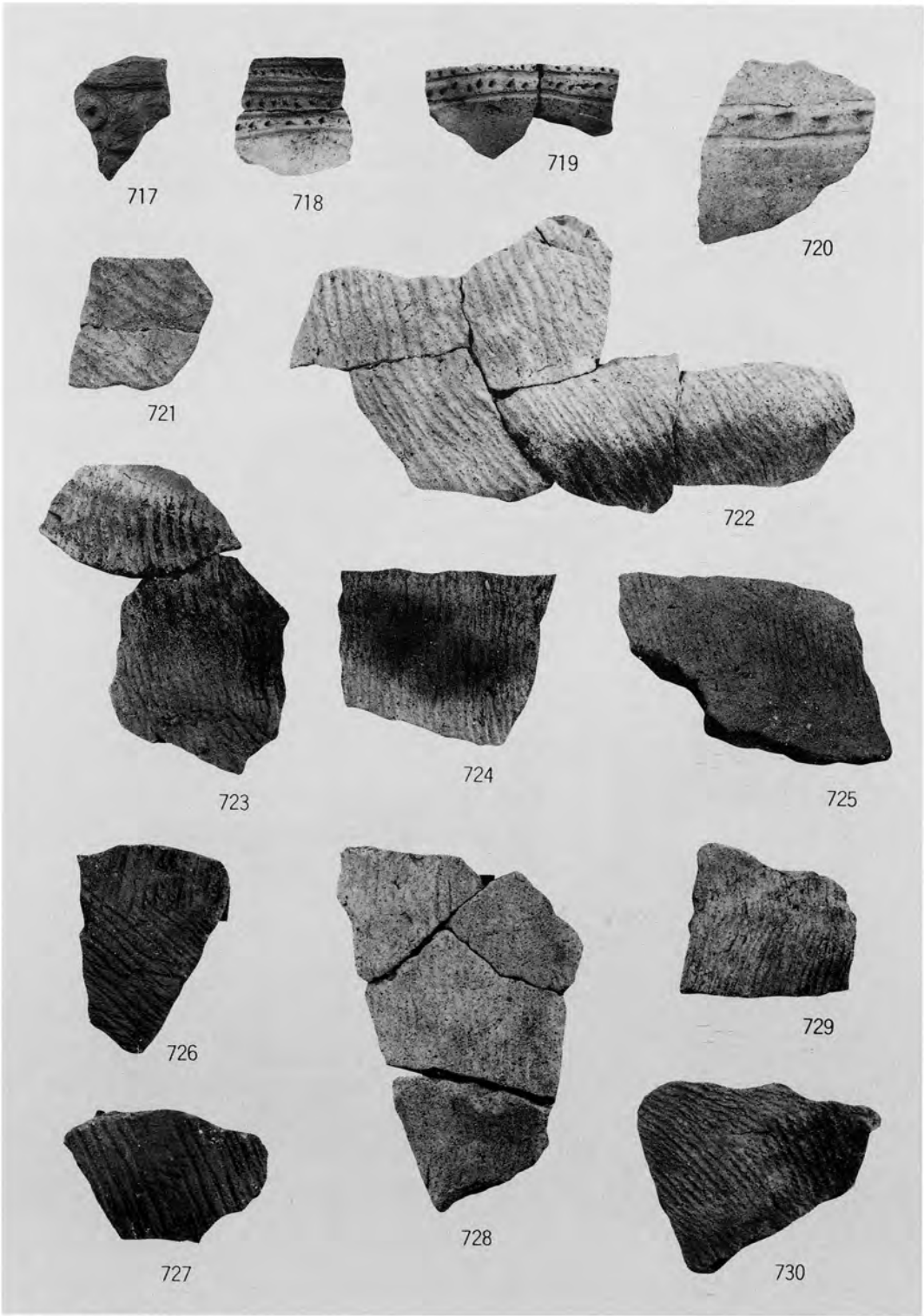
遺物包含層出土土器(4)


677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693

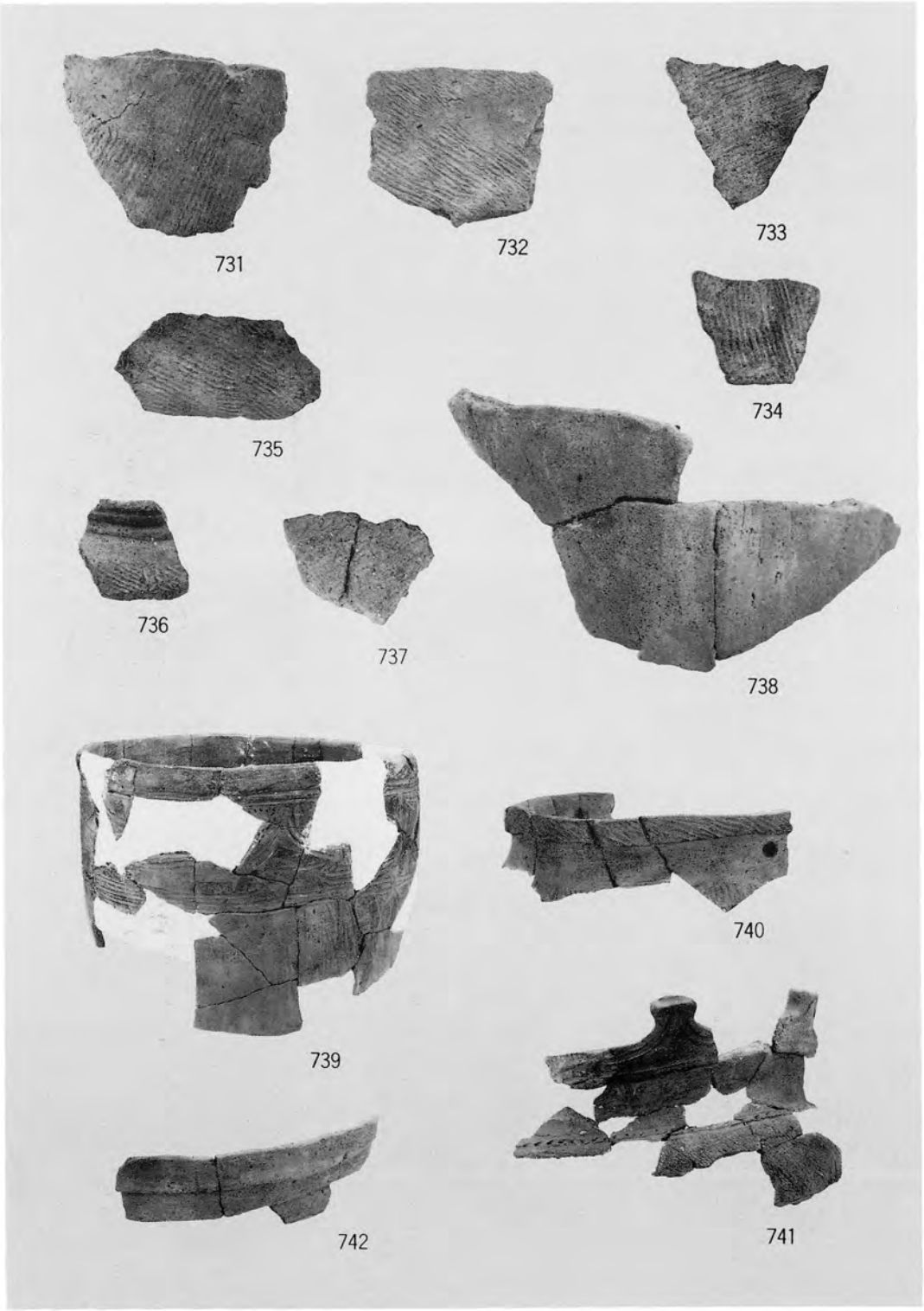
遺物包含層出土土器(5)


694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716

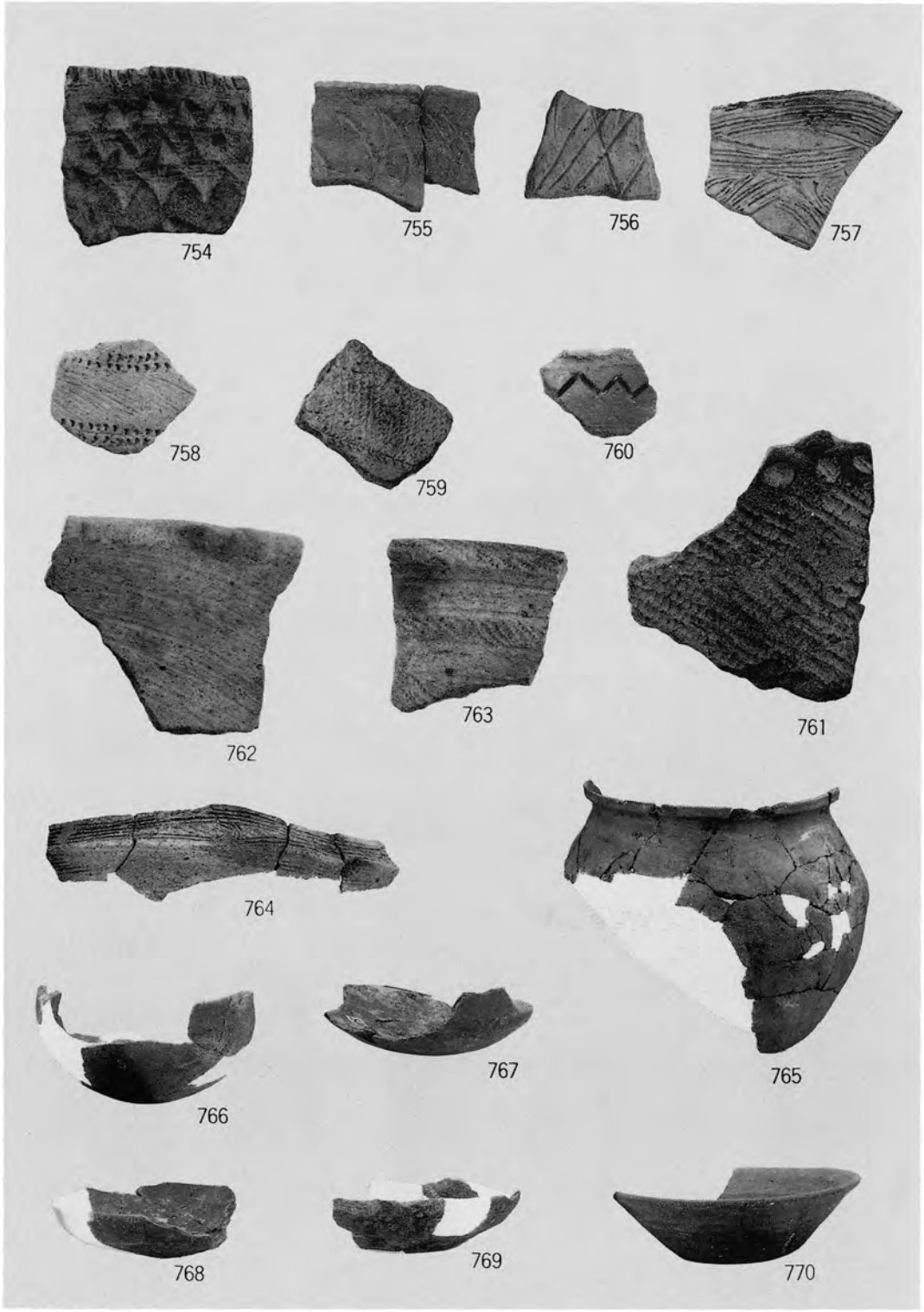
遺物包含層出土土器(6)



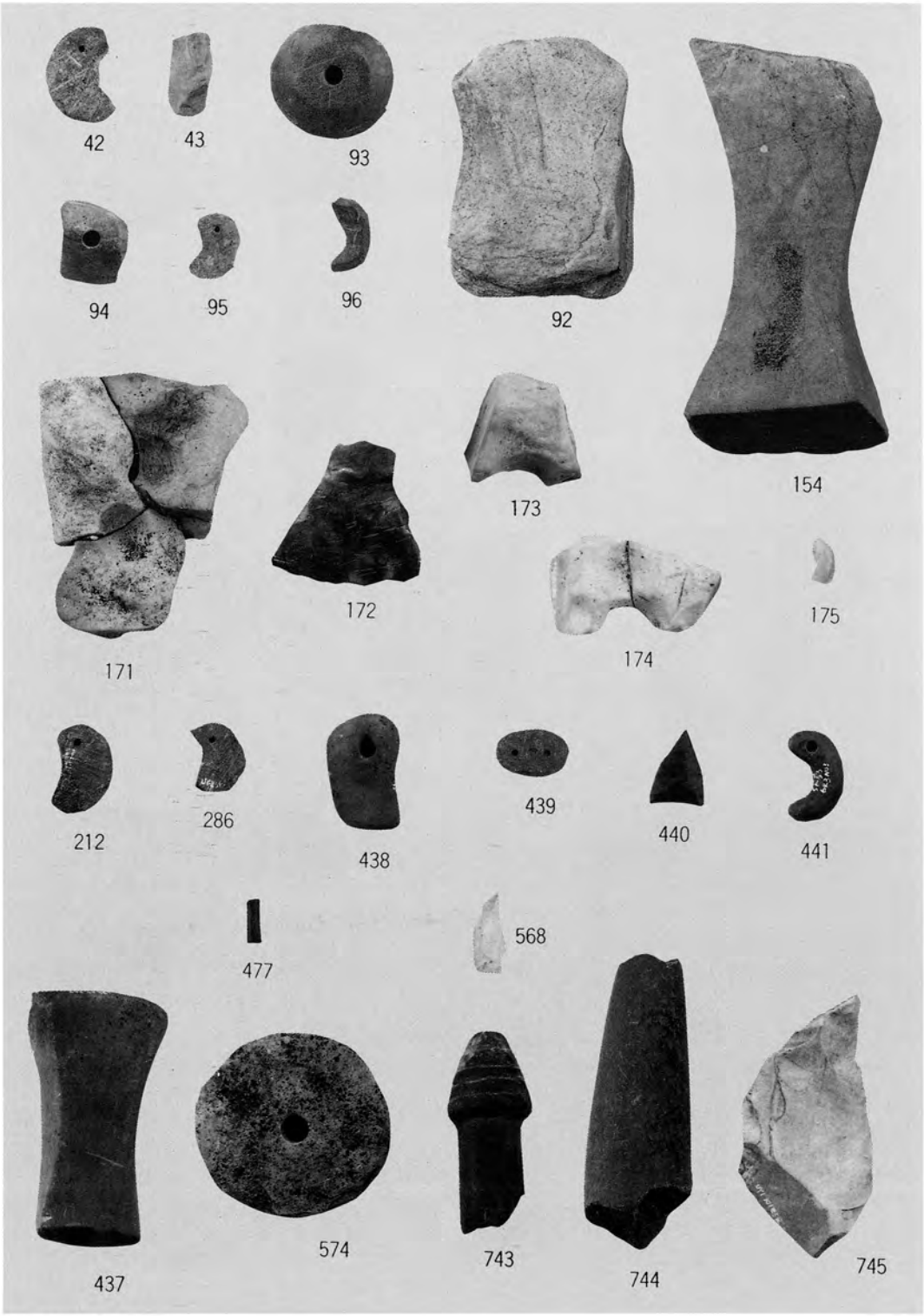

遺物包含層出土土器(7)



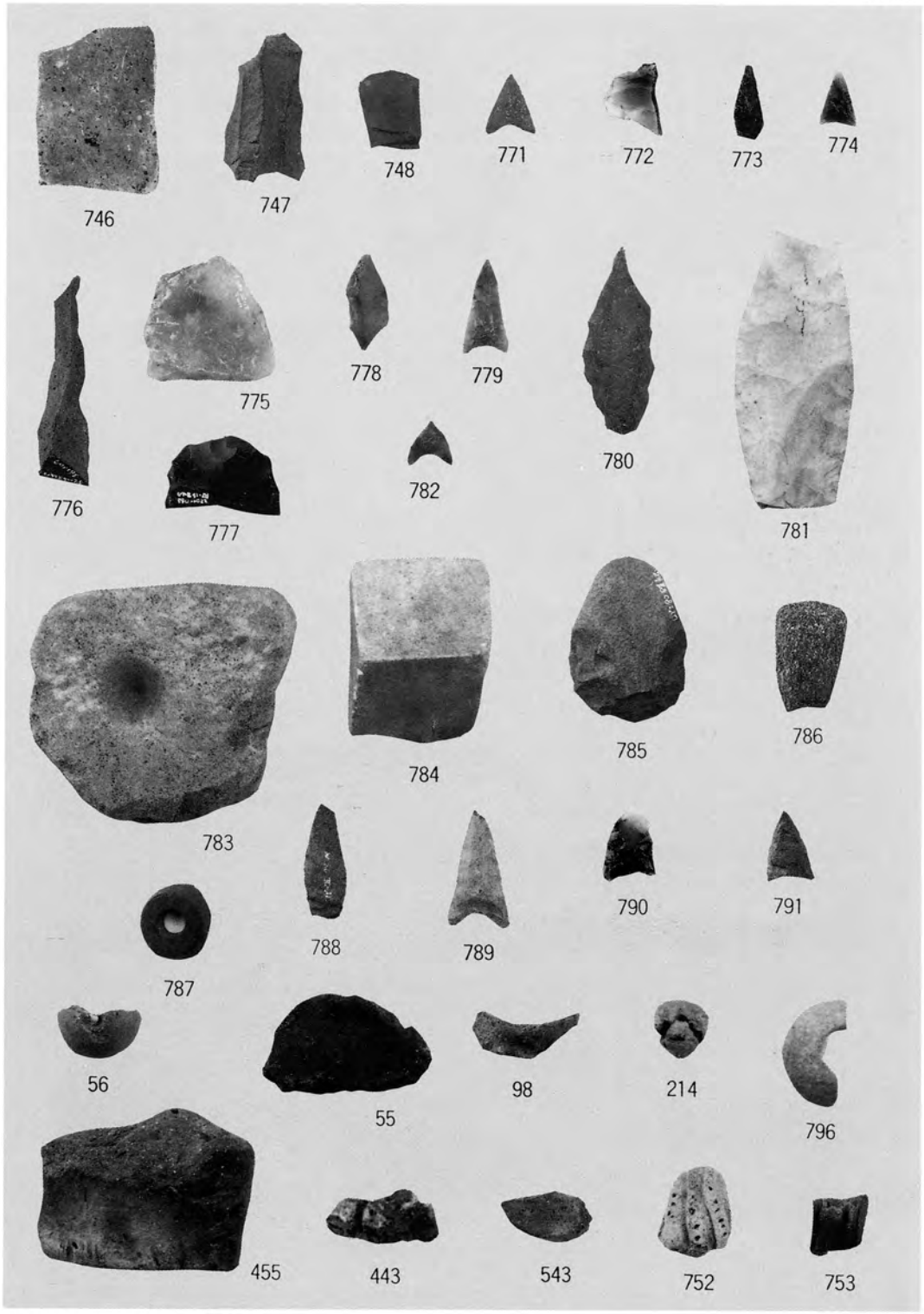

遺物包含層出土土器(8)


754
755
756
757
758
759
760
762
763
761
764
765
766
767
768
769
770

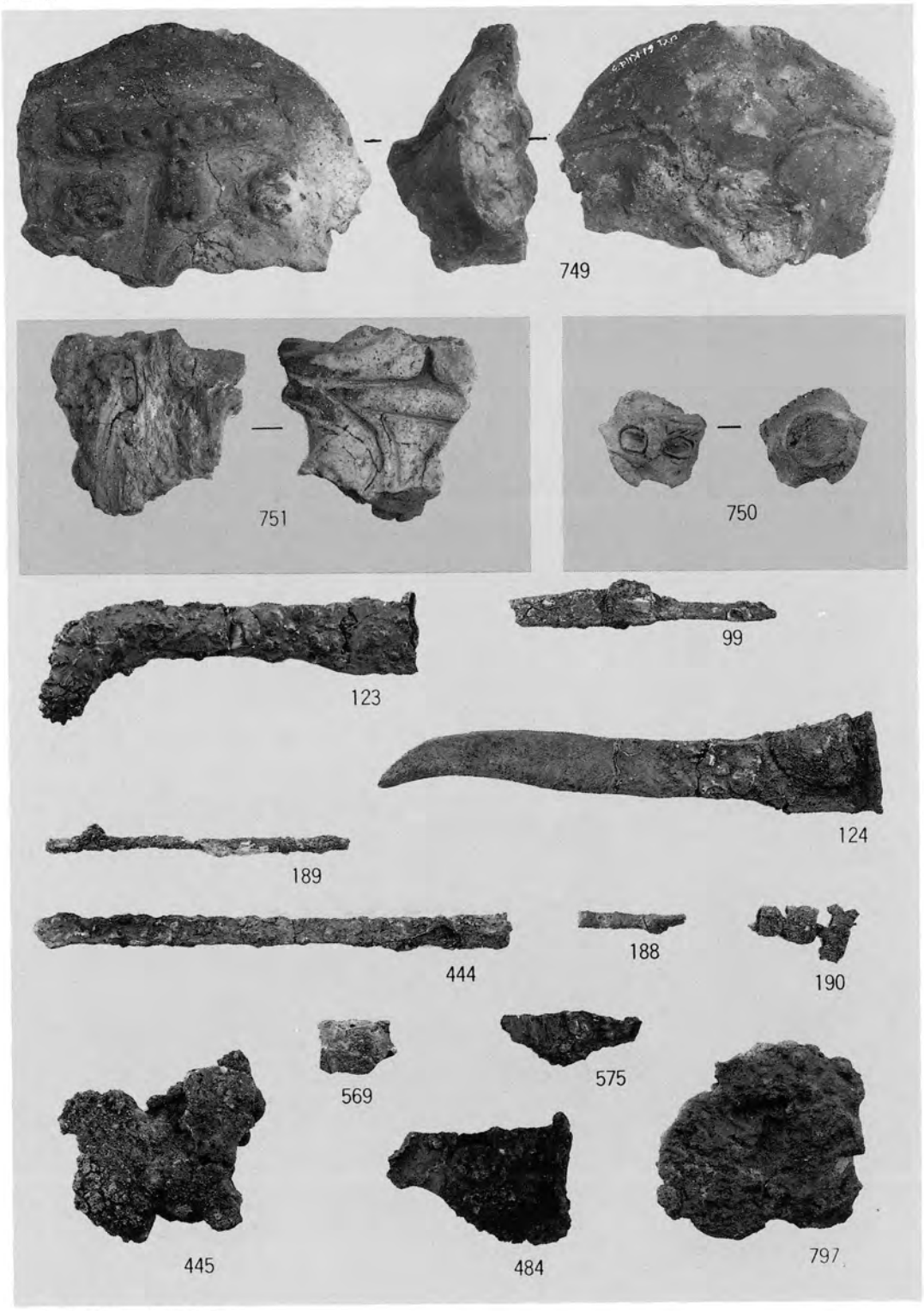
遺構外出土土器


42
43
93
94
95
96
92
154
173
171
172
175
174
212
286
438
439
440
441
477
568
437
574
743
744
745

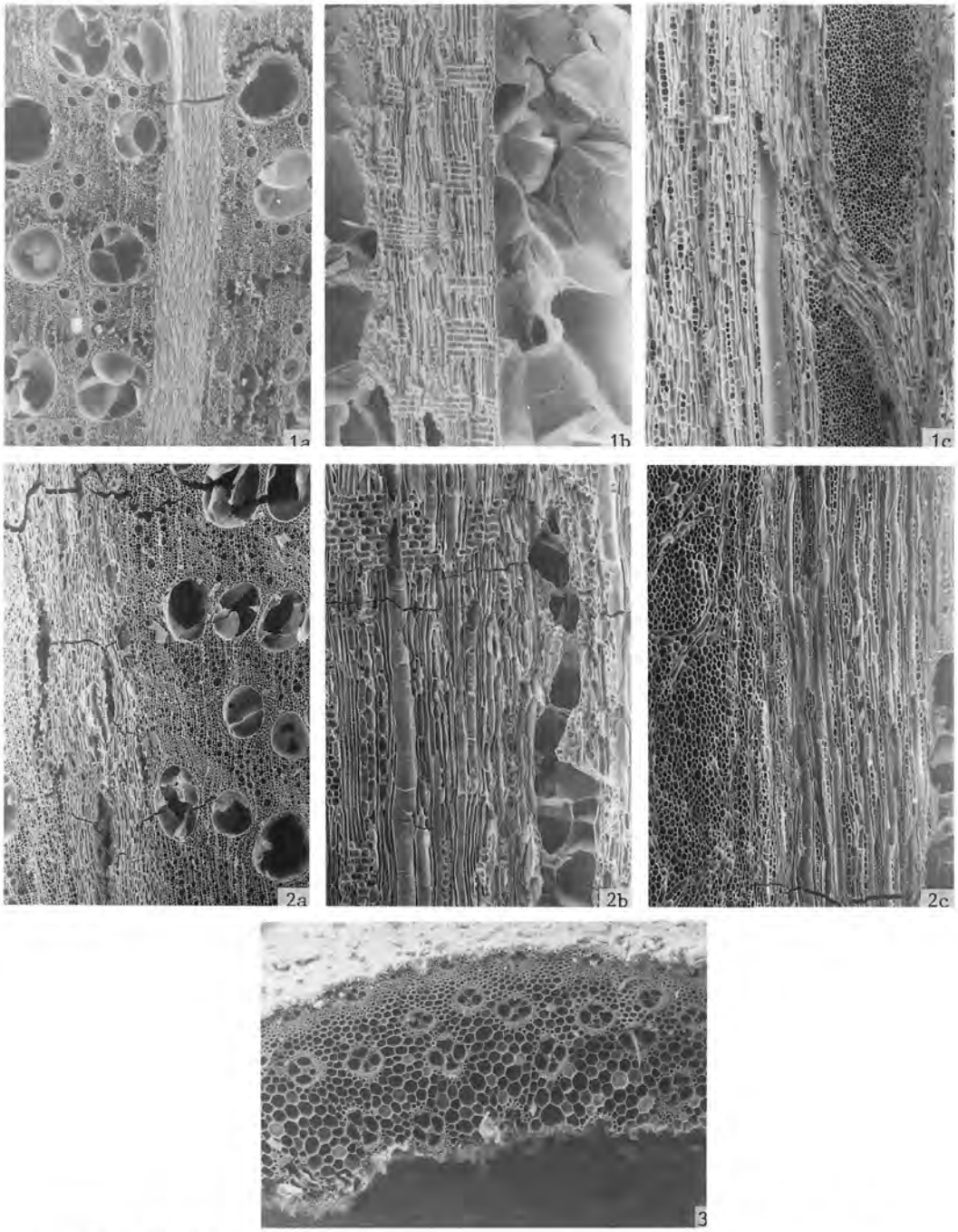
出土石器，石製品


746
747
748
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
56
55
98
214
796
455
443
543
752
753

出土石器，石製品，土製品



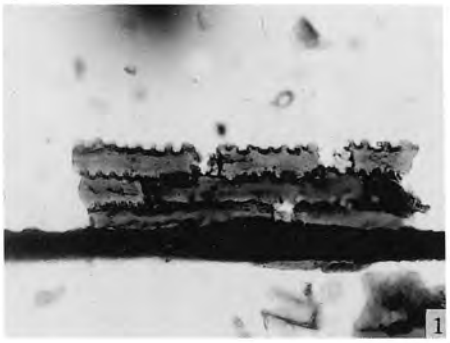

出土土製品，金属製品

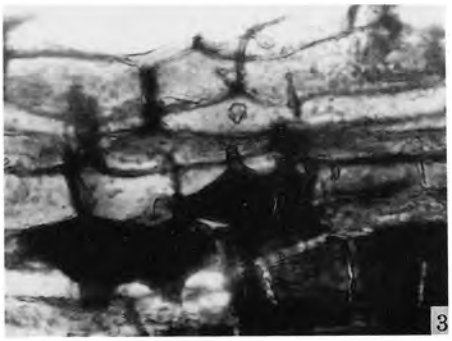


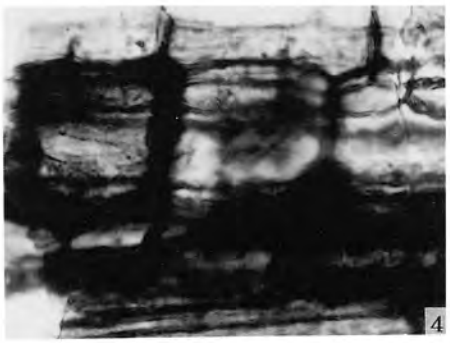

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（SI-13 ホ）
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（SI-23 No. 9）
3. タケ亜科の一種（SI-13 ハ）
a：木口，b：柾目，c：板目，3：横断面

200μ：1a, 2a
200μ：3
200μ：1b-c, 2b-c

ヤツノ上遺跡・炭化材の顕微鏡写真






1～4.　状況写真（SI-13 ハ）

50μ
(1・2のスケール)

50μ
(3・4のスケール)

ヤツノ上遺跡・灰像分析のプレパラート状況写真

茨城県教育財団文化財調査報告第81集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）

ヤツノ上遺跡

平成５年３月25日印刷
平成５年３月31日発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市見和１丁目356番２号
ＴＥＬ　0292-25-6587
印刷　株式会社　高野高速印刷
水戸市東原２－８－１
ＴＥＬ　0292-31-0989